

宮城県文化財調査報告書第222集

# 鍛冶沢遺跡 ほか

平成 22 年 3 月

宮城県教育委員会

宮城県文化財調査報告書第222集

鍛冶沢遺跡  
ほか

平成二十二年三月

宮城県教育委員会

## 序 文

少子高齢社会へと移行し、人口の減少という大きな転換点を迎えた日本社会では、未来をつくる貴重な担い手である子どもたちを、地域全体で守り育てていくことがこれまで以上に必要とされております。同時に、その受け皿となる地域社会をより豊かで魅力あるものとするのが求められるようになります。身近な地域の個性豊かな風土や歴史的に価値ある文化財を保存し活用することは、それぞれの地域のもつ価値を再発見し、豊かで魅力ある社会づくりの一翼を担う大切な取り組みであります。

しかしその一方で、高規格道路の建設や大規模なほ場整備、工業団地造成などの各種開発事業により、文化財は年々破壊され、消滅の危機にさらされることが多くなっております。なかでも土地との結びつきの強い埋蔵文化財は、各種の開発により常に破壊される恐れがあることから、当教育委員会では開発部局等に遺跡の所在を周知徹底するとともに、開発との関わりが生じた場合には貴重な文化財を積極的に保護することに努めてきております。

本書は、広域営農団地農道整備事業の関係機関との保存協議に基づき、広域農道建設工事に先立って実施した蔵王町鍛冶沢遺跡ほかの発掘調査報告書です。本書が広く県民の皆様や各地の研究者に活用され、地域の歴史解明の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、遺跡の保存に理解を示され、発掘調査に際しては多大なるご協力をいただいた関係機関の方々、さらに実際の調査にあられた皆様に対し、厚く御礼申し上げます。次第です。

平成22年3月

宮城県教育委員会

教育長 小林 伸 一

## 例 言

1. 本書は、宮城県大河原地方振興事務所が担当する広域営農団地農道整備事業「仙南2期地区」（白石一川崎線）に伴う穀治沢遺跡ほかの発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、宮城県教育委員会が主体となり、宮城県教育庁文化財保護課が担当した。
3. 発掘調査および資料整理・報告書の作成に際しては、以下の方々および機関からご指導・ご助言、ご協力を賜った（五十音順、敬称略）。  
阿子島 香 荒川隆史 市川健夫 鹿又喜隆 日下和寿 小林圭一 斉藤慶史 斎藤義弘  
菅原哲文 須藤 隆 傳田惠隆 藤沼邦彦 宮本 毅 村田弘之 渡邊裕之
4. 本書の図版2は、国土交通省国土地理院発行の「村田」「大河原」（縮尺1/25,000）の地形図を複製して使用した。
5. 本書で使用した測量原点の座標値は、世界測地系に基づく平面直角座標第X系による。なお、方位は座標北を表している。
6. 本書で使用した遺構・層位略号は以下の通りである。  
S I：竪穴住居跡 S B：掘立柱建物跡 S X：土器埋設遺構、その他 S D：溝跡  
S K：土坑 X：出土層位不明
7. 遺構平面図にはそれぞれスケールを付しているが、遺構の縮尺は原則として以下の通りである。  
竪穴住居跡：1/60 竪穴跡：1/40 掘立柱建物跡：1/60 土器埋設遺構：1/20  
集石遺構：1/40 溝跡：1/100 土坑：1/60
8. 土色の記述にあたっては、『新版 標準土色帖 1994年版』（小山・竹原：1994）を用いている。
9. 遺物図版にはそれぞれスケールを付しているが、縮尺は原則として以下の通りである。  
土器：1/3 土製品：2/3 石器・石製品：2/3、1/2、1/3
10. 遺物の実測図で、ベンガラが付着が顕著な部分は赤色、アスファルト（またはタール状の物質）や炭化物の付着が顕著な部分は灰色で示した。また、石器・石製品の一部にみられる磨面については、加工の痕跡が明瞭な部分のみ擦痕で表現し、それ以外は自然面や付着物の範囲と区別するために白色で表現し、必要に応じてその範囲を細い実線で示した。
11. 土器の属性表で、文様内の充填要素については（ ）で記した。
12. 石器・石製品の属性表で、「加熱処理」「変形」「付着物」の各項目における「0」は「なし」を意味し、「-」は「判別不能」を意味する。
13. 遺物の写真撮影は、(株)アートプロフィールに委託して行った。
14. 石器・石製品の石材鑑定は、一部を東北大学東北アジア研究センターの宮本 毅氏に依頼した。
15. 土器付着炭化物の放射性炭素年代測定は、(株)加速器分析研究所に委託して行い、その成果を付章として本書に収録した。
16. 土器および石器付着赤色顔料の分析は、(株)パレオ・ラボに委託して行い、その成果を付章として本書に収録した。
17. 石器の使用痕分析は、東北大学大学院文学研究科考古学研究室に依頼し、玉稿をいただいた。その成果は付章として本書に収録している。
18. 本書の遺構・遺物の整理作業は以下のものが中心となって行った。  
遺構：千葉直樹 土器・土製品：千葉直樹 菊地逸夫 石器・石製品：小野章太郎
19. 付章2～4を除く本書の執筆は調査担当者との協議の後に以下の分担で行い、千葉直樹、小野章太郎が編集した。

第1章～第3章第6節1・2・4、第7節、第4章第1節1A・2、第2節、付章1…千葉直樹  
第3章第6節3・5、第4章第1節1B…小野章太郎

20. 本遺跡の調査成果については、現地説明会や宮城県遺跡調査成果発表会などでその内容の一部を公表しているが、これらと本書の内容が異なる場合には、本書がこれらに優先する。

21. 発掘調査の記録や出土遺物は、宮城県教育委員会が保管している。

## 調査要項

遺跡名：鍛冶沢遺跡（宮城県遺跡地名表登録番号 No. 05020） 遺跡記号：MY

所在地：宮城県刈田郡蔵王町曲竹字鍛冶沢

調査原因：広域営農団地農道整備事業「仙南2期地区」（白石―川崎線）に伴う確認・事前調査

調査主体：宮城県教育委員会

調査担当：宮城県教育庁文化財保護課

調査面積：約 3,260㎡

調査期間：平成19年度調査 平成19年7月2日～12月5日

平成20年度調査 平成20年5月26日～10月17日

調査員：平成19年度調査 菊地逸夫 佐藤貴志 尾形祐之 村上裕次 初鹿野博之  
須田良平 志間貞治 小野章太郎

平成20年度調査 千葉直樹 志間貞治 山口 淳 小野章太郎 伊藤啓之

調査協力：宮城県大河原地方振興事務所 蔵王町農林観光課 蔵王町教育委員会

遺跡名：欠山遺跡（宮城県遺跡地名表登録番号 No. 05187） 遺跡記号：RQ

所在地：宮城県刈田郡蔵王町曲竹字欠山

調査原因：広域営農団地農道整備事業「仙南2期地区」（白石―川崎線）に伴う確認・事前調査

調査主体：宮城県教育委員会

調査担当：宮城県教育庁文化財保護課

調査期間・面積：確認調査（広域農道部分）平成19年11月5日～11月9日 385㎡

事前調査（広域農道部分）平成20年7月3日～7月10日 320㎡

確認調査（町道拡幅部分）平成20年10月7日 47㎡

調査員：確認調査（広域農道部分）佐久間光平 志間貞治

事前調査（広域農道部分）千葉直樹 志間貞治 山口 淳 小野章太郎

確認調査（町道拡幅部分）千葉直樹 山口 淳 小野章太郎

調査協力：宮城県大河原地方振興事務所 蔵王町農林観光課 蔵王町教育委員会

遺跡名：淡島山遺跡（宮城県遺跡地名表登録番号 No. 05314）

所在地：宮城県刈田郡蔵王町曲竹字淡島山

調査原因：広域営農団地農道整備事業「仙南2期地区」（白石―川崎線）に伴う確認調査

調査主体：宮城県教育委員会

調査担当：宮城県教育庁文化財保護課

調査面積：約 170㎡

調査期間：平成19年11月12日～11月19日

調査員：生田和宏 小野章太郎 志間貞治

調査協力：宮城県大河原地方振興事務所 蔵王町農林観光課 蔵王町教育委員会

# 目 次

巻頭写真

序 文

例 言

目 次

第1章 遺跡の概要	1
第1節 遺跡の位置と環境	1
1. 遺跡の位置	1
2. 周辺の遺跡とこれまでの調査	1
第2節 調査に至る経緯と調査経過	3
第2章 調査の方法と基本層序	5
第1節 調査の方法	5
第2節 調査区の位置と周辺の地形	5
第3節 基本層序	7
第3章 発見した遺構と遺物	9
第1節 I区・I区南	9
A. 住居跡	11
B. 掘立柱建物跡	23
C. 土器埋設遺構	43
D. 土坑	52
E. Pit	65
第2節 II区の遺構とその出土遺物	69
A. 掘立柱建物跡	69
B. 土器埋設遺構	100
C. 集石遺構・配石遺構	109
D. 土坑	110
E. Pit	114
第3節 III区	114
第4節 IV区の遺構とその出土遺物	116
1. IV-1区	116
2. IV-2・3区	116
3. IV-4区	116
A. 住居跡	116
B. 溝跡	124

C. 土坑	125
4. IV-5区	130
5. IV-6区	131
第5節 その他の遺構から出土した遺物	131
第6節 遺物包含層	136
1. 堆積状況と分布範囲	136
2. 土器	136
(1) 遺物包含層1	136
(2) 遺物包含層2	166
3. 石器	189
(1) 遺物包含層1	189
(2) 遺物包含層2	210
4. 土偶・土製品	212
5. 石製品	220
第7節 遺構外出土遺物	228
第4章 総括	232
第1節 考察	232
1. 遺物	232
A. 土器・土製品	232
(1) 出土土器の分類	232
(2) 出土土器の時期	234
(3) 土器の遺構ごとの出土状況	240
(4) SX2238 土器埋設遺構出土土器	242
(5) 土偶・土製品	243
B. 石器・石製品	244
(1) 出土石器の分類	244
(2) 石材	250
(3) 素材剥片の生産	251
(4) 剥片石器の製作・使用	253
(5) 礫石器	255
(6) 石製品	257
(7) まとめ	258
2. 遺構	259
(1) 遺構の時期	259
(2) 集落構成	260
(3) 遺構の性格	262
第2節 まとめ	264

引用・参考文献

付章1 欠山遺跡・淡島山遺跡

付章2 放射性炭素年代測定（AMS測定）（鍛冶沢遺跡・青木畑遺跡）

付章3 鍛冶沢遺跡出土赤色顔料の蛍光X線分析

付章4 鍛冶沢遺跡出土石器の使用痕分析

写真図版

報告書抄録

## 図版目次

図版 1	鍛冶沢遺跡の位置	1	図版 45	I区・I区南土坑出土遺物(1)	55
図版 2	鍛冶沢遺跡の位置と周辺の遺跡	2	図版 46	I区・I区南土坑出土遺物(2)	56
図版 3	鍛冶沢遺跡の現状	3	図版 47	I区・I区南土坑出土遺物(3)	57
図版 4	調査区Iの位置と周辺の地形	6	図版 48	I区・I区南土坑出土遺物(4)	58
図版 5	基本層序(I区・I区南)	8	図版 49	I区・I区南土坑出土遺物(5)	59
図版 6	基本層序(Ⅱ～Ⅳ区)	9	図版 50	I区・I区南土坑出土遺物(6)	61
図版 7	I区道構配置	10	図版 51	I区・I区南土坑出土遺物(7)	62
図版 8	SI1102・1103住居跡平面図・断面図	12	図版 52	I区・I区南土坑出土遺物(8)	63
図版 9	SI1102住居跡出土石器	13	図版 53	I区・I区南Pit出土遺物(1)	66
図版 10	SI1102住居跡出土石器	14	図版 54	I区・I区南Pit出土遺物(2)	67
図版 11	SI1103住居跡出土石器(1)	15	図版 55	I区・I区南Pit出土遺物(3)	68
図版 12	SI1103住居跡出土石器(2)	16	図版 56	Ⅱ区道構配置	70
図版 13	SI1103住居跡出土石器	17	図版 57	掘立柱建物跡1群平面図・断面図	72
図版 14	SI1104住居跡平面図・断面図	20	図版 58	掘立柱建物跡1群出土石器(1)	75
図版 15	SI1104住居跡出土石器・土製品	21	図版 59	掘立柱建物跡1群出土石器(2)	76
図版 16	SI1104住居跡出土石器	22	図版 60	掘立柱建物跡1群出土石器(3)	77
図版 17	SI1105住居跡平面図・断面図・出土遺物	23	図版 61	掘立柱建物跡1群出土石器・土製品	78
図版 18	SB1150・1152・1154建物跡平面図・断面図	24	図版 62	掘立柱建物跡1群出土石器(1)	79
図版 19	SB1150建物跡出土石器	25	図版 63	掘立柱建物跡1群出土石器(2)	80
図版 20	SB1150建物跡出土土製品	26	図版 64	掘立柱建物跡2群平面図・断面図	82
図版 21	SB1152建物跡出土遺物	27	図版 65	掘立柱建物跡2群出土石器(1)	86
図版 22	SB1154建物跡出土遺物	28	図版 66	掘立柱建物跡2群出土石器(2)	87
図版 23	SB1154建物跡出土石器	29	図版 67	掘立柱建物跡2群出土石器(1)	88
図版 24	SB1151・1153・1167建物跡平面図・断面図・出土石器	30	図版 68	掘立柱建物跡2群出土石器(2)	89
図版 25	SB1157建物跡平面図・断面図	31	図版 69	掘立柱建物跡3群平面図・断面図	90
図版 26	SB1157建物跡出土遺物	32	図版 70	掘立柱建物跡3群出土石器・土製品	93
図版 27	I区北東部道構配置	33	図版 71	掘立柱建物跡3群出土石器	94
図版 28	SB1158・1166建物跡平面図・断面図	34	図版 72	六角形建物跡の位置	95
図版 29	SB1158・1166建物跡出土遺物	35	図版 73	SB2268・2270・2271建物跡平面図・断面図	96
図版 30	SB1160建物跡平面図・断面図	36	図版 74	六角形建物跡出土石器	98
図版 31	SB1160建物跡出土石器	37	図版 75	SB2272・2273・2274・2275・2276建物跡平面図・断面図	99
図版 32	SB1161～1165建物跡平面図・断面図	38	図版 76	土器埋設遺構・土坑墓の配置	101
図版 33	SB1161建物跡出土遺物	39	図版 77	SX2238土器埋設遺構平面図・断面図	102
図版 34	SB1162・1163建物跡出土遺物	40	図版 78	SX2238土器埋設遺構出土遺物	103
図版 35	SB1164・1165建物跡出土遺物	42	図版 79	SX2238合わせ口土器出土状況	104
図版 36	SX1121・1122土器埋設遺構平面図・断面図	43	図版 80	SX2234土器埋設遺構平面図・断面図	104
図版 37	SX1121・1122土器埋設遺構出土遺物	44	図版 81	SX2234土器埋設遺構出土石器	105
図版 38	SX1123・1139土器埋設遺構平面図・断面図・出土遺物	46	図版 82	SX2235土器埋設遺構平面図・断面図・出土遺物	106
図版 39	SX1139土器埋設遺構出土石器	47	図版 83	SX2235土器埋設遺構出土石器	107
図版 40	SX1124土器埋設遺構平面図・断面図・出土遺物	48	図版 84	SX2235土器埋設遺構平面図・断面図・出土石器	108
図版 41	SX1125・1140土器埋設遺構平面図・断面図・出土石器	49	図版 85	SX2280集石遺構平面図・断面図・出土遺物	109
図版 42	SX1141・1142・1143土器埋設遺構平面図・断面図	50	図版 86	SK2055・2062・2283・2061・2063土坑平面図・断面図	110
図版 43	SX1141・1142・1143土器埋設遺構出土石器	51	図版 87	SK2057・2061・2067・2061・2063土坑出土石器	111
図版 44	I区・I区南土坑平面図・断面図	53	図版 88	SK2201・2204平面図	114
			図版 89	Ⅱ区Pit出土遺物	115
			図版 90	Ⅳ・2・3・4区道構配置	117

図版 91	Ⅳ-2区出土土器(1).....	118	図版 150	I区遺物包含層出土土器(8).....	200
図版 92	Ⅳ-2区出土土器(2).....	119	図版 151	I区遺物包含層出土土器(9).....	201
図版 93	Ⅳ-2区出土土器(3).....	120	図版 152	I区遺物包含層出土土器(10).....	202
図版 94	Ⅳ-2区出土土器(4).....	121	図版 153	I区遺物包含層出土土器(11).....	203
図版 95	Ⅳ-2区出土土器・土製品.....	122	図版 154	I区遺物包含層出土土器(12).....	204
図版 96	Ⅳ-2区出土土器・石製品.....	123	図版 155	I区遺物包含層出土土器(13).....	205
図版 97	SH4001 住居跡平面図・断面図.....	124	図版 156	I区遺物包含層出土土器(14).....	206
図版 98	SH4001 住居跡出土遺物.....	125	図版 157	I区I層ほか出土土器(1).....	207
図版 99	SD4002 講跡平面図・断面図・出土土器.....	126	図版 158	I区I層ほか出土土器(2).....	208
図版 100	SD4002 講跡出土土器.....	127	図版 159	I区南出土土器.....	209
図版 101	SD4002 講跡出土遺物.....	128	図版 160	Ⅱ区遺物包含層出土土器・石製品出土状況.....	212
図版 102	SD4002 講跡出土土器.....	129	図版 161	Ⅱ区遺物包含層出土土器(1).....	213
図版 103	SK4040・4049 上坑平面図・断面図・出土土器.....	130	図版 162	Ⅱ区遺物包含層出土土器(2).....	214
図版 104	その他の遺構出土遺物(1).....	132	図版 163	Ⅱ区・Ⅱ区西出土土器.....	215
図版 105	その他の遺構出土遺物(2).....	133	図版 164	遺物包含層出土土器(1).....	216
図版 106	その他の遺構出土遺物(3).....	134	図版 165	遺物包含層出土土器(2)・土製品(1).....	217
図版 107	その他の遺構出土遺物(4).....	135	図版 166	遺物包含層出土土器(2)・ミニチュア土器.....	218
図版 108	I区・I区南遺物包含層の範囲とグリッド.....	137	図版 167	遺物包含層出土土器・土製品.....	219
図版 109	I区・I区南グリッド・層別別土器出土状況.....	140	図版 168	I・Ⅱ区遺構外出土土器(1).....	223
図版 110	I区遺物包含層出土土器Ⅳd～Ⅳa層.....	141	図版 169	I・Ⅱ区遺構外出土土器(2).....	224
図版 111	I区遺物包含層出土土器Ⅳ層(1).....	142	図版 170	I・Ⅱ区遺構外出土土器(3).....	225
図版 112	I区遺物包含層出土土器Ⅳ層(2).....	143	図版 171	I・Ⅱ区遺構外出土土器(4).....	226
図版 113	I区遺物包含層出土土器Ⅳ層(3).....	144	図版 172	I・Ⅱ区遺構外出土土器(5).....	227
図版 114	I区遺物包含層出土土器Ⅳ層(4).....	145	図版 173	遺構外出土土器(1).....	228
図版 115	I区遺物包含層出土土器Ⅳ層(5).....	146	図版 174	遺構外出土土器(2)・土製品.....	229
図版 116	I区遺物包含層出土土器Ⅳ層(6).....	147	図版 175	遺構外出土土器(1).....	230
図版 117	I区遺物包含層出土土器Ⅳ層(7).....	148	図版 176	遺構外出土土器(2).....	231
図版 118	I区遺物包含層出土土器Ⅳ層(8).....	149	図版 177	土器の類型(1).....	233
図版 119	I区遺物包含層出土土器Ⅳ層(9).....	150	図版 178	土器の類型(2).....	235
図版 120	I区遺物包含層出土土器Ⅳ層(10).....	151	図版 179	雲形文の文様類型.....	238
図版 121	I区遺物包含層出土土器Ⅳ層(11).....	152	図版 180	石器の類型(1).....	246
図版 122	I区遺物包含層出土土器Ⅳ層(12).....	153	図版 181	石器の類型(2).....	247
図版 123	I区遺物包含層出土土器Ⅳ層(13).....	154	図版 182	器種別石材組成.....	252
図版 124	I区遺物包含層出土土器Ⅳ層(14).....	155	図版 183	遺物包含層の層別別石材組成(剣片・石核).....	252
図版 125	I区遺物包含層出土土器Ⅳ層(15).....	156	図版 184	石器の大きさ・形状.....	254
図版 126	I区遺物包含層出土土器Ⅳ層(16).....	157	図版 185	石器の類型別石材組成.....	255
図版 127	I区遺物包含層出土土器Ⅳ層(17).....	158	図版 186	不定形石器の類型別石材組成.....	255
図版 128	I区遺物包含層出土土器Ⅳ層(18).....	159	図版 187	礫石器の大きさ.....	256
図版 129	I区遺物包含層出土土器Ⅳ層(19).....	160	図版 188	円盤状石製品の大きさ・形状.....	257
図版 130	I区遺物包含層出土土器I層ほか(1).....	161	図版 189	主な遺構の時期.....	261
図版 131	I区遺物包含層出土土器I層ほか(2).....	162	図版 190	縄文時代後期末～弥生時代前期の遺構配置.....	263
図版 132	I区遺物包含層出土土器I層ほか(3).....	163			
図版 133	I区遺物包含層出土土器I層ほか(4).....	164			
図版 134	I区・I区南遺物包含層出土土器I区I層ほか(5).....	165			
図版 135	I区・I区南遺物包含層出土土器I区I層ほか(6).....	165			
図版 136	Ⅱ区SX1209 堆積土(Ⅲ層).....	166			
図版 137	Ⅱ区遺物包含層出土土器Ⅳ層、Ⅲ層(1).....	168			
図版 138	Ⅱ区遺物包含層出土土器Ⅳ層(2).....	169			
図版 139	Ⅱ区遺物包含層出土土器Ⅳ層(3).....	170			
図版 140	Ⅱ区遺物包含層出土土器Ⅳ層(4).....	171			
図版 141	Ⅱ区遺物包含層出土土器I層ほか(1).....	172			
図版 142	I区・I区南遺物包含層出土土器・石製品出土状況.....	192			
図版 143	I区遺物包含層出土土器(1).....	193			
図版 144	I区遺物包含層出土土器(2).....	194			
図版 145	I区遺物包含層出土土器(3).....	195			
図版 146	I区遺物包含層出土土器(4).....	196			
図版 147	I区遺物包含層出土土器(5).....	197			
図版 148	I区遺物包含層出土土器(6).....	198			
図版 149	I区遺物包含層出土土器(7).....	199			

## 表目次

第1表	SH1102・1103 住居跡土層観察表.....	11
第2表	SH1103 出土遺物属性表.....	18
第3表	SB1158・1166 出土遺物属性表.....	36
第4表	SB1161・1162・1163 建物跡出土遺物属性表.....	41
第5表	I区・I区南出土遺物属性表.....	64
第6表	I区・I区南Pa 出土遺物属性表.....	65
第7表	掘立柱建物跡1群土層観察表.....	73
第8表	掘立柱建物跡2群土層観察表.....	83
第9表	掘立柱建物跡3群土層観察表.....	91
第10表	I区遺物包含層出土土器主要文様の出現数.....	139
第11表	Ⅱ区遺物包含層出土土器主要文様の出現数.....	167
第12表	遺物包含層出土土器属性表(1)I区Ⅳd～Ⅳb層.....	172
第13表	遺物包含層出土土器属性表(2)I区Ⅳb～a層、Ⅳ層.....	173
第14表	遺物包含層出土土器属性表(3)I区Ⅳ層.....	174
第15表	遺物包含層出土土器属性表(4)I区Ⅳ層.....	175

第16表	遺物包含層出土土器属性表(5) I区IV層	176
第17表	遺物包含層出土土器属性表(6) I区IV層、III層	177
第18表	遺物包含層出土土器属性表(7) I区III層	178
第19表	遺物包含層出土土器属性表(8) I区III層	179
第20表	遺物包含層出土土器属性表(9) I区III層	180
第21表	遺物包含層出土土器属性表(10) I区III層	181
第22表	遺物包含層出土土器属性表(11) I区III層	182
第23表	遺物包含層出土土器属性表(12) I区III層、II層、I層ほか	183
第24表	遺物包含層出土土器属性表(13) I区I層ほか	184
第25表	遺物包含層出土土器属性表(14) I区I層ほか、I区南SX1209 堆積土(III層)	185
第26表	遺物包含層出土土器属性表(15) I区南 SX1209 堆積土(III層)、I層ほか、II区IV層、III層	186
第27表	遺物包含層出土土器属性表(16) II区III層	187
第28表	遺物包含層出土土器属性表(17) II区III層、II層、I層ほか	188
第29表	調査区別器種組成	189
第30表	I区・I区南遺物包含層の層別器種組成	189
第31表	I区・I区南遺物包含層出土ツールの層別別石材組成	189
第32表	I区・I区南遺物包含層出土剥片・石核の層別別石材組成	190
第33表	II区遺物包含層の層別器種組成	211
第34表	II区遺物包含層出土ツールの層別別石材組成	211
第35表	II区遺物包含層出土剥片・石核の層別別石材組成	211
第36表	調査区別の石製品出土点数	220
第37表	遺物包含層層別別の石製品出土点数	220
第38表	器種別類型出現頻度	244
第39表	器種別石材組成	250
第40表	遺物包含層出土の剥片・石核観察表	253
第41表	加熱処理のある石器の出現頻度	253
第42表	石鏃各類型の出現頻度	253
第43表	不定形石鏃各類型の出現頻度	255
第44表	礫石器の概用	257
第45表	イモガイ形石製品の特徴	258

写真図版23	SB1160・1161・1162・1163 建物跡出土遺物	306
写真図版24	SB1164・1165 建物跡、SX1121・1122 土器埋設遺構出土遺物	307
写真図版25	SX1139・1123 土器埋設遺構出土土器	308
写真図版26	SX1124・1143 土器埋設遺構出土遺物	309
写真図版27	SK1108・1111 土坑出土遺物	310
写真図版28	SK1113 土坑出土土器・土製品	311
写真図版29	SK1113 土坑出土遺物	312
写真図版30	SK1113・1118・1128・1131・1133 土坑出土遺物	313
写真図版31	SK1133・1137・1144・1145・1148・1149 土坑、Pit 出土遺物	314
写真図版32	Pit 出土遺物	315
写真図版33	II区掘立柱建物跡1群出土土器・土製品	316
写真図版34	II区掘立柱建物跡1群出土遺物	317
写真図版35	II区掘立柱建物跡2群出土遺物	318
写真図版36	II区掘立柱建物跡2群出土石器	319
写真図版37	II区掘立柱建物跡3群、SX2238 土器埋設遺構出土遺物	320
写真図版38	六角形建物跡、SX2238・2234 土器埋設遺構出土遺物	321
写真図版39	SX2236・2235・2280 土器埋設遺構、SK2061・2057・2067・2063 土坑出土遺物	322
写真図版40	SX4058、IV 2区出土土器	323
写真図版41	SX4058、IV 2-3区、SH001 住居跡、SD4002 溝跡出土遺物	324
写真図版42	SD4002 溝跡出土遺物	325
写真図版43	SD4002 溝跡、SK4040 土坑、その他の遺構出土遺物	326
写真図版44	I区遺物包含層出土土器IV d、IV b、IV層(1)	327
写真図版45	I区遺物包含層出土土器IV層(2)	328
写真図版46	I区遺物包含層出土土器IV層(3)	329
写真図版47	I区遺物包含層出土土器IV層(4)、III層(1)	330
写真図版48	I区遺物包含層出土土器III層(2)	331
写真図版49	I区遺物包含層出土土器III層(3)	332
写真図版50	I区遺物包含層出土土器III層(4)	333
写真図版51	I区遺物包含層出土土器III層(5)	334
写真図版52	I区遺物包含層出土土器III層(6)、I層ほか(1)	335
写真図版53	I区遺物包含層出土土器I層ほか(2)	336
写真図版54	I区遺物包含層出土土器I層ほか、I区南 SX1209 層、II区遺物包含層IV層、III層(1)	337
写真図版55	II区遺物包含層出土土器III層(2)、II層、I層ほか(1)	338
写真図版56	II区遺物包含層出土土器I層ほか(2)、土製品	339
写真図版57	I区遺物包含層出土土器(1)	340
写真図版58	I区遺物包含層出土土器(2)	341
写真図版59	I区遺物包含層出土土器(3)	342
写真図版60	I区遺物包含層出土土器(4)	343
写真図版61	I区遺物包含層出土土器(5)	344
写真図版62	I区遺物包含層出土土器(6)	345
写真図版63	I区遺物包含層出土土器(7)	346
写真図版64	I区遺物包含層、I層ほか出土土器	347
写真図版65	I区I層ほか、I区南出土土器	348
写真図版66	II区遺物包含層、I層ほか出土土器	349
写真図版67	II区I層ほか、II区西、IV 4-5区出土土器	350
写真図版68	I・II区遺物包含層、I層ほか出土土製品(1)	351
写真図版69	I・II区遺物包含層、I層ほか出土土製品(2)	352
写真図版70	I・II区遺物包含層、I層ほか出土土製品(3)	353

## 写真図版目次

写真図版1	遺跡全景	284
写真図版2	I区・II区調査区全景(上が北)	285
写真図版3	I区全景(上が西)	286
写真図版4	I区住居跡	287
写真図版5	I区掘立柱建物跡	288
写真図版6	I区掘立柱建物跡柱穴、土器埋設遺構	289
写真図版7	I区南調査区、土坑、溝跡	290
写真図版8	II区全景(上が北)	291
写真図版9	II区掘立柱建物跡	292
写真図版10	II区掘立柱建物跡2群、柱穴	293
写真図版11	II区掘立柱建物跡3群、柱穴	294
写真図版12	II区土器埋設遺構	295
写真図版13	II区集石遺構、土坑墓	296
写真図版14	III区調査区、IV区調査区、土坑、溝跡	297
写真図版15	欠山道跡、浜島山道跡	298
写真図版16	SI1102 住居跡出土土器	299
写真図版17	SI1102・1103 住居跡出土遺物	300
写真図版18	SI1103 住居跡出土遺物	301
写真図版19	SI1103・1104・1105 住居跡出土遺物	302
写真図版20	SB1150 建物跡出土遺物	303
写真図版21	SB1152・1154 建物跡出土遺物	304
写真図版22	SB1153・1157・1158・1166 建物跡出土遺物	305



1. II区再葬墓検出状況（南から）



2. II区掘立柱建物跡群（南西から）



II区再葬墓出土土器



動物形土器



石皿、磨石、碧玉B類



イモガイ(現生標本)、イモガイ形石製品



ヒスイ製勾玉、小玉

# 第1章 遺跡の概要

## 第1節 遺跡の位置と環境

### 1. 遺跡の位置

鍛冶沢遺跡は宮城県刈田郡蔵王町曲竹字鍛冶沢に所在する(図版1、2)。蔵王町周辺の地形を概観すると、西部に奥羽山脈、東部に阿武隈山地、それらに挟まれた低地帯がある。奥羽山脈を構成する火山群の一つに蔵王火山群がある。そこから派生する丘陵は緩やかに東方に延び、蔵王町と村田町周辺では南側に向かって樹枝状に延びている。山脈や丘陵に挟まれた低地帯は、白石川やその支流の松川・藪川・児捨川などの河川によって形成され、その流域には多くの段丘と扇状地性低地が細長く広がっている。蔵王町は松川・藪川などの河川によって形成された段丘や沖積地で占められ、町の大部分は丘陵地で、松川によ

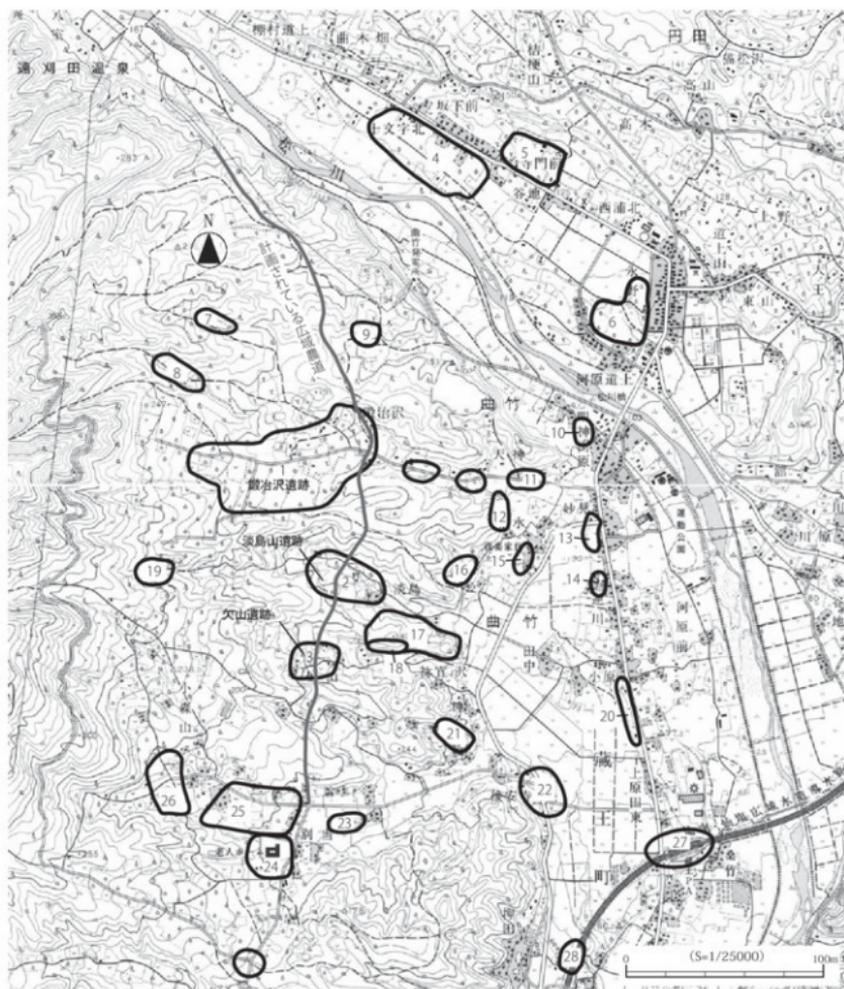


図版1 鍛冶沢遺跡の位置

って大きく南北に二分される。このうち南側は蔵王火山群の東に位置する青森山から派生した丘陵が緩やかに延びたもので、裾野には何本もの沢が入り、東西に延びるいくつかの小丘陵が形成されている。この丘陵上には各時代にわたる遺跡が数多く分布し、本遺跡もその一つである。

### 2. 周辺の遺跡とこれまでの調査

周辺の遺跡をみると、縄文時代は、早期の標識遺跡である明神裏遺跡や中・後期の住居跡が多数発見された二層敷遺跡(加藤ほか:1984)、後・晩期の大規模な集落と推定される下別当遺跡・山田沢遺跡がある(片倉ほか:1976)。弥生時代の遺跡は藪川流域の円田盆地に数多く分布する。大山遺跡(藤沼:1971)、大橋遺跡(太田:1980)、赤鬼上遺跡(阿部・黒川:1980)などがあり、中期から後期の土器が発見されている。また、松川流域の段丘上に立地する西浦遺跡からは円田式の標識資料として設定された長頸甕が発見されている(伊東:1957)。古墳時代から古代の遺跡は、円田盆地、深谷地区に集中してみられる。調査されたものをあげると、古墳時代前期の竪穴住居跡が検出された大橋遺跡、古墳時代後期・平安時代の竪穴住居跡が検出された塩沢北遺跡(藤沼:1971、小川:1980)、平安時代の住居跡が検出された青木遺跡(小川:1980)、東山遺跡(真山:1981)などがある。近年では円田盆地の六角遺跡で関東系土器を伴う8世紀前半頃の集落跡や十郎田遺跡で材木廬による区画施設を伴う7~8世紀の集落跡が確認されている(蔵王町教育委員会:2008)。



番号	遺構名	立地	種別	時代	番号	遺構名	立地	種別	時代
1	鍛冶沢遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文(早・中・晩)・弥生・奈良・平安	15	妙見遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文(晩)
2	鍛冶山遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文(晩)・古代	16	鈴鹿寺遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文(晩)・古代
3	欠山遺跡	丘陵	散布地	縄文	17	曲竹小塚遺跡	丘陵	塚地	中世
4	文字遺跡	段丘	散布地	縄文(中・後)	18	欠山遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文(後)
5	寺門前遺跡	段丘	散布地	縄文(晩)	19	立石遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文(後)
6	西浦遺跡	段丘	集落・散布地	縄文(早・晩)・弥生(晩)・平安	20	蓮川遺跡	丘陵	散布地	縄文(早・前)
7	小野入遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文(早・中・晩)・古代	21	若神子山遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文(後)
8	鍛冶沢北遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文(早・中・晩)・奈良・平安	22	吉竹遺跡	丘陵	散布地	縄文(後)・古代
9	馬越遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文(中)	23	下別子下遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文(中・晩)
10	白丸前屯古墳	段丘	古墳	古墳	24	小塚遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文(後・晩)
11	日向前遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文(早・晩)・古代	25	下別子遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文(中・晩)
12	吾水遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文・弥生	26	瀬川寺遺跡	丘陵	散布地・寺院	縄文(早・中・後)・弥生・平安
13	下原遺跡	段丘	散布地	縄文(晩)	27	下原山遺跡	段丘	集落	縄文(前・晩)・弥生・平安
14	下原遺跡	段丘	散布地	縄文(中)	28	河敷遺跡	段丘	集落	旧石器・縄文(早・後・晩)・平安・中世・近世

図版2 鍛冶沢遺跡の位置と周辺の遺跡

鍛冶沢遺跡は、明治37年に刊行された『東京人類学雑誌』の中で「……松崎喜蔵所有の畑には遺物豊富なる石器時代遺跡あり。土器は亀ヶ岡式のもの多く……」と紹介されるなど、古くから中央の学会で知られ、多くの研究者や郷土史家から注目されていた。また、農作業中にほぼ完形の土偶が発見された遺跡としても広く知られている。昭和44年に遺跡の一部が開田されることとなり、志間泰治氏らによって発掘調査が行



図版3 鍛冶沢遺跡の現況

われた結果、縄文時代晩期末頃の良好な遺物包含層が確認され、土器・石器などが多数出土した。その一部は蔵王町史などに紹介されている(蔵王町史編纂委員会：1987)。また、平成元年には遺跡西部が発掘調査され、縄文時代早期、前期、中期の土器片が出土している(菊地：1990)。

## 第2節 調査に至る経緯と調査経過

宮城県では、主要作物の生産から加工、流通までを組織的に管理するために広域営農団地を計画し、その基幹的な農道となる広域農道の整備を進めている。蔵王町のある仙南地区ではこの広域営農団地農道整備事業に基づき昭和63年から川崎町-蔵王町-白石市を結ぶ広域農道(白石-川崎線)を整備してきた。平成元年に工事の影響を受ける鍛冶沢遺跡について宮城県教育委員会が路線決定前に確認調査と遺物の分布状況を調査し、影響が少ない計画を要望したが、最終的に現在の路線に決定された。その後平成17年度までに1期地区(川崎町-蔵王町)と2期地区(蔵王町-白石市)の一部が完成・開通し、白石市深谷地区間と蔵王町下別当地区間を残すのみとなった。下別当地区間には鍛冶沢遺跡や欠山遺跡、淡島山遺跡、下別当遺跡があり、工事との係わりがあることが予想されたため、平成18年5月17日、24日に宮城県大河原地方振興事務所、宮城県農林水産部農村整備課、宮城県教育委員会、蔵王町教育委員会によって協議が行われた。その結果、遺跡内の工事対象域について確認調査がまず必要であり、その結果に基づいて再協議することとなった。

平成18年6月28日、7月1～13日、12月19～21日に蔵王町教育委員会が確認調査を実施した結果、住居跡や土坑、溝跡などの遺構と縄文時代後晩期の土器や石器が発見された。

平成18年8月24日、確認調査の結果をもとに協議した結果、新設道路建設部分とそれに接続する現道路拡幅部分について宮城県教育委員会が平成19年から事前調査を実施して記録保存することになった。また、農産物の作付けなどの関係で確認調査が及ばなかった地点と鍛冶沢遺跡に近接する淡島山遺跡、欠山遺跡について確認調査と事前調査をあわせて行うこととなった。

事前調査は平成19年7月1日から開始した。平成19年度はⅠ区、Ⅱ区、Ⅲ区について調査し、Ⅰ区で縄文時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡、土器埋設遺構など、Ⅱ区で縄文時代の扇状に並ぶ掘立

柱建物跡群と発掘調査としては県内初出となる弥生時代の再葬墓が発見された(図版4)。Ⅲ区では一部について確認調査を行ったが遺構や遺物は確認されなかった。

このように遺跡の重要性が明らかになったため、9月26日に発掘調査を担当する宮城県教育庁文化財保護課と宮城県大河原地方振興事務所農業農村整備部農道整備二班とで遺跡の保存に関して協議が進められた。文化財保護課は鍛冶沢遺跡Ⅱ区北側で検出された掘立柱建物跡と再葬墓について活用できる形での保存を要望した。このため保存に関する結論が出るまでⅡ区北側については事前調査を一時中断し、再葬墓と土坑墓について精査し、掘立柱建物跡については確認調査にとどめることになった。また、掘立柱建物跡群の広がりを確認するためⅡ区南東部を地権者の了解を得て拡張した。その結果、東側にもさらに掘立柱建物跡が扇状に配置されることが確認された。その後Ⅰ区の精査を進め、11月26日に調査を終了し、12月5日までに埋め戻しを行って平成19年度調査を完了した。

また、平成19年11月5日～19日に淡島山遺跡と欠山遺跡について確認調査した結果、淡島山遺跡については中世以前の遺構は検出されず、縄文土器片数点が出土しただけであったため、遺跡への工事の影響はほとんどないと判断された。欠山遺跡については確認調査の結果、黒色土中に縄文土器がやや多く含まれていたため、一部事前調査を行うこととなった(付章1参照)。

平成20年1月22日に宮城県教育委員会、大河原地方振興事務所農業農村整備部、宮城県農林水産部農村整備課がⅡ区の保存と今後の調査について協議した結果、Ⅱ区北側について計画変更は難しく、現状での保存を断念し平成20年度事前調査で記録保存をすることとなった。

平成20年度事前調査は平成20年5月26日から開始した。調査はⅠ区南から着手し、縄文時代の土坑、縄文時代後期～晩期の遺物包含層などを確認した。6月9日からは北側丘陵部とその下の谷部分のⅣ(Ⅳ-1～6)区の調査を開始した。北側丘陵の南斜面上位(Ⅳ-1区)では焼土ブロックの広がりや時期不明の土器片を発見した。谷部分(Ⅳ-2、3区)では沢跡を検出し、多数の土器片や石器が出土したが、縄文土器、弥生土器、土師器が混在し、二次堆積と判断された。調査中は湧水が激しく、調査区内から溢れ出る泥水が用水路に流れ込むことを避けられなかったため、宮城県教育委員会、宮城県大河原地方振興事務所、地域住民との間で協議した結果、沢跡部分については確認調査に留めてできるだけ早く埋め戻すことになった。これを受けて、調査区と土層の堆積状況の記録を作成し、遺物の一部を取り上げて調査を終了し、同年6月24日までにⅣ-2・3区の埋め戻しを完了した。Ⅳ-4区では、北側で縄文時代の竪穴住居跡、陥し穴、溝跡などを確認した。Ⅳ-5、6区では遺構は確認されなかった。Ⅳ区については9月30日までに調査を完了した。

また、7月23、24日にⅢ区を調査した。遺構は検出されなかったが、北東側に傾斜する部分に堆積した黒色土(Ⅲ層)中から土器、石器が十数点出土した。8月6日に北側丘陵頂部にあたるⅤ区を調査したが遺構、遺物は確認されず、遺跡とは関わりがないと判断された。

8月19日からⅡ区北側の掘立柱建物跡について昨年度の継続調査を行った。Ⅱ区北東部墜際に列に並ぶ礎群が確認されたため、9月2日に調査区北東部を拡張してその性格を把握することにした。その結果、拡張した部分で新たに集石遺構を確認した。これらの遺構について精査し、10月7日までに調査を終了した。その後10月17日までに埋め戻しを行って調査の一切を完了した。

## 第2章 調査の方法と基本層序

### 第1節 調査の方法

事前調査は平成19年7月30日～11月30日と平成20年5月25日～10月17日に実施した。調査対象は道路建設予定地とそれに取り付く現道路拡幅部分で、確認調査の結果遺構の検出が予想された約5,500㎡である。調査区は現在の地形や現道路によって区分される5調査区（Ⅰ～Ⅴ区）に分け（図版4）、用地買収や調査に必要な借地の準備、伐採作業の進捗状況などを踏まえ、優先順位の高いところから行った。平成19年度はⅠ区、Ⅱ区（Ⅱ区西：標柱付近含む）、Ⅲ区について調査した。平成20年度はⅠ区南、Ⅱ区、Ⅲ区、Ⅳ区、Ⅴ区について調査した。各調査区の調査面積はⅠ区約560㎡、Ⅰ区南約540㎡、Ⅱ区（含Ⅱ区西）約800㎡、Ⅲ区約100㎡、Ⅳ区約1,200㎡、Ⅴ区約60㎡で、総計約3,260㎡である。

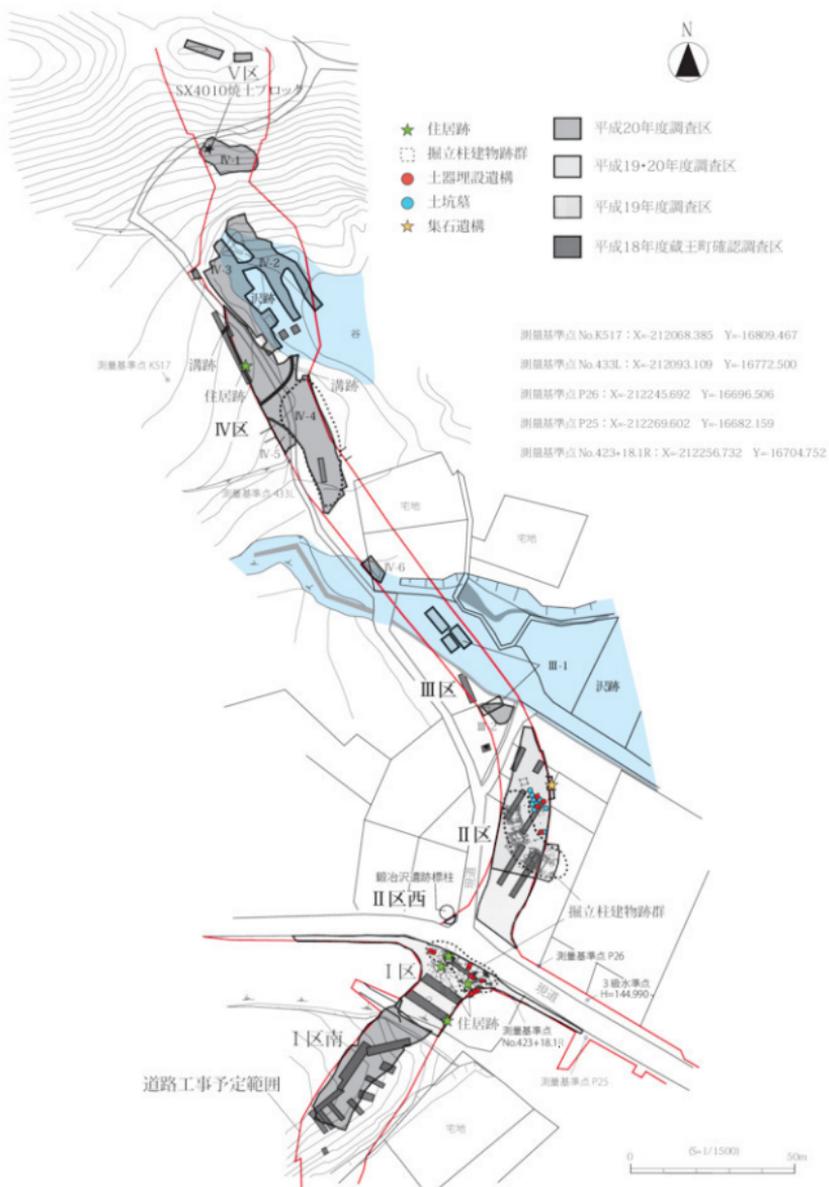
調査区での遺構の測量については、道路建設予定地の境界杭をもとに測量を行った。標高についてはⅡ区南東付近にある3級水準点（H=144.990m）を基準にしている。測量に利用した基準杭と水準点は図版4の通りである。検出した遺構の平面図・断面図は原則として縮尺1/20で作成している。ただし、遺構が希薄な部分の平面図については縮尺1/100で、Ⅰ区南、Ⅲ区、Ⅳ区、Ⅴ区の平面図は電子平板も併用して図面を作成した。

遺構写真は通常6×7cm判モノクロフィルムとデジタルカメラで撮影し、重要度が高いものについては6×7cm判カラーリバーサルフィルムを併用した。

Ⅰ区およびⅡ区検出の遺物包含層の調査にあたっては、堆積状況や遺物の出土状況を把握する目的で対象区域に3mのグリッド割りを行った。グリッド名は東西方向をアルファベット、南北方向をアラビア数字で表し、両者を組み合わせて呼ぶこととした（図版108）。具体的にはⅠ区は仮原点（X=212265.000、Y=16737.000）を基準とし、南北方向のアルファベット列（AO…AZ・BA・BB…BL）と東西方向のアラビア数字列（100・101…107）によって区分される3m×3mグリッドに名称を付けた。Ⅱ区は仮原点（X=212217.000、Y=16701.000）を基準とし、南北方向のアルファベット列（A・B・C・D）と東西方向のアラビア数字列（1…15）によって区分される3m×3mグリッドに名称を付けた。包含層中から出土した遺物についてはこのグリッドごとに取り上げを行っている。また整理の際には、基本的に包含層と遺構出土の遺物が接合もしくは同一個体と確認された場合は遺構出土物として扱った。グリッドを越えて接合もしくは同一個体と確認された場合は、同一個体が多い（大きい）グリッドに所属させた。いずれの場合も接合関係については図表で示した。

### 第2節 調査区の位置と周辺の地形

調査区は現在の地形や現道路などによって区分されるⅠ～Ⅴ区に分けて行った（図版4）。Ⅲ区は平成19年度に確認調査した地点をⅠ区、平成20年度に確認・事前調査した地点をⅡ区とした。Ⅳ区については地形と調査可能になった時期によってⅠ～Ⅵ区に分けて行った。以下では各調査区の



図版4 調査区的位置と周辺の地形

位置と設定した地点の地形について説明する。

I区とI区南は東西に通る町道の南側に設定した調査区である。I区は丘陵東緩斜面にあり、現在畑地に利用されている場所に設定した。I区南はI区のある緩斜面から一段高い丘陵先端部に現在竹林または雑木林になっている場所に設定した。この丘陵先端部の東側および南側は急峻な谷になっており、確認調査の結果、谷部分で遺構は確認されなかった。西側は丘陵尾根にあたり、比較的平坦になっている。

II区は町道の北側の南北に通る農道東側に位置し、現在畑地に利用されている場所に設定した。また、II区南西にある遺跡標柱付近の畑地で道路が拡幅される部分についてはII区西とした。II区を設定した畑地は標柱のある西側の畑地から階段状に約3m低くなっている。これは開田工事の造成によって原地形が改変されたためと思われる。一方、II区の北側は急に低くなり、現在用水路に利用されている小川が東流し、その北側及び東側には水田が広がっている。後述するIII区とIV-6区の土層の堆積状況や現在の地形も併せて考えると、もとはII区の北側に沢が入り込み、丘陵を南北に隔てていたと考えられる。

III区はII区北西部の現在畑地と水田に利用されていた部分に設定した。

IV区とV区はI～III区のある丘陵とは小川を挟んで北側の丘陵に設定した。この北側の丘陵は東側から入る谷の周囲が急峻である一方、南側に流れる小川に向かって緩斜面になっている。

IV区は1～6区に細分して設定した。北側の丘陵南斜面で現在は山林・竹林である場所にIV-1区、谷部分で湿地になっている部分にIV-2・3区、西側段丘上で現在畑地に利用されている場所にIV-4区、農道部分にIV-5区、宅地だった場所にIV-6区を設定した。

V区は北側の丘陵頂部にトレンチを2ヶ所設定して確認調査を行った。遺構遺物は発見されなかった。

### 第3節 基本層序

各調査区内の基本層序は①南側の調査区：I区、I区南、II区、III区と②北側の調査区：IV、V区で大きく異なっている(図版5、6)。前者はI層：表土、II層：水田・畑地造成時の整地層、III層：黒色土(自然堆積層)、IV層：III層からV層(地山)への漸移層、V層：地山粘土層、VI層：礫を多く含む地山粘土層の順に6層に大別できる。一方後者は、1層：表土、2層：黒褐色土、3層：2層と4層との漸移層、4層：褐色シルト質粘土、5層・6層：凝灰岩を多く含む粘土、7層：粘土の順に大別でき、4層以下が地山である。IV-4区の半分程度は農道造成時や耕作による攪乱を受けており、2・3層が残存していないところが多い。なお、IV-2・3・6区の層序は沢の堆積層であるため基本層序とは異なっている。北側の丘陵頂部に設定したV区では表土下はすく4層または5層の地山であった。各層の特徴は以下の通りである。

#### ①I区～III区

I層：表土または耕作土。主に黒褐色(10YR2/2)シルトで、ややしまりがある。

II層：開田造成時の整地層。II区南西部にみられる。

III層：自然堆積層。黒色(10YR2/1)シルト。しまりあまりなし。いわゆるクロボクと呼ばれる畑に適している土で縄文・弥生土器片が含まれる遺物包含層である。一部でIV層との漸移層であるIII b層(灰

黄褐色(10YR4/3)シルト)がみられる。

IV層:にぶい黄褐色(10YR4/3)～黒褐色(10YR2/3)シルト。遺物を多く含む自然堆積層である。IV a～e層に細分される。

II区東側の調査区壁を観察するとIV a・b・c層は堆積しておらず、IV d層のみがみられる。

IV a層…にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト。締まりがあまりない。黒褐色シルトと黄褐色シルト粒を少し含む。

IV b層…暗褐色(10YR3/4)シルトまたは粘土質シルト。しまりがあまりない。

IV c層…暗褐色シルトでIV b層よりやや黒い。I区西部に皿状に堆積する。

IV d層…暗褐色(10YR3/3)～黒褐色(10YR2/3)シルト。地山粒をわずかに含む。

IV e層…灰黄褐色(10YR4/2)シルト。締まりがある。IV d～V層の漸移層。

V層:自然堆積層。黄褐色(10YR5/6)～明黄褐色(10YR6/6)粘土質シルトで、しまりがある。

VI層:自然堆積層。明黄褐色(10YR6/6)粘土層で、礫を5～20cmの角礫を多く含む。

## ②IV区、V区

1層:表土または耕作土。主に暗褐色(10YR3/4)シルトで、しまりがあまりない。

2層:自然堆積層。黒褐色(10YR3/2)シルトで、しまりがあまりない。①I～III区のIII層に対応すると思われる。

3層:自然堆積層。灰黄褐色(10YR4/2)シルト。2～4層の漸移層。

4層:自然堆積層。褐色(10YR4/6)シルト質粘土。

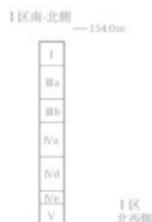
5層:自然堆積層。にぶい黄褐色(10YR5/3)粘土。締まりあり。凝灰岩礫を多く含む。

6層:黄自然堆積層。橙色(10YR8/6)粘土。しまりあり。凝灰岩礫を多く含む。

7層:自然堆積層。にぶい黄褐色(10YR7/2)粘土。しまりあり。



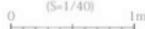
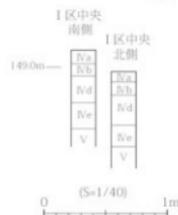
I区南-南側



I区南-北側



I区中央東側



I区北西側

図版5 基本層序(I区・I区南)

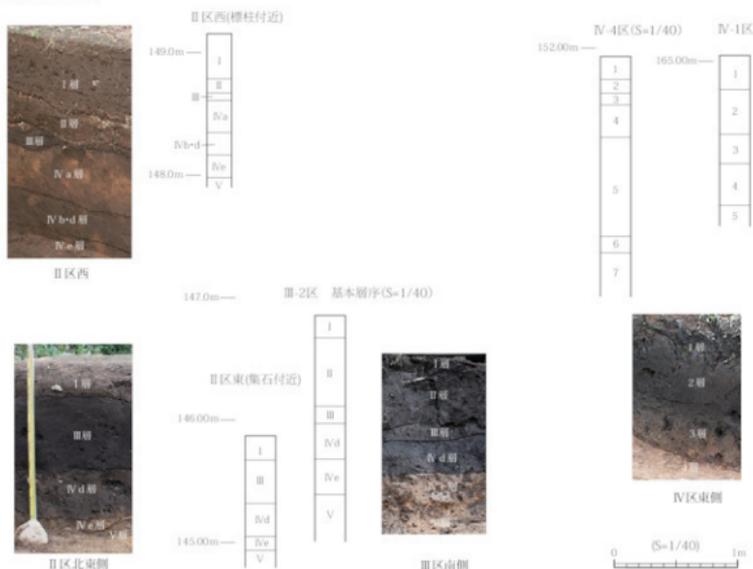
### 第3章 発見した遺構と遺物

検出した遺構の多くは縄文時代後期から弥生時代前期にかけてのものである。縄文時代から弥生時代の遺構は、竪穴住居跡5軒、掘立柱建物跡群3カ所、掘立柱建物跡23棟、土器埋設遺構14基、集石遺構1基、土坑32基、溝跡1条、多数のピット(柱穴や小穴)などがある。縄文時代のもと考えられる柱穴はⅠ区やⅡ区北東部に集中しており、建物跡や住居跡に伴う柱穴と考えられる。また、Ⅰ区で遺物包含層、Ⅳ-2・3区で沢跡検出し、多くの遺物が出土している。このほかⅣ-4区やⅠ区南などから時期不明の土坑、溝跡、ピットが検出されている。これらの堆積土は縄文時代または弥生時代と考えられる遺構のものとは異なっており、一部の土坑からは陶磁器が出土するなど近世や近現代のもと考えられる。

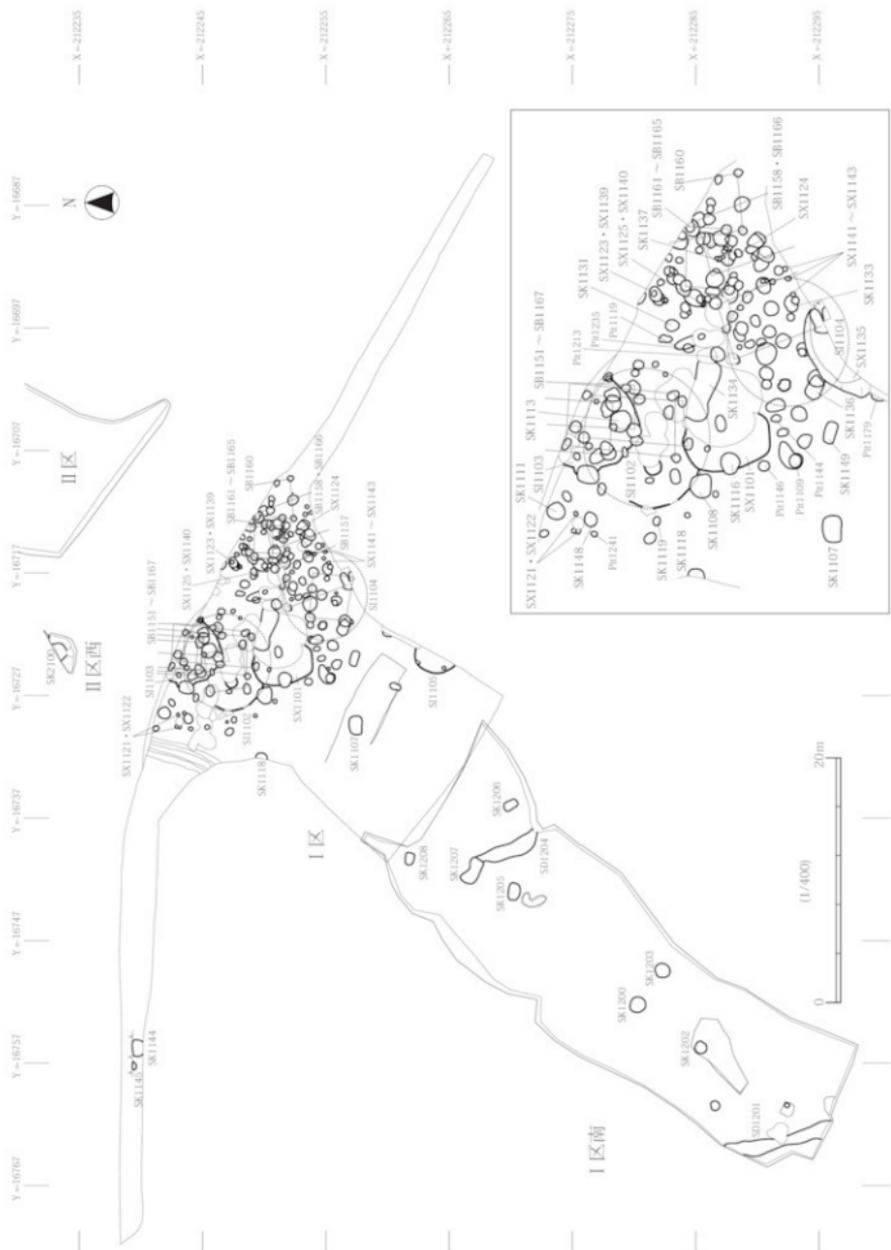
遺物は、54×34×15cmの整理箱で約350箱に相当する量が出土している。出土遺物は縄文土器(早期～晩期)、弥生土器(前期～中期)、石器、ミニチュア土器、土偶、土製品、石製品などである。以下、発見した遺構と遺物について調査区ごとに説明する。なお、遺物包含層出土遺物についてはⅠ区とⅡ区で検出していることから別項でまとめ、その種類ごとに説明する。

#### 第1節 Ⅰ区・Ⅰ区南

Ⅰ区で検出した遺構には、縄文時代の竪穴住居跡4軒、掘立柱建物跡15棟、土器埋設遺構10基、土坑15基、ピットなどがある(図版7)。遺構確認面は主にⅣb層上上で、調査区北半部に集中して検出された。



図版6 基本層序(Ⅱ～Ⅳ区)



図版 7 I区遺構配置

I区南で検出した遺構は土坑7基、溝跡2条である。このうち縄文時代の遺構と考えられる遺構はS K 1205、S K 1206、S K 1208土坑で、それ以外は堆積土の特徴から近世以降または時期不明である。遺構確認面はV層上面である。このほかI区全体とI区南の北西端に遺物包含層が形成されており、縄文時代早期から弥生時代の土器や石器などが多数出土している。この遺物包含層の詳細については第6節で後述する。

## A. 住居跡

縄文時代の竪穴住居跡を4軒確認した。いずれも残存は悪く、壁はほとんど残っていない。S I 1102住居跡とS I 1104住居跡では石囲炉が検出されている。

### 【S I 1102住居跡】

〔位置〕I区北側で確認した(図版8)。検出面はIV b層である。大部分は後世の攪乱やS I 1103住居跡によって壊されている。

〔重複〕S I 1103住居跡、S B 1150、S B 1152、S B 1154建物跡、S K 1113土坑と重複し、これらより古い。

〔規模・構造〕残存する部分の形状から、平面形は直径4.3m以上の円形と推定される。

〔壁〕西側部分で検出した。地山を壁としており、床面からはぼまっすぐに立ち上がる。壁高は残存状況の良いところで床面から14cmである。

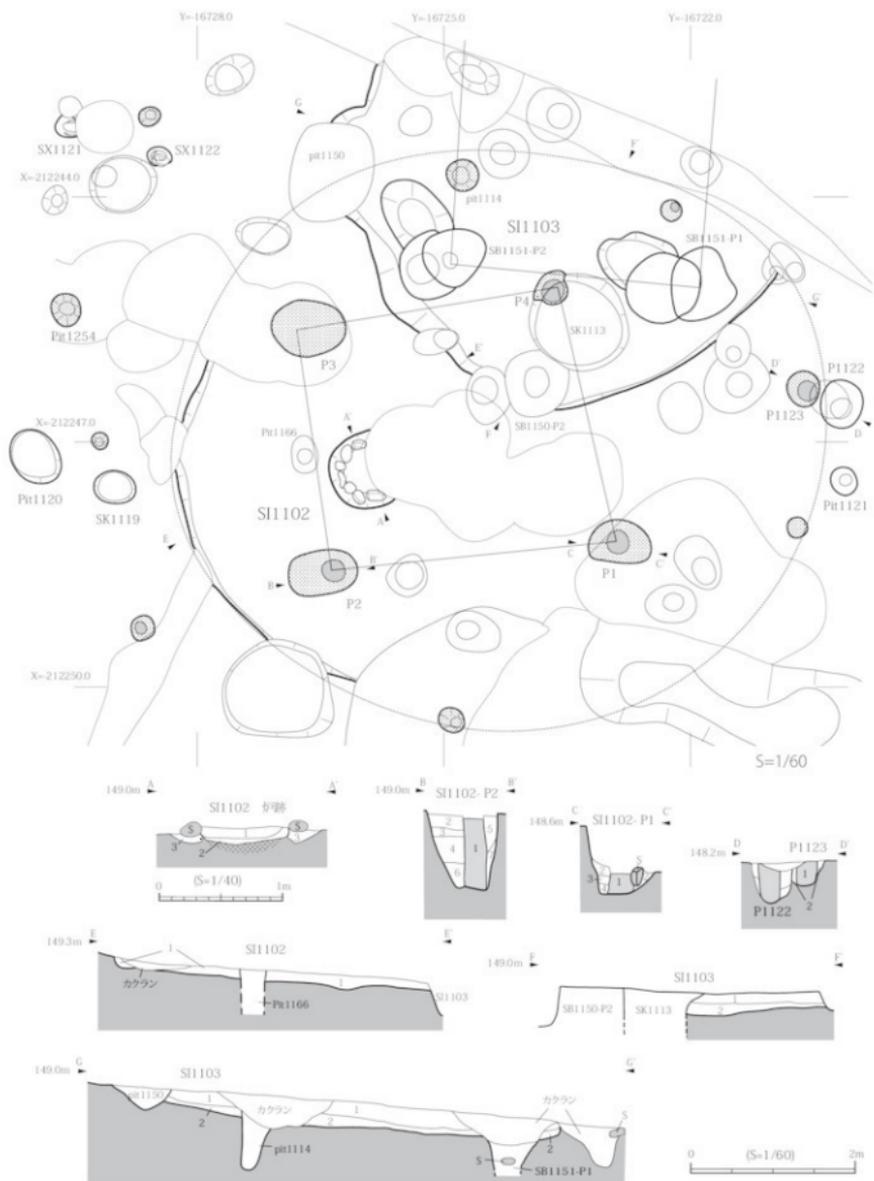
〔床面〕4b層を床とし、ほぼ平坦である。

〔柱穴〕住居跡に伴うとみられる柱穴を4カ所で確認した(P1～4)。長径80～90cm、短径52～66cm、深さ63～100cmの楕円形である。埋土は地山ブロックを多く含む黄褐色シルトまたは暗褐色シルトである。柱痕跡を2カ所で確認した。直径28cmの円形である。柱間寸法はP1-P2間3.4m、P2-P3間3.0m、P3-P4間3.0m、P1-P4間3.1mである。

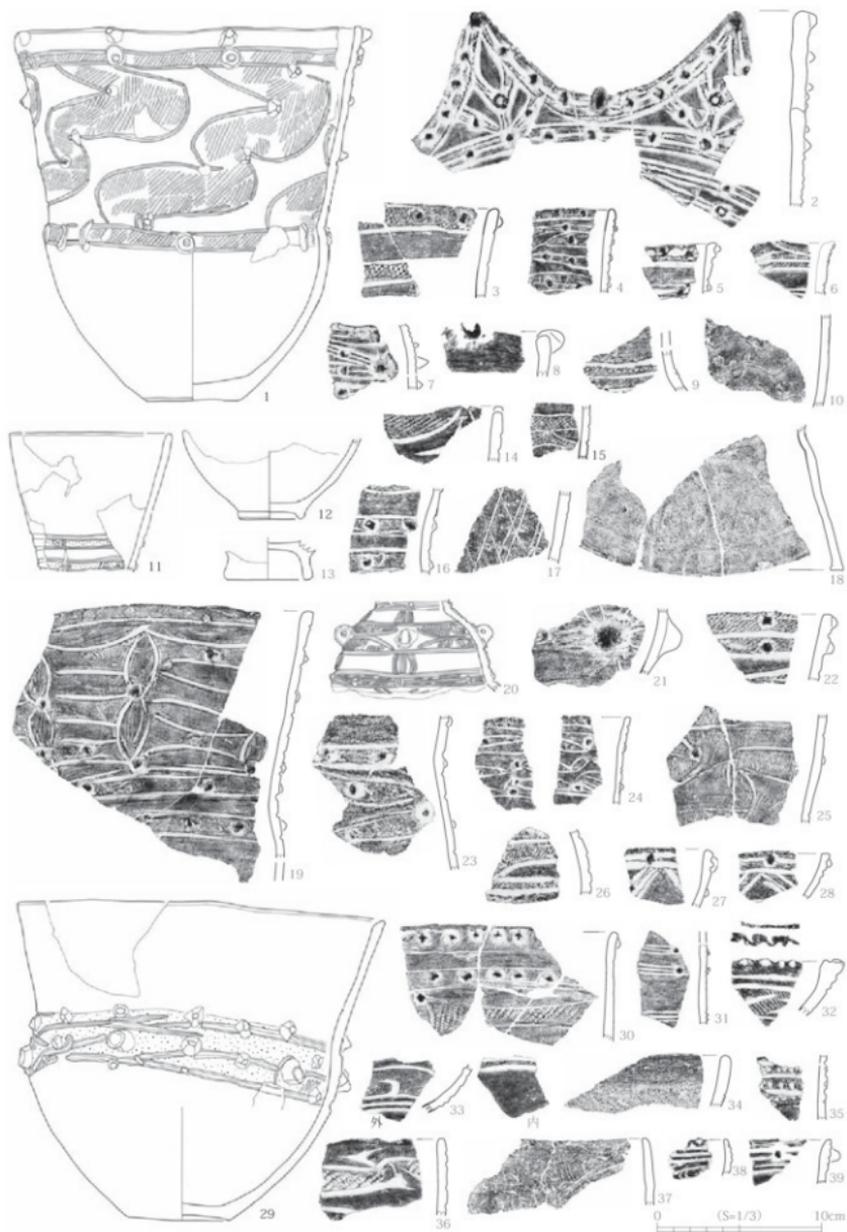
〔炉跡〕住居跡の中央に直径約80cmの石囲炉を検出した。炉石よりやや幅広の据え方を溝状に掘り、こぶし大の河原石を並べている。中央部は浅い皿状にこぶみ、底面に強い被熱の痕跡がみられる。

第1表 SI1102、SI1103住居跡土層観察表

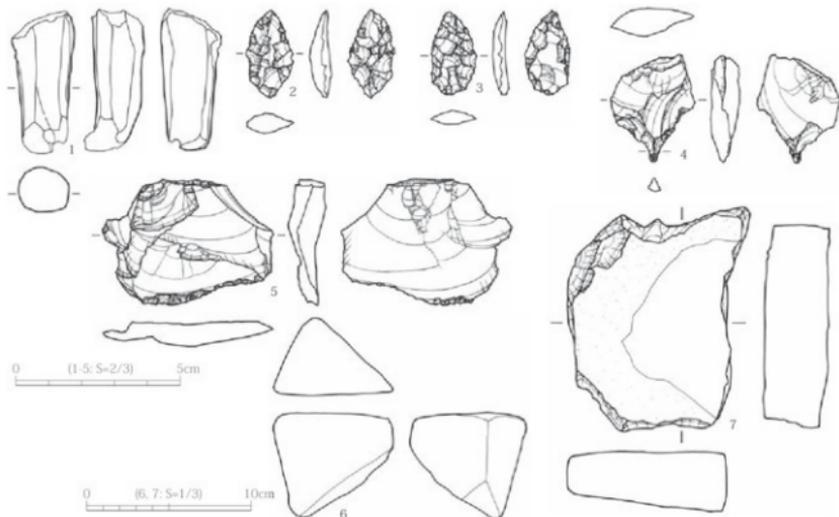
遺構名	層序	土色	土性	特徴	分類	
SI1102-#1	A-A'	1	黒褐色(10YR3/1)	シルト	赤褐色焼土ブロックを多く含む	砂堆積土
		2	黒褐色(10YR3/1)	シルト	赤褐色焼土ブロックを多く含む	砂堆積土
		3	黒褐色(10YR3/2)	シルト	暗褐色土ブロックを含む	炉石層上方
SI1102-P2	B-B'	1	黒褐色(10YR3/2)	シルト		柱痕跡
		2	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	地山小ブロックを多く含む	柱穴埋土
		3	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	地山ブロック・地山大ブロックを非常に多く含む	柱穴埋土
		4	暗褐色(10YR3/3)	シルト		柱穴埋土
		5	にぶい黄褐色(10YR5/3)	シルト	地山ブロックを多く含む	柱穴埋土
		6	暗褐色(10YR3/3)	シルト		柱穴埋土
		7	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	地山ブロック・地山大ブロックを多く含む	柱穴埋土
SI1102-P1	C-C'	1	黒褐色(10YR2/3)	シルト	地山小ブロックを少し含む。焼土ブロック・炭化物粒をわずかに含む	柱痕跡
		2	暗褐色(10YR3/3)	シルト	地山ブロックを含む。焼土ブロック・炭化物粒をわずかに含む	柱穴埋土
		3	黒褐色(10YR3/2)	シルト	地山粒を少し含む	柱穴埋土
		4	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	地山粒を含む	柱穴埋土
P1123	D-D'	1	黒褐色(10YR3/2)	シルト		柱痕跡
		2	褐色(10YR4/4)	シルト		柱穴埋土
SI1102	E-E'	1	黒色(10YR2/1)	シルト	地山小ブロック・炭化物粒をわずかに含む	堆積土
SI1103	F-F'	1	黒褐色(10YR2/2)	シルト	炭化物粒・粘土小ブロックをわずかに含む	堆積土
		2	暗褐色(10YR3/3)	シルト		堆積土



図版8 SI1102・SI1103住居跡 平面図・断面図



图版 9 SI1102 住居跡 出土土器



No	器種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
9-1	深鉢	床	口径21.7cm, 器高22.6, 底径5.8cm, 口縁端部平縁。クワック状帯状文、貼瘤(環状, 粒状, 三日月状)、縄文L、体部下半~底部ミガキ、内面ミガキ	16-1	Pot1585
9-2	深鉢	床	波状縁, 帯状文(つや消し、短沈線)、貼瘤	16-16	Pot1588
9-3	深鉢	床	帯状文(縄文)、貼瘤、縄文形体不明	16-5	Pot1575
9-4	深鉢	床	平縁, 帯状文(つや消し)、貼瘤、炭化物付着	16-6	Pot1573
9-5	深鉢	床	平縁, 帯状文(短沈線)、貼瘤	16-7	Pot1572
9-6	壺	床	平縁+突起, 柱脚文、縦面状切目、貼瘤(剥落)	16-8	Pot1572
9-7	壺	床	帯状文(短沈線)、貼瘤	16-9	Pot1579
9-8	深鉢	床	平縁, 貼瘤, 沈線	16-10	Pot1576
9-9	壺	床	帯状文(新突明)、貼瘤(剥落)	16-11	Pot1583
9-10	深鉢	床	流水状条線文	16-12	Pot1582
9-11 [口 or 壺]	床	口径10.2cm, 平縁, 貼瘤, 帯状文(つや消し)、内面かるいミガキ	16-2	Pot1587	
9-12 壺 or 注口	床	底径4.0cm, 無文, かるい1/3切底, 内面ナデ	16-3	Pot1586	
9-13	台部	床	台部径5.4cm, 無文	16-4	Pot1584
9-14	深鉢	床	小波状縁, 三叉文か、縄文LR	16-13	Pot1574
9-15	不明	P2	帯状文(縄文)、縄文LR	16-14	Pot1391
9-16	深鉢	P2	帯状文(つや消し)、貼瘤	16-17	Pot1389
9-17	深鉢	P2	格子状沈線文	16-18	Pot1390
9-18	台部	P2	中央部は帯状文(つや消し)	16-15	Pot1392
9-19	深鉢	I	平縁, 帯状文(つや消し)、貼瘤、炭化物付着	16-24	Pot1570
9-20 壺 or 注口	I	弧状帯状文、縦線文、貼瘤、貫通孔のある突起2個、縄文LR, 内面ナデ	16-22	Pot1566	
9-21	深鉢か	I	貼瘤	16-21	Pot1554
9-22	深鉢	I	平縁, 帯状文(縄文)、縄文LR, 貼瘤	16-20	Pot1556
9-23	深鉢	I	貼瘤, 帯状文(つや消し)	16-23	Pot1569
9-24	深鉢	I	平縁, 人形帯状文(つや消し)、貼瘤	16-27	Pot1562
9-25	深鉢	I	人形帯状文(条線文)、貼瘤	16-30	Pot1565
9-26	壺	I	帯状文(縄文)、縄文LR	16-26	Pot1559
9-27	鉢	I	貼瘤, 平行沈線, 斜行沈線	16-31	Pot1560
9-28	鉢	I	貼瘤, 帯状文(つや消し)	16-32	Pot1561
9-29	深鉢	I	口径23.2cm, 器高20.0cm, 底径6.0cm, 平縁, 体部中央に帯状文(つや消し、縄文)、貼瘤、縄文形体不明, 体部下半~底部ミガキ、底部今や1/3底, 内面ミガキ	16-25	Pot1567
9-30	深鉢	I	平縁, 人形帯状文(光縄文、つや消し+短沈線)、貼瘤、縄文LR	16-33	Pot1568
9-31 壺 or 鉢	I	貼瘤, 平行沈線	16-29	Pot1571	
9-32	皿	I	平縁+波状浮線文(ヘラ切目+口縁部沈線)、雲形文(磨り消し縄文)、縄文RL	16-35	Pot1563
9-33	皿	I	雲形文(磨り消し縄文)、直前段多条縄文LR	16-19	Pot1564
9-34	深鉢	I	平縁, 条線文	16-34	Pot1558
9-35	深鉢	I	帯状文(新突切目)	16-28	Pot1589
9-36	深鉢	I	平縁+押圧, 三叉文, 人形帯状文(縄文)	17-1	Pot1593
9-37	深鉢	I	無文, 内外面軽いミガキ	17-2	Pot1590
9-38	鉢	I	平縁+ヘラ切目, ヘラ切目, 平歯状文か	17-4	Pot1592
9-39	鉢か	I	平縁, 平行沈線文, 貼瘤	17-3	Pot1591
10-1	土器部形	床		17-9	土-17

No	器種	器型	遺構/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	残存	加熱処理	変形	付着物	備考	写真図版	登録
10-2	石鏝	I c (1)	1	珪質白岩	26.4	14.2	5.7	1.9	完形	0	0	0		17-5	S1001
10-3	石鏝	I c (1)	1	玉函	24.5	13.4	4.2	1.4	変形	2	0	0		17-6	S1002
10-4	石鏝	II a (2)	1	珪質白岩	33.4	25.6	8.8	6.1	完形	0	0	0		17-7	S1003
10-5	不定形石器	III e	1	珪質白岩	39.1	52.2	8.1	13.5	完形	0	0	0		17-11	S1386
10-6	磨石	-	不明	軽石	62.6	69.5	62.1	57.8	完形か	0	0	0		17-10	S1538
10-7	石皿	-	床	礫山岩	136.7	93.1	34.8	811.0	破片	0	0	0		17-12	S1536

図版 10 S1102 住居跡 出土石器

〔その他〕住居跡の周囲に直径20～30cmの小柱穴を9個検出した。住居に伴う柱穴の可能性ある。  
〔堆積土〕1層確認した。炭化物、地山粒をわずかに含む黒色シルトで、自然堆積層である。  
〔出土遺物〕床面と堆積土から深鉢、鉢、壺が出土している。土器には貼瘤や帯状文が施されている。  
石器は石鏃、石錐、石皿などが出土し、土偶の脚部も出土している(図版9、10)。

### 【S I 1103 住居跡】

〔位置〕I区北壁際で確認した。検出面はIV b層である。大部分は後世の攪乱やS K 1113土坑などによって大きく壊されている(図版8)。炉は検出されなかったが、S K 1113土坑から焼土ブロックがまとめて検出されていることからS K 1113土坑が住居跡の炉を壊して掘られた可能性がある。また、S B 1151、S B 1153、S B 1167建物跡は本住居跡と重複する。新旧関係が不明であるが検出位置を考えると住居跡に伴う柱穴の可能性もある。

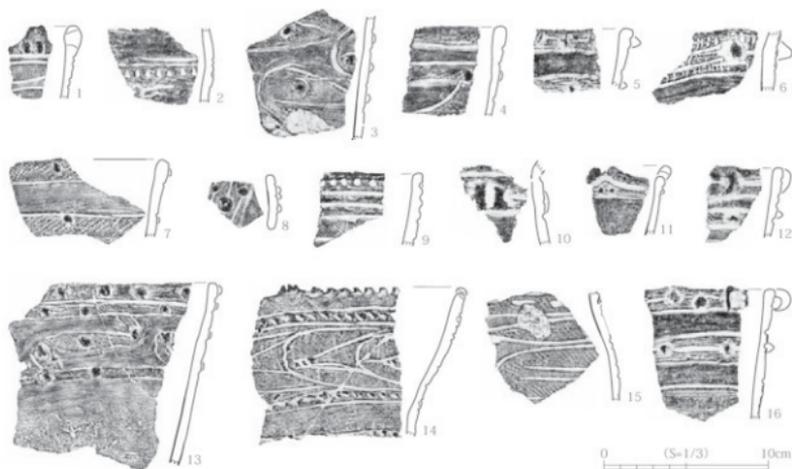
〔重複〕S I 1102住居跡、S B 1150、S B 1151、S B 1152、S B 1153、S I 1154建物跡、S K 1113土坑と重複し、S I 1102住居跡より新しく、S B 1150、S B 1152建物跡、S K 1113土坑より古い。S B 1151、S B 1153、S B 1167建物跡との新旧関係は不明である。

〔規模・構造〕南半部のみを検出した。北半部は調査区外に延びる。平面形は直径5.4mの円形と推定される。

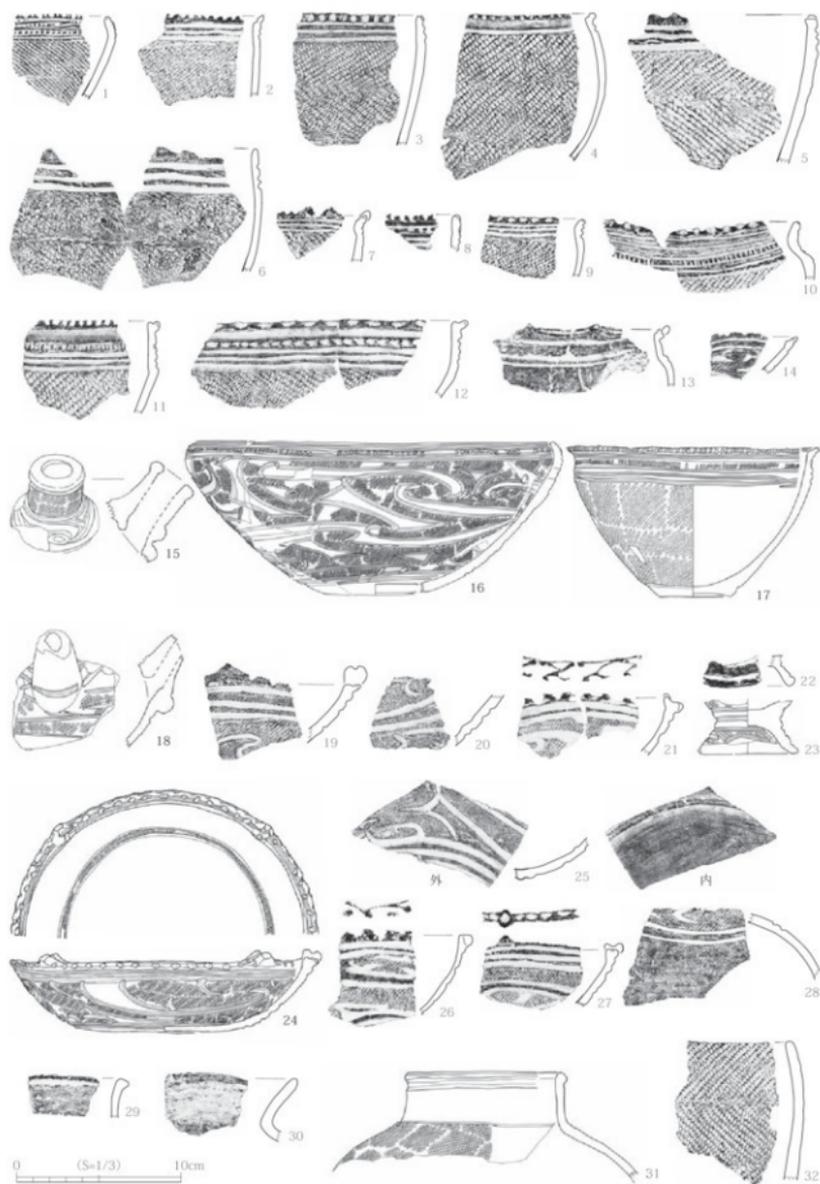
〔壁〕東、西、南で検出した。地山を壁としており、床面からほぼまっすぐに立ち上がる。壁高は残存状況のよいところで床面から約30cmである。

〔床面〕IV b層を床とし、西側がやや高い。

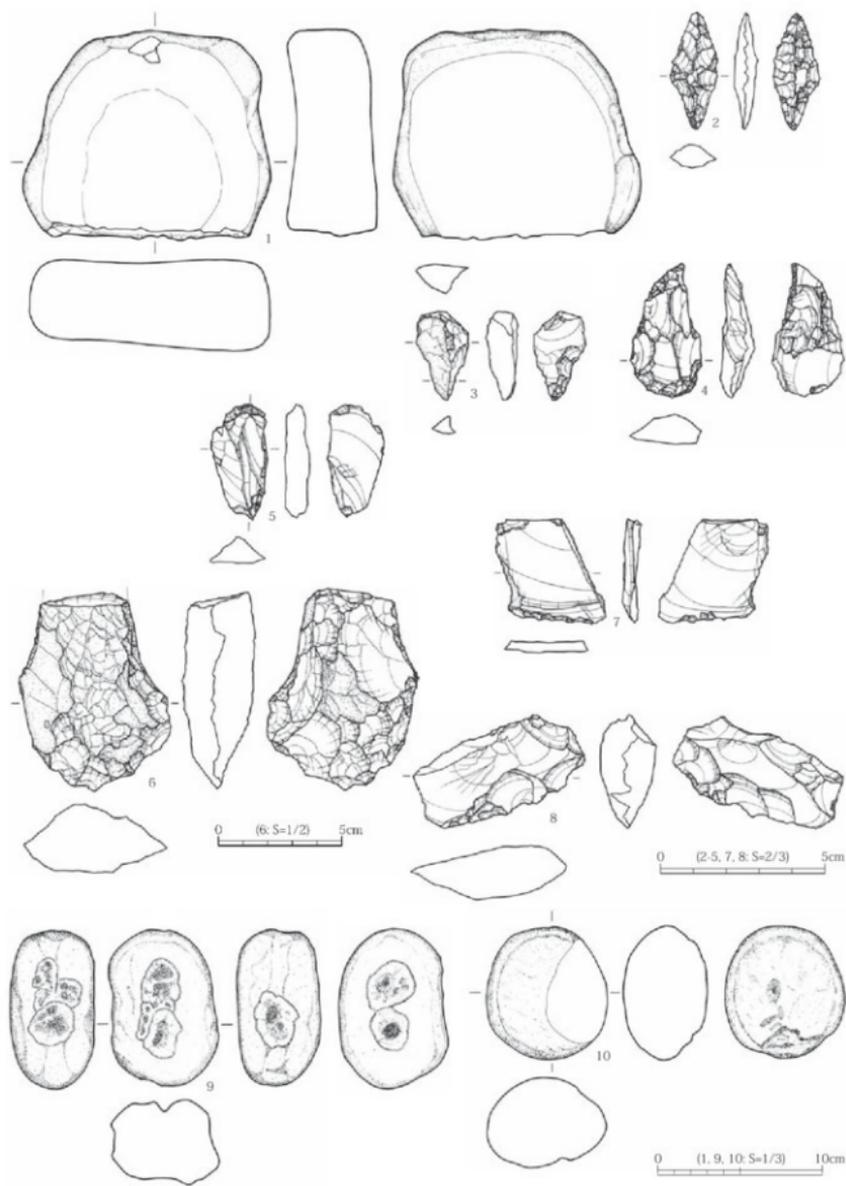
〔柱穴〕住居跡に伴うと考えられる柱穴は検出されなかった。



図版 11 SI1103 住居跡 出土土器 (1)



图版 12 SI1103 住居跡 出土土器 (2)



图版 13 SI1103 住居跡出土 石器

〔堆積土〕2層確認した。1層は炭化物や土器片を多く含む黒褐色シルト、2層は地山ブロックを多く含む暗褐色シルトで、自然堆積層である。

〔出土遺物〕床面から石皿が出土している(図版13-1)。1層から深鉢、鉢、浅鉢、皿が出土している。雲形文の施された土器は大破片が多く一括廃棄されたものとみられる(図版12)。

第2表 SI1103 出土遺物属性表

No	器種	遺構/層	特徴	写真回数	登録
11-1	深鉢	1	肩部刻み山形小突起、胎面、帯状文(縄文)、真鍮文LR	17-13	Pat1655
11-2	深鉢	1	帯状文(御突割付)、胎面	17-14	Pat1668
11-3	深鉢	1	大船帯状文(つや消し)、胎面	17-15	Pat1653
11-4	深鉢	1	平縁、帯状文(縄文)、胎面、縄文胎体不明	17-16	Pat1659
11-5	深鉢	1	平縁、胎面、帯状文(条線文、加紋線)	17-17	Pat1605
11-6	深鉢 or 皿	1	帯状文(御突割付)、胎面	17-18	Pat1602
11-7	深鉢	1	平縁、帯状文(縄文)、胎面、縄文LR	17-24	Pat1609
11-8	深鉢	1	波状縁、胎面、条状条線文、櫛歯条割付	17-23	Pat1661
11-9	浅鉢	1	平縁、平行波線、へう割付、縄文LR	17-22	Pat1673
11-10	深鉢	1	平行波線文、除帯胎付	17-19	Pat1607
11-11	皿	1	平縁+二個一対の小突起、波線文、粘土粘胎付	17-20	Pat1606
11-12	深鉢	1	平縁、帯状文(縄文)、胎面、縄文LR	17-21	Pat1603
11-13	深鉢	1	平縁、大船帯状文(条線文)、胎面	17-28	Pat1604
11-14	深鉢	1	平縁+肩部刻み小突起、C字状帯状文(縄文、御突割付)、胎面、縄文LR	17-27	Pat1656
11-15	深鉢	1	大船帯状文(縄文、加紋線文)、縄文LR	17-25	Pat1617
11-16	深鉢	1	平縁、大船帯状文(条線文、加紋線)、胎面	17-26	Pat1601
12-1	鉢	1	平縁+へう割付、平縁状文、縄文LR	17-29	Pat1665
12-2	鉢	1	平縁+へう割付、平行波線文、縄文LR	17-30	Pat1615
12-3	鉢	1	平縁、へう割付、平行波線文、縄文LR、LR	17-31	Pat1611
12-4	鉢	1	平縁+へう割付、平行波線文、縄文LR	17-32	Pat1610
12-5	深鉢	1	平縁+へう割付、平縁状文、縄文LR、RL	17-33	Pat1654
12-6	深鉢	1	平縁、縄文LR、炭化物付着	17-37	Pat1658
12-7	鉢	1	平縁+二個一対の小突起+へう割付、平行波線文、縄文LR、炭化物付着	17-40	Pat1664
12-8	鉢	1	平縁+へう割付、平縁状文	17-35	Pat1671
12-9	鉢	1	平縁+へう割付、平行波線文、縄文LR、炭化物付着	17-36	Pat1614
12-10	鉢	1,2	平縁+へう割付、平行波線、櫛歯状割付、縄文LR	17-34	Pat1670
12-11	鉢	1	平縁+へう割付、口内面波線、平行波線文、櫛歯状割付、縄文LR、炭化物付着	17-38	Pat1613
12-12	鉢	1X	平縁、へう割付、平行波線文、押突き波線文、縄文LR	17-39	Pat1630
12-13	鉢	1	波状縁+口内面波線、平行波線文、縄文胎体不明、内面波線	17-48	Pat1669
12-14	皿	1	平縁+口内面弧状波線文、雲形文、縄文胎体不明	17-41	Pat1620
12-15	注口土器	1	注口部、本底き二文文	17-42	Pat1597
12-16	浅鉢	1	口径22.2cm、器高9.5cm、底径15.1cm、平縁、平行波線文、へう割付、雲形文(布地縄文)フック状単位文5単位+C字状単位文+鼓型充填文+菱形充填文、縄文LR、内面ミガキ、底部付込に段、地修孔	17-49	Pat1598
12-17	鉢	1	口径15.4cm、器高9.1cm、底径5.0cm、口縁部平縁、へう割付、櫛歯状割付、平行波線文、縄文LR、底部ミガキ、内面波線文、炭化物付着	17-50	Pat1651
12-18	注口土器	1	平行波線文、縄文LR	17-43	Pat1596
12-19	浅鉢	1	平縁+山形突起+へう割付+口内面波線、雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR	17-44	Pat1608
12-20	浅鉢	1	雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR、内面に段	17-45	Pat1619
12-21	浅鉢	1	平縁、平歯状波線文、雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR、内面波線	17-46	Pat1600
12-22	内部	1	平行波線	17-47	Pat1663
12-23	深鉢	4d	平縁+押し山、山形押型文、櫛歯蓋入	17-47	Pat1657
12-24	皿	1	口径18.8cm、器高4.7cm、底径9.6cm、口縁部平縁+突起4単位+波状浮線文、雲形文(磨り消し縄文)C字状単位文4単位+鼓型充填文、縄文LR、直前段条、底部かきいミガキ、口縁部内面磨りだし、底部付込に縄文押線、内面かきいミガキ	18-1	Pat1595
12-25	皿	1	雲形文(磨り消し縄文)、直前段条縄文LR、内面底部付近に縄文線帯	18-2	Pat1612
12-26	皿	1	平縁+平歯状浮線文、雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR	18-8	Pat1616
12-27	皿	1	平縁+山形小突起、へう割付、雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR	18-9	Pat1666
12-28	皿	1	雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR	18-3	Pat1667
12-29	皿	1	平縁	18-5	Pat1599
12-30	深鉢 or 皿	1	平縁	18-7	Pat1618
12-31	皿	1	口径10.3cm、平縁、口縁部肥厚、縄文LR、内面体部ケズリ+かきいミガキ	18-5	Pat1662
12-32	深鉢	1	平縁、浪状縄文LR、RL	18-10	Pat1672

No	器種	型名	遺構/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	残存	加熱処理	変形	付着物	備考	写真回数	登録
13-1	石皿	-	床	安山岩	124.0	148.3	55.9	1974.0	一部欠	0	0	0		18-16	S1539
13-2	石鉢	1 b 1	1	珉頁頁岩A	35.6	14.0	7.2	2.8	完形	1	0	0		18-12	S1006
13-3	石鉢	2 c 2	1	珉頁頁岩A	27.4	16.0	9.8	3.1	完形	0	0	0		18-11	S1842
13-4	石皿	1 a	1	珉頁頁岩A	41.2	22.1	9.0	6.6	完形	0	0	0		18-13	S1380
13-5	磨り石器	1 c	2	珉頁頁岩A	35.1	17.8	8.4	4.7	変形	0	0	0		18-15	S1388
13-6	打製石器	-	1	安山岩	78.7	60.5	28.5	145.8	基部欠	0	0	0		18-14	S1391
13-7	不定形石器	皿 e	1	珉頁頁岩A	31.9	34.6	4.0	5.5	一部欠	0	0	0		18-19	S6477
13-8	不定形石器	皿 d	1	珉頁頁岩A	33.8	52.6	17.0	22.6	完形	0	0	0		18-17	S1390
13-9	磨石	-	2	安山岩	96.0	65.5	50.7	393.8	完形	0	0	0		19-1	S1543
13-10	磨石	-	1	安山岩	81.1	71.5	52.6	367.8	完形	0	0	0		19-2	S1670

### 【S I 1104 住居跡】

〔位置〕 I区南東で確認した(図版14)。炉跡と主柱穴と考えられる柱穴のみを検出した。検出面はIV層である。

〔重複〕 SB 1157 建物跡、SX 1135 と重複し、SX 1135 より古い。SB 1157 とは位置的に重複するが、新旧関係は不明である。

〔壁〕 残存していない。

〔床面〕 大きく削平されているが、炉跡周囲は地山のしまりが良く、床面が残存していると考えられる。

〔柱穴〕 住居跡に伴うと考えられる柱穴を4カ所で確認した(P1～4)。長径68～77cm、短径50～65cmの楕円形で、残存する深さは120～160cmである。埋土は地山ブロックを多く含む灰黄褐色シルトまたは地山ブロックを含む黒褐色シルトである。3カ所で柱痕跡を、1カ所で柱抜き取り穴を確認した。柱痕跡は直径20～30cmの円形である。柱間寸法はP1-P2間2.6m、P2-P3間2.4m、P3-P4間2.6m、P1-P4間2.9mである。

〔炉跡〕 住居跡の南側P2寄りに直径約65cmの石囲炉を検出した。炉石よりやや幅広の据え方を溝状に掘り、こぶし大の河原石を並べている。南側は地山に直接埋め込んでいる。底面は凹凸があり北側にやや傾斜している。底面に被熱の痕跡は少ないが、堆積土に焼土ブロックがまとまって堆積している。

〔出土遺物〕 土器片が床面と炉跡から出土している。貼瘤や帯状文が施されている(図版15-1～6)。石器は炉石に転用された石皿や凹石、磨石が出土している(図版16)。また、住居跡の主柱穴と考えられるP2埋土から貝形土製品が出土した(図版15-7)。接合する破片がS I 1104 住居跡の南東部を覆っていたSX 1135 と遺物包含層3層から出土している。

### 【S I 1105 住居跡】

〔位置〕 I区南東壁際で確認した(図版17)。検出面はIVb層である。

〔重複〕 主な遺構との重複はない。

〔規模・構造〕 西半部のみを検出した。東半部は調査区外に延びる。平面形は直径3.4mの円形と推定される。

〔壁〕 地山を壁としており、床面からほぼまっすぐに立ち上がる。壁高は残存状況のよいところで床面から約25cmである。

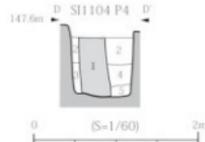
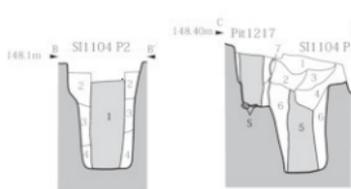
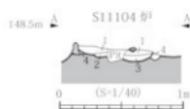
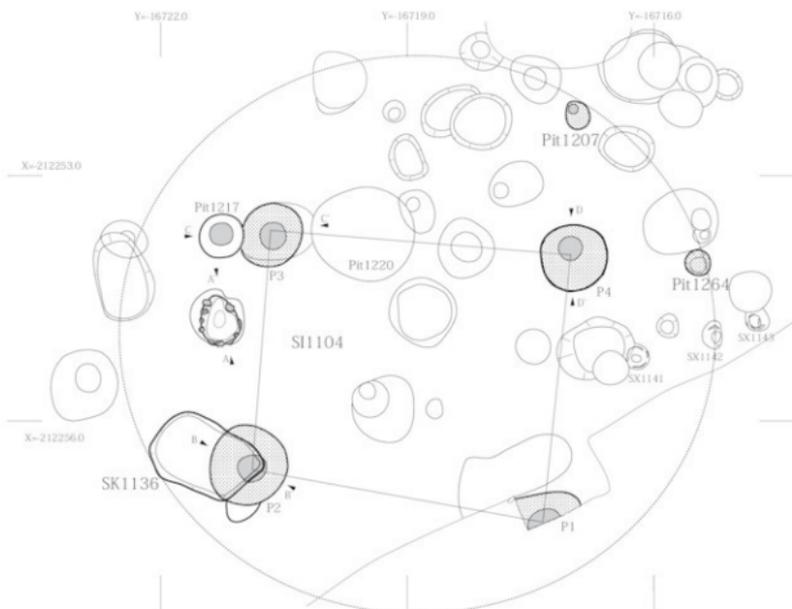
〔床面〕 地山を床とし、ほぼ平坦である。

〔柱穴〕 住居跡に伴うと考えられる柱穴は検出されなかった。

〔炉跡〕 炉跡は検出されなかったが、調査区壁面の住居跡中央部床面直上に焼土ブロックの集中がみられることからこの位置に炉がある可能性が高い。

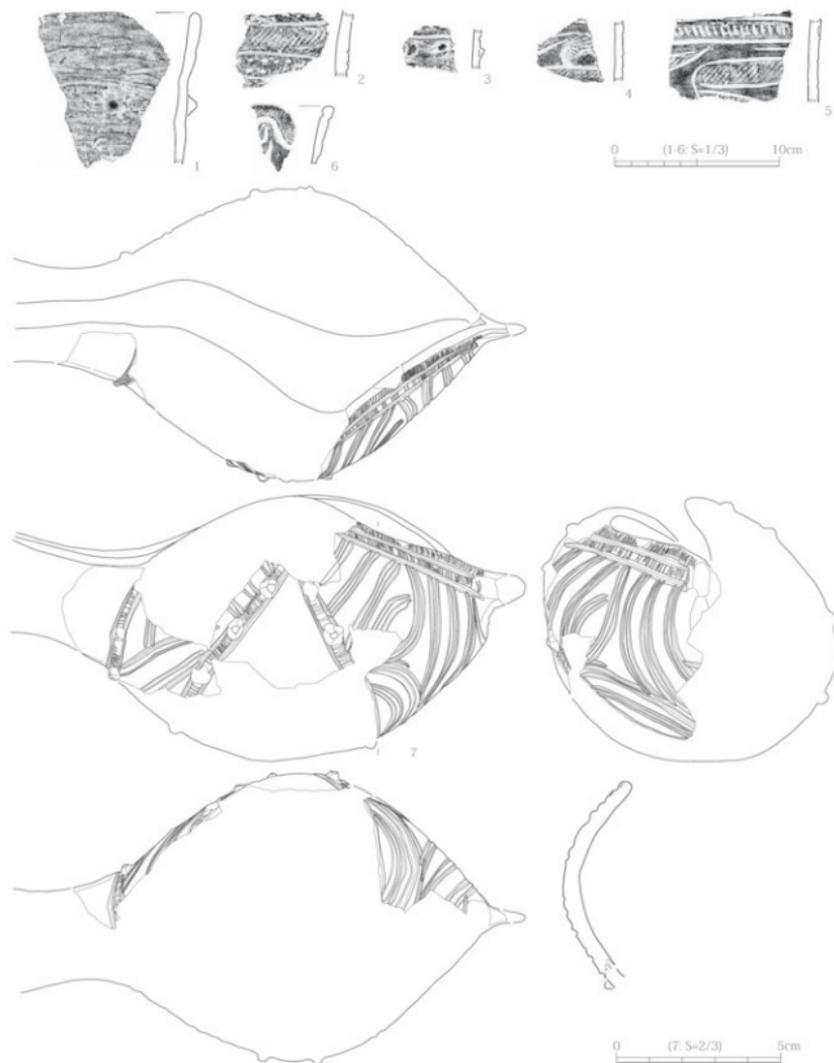
〔堆積土〕 2層確認した。1層は焼土ブロックを含む黒褐色シルト、2層は地山ブロックを含む暗褐色シルトで、自然堆積層である。

〔出土遺物〕 堆積土から深鉢と石製品が出土している(図版17)。土器には貼瘤がみられる。



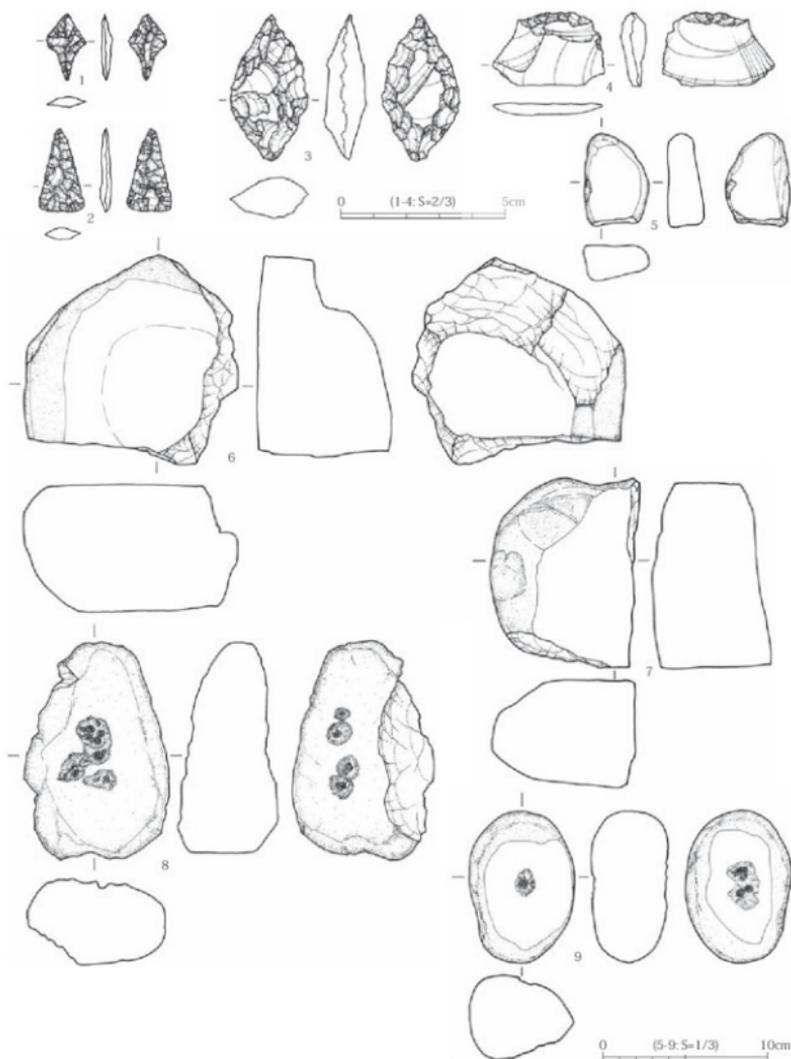
遺構名	層序	土色	土性	特徴	分類
SI1104 P1	1	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山小ブロック・焼土小ブロックを少し含む	堆積土
	2	にぶい・黄褐色 (10YR4/3)	シルト	地山灰を含む	機埴時埋積土
	3	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	焼土ブロックを多く含む	機埴時埋積土
	4	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山小ブロックを含む	掘方埋土
SI1104 P2	1	黒褐色 (10YR3/1)	シルト		柱基礎
	2	灰褐色 (10YR4/1)	シルト	地山小ブロック～大ブロックを多く含む	柱穴埋土
	3	褐色 (10YR4/4)	シルト	地山ブロックを非常に多く含む	柱穴埋土
	4	暗褐色 (10YR3/3)	シルト		柱穴埋土
SI1104 P3	1	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山ブロック・焼土ブロック・炭化物粒をわずかに含む	柱穴埋土
	2	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山小ブロックをわずかに含む。地山灰を4層階に含む	柱穴埋土
	3	にぶい・黄褐色 (10YR4/3)	シルト	地山ブロックを含む。地山大ブロック・炭化物粒をわずかに含む	柱穴埋土
	4	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山小ブロックを少し含む。地山大ブロック・炭化物粒をわずかに含む	柱穴埋土
	5	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山大ブロックを含む	柱穴埋土
SI1104 P4	6	褐色 (10YR4/4)	シルト	地山ブロックを多く含む	柱穴埋土
	7	褐色 (10YR4/4)	シルト	地山ブロックを非常に多く含む	柱穴埋土
	1	黒褐色 (10YR3/2)	シルト		柱基礎
	2	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山小ブロック・地山ブロックを多く含む	柱穴埋土
	3	にぶい・黄褐色 (10YR4/3)	シルト		柱穴埋土
SI1104 P4	4	にぶい・黄褐色 (10YR5/4)	シルト	地山を主体とする	柱穴埋土
	5	にぶい・黄褐色 (10YR4/3)	シルト	地山ブロックを多く含む	柱穴埋土

図版 14 SI1104住居跡 平面図・断面図



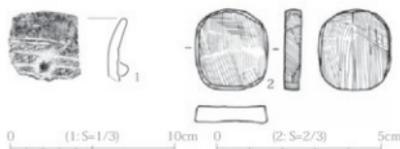
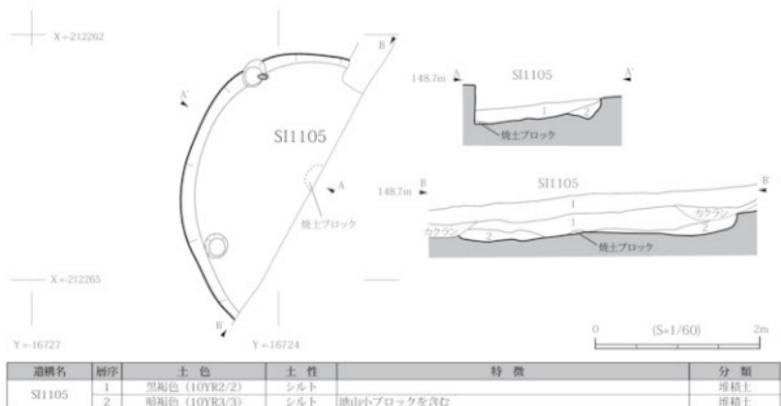
No	器種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
1	深鉢	床	平縁。帯状文(つや消し)。胎痕		Pot1685
2	深鉢	床	帯状文(縄文)、刺突列、縄文LR		Pot1688
3	深鉢	床	沈線文、胎痕、炭化物付着		Pot1689
4	深鉢	床	人形帯状文(縄文)、縄文LR		Pot1690
5	深鉢	炉	楕円状刻目、C字状帯状文、縄文LR		Pot1691
6	深鉢	炉	波状縁。沈線文、縄文LR		Pot1177
7	貝形土製品	P2/埋土 SX1135/埋土上 BG102/墓	約1/3残存。中央部が強く歪る。弧状平行沈線文・平行沈線文・楕円状刻目・胎痕。腹面は短く表現される。内外面上有ミガキ。		土-55

図版 15 SI1104 住居跡 出土土器・土製品



No	器種	類型	遺物/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	残存	加熱処理	変形	付随物	備考	写真図	登録
16-1	石鏃	I b ②	P3/ 掘方	珉質白岩 A	20.3	11.5	3.0	0.4	完形	0	0	0		19-10	S1010
16-2	石鏃	III b	P1/ 掘取穴	碧玉 A	25.1	13.5	3.5	1.0	完形	2	0	基部		19-11	S1009
16-3	尖頭器	I b ②	P3/ 掘方	珉質白岩 A	44.9	23.8	12.1	10.0	完形	0	0	0		19-12	S1012
16-4	不定形石器	III c	P4/ 埋絡土	珉質白岩 A	23.0	34.1	7.2	4.5	完形	0	0	0		19-13	S1811
16-5	磨石	-	P4/ 掘方	安山岩	55.7	38.8	21.3	68.1	一部欠	0	0	0		19-14	S1725
16-6	石皿	-	砂石 No.2	安山岩	119.0	130.2	80.0	1709.0	破片	0	0	0		19-16	S1572
16-7	石皿	-	砂石 No.3	安山岩	113.8	86.5	68.7	1121.0	破片	0	0	0		19-15	S1573
16-8	凹石	-	砂石 No.10	安山岩	134.9	87.2	52.3	609.0	一部欠	0	0	0		19-17	S1575
16-9	磨石	-	砂石 No.8	安山岩	93.9	64.1	49.1	445.0	完形	0	0	凹行→		19-19	S1574

図版 16 SI1104 住居跡 出土石器



No.	品類	遺構/層	特徴	写真図版	登録
1	土	1層	平埴, 帯状文(縄文), 彫痕, 縄文LR	19-20	Pot1692

No.	品類	類型	遺構/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	残存	加熱処理	変形	付随物	備考	写真図版	登録
2	497石製品	-	1	燧状岩	24.4	21.8	4.7	4.0	元形	0	0	0		19-21	S6455

図版 17 SI1105住居跡 平面図・断面図・出土遺物

## B. 掘立柱建物跡

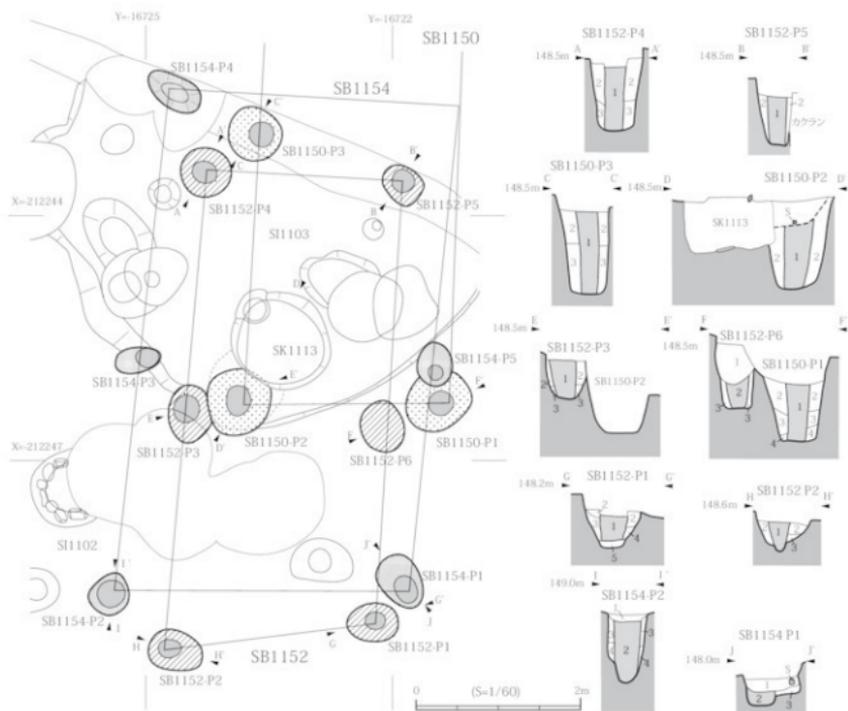
15棟確認した。耕作や造成などの影響で遺構の残存状況が不良で、調査区壁際に遺構が集中して検出されたため建物跡については全体の構成を認識できたものは少ない。それぞれの建物跡の柱穴の組み合わせは、柱穴の位置関係、規模、切り合い、埋土の特徴、建物とした場合の位置の連続性を考慮して推定した。これらの建物跡は4本の柱または6本の柱で構成されると考えられるが、調査区の制限からⅡ区で検出された掘立柱建物跡のように構造を明らかにすることはできない。今後隣接する地点が発掘調査される際には建物跡の構成について再検討が必要である。

### 【S B 1150 建物跡】

〔位置〕Ⅰ区北部で確認した(図版18)。検出面はⅣ層である。

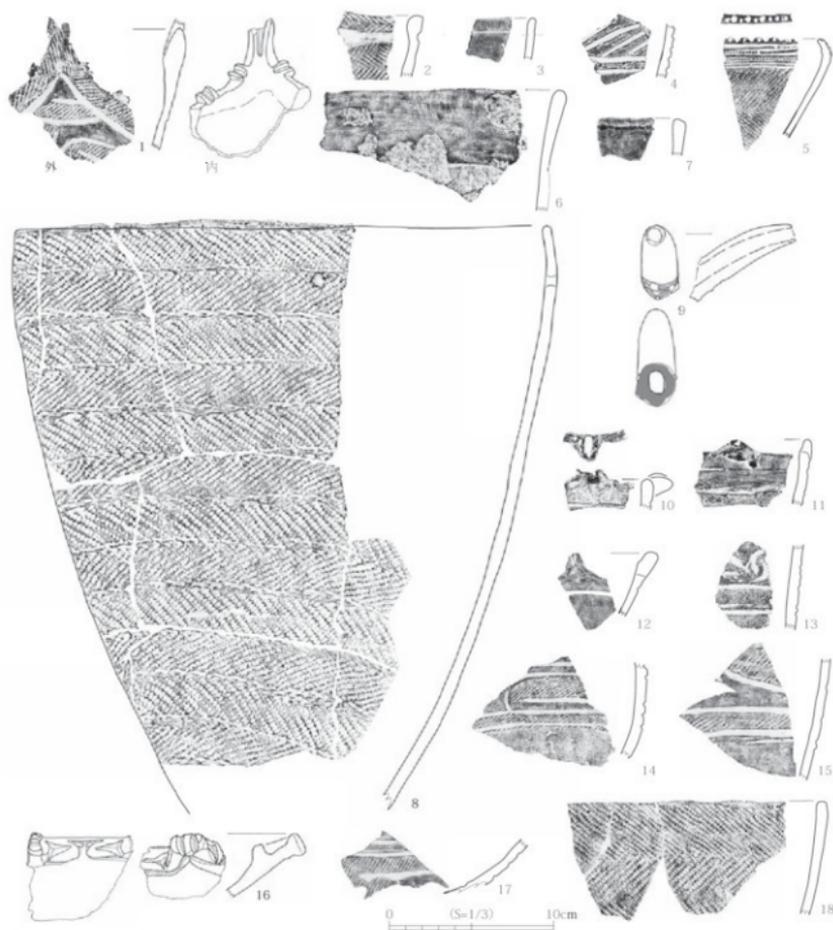
〔重複〕S I 1102、S I 1103住居跡、S B 1152、S B 1154、S B 1151、S B 1153、S B 1167建物跡と重複し、直接の切り合いでS I 1102、S I 1103住居跡、S B 1152建物跡より新しく、S B 1154建物跡より古い。そのほかの遺構との新旧関係は不明である。

〔規模・構造〕桁行1間以上、梁行1間の建物跡である。平面規模は桁行が西側柱列で3.3m以上、梁行は南側柱列で2.5mである。



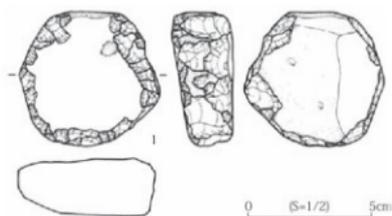
道標名	順序	土色	土性	特徴	分類
SB1152-P4	1	黒褐色 (10YR2/2)	シルト		柱頭跡
	2	灰黄褐色 (10YR4/3)	シルト	地山小ブロックを少し含む	柱穴埋土
	3	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト	地山ブロック・地山大ブロックを多く含む	柱穴埋土
SB1152-P5	1	黒褐色 (10YR3/1)	シルト		柱頭跡
	2	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山小ブロックを少し含む	柱穴埋土
SB1150-P3	1	黒褐色 (10YR2/2)	シルト		柱頭跡
	2	黒褐色 (10YR3/3)	シルト	地山小ブロックを少し含む	柱穴埋土
	3	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山小ブロックを多く含む	柱穴埋土
SB1150-P2	1	黒褐色 (10YR3/1)	シルト		柱頭跡
	2	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山ブロックを多く含む	柱穴埋土
SB1152-P3	1	黒褐色 (10YR3/2)	シルト		柱頭跡
	2	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	シルト	地山小ブロックを多く含む	柱穴埋土
	3	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山小ブロックを多く含む	柱穴埋土
SB1152-P6	1	黒褐色 (10YR3/2)	シルト		柱穴取穴
	2	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山ブロックを含む	柱頭跡
	3	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山ブロック・地山大ブロックを多く含む	柱穴埋土
SB1150-P1	1	黒褐色 (10YR2/2)	シルト		柱頭跡
	2	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山ブロック・地山大ブロックを多く含む	柱穴埋土
SB1152-P1	1	黒褐色 (10YR3/2)	シルト		柱穴埋土
	4	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山ブロックを多く含む	柱頭跡
	1	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山粒を含む。地山ブロック・粘土ブロック・炭化物粒をわずかに含む	柱頭跡
SB1154-P2	2	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト	地山ブロックを含む。粘土ブロック・炭化物粒をわずかに含む	柱穴埋土
	3	褐色 (10YR4/4)	シルト		柱穴埋土
SB1152-P2	4	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト	地山ブロックを多く含む	柱穴埋土
	5	褐色 (10YR4/4)	シルト	地山ブロックを樹根を含む	柱穴埋土
	1	黒褐色 (10YR2/3)	シルト		柱頭跡
SB1154-P2	2	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山小ブロックを多く含む	柱穴埋土
	3	暗褐色 (10YR3/3)	シルト		柱穴埋土
	1	黒褐色 (10YR2/2)	シルト		柱穴取穴
SB1154-P1	1	黒褐色 (10YR2/3)	シルト		柱頭跡
	2	黒褐色 (10YR3/2)	シルト		柱穴埋土
	4	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山小ブロックを含む	柱穴埋土
SB1154-P1	1	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山小ブロック・炭化物粒を含む	柱穴取穴
	2	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山粒を含む	柱頭跡
	3	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山ブロックを含む	柱穴埋土

図版 18 SB1150、SB1152、SB1154 建物跡 平面図・断面図



No	図種	遺構/層	特徴	写取図版	登録
19-1	深鉢	P1/埋土	波状線・突起(内面のみ有り)。帯状文(縄文)。貼継。縄文LR	20-1	Post1348
19-2	深鉢	P1/埋土	波状線か。波状線文、羽状縄文RL、LR	20-4	Post1351
19-3	不明	P1/埋土	平線、波線文、縄文RL	20-2	Post1353
19-4	深鉢	P1/埋土	矢羽根状波線文	20-3	Post1350
19-5	浅鉢	P1/埋土	平線・ヘラ割目。羊歯状文、羽状縄文LR、RL	20-5	Post1349
19-6	深鉢	P1/埋土	平線、波線文、縄文LR	20-6	Post1347
19-7	不明	P1/埋土	平線、無文	20-7	Post1352
19-8	深鉢	P1/埋土	口径31.5cm。平線、羽状縄文LRRL。粘膠部強調。内面ナデ。炭化物付着	20-11	Post1346
19-9	注口	P2/柱	帯状文(短波線)。貼継。アスファルト付着	20-8	Post1354
19-10	深鉢	P3	平線・突起(柄のみ有り)。帯状文(縄文)。つや消し	20-9	Post1357
19-11	深鉢	P3	平線・突起。帯状文(つや消し)	20-10	Post1356
19-12	深鉢	P3	平線・突起。波線文	20-14	Post1362
19-13	深鉢	P3	人形帯状文(縄文)。縄文L	20-13	Post1358
19-14	深鉢	P3	帯状文、縄文LR。炭化物付着	20-12	Post1361
19-15	深鉢	P3/埋土	三叉文、帯状文(縄文)。縄文LR	20-16	Post1363
19-16	鉢	P3	平線、突起(柄のみ有り)。三叉文	20-17	Post1359
19-17	浅鉢	P3	雲形文(磨り消し縄文)。縄文LR。内面に段	20-15	Post1355
19-18	深鉢	P3	平線、羽状縄文RL、LR	20-18	Post1360

図版 19 SB1150 建物跡 出土土器



No	品種	類型	遺構/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	残存	加熱処理	変形	付着物	写真掲載	登録
1	円盤状石製品	I a ①	PI/ 掘方	安山岩	54.8	57.1	23.8	116.2	完形	0	磨面あり	0	20-19	S6283

図版 20 SB1150 建物跡 出土石製品

〔方向〕西側柱列でみると北で4°東に偏する。

〔柱穴〕3ヶ所で確認した。長径70～80cm、短径60～70cm、残存する深さ110～130cmの楕円形である。埋土は黒褐色シルトを主体とし、柱痕跡を3ヶ所で確認した。直径約30cmの円形である。

〔出土遺物〕深鉢、鉢、浅鉢、注口土器が出土している。羊歯状文の施された浅鉢、雲形文が施された皿(図版19-5・17)がある。また、円盤状石製品が出土している(図版20)。

#### 【S B 1152 建物跡】

〔位置〕I区北部で確認した(図版18)。検出面はIV層である。

〔重複〕S I 1102、S I 1103 住居跡、S B 1150、S B 1154、S B 1151、S B 1153、S B 1167 建物跡と重複し、直接の切り合いでS I 1102、S I 1103 住居跡より新しく、S B 1150 建物跡より古い。そのほかの遺構との新旧関係は不明である。

〔規模・構造〕桁行2間以上、梁行1間の建物跡である。平面規模は桁行総長5.8m以上、梁行2.5mの建物跡で、桁行の柱間寸法は西側柱列で2.9m等間である。

〔方向〕西側柱列でみると北で5°東に偏する。

〔柱穴〕6ヶ所で確認した。長径50～70cm、短径45～60cm、残存する深さ50～90cmの楕円形である。埋土は黒褐色シルトを主体とし、柱痕跡を6ヶ所で確認した。直径約30cmの円形である。

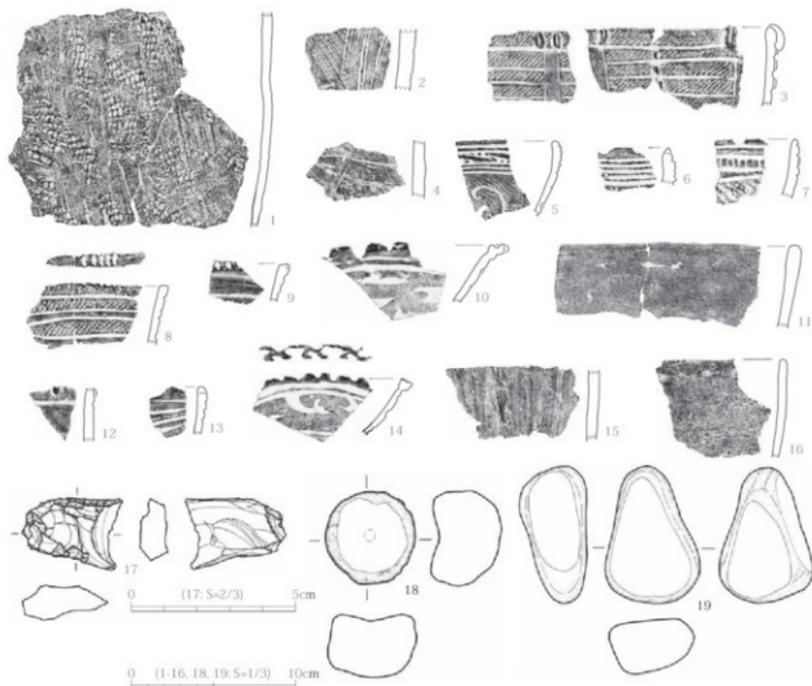
〔出土遺物〕深鉢、鉢、浅鉢、皿が出土している。雲形文が施された皿(図版21-10・14)がある。石器は楔形石器や石皿、磨石が出土している(同図-17～19)。

#### 【S B 1154 建物跡】

〔位置〕I区北部で確認した(図版18)。検出面はIV層である。

〔重複〕S I 1102、S I 1103 住居跡、S B 1150、S B 1152、S B 1151、S B 1153、S B 1167 建物跡と重複し、直接の切り合いでS I 1102、S I 1103 住居跡、S B 1150 建物跡より新しく、そのほかの遺構との新旧関係は不明である。

〔規模・構造〕桁行2間以上、梁行1間の建物跡である。平面規模は桁行総長6.2m以上、梁行3.6mの建物跡で、桁行の柱間寸法は西側柱列で南から2.9m、3.3mである。



No	器種	遺構/層	縄文	特徴	写真図版	登録
21-1	深鉢	P1/柱痕跡	縄文LR		21-1	Post1364
21-2	深鉢	P1/柱痕跡	帯面状条線文		21-2	Post1365
21-3	深鉢	P1/埋土	平縁、平行沈線文、縦位沈線文、草瘤、縄文LR、炭化物付着		21-5	Post1369
21-4	深鉢	P2/柱痕跡	帯面状条線文		21-9	Post1366
21-5	浅鉢	P2/埋土	平縁、手面状文、弧状沈線文、縄文肌		21-10	Post1368
21-6	浅鉢	P2/埋土	平縁・ヘラ刻目、平行沈線文、縄文(原体不明)		21-7	Post1367
21-7	鉢	P2	平縁・ヘラ刻目、平行沈線文、帯面状刻目、縄文肌		21-8	Post1340
21-8	深鉢	P3/埋土	平縁・ヘラ刻目、帯状文(縄文)、縄文LR		21-11	Post1371
21-9	深鉢	P3/埋土	縁・ヘラ刻目、沈線文		21-12	Post1373
21-10	皿	P3/埋土	平縁・手面状浮線文、雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR、内面沈線		21-13	Post1372
21-11	深鉢	P3/埋土	平縁、無文		21-6	Post1370
21-12	深鉢	P3	帯状文(帯面状刻目)、草瘤		21-14	Post1374
21-13	深鉢	P3	平縁・突起が、沈線文、縄文LR		21-15	Post1375
21-14	皿	P4	平縁・手面状浮線文、雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR、内面沈線		21-16	Post1376
21-15	深鉢	P4	帯面状条線文		21-17	Post1377
21-16	深鉢	P4	平縁、無文		21-18	Post1378

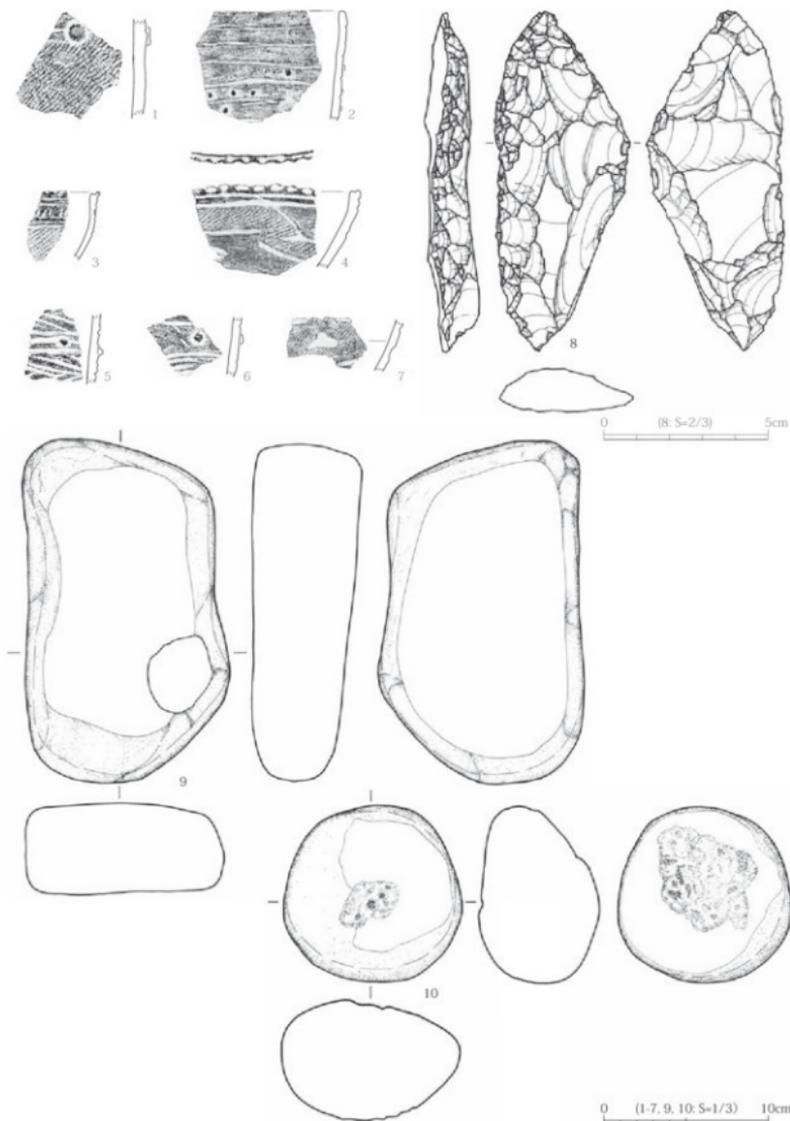
No	器種	加工	遺構/層	石種	径(mm)	幅(mm)	最大径(mm)	重量(g)	両存	加熱処理	変形	付着物	備考	写真図版	登録
21-17	楔形石器	1 d	P3	片岩白岩A	21.8	30.0	10.0	6.0	変形	0	0	0		21-19	S1791
21-18	石皿	-	P6/柱痕跡	濁岩	56.7	54.1	37.2	128.5	変形	0	0	0		21-20	S6288
21-19	磨石	-	P3/埋土	安山岩	83.4	58.0	40.6	232.2	変形	0	0	0		21-21	S6287

図版 21 SB1152 建物跡 出土遺物

[方向] 西側柱列でみると北で6°東に偏する。

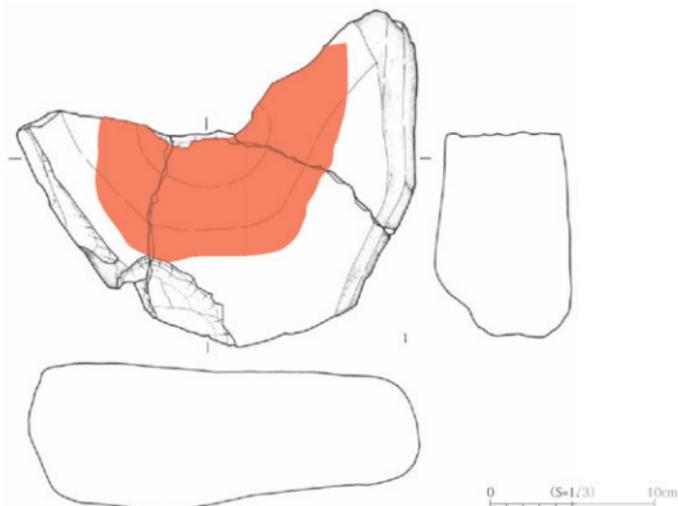
[柱穴] 5ヶ所で確認した。長径50～70cm、短径35～50cm、残存する深さ60～90cmの楕円形である。埋土は黒褐色シルトを主体とし、柱痕跡を4ヶ所で確認した。直径20～40cmの円形である。

[出土遺物] 深鉢、鉢、皿が出土している。雲形文が施された皿(図版22-4)がある。石器はベンガ



No	器種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
22-1	深鉢	P1	沈線文、貼瘤、縹文 LR	21-3	Pot1229
22-2	深鉢	P1	平縁、平行沈線文、貼瘤	21-4	Pot1228
22-3	鉢	P1	平縁+へろ割目+上唇部沈線、平行沈線文、柳葉状割目、縹文 LR	21-22	Pot1385
22-4	皿	柱虫跡	平縁+波状浮線文、空形文(磨り消し縹文)、縹文 LR	21-26	Pot1384
22-5	深鉢	P2	矢羽根状沈線文、帯状文(沈線)、貼瘤	21-23	Pot1387
22-6	深鉢	P2	帯状文(つや消し)、貼瘤	21-25	Pot1388
22-7	不明	P2	空形文(磨り消し縹文)、縹文 LR	21-24	Pot1386

図版 22 SB1154 建物跡 出土遺物



No.	品種	類型	遺構/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	残存	加熱処理	変形	付着物	備考	写真掲載	登録
22-8	不定形石器	皿 a	P5/掘方	珪質頁岩A	41.4	104.6	14.3	59.6	完形	0	0	0		21-28	S1008
22-9	石皿	-	P1/柱痕跡	安山岩	207.8	125.5	66.8	2700.0	完形	0	0	0		21-27	S6291
22-10	磨石	-	P2/掘方	安山岩	112.0	108.5	72.4	1183.0	完形	0	凹行→	黑色付着物		21-30	S6290
23-1	石皿	-	P2/掘取穴	安山岩	126.4	237.5	81.3	4954.0	一部欠	0	0	ペンガラ	S1570(SX1101-5組)と同一個体、素材分析 No.3	21-29	S1532

図版 23 SB1154 建物跡 出土石器

ラの付着した石皿などが出土している(図版 23-1)。

#### 【SB 1151・SB 1153・SB 1167 建物跡】

〔位置〕I区北部で確認した(図版 24)。検出面はIV層である。SB 1151、SB 1153、SB 1167 建物跡は同規模で柱穴をほぼ同じ位置で確認していることから、建て替えとみられる。古い方から順にSB 1167、SB 1153、SB 1151 建物跡である。

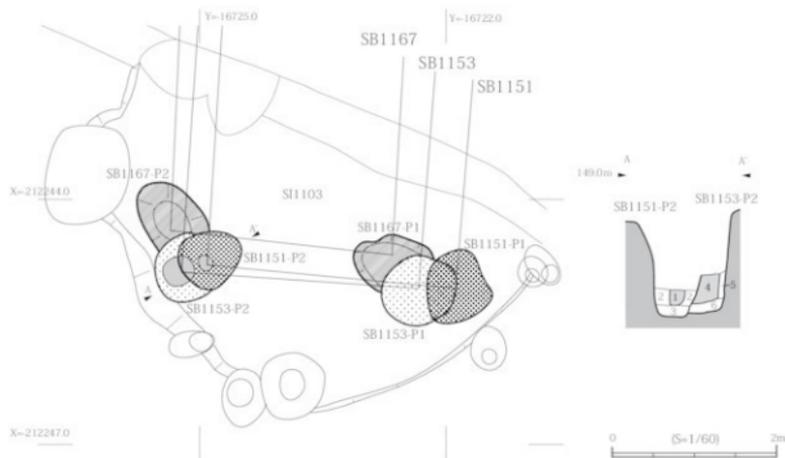
〔重複〕SI 1102、SI 1103 住居跡、SB 1150、SB 1152、SB 1154 建物跡と重複するが、ほかの遺構との新旧関係は不明である。位置的にSI 1103 住居跡の主柱穴である可能性もある。

〔規模・構造〕桁行1間以上、梁行1間の建物跡である。平面規模は桁行2.8m以上、梁行約2.9mの建物跡である。

〔方向〕西側柱列でみると北で2°東に偏する。

〔柱穴〕2ヶ所で確認した。長径80～90cm、短径約70cm、残存する深さ100～130cmの楕円形である。埋土は黒褐色シルトを主体とし、柱痕跡を2ヶ所で確認した。直径20～30cmの円形である。

〔出土遺物〕深鉢、鉢、皿、壺が出土している。SB 1153 建物跡の柱穴から入組三叉文が施された鉢(図版 24-8)や雲形文が施された皿(図同 -4)がある。



遺構名	層序	土色	土性	特徴	分類
S B 1151-P2	1	黒褐色 (10YR3/1)	シルト		柱礎跡
	2	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山小ブロックを含む	柱六埋土
	3	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山小ブロックを多く含む	柱六埋土
S B 1153-P2	4	黒褐色 (10YR3/2)	シルト		柱状取込跡
	5	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト		柱六埋土
	6	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山ブロックを多く含む	柱六埋土



No	種類	遺構/層	特徴	写真図版	登録
1	深鉢	SB1167/P2	注線文、羽状縄文LR,RL	22-1	Pot1289
2	浅鉢	SB1167/P2	平縁、玉筋き三叉文、縄文LR	22-2	Pot1290
3	深鉢小鉢	SB1167/P2	帯状文(短沈線文)、點線	22-3	Pot1292
4	皿	SB1153/P1埋土	雲形文(磨り消し縄文)、縄文RL	22-4	Pot1379
5	壺	SB1153/P1埋土	帯状文(縄文)、貼面(湖路)、縄文RL、LR直前段多葉か	22-5	Pot1380
6	壺	SB1153/P2柱面跡	帯状文(縄文)、貼面、縄文原形不明	22-7	Pot1381
7	深鉢	SB1153/P2柱面跡	帯状文(縄文)、縄文LR	22-8	Pot1382
8	鉢	SB1153/P2埋土	小波状縁、入組三叉文、縄文LR	22-6	Pot1383

図版 24 SB1151、SB1153、SB1167 建物跡 平面図・断面図・出土土器

### 【S B 1157 建物跡】

〔位置〕 I区北東部で確認した(図版25)。検出面はIV層である。

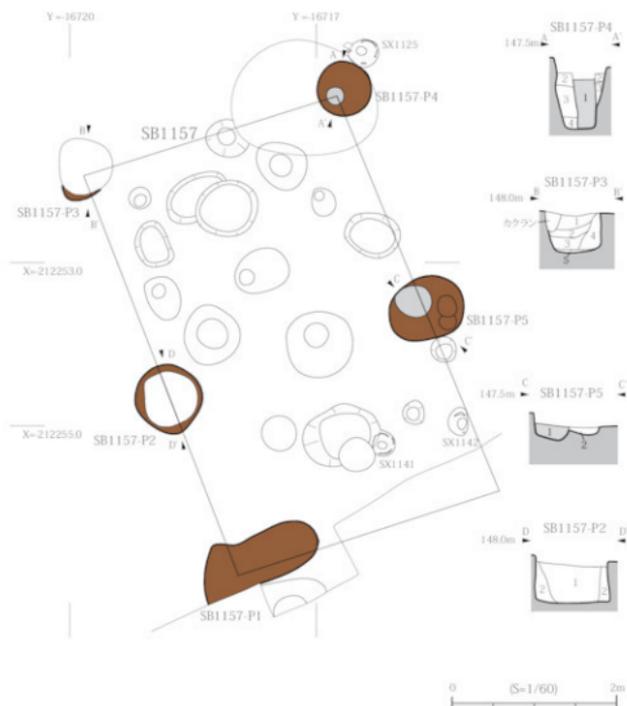
〔重複〕 S I 1104 住居跡、S B 1161 建物跡、S X 1141、S X 1142 土器埋設遺構と位置が重複するが新旧関係は不明である。

〔規模・構造〕 桁行2間以上、梁行1間の建物跡である。平面規模は桁行総長5.2m以上、梁行3.2mの建物跡で、桁行の柱間寸法は西側柱列(P2-P3間)で2.9mである。

〔方向〕 西側柱列でみると北で21°西に偏する。

〔柱穴〕5ヶ所で確認した。長径70～100cm、短径70～80cm、残存する深さ37～85cmの楕円形である。埋土は黒褐色シルトを主体とし、直径20～40cmの円形柱痕跡を2ヶ所、柱抜き取り穴を2カ所で確認した。P3掘方埋土には礫が詰め込まれている(写真図版6)。

〔出土遺物〕深鉢、鉢、壺、楔形石器、尖頭器が出土している。雲形文が施された浅鉢がある(図版26)。



遺構名	順序	土色	土性	特徴	分類
S B 1157-P4	1	黒褐色 (10YR3/1)	シルト		柱痕跡
	2	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト		柱穴埋土
	3	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山小ブロックを多く含む	柱穴埋土
	4	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山ブロックを多く含む	柱穴埋土
S B 1157-P3	1	黒褐色 (10YR3/2)	シルト		柱抜き穴
	2	黒褐色 (10YR2/2)	シルト		柱抜き穴
	3	黒褐色 (10YR3/2)	シルト		柱抜き穴
	4	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト	地山ブロックを多く含む	柱穴埋土
S B 1157-P5	1	黒褐色 (10YR3/2)	シルト		柱穴埋土
	2	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト	地山ブロックを非常に多く含む	柱穴埋土
S B 1157-P2	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山ブロック・地山大ブロックを非常に多く含む	柱抜き穴
	2	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山ブロックを含む	柱穴埋土

図版 25 SB1157 建物跡 平面図・断面図



No	器種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
1	鉢	P1/柱廻跡	平縁・刻み列、筋状文、縄文し、朱付着	22-9	Pot1431
2	深鉢	P1/埋土	帯状文(縄文)、貼瘤、縄文LR断面取り直し	22-10	Pot1428
3	壺	P1/埋土	平縁、沈線文、朱付着	22-11	Pot1429
4	深鉢	P2/埋土	平行沈線文、縄南状刻目	22-15	Pot1433
5	深鉢	P2/埋土	帯状文(縄文)、縄文LR	22-14	Pot1432
6	深鉢	P3/埋土	帯状文(つや消し)、貼瘤	22-16	Pot1434
7	浅鉢	P3/埋土	雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR	22-17	Pot1435
8	不明	P4/柱廻跡	沈線、刺突刻目	22-18	Pot1437
9	深鉢	P4/柱廻跡	平行沈線文、貼瘤、縄文形体不明	22-19	Pot1436
10	深鉢	P4/埋土	LR表面段多条、縄線遺入	22-13	Pot1443
11	深鉢	P4/埋土	人形帯状文(刻目、つや消し)か	22-12	Pot1442
12	鉢	P4/埋土	平縁・山形突起、無文	22-20	Pot1440
13	壺か	P4/埋土	木葉状弧線文、縄文LR	22-22	Pot1439
14	深鉢	P4/埋土	平縁・山形突起、帯状文(縄南状刻目)	22-23	Pot1438
15	深鉢	P4/埋土	帯状文(刺突刻目)、貼瘤	22-21	Pot1441

No	器種	類型	遺構/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	残存	加熱処理	変形	付着物	備考	写真図版	登録
16	尖頭器	I b 2	P1/埋土	碧玉B	29.8	25.4	10.6	4.5	破片	0	0	0		22-25	S1813
17	楕形石器	II ab	P2/埋土	柱貫頁岩A	24.4	23.0	8.8	6.7	完形	0	0	0		22-24	S1014

図版 26 SB1157 建物跡 出土遺物

### 【S B 1158・S B 1166 建物跡】

〔位置〕I区北東部に確認した(図版28)。検出面はIV層である。S B 1158、S B 1166 建物跡は同規模で柱穴をほぼ同じ位置で確認していることから、建て替えと考えられる。S B 1166 建物跡が古く、S B 1158 建物跡が新しい。

〔重複〕S B 1160、S B 1161、S B 1162、S B 1163、S B 1164、S B 1165 建物跡、S X 1124 土器埋設遺構と重複し、直接の切り合いでS B 1161、S B 1162、S B 1163 建物跡より古い。そのほかの遺構との新旧関係は不明である。

〔規模・構造〕桁行1間以上、梁行1間の建物跡である。平面規模は東側柱列(P2-P3)で3.3m、南側柱列(P1-P2)で約3.1mである。

〔方向〕西側柱列のみみると北で20°西に偏する。

〔柱穴〕4ヶ所で確認した。長径80～100cm、短径70～90cm、残存する深さ70～110cmの楕円形である。埋土は黒褐色シルトを主体とし、柱痕跡を4ヶ所で確認した。直径約30～40cmの円

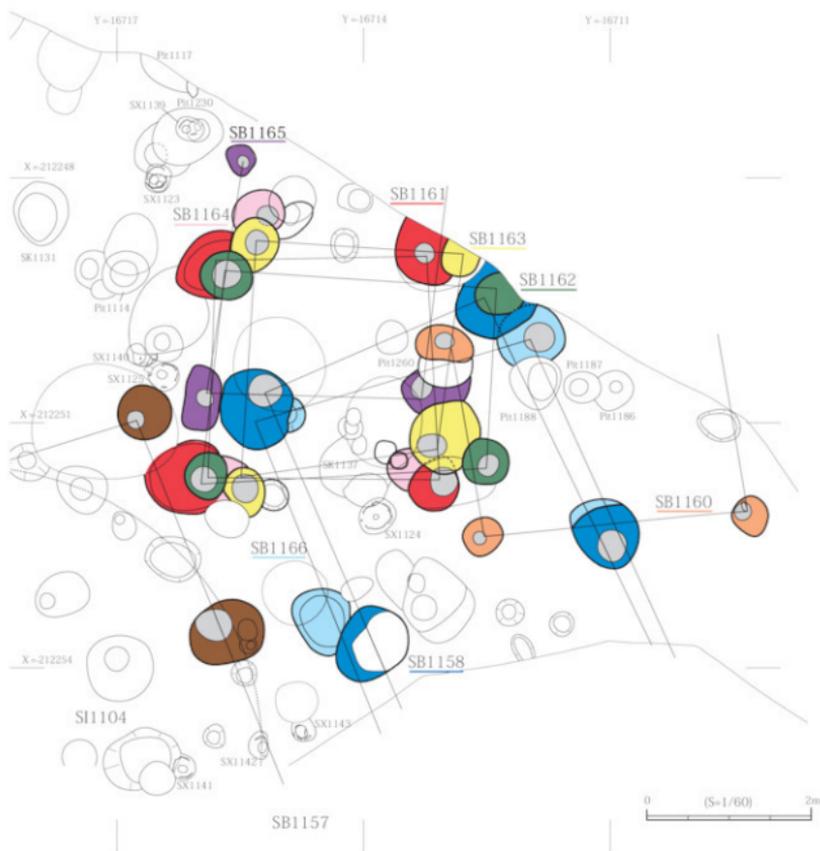
形である。

〔出土遺物〕 深鉢、鉢、浅鉢、皿、石鏃、石錐などの剥片石器、ミニチュア土器などが出土している。雲形文が施された皿 (図版 29・27) や体上部に刻目のある鉢 (同図・23・24) などがある。

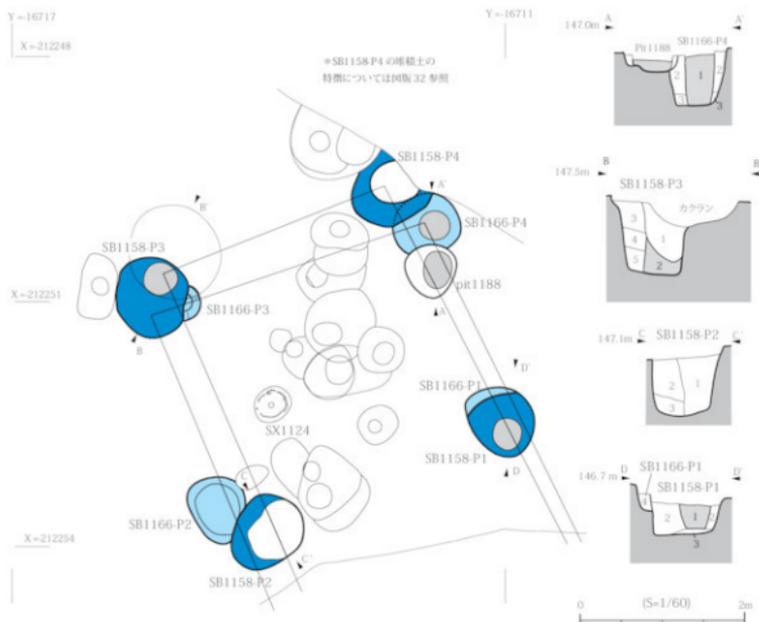
### 【S B 1160 建物跡】

〔位置〕 I 区北東部で確認した (図版 30)。検出面はIV層である。

〔重複〕 S B 1158、S B 1161、S B 1162、S B 1163、S B 1164、S B 1165、S B 1166 建物跡と重複し、Pit1260 を介して S B 1165 建物跡より新しい。そのほかの遺構との新旧関係は不明である。



図版 27 I 区北東部遺構配置



遺構名	順序	土色	土性	特徴	分類
S B 1166-P4	A-A'	1 黒褐色 (10YR3/1)	シルト	地山ブロックを少し含む	柱基礎
		2 暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山小ブロックを多く含む	柱穴埋土
		3 黒褐色 (10YR3/2)	シルト		柱穴埋土
S B 1158-P3	B-B'	1 黒褐色 (10YR3/1)	シルト	地山ブロックを多く含む	柱基礎穴
		2 黒褐色 (10YR3/1)	シルト		柱基礎
		3 黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山ブロック・地山大ブロックを多く含む	柱穴埋土
		4 紅い・黄褐色 (10YR5/4)	シルト	地山を主体とする	柱穴埋土
		5 黒褐色 (10YR3/2)	シルト		柱穴埋土
S B 1158-P2	C-C'	1 暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山小ブロックを多く含む	柱基礎穴
		2 黒褐色 (10YR3/2)	シルト		柱穴埋土
		3 黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山ブロック・地山大ブロックを多く含む	柱穴埋土
S B 1158-P1	D-D'	1 黒褐色 (10YR3/2)	シルト		柱基礎
		2 紅い・黄褐色 (10YR4/3)	シルト	地山ブロックを多く含む	柱穴埋土
		3 黒褐色 (10YR3/1)	シルト		柱穴埋土
S B 1166-P1	4	暗褐色 (10YR3/3)	シルト		柱穴埋土

図版 28 SB1158、SB1166 建物跡 平面図・断面図

〔規模・構造〕桁行1間以上、梁行1間の建物跡である。後述するS B 1160～1165建物跡やⅡ区で検出された建物跡群と規模や柱間が類似しており、桁行1間、梁行1間の建物跡になる可能性もある。平面規模は桁行総長2.4m以上、梁行3.2mである。

〔方向〕西側柱列でみると北で10°西に偏する。

〔柱穴〕3ヶ所で確認した。長径50～70cm、短径40～45cm、残存する深さ45～90cmの楕円形である。埋土は黒褐色シルトを主体とし、柱痕跡を3ヶ所で確認した。直径約20～25cmの円形である。

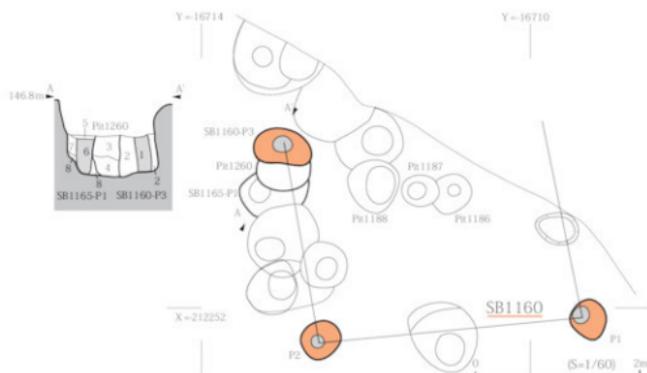


圖版 29 SB1158、SB1166 建物跡 出土遺物

第3表 SB1158、SB1166 出土遺物属性表

No	器種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
29-1	浅鉢	SB1158-P1/柱頭跡	平縁・ヘラ削目、平行沈線文、縄文LR、内面沈線	22-26	Pos1322
29-2	浅鉢	SB1158-P1/柱頭跡	雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR	22-27	Pos1323
29-3	深鉢	SB1158-P1/埋土	平縁・突起(面部埋込み)、帯状文(削突削目)、斜行沈線文、貼瘤(削み有り)	22-28	Pos1453
29-4	深鉢	SB1158-P1/埋土	平縁・ヘラ削目、平行沈線文、補修孔	22-29	Pos1458
29-5	深鉢	SB1158-P1/埋土	人面帯状文、ヘラ削目	22-30	Pos1449
29-6	浅鉢	SB1158-P1/埋土	平縁・ヘラ削目、平行沈線文、縄文LR	22-31	Pos1444
29-7	鉢	SB1158-P1/埋土	小波状縁、平行沈線文、ヘラ削目、縄文LR	22-32	Pos1445
29-8	浅鉢	SB1158-P1/埋土	平縁・瘤帯状削目、平行沈線文、削突	22-38	Pos1451
29-9	鉢	SB1158-P1/埋土	平縁・ヘラ削目、平行沈線文、縄文LR、炭化物付着	22-34	Pos1447
29-10	深鉢	SB1158-P1/埋土	平縁・突起、ヘラ削目	22-35	Pos1452
29-11	鉢	SB1158-P1/埋土	小波状縁、平行沈線文、ヘラ削目、縄文LR	22-36	Pos1450
29-12	深鉢	SB1158-P1/埋土	平縁、平行沈線文、縄文LR	22-33	Pos1446
29-13	鉢	SB1158-P1/埋土	平縁状文	22-37	Pos1454
29-14	鉢	SB1158-P2/柱頭跡	平縁・波状沈線文、平縁状削目文、縄文LR	22-39	Pos1455
29-15	深鉢	SB1158-P2/埋土	帯状文(つや消し)、貼瘤	22-41	Pos1464
29-16	深鉢	SB1158-P2/埋土	帯状文(縄文)、貼瘤、縄文LR	22-42	Pos1466
29-17	不明	SB1158-P2/埋土	平縁、ヘラ削目、沈線文、縄文LR	22-46	Pos1468
29-18	鉢	SB1158-P2/埋土	平縁・ヘラ削目、平縁状文、炭化物付着	22-45	Pos1469
29-19	鉢	SB1158-P2/埋土	平縁・ヘラ削目、平縁状文	22-44	Pos1462
29-20	鉢	SB1158-P2/埋土	小波状縁、平行沈線、ヘラ削目	22-40	Pos1472
29-21	鉢	SB1158-P2/埋土	平縁か、平縁状文、縄文LR	22-43	Pos1470
29-22	鉢	SB1158-P2/埋土	平縁・ヘラ削目、炭状沈線文、平行沈線文、ヘラ削目、縄文LR、炭化物付着	22-48	Pos1460
29-23	鉢	SB1158-P2/埋土	口径11.2cm、口縁端部平縁・ヘラ削目、平行沈線文、瘤帯状削目(三個一対のヘラ削目8単位、羽状縄文LR、底部との間に横線、口縁部内面沈線、内面ナデ)	22-50	Pos1473
29-24	鉢	SB1158-P2/埋土	平縁・ヘラ削目、器高9.2cm、底径4.4cm、平縁・削み、連続炭状沈線文、平行沈線文、ヘラ削目、羽状縄文LR、底部部分に横線、ミガキによる無文帯、底部からいけ付け、内面ミガキ、補修孔	22-51	Pos1476
29-25	深鉢	SB1158-P2/埋土	平縁、無文	22-49	Pos1461
29-26	鉢	SB1158-P2/埋土	平縁、無文	22-47	Pos1465
29-27	皿	SB1158-P2、B1103/皿 B1104/IV、B1104/IV、 BD105/IV	口径41.5cm、器高9.0cm、底径27.4cm、平縁・平縁状沈線文、雲形文(磨り消し縄文)フック形彫文4単位、炭状充填文、縄文LR、口縁部内面盛りたまり、底部との境に反、底面・内面調整不明、補修孔	22-52	Pos1474
29-28	鉢	SB1158-P2	平縁・ヘラ削目、平行沈線文、縄文LR	22-53	Pos1475
29-32	深鉢	SB1158-P3/埋土	平縁・突起(面部埋込み)、帯状文(縄文)、貼瘤、縄文LR	22-56	Pos1477
29-33	浅鉢	SB1158-P3/埋土	平縁、ヘラ削目、雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR	22-67	Pos1476
29-34	浅鉢	SB1158-P3/埋土	平縁・ヘラ削目、平行沈線文、縄文LR	22-57	Pos1478
29-29	不明	SB1158-P3/埋土	帯状文(削突削目)、短沈線文、貼瘤	22-58	Pos1479
29-30	深鉢	SB1158-P3/埋土	平縁・突起か、帯状文(削突削目)	22-54	Pos1480
29-31	深鉢	SB1158-P3/埋土	平縁か、平行沈線文、貼瘤	22-55	Pos1481
29-35	深鉢	SB1166-P4	平縁・突起、帯状文(削突削目)	22-60	Pos1550
29-36	片腹	SB1158-P3	器大径38cm、器縁片立ち非=研磨、格子状沈線文	22-60	Pos103
29-37	ミニチュア	SB1158-P1/埋土	鉢形の手づくね土器、口径2.2cm、器高1.6cm、無文	22-59	Pos152

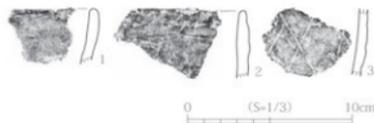
No	器種	地層	遺構/層	石種	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	形状	加熱処理	変形	付着物	備考	写真図版	登録
29-38	石皿	Ⅱc	P1/埋土	珉玉系	21.3	15.1	3.7	0.8	完形	2	0	0		22-61	S1015
29-39	石皿	Ⅱc	P4/埋土	珉質白岩A	23.7	8.1	5.2	1.1	完形	1	0	0		22-62	S1020
29-40	石皿	Ⅱb	P2	珉質白岩A	33.1	19.9	7.4	4.4	先端欠	2	右欠→	0		22-64	S1016
29-41	石皿	Ⅱa	P4	珉質白岩A	39.6	12.2	8.6	3.4	完形	0	0	0	先端磨滅	22-65	S1019
29-42	不定形石器	Ⅱa	P2/柱頭跡	珉質白岩A	25.5	19.6	8.5	4.0	完形	1	0	0		22-66	S1017



遺構名	層序	土色	土性	特徴	分類
S B 1160-P3	1	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	下層に地山をわずかに含む	柱穴跡
	2	暗褐色 (10YR3/4)	シルト	地山土を少し含む、地山大ブロックをわずかに含む	柱穴跡
P1260	3	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	西部側に地山ブロックを含む、炭化物粒をわずかに含む	柱穴跡
	4	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山土をわずかに含む	柱穴跡
	5	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山土を少し含む	柱穴跡
S B 1165-P1	6	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山土を少し含む、地山大ブロックをわずかに含む	柱穴跡
	7	暗褐色 (10YR3/4)	シルト	地山土を含む、炭化物粒をわずかに含む	柱穴跡
	8	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山土を含む	柱穴跡

図版30 SB1160 建物跡 平面図・断面図

〔出土遺物〕 縄文土器片が出土している (図版 31)。



【 S B 1161・ S B 1162・ S B 1163・ S B 1164・ S B 1165 建物跡】

〔位置〕 I 区北東部で確認した (図版 27、32)。

検出面はIV b層上面である。S B 1161、S B

図版 31 SB1160 建物跡 出土土器

1162、S B 1163、S B 1164、S B 1165 建物跡は同規模でほぼ同じ位置で柱穴を確認していることから、同じ建物の建て替えであるとみられる。また、建物の規模や柱穴の大きさや建て替えの多さなど後述するII区で検出された建物跡群と類似しており、桁行1間、梁行南北1間の建物跡になると推定される。S B 1164 建物跡またはS B 1165 建物跡が最も古く、S B 1162 建物跡が最も新しい。S B 1157、S B 1158、S B 1160、S B 1166 建物跡と位置的に重複し、直接の切り合いでS B 1162 建物跡はS B 1166 建物跡より新しい。またS B 1165 建物跡はPot1260を介してS B 1160 建物跡より古い。そのほかの遺構との新旧関係は不明である。以下、古い順に説明する。

No	品類	遺構/層	特徴	写真図版	登録
1	深鉢	P3/埋土	平縁、無文	23-1	Pot1495
2	深鉢	P3/埋土	平縁、無文	23-2	Pot1496
3	深鉢	P3/埋土	格子状沈線文	23-3	Pot1497

#### < S B 1164 建物跡 >

〔重複〕 S B 1161、S B 1163 建物跡より古い。

〔規模・構造〕 平面規模は西側柱列 (P2-P3) で約 3.3m、南側柱列 (P1-P2) で約 2.3m である。

〔方向〕 西側柱列でみると北で 5° 東に偏する。

〔柱穴〕 3ヶ所で確認した。長径約 60cm、短径約 60 ~ 80cm、残存する深さ 50 ~ 80cm の楕円形である。埋土は黒褐色シルトを主体とし、柱痕跡を 1ヶ所で確認した。直径約 27cm の円形である。

〔出土遺物〕 柱穴から羊歯状文が施された鉢や石鏝、叢石が出土している (図版 35)。

#### < S B 1161 建物跡 >

〔重複〕 S B 1164 建物跡より新しく、S B 1162、S B 1163 建物跡より古い。

〔規模・構造〕 平面規模は東側柱列 (P1-P4) で 2.8m、南側柱列 (P1-P2) で約 3.0m である。

〔方向〕 東側柱列でみると北で 3° 西に偏する。

〔柱穴〕 4ヶ所で確認した。長径 70 ~ 90cm、短径 40 ~ 45cm、残存する深さ 60 ~ 90cm の楕円形である。埋土は黒褐色シルトを主体とし、柱痕跡を 2ヶ所で確認した。直径約 25cm の円形である。

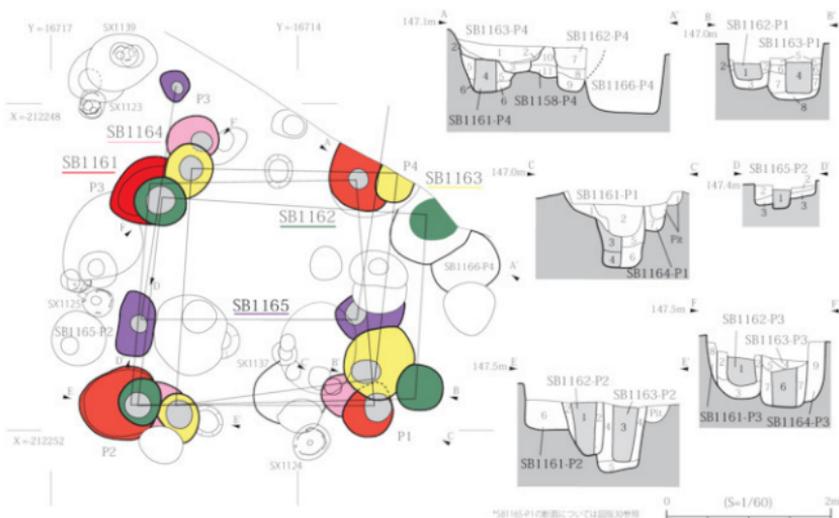
〔出土遺物〕 深鉢、鉢、浅鉢、皿、注口土器、石鏝 (図版 33-15・16)、石篋、ヒスイ製小玉 (同図 -18・19) などが出土している。三叉文とメガネ状浮文で動物を表現した土器 (同図 -3) がある。

#### < S B 1165 建物跡 >

〔重複〕 S B 1163 建物跡より古い。

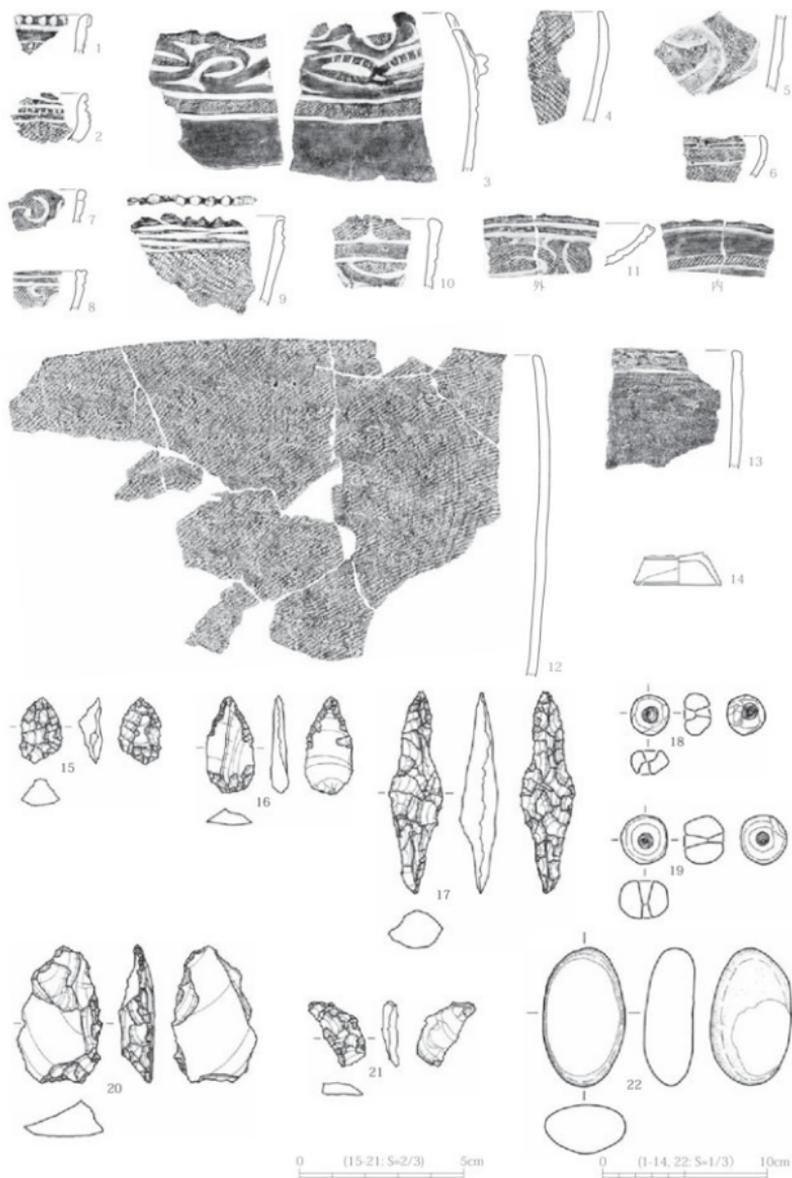
〔規模・構造〕 平面規模は西側柱列 (P2-P3) で 3.0m、南側柱列 (P1-P2) で約 2.7m である。

〔方向〕 西側柱列でみると北で 8° 東に偏する。

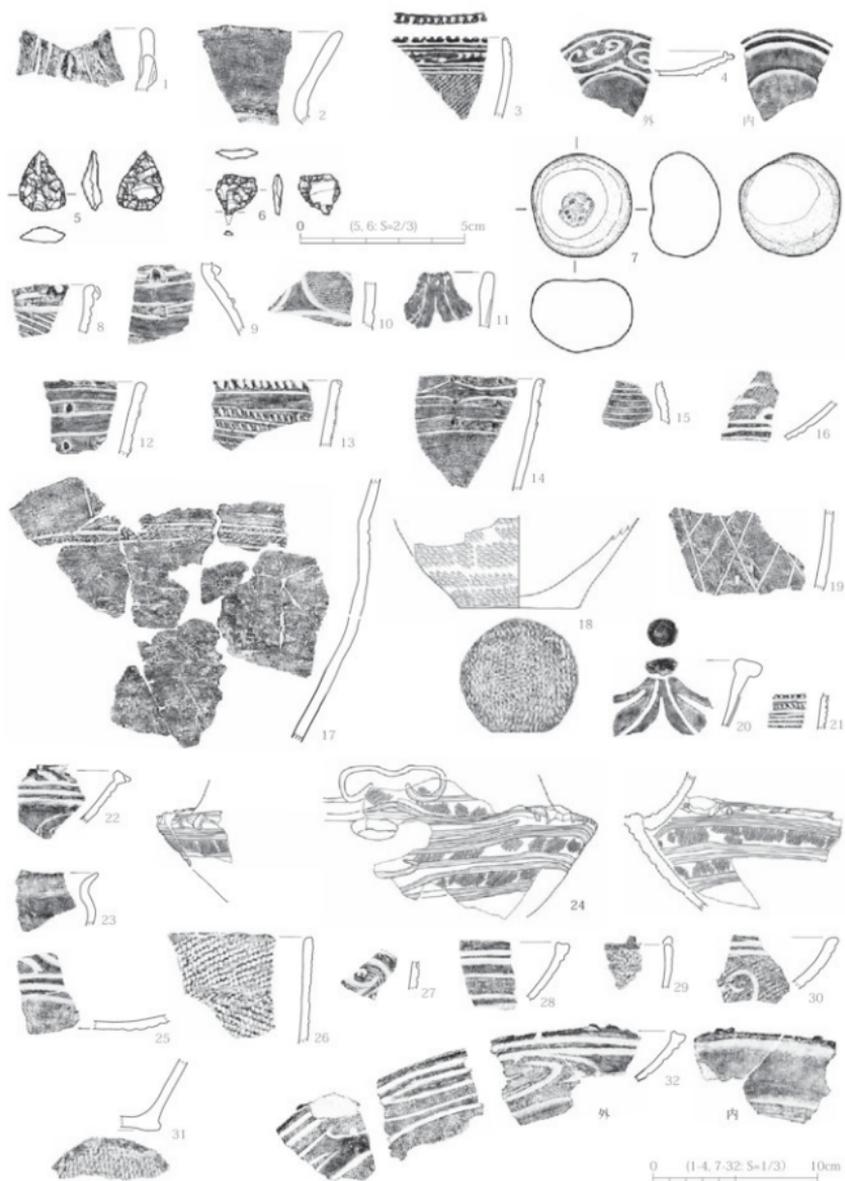


遺構名	層序	土色	土性	特徴	分類
S B 1163-P4	1	褐色 (10YR4/1)	シルト	地山小ブロック少し含む	柱状取穴
	2	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	地山ブロック少し含む	柱状取穴
	3	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山ブロック少し含む	柱状取穴
	4	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山ブロックを多く含む	柱状取穴
S B 1161-P4	5	灰黄褐色 (10YR5/2)	シルト	地山ブロックを多く含む	柱状取穴
	6	黒褐色 (10YR3/2)	シルト		柱状取穴
S B 1162-P4	7	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト		柱状取穴
	8	黒褐色 (10YR3/2)	シルト		柱状取穴
	9	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山小ブロックを多く含む	柱状取穴
S B 1158-P4	10	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト		柱状取穴
	11	褐色 (10YR4/4)	シルト		柱状取穴
S B 1161-P1	1	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山粒を少し含む。炭化物粒をわずかに含む	柱状取穴
	2	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト	地山ブロックを多く含む	柱状取穴
	3	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山粒を少し含む。炭化物粒をわずかに含む	柱状取穴
	4	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山粒を少し含む	柱状取穴
	5	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山ブロックを少し含む。炭化物粒をわずかに含む	柱状取穴
	6	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山ブロックを多く含む	柱状取穴
S B 1164-P1	7	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山ブロックを少し含む	柱状取穴
	8	暗褐色 (10YR3/3)	シルト		埋土
S B 1162-P1	1	暗褐色 (10YR3/3)	シルト		柱状取穴
	2	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト		柱状取穴
	3	褐色 (10YR4/4)	シルト	地山小ブロックを多く含む	柱状取穴
	4	黒褐色 (10YR2/2)	シルト		柱状取穴
S B 1163-P1	5	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山小ブロックを多く含む	柱状取穴
	6	黒褐色 (10YR3/2)	シルト		柱状取穴
	7	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山小ブロックを多く含む	柱状取穴
	8	黄褐色 (10YR5/6)	シルト		柱状取穴
	9	黄褐色 (10YR5/6)	シルト		柱状取穴
	S B 1162-P2	1	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	
2		黒褐色 (10YR3/1)	シルト	地山小ブロックを多く含む	柱状取穴
3		暗褐色 (10YR3/3)	シルト		柱状取穴
S B 1163-P2	4	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山小ブロックを少し含む	柱状取穴
	5	褐色 (10YR4/1)	シルト	地山小ブロックを多く含む	柱状取穴
S B 1161-P2	6	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山小ブロックを少し含む	埋土
	7	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山粒を含む。炭化物粒をわずかに含む	柱状取穴
S B 1165-P2	1	黒褐色 (10YR4/4)	シルト	地山粒を含む	柱状取穴
	2	褐色 (10YR4/4)	シルト	地山を主体とする。黒褐色シルトをわずかに含む	柱状取穴
S B 1162-P3	3	黒褐色 (10YR2/2)	シルト		柱状取穴
	4	黒褐色 (10YR3/2)	シルト		柱状取穴
	5	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山ブロックを多く含む	柱状取穴
S B 1163-P3	6	黒褐色 (10YR3/2)	シルト		柱状取穴
	7	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト		柱状取穴
	8	黒褐色 (10YR2/2)	シルト		柱状取穴
	9	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山ブロックを多く含む	柱状取穴
S B 1161-P3	10	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト	地山ブロックを多く含む	柱状取穴
	11	黄褐色 (10YR3/2)	シルト	地山小ブロックを少し含む	柱状取穴

図版 32 SB1161～SB1165 建物跡 平面図・断面図



图版 33 SB1161 建物跡 出土遺物



図版 34 SB1162、SB1163 建物跡 出土遺物

第4表 SB1161、SB1162、SB1163 建物跡 出土遺物属性表

No	器種	遺構/層	特徴	写真収取	登録
33-1	深鉢	SB1161-P1	平縁、ヘラ削目、平行沈線文	23-4	Pat1509
33-2	深鉢	SB1161-P1	小波状縁か、弧状沈線、ヘラ削目、縄文LR、炭化物付着	23-5	Pat1510
33-3	注口or甕	SB1161-P1	小波状縁、動物彫刻(メダナ状浮文、ヘラ削目、縄文、粘塵、平円文、三叉文)、入組三叉文、縄文LR、朱付	23-6	Pat1503
33-4	深鉢	SB1161-P1	直状縄文LR、RL	23-15	Pat1505
33-5	不明	SB1161-P1	滑き文(磨り消し縄文)、縄文LR、朱付着または漆塗りか	23-7	Pat1508
33-6	鉢or甕	SB1161-P1	平縁、平行沈線、一部一対の粘土粘塵付か、縄文LR	23-8	Pat1506
33-7	鉢	SB1161-P3/埋土	波状縁、玉巻き弧状文、縄文LR	23-9	Pat1513
33-8	浅鉢	SB1161-P3/柱頭跡	平縁+1層部沈線、雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR、内面沈線	23-10	Pat1511
33-9	鉢	SB1161-P3/埋土	平縁+ヘラ削目、平行沈線文、縄文RL	23-11	Pat1512
33-10	深鉢	SB1161-P4/埋土	平縁+突起(底部中央)、三叉文、弧状沈線文、縄文LR	23-12	Pat1174
33-11	皿	SB1161-P4/埋土	小波状縁、1層部知状縄文、雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR、内面沈線、帯状隆帯	23-13	Pat1173
33-12	深鉢	SB1161-P4/埋土	平縁、縄文LR	23-14	Pat1171
33-13	深鉢	SB1161-P4/埋土	平縁、帯状文(つや消し)、沈線文、炭化物付着	23-16	Pat1172
33-14	台座	SB1161-P4	台座径5.6cm、横線1条、内外面ミガキ	23-17	Pat1176
34-1	深鉢	SB1162-P1/埋土	頂部分窪む波状縁か、粘塵(削み有り)、弧状平行沈線	23-27	Pat1522
34-2	鉢か	SB1162-P2/柱頭跡	平縁、平行沈線	23-28	Pat1506
34-3	鉢	SB1162-P3	平縁+ヘラ削目、平縁雲文、縄文LR、炭化物付着	23-29	Pat1528
34-4	皿	SB1162-P2/柱頭跡	平縁+1層部沈線、雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR、内面沈線、内面底部付近に段	23-30	Pat1527
34-8	鉢	SB1163-P1/埋土	平縁、平行沈線、斜行沈線文、粘塵(削み有り)	23-35	Pat1328
34-9	甕	SB1163-P1/埋土	帯状文(つや消し)、短沈線、粘塵	23-36	Pat1325
34-10	壺か	SB1163-P1/埋土	弧状文、縄文LR	23-37	Pat1327
34-11	深鉢	SB1163-P1/埋土	波状縁、三叉文か	23-38	Pat1326
34-12	深鉢	SB1163-P1	平縁、帯状文(つや消し)、粘塵	23-39	Pat1333
34-13	深鉢	SB1163-P1	平縁+ヘラ削目、帯状文(削突削目)	23-43	Pat1532
34-14	深鉢か	SB1163-P1	平縁、帯状文(縄文)、粘塵、縄文LR	23-40	Pat1531
34-15	壺	SB1163-P1	平行沈線文	23-44	Pat1208
34-16	皿	SB1163-P1	雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR、底部内面付近に沈線	23-41	Pat1535
34-17	深鉢	SB1163-P1	帯状文(縄文)、縄文LR	23-45	Pat1530
34-18	深鉢	SB1163-P1	底部副代直	23-42	Pat1209
34-19	深鉢	SB1163-P3/埋土	格子状沈線文	23-46	Pat1536
34-20	深鉢	SB1163-P3/埋土	突起(底部部分突起帯)、三叉文、縄文、炭化物付着	23-47	Pat1537
34-21	不明	SB1163-P3/埋土	削突削目、平行沈線文	24-1	Pat1540
34-22	浅鉢	SB1163-P3/埋土	平縁+平縁沈線文、雲形文(磨り消し縄文)、縄文彫体不明	24-2	Pat1539
34-23	壺	SB1163-P3/埋土	無文	24-3	Pat1538
34-24	注口	SB1163-P3/埋土、埋105/IV、BG105/IV	鉢巻状雲形文(磨り消し縄文)、体筋部に連続弧状沈線文、縄文主体上、体下LR	24-7	Pat036
34-25	皿	SB1163-P4	雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR	24-4	Pat1546
34-26	深鉢	SB1163-P4	平縁、羽状縄文LR、RL	24-9	Pat1547
34-27	深鉢	SB1163-P4	入組帯状文か、縄文彫体不明	24-8	Pat1548
34-28	皿	SB1163-P4	平縁、雲形文(磨り消し縄文)か、縄文LR、1層部内面寄りだし	24-10	Pat1543
34-29	深鉢	SB1163-P4	平縁+突起、縄文LR	24-12	Pat1544
34-30	浅鉢	SB1163-P4	雲形文か、縄文LL	24-5	Pat1542
34-31	深鉢	SB1163-P4	底部副代直	24-6	Pat1545
34-32	皿	SB1163-P4、埋105/IV/Ⅱ/Ⅰ	平縁+二個一対の小突起+1層部沈線、雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR、1層部内面寄りだし、底部内面付近に縄文隆帯	24-11	Pat1541

No	器種	型別	遺構/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	残存	加熱処理	変形	付着物	備考	写真収取	登録
33-15	石鏝	I c ①	SB1161-P4	珉質凝灰岩A	20.0	12.9	6.9	1.3	完形	2	0	0		23-18	S1082
33-16	石鏝	I c ②	SB1161-P4	珉質凝灰岩A	29.1	14.1	4.5	1.9	完形	0	0	0		23-19	S1081
33-17	尖頭鏝	I b ③	SB1161-P4/埋土	珉質凝灰岩A	62.3	16.7	11.6	7.1	完形	0	0	0		23-20	S1080
33-18	小玉	-	SB1161-P4/埋土	ヒスイ	11.9	11.1	7.6	1.7	完形	-	0	0		23-23	S6458
33-19	小玉	-	SB1161-P4/埋土	ヒスイ	14.5	13.7	11.6	4.2	完形	-	0	0		23-24	S6457
33-20	石鏝	I b	SB1161-P4	珉質凝灰岩A	42.0	23.9	10.5	9.2	完形	0	0	0		23-25	S1831
33-21	不定形石器	Ⅱ c	SB1161-P4/埋土	珉質凝灰岩A	19.3	17.6	3.8	1.1	完形	0	0	0		23-22	S1817
33-22	磨石	-	SB1161-P4	安山岩	83.6	48.9	31.3	185.5	完形	-	0	0		23-26	S6312
34-5	石鏝	Ⅱ	SB1162-P1	碧玉A	17.8	13.7	5.2	1.1	完形	2	0	0		23-32	S1022
34-6	石鏝	Ⅱ a ②	SB1162-P1	碧玉A	12.6	11.7	2.4	0.4	先端欠	0	0	0		23-31	S1808
34-7	磨石	-	SB1162-P1/埋土	安山岩	63.1	63.1	43.2	246.0	完形	-	0	0		23-34	S6299

(柱穴)3ヶ所で確認した。長径40～80cm、短径35～65cm、残存する深さ35～80cmの円形である。

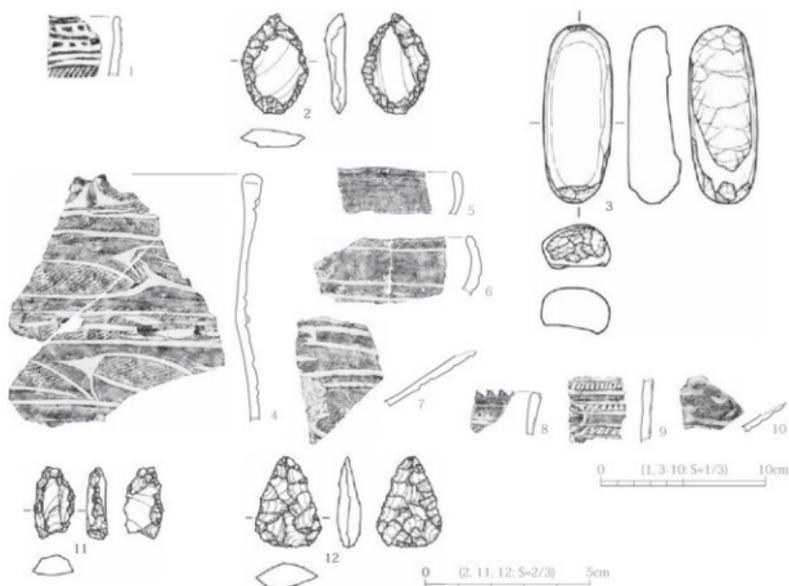
埋土は黒褐色シルトを主体とし、柱痕跡を3ヶ所で確認した。直径約15～20cmの円形である。

(出土遺物) 深鉢、浅鉢、皿、石鏝、敲石が出土している(図版35)。雲形文が施された土器がある。

#### 〈SB1163 建物跡〉

(重複) SB1161、SB1164、SB1165 建物跡より新しく、SB1162 建物跡より古い。

(規模・構造) 平面規模は西側柱列(P2-P3)で3.0m、南側柱列(P1-P2)で約2.4mである。



No.	器種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
1	鉢	SB1164-P2	平縁・突起か、平歯状文、縄文LR	24-13	Pot1549
4	深鉢	SB1165-P2	平縁・突起(面部初出)、三文文、櫛目文、メダナ状浮文、縄文LR	24-17	Pot1184
5	皿 or 浅鉢	SB1165-P2	平縁、無文	24-19	Pot1182
6	浅鉢	SB1165-P2	平縁、帯状文(縄文)、縄文LR	24-18	Pot1183
7	浅鉢	SB1165-P2	帯形文(磨り消し縄文)、縄文LR	24-16	Pot1181
8	深鉢	SB1165-P3	平縁・ヘラ類I、平行波線文、刺突列、縄文態体不明	24-20	Pot1196
9	深鉢	SB1165-P3	帯状文(刺突初出)	24-22	Pot1197
10	皿	SB1165-P3	帯形文(磨り消し縄文)、縄文LR	24-21	Pot1195

No.	器種	数量	遺構/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	残存	加熱処理	塗彩	付着物	備考	写真図版	登録
2	石籠	1 c.t.	SB1164-P3	珪質頁岩A	30.5	20.4	6.0	3.9	完形	1	0	0		24-14	S1024
3	石籠	-	SB1164-P3	流紋岩	109.1	41.2	28.9	168.1	一部欠	0	磨石→	0		24-15	S6302
11	石籠	V	SB1165-P2	珪質頁岩A	22.1	12.0	5.8	1.9	完形	0	0	0		24-23	S1824
12	石籠	Ⅲ b	SB1165-P3	珪質頁岩A	27.2	19.1	6.9	2.9	完形	0	先端再加工	0		24-24	S1092

図版 35 SB1164、SB1165 建物跡 出土遺物

〔方向〕西側柱列でみると北で3°東に偏する。

〔柱穴〕4ヶ所で確認した。長径60～90cm、短径45～80cm、残存する深さ70～110cmの円形である。埋土は黒褐色シルトを主体とし、柱痕跡を3ヶ所で確認した。直径約30cmの円形である。

〔出土遺物〕鉢巻状雲形文の施された注口土器(図版34-24)や雲形文のある皿などが出土している。

#### 〈S B 1162 建物跡〉

〔重複〕S B 1161、S B 1163、S B 1164 建物跡より新しい。

〔規模・構造〕平面規模は西側柱列(P2-P3)で2.4m、南側柱列(P1-P2)で約3.4mである。

〔方向〕東側柱列でみると北で4°東に偏する。

〔柱穴〕4ヶ所で確認した。直径約60cm、残存する深さ60～90cmの円形である。埋土は黒褐色シルトを主体とし、柱痕跡を3ヶ所で確認した。直径30～35cmの円形である。

〔出土遺物〕深鉢、皿が出土している(図版34)。雲形文が施された小皿がある(4)。

### C. 土器埋設遺構

I区北部で土器埋設遺構を10基確認した。焼面は伴わず、土器埋設遺構同士で重複は認められない。

#### 【SX1121 土器埋設遺構】

〔位置〕I区中央で確認した(図版36)。検出面はIVb層である。

〔重複〕主な遺構との重複はない。東側は後世の攪乱で壊されている。

〔規模・構造〕直径約30cm、残存する深さ約25cmの円形である。

〔壁・底面〕底面はほぼ平坦で、壁が急に立ち上がる。断面形は逆台形である。

〔堆積土〕2層確認した。地山ブロックを含む黒褐色シルトで人為的埋土である。

〔土器の出土状況〕正位の状態では掘えられており、底部は掘え方底面から5cmほど浮いている。

〔埋設土器〕深鉢の底部から口縁部で、口縁部は約1/4残存している。また、埋土中から列点文が施された鉢の破片と石鏃、石匙が出土している(図版37)。

#### 【SX1122 土器埋設遺構】

〔位置〕I区中央で確認した(図版36)。検出面はIVb層である。

〔重複〕主な遺構との重複はない。

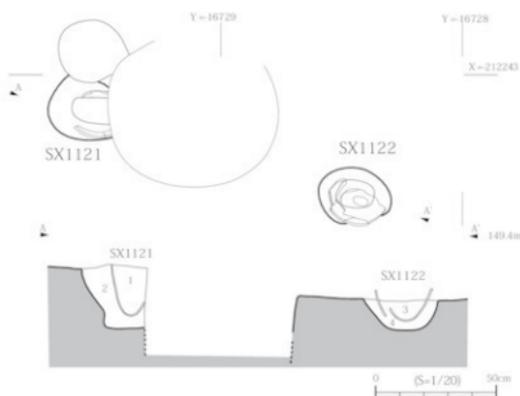
〔規模・構造〕長径32cm、短径25cm、残存する深さ約12cmの楕円形で埋設土器より一回り大きい。

〔壁・底面〕底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。断面形はU字形である。

〔堆積土〕1層確認した。地山小ブロックを含む黒褐色シルトで人為的埋土である。

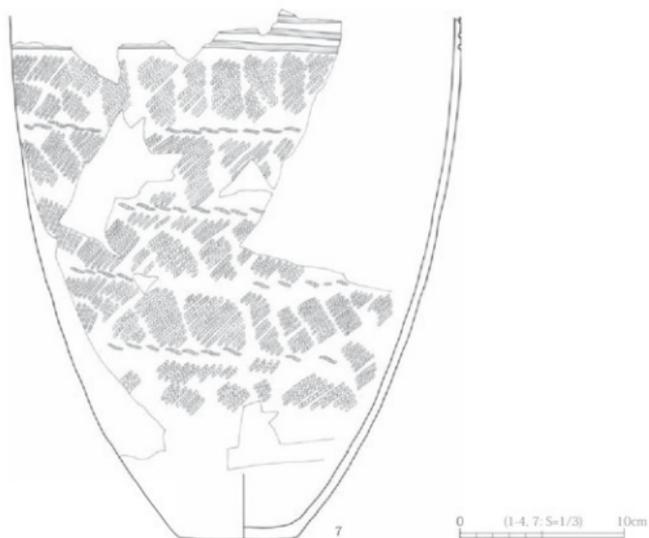
〔土器の出土状況〕正位の状態では掘えられており、底部は掘え方底面から5cmほど浮いている。

〔埋設土器〕深鉢の底部から体部上半である。口縁部は残存していないが、



遺構名	層序	土色	土性	特徴	分類
SX1121	1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	地山小ブロックを含む、炭化物粒をわずかに含む	埋土
	2	黒褐色(10YR2/3)	シルト	地山ブロックを含む	埋土
SX1122	3	黒褐色(10YR3/2)	シルト		
	4	黒褐色(10YR3/2)	シルト	地山小ブロックを含む	埋土

図版36 SX1121、SX1122 土器埋設遺構 平面図・断面図



No	器種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
1	深鉢	SX1121/埋積土	平行沈線文、彫痕		Por1883
2	鉢	SX1121/埋積土	平縁、へら刻目、平行沈線文、へら刻目、縄文LR、炭化物付着	24-26	Por1880
3	深鉢 or 鉢	SX1121/埋積土	体部下半ミガキ、底部削代痕	24-27	Por1881
4	深鉢	SX1121 埋設土器	L径22.5cm、器高26.9cm、底径6.7cm、L縁端部平縁、縄文LR、底面ミガキ、内面かゝいミガキ、炭化物付着、抽検孔、底部穿孔	24-30	Por1882
7	深鉢	SX1122埋設土器、BC107/Ⅲ	底径7.4cm、平行沈線文、縄文LR 左端部強調、底部付道ミガキ、底面削代痕→ミガキ、内面かゝいミガキ、炭化物付着	24-31	Por1884

No	器種	類型	遺構/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	残存	加熱処理	変形	付着物	備考	写真図版	登録
5	石皿	1 b ①	埋土	碧玉A	27.9	14.2	6.7	1.9	先端欠	2	0	0		24-28	S1057
6	石皿	1 b	埋土	耳貫貞岩黒	46.4	25.3	6.2	7.9	完形	0	0	0		24-29	S1077

図版37 SX1121、SX1122 土器埋設遺構 出土遺物

体上部に平行沈線文があり、器形から判断すると口縁部付近まで残存しているものと考えられる(図版37)。

#### 【S X 1123 土器埋設遺構】

〔位置〕 I区北東で確認した(図版38)。検出面はIV層である。

〔重複〕 Pit1251と重複し、これより新しい。

〔規模・構造〕 直径約30cm、残存する深さ約39cmの円形で埋設土器より一回り大きい。

〔壁・底面〕 底面はほぼ平坦で、壁が急に立ち上がる。断面形は漏斗状である。

〔堆積土〕 2層確認した。地山小ブロックを少し含む黒褐色シルトで人為的埋土である。

〔土器の出土状況〕 正位の状態では掘えられており、北側にわずかに傾く。底部は掘え方底面から12cmほど上の位置にある。

〔埋設土器〕 鎖状文とボタン状の貼瘤が施された深鉢でほぼ完形である(図版38-3)。土器内には焼土粒と炭化物を含む黒褐色シルトが堆積している。

#### 【S X 1139 土器埋設遺構】

〔位置〕 I区北東で確認した(図版38)。検出面はIV層である。

〔重複〕 Pit1230と重複し、これより新しい。

〔規模・構造〕 長径約35cm、短径約30cm、残存する深さ約27cmの円形で埋設土器より一回り大きい。

〔壁・底面〕 底面はほぼ平坦で、壁が底面から急に立ち上がる。断面形はすり鉢形である。

〔堆積土〕 1層確認した。炭化物、焼土ブロックをわずかに含む黒褐色シルトで人為的埋土である。

〔土器の出土状況〕 正位の状態では掘えられている。底部は掘え方底面から5cmほど上の位置にある。

〔埋設土器〕 深鉢の底部から体部が残存しており、底部は穿孔されている。土器内には地山小ブロックと骨片らしきものをわずかに含む黒褐色シルトが堆積している。このほか注口土器と無文の深鉢が出土している(図版38、39)。

#### 【S X 1124 土器埋設遺構】

〔位置〕 I区北東で確認した(図版40)。検出面はIV b層である。

〔重複関係〕 主な遺構との重複はない。

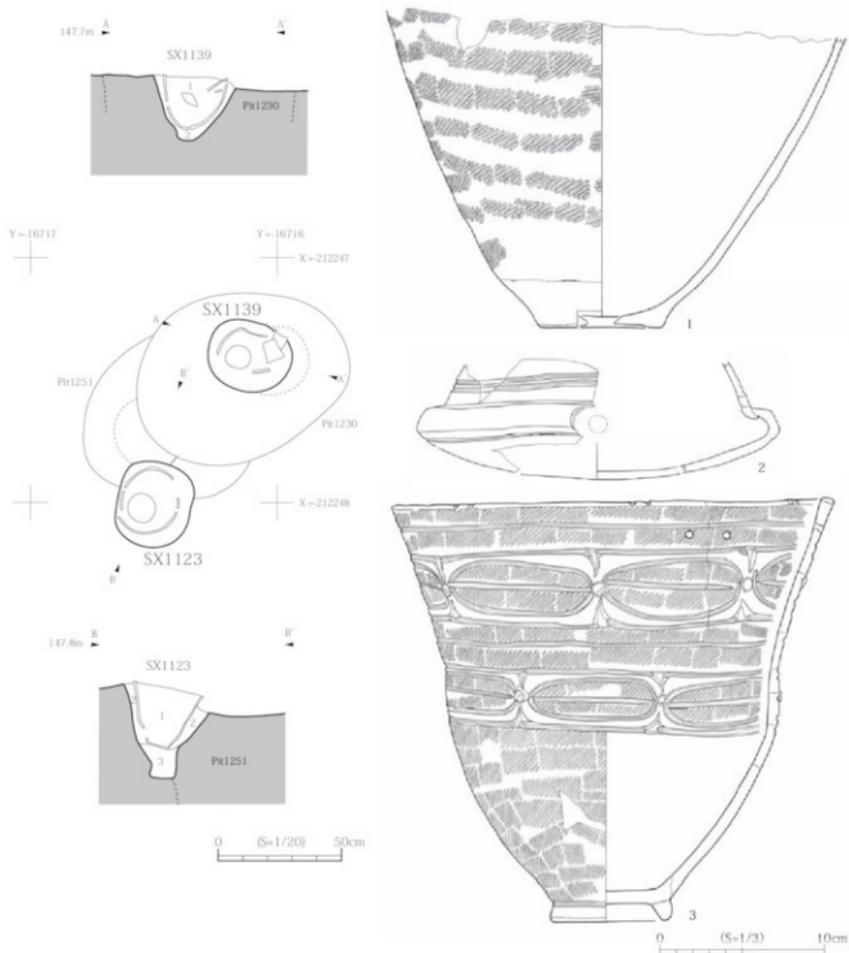
〔規模・構造〕 直径約42cm、残存する深さ約18cmの円形で埋設土器より一回り大きい。

〔壁・底面〕 底面は丸みがあり、壁が底面から緩やかに立ち上がる。断面形はすり鉢形である。

〔堆積土〕 1層確認した。黒褐色シルトで人為的埋土である。

〔土器の出土状況〕 正位の状態では掘えられており、北側にわずかに傾く。底部は掘え方底面から5cmほど上の位置にある。

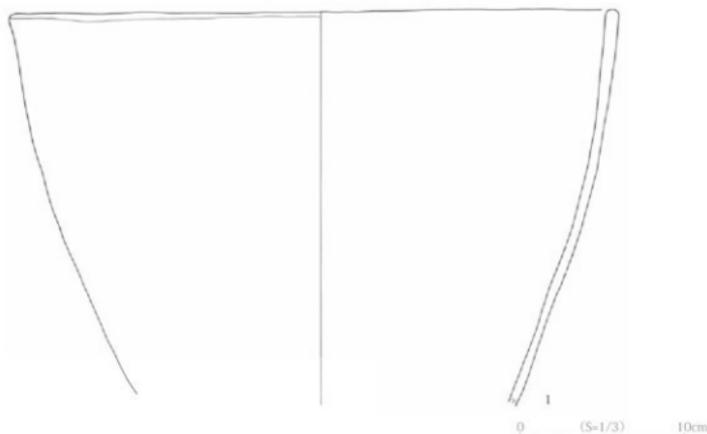
〔埋設土器〕 鉢の底部から口縁部が残存している。土器内には炭化物と骨片を少し含む黒色シルトが堆積している。このほか羊歯状文が施された鉢の口縁部破片、石鏃などが出土している(図版40)。



遺構名	層序	土色	土性	特徴	分類
SX1123	1	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	焼土ブロック・炭化物粒を少し含む	埋土
	2	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山小ブロックをわずかに含む	埋土
	3	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山小ブロックをわずかに含む	埋土
SX1139	1	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山小ブロックをわずかに含む、骨片をわずかに含む	埋土
	2	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	焼土ブロック・炭化物粒をわずかに含む	埋土

No	器種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
1	深鉢	SX1139埋設土器	口径77cm、胴文1R、底面削代直→ナデ、内面ナデ。炭化物付着、底部穿孔。	25-1	Pot1920
2	注口土器	SX1139, 埋104/F	平行波線文、雲状波線文、ミガキ、内面ミガキ	25-2	Pot1922
3	深鉢	SX1123埋設土器	口径26.2cm、器高25.8cm、右部径6.7cm、1層底部平縁・二層一社の削み(7単位)、彫順、踏状文、三叉文、帯状文、縄文L、内面からいミガキ、炭化物付着、底部孔	25-3	Pot1885

図版 38 SX1123、SX1139 土器埋設遺構 平面図・断面図・出土遺物



No	器種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
1	深鉢	埋土	I層 (36.5cm), I144底部平縁, I144部ヨコミガキ, 体部ナデアーかるいミガキ, 内面ナデアーかるいミガキ		Post1921

図版 39 SX1139 土器埋設遺構 出土土器

#### 【S X 1125 土器埋設遺構】

〔位置〕 1区北東で確認した(図版 41)。検出面はIV層である。

〔重複〕 主な遺構との重複はない。

〔規模・構造〕 直径約 35cm、残存する深さ約 33cm の円形で埋設土器より一回り大きい。

〔壁・底面〕 底面はほぼ平坦で、壁が底面から急に立ち上がる。断面形はすり鉢形である。

〔堆積土〕 1層確認した。地山ブロックを少し含む暗褐色シルトで人為的埋土である。

〔土器の出土状況〕 正位の状態では掘えられている。底部は掘え方底面から 3cm ほど上の位置にある。

〔埋設土器〕 深鉢の底部から体部が残存しており、底部は穿孔されている(図版 41)。土器内には炭化物をわずかに含む暗褐色シルトが堆積している。

#### 【S X 1140 土器埋設遺構】

〔位置〕 1区北東で確認した(図版 41)。検出面はIV層である。

〔重複〕 主な遺構との重複はない。

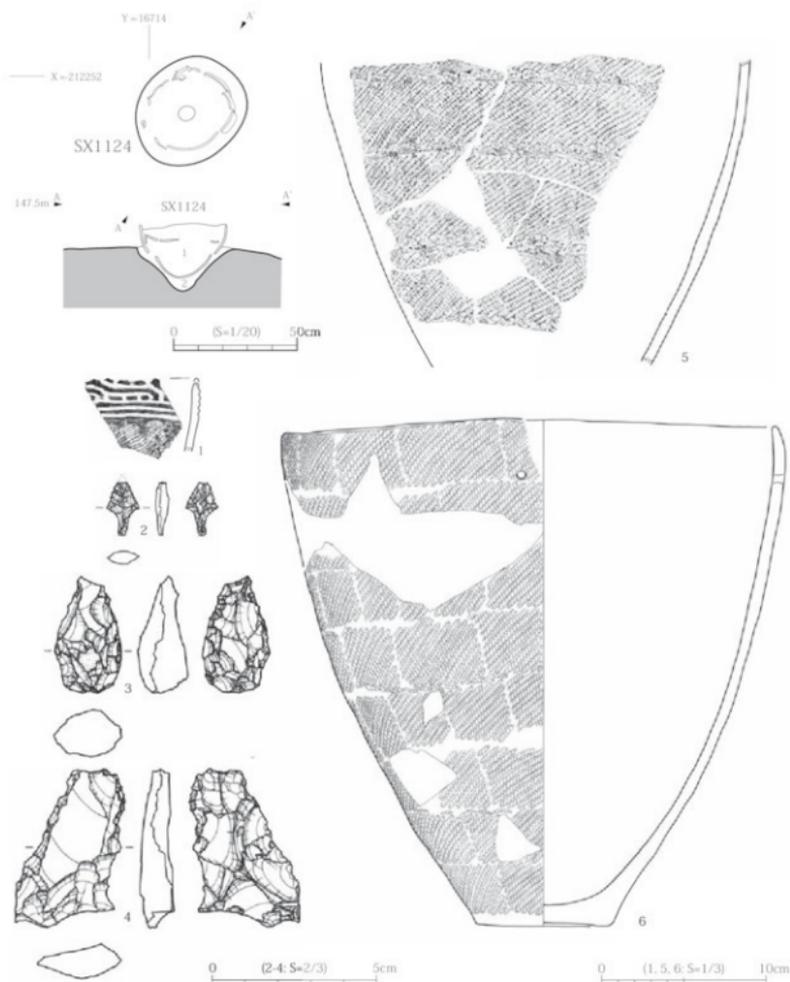
〔規模・構造〕 北半を攪乱で壊されているが、直径約 30cm、残存する深さ約 16cm の円形で埋設土器より一回り大きい。

〔壁・底面〕 底面は丸みがあり、壁が底面から急に立ち上がる。断面形はU字形である。

〔堆積土〕 1層確認した。地山小ブロックをわずかに含む黒褐色シルトで人為的埋土である。

〔土器の出土状況〕 正位の状態では掘えられている。底部は掘え方底面から 10cm ほど上の位置にある。

〔埋設土器〕 無文の深鉢の口縁部破片と体下部が出土している(図版 41)。体部破片の内面には炭化物が多量に付着している。



遺構名	順序	土色	土性	特徴	分類
SX1124	1	黒色 (10YR2/1)	シルト	炭化物粒を少し含む。骨片をわずかに含む	埋土
	2	黒褐色 (10YR2/2)	シルト		埋土

No	器種	遺構/層	特徴	写真区画	登録
40-1	鉢	埋土	平縁・ヘラ削目・突起。1鉢部削目と一体化した平歯状文、縄文L。炭化物付着	26-1	Pat1886
40-5	深鉢	埋土	縄文LR。内面ナデ。炭化物付着	26-5	Pat1887
40-6	深鉢	埋没土器	口径30.6cm、器高30.0cm、底径8.3cm 縄文LR 末端部膨満。底面ミガキ。内面ナデ。炭化物付着。補修孔	26-8	Pat1888

No	器種	類型	遺構/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	残存	加熱処理	変形	付着物	備考	写真区画	登録
40-2	石鏡	I a 2	土器内埋積土	片貫頁岩A	15.9	9.4	3.7	0.4	先端欠	0	0	0	土壌水洗	26-2	S6475
40-3	尖頭器	II	埋土	片貫頁岩A	35.9	20.4	13.9	9.8	完形	0	0	0	先端内加工	26-3	S1078
40-4	不定形石器	II b	埋土	片貫頁岩A	49.8	31.5	8.5	12.7	完形	0	0	0		26-4	S1398

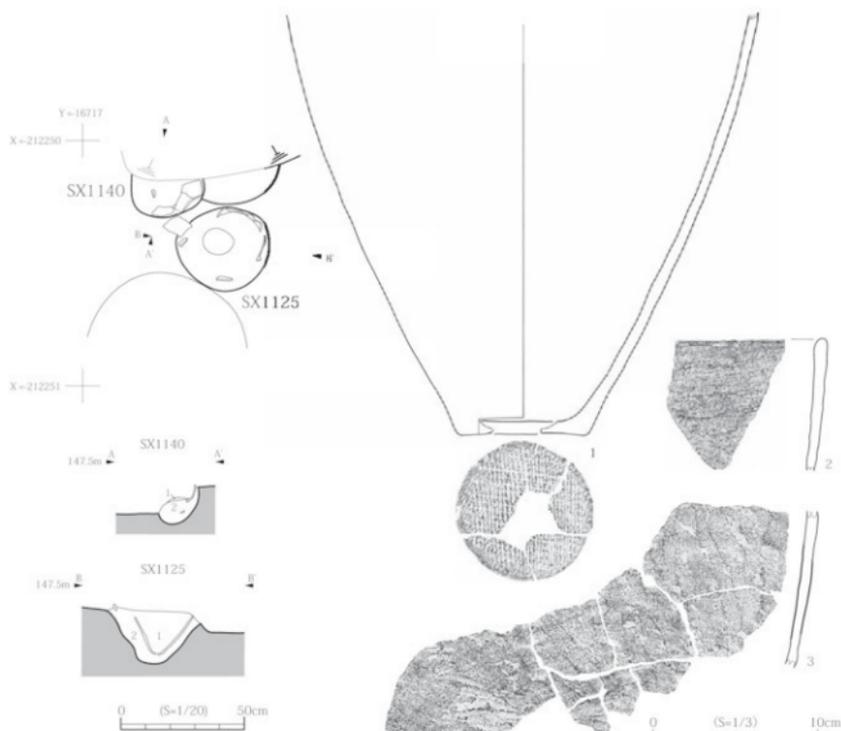
図版 40 SX1124 土器埋設遺構 平面図・断面図・出土遺物

### 【SX 1141 土器埋設遺構】

〔位置〕 I区北東で確認した(図版42)。検出面はIV層である。

〔重複〕 SK 1133 土坑と重複し、これより古い。また、SB 1157 建物跡と位置が重複するが新旧関係は不明である。

〔規模・構造〕 西半をSK 1133 土坑に壊されているが、直径約30cm、残存する深さ約20cmの円形と推定され、埋設土器より一回り大きい。



遺構名	順序	土色	土性	特徴	分類
SX1125	1	暗褐色(10YR3/4)	シルト	地山小ブロック・炭化物粒をわずかに含む	埋土
	2	暗褐色(10YR3/3)	シルト	地山小ブロックを少し含む。炭化物粒をわずかに含む	埋土
SX1140	1	黒褐色(10YR2/2)	シルト	焼土ブロック・炭化物粒を少し含む。骨片(?)をわずかに含む	埋土
	2	黒褐色(10YR2/2)	シルト	地山小ブロックをわずかに含む	埋土

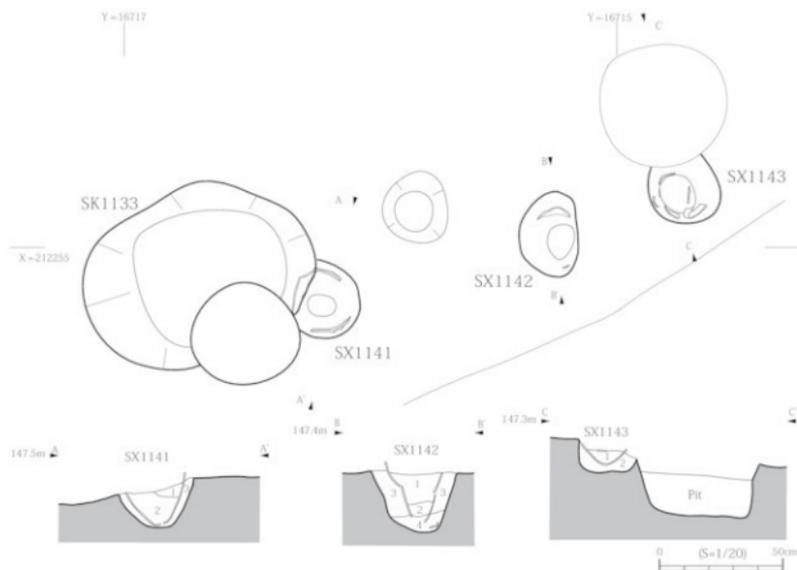
No	層種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
1	深鉢	SX1125埋設土器	底径8.5cm。外面ケズリ→ミガキ。底面刺代皿。底面穿孔。内面ナデ→かいるミガキ		Pot1889
2	深鉢	SX1140埋土	平鉢。無文		Pot1840
3	深鉢	SX1140埋設土器	無文。内面に炭化物付着多		Pot1839

図版41 SX1125、SX1140 土器埋設遺構 平面図・断面図・出土土器

〔壁・底面〕底面はほぼ平坦で、壁が底面から急に立ち上がる。断面形はU字形である。  
 〔堆積土〕1層確認した。焼土ブロックをわずかに含む黒褐色シルトで人為的埋土である。  
 〔土器の出土状況〕正位の状態で見られている。底部は据え方底面にほぼ接する。  
 〔埋設土器〕深鉢の底部から体部が残存しており、底部が穿孔されている(図版43-1)。土器内には地  
 山小ブロック、焼土ブロックをわずかに含む黒褐色シルトが堆積している。

### 【SX 1142 土器埋設遺構】

〔位置〕I区北東で確認した(図版42)。検出面はIV層である。  
 〔重複〕SB 1157と位置が重複するが、新旧関係は不明である。  
 〔規模・構造〕長径約35cm、短径約24cm、残存する深さ約25cmの楕円形で埋設土器より一回り  
 大きい。  
 〔壁・底面〕底面は丸みがあり、壁が底面から急に立ち上がる。断面形はU字形である。  
 〔堆積土〕2層確認した。地山小ブロックを含む暗褐色シルトと黄褐色粘土質シルトで人為的埋土で  
 ある。



遺構名	層序	土色	土性	特徴	分類
SX1141	1	黒色(10YR2/1)	シルト	焼土小ブロックをわずかに含む	埋積土
	2	黒褐色(10YR3/2)	シルト	地山小ブロックをわずかに含む	埋土
	3	黒褐色(10YR2/3)	シルト	焼土小ブロックをわずかに含む	埋土
SX1142	1	灰黄褐色(10YR4/6)	シルト	焼土小ブロック・炭化物粒をわずかに含む	埋土
	2	褐色(10YR4/6)	粘質シルト	地山小ブロックを多く含む	埋土
	3	暗褐色(10YR3/4)	シルト	地山小ブロックを含む	埋土
	4	黄褐色(10YR5/6)	粘質シルト		埋土
SX1143	1	黒褐色(10YR2/3)	シルト	地山小ブロックを含む。炭化物粒をわずかに含む	埋土
	2	黒褐色(10YR2/3)	シルト	地山小ブロックを少し含む	埋土

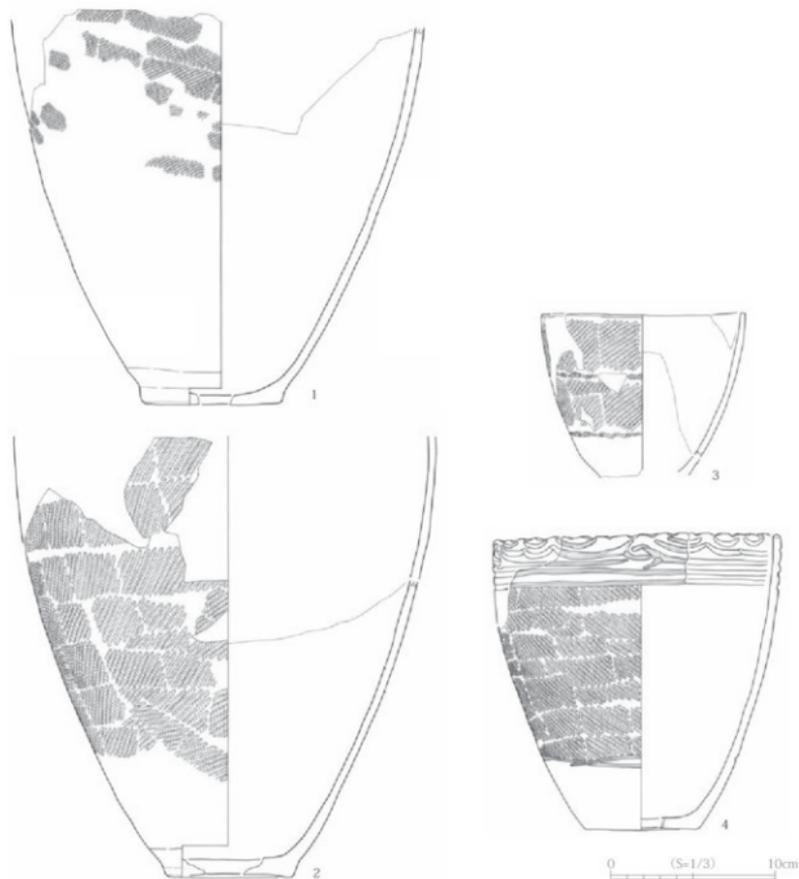
図版42 SX1141、SX1142、SX1143 土器埋設遺構 平面図・断面図

〔土器の出土状況〕 正位の状態では掘えられ、底部は割れて動いている。

〔埋設土器〕 深鉢の底部から体部が残存している (図版 43-2)。土器内には炭化物、焼土ブロックを含む灰黄褐色シルトと地山小ブロックを多く含む褐色粘土質シルトが堆積している。

【SX 1143 土器埋設遺構】

〔位置〕 1区北東で確認した (図版 42)。検出面はIV層である。



No	器種	直径/高	特徴	写真図版	登録
1	深鉢	SX1141 埋設土器 底径 8.6cm、縄文LR、底部付着～底面ミガキ、内面ナデ、炭化物付着、底部穿孔		27-1	Port1924
2	深鉢	SX1142 埋設土器 底径 7.9cm、縄文LR、底部付着～底面ミガキ、内面ナデ、炭化物付着、底部穿孔、縄文の磨りが見えず		27-2	Port1925
3	鉢	SX1143 埋土 口径 13.0cm、1脚端部平鉢、縄文LR末端部強調、体下部ミガキ、内面からいしミガキ		26-6	Port1927
4	深鉢	SX1143 埋設土器 口径 18.0cm、器高 18.7cm、底径 7.2cm、平縁・押付、弧状改線文、大眼三叉文(4単位)、平行改線文、縄文LR、底部付着ミガキ、底面削代、内面ナデ、炭化物付着		26-7	Port1926

図版 43 SX1141、SX1142、SX1143 土器埋設遺構 出土土器

〔重複〕 主な遺構との重複はない。

〔規模・構造〕 北側を攪乱し一部壊されているが、直径約28cm、残存する深さ約13cmの円形である。

〔壁・底面〕 底面は凹凸があり、壁が底面から急に立ち上がる。断面形は箱形である。

〔堆積土〕 1層確認した。地山ブロックを少し含む黒褐色シルトで人為的埋土である。

〔土器の出土状況〕 正位の状態では掘えられている。底部は掘え方底面から6cmほど上の位置にある。

〔埋設土器〕 小型の鉢が2点出土している。そのうち一点には口縁部に入組三叉文が施されている(図版43-4)。土器内には地山ブロックを含む黒褐色シルトが堆積している。

## D. 土坑

I区、I区南で確認した土坑は、合計28基で、そのうち形態、堆積土、重複関係、出土遺物の特徴から縄文時代の遺構と考えられるものは15基である。その他の土坑は別項で述べることとする。

### 【S K 1108 土坑】

〔位置〕 I区北部で確認した(図版44)。検出面はIV層である。

〔重複〕 S I 1102 住居跡と重複し、これより新しい。

〔規模・構造〕 直径約130cm、残存する深さ約60cmの円形である。

〔壁・底面〕 底面はやや丸みがあり、壁が底面から急に立ち上がる。断面形は椀形である。

〔堆積土〕 3層確認した。黒褐色シルトを主体とする自然堆積層である。

〔出土遺物〕 深鉢、鉢、壺が出土している。羊歯状の刻目と雲形文が施された壺(図版45-8)がある。

### 【S K 1111 土坑】

〔位置〕 I区北部で確認した(図版44)。検出面はIV層である。

〔重複〕 重複はない。

〔規模・構造〕 直径約100cm、残存する深さ約25cmの円形である。

〔壁・底面〕 底面はほぼ平坦で、壁が底面から急に立ち上がる。断面形は皿形である。

〔堆積土〕 1層確認した。地山小ブロックを多く含む黒色シルトの自然堆積層である。

〔出土遺物〕 深鉢、鉢、石鏃、石錐、耳飾り(図版45-23)が出土している。

### 【S K 1113 土坑】

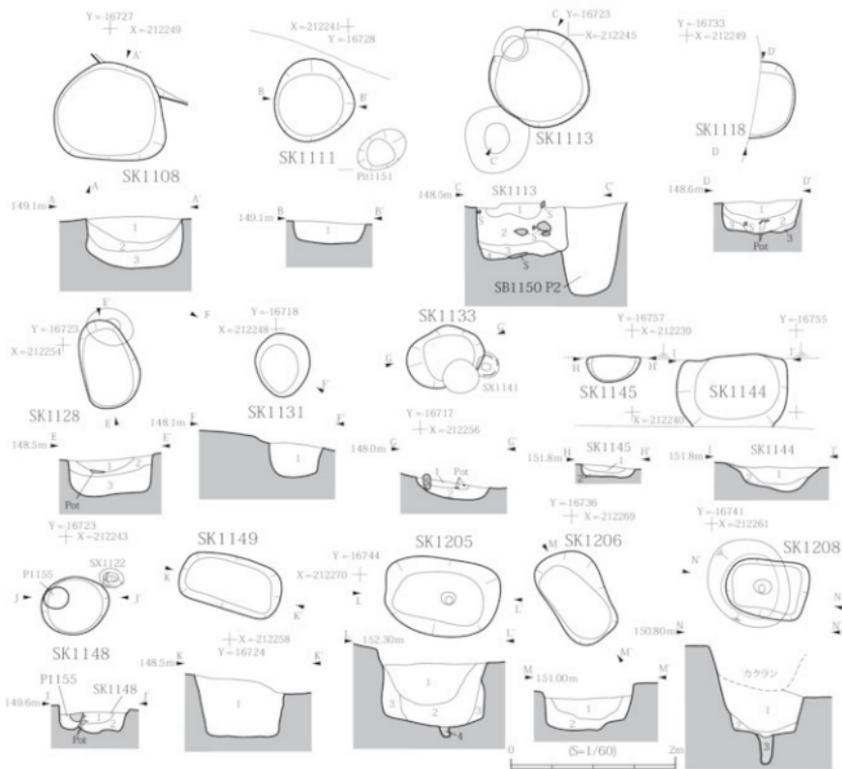
〔位置〕 I区北部で確認した(図版44)。検出面はIV層である。

〔重複〕 S I 1102-P4、S I 1103 住居跡、S B 1150、S B 1152、S B 1154 建物跡と重複し、直接の切り合いでS I 1102、S I 1103 住居跡、S B 1150、S B 1152 建物跡より新しく、S B 1154 建物跡との新旧関係は不明である。

〔規模・構造〕 直径約120cm、残存する深さ約70cmの円形である。

〔壁・底面〕 底面はほぼ平坦で、壁が底面から急に立ち上がる。断面形は箱形である。

〔堆積土〕 4層確認した。炭化物、焼土ブロック、礫を含む黒色シルトの自然堆積層である。



遺構名	層序	土色	土性	特徴	分類
SK1108	1	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山ブロック・炭化物粒をわずかに含む	堆積土
	2	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山ブロックを少し含む	堆積土
	3	黒色 (10YR2/1)	粘質シルト	下層に地山ブロックを樹状に含む	堆積土
SK1111	1	黒色 (10YR2/1)	シルト	地山小ブロック・炭化物粒を多く含む	埋土
	2	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	焼土を多く含む。炭化物粒を少し含む	堆積土
SK1113	1	黒色 (10YR2/1)	シルト	焼土粒・炭化物粒を少し含む	堆積土
	2	黒褐色 (10YR2/1)	シルト	地山小ブロックを少し含む。炭化物粒をわずかに含む	堆積土
	3	黒色 (10YR2/1)	シルト	地山ブロックを含む	堆積土
	4	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山小ブロックを多く含む	堆積土
SK1118	1	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山小ブロック・炭化物粒をわずかに含む	堆積土
	2	黒色 (10YR2/1)	シルト	炭化物粒を少し含む	堆積土
	3	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山粒を少し含む	堆積土
SK1128	1	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	焼土ブロックを多く含む。炭化物粒を少し含む	堆積土
	2	黒色 (10YR2/1)	シルト	焼土粒を含む。炭化物粒をわずかに含む	堆積土
	3	黒色 (10YR2/1)	シルト	地山小ブロックを少し含む。地山大ブロックをわずかに含む	堆積土
SK1131	1	黒色 (10YR2/1)	シルト	地山ブロックを含む。1層より黄色味が強い	堆積土
	2	黒色 (10YR2/1)	シルト	炭化物粒・焼粒を含む	堆積土
SK1133	1	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	下層に地山ブロックを樹状に含む	堆積土
	2	黒褐色 (10YR2/2)	シルト		堆積土
SK1145	1	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト		堆積土
	2	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山小ブロックを含む	堆積土
SK1144	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山小ブロックを少し含む	堆積土
	2	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト	地山小ブロック (崩落土) を含む	堆積土
SK1148	1	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山粒・地山大ブロックを多く含む。炭化物粒を少し含む	埋土
	2	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山粒を含む。地山ブロック・炭化物粒を多く含む	堆積土
SK1149	1	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山小ブロック・炭化物粒を多く含む	堆積土
	2	黒褐色 (10YR2/3)	シルト		堆積土
	3	暗褐色 (10YR3/4)	シルト	地山粒を少し含む	堆積土
	4	暗褐色 (10YR3/4)	粘質シルト	地山小ブロックを多く含む	崩落土
SK1205	1	暗褐色 (10YR3/4)	シルト		柱面跡
	2	暗褐色 (10YR3/4)	シルト		堆積土
SK1206	1	暗褐色 (10YR4/4)	シルト	地山粘土小ブロックを多く含む。崩落土が混じる	堆積土
	2	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山ブロックを多く含む	堆積土
SK1208	1	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山ブロックを含む	堆積土
	2	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト		堆積土
	3	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	粘質シルト		柱面跡

図版 44 | 区・区南 土坑 平面図・断面図

〔出土遺物〕深鉢、壺、片口土器、皿、石鐮、石匙、石皿、土偶が出土している(図版46～49)。口縁部から胴部に羽状縄文が施されたほぼ完形の深鉢が2点出土している(図版47・9・10)。このほか雲形文が施された皿(同図1)がある。

#### 【S K 1118 土坑】

〔位置〕I区西部壁際で確認した(図版44)。検出面はIV層である。西半は調査区外に延びる。

〔重複〕重複はない。

〔規模・構造〕長径約120cm、残存する深さ約40cmの楕円形と推定される。

〔壁・底面〕底面はほぼ平坦で、壁が底面から急に立ち上がる。断面形は箱形である。

〔堆積土〕3層確認した。黒褐色シルトを主体とする自然堆積層である。

〔出土遺物〕深鉢、石鐮、石匙などが出土している(図版50)。

#### 【S K 1128 土坑】

〔位置〕I区中央で確認した(図版44)。検出面はIV層である。

〔重複〕主な遺構との重複はない。

〔規模・構造〕長径約110cm、短径70cm、残存する深さ約40cmの楕円形と推定される。

〔壁・底面〕底面はほぼ平坦で、壁が底面から急に立ち上がる。断面形は箱形である。

〔堆積土〕3層確認した。黒色シルトを主体とする自然堆積層である。

〔出土遺物〕深鉢、鉢、皿、壺、石鐮、尖頭器、不定形石器が出土している(図版50)。

#### 【S K 1131 土坑】

〔位置〕I区北東部で確認した(図版44)。検出面はIV層である。

〔重複〕重複はない。

〔規模・構造〕直径約70cm、残存する深さ約40cmの円形と推定される。

〔壁・底面〕底面はほぼ平坦で、壁が底面から急に立ち上がる。断面形は逆台形状である。

〔堆積土〕1層確認した。地山ブロックを含む黒色シルトの自然堆積層である。

〔出土遺物〕三叉文と渦巻文が施された注口土器や石匙などが出土している(図版50)。

#### 【S K 1133 土坑】

〔位置〕I区北東部で確認した(図版44)。検出面はIV層である。

〔重複関係〕S X 1141 土器埋設遺構と重複し、これより新しい。

〔規模・構造〕長径95cm、短径70cm、残存する深さ約20cmの楕円形と推定される。

〔壁・底面〕底面から壁にかけてゆるやかに立ち上がる。断面形は皿状である。

〔堆積土〕2層確認した。地山ブロックを薄い層状に含む黒褐色シルトの自然堆積層である。

〔出土遺物〕雲形文が施された縄文土器、石鐮、石皿などが出土している(図版51)。



No	器種	遺構/層	特徴	写真図版	登録										
45-1	深鉢	SK1108/埋土	平縁、人形帯状文(斜突刺目)、炭化物付着	27-3	Pot1701										
45-2	深鉢	SK1108/埋土	平縁・山形突起、帯状文(櫛歯状刺目)、縄文原体不明	27-4	Pot1694										
45-3	深鉢	SK1108/埋土	成状鉢、平行沈線文、貼附	27-5	Pot1704										
45-4	壺か	SK1108/埋土	平行沈線文、ヘラ刺目、沈線文、朱付着、海綿付針	27-6	Pot1700										
45-5	注口蓋	SK1108/埋土	平縁土師線文	27-7	Pot1702										
45-6	注口鉢	SK1108/埋土	函巻き文(磨り消し縄文)、原体不明	27-8	Pot1693										
45-7	深鉢	SK1108/埋土	平縁・ヘラ刺目、縄文LR	27-9	Pot1699										
45-8	壺	SK1108/埋土	口径10.2cm、口縁端部平縁・ヘラ刺目・二個一対の小突起、口縁部突起部分に短沈線、ミガキによる無文帯、平行沈線文、ヘラ刺目(8~10個の刺み列を上下段でずらして配置)、菱形文(磨り消し縄文IC字形単単位5単位・菱形形充填文、平行沈線文、縄文LR、口縁部内面沈線1条、内面ミガキ	27-11	Pot1695										
45-9	鉢	SK1108/埋土	口径10.2cm、口縁端部平縁・ヘラ刺目、平行沈線文、縄文LR、炭化物付着	27-10	Pot1703										
45-10	鉢	SK1108/埋土	口径12.2cm、器高7.5cm、底径5.0cm、口縁端部平縁、縄文刺、底部かるい上げ底、口縁部内面付着コナデ、底部付着ケズリ、ナデ	27-12	Pot1696										
45-11	深鉢	SK1108/埋土	底径10.7cm、引状縄文LR、LR末端部強調、底部付着~底面ケズリ、内面ケズリ、ナデ、炭化物付着		Pot1697										
45-12	深鉢	SK1111/1層	平縁、帯状文(斜突刺目)、縄文LR	27-13	Pot1712										
45-13	深鉢	SK1111/1層	帯状文(縄文)、貼附、縄文LR	27-14	Pot1708										
45-14	深鉢	SK1111/1層	帯状文(縄文)、貼附、縄文LR	27-15	Pot1709										
45-15	鉢	SK1111/1層	沈線文、縄文LR	27-16	Pot1707										
45-16	鉢	SK1111/1層	平縁・ヘラ刺目、三文文、縄文LR	27-19	Pot1705										
45-17	深鉢	SK1111/1層	平縁、縄文LR、炭化物付着	27-18	Pot1710										
45-18	深鉢	SK1111/1層	平縁、無文	27-17	Pot1706										
45-19	鉢	SK1111/埋土	口径20.0cm、器高17.3cm、底径5.7cm、口縁端部平縁・ヘラ刺目・二個一対の小突起4単位、口縁部に平行沈線文4条、一番上の沈線は突起部分のみ刺通する、体部縄文LR、LR末端部強調、底部副代型→ナデ、内面、炭化物付着	27-25	Pot1711										
45-20	石鏝	1 a 0	SK1111/1	珪質頁岩A	28.0	13.7	4.0	1.0	葉欠	2	0	0	0	27-22	S1040
45-21	石鏝	1 c 2	SK1111/1	珪質頁岩B	24.6	8.8	5.1	0.9	完形	2	0	0	0	27-21	S1042
45-22	石鏝	不明	SK1111/1	珪質頁岩A	25.1	7.6	5.4	0.9	断面のみ	2	0	0	0	27-23	S1041
45-23	耳飾	-	SK1111/1	凝灰岩	29.1	12.5	6.6	1.9	破片	0	0	0	0	27-24	S6456

図版 45 | I区・I区南 土坑 出土遺物(1)

【SK 1137 土坑】

〔位置〕 I 区北東部で確認した (図版 32)。検出面はIV層である。

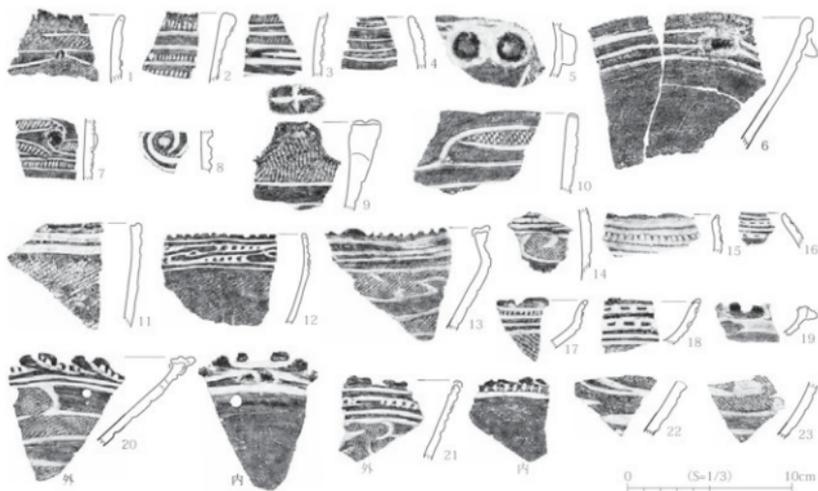
〔重複〕 SB 1164 建物跡と重複し、これより古い。

〔規模・構造〕 長径 84cm、短径約 64cm、残存する深さ約 25cm の楕円形と推定される。

〔壁・底面〕 底面から壁にかけてゆるやかに立ち上がる。断面形は皿状である。

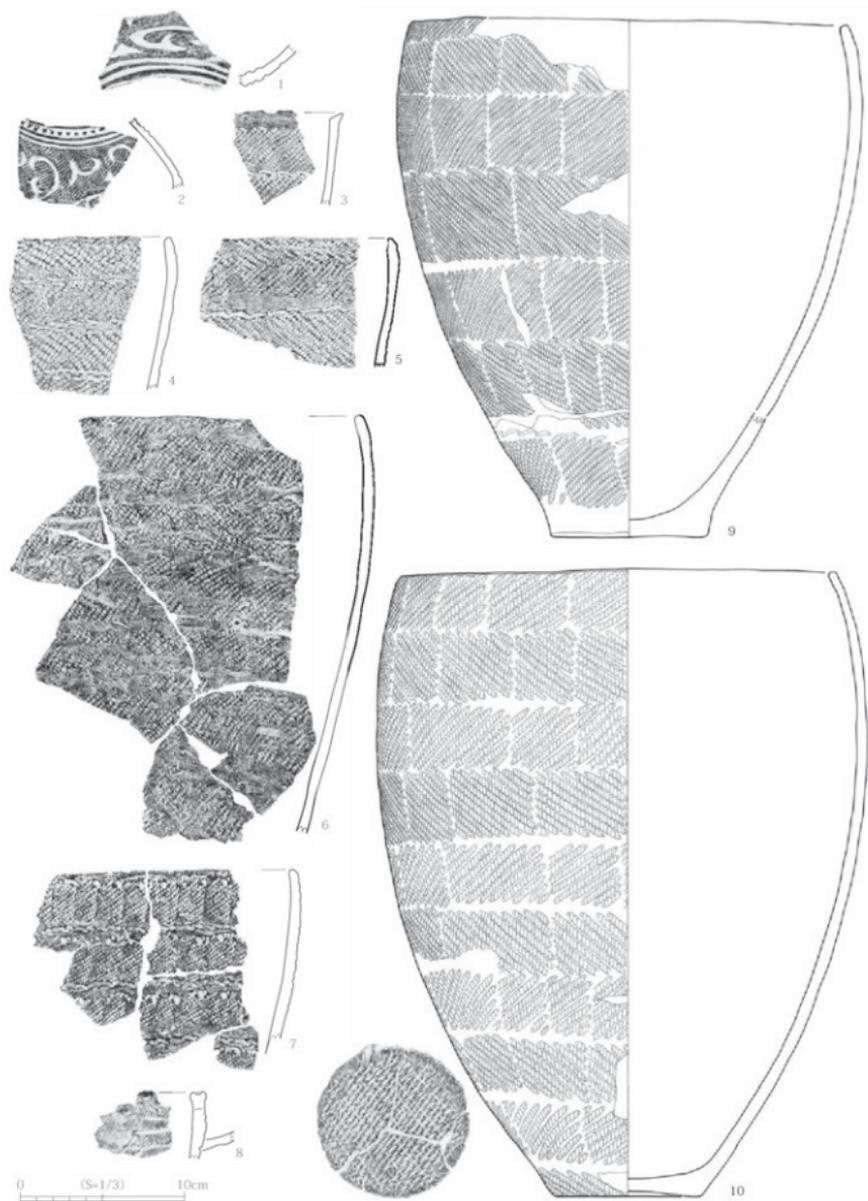
〔堆積土〕 1 層確認した。黒色シルトの自然堆積層である。

〔出土遺物〕 深鉢、鉢、浅鉢、壺、石鐮が出土している。体部上半に雲形文が施された深鉢と X 字状文が施された壺 (図版 51-20・21)、羊歯状文が施された鉢、注口土器などがある。



No	器種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
1	深鉢	SK 1113/埋土	平鉢・へう割目、帯状文(縄文)か、刷面(刷み有り)、縄文LRが2帯体	28-1	Pos 1724
2	深鉢	SK 1113/埋土	波状鉢、帯状文(縄文状割目)	28-2	Pos 1719
3	深鉢	SK 1113/埋土	帯状文(縄文状割目)、メウネ状浮文、炭化物付着	28-3	Pos 1722
4	壺	SK 1113/埋土	無面凸、平鉢、平行沈線文	28-4	Pos 1723
5	壺か	SK 1113/埋土	大形の卵形、沈線文、縄文帯体不明	28-5	Pos 1720
6	浅鉢	SK 1113/埋土	平鉢、平行沈線文、貼瘤	28-7	Pos 1727
7	深鉢	SK 1113/埋土	扇状状帯状文(縄文状割目)、貼瘤	28-8	Pos 1723
8	鉢か	SK 1113/埋土	渦巻文、首孔、縄文帯体不明	28-9	Pos 1735
9	深鉢	SK 1113/埋土	平鉢・変型(前部十字型沈線)、平行沈線、縄文LR	28-10	Pos 1714
10	深鉢	SK 1113/埋土	小波状鉢、大組三叉文、縄文LR	28-6	Pos 1715
11	深鉢	SK 1113/埋土	平鉢・L字部改線、平行沈線文、縄文LRか	28-11	Pos 1716
12	鉢	SK 1113/埋土	平鉢・へう割目、羊歯状文LR、炭化物付着	28-12	Pos 1737
13	鉢	SK 1113/埋土	平鉢・L字部改線、変型文(磨り消し縄文)、縄文LR、炭化物付着	28-13	Pos 1738
14	鉢	SK 1113/埋土	へう割目、変型文(磨り消し縄文)、縄文LR	28-22	Pos 1718
15	鉢	SK 1113/埋土	小波状鉢、平行沈線文、へう割目	28-20	Pos 1730
16	鉢	SK 1113/埋土	平鉢、刷面、平行沈線文、扇状状割目、縄文LR、炭化物付着	28-15	Pos 1743
17	鉢	SK 1113/埋土	平鉢か、三叉文、平行沈線文、扇状状割目	28-23	Pos 1742
18	鉢	SK 1113/埋土	平鉢・変型、羊歯状文	28-21	Pos 1740
19	注口	SK 1113/埋土	羊歯状字線文、変型文(磨り消し縄文)、縄文帯体不明	28-14	Pos 1741
20	皿	SK 1113/埋土	平鉢・羊歯状浮線文、変型文(磨り消し縄文)、縄文LR、袖形孔	28-16	Pos 1728
21	皿	SK 1113/埋土	平鉢・一個一列の変型、変型文(磨り消し縄文)、縄文LR、内面へう割目、沈線文	28-17	Pos 1729
22	皿か	SK 1113/埋土	変型文(磨り消し縄文)、縄文LR、漆塗りか	28-18	Pos 1731
23	浅鉢	SK 1113/埋土	変型文(磨り消し縄文)、縄文LR	28-19	Pos 1739

図版 46 I 区・I 区南 土坑 出土遺物 (2)

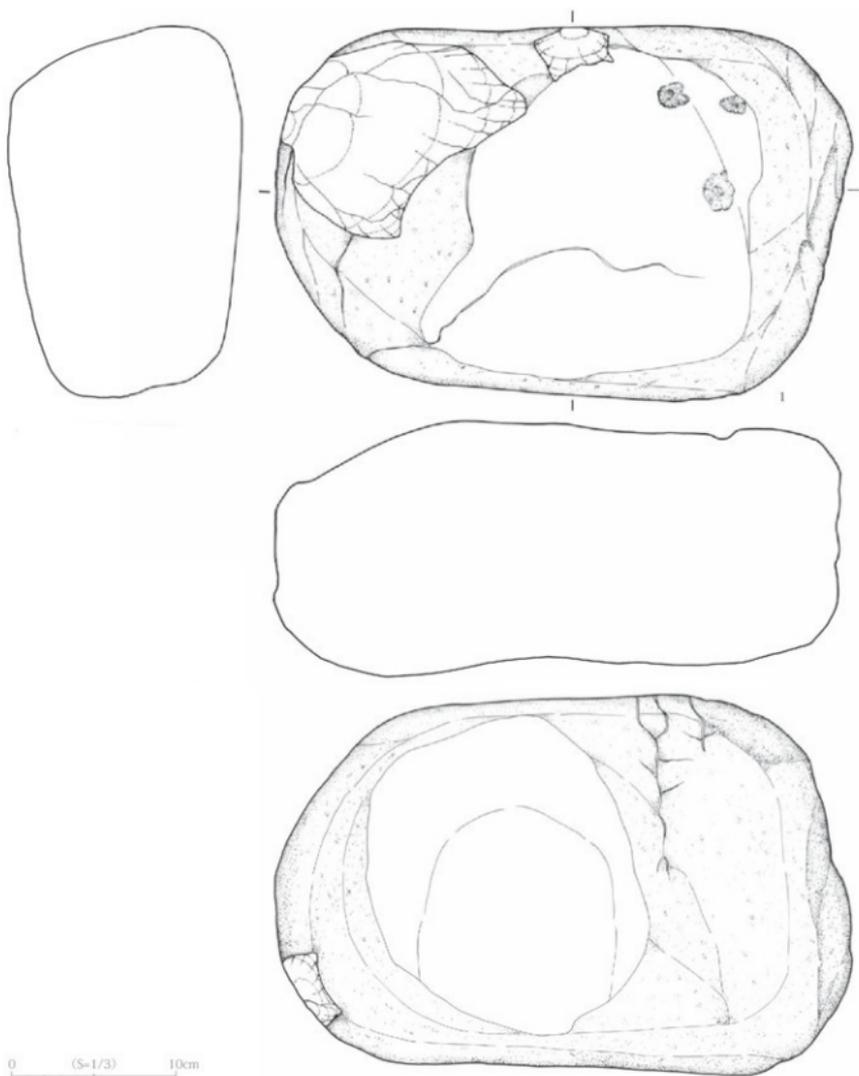


图版 47 I区·I区南 土坑 出土遗物(3)



No	器種	遺構/層	特徴	写真図版	図録
47-1	鏃か	SK1113/埋土	菱形文(磨り消し縄文)、縄文LR、内面に平行沈線文	28-24	Pat1717
47-2	鏃	SK1113/埋土	列点文、三文文、縄文LR	28-25	Pat1732
47-3	深鉢	SK1113/埋土	平縁・羽状縄文。縄文LR結節部強調	28-26	Pat1735
47-4	深鉢	SK1113/埋土	平縁、羽状縄文LR.LR結節部強調、炭化物付着	28-27	Pat1713
47-5	深鉢	SK1113/埋土	平縁、羽状縄文LR.LR結節部強調	28-28	Pat1721
47-6	深鉢	SK1113/埋土	口径20.5cm、器高31.6cm、底径9.4cm、口縁端部平縁、羽状縄文LR.LR、底面ナデ、内面ナデ	28-30	Pat1650
47-7	深鉢	SK1113/埋土	平縁、縄文LR、胎土に長石多	28-31	Pat1726
47-8	深鉢	SK1113/埋土	平縁、縄文LR結節部強調	28-29	Pat1744
47-9	片口土器	SK1113	平縁・突起(胎部削突)、帯状文、縄文LR	28-35	Pat1736
47-10	深鉢	SK1113/埋土	口径27.8cm、器高38.8cm、底径8.6cm、口縁端部平縁、羽状縄文LR.LR、底部刷代痕、内面ナデ、煤付着多	29-1	Pat1594
48-1	土偶右胸部	SK1113/埋土	三文文	28-33	土9
48-2	土偶脚	SK1113/埋土	沈線、刻目	28-34	土18
48-3	耳飾り	SK1113	無文	28-32	土33

図版 48 | 区・| 区南 土坑 出土遺物(4)



No	器種	類型	遺積/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	残存	加熱処理	形状	付着物	備考	写真図版	附録
48-4	石鏡	I a ①	SK1113/埋土	玉髓	29.2	12.1	4.4	1.3	茎欠	2	0	0		29-2	S1046
48-5	石鏡	I b ②	SK1113/埋土	珉質頁岩 B	35.9	14.9	5.9	2.3	先端・茎欠	2	0	0		29-4	S1045
48-6	石鏡	II a ①	SK1113/埋土	珉質頁岩 A	27.9	21.5	6.1	2.6	完形	0	0	先端内加工		29-6	S1047
48-7	石鏡	I b	SK1113/埋土	珉質頁岩 A	62.7	30.1	9.3	19.5	刃部欠	0	0	0		29-8	S1048
48-8	石鏡	II a	SK1113/埋土	珉質頁岩 A	31.3	54.3	9.0	18.1	完形	0	0	0		29-9	S1049
48-9	不定形石器	II a	SK1113/埋土	珉質頁岩 A	50.5	29.8	11.9	16.0	完形	0	0	0		29-10	S1053
48-10	不定形石器	I	SK1113/埋土	珉質頁岩	48.4	42.0	13.9	23.1	完形	0	0	0		29-12	S1052
48-11	磨石	-	SK1113/埋土	安山岩	89.4	70.5	52.0	434.0	完形	0	凹石→	0		29-14	S6330
49-1	石皿	-	SK1113/埋土	花崗岩	349.5	224.0	139.0	20000.0	完形	0	0	0		30-1	S1559

図版 49 | 区・| 区南 土坑 出土遺物 (5)

#### 【S K 1144 土坑】

〔位置〕 I 区北西部で確認した (図版 44)。検出面はIV b 層である。

〔重複〕 重複はない。

〔規模・構造〕 長径 136cm、短径 76cm、残存する深さ約 30cm の楕円形と推定される。

〔壁・底面〕 底面は中央付近が軽く窪み、底面から壁に掛けて緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形状である。

〔堆積土〕 5 層確認した。地山ブロックを含むふい黄褐色シルトを主体とし、人為的埋土である。

〔出土遺物〕 深鉢、壺が出土している。連結階段状区画文が施された小形壺 (図版 52-1) がある。

#### 【S K 1145 土坑】

〔位置〕 I 区北西部壁際で確認した (図版 44)。検出面はIV b 層である。北半は現道路工事の際に埋されている。

〔重複〕 重複はない。

〔規模・構造〕 直径 66cm、残存する深さ約 14cm の円形と推定される。

〔壁・底面〕 底面はほぼ平坦で、壁が底面から緩やかに立ち上がる。断面形は皿状である。

〔堆積土〕 2 層確認した。地山ブロックを含む灰黄褐色シルトの自然堆積層である。

〔出土遺物〕 台付浅鉢の台部が出土している。器面に  $\pi$  字文が施されている (図版 52-8)。

#### 【S K 1148 土坑】

〔位置〕 I 区北西部で確認した (図版 44)。検出面はIV b 層である。

〔重複〕 主な遺構との重複はない。

〔規模・構造〕 長径 85cm、短径約 74cm、残存する深さ約 20cm の楕円形である。

〔壁・底面〕 底面は凹凸があり、壁が底面から急に立ち上がる。断面形は皿状である。

〔堆積土〕 2 層確認した。地山ブロックを多く含む黒褐色シルトの自然堆積層である。

〔出土遺物〕 深鉢、鉢、浅鉢が出土している。羊歯状文が施された鉢 (図版 52-10) がある。

#### 【S K 1149 土坑】

〔位置〕 I 区東部で確認した (図版 44)。検出面はV 層である。

〔重複〕 重複はない。

〔規模・構造〕 長径 108cm、短径 68cm、残存する深さ約 74cm の楕円形と推定される。

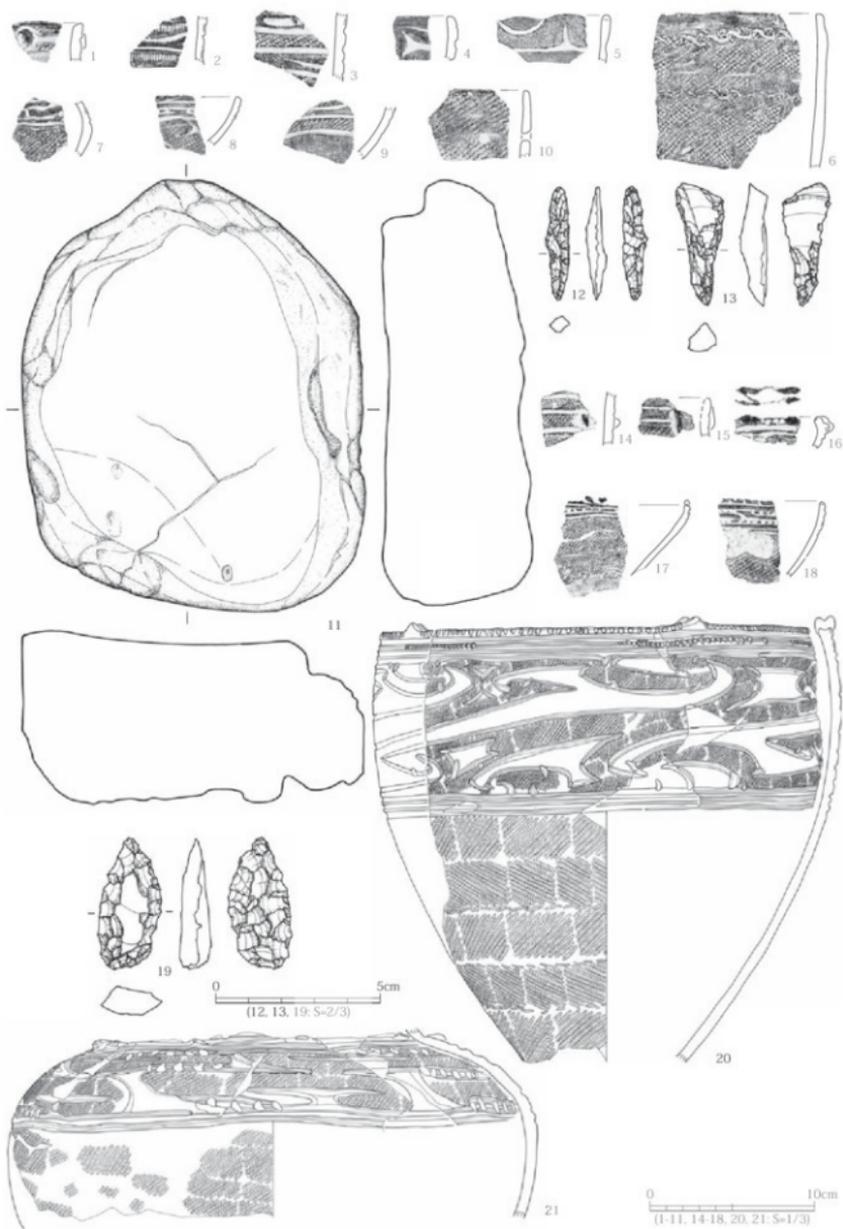
〔壁・底面〕 底面はほぼ平坦で、壁が底面から急に立ち上がる。断面形は箱形である。

〔堆積土〕 1 層確認した。暗褐色シルトの自然堆積層である。

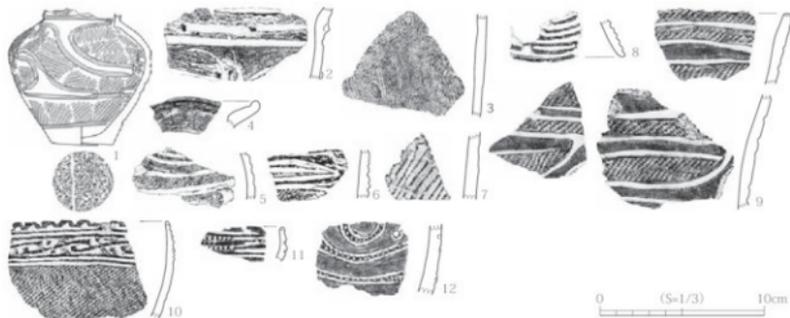
〔出土遺物〕 深鉢が出土し、貝殻沈線文が施されている (図版 52-12)。



图版 50 | 区·| 区南 土坑 出土遗物 (6)



图版 51 | 区·| 区南 土坑 出土遗物 (7)



No	器種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
50-1	鉢	SK1118/埋土	平縁, 条線文	30-3	Pot1745
50-2	深鉢	SK1118/埋土	平縁, 帯状文(縄文), 胎線, 縄文LR, 炭化物付着	30-2	Pot1746
50-3	深鉢	SK1118/埋土	平縁, 弦線文, ヘラ刷目	30-4	Pot1749
50-4	深鉢	SK1118/埋土	帯状文(つや消し), 胎線	30-5	Pot1747
50-5	壺	SK1118/埋土	帯状文(縄面状刷目), 胎線	30-6	Pot1750
50-6	深鉢	SK1118/埋土	縄面状刷目, 帯状文, 縄文LR	30-7	Pot1748
50-7	円盤	SK1118/埋土	最大径 37mm, 器厚 6mm, 周縁を打ち欠きで成形, 胎線, 帯状文(刺突刷目), 縄文LR	30-8	土104
50-10	深鉢	SK1128/埋土	平縁, 人形帯状文(縄面状刷目)	30-11	Pot1760
50-11	深鉢	SK1128/埋土	平行弦線文, 胎線	30-12	Pot1758
50-12	深鉢	SK1128/埋土	平縁, ヘラ刷目, 弦線文	30-13	Pot1757
50-13	深鉢	SK1128/埋土	弧線文, ボタン状胎線	30-14	Pot1763
50-14	器種不明	SK1128/埋土	波状弦線文, 平行弦線文, 刺突刷	30-16	Pot1766
50-15	壺	SK1128/埋土	帯状文(短弦線), 胎線(刷み, 刺突有り), 只腹形土製品か	30-15	Pot1754
50-16	深鉢	SK1128/埋土	平縁, 平行弦線文, 縄文LR	30-17	Pot1753
50-17	鉢	SK1128/埋土	平縁, ヘラ刷目, 突起, 弧線文, 平行弦線文, 押し戻き弦線文	30-18	Pot1759
50-18	深鉢	SK1128/埋土	平縁, ヘラ刷目, 平行弦線文, 列点文	30-19	Pot1761
50-19	深鉢	SK1128/埋土	平縁, ヘラ刷目, 平行弦線文, 縄文LR結節部強調	30-20	Pot1756
50-20	鉢	SK1128/埋土	平縁, 二個一對の突起, 平行弦線文, 縄文LR, 炭化物付着	30-21	Pot1762
50-21	鉢	SK1128/埋土	口径 10.4cm, 1縁端部平縁, ヘラ刷目, 平行弦線文, 縄面状刷目二段, 縄文LR, 炭化物付着, 内面ナデ	30-23	Pot1764
50-22	皿	SK1128/埋土	雲形文, 縄文LR	30-22	Pot1755
50-27	壺	SK1131/埋土	平縁, 無文	30-28	Pot1296
50-28	浅鉢	SK1131/埋土	平縁, 平行弦線文, ヘラ刷目, 雲形文(磨り消し縄文)か, 縄文原体不明	30-29	Pot1252
50-29	壺	SK1131/埋土	三叉文	30-33	Pot1249
50-30	不明	SK1131/埋土	平縁, 弦線文	30-34	Pot1253
50-31	壺	SK1131/埋土	平縁, 弦線文	30-35	Pot1255
50-32	深鉢	SK1131/埋土	弧状弦線文, 縄文LR	30-37	Pot1768
50-33	深鉢	SK1131/埋土	玉苅き三叉文, 人形文, 縄文原体不明	30-36	Pot1771
50-34	壺	SK1131/埋土	平縁, 無文	30-38	Pot1770
50-35	壺	SK1131/埋土	平縁, 無文	30-39	Pot1769
50-36	注1) or 壺	SK1131/埋土, BG105/IV	体部最大径 14.0cm, 渦巻文(充填縄文), 三叉文, 縄文R, 体部下平ミガキによる無文帯, 底部にボタン状突部, 内面ナデ	30-30	Pot1772
51-1	深鉢 or 鉢	SK1133/埋土	平縁, 帯状文, 胎線, 縄文LR	30-40	Pot1782
51-2	深鉢	SK1133/埋土	帯状文(縄面状刷目)	30-41	Pot1779
51-3	深鉢	SK1133/埋土	短弦線文, 帯状文, 縄文LR	30-42	Pot1777
51-4	浅鉢か	SK1133/埋土	玉苅き三叉文	30-43	Pot1781
51-5	深鉢	SK1133/埋土	三叉文, 弧状弦線文, 縄文LR, 炭化物付着	30-44	Pot1774
51-6	深鉢	SK1133/埋土	平縁, 縄文LR結節部強調	30-45	Pot1773
51-7	壺か	SK1133/埋土	羊歯状文, 縄文LR	30-45	Pot1780
51-8	浅鉢	SK1133/埋土	平縁, 羊歯状列点文, 雲形文, 縄文LR	30-46	Pot1778
51-9	鉢	SK1133/埋土	帯状文, 縄文LR	30-47	Pot1775
51-10	深鉢	SK1133/埋土	縄文し, 補修孔, 炭化物付着	30-48	Pot1776
51-14	深鉢	SK1137	帯状文, 胎線, 縄文LR	31-21	Pot1242
51-15	深鉢	SK1137	帯状文, 胎線, 縄文LR	31-20	Pot1243
51-16	浅鉢	SK1137	平縁, 羊歯状浮線文, 雲形文(磨り消し縄文), 縄文原体不明	31-22	Pot1241
51-17	浅鉢	SK1137	平縁, ヘラ刷目, 二個一對の突起, 平行弦線文, ヘラ刷目, 縄文LR末端部強調, 炭化物付着	31-16	Pot1239
51-18	鉢	SK1137	平縁, ヘラ刷目, 羊歯状文, 縄文LR, 炭化物付着	31-17	Pot1240
51-20	深鉢	SK1137埋	口径(27cm), 平縁, 山形突起, 1縁部弦線, ヘラ刷目, 平行弦線文, 雲形文(磨り消し縄文)フック形単位5単位+鼓状充填文, 縄文LR, 体部下平引状縄文LR, 1縁部内面ミガキ, 体部下ナデ, 炭化物付着	31-19	Pot1804
51-21	壺	SK1137埋, BG103/III	体部最大径 31.2cm, X文字文(磨り消し縄文)5単位+羊歯状に列点文充填, 縄文LR, 内面ナデ, 炭化物付着	31-18	Pot1245
52-1	壺	SK1144/埋土	体部最大径 8.6cm, 底径 3.6cm, 漆黒陶質区画文(充填縄文)3単位, 縄文LR, 底部本葉部, 内面ナデ	31-9	Pot1813
52-2	深鉢	SK1144/埋土	帯状文(つや消し), 胎線	31-4	Pot1814
52-3	深鉢	SK1144/埋土	S字状条痕文	31-5	Pot1815
52-4	深鉢	SK1144/埋土	内面弦線文, 木付着	31-6	Pot1818
52-5	壺か	SK1144/埋土	平行弦線文, 縄文LR	31-7	Pot1819
52-6	深鉢	SK1144/埋土	人形帯状文, 縄文原体不明, 炭化物付着	31-8	Pot1817
52-7	深鉢	SK1144/埋土	押型文, 筋上に砂粒多, 継縁有り	31-10	Pot1820
52-8	台付浅鉢	SK1145/1	台部, a字文	31-11	Pot1822
52-9	深鉢	SK1148	平縁, 帯状文(縄文), 縄文LR	31-13	Pot1834
52-10	鉢	SK1148	平縁, ヘラ刷目, 羊歯状文, 縄文LR, 炭化物付着	31-15	Pot1832
52-11	浅鉢か	SK1148	平縁か, 羊歯状文, 炭化物付着	31-14	Pot1835
52-12	深鉢	SK1149	弧状弦線文(目短弦線文)+貝殻腹縁による刷目, 刺突	31-24	Pot1833

図版 52 | 区・| 区南 土坑 出土遺物(8)

第5表 Ⅰ区・Ⅰ区南土坑出土遺物属性表

No	産地	類型	遺積/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	現存	加熱処理	変形	付着物	備考	写真記録	登録
50-8	石巻	Ⅱb	SK1118/埋土	碧玉B	22.2	20.3	4.5	1.6	完形	0	0	0		30-9	S1054
50-9	石巻	Ⅱa①	SK1118/埋土	珪質頁岩A	42.6	22.7	10.3	5.2	完形	0	0	0	先端摩滅	30-10	S1055
50-23	石巻	Ⅰb①	SK1128/埋積土	珪質頁岩A	26.7	14.0	7.0	2.2	完形	1	0	0		30-24	S1732
50-24	尖崎郡	Ⅰb①	SK1128/埋積土	珪質頁岩A	41.5	20.8	8.8	6.9	完形	1	0	0		30-25	S1058
50-25	不定形石器	Ⅱa	SK1128/埋積土	珪質頁岩A	35.1	34.1	8.5	10.2	完形	0	0	0		30-26	S1059
50-26	不定形石器	Ⅱd	SK1128/埋積土	珪質頁岩A	26.4	44.2	9.3	10.3	完形	0	0	0		30-27	S1060
50-37	石巻	Ⅱb①	SK1131/埋土	碧玉A	26.1	5.8	5.7	0.7	完形	1	0	0		30-31	S1730
50-38	石巻	Ⅰa②	SK1131/埋土	珪質頁岩A	61.7	23.6	8.6	9.1	完形	0	0	0		30-32	S1062
51-11	石巻	Ⅰb①	SK1133/埋土	珪質頁岩A	34.4	6.9	5.2	1.0	完形	2	0	0		31-1	S1063
51-12	石巻	Ⅱb①	SK1133/埋土	珪質頁岩A	38.2	14.4	8.0	3.4	完形	0	0	0		31-2	S1065
51-13	石巻	-	SK1133/埋土	安山岩	261.5	207.0	103.5	8620.0	完形	0	0	0		31-3	S1561
51-19	石巻	V	SK1137/埋土	珪質頁岩A	40.3	18.9	9.7	7.5	完形	1	0	0		31-23	S1068

### 【S K 1205 土坑】

〔位置〕Ⅰ区南-北部で確認した(図版44)。検出面はV層である。

〔重複〕重複はない。

〔規模・構造〕長径146cm、短径96cm、残存する深さ94cmの楕円形である。

〔壁・底面〕底面はほぼ平坦で、中央に直径14cm、深さ13cmの小柱穴がある。壁は急に立ち上がり、断面形は箱形である。

〔堆積土〕4層確認した。黒褐色または暗褐色シルトの自然堆積層である。

〔出土遺物〕なし。

### 【S K 1206 土坑】

〔位置〕Ⅰ区南-北部で確認した。検出面はV層である。

〔重複〕重複はない。

〔規模・構造〕長径120cm、短径74cm、残存する深さ60cmの楕円形である。

〔壁・底面〕底面は東側で軽く段がつく。壁は急に立ち上がり、断面形は箱形である。

〔堆積土〕2層確認した。暗褐色シルトの自然堆積層である。

〔出土遺物〕なし。

### 【S K 1208 土坑】

〔位置〕Ⅰ区南-北部で確認した。検出面はV層である。

〔重複〕重複はないが、上部を攪乱によって大きく壊されている。

〔規模・構造〕直径100cm、残存する深さ102cmの不整形である。

〔壁・底面〕底面はほぼ平坦で、中央に直径16cm、深さ36cmの小柱穴がある。壁は急に立ち上がり、断面形は箱形である。

〔堆積土〕3層確認した。暗褐色シルトの自然堆積層である。

〔出土遺物〕なし。

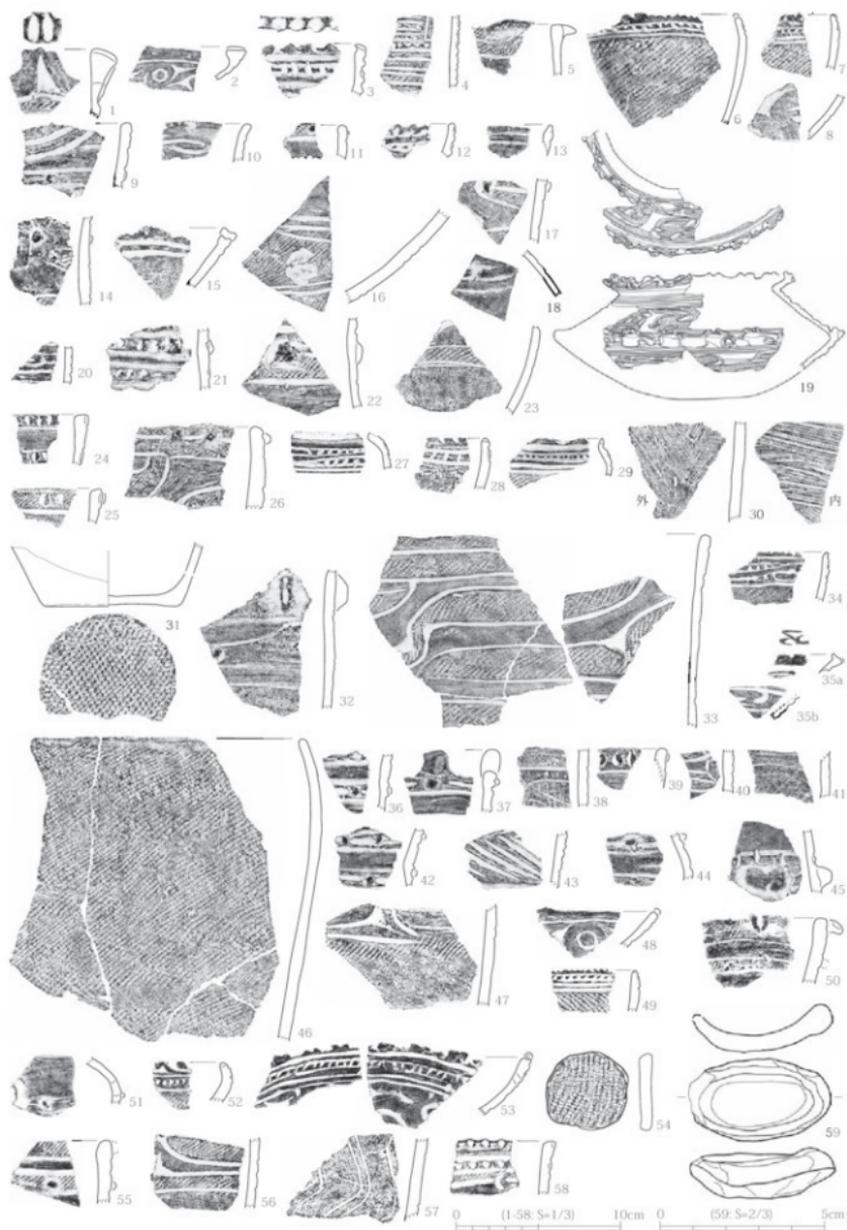
## E. Pit

I区で確認したピットで建物や住居の柱穴として捉えられなかったものをまとめて提示し、代表的なものについて記述する。各ピットの位置については図版7、8、27、44を参照のこと。

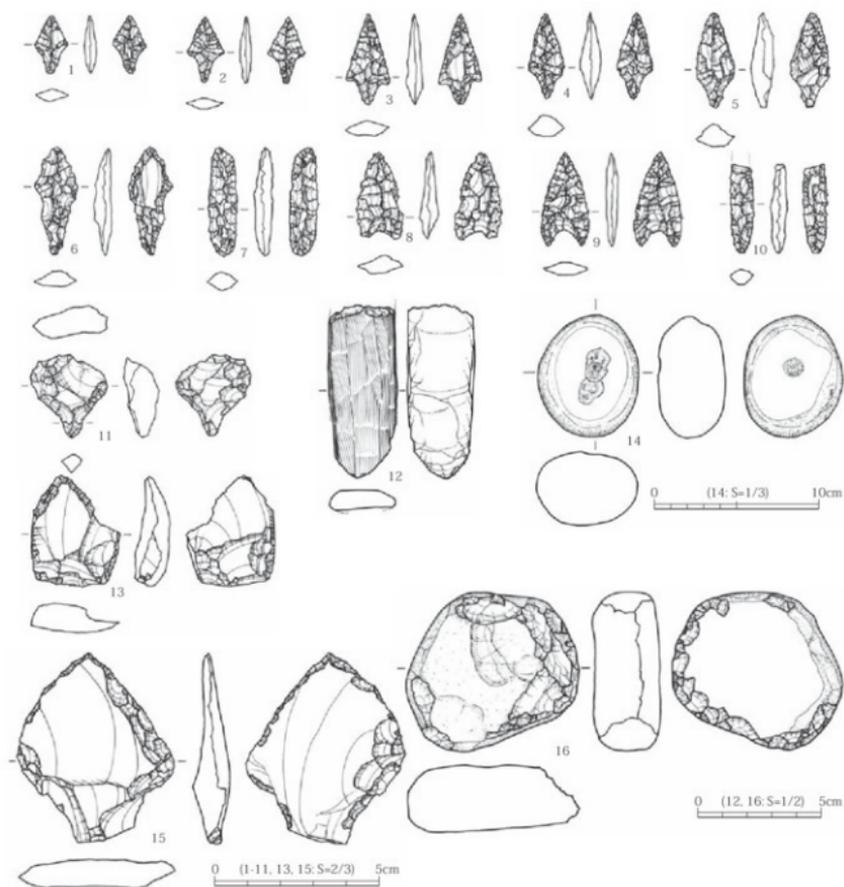
Pit1109は直径75cmの円形で、残存する深さ100cmの柱穴である。石鉄や石錐などがまどまど出土している。Pit1119は長径110cm以上、短径60cmの楕円形で、残存する深さが40cmである。雲形文が施された注口土器が出土している。Pit1135は直径70cmの円形で残存する深さ50cmの柱穴である。遺物は羊歯状文をもつ鉢が出土している。このほかPit1114から入組三叉文や羊歯状文をもつ深鉢、Pit1146から石匙、Pit1214から円盤状石製品が出土している(図版53～55)。

第6表 I区・I区南 Pit 出土遺物属性表

No.	器種	遺構/層	特徴	写真掲載	登録
53-1	深鉢	P1106	突起(切羽部)、三叉文、縄文彫体不明		Pot1178
53-2	皿か/台付浅鉢	P1106	平縁・突起、玉取き三叉文	31-25	Pot1179
53-3	深鉢	P1106	平縁・ヘラ削目、平行沈線文、ヘラ削目、胎土に長石多	31-26	Pot1180
53-4	深鉢	P1109	平行沈線文、縦帯短沈線、刺突列	31-27	Pot1189
53-5	深鉢	P1109	波状縁か。垂り出し状の突起、平行沈線文、縄文LR		Pot1194
53-6	鉢	P1109	平縁・卵形・一割一弁の突起、平行沈線文、ヘラ削目、縄文LR、炭化物付着		Pot1185
53-7	浅鉢	P1109	平縁・ヘラ削目、羊歯状文、縄文LR	31-34	Pot1190
53-8	皿か	P1109	雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR		Pot1191
53-9	深鉢	P1114/柱頭跡	波状沈線文、胎瘤		Pot1198
53-10	深鉢	P1114/柱頭跡	平縁、入組三叉文		Pot200
53-11	深鉢か	P1114	平縁、沈線文、胎瘤、縄文LR		Pot205
53-12	鉢か	P1114	平縁・卵形列、羊歯状文	31-32	Pot203
53-13	鉢か	P1114	平縁、平行沈線文		Pot204
53-14	深鉢	P1117	帯状文、胎瘤、縄文LR		Pot212
53-15	浅鉢	P1117	波状縁、1呼吸器沈線、平行沈線文、縄文LR		Pot213
53-16	不明	P1117	沈線文、縄文LR		Pot211
53-17	深鉢	P1119	入組帯状文、胎瘤、縄文LR		Pot218
53-18	壺	P1119	三叉文か、朱付着		Pot216
53-19	注口	P1119、BG104/IV、BE105/IV	平縁・羊歯状浮線文、雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR、黒漆塗りか	31-39	Pot1217
53-20	不明	P1120	入組三叉文		Pot1220
53-21	深鉢	P1120	帯状文(刺突削目)、胎瘤		Pot1219
53-22	深鉢	P1121	帯状文、胎瘤、縄文LR		Pot1226
53-23	皿か	P1122	帯状文、縄文LR		Pot1227
53-24	深鉢	P1146	平縁、入組帯状文(刺突削目)		Pot1278
53-25	深鉢か	P1151	平縁、帯状文(刺突削目、縄文)、沈線文、縄文LR		Pot1279
53-26	深鉢	P1151	平縁、入組三叉文、縄文LR	31-30	Pot1277
53-27	浅鉢	P1135/柱頭跡	羊歯状文	31-28	Pot1294
53-28	深鉢	P1146	波状縁、沈線文、ヘラ削目、縄文LRか(末端部強調)		Pot1273
53-29	浅鉢	P1146	小波状縁、平行沈線文、ヘラ削目、縄文LR	31-35	Pot1272
53-30	深鉢	P1164	山形条線文		Pot1293
53-31	深鉢	P1143	底部に刺代直		Pot1267
53-32	深鉢	P1155	帯状文(つや消し)、胎瘤(卵形有り)、胎瘤		Pot1282
53-33	深鉢	P1155	入組帯状文(縄文)、縄文LR、炭化物	31-33	Pot1280
53-34	鉢	P1155	平縁・ヘラ削目、羊歯状文、縄文LR	31-31	Pot1286
53-35	皿か	P1155	平縁・羊歯状浮線文、雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR		Pot1288
53-36	深鉢か	P1186/柱頭跡	平行沈線文、胎瘤		Pot1314
53-37	深鉢	P1186/柱頭跡	平縁・突起、平行沈線文、胎瘤	31-37	Pot1315
53-38	深鉢	P1166/柱頭跡	帯状文か	31-36	Pot1295
53-39	深鉢	P1166/柱頭跡	平縁、刺突削目、沈線文		Pot1298
53-40	深鉢か	P1166/埋土	入組帯状文(縄文)、縄文彫体不明		Pot1301
53-41	深鉢か	P1166/埋土	格子状条線文		Pot1300
53-42	深鉢	P1186/柱頭跡	帯状文(短沈線文)、胎瘤		Pot1317
53-43	深鉢	P1186/柱頭跡	矢羽根状沈線文		Pot1312
53-44	皿か	P1188	平行沈線文、胎瘤	32-2	Pot1319
53-45	深鉢	P1188	平行沈線文、ヘラ削目、胎瘤	32-4	Pot1320
53-46	深鉢	P1144	平縁、縄文LR		Pot1271
53-47	深鉢	P1213	入組帯状文、縄文LR、炭化物付着	32-5	Pot1331
53-48	浅鉢	P1213/埋積土	平縁・小突起、玉取き三叉文	32-6	Pot1330
53-49	鉢	P1213/埋積土	平縁・ヘラ削目、列点文、平行沈線文、縄文LR	32-7	Pot1329
53-50	鉢	P1217/埋土	平縁、胎瘤、帯状文、縄文LR、炭化物付着	32-9	Pot1334
53-51	注口	P1220	胎瘤、帯状文(沈線文)	32-10	Pot1336
53-52	鉢	P1220/埋積土	平縁・ヘラ削目、三叉文、平行沈線文、ヘラ削目、縄文LR	32-11	Pot1337
53-53	浅鉢	P1220/埋積土	平縁・ヘラ削目、卵形のある突起、平行沈線文、列点文、Z字状文、補修孔	32-12	Pot1338
53-54	円盤	P1155	最大径48mm、厚径7mm、波線を打ち欠きと研磨で成形、縄文LR		土102
53-55	深鉢	P1241	平縁、胎瘤、帯状文、縄文LR	32-14	Pot1342
53-56	深鉢	P1241/埋積土	入組帯状文か、縄文LR	32-16	Pot1341
53-57	深鉢	P1254	波状平行沈線文	32-15	Pot1345
53-58	深鉢	P1254	平縁、帯状文(刺突削目、縄文)、縄文LR		Pot1344
53-59	ミニチュア	P1166/埋	長径44mm、短径25mm、器高14mm、舟形の楕円形手つく土器。	31-38	土33

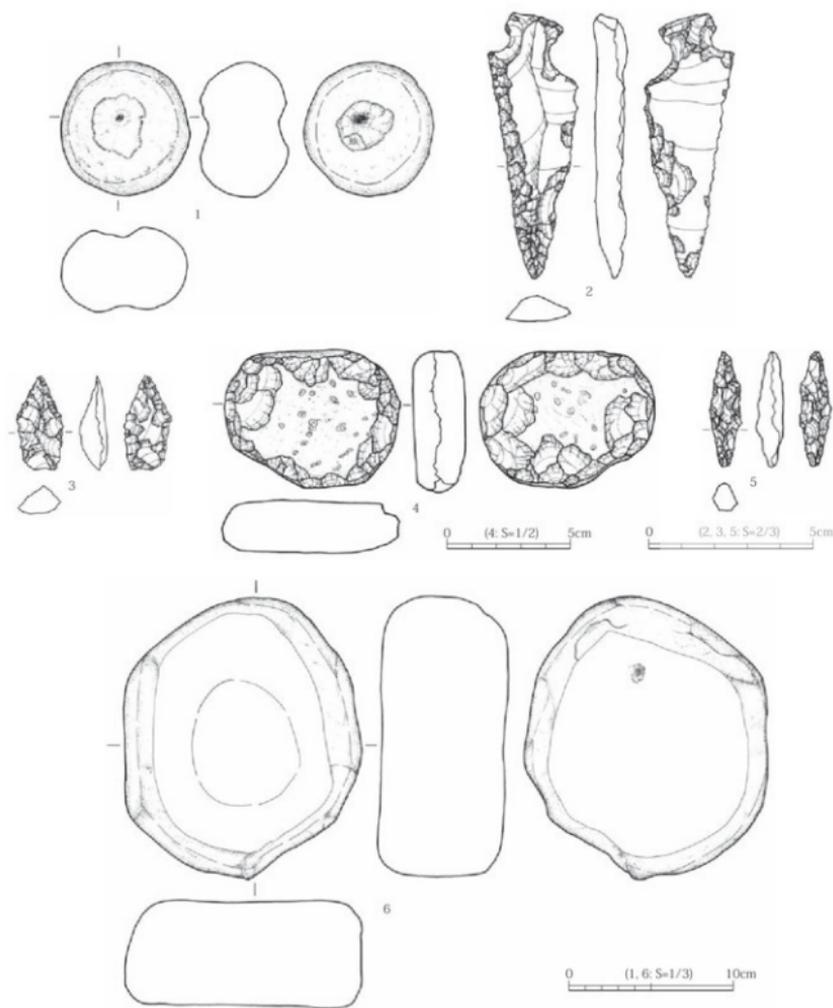


图版 53 I 区·I 区南 Pit 出土物(1)



No	品種	類型	遺跡/層	石材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	加熱処理	変形	付着物	備考	写真ID名	登録
54-1	石鏃	I b 3	P1109	珉質頁岩 A	17.3	9.8	3.7	0.4	完形	0	0	0		32-19	S1084
54-2	石鏃	I a 2	P1109/1	碧玉 A	19.8	11.1	3.1	0.5	完形	2	0	0		32-18	S1026
54-3	石鏃	I a 3	P1109/1	緑色凝灰岩	27.5	12.8	4.6	0.8	完形	2	0	0		32-20	S1032
54-4	石鏃	I b 3	P1109/1	珉質頁岩 A	26.0	10.5	6.0	1.2	完形	0	0	0		32-21	S1030
54-5	石鏃	I b 3	P1109/1	玉髓	28.7	11.6	6.6	1.8	完形	1	0	0		32-22	S1033
54-6	石鏃	I b 2	P1109/1	珉質頁岩 A	32.4	12.7	5.8	1.5	完形	1	0	0		32-23	S1034
54-7	石鏃	I c 2	P1109	珉質頁岩 A	33.3	9.0	5.6	1.7	完形	2	先端内加工	0		32-24	S1086
54-8	石鏃	IV b 3	P1109/1	碧玉 A	26.6	13.9	5.1	1.3	完形	2	0	0		32-25	S1036
54-9	石鏃	IV a 3	P1109/1	珉質頁岩 A	28.6	14.3	3.6	1.2	完形	2	0	基部		32-26	S1031
54-10	石鏃	不明	P1109/1	珉質頁岩 A	26.6	6.8	4.1	1.0	基部のみ	2	0	0	先端埋藏	32-27	S1035
54-11	石鏃	II b 2	P1109	珉質頁岩 A	25.2	23.3	9.4	4.7	完形	1	先端内加工	0	先端埋藏	32-29	S1091
54-12	石刀	-	P1109	粘板岩	71.7	27.1	7.8	20.9	破片	0	0	0		32-37	S6317
54-13	不定形石器	I	P1122	珉質頁岩 A	34.2	27.2	10.1	9.1	完形	0	0	0		32-31	S1094
54-14	凹石	-	P1122	安山岩	73.6	60.0	42.8	229.3	完形	0	磨石→	0		32-34	S6319
54-15	不定形石器	I	P1135	珉質頁岩 A	58.6	48.4	9.6	21.4	完形	0	0	0		32-32	S1095
54-16	円盤状石製品	I b	P1135/埋土	安山岩	66.3	70.1	26.7	187.9	完形	0	磨面あり	0		32-38	S6320

図版 54 | 区・I 区南 Pit 出土遺物 (2)



No	品名	类型	墓葬/层	石材	长 (mm)	宽 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	加热处理	变形	伴葬物	编号/坑	坐标
1	凹石	-	P1143	崑山岩	82.6	78.1	53.0	410.0	完整	0	0	0	32-33	S6322
2	石鏃	1 a.1	P1146	瑯貫頁岩 A	81.8	27.9	9.4	16.1	完整	0	0	0	32-30	S1097
3	石鏃	1 a	P1164	瑯貫頁岩 A	28.4	13.7	7.9	2.5	完整	0	0	0	32-17	S1099
4	凹盤状石製品	1 b	P1214/埋土	崑山岩	57.1	72.9	21.1	149.3	完整	0	0	0	32-39	S6326
5	石鏃	1 a.2	P1217	瑯貫頁岩 A	35.1	9.5	8.5	2.4	先端欠	0	0	0	32-28	S1101
6	石鏃	-	P1230/埋方	崑山岩	170.8	144.9	61.1	2720.0	完整	0	0	0	32-36	S1583

图版 55 I 区·I 区南 Pit 出土遗物(3)

## 第2節 II区の遺構とその出土遺物

II区で検出した遺構は、縄文時代の掘立柱建物跡群を3カ所、そのほかの掘立柱建物跡8棟、土器埋設遺構4基、集石遺構1基、土坑墓10基、土坑2基、ピットなどである(図版56)。掘立柱建物跡群は桁行1間、梁行1間の建物で、3棟が同じ場所で7～8回建て替えられている。遺構確認面はおもにIVd層上面で、調査区北半部に集中して検出された。調査区南部は開田の造成による削平のため遺構は残存していない。昭和44年に志間泰治氏らによって調査された地点はこの付近であったとみられる。このほかII区北部に遺物包含層が形成されており、縄文時代から弥生時代の土器や石器などが出土している。この遺物包含層の詳細については第6節で後述する。なお、II区西側にある町道の交差点脇の道路拡幅部分(II区西)について調査したところ時期不明の土坑(SK 2100)を検出した。以下、遺構の種類ごとに説明する。

### A. 掘立柱建物跡

II区北部で多数の柱穴を検出し、建て替えを含め31棟の掘立柱建物跡を確認した(図版56)。このうちSB 2213～SB 2267建物跡は7～8棟ずつほぼ同じ位置で重複しており、そのまともりをみると、SB 2220、SB 2259、SB 2215、SB 2213、SB 2214、SB 2221、SB 2217、SB 2218建物跡、SB 2226、SB 2261、SB 2262、SB 2224、SB 2263、SB 2223、SB 2222、SB 2260、SB 2264建物跡、SB 2265、SB 2228、SB 2266、SB 2229、SB 2227、SB 2267、SB 2230建物跡の大きく3群に分かれる。それぞれの建物跡の柱穴の組み合わせは、柱穴の位置、規模、切り合い、埋土の特徴、建物とした場合の位置の連続性を考慮して推定した。これらの建物跡は規模や構造、建てられた位置がほぼ同じであることから3棟の建物の建て替えであると考えられる。

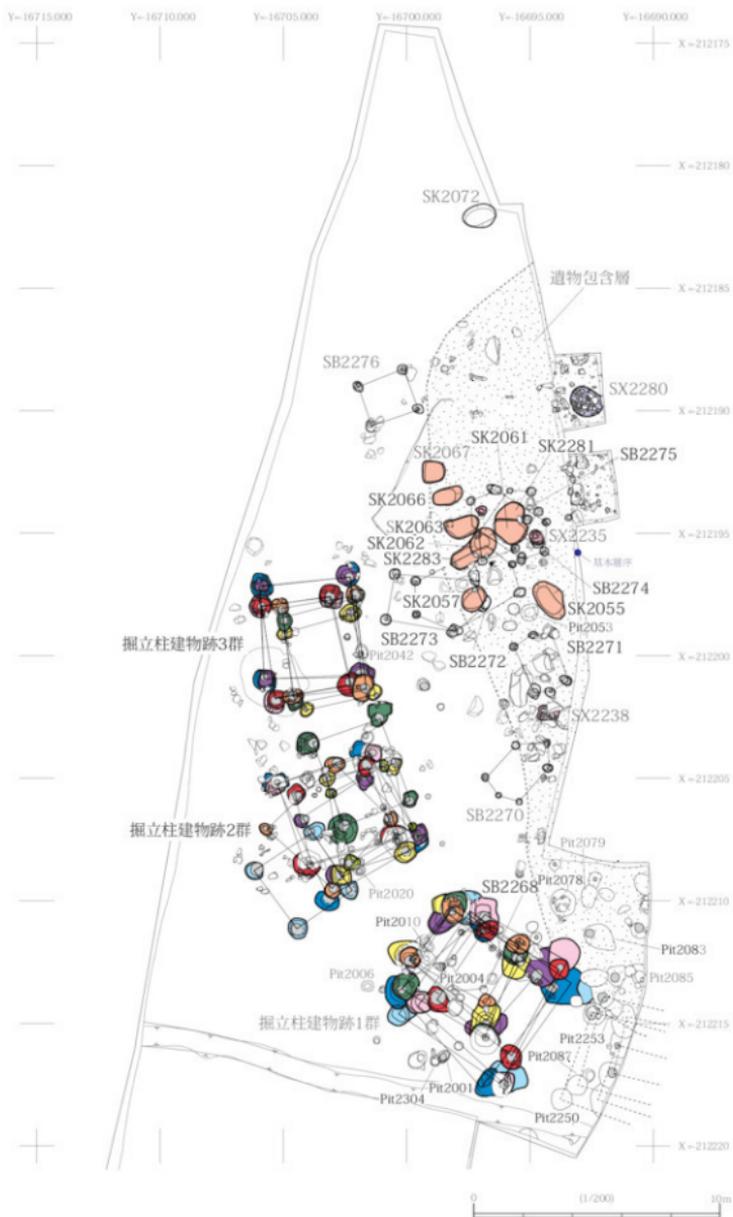
また、調査区南東を拡張し、平面で遺構を確認したところ、柱穴を多数検出したことから、東側にはさらに建物群が並んでいたと推定される。以下ではSB 2213～SB 2267建物跡の各建物跡群を南から掘立柱建物跡1群、掘立柱建物跡2群、掘立柱建物跡3群とし、重複関係については直接柱穴で新旧関係が認められるものについてのみ記述する。

このほかに6本の柱で構成される六角形の建物跡と5本の柱で構成される五角形の建物跡を8棟検出した。これらの建物跡は掘立柱建物跡1～3群の建物跡より柱穴が小さく、SB 2268建物跡ではSB 2214建物跡(掘立柱建物跡1群)と柱穴が重複し、これより古い。五本柱または六本柱構造の建物跡は四本柱構造の建物跡よりも古い時期の建物であると思われる。

#### 【掘立柱建物跡1群】

調査区中央付近で確認した(図版56、57)。検出面はIV層である。

SB 2220、SB 2259、SB 2215、SB 2213、SB 2214、SB 2221、SB 2217、SB 2218建物跡が含まれる。1間×1間の建物跡で平面形は正方形または長方形である。これらの建物



図版 56 II区遺構配置

跡は柱穴がほぼ同じ位置で検出され、規模や構造も類似していることから同じ建物の建て替えと考えられる。以下、古い順に説明する。

#### 【S B 2220 建物跡】

〔重複〕 S B 2259(P1. P2. P3. P4)、S B 2213(P2. P3. P4)、S B 2214(P2)、S B 2217(P4)、S B 2218(P4) 建物跡と重複し、これらより古い。

〔規模・構造〕 1間×1間で平面形はほぼ正方形である。

〔柱間寸法〕 P1-P2間約4.9m、P2-P3間約5.0m、P3-P4間約5.1m、P4-P1間約5.2mである。

〔方向〕 東側柱列でみると、北で42°東に偏する。

〔柱穴〕 4カ所で確認した。直径約130cmの円形または楕円形で、残存する深さは60～70cmである。埋土は地山ブロックを多く含む黒褐色シルトである。柱痕跡は検出されなかった。

〔出土遺物〕 深鉢、壺、土偶の胸部が出土している(図版58、61)。

#### 【S B 2259 建物跡】

〔重複〕 S B 2220、S B 2213、S B 2214、S B 2215、S B 2217、S B 2218 建物跡と重複する。S B 2220 建物跡より新しく、S B 2213(P1. P2. P3. P4)、S B 2214(P1. P4)、S B 2215(P1)、S B 2217(P3)、S B 2218(P4) 建物跡より古い。

〔規模・構造〕 1間×1間で平面形は歪んだ正方形である。柱間寸法はP1-P2間約4.8m、P2-P3間約5.1m、P3-P4間約4.7m、P4-P1間約4.3mである。

〔方向〕 東側柱列でみると、北で42°東に偏する。

〔柱穴〕 4カ所で確認した。長径100～170cm・短径90～120cm、残存する深さ50～85cmの楕円形である。埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルトを主体としている。1カ所で柱痕跡と柱抜き取り穴を確認した。柱痕跡は直径約50cmの円形である。

〔出土遺物〕 貼瘤や三叉文が施された土器が出土している(図版58-28)。

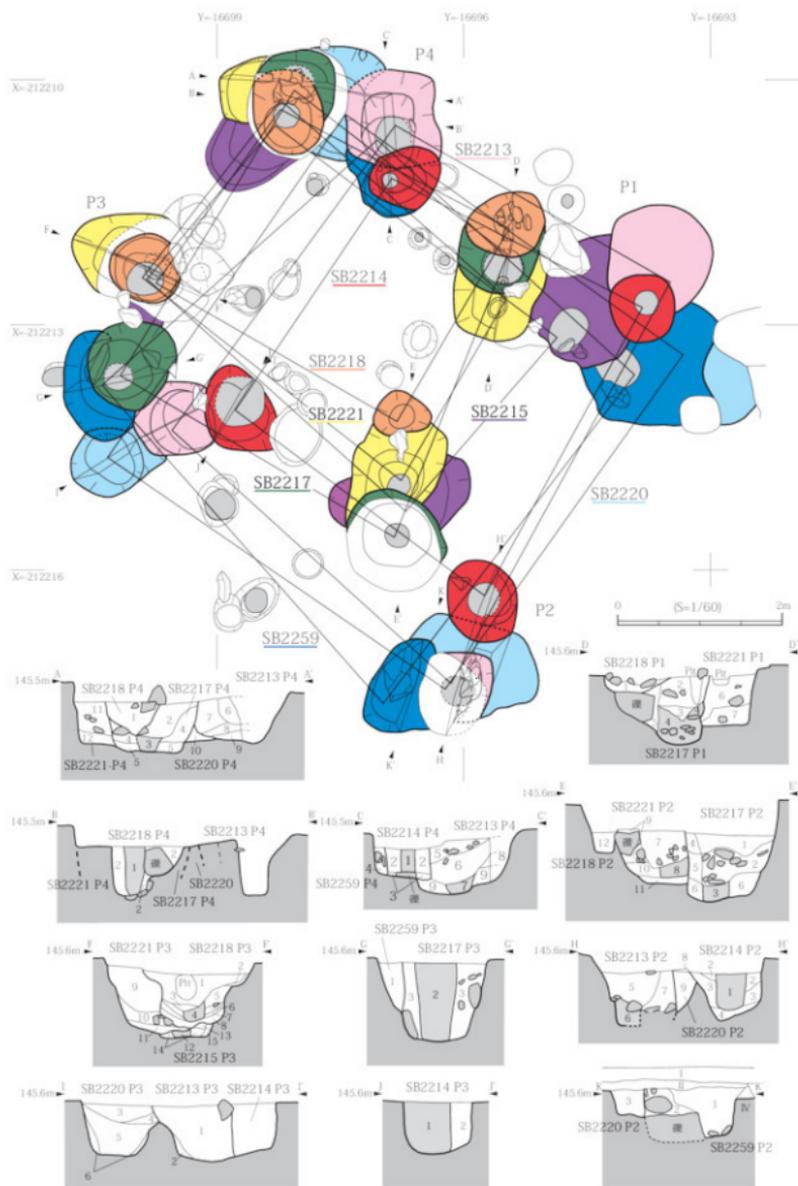
#### 【S B 2215 建物跡】

〔重複〕 S B 2213、S B 2214 (P1)、S B 2217 (P2. P3. P4)、S B 2218 (P3. P4)、S B 2221 (P1. P2. P4) S B 2259(P1) 建物跡と重複する。S B 2259(P1) 建物跡より新しく、S B 2213、S B 2214 (P1)、S B 2221 (P1. P2. P4)、S B 2217 (P2. P3. P4)、S B 2218 (P3. P4) 建物跡より古い。

〔規模・構造〕 1間×1間で平面形は北西-南東に長い長方形である。柱間寸法はP1-P2間約2.9m、P2-P3間約4.2m、P3-P4間約2.8m、P4-P1間約4.3mである。

〔方向〕 東側柱列でみると北で東に46°偏する。

〔柱穴〕 4ヶ所で確認した。長径80～160cm、短径80～120cm、残存する深さ30～78cmの楕円形である。埋土は地山ブロックを多く含む黒褐色や褐色シルトである。2カ所で柱痕跡を、2カ所



图版 57 掘立柱建物跡 1 群 平面図・断面図

第7表 掘立柱建物跡1群 土層観察表

遺構名	順序	土色	土性	特徴	分類
SB2218-P4	1	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山粒～地山小ブロック・礫・炭化物粒を多く含む	柱穴埋土
	2	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山粒を含む。炭化物粒を多く含む。礫を少し含む	柱取穴
	3	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山粒を少し含む。炭化物粒をごくわずかに含む	柱面跡
SB2217-P4	4	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山粒～地山ブロックを多く含む	柱穴埋土
	5	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山粒～地山小ブロックを少し含む	柱穴埋土
	6	黒褐色 (10YR2/1)	シルト	地山粒・炭化物粒を少し含む	柱取穴
SB2213-P4	7	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山小ブロック～大ブロックを多く含む。炭化物粒を少し含む	柱穴埋土
	8	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	シルト	地山粒を多く含む	柱穴埋土
	9	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山粒～地山ブロックを含む	柱穴埋土
SB2220-P4	10	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山粒～地山ブロックを含む	柱穴埋土
SB2221-P4	11	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山粒～地山ブロック・礫を多く含む。炭化物粒を含む	柱穴埋土
	12	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山粒～地山小ブロックを含む	柱穴埋土
SB2218-P4	1	黒褐色 (10YR2/2)	粘質シルト	粘土粒・炭化物粒をわずかに含む	柱面跡
	2	黒褐色 (10YR2/2)	粘質シルト	地山小ブロック・粘土粒・炭化物粒を含む	柱穴埋土
SB2214-P4	1	黒色 (10YR2/1)	シルト		柱面跡
	2	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山粒を少し含む。木炭片 (径 1～2cm) をわずかに含む	柱穴埋土
	3	灰黄褐色 (10YR5/2)	粘質シルト	地山粒～地山ブロックを多く含む。酸化鉄を少し含む	柱穴埋土
SB2213-P4	4	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山粒・炭化物粒を少し含む	柱取穴
	5	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	地山粒・炭化物粒を少し含む	柱取穴
	7	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山粒を少し含む。炭化物粒をごくわずかに含む	柱面跡
SB2259-P1	8	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	シルト	地山粒を多く含む	柱穴埋土
	9	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山粒～地山ブロックを含む	柱穴埋土
	1	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山粒～地山ブロックを少し含む。礫が比較的多い	柱取穴
SB2218-P1	2	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山粒・炭化物粒を少し含む。礫を多く含む	柱穴埋土
	3	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山粒～地山ブロックを多く含む	柱取穴
SB2217-P1	4	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山粒～地山ブロックを少し含む	柱取穴
	5	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山小ブロックを含む。礫を多く含む	柱面跡
	6	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山粒を少し含む。炭化物粒をわずかに含む。大礫を含む	柱穴埋土
SB2221-P1	7	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山粒～地山ブロックを多く含む	柱穴埋土
	8	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山粒をわずかに含む。1に比べ粘性・臭味強い	柱穴埋土
	1	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山粒・地山小ブロック・粘土小ブロック・炭化物粒を多く含む	柱取穴
SB2217-P2	2	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山粒～地山大ブロック・大礫を多く含む	柱取穴
	3	黒色 (10YR2/1)	粘質シルト	地山粒をわずかに含む	柱面跡
	4	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山小ブロック・粘土小ブロック・炭化物小ブロックを含む	柱穴埋土
	5	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山ブロックを多く含む。炭化物を多く含む	柱穴埋土
	6	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	上層部に地山粒を少し含む	柱穴埋土
	7	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山粒～地山大ブロック・礫・炭化物粒・木炭片を多く含む	柱取穴
SB2221-P2	8	黒色 (10YR2/1)	シルト	地山粒を少し含む	柱面跡
	9	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山粒～地山大ブロック・礫・炭化物粒を多く含む	柱穴埋土
	10	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山粒をわずかに含む	柱穴埋土
SB2218-P2	11	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	地山粒・地山小ブロックを少し含む	柱穴埋土
	12	黒褐色 (10YR2/2)	粘質シルト	炭化物小ブロックを少し含む。粘土粒をわずかに含む	埋土
	1	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山小ブロックを多く含む。炭化物粒をわずかに含む	柱取穴
	2	黒褐色 (10YR3/1)	粘質シルト	地山粒を含む。地山小ブロックを少量含む	柱取穴
	3	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山ブロックを多く含む	柱穴埋土
	4	黒色 (10YR2/1)	粘質シルト	地山ブロックを多く含む	柱面跡
SB2218-P3	5	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山小ブロックを多く含む	柱穴埋土
	6	黒褐色 (10YR2/2)	粘質シルト	地山粒を少し含む	柱穴埋土
	7	黄褐色 (10YR8/6)	粘土	黒色粘質シルト小ブロックを含む	柱穴埋土
	8	黒色 (10YR2/1)	粘質シルト	地山小ブロックを含む。黒褐色粘質シルト小ブロック・小礫・礫を含む	柱穴埋土
	9	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘質シルト	地山小ブロック・黒褐色粘質シルト小ブロックを多く含む	柱穴埋土
SB2221-P3	10	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山小ブロックを少し含む	柱穴埋土
	11	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山小ブロックを多く含む	柱穴埋土
	12	黒色 (10YR2/1)	粘質シルト	地山粒を含む	柱面跡
SB2215-P3	13	黒褐色 (10YR3/1)	粘質シルト	地山粒を多く含む	柱穴埋土
	14	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山粒を多く含む	柱穴埋土
	15	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山粒を多く含む	柱穴埋土
SB2214-P3	1	黒色 (10YR2/1)	シルト	地山ブロックを部分的に少し含む。粘土粒・炭化物粒を少量含む	柱面跡
	2	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山粒～地山大ブロックを多く含む。礫を含む	柱穴埋土
SB2214-P2	1	黒色 (10YR2/1)	シルト	地山粒・地山小ブロックを少し含む。炭化物を少し含む	柱面跡
	2	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山粒～地山大ブロックを多く含む。炭化物を少し含む	柱穴埋土
	3	褐色 (10YR4/4)	シルト	地山ブロックを主体とする。黒褐色シルトが強い	柱穴埋土
SB2213-P2	4	黒褐色 (10YR2/2)	粘質シルト		柱穴埋土
	5	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山小ブロックを多く含む。炭化物粒を多く含む	柱取穴
	6	黒色 (10YR2/1)	粘質シルト	地山粒～地山ブロックを少し含む	柱面跡
SB2220-P2	7	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山粒～地山ブロックを非常に多く含む	柱穴埋土
	1	黒褐色 (10YR2/3)	粘質シルト	地山小ブロックを少し含む。炭化物を少し含む	柱穴埋土
	2	暗褐色 (10YR3/3)	粘質シルト	地山小ブロック～地山大ブロックを非常に多く含む。炭化物粒を多く含む	柱穴埋土
SB2213-P3	1	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山粒～地山ブロック・炭化物粒を含む	柱取穴
	2	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山粒～地山ブロック・炭化物粒を少し含む	柱穴埋土
	1	暗褐色 (10YR3/3)	シルト		柱取穴
SB2220-P3	2	褐色 (10YR4/4)	シルト	地山ブロックを主体とする	柱取穴
	3	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山大ブロックを部分的に少し含む	柱取穴
	4	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山粒～地山大ブロックを含む	柱取穴
SB2214-P3	1	黒色 (10YR2/1)	シルト	地山ブロックを部分的に少し含む。粘土粒・炭化物粒を少量含む	柱面跡
	2	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山粒～地山大ブロックを多く含む。礫を含む	柱穴埋土
SB2259-P2	1	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山粒～地山ブロックを多く含む。炭化物粒を少し含む	柱取穴
	2	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山小ブロックを含む	柱穴埋土
SB2220-P2	3	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山粒を多く含む。小礫・炭化物粒を少し含む	柱穴埋土

で柱抜き取り穴確認した。柱痕跡は直径約40cmの円形である。

〔出土遺物〕深鉢、浅鉢、注口土器、磨製石斧、石鐮、円盤状石製品(図版58、62)が出土している。

#### 【S B 2213 建物跡】

〔重複〕S B 2215、S B 2220、S B 2259、S B 2214、S B 2217 建物跡と重複する。S B 2215(P1)、S B 2220(P2、P3、P4)、S B 2259(P1、P2、P3、P4) 建物跡より新しく、S B 2214 (P1、P3、P4)、S B 2217 (P3、P4) 建物跡より古い。

〔規模・構造〕1間×1間で平面形はほぼ正方形である。柱間寸法はP1-P2間約5.8m、P2-P3間約4.7m、P3-P4間約4.5m、P4-P1間約4.0mである。

〔方向〕西側柱列でみると北で37°東へ偏する。

〔柱穴〕4カ所(P1～P4)で確認した。長径80～130cm、短径80～100cm、残存する深さ70～90cmの楕円形で、埋土は地山ブロックを多く含む暗褐色または黒褐色シルトを主体とする。1カ所で柱痕跡を、3カ所で柱抜き取り穴を確認した。柱痕跡は直径38cmの円形である。

〔出土遺物〕深鉢、鉢、壺が出土している。玉抱き三叉文が施された鉢や壺がある(図版58)。

#### 【S B 2214 建物跡】

〔重複〕S K 2204土坑、S B 2213、S B 2215、S B 2220、S B 2259 建物跡と重複する。S B 2213 (P1、P3、P4)、S B 2215 (P1)、S B 2220 (P2)、S B 2259 (P1) 建物跡より新しく、S K 2204土坑より古い。

〔規模・構造〕1間×1間で平面形はほぼ正方形である。柱間寸法はP1-P2間4.2m、P2-P3間3.8m、P3-P4間3.4m、P4-P1間3.4mである。

〔方向〕西側柱列でみると北で東に36°偏する。

〔柱穴〕4カ所で確認した。直径80～117cm、残存する深さ54～94cmの円形で、埋土は地山ブロックを多く含む黒褐色や褐色シルトである。4カ所で柱痕跡を確認した。直径30～60cmの円形である。

〔出土遺物〕鉢、浅鉢、壺(図版59-3～5)、不定形石器(図版62-8・9)が出土している。

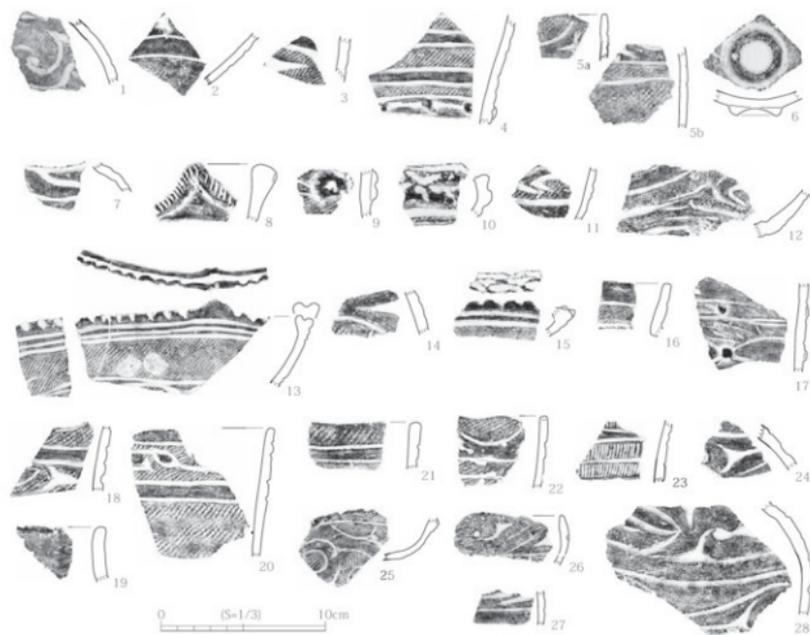
#### 【S B 2221 建物跡】

〔重複〕S B 2217、S B 2218、S B 2215 建物跡と重複する。S B 2215 建物跡より新しく、S B 2217 (P1、P2、P4)、S B 2218 (P2、P3) 建物跡より古い。

〔規模・構造〕1間×1間で平面形は北西-南東に長い長方形である。柱間寸法はP1-P2間約2.4m、P2-P3間約4.2m、P3-P4間約2.6m、P4-P1間約4.0mである。

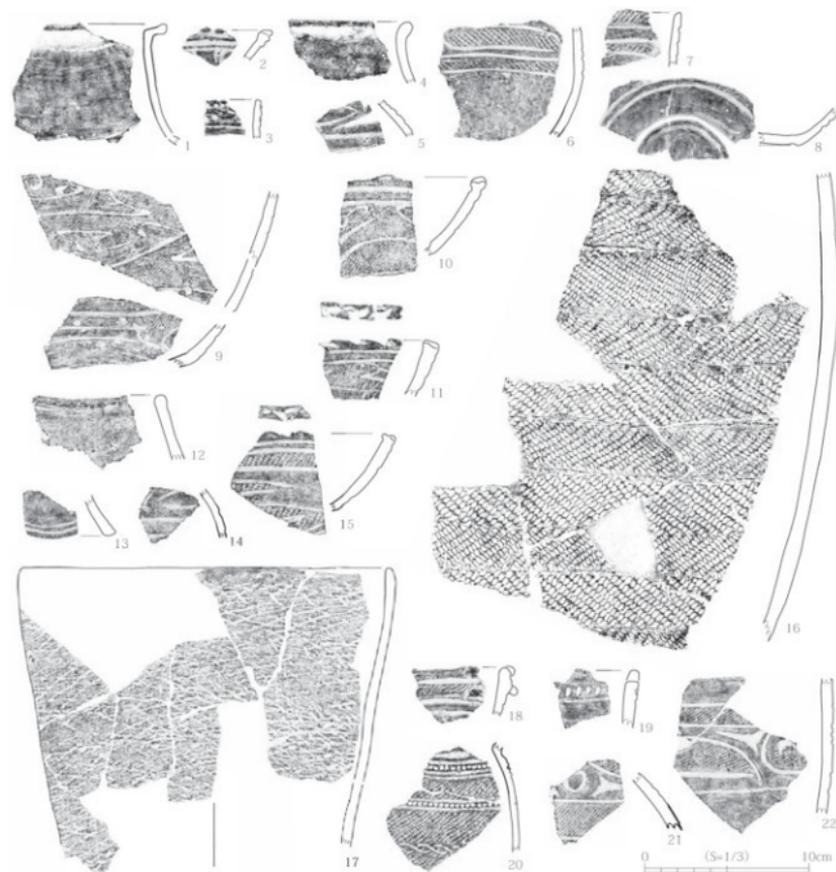
〔方向〕東側柱列でみると、北で38°東に偏する。

〔柱穴〕4カ所で確認した。長径100～140cm・短径80～100cm、残存する深さ20～70cmの楕円形である。埋土は地山ブロックを含む黒褐色粘土質シルトや黒色粘土質シルトブロックを含む黄褐色粘土である。2カ所で柱痕跡を、1カ所で柱抜き取り穴を確認した。柱痕跡は直径約30cmの円形である。



No	器種	通標/層	特徴	写真収取	登録
58-1	甬	SB2220-P2	玉肩き三叉文	33-1	Pat2404
58-2	浅鉢	SB2220-P2	沈線文、縄文顔体不明	33-2	Pat2405
58-3	深鉢	SB2220-P2	三叉文か、縄文LR	33-3	Pat2406
58-4	深鉢	SB2220-P3/ 瀬方埋土	胎線、帯状文、縄文LR	33-4	Pat2407
58-5	鉢	SB2220-P3/ 瀬方埋土	小波状線、三叉文、縄文顔体不明	33-5	Pat2408
58-6	鉢か	SB2220-P3/ 瀬方埋土	胎状文帯		Pat2409
58-7	甬	SB2259-P4/ 瀬方埋土	沈線文	33-6	Pat2479
58-8	深鉢	SB2215-P1/ 確認面	波状線か、帯兩状刷目、弧状沈線文	33-7	Pat2354
58-9	深鉢	SB2215-P1/ 確認面	胎線、帯状文、縄文LR		Pat2357
58-10	注口	SB2215-P1/ 確認面	X字状浮線文	33-8	Pat2356
58-11	浅鉢	SB2215-P1/ 確認面	雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR、炭化物付着		Pat2358
58-12	浅鉢	SB2215-P1/ 確認面	雲形文(磨り消し縄文)、内面沈線		Pat2353
58-13	浅鉢	SB2215-P1	平線・波状浮線文・山形突起、雲形文、縄文LR、1. 胎線内面付着面ありだし	33-9	Pat2359
58-14	器種不明	SB2215-P1	三叉文、縄文LR		Pat2360
58-15	注口土器	SB2215-P3/ 瀬方埋土	平兩状浮線文、平行沈線文、縄文LR		Pat2361
58-16	鉢	SB2213-P2	胎線、帯状文(縄文)、縄文LR		Pat2369
58-17	深鉢	SB2213、SB2220-P3	胎線、帯状文(→中消し)	33-10	Pat2343
58-18	深鉢	SB2213、SB2220-P3	三叉文、縄文LR、炭化物付着	33-11	Pat2348
58-19	深鉢か甬	SB2213、SB2220-P3	平線	33-12	Pat2349
58-20	深鉢	SB2213、SB2220-P3	平線、人形帯状文(縄文)、三叉文、門文、縄文LR	33-13	Pat2346
58-21	深鉢	SB2213、SB2220-P3	帯状文、縄文LR、炭化物付着		Pat2342
58-22	深鉢	SB2213、SB2220-P3	小波状線、弧状沈線文、平行沈線文、縄文LR	33-14	Pat2347
58-23	深鉢	SB2213、SB2220-P3	帯状文(帯兩状刷目)		Pat2344
58-24	甬	SB2213、SB2220-P3	三叉文、縄文顔体不明	33-15	Pat2345
58-25	甬か注口	SB2213-P4/ 瀬方埋土	へろ刷目、魚眼状三叉文か、縄文LR	33-16	Pat2350
58-26	鉢	SB2213-P4/ 瀬方埋土	玉肩き三叉文	33-17	Pat2351
58-27	不明	SB2213-P4/ 柱状穴	磨り消し縄文か、縄文LR		Pat2352
58-28	注口か	SB2213、SB2214、SB2259-P4	玉肩き三叉文		Pat2340

図版 58 掘立柱建物跡 1 群 出土土器(1)



No	器種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
1	甕	SB2213, SB2214, SB2259-P4	平縁, 無文	33-20	Pot2341
2	浅鉢	SB2214-P3/柱頭跡	平縁・二個一對の小突起, 平行沈線文, 弧状沈線文	33-18	Pot2526
3	鉢	SB2214-P4	平縁・ヘラ刻目, 羊歯状文, 炭化物付着	33-19	Pot2529
4	甕	SB2214-P3	平縁	33-21	Pot2527
5	甕	SB2214-P4	差形文(充填縄文)	33-22	Pot2528
6	鉢 or 甕	SB2221-P2/埋土	帯状文, 縄文LR	33-24	Pot2421
7	深鉢	SB2221-P2/柱頭取穴	小波状縁, 帯状文(縄文)か, 縄文LR	33-25	Pot2420
8	鉢	SB2221-P2	やや下げ底, 平行沈線文, 縄文LR	33-23	Pot2422
9	皿 or 浅鉢	SB2217-P1	差形文(磨り消し縄文), 縄文LR, 底部内面付着に沈線		Pot2374
10	皿	SB2217-P1	平縁・山形突起・1199形沈線, 差形文(磨り消し縄文), 縄文LR, 上縁部と底部内面付着に沈線		Pot2373
11	浅鉢	SB2217-P1	平縁・羊歯状浮線文, 差形文(磨り消し縄文), 縄文LR		Pot2375
12	鉢	SB2217-P1	平縁		Pot2372
13	付部	SB2217-P1	平行沈線文	33-26	Pot2380
14	甕か	SB2217-P1	差形文(磨り消し縄文), 縄文原形不明		Pot2381
15	浅鉢	SB2217-P1	平縁・羊歯状浮線文, 差形文(磨り消し縄文), 縄文LR		Pot2376
16	深鉢	SB2217-P1, SB2221	羽状縄文LR, LR	33-27	Pot2382
17	深鉢	SB2221, SB2217-P2/埋土	11径(23.0cm), 平縁, 格子状懸垂文R	33-33	Pot2410
18	鉢	SB2217-P2/柱頭取穴	平縁, 貼面, 帯状文(縄文), 縄文LR	33-28	Pot2384
19	深鉢	SB2221, SB2217-P2	平縁・山形突起, 帯状文(新突刻目), 平行沈線文	33-30	Pot2413
20	甕	SB2217-P2/柱頭跡	平行沈線文, ヘラ刻目, 縄文LR, 扇状沈線文, 炭化物付着	33-29	Pot2383
21	甕	SB2221, SB2217-P2	魚眼状三叉文, 帯状文か, 縄文LR	33-31	Pot2417
22	深鉢	SB2221, SB2217-P2	人形帯状文(縄文), 三叉文, 縄文LR	33-32	Pot2415

図版59 掘立柱建物跡1群 出土土器(2)



No	器種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
60-1	鉢	SB221, SB2217-P2	平縁・へう割目、割目、平歯状文、縄文LR	33-34	Poz2414
60-2	鉢	SB221, SB2217-P2	平行沈線文、縄文LR、底部内面付込に段	33-35	Poz2418
60-3	鉢	SB221, SB2217-P2	平縁、平行沈線文、縄文LR	33-36	Poz2412
60-4	深鉢	SB221, SB2217-P2	平縁、引状縄文組LR		Poz2419
60-5	深鉢	SB221, SB2217-P2	平縁、縄文LR未端部強調、炭化物付着	33-38	Poz2411
60-6	皿 or 浅鉢	SB221, SB2217-P2	平縁・平歯状浮線文、雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR	33-37	Poz2416
60-7	鉢	SB2217-P3	平縁、弧状沈線文、三叉文		Poz2386
60-8	鉢	SB2217-P3	平縁・切込み、切込み、平行沈線文、縄文LR		Poz2387
60-9	鉢	SB2217-P3	平縁・切込み、平行沈線文		Poz2388
60-10	皿	SB2217-P3/ 掘方埋土	平縁、縄文LR未端部強調	33-39	Poz2385
60-11	深鉢	SB2217-P4/ 柱成取穴	渦巻文か、縄文原形不明	33-42	Poz2391
60-12	鉢	SB2217-P4/ 柱成取穴	魚形状三叉文	33-40	Poz2390
60-13	浅鉢	SB2217-P4/ 柱成取穴	沈線文		Poz2389
60-14	鉢	SB2217-P4/ 柱成取穴	平行沈線文	33-41	Poz2392
60-15	深鉢	SB2217, SB2218, SB2220-P4	底部に切込みのある波状縁か、弧状沈線文、縄文LR	33-43	Poz2366
60-16	深鉢	SB2217, SB2218, SB2220-P4	平縁、平行沈線文、へう割目		Poz2367
60-17	皿	SB2217, SB2218, SB2220-P4	貼輪、帯状文(楕圓状切目、短沈線文)	33-44	Poz2371
60-18	皿	SB2217, SB2218, SB2220-P4	平縁・突起、渦巻文、菱形文、口縁部肥厚	33-45	Poz2370
60-19	深鉢	SB2217, SB2218, SB2220-P4	平縁、人形帯状文(縄文)、縄文LR	33-46	Poz2364
60-20	深鉢	SB2217, SB2218, SB2220-P4	平縁、引状縄文組LR		Poz2362
60-21	深鉢	SB2218, SB2221-P3/ 掘方埋土	平縁、帯状文(つゆ消し、刺突割目)	33-47	Poz2395
60-22	鉢	SB2217, SB2218, SB2220-P4	平縁・切込み、平歯状文、縄文原形不明		Poz2365
60-23	浅鉢	SB2217, SB2218, SB2220-P4	平縁-X字状浮線文か、平行沈線文、縄文原形不明、漆塗布		Poz2369
60-24	浅鉢	SB2217, SB2218, SB2220-P4	雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR		Poz2368
60-25	注口	SB2217, SB2218, SB2220-P4	楕圓状浮線文、へう割目、雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR、朱付着	33-48	Poz2363

図版60 掘立柱建物跡1群 出土土器(3)



図版 61 掘立柱建物跡 1 群 出土土器・土製品

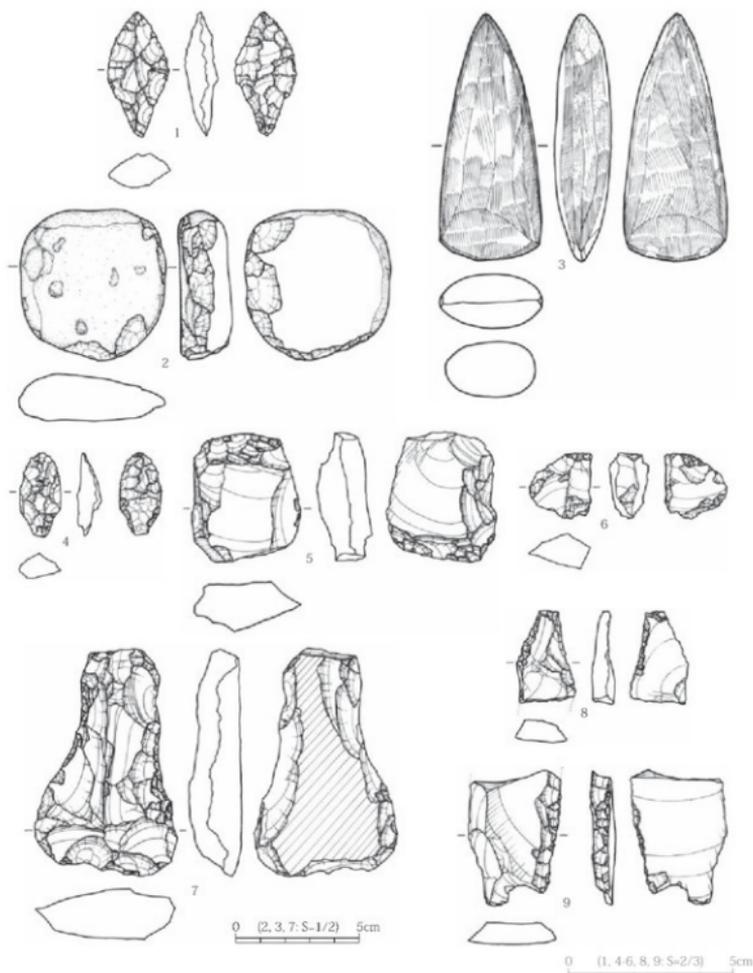
〔出土遺物〕 浅鉢や皿 (図版 59-6 ~ 8)、土偶腕部 (図版 61-13)、土製円盤が出土している。

### 【S B 2217 建物跡】

〔重複〕 S B 2218, S B 2213, S B 2215, S B 2220, S B 2259 建物跡と重複する。S B 2213 (P3, P4)、S B 2215 (P2, P3, P4)、S B 2220 (P4)、S B 2259(P3) 建物跡より新しく、S B 2218 (P1, P4) 建物跡より古い。

〔規模・構造〕 1 間×1 間で平面形はほぼ正方形である。柱間寸法は P1-P2 間約 3.6 m、P2-P3 間 3.8 m、P3-P4 間 4.1m、P4-P1 間 3.6 m である。

No	器種	遺構 / 層	特徴	写真図版	登録
61-1	深鉢	SB2218-P3/ 掘方埋土	胎面、帯状文、縄文 L	33-49	Pos2403
61-2	鉢	SB2218-P3/ 掘方埋土	平縁・へそ割目、半面状文、縄文 RL	33-50	Pos2402
61-3	深鉢	SB2218、SB2221-P3/ 掘方埋土	太陽帯状文 (縄文)、胎面、縄文 L	33-52	Pos2394
61-4	深鉢	SB2218、SB2221-P3/ 掘方埋土	波状縁か、平行波線文、胎面、縄文胎体不明	33-51	Pos2397
61-5	深鉢	SB2218、SB2221-P3/ 掘方埋土	平縁・突起、帯状文か、胎面	33-53	Pos2400
61-6	深鉢	SB2218、SB2221-P3/ 掘方埋土	胎面、太陽帯状文、縄文 L	33-54	Pos2398
61-7	深鉢	SB2218、SB2221-P3/ 掘方埋土	太陽帯状文、縄文胎体不明	33-55	Pos2396
61-8	浅鉢	SB2218、SB2221-P3/ 掘方埋土	雲形文 (磨り消し縄文)、縄文 LR、底部内面付込に段、朱付着	33-56	Pos2399
61-9	注口	SB2218、SB2221-P3/ 掘方埋土	半面状浮線文、雲形文 (磨り消し縄文)、縄文 LR	33-57	Pos2401
61-10	底部	SB2218、SB2221-P3/ 掘方埋土	縄文、底部副代直		Pos2393
61-11	土偶腕部	SB2220-P3/ 掘方埋土	三方弁、胎面	34-1	土 19
61-12	耳飾り	SB2217-P2	環状、無文	33-58	土 35
61-13	土偶腕部	SB2221-P3、P4/ 掘方	環状刺突	33-59	土 20
61-14	土製円盤	SB2221-P2/ 掘方埋土	最大径 44mm、厚さ 8.1mm、波線を打ち欠きで成形、縄文		土 124



No	原種	類型	編號/組	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	殘存	加熱処理	変形	付着物	備考	写真図面	登録
62-1	石鏢	I b 1	SR2215-P3/ 屜方	珪質頁岩 A	37.6	18.6	9.1	4.8	完整	0	0	0		34-2	S2271
62-2	磨製石斧	I a	SR2215-P1	安山岩	101.1	41.3	23.0	139.1	完整	0	0	0		34-4	S2254
62-3	門限状石製品	I b	SR2215-P1/ 柱面跡	安山岩	59.1	61.4	19.1	111.2	完整	0	0	磨面跡あり		34-3	S2262
62-4	石鏢	I c 1	SR2213・2220	珪質層灰岩 A	25.6	12.7	6.5	1.9	完整	2	0	0		34-5	S2253
62-5	不定形石器	Ⅲ d	SR2213・2220	珪質頁岩 A	41.0	34.0	15.4	21.9	完整	0	0	0		34-8	S2023
62-6	不定形石器	Ⅲ e	SR2213-P4/ 屜方	玉髓	19.4	18.2	10.4	3.5	一部分	2	0	0		34-7	S2298
62-7	打製石斧	-	SR2213・2214・2259	凝灰岩	92.5	57.6	21.0	109.4	完整	0	0	0		34-9	S2270
62-8	不定形石器	I	SR2213・2214・2259/P4/ 埋藏土	珪質頁岩 A	28.2	17.3	7.4	3.0	一部分	0	0	0		34-6	S2084
62-9	不定形石器	Ⅲ a	SR2214-P3/ 柱面跡	珪質頁岩 A	41.1	29.9	6.4	9.9	一部分	0	0	0		34-10	S2224

図版 62 掘立柱建物跡 1 群 出土石器 (1)



No	器種	類型	遺跡/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	残存	加熱処理	変形	付着物	保存	写真ID	図號
63-1	石鏃	I a	SB2217・2221	片貫白岩	71.9	38.2	17.8	50.4	完形	0	0	0		34-13	S2001
63-2	石鏃	I a 3	SB2217-P4/ 採取穴	玉髓	21.6	9.5	3.5	0.5	欠片	2	0	0		34-12	S2191
63-3	石鏃	V	SB2217-P4/ 採取穴	玉髓	43.2	17.6	9.9	6.6	完形	0	0	0		34-11	S2192
63-4	不定形石器	I	SB2217-P2/ 採取穴	片貫白岩	42.6	20.8	5.6	3.4	完形	0	0	0		34-17	S2205
63-5	不定形石器	III a	SB2217-P2/ 採取穴	片貫白岩	60.2	86.7	9.2	40.3	完形	0	0	0		34-15	S2272
63-6	磨石	-	SB2217-P4/ 採取穴	玄武岩	146.3	111.9	87.0	1753.0	完形	0	凹行→	黑色付着物		34-16	S2281
63-7	凹石	-	SB2217・2221	玄武岩	43.3	73.3	48.1	132.6	破片	0	0	0		34-15	S2264
63-8	石鏃	I a	SB2218-P4/ 柱頭跡	片貫白岩	21.1	31.5	12.0	6.5	刃部のみ	0	0	0		34-18	S2272
63-9	不定形石器	III d	SB2218・2221	片貫白岩	37.8	32.5	10.5	11.9	一部欠	0	0	0		34-19	S2078
63-10	楔形石器	II ad	SB2217・2218・2220	片貫白岩	26.4	52.3	12.0	17.4	完形	0	0	0		34-20	S2022

図版 63 掘立柱建物跡1群 出土石器(2)

〔方向〕 東側柱列でみると北で東に 23° 偏する。

〔柱穴〕 4ヶ所で確認した。直径 95～114cm、残存する深さ 83～124cm の円形である。埋土は地山ブロックを多く含む黒褐色シルトである。4カ所で柱痕跡を、1カ所で柱抜き取り穴を確認した。柱痕跡は直径 30～50cm の円形である。

〔出土遺物〕 深鉢、鉢、皿、壺（図版 60）、石鏃、磨石、不定形石器（図版 63）、耳飾り（図版 61-12）が出土している。雲形文が施された皿（図版 60-6）や羽状縄文のある深鉢（同図-4）がある。

#### 【S B 2218 建物跡】

〔重複〕 S B 2220(P4)、S B 2215 (P3, P4)、S B 2217 (P1, P4)、S B 2221 建物跡と重複し、これより新しい。

〔規模・構造〕 1間×1間で平面形は北西-南東に長い長方形である。柱間寸法はP1-P2間約 2.8m、P2-P3間約 3.5m、P3-P4間 2.7m、P4-P1間約 3.1mである。

〔方向〕 西側柱列でみると北で 39° 東に偏する。

〔柱穴〕 4カ所で確認した。長径 64～134cm・短径 40～108cm、残存する深さ 59～96cm の楕円形である。埋土は地山ブロックを多く含む黒褐色シルトを主体とし、P1 は礫を多く含む。2カ所で柱痕跡を、1カ所で柱抜き取り穴を確認した。柱痕跡は直径約 30cm の円形である。

〔出土遺物〕 深鉢、鉢、浅鉢、注口土器（図版 60・61）、石鏃（図版 63-8）、楔形石器などが出土している。

#### 【掘立柱建物跡 2 群】

調査区中央で確認した。検出面はⅣ層である。S B 2226、S B 2261、S B 2262、S B 2224、S B 2263、S B 2223、S B 2222、S B 2260、S B 2264 建物跡が含まれる。1間×1間の建物跡で平面形は正方形または長方形である。これらの建物跡は柱穴がほぼ同じ位置で検出され、規模や構造も類似していることから建替えと考えられる。以下、古い順に説明する。

#### 【S B 2226 建物跡】

〔重複〕 S B 2223(P2)、S B 2260(P2) 建物跡と重複し、これより古い。

〔規模・構造〕 1間×1間で平面形は正方形である。柱間寸法はP1-P2間 2.7m、P2-P3間 2.9m、P3-P4間 2.8m、P4-P1間 2.9m である。

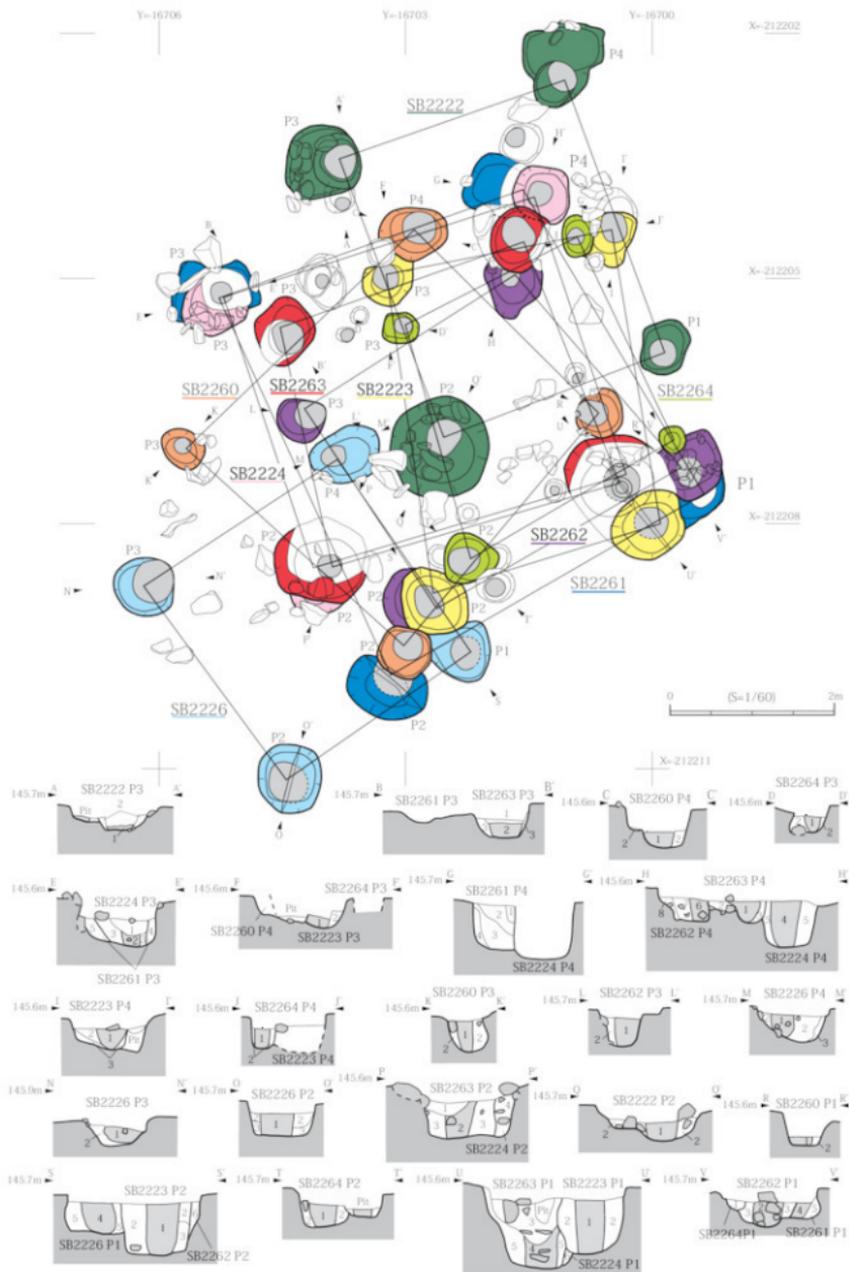
〔方向〕 西側柱列でみると、北で 32° 西に偏する。

〔柱穴〕 4カ所で確認した。直径約 80cm、残存する深さ 36～41cm の円形である。埋土は地山ブロック含む暗褐色または黒褐色粘土質シルトである。柱痕跡を 4カ所で確認した。直径 30～45cm の円形である。

〔出土遺物〕 深鉢、皿の底部付近、石匙が出土している（図版 65、67）。

#### 【S B 2261 建物跡】

〔重複〕 S B 2260(P2)、S B 2263(P1, P4)、S B 2262(P1)、S B 2223(P1)、S B 2224(P3, P4)



图版 64 掘立柱建物跡 2 群 平面図・断面図

第8表 掘立柱建物跡2群 土層観察表

遺構名	順序	土色	土性	特徴	分類
SB2222-P3	A-A	1 暗褐色 (10YR3/4)	粘質シルト	地山粒を含む	柱頭跡
	2	褐色 (10YR4/4)	粘質シルト	地山粒・礫を含む	柱穴土
SB2263-P3	B-F	1 黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山小ブロックを含む	柱根穴跡
	2	黒褐色 (10YR2/2)	シルト		柱頭跡
	3	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山小ブロックを含む	柱穴土
SB2260-P4	C-C	1 黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	焼土粒・地山粒をわずかに含む	柱頭跡
	2	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山大ブロックを含む。焼土小ブロック・炭化物小ブロックをわずかに含む	柱穴土
SB2264-P3	D-D	1 黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山粒・炭化物粒をわずかに含む	柱頭跡
	2	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山小ブロックを含む。地山粒・焼土粒・炭化物粒をわずかに含む	柱穴土
SB2224-P3	E-E	1 黒褐色 (10YR2/3)	粘質シルト	地山小ブロック・焼土粒・炭化物粒をわずかに含む	柱根穴跡
	2	黒褐色 (10YR2/3)	粘質シルト	地山小ブロック・地山ブロックを多く含む	柱頭跡
SB2261-P3	F-F	1 黒褐色 (10YR2/2)	粘質シルト	地山粒・地山小ブロックを含む	柱穴土
	2	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	焼土粒・炭化物粒をわずかに含む	柱穴土
SB2223-P3	F-F	1 黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山粒をわずかに含む。炭化物粒・炭化物小ブロックをわずかに含む	柱頭跡
	2	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山小ブロックを多く含む。焼土粒・炭化物粒をわずかに含む	柱穴土
SB2261-P4	G-G	1 黒色 (10YR2/1)	シルト	焼土粒・炭化物粒を含む	柱根穴跡
	2	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山粒を少し含む	柱穴土
	3	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山小ブロックを含む	柱穴土
	4	黒色 (10YR2/1)	シルト		柱穴土
SB2223-P4		1 黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山小ブロック・焼土粒・炭化物粒をわずかに含む	柱頭跡
	2	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山粒をわずかに含む	柱穴土
	3	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山小ブロック・地山ブロックを含む。炭化物ブロックをわずかに含む	柱穴土
SB2224-P4	H-H	4 黒褐色 (10YR2/2)	シルト		柱頭跡
	5	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山小ブロックを含む	柱穴土
	6	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山小ブロック・焼土粒・炭化物粒をわずかに含む	柱頭跡
	7	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	黒褐色シルトを多く含む。炭化物粒をわずかに含む	柱穴土
	8	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山粒を含む。焼土粒・炭化物粒をわずかに含む	柱穴土
	9	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	焼土粒・炭化物粒をわずかに含む	柱頭跡
SB2223-P4	I-I	1 黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山粒・焼土粒・炭化物粒をわずかに含む	柱穴土
	2	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山小ブロックを含む	柱穴土
	3	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山小ブロックを多く含む	柱頭跡
SB2264-P4	J-J	1 黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山小ブロックを少し含む	柱穴土
	2	黒色 (10YR2/1)	シルト	地山粒をわずかに含む	柱頭跡
SB2260-P3	K-K	1 黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山粒を少し含む	柱穴土
	2	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山粒・地山小ブロックを含む。焼土粒・炭化物粒をわずかに含む	柱頭跡
SB2262-P3	L-L	1 黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山粒・焼土粒をわずかに含む	柱穴土
	2	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山ブロック・地山大ブロックを含む	柱頭跡
SB2226-P4	M-M	2 暗褐色 (10YR3/4)	粘質シルト	地山粒を含む	柱穴土
	3	暗褐色 (10YR3/4)	粘質シルト	地山粒をわずかに含む	柱穴土
	4	暗褐色 (10YR2/3)	粘質シルト	地山粒を多く含む	柱頭跡
SB2260-P3	N-N	1 暗褐色 (10YR3/3)	粘質シルト	地山小ブロックを少し含む	柱穴土
	2	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山小ブロックを含む。焼土粒・炭化物粒を少し含む	柱頭跡
SB2226-P2	O-O	1 黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山大ブロックを非常に多く含む	柱穴土
	2	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山小ブロックを含む	柱穴土
	3	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山粒・焼土粒・炭化物粒・炭化物小ブロックをわずかに含む	柱根穴跡
SB2263-P2	P-P	1 黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山粒をわずかに含む	柱頭跡
	2	黒褐色 (10YR2/3)	粘質シルト	地山粒・地山小ブロックを含む。焼土粒・炭化物粒をわずかに含む	柱穴土
	3	暗褐色 (10YR2/3)	粘質シルト	地山小ブロックを含む。礫を多く含む。焼土粒・炭化物粒をわずかに含む	柱穴土
SB2224-P2	Q-Q	1 黒色 (10YR2/1)	粘質シルト	炭化物粒を少し含む	柱頭跡
SB2222-P2	Q-Q	1 暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山ブロックを含む。大礫を多く含む	柱穴土
	2	暗褐色 (10YR3/3)	粘質シルト	地山小ブロック・地山ブロックを含む。焼土粒・炭化物粒をわずかに含む	柱頭跡
SB2260-P1	R-R	1 暗褐色 (10YR2/2)	シルト	地山粒を少し含む。焼土粒・炭化物粒をわずかに含む	柱穴土
	2	黒色 (10YR2/1)	シルト	地山粒をわずかに含む	柱頭跡
SB2223-P2		1 暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山粒をわずかに含む	柱穴土
	2	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山粒・地山小ブロックを多く含む	柱穴土
SB2226-P1	S-S	3 赤い・黄褐色 (10YR5/3)	シルト	地山ブロックを主体とする	柱穴土
	4	暗褐色 (10YR2/2)	シルト	地山粒を少し含む。炭化物粒をわずかに含む	柱穴土
	5	暗褐色 (10YR3/2)	シルト	地山粒～地山大ブロックを多く含む	柱穴土
SB2262-P2		6 赤い・黄褐色 (10YR6/3)	シルト	地山小ブロック・地山大ブロックを含む	柱穴土
SB2264-P4	T-T	1 黒色 (10YR2/1)	シルト	地山粒を少し含む	柱頭跡
	2	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山粒を少し含む	柱穴土
SB2223-P1		1 黒色 (10YR2/1)	シルト	炭化物粒を少し含む	柱頭跡
	2	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山ブロックを含む。焼土ブロック・木片を一部含む	柱穴土
SB2263-P1	U-U	1 黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山粒・焼土粒・炭化物粒を少し含む	柱根穴跡
	2	黒色 (10YR2/1)	シルト	地山小ブロックを少し含む	柱頭跡
SB2224-P2		3 暗褐色 (10YR2/3)	粘質シルト	地山小ブロックを多く含む	柱穴土
	4	暗褐色 (10YR3/3)	粘質シルト	地山粒を少し含む	柱穴土
SB2264-P1		1 黒褐色 (10YR2/3)	シルト	地山ブロック・暗褐色粘質シルトを含む。焼土粒・炭化物粒をわずかに含む。	柱穴土
SB2262-P1	V-V	2 暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山小ブロックを含む。焼土粒・炭化物粒をわずかに含む。	柱頭跡
	3	暗褐色 (10YR3/3)	粘質シルト	地山粒・焼土粒をわずかに含む。炭化物粒・炭化物小ブロックを含む	柱穴土
SB2261-P1		4 黒褐色 (10YR2/3)	粘質シルト	地山粒・焼土粒・炭化物粒をわずかに含む	柱根穴跡
	5	暗褐色 (10YR3/3)	粘質シルト	地山小ブロックを多く含む。炭化物粒をわずかに含む	柱穴土

建物跡と重複し、これらより古い。S B 2261 建物跡と S B 2226 建物跡のどちらが最も古い建物跡になるかは、重複関係や柱穴の深さ、埋土の特徴からは判断できないが建物の位置の連続性から S B 2226 建物跡が最も古い段階の建物跡と考えられる。

〔規模・構造〕1間×1間で平面形は南北に長い長方形である。柱間寸法はP1-P2間4.4m、P2-P3

間約 5.1m、P3-P4 間約 4.0m、P4-P1 間約 4.5m である。

〔方向〕西側柱列でみると、北で 23°西に偏する。

〔柱穴〕4カ所で確認した。長径 85～100cm、短径 60～70cm、残存する深さ 52～60cm の楕円形である。埋土は地山小ブロックを多く含む暗褐色粘土質シルトである。2カ所で柱痕跡を、1カ所で柱抜き取り穴を確認した。柱痕跡は直径 40～50cm の円形である。

〔出土遺物〕深鉢、鉢、壺、石鐮が出土している。玉抱き三叉文(図版 65-16)、羊歯状文(同図-11)が施された土器や石鐮(図版 67-2)がある。

#### 【S B 2262 建物跡】

〔重複〕S B 2261、S B 2223、S B 2260、S B 2263 建物跡と重複する。S B 2261(P1) 建物跡より新しく、S B 2223(P2)、S B 2260(P2)、S B 2263(P1、P4) 建物跡より古い。

〔規模・構造〕1間×1間で平面形はやや歪んだ正方形である。柱間寸法は P1-P2 間約 3.5m、P2-P3 間 2.8m、P3-P4 間 3.2m、P4-P1 間 3.1m である。

〔方向〕東側柱列でみると、北で 41°西に偏する。

〔柱穴〕4カ所で確認した。直径 60～70cm、残存する深さ 42～51cm の円形または不整形である。埋土は地山小ブロックを含む暗褐色粘土質シルトで、焼土粒、炭粒をわずかに含む。また、P1 の掘方埋土には礫が詰められている。柱痕跡を3カ所で確認した。直径 30～40cm の円形である。

〔出土遺物〕深鉢、壺が出土している。壺には雲形文が施されている(図版 65-19)。

#### 【S B 2224 建物跡】

〔重複〕S B 2261、S B 2263 建物跡と重複し、S B 2261(P3、P4) より新しく、S B 2263(P1、P2、P4) 建物跡より古い。

〔規模・構造〕1間×1間で平面形はほぼ正方形である。柱間寸法は P1-P2 間約 3.7m、P2-P3 間約 3.6m、P3-P4 間 4.0m、P4-P1 間約 3.8m である。

〔方向〕西側柱列でみると、北で 22°西に偏する。

〔柱穴〕3カ所で確認した。長径 70～100cm、短径 60～70cm、残存する深さ約 80cm の楕円形である。埋土は地山小ブロックを含む黒褐色粘土質シルトである。また、P2、P3 の掘方埋土には礫が詰められている。2カ所で柱痕跡を、1カ所で柱抜き取り穴を確認した。柱痕跡は直径 30～35cm の円形である。

〔出土遺物〕深鉢、鉢、浅鉢の小破片が出土している(図版 65)。

#### 【S B 2263 建物跡】

〔重複〕S B 2261、S B 2224 建物跡より新しく、S B 2223 建物跡より古い。

〔規模・構造〕1間×1間で平面形は歪んだ正方形である。柱間寸法は P1-P2 間 3.7m、P2-P3 間 2.9m、P3-P4 間 3.1m、P4-P1 間 3.3m である。

〔方向〕西側柱列でみると、北で 11°西に偏する。

〔柱穴〕4カ所で確認した。直径70～110cm、残存する深さ33～60cmの円形である。埋土は地山小ブロックを含む黒褐色粘土質シルトで、焼土粒、炭粒をわずかに含む。4カ所で柱痕跡を3カ所で柱抜き取り穴を確認した。柱痕跡は直径30～50cmの円形である。

〔出土遺物〕縄文土器片や不定形石器(図版67-3)が出土している。

#### 【S B 2223 建物跡】

〔重複〕S B 2261、S B 2262、S B 2263、S B 2260 建物跡と重複する。S B 2261(P1)、S B 2262(P2) 建物跡より新しく、S B 2263(P1)、S B 2260(P2.4) 建物跡より古い。

〔規模・構造〕1間×1間で平面形は南北に長い長方形である。柱間寸法はP1-P2間2.8m、P2-P3間4.0m、P3-P4間2.8m、P4-P1間3.7mである。

〔方向〕西側柱列でみると、北で8°西に偏する。

〔柱穴〕4カ所で確認した。長径70～100cm、短径50～80cm、残存する深さ43～83cmの楕円形である。埋土は地山ブロックを含む黒褐色粘土質シルトを主体とする。柱痕跡を4カ所で確認した。直径30～40cmの円形である。

〔出土遺物〕深鉢、鉢、浅鉢、磨石、砥石(図版67-5)、石皿が出土している。羊歯状文(図版66-17)や雲形文(同図-18)が施された土器があり、石皿にはベンガラが付着が見られる(図版68-1)。

#### 【S B 2222 建物跡】

〔重複〕重複はない。

〔規模・構造〕1間×1間で平面形は南北に長い長方形である。柱間寸法はP1-P2間2.9m、P2-P3間3.6m、P3-P4間2.9m、P4-P1間3.6mである。

〔方向〕西側柱列でみると、北で23°西に偏する。

〔柱穴〕4カ所で確認した。東側柱列は残存状況が悪く不整形であるが、西側柱列をみると、直径100～120cm、残存する深さ27～41cmの円形である。埋土は地山ブロックを多く含む灰黄褐色粘質シルトで、P2、P3の掘方埋土には礫が詰められている。4カ所で柱痕跡を確認した。直径30～45cmの円形である。

〔出土遺物〕縄文土器小破片や凹石、石皿が出土している(図版66、68)。

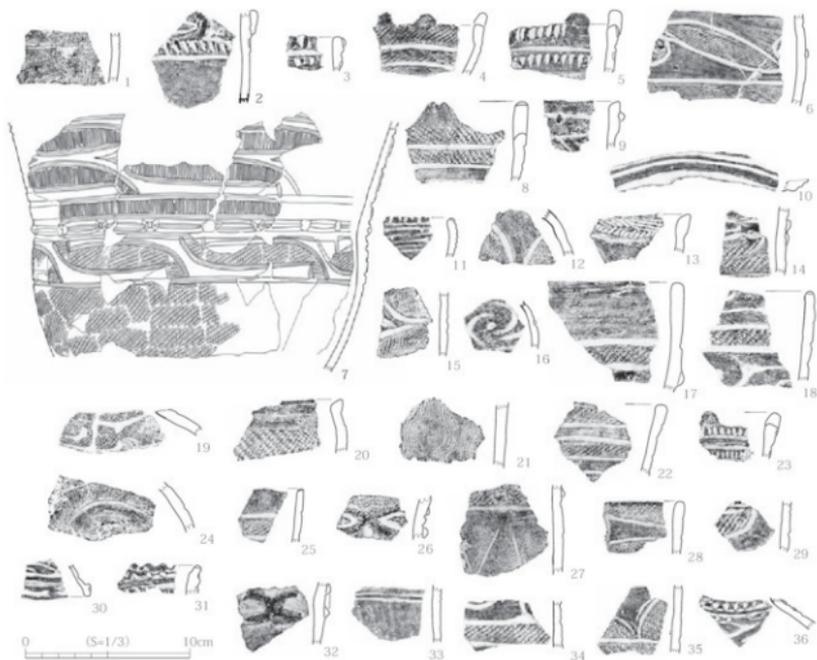
#### 【S B 2260 建物跡】

〔重複〕S B 2223(P2、P3)、S B 2226(P2)、S B 2261(P2)、S B 2262(P2)、S B 2263(P1) 建物跡と重複し、これらより新しい。

〔規模・構造〕1間×1間で平面形は南西-北東に歪んだ正方形である。柱間寸法はP1-P2間3.6m、P2-P3間3.6m、P3-P4間3.9m、P4-P1間3.1mである。

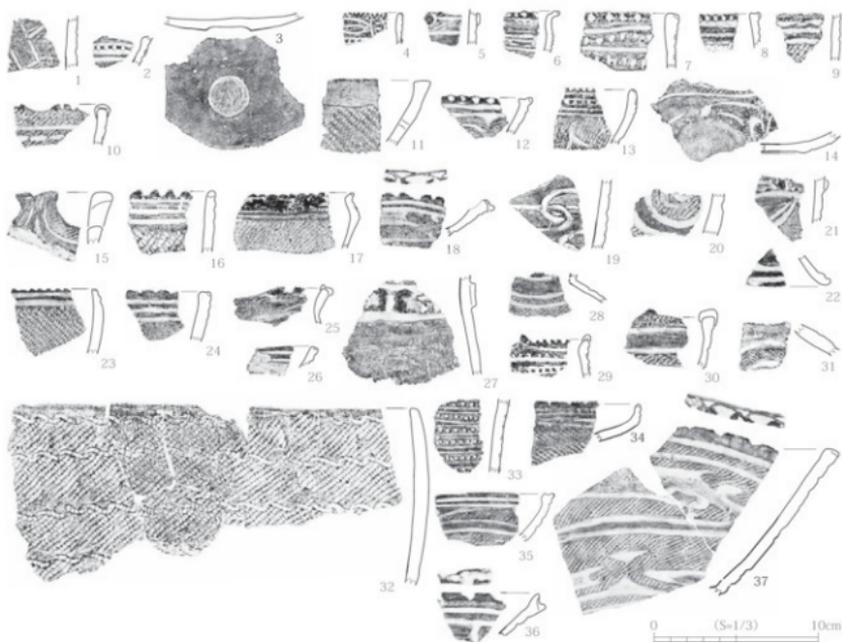
〔方向〕西側柱列でみると、北で49°西に偏する。

〔柱穴〕4カ所で確認した。長径55～100cm、短径45～65cm、残存する深さ33～83cmの楕円形である。埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルトで、焼土粒、炭粒をわずかに含む。柱痕跡を4カ



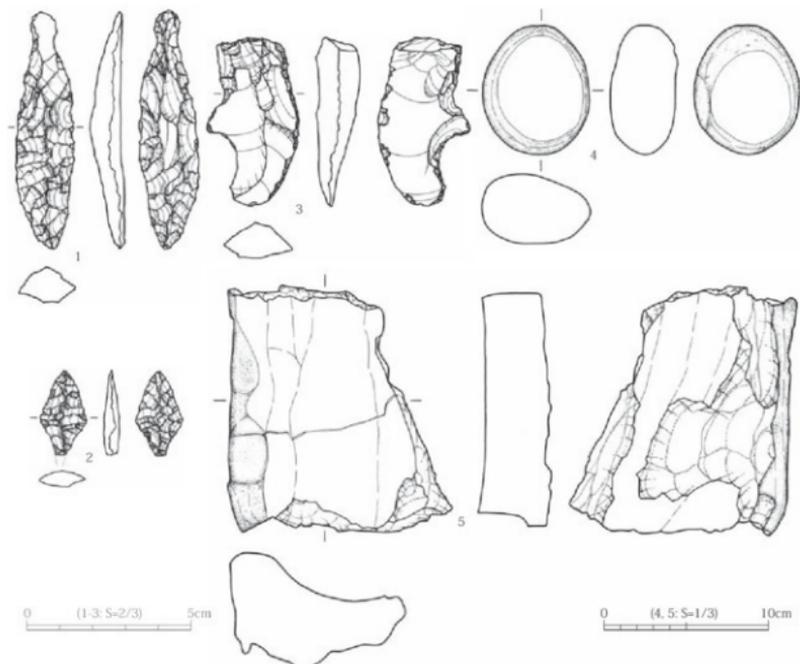
No	器種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
65-1	深鉢	SB2226-P1 柱面跡	平行沈線文、条線文(ハケメ)	35-1	Pot2443
65-2	深鉢	SB2226-P1	弧状突起、平行沈線文、刺突刻目	35-3	Pot2444
65-3	深鉢	SB2226-P1	平線、平行沈線文、刺突刻目	35-2	Pot2445
65-4	浅鉢	SB2226-P2 柱面跡	平線・突起、平行沈線、縄文LR、口縁部内面に段	35-6	Pot2446
65-5	深鉢	SB2226-P2	平線・突起、平行沈線文、刺突刻目	35-5	Pot2447
65-6	深鉢	SB2226-P2	彫瘤、人形帯状文、縄文LR	35-9	Pot2448
65-7	深鉢	SB2226-P3	人形帯状文(彫面状刻目)、メガネ状浮文、縄文LR	35-8	Pot2449
65-8	深鉢	SB2226-P3 柱面跡	彫面に刻みのある波状線、平行沈線文、縄文LR	35-7	Pot2450
65-9	深鉢	SB2226-P4 腹方理土	平線、彫瘤、平行沈線文、縄文LR	35-4	Pot2451
65-10	浅鉢 or 皿	SB2226-P4	平行沈線文	35-10	Pot2452
65-11	鉢	SB2261-P2	平線・斜み列、平歯状文	35-11	Pot2484
65-12	甬	SB2261-P4 腹方理土	人形帯状文(マヤシロ)	35-12	Pot2485
65-13	深鉢	SB2261-P4 腹方理土	波状線、沈線文、縄文彫体不明	35-13	Pot2486
65-14	深鉢	SB2261-P4 腹方理土	メガネ状浮文、縄文LR	35-14	Pot2487
65-15	深鉢	SB2261-P4 腹方理土	人形帯状文(縄文)、縄文LR	35-15	Pot2488
65-16	深鉢	SB2261-P4 腹方理土	玉粒三叉文	35-16	Pot2489
65-17	深鉢	SB2261-P4 腹方理土・柱抜き取り穴	平線、沈線文、突起、縄文LR	35-17	Pot2490
65-18	深鉢	SB2261-P4 柱抜き取り穴	小波状線、玉粒三叉文か、帯状文、縄文LR	35-18	Pot2491
65-19	甬 or 注口	SB2262-P1 腹方理土・柱抜き取り穴	雲形文、縄文LR	35-19	Pot2492
65-20	深鉢	SB2262-P1 柱抜き取り穴	平線、縄文LR	35-20	Pot2493
65-21	深鉢	SB2262-P2 腹方理土	櫛歯状条線文	35-21	Pot2494
65-22	深鉢	SB2262-P3 腹方理土	小波状線か、帯状文、縄文LR	35-22	Pot2495
65-23	深鉢	SB2262-P4 腹方理土	平線・突起、帯状文(彫面状刻目)	35-23	Pot2496
65-24	甬	SB2224-P2 柱抜き取り穴	帯状文(縄文)、彫瘤(刺突)、縄文LR	35-24	Pot2530
65-25	深鉢	SB2224-P2 柱抜き取り穴	小波状線、帯状文(縄文)、縄文LR	35-25	Pot2531
65-26	深鉢	SB2224-P2 柱抜き取り穴	メガネ状浮文、縄文LR	35-26	Pot2532
65-27	深鉢	SB2224-P2 腹方理土	帯状文(縄文)、彫瘤、格子状沈線文	35-27	Pot2535
65-28	深鉢	SB2224-P3 腹方理土	平線、帯状文(縄文)、縄文LR	35-28	Pot2533
65-29	深鉢	SB2224-P3 腹方理土	帯状文(縄文)か、縄文LR	35-29	Pot2534
65-30	台座	SB2263-P1 腹方理土	平歯状文か	35-30	Pot2497
65-31	鉢	SB2263-P1 腹方理土	平線・ヘラ刻目、平行沈線文、ヘラ刻目	35-31	Pot2498
65-32	深鉢	SB2263-P2 腹方理土	メガネ状浮文	35-32	Pot2499
65-33	甬	SB2263-P2 腹方理土	平行沈線文	35-33	Pot2500
65-34	深鉢	SB2263-P2 柱抜き取り穴	人形帯状文、縄文LR	35-34	Pot2501
65-35	深鉢	SB2263-P2 柱抜き取り穴	縄文前文段合痕(R.L・R)	35-35	Pot2502
65-36	甬	SB2263-P2 柱抜き取り穴	平歯状文、Z字状文	35-36	Pot2503

図版65 掘立柱建物跡2群 出土土器(1)



No	器種	遺積/層	特徴	写真図取	登録
66-1	鉢	SB2263-P2	縦面状沈線文	35-37	Pos2505
66-2	浅鉢	SB2263-P2	平行沈線文、ヘラ刷目、縄文LR	35-38	Pos2506
66-3	鉢	SB2263-P2	底面に直径2.8cmの小穴(円文(1+1)底風)	35-40	Pos2504
66-4	鉢	SB2263-P3	平縁・ヘラ刷目、菊み列、弧状沈線文	35-41	Pos2508
66-5	深鉢	SB2263-P3	胎地、帯状文LR	35-42	Pos2509
66-6	鉢	SB2263-P3	平縁・ヘラ刷目、平行沈線文、ヘラ刷目、縄文(原形不明)	35-43	Pos2510
66-7	深鉢	SB2223、SB2263-P1	平縁・ヘラ刷目、帯状文(新発刷目)	35-44	Pos2429
66-8	鉢	SB2223、SB2263-P1	平縁・ヘラ刷目・11州部沈線、平行沈線文	35-45	Pos2430
66-9	鉢	SB2223、SB2263-P1	平行沈線文、縄文LR	35-46	Pos2431
66-10	深鉢	SB2263-P2	胎部に菊みのある小穴状縁、平行沈線文、列点文、縄文LR	35-39	Pos2507
66-11	鉢	SB2223、SB2263-P1	平縁、縄文LR	35-47	Pos2428
66-12	浅鉢	SB2223、SB2263-P1	平縁・波状浮線文、変形文(磨り消し縄文)、縄文原形不明	35-48	Pos2432
66-13	浅鉢	SB2223、SB2263-P1	平縁・ヘラ刷目、平行沈線文、列点文、三文文、縄文LR、炭化物付着	35-49	Pos2433
66-14	鉢 or 浅鉢	SB2223、SB2263-P1	沈線文(光増縄文)、縄文原形不明	35-50	Pos2434
66-15	深鉢	SB2223、SB2263-P1	平縁・胎部に菊みのある突起、三文文、縄文LR	35-51	Pos2435
66-16	鉢	SB2223、SB2263-P1	平縁・ヘラ刷目、平行沈線文、縄文LR	35-52	Pos2436
66-17	鉢	SB2223、SB2263-P1	平縁・ヘラ刷目、平行沈線文、ヘラ刷目、縄文LR、炭化物付着	35-53	Pos2437
66-18	浅鉢	SB2223、SB2263-P1	平縁・平歯状浮線文、変形文(磨り消し縄文)、縄文LR	35-54	Pos2438
66-19	深鉢	SB2223-P2	人形形状文(つや消し)	35-55	Pos2439
66-20	深鉢	SB2223-P2	渦巻文、縄文LR	35-56	Pos2440
66-21	深鉢	SB2223-P3	胎地、帯状文(つや消し)か	35-57	Pos2441
66-22	内部	SB2223-P3	平行沈線文、糸付着	35-58	Pos2442
66-23	鉢	SB2222-P2/盤方埋土	平縁・ヘラ刷目、平行沈線文、縄文LR	35-59	Pos2423
66-24	浅鉢	SB2222-P2	平縁・波状浮線文、平行沈線文、縄文原形不明	35-60	Pos2424
66-25	壺	SB2222-P3	平縁・菊一対の小突起・山形小突起	35-61	Pos2425
66-26	浅鉢	SB2222-P4	小穴状縁、11州部沈線、平行沈線文	35-62	Pos2427
66-27	深鉢	SB2222-P4	X字状浮線文、平行沈線文、ヘラ刷目	35-63	Pos2426
66-28	壺	SB2260-P1/柱頭跡	沈線文、縄文LR	35-64	Pos2480
66-29	鉢	SB2260-P1	平縁・突起、平行沈線文、縄文LR	35-65	Pos2481
66-30	鉢	SB2260-P3/盤方埋土	平縁・ヘラ刷目・突起、弧状沈線文、平行沈線文、ヘラ刷目	35-66	Pos2483
66-31	壺か	SB2260-P2	沈線文、縄文LR	35-67	Pos2482
66-32	深鉢	SB2264-P2/盤方埋土	平縁、縄文LR(粘附部係置S字状)	35-68	Pos2514
66-33	深鉢	SB2264-P2	平行沈線文、菊突形	35-69	Pos2511
66-34	鉢	SB2264-P2	平縁・ヘラ刷目、平行沈線文、ヘラ刷目、縄文LR、炭化物付着	35-70	Pos2512
66-35	浅鉢	SB2264-P2/盤方埋土	平縁・11州部沈線、変形文(磨り消し縄文)、縄文LR、11州部内面付着張りだし	35-71	Pos2515
66-36	浅鉢	SB2264-P4/盤方埋土	平縁・平歯状浮線文、変形文(磨り消し縄文)、縄文LR、11州部内面付着張りだし	35-72	Pos2516
66-37	浅鉢	SB2264-P3/盤方埋土	平縁・平歯状浮線文、変形文(磨り消し縄文)、縄文LR、11州部内面付着張りだし、底部内面付着に段	35-73	Pos2517

図版66 掘立柱建物跡2群 出土土器(2)



No	器種	類型	遺積/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	残存	加熱処理	変形	付着物	備考	写真回数	登録
67.1	石匙	I a ①	SB2226-P1/柱跡跡	貝質白岩A	72.7	18.0	9.1	10.1	つまみ欠	0	0	0		35-75	S2194
67.2	石鏃	I b ①	SB2261-P4/根破穴	貝質黒灰岩A	26.0	14.4	4.8	1.3	基部欠	0	0	0		35-76	S2196
67.3	不定形石器	III c	SB2263-P1/根破穴	貝質白岩A	51.7	28.1	11.6	13.9	完形	0	0	0		35-74	S2274
67.4	磨石	-	SB2223・2224	安山岩	80.1	65.7	42.3	272.6	完形	-	0	0		36-1	S2267
67.5	砥石	-	SB2223-P4/堆積土	安山岩	148.1	132.8	65.0	1203.0	破片	-	0	0		36-2	S2179

図版 67 掘立柱建物跡 2 群 出土石器 (1)

所で確認した。直径 20～40cm の円形である。

〔出土遺物〕 縄文土器片が出土している。

### 【S B 2264 建物跡】

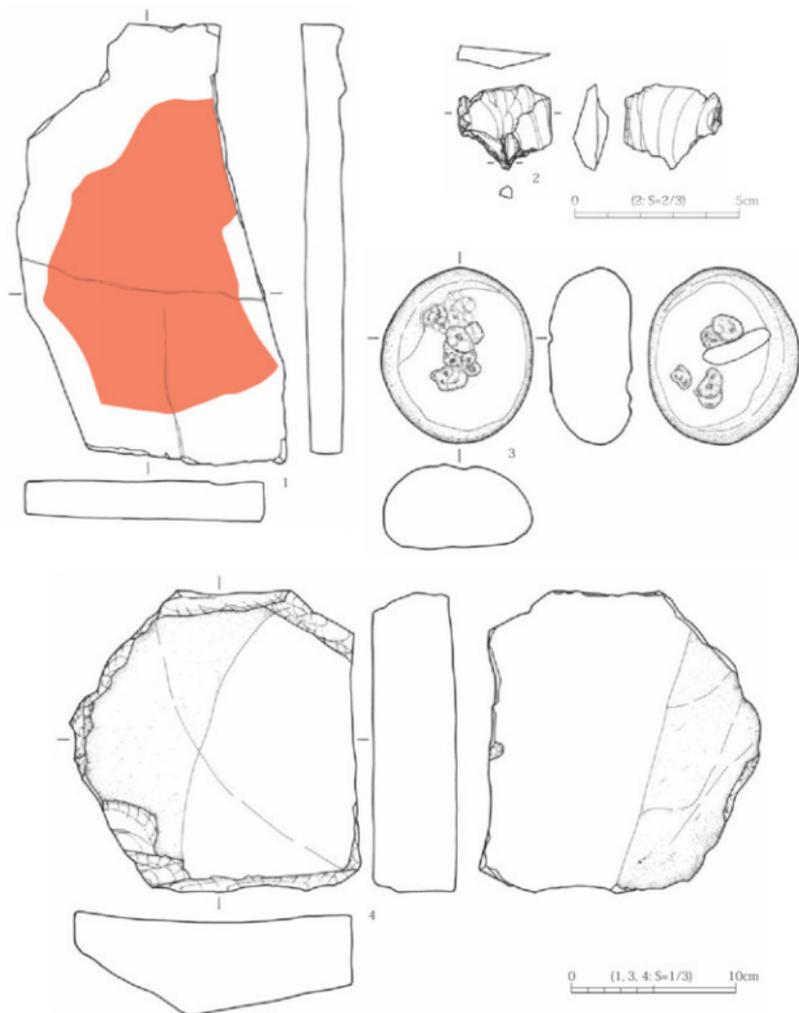
〔重複〕 S B 2223、S B 2262 建物跡より新しい。

〔規模・構造〕 1 間×1 間で平面形は歪んだ正方形である。柱間寸法は P1-P2 間 2.8m、P2-P3 間 3.0m、P3-P4 間 2.5m、P4-P1 間 2.8m である。

〔方向〕 西側柱列でみると、北で 18° 西に偏する。

〔柱穴〕 4 カ所で確認した。長径 30～60cm、短径約 30cm、残存する深さ 30～50cm の円形である。埋土は地山小ブロックを含む黒褐色粘土質シルトで、焼土粒、炭粒をわずかに含む。4 カ所で柱痕跡を 3 カ所で柱抜き取り穴を確認した。柱痕跡は直径約 20cm の円形である。

〔出土遺物〕 浅鉢、石鏃 (図版 68-2) が出土している。浅鉢には雲形文が施されている (図版 66-37)。

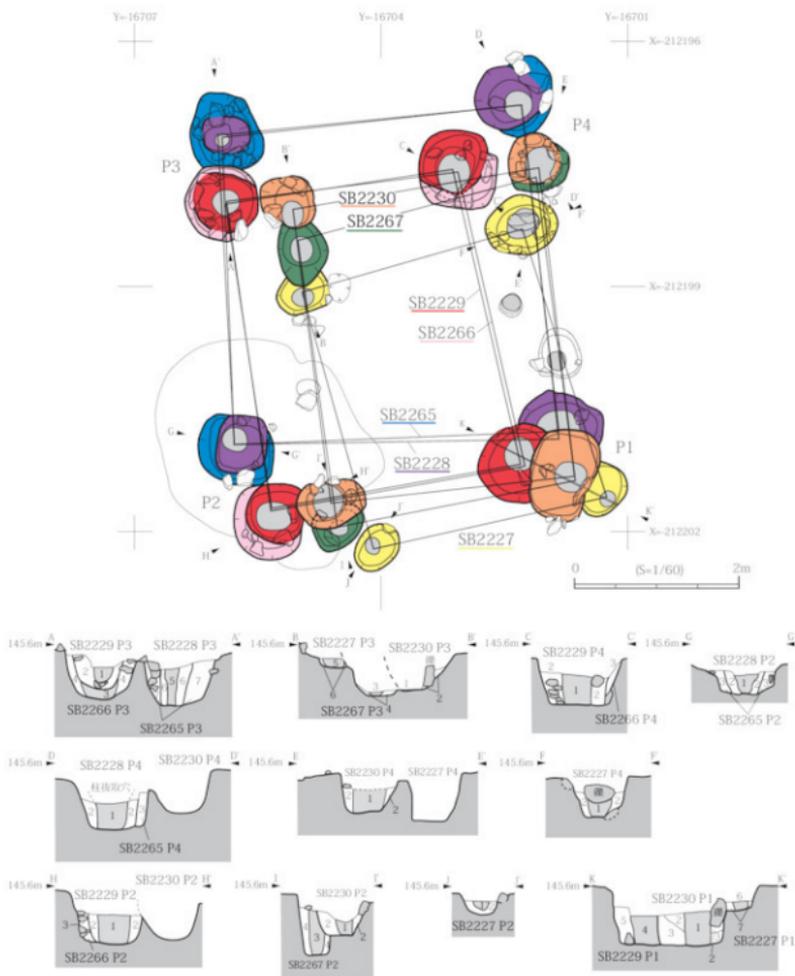


No.	品名	類型	遺構/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	残存	加熱処理	変形	付着物	備考	写真IDNo.	登録
1	石皿	-	SB2223・2224-P1/埋土	安山岩	269.5	139.2	26.3	1959.0	一部欠	0	0	ペンガワ	資料分析 No.1	36-3	S2190
2	石皿	B c 1	SB2264-P2	柱状百石A	25.6	29.2	9.2	4.8	完形	0	0			36-4	S2054
3	凹石	-	SB2222-P4/埋土	安山岩	108.1	89.6	51.1	643.0	完形	0	磨石→			36-6	S2181
4	石皿	-	SB2222-P2/埋土	デイサイト	175.9	169.9	58.3	3015.0	破片	0	0			36-8	S2200

図版 68 掘立柱建物跡 2 群 出土石器 (2)

### 【掘立柱建物跡 3 群】

調査区北側で確認した。S B 2265、S B 2228、S B 2266、S B 2229、S B 2227、S B 2267、S B 2230 建物跡が含まれる。1 間×1 間の建物跡で平面形は正方形または長方形である。これらの建物跡は柱穴がほぼ同じ位置で検出され、規模や構造も類似していることから建て替えと考えられる。以下、古い順に説明する。



図版 69 掘立柱建物跡 3 群 平面図・断面図

【S B 2265 建物跡】

〔重複〕S B 2228(P1. P2. P3. P4)、S B 2229(P1)、S B 2230(P1. P4)、S B 2266(P3) 建物跡と重複し、これらより古い。

〔規模・構造〕1間×1間で平面形は正方形である。柱間寸法はP1-P2間約4.0m、P2-P3間約3.9m、P3-P4間約3.8m、P4-P1間約4.0mである。

〔方向〕西側柱列でみると、北で3°西に偏する。

〔柱穴〕4カ所で確認した。長径90～104cm、短径60～84cm、残存する深さ42～77cmの楕円形である。埋土は地山ブロックを多く含む黒褐色粘土質シルトで、P2、P3、P4の掘方埋土には礫が詰められている。柱痕跡は確認されなかった。

〔出土遺物〕深鉢、皿が出土している。皿には雲形文が施されている(図版70-1)。

【S B 2228 建物跡】

〔重複〕S B 2265、S B 2229、S B 2230 建物跡と重複する。S B 2265(P1. P2. P3. P4) 建物跡より新しく、S B 2229(P1)、S B 2230(P1) 建物跡より古い。

第9表 掘立柱建物跡3群 土層観察表

遺構名	順序	土色	土性	特徴	分類
SB2229-P3	1	黒褐色(10YR2/2)	シルト	地山粒をわずかに含む	柱頭跡
	2	暗褐色(10YR3/3)	シルト	地山小ブロックをわずかに含む	柱穴埋土
	3	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	地山小ブロック・炭化物を多く含む	柱基直直
SB2266-P4	A-A'	1 灰黄褐色(10YR4/3)	シルト	地山大ブロックを非常に多く含む。炭化物を少し含む	柱穴埋土
	2	黒褐色(10YR2/3)	シルト	炭化物粒をわずかに含む	柱頭跡
SB2228-P3	1	黒褐色(10YR2/3)	シルト	炭化物粒をわずかに含む	柱穴埋土
	2	暗褐色(10YR3/3)	シルト	地山粒を少し含む	柱穴埋土
SB2265-P3	1	黒褐色(10YR2/3)	シルト	炭化物粒をわずかに含む	柱穴埋土
	2	暗褐色(10YR3/3)	シルト	地山粒を少し含む	柱穴埋土
SB2230-P3	1			不明	柱頭跡
	2	黒褐色(10YR2/3)	シルト	地山粒・炭化物粒をわずかに含む	柱穴埋土
	3	黒褐色(10YR2/2)	シルト	地山粒・炭化物粒をわずかに含む	柱頭跡
SB2267-P3	1	暗褐色(10YR3/3)	シルト	地山小ブロック・炭化物粒を含む	柱穴埋土
	2	黒褐色(10YR2/2)	シルト	地山粒・炭化物粒を多く含む	柱頭跡
SB2227-P3	1	暗褐色(10YR3/4)	シルト	地山粒・炭化物粒を多く含む	柱穴埋土
	2	暗褐色(10YR3/4)	シルト	不明	柱頭跡
SB2229-P4	1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	地山小ブロックを含む。角礫(径10cm程度)を非常に多く含む	柱穴埋土
	2	黒褐色(10YR3/2)	シルト	地山小ブロックを少し含む	柱穴埋土
SB2228-P4	1	黒色(10YR2/1)	粘質シルト	地山小ブロックを含む	柱頭跡
	2	黒褐色(10YR3/2)	粘質シルト	地山小ブロックを含む	柱穴埋土
SB2265-P4	1	黒褐色(10YR3/1)	粘質シルト	地山小ブロック・礫(径5～8cm)を多く含む	柱穴埋土
	2	黒褐色(10YR3/1)	粘質シルト	不明	柱頭跡
SB2230-P4	1	黒褐色(10YR2/3)	シルト	地山粒を多く含む。炭化物粒を少し含む	柱穴埋土
	2	黒褐色(10YR2/2)	粘質シルト	地山粒・炭化物粒を含む	柱頭跡
SB2227-P4	1	黒褐色(10YR3/2)	粘質シルト	地山小ブロックを多く含む	柱穴埋土
	2	黒褐色(10YR2/2)	シルト	地山粒をわずかに含む	柱頭跡
SB2228-P2	1	暗褐色(10YR3/3)	シルト	地山小ブロックを多く含む	柱穴埋土
	2	暗褐色(10YR3/4)	シルト	地山小ブロックを多く含む	柱穴埋土
SB2265-P2	1	暗褐色(10YR3/3)	砂質シルト	砂粒(径0.5～1cm)を含む	柱頭跡
	2	暗褐色(10YR3/2)	砂質シルト	地山小ブロックを多く含む	柱穴埋土
SB2266-P2	1	黒褐色(10YR3/2)	粘質シルト	地山小ブロック・角礫(径5～10cm)を多く含む	柱頭跡
	2	黒褐色(10YR2/2)	シルト	地山粒・炭化物粒を少し含む	柱頭跡
SB2230-P2	1	黒褐色(10YR2/3)	シルト	地山粒を多く含む。炭化物粒を少し含む	柱穴埋土
	2	暗褐色(10YR2/3)	シルト	地山粒を非常に多く含む	柱頭跡
SB2267-P2	1	黒褐色(10YR2/3)	シルト	地山粒を非常に多く含む	柱頭跡
	2	暗褐色(10YR3/3)	シルト	地山小ブロックを多く含む	柱穴埋土
SB2227-P2	1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	地山粒・角礫・炭化物粒をわずかに含む	柱穴埋土
	2	黒褐色(10YR3/2)	シルト	地山小ブロックを含む。幾小ブロック・炭化物小ブロックをわずかに含む	柱穴埋土
SB2230-P1	1	黒色(10YR2/1)	粘質シルト	地山粒・炭化物粒を少し含む	柱頭跡
	2	黒褐色(10YR2/3)	シルト	地山粒・炭化物粒を含む	柱穴埋土
SB2266-P1	1	黒褐色(10YR2/3)	シルト	地山小ブロック・地山大ブロックを多く含む	柱穴埋土
	2	黒褐色(10YR2/2)	シルト	地山粒・炭化物粒を少し含む	柱頭跡
SB2227-P1	1	黒褐色(10YR2/3)	シルト	地山小ブロックを多く含む	柱穴埋土
	2	暗褐色(10YR2/2)	シルト	炭化物粒を少し含む	柱頭跡
SB2229-P1	1	黒褐色(10YR3/3)	シルト	地山小ブロックを少し含む	柱穴埋土
	2	暗褐色(10YR3/3)	シルト	地山小ブロックを少し含む	柱穴埋土

〔規模・構造〕1間×1間で平面形は正方形である。柱間寸法はP1-P2間約3.9m、P2-P3間3.8m、P3-P4間3.8m、P4-P1間約4.0mである。

〔方向〕西側柱列でみると、北で3°西に偏する。

〔柱穴〕4カ所で確認した。直径60～80cm、残存する深さ44～80cmの円形である。埋土は地山小ブロックを含む暗褐色シルトである。柱痕跡を3カ所で確認した。直径16～38cmの円形である。

〔出土遺物〕縄文土器片や楔形石器、不定形石器が出土している(図版70、71)。

#### 【S B 2266 建物跡】

〔重複〕S B 2229(P2.P3.P4)、S B 2265(P3) 建物跡と重複し、S B 2265 建物跡より新しく、S B 2229 建物跡より古い。

〔規模・構造〕1間×1間で南北に長い長方形である。柱間寸法はP2-P3間約3.9m、P3-P4間約3.0m、P1-P2間とP4-P1間は不明である

〔方向〕西側柱列でみると、北で9°西に偏する。

〔柱穴〕3カ所で確認した。直径90cm、残存する深さ約62cmの円形である。埋土は地山ブロックを多く含む黒褐色粘土質シルトで、P2、P3、P4の掘方埋土には礫が詰められている。柱痕跡は確認されなかった。

〔出土遺物〕縄文土器片、磨製石斧(図版71-3)が出土している。

#### 【S B 2229 建物跡】

〔重複〕S B 2266、S B 2265、S B 2228、S B 2230 建物跡と重複する。S B 2266(P2.P3.P4)、S B 2265(P1)、S B 2228(P1) 建物跡より新しく、S B 2230(P1) 建物跡より古い。

〔規模・構造〕1間×1間で平面形は南北に長い長方形である。柱間寸法はP1-P2間3.2m、P2-P3間3.9m、P3-P4間3.0m、P4-P1間3.7mである。

〔方向〕西側柱列でみると、北で9°西に偏する。

〔柱穴〕4カ所で確認した。直径70～90cm、残存する深さ53～69cmの円形である。埋土は地山小ブロックを含む黒褐色粘土質シルトである。P2、P3、P4の掘方埋土には礫が詰められている。4カ所で柱痕跡を、1カ所で柱抜き取り穴を確認した。直径32～45cmの円形である。

〔出土遺物〕深鉢、鉢、石錘が出土している(図版70、71)。深鉢には帯状文や貼瘤がみられる。

#### 【S B 2227 建物跡】

〔重複〕S B 2267(P3)、S B 2230(P1) 建物跡と重複し、これらより古い。

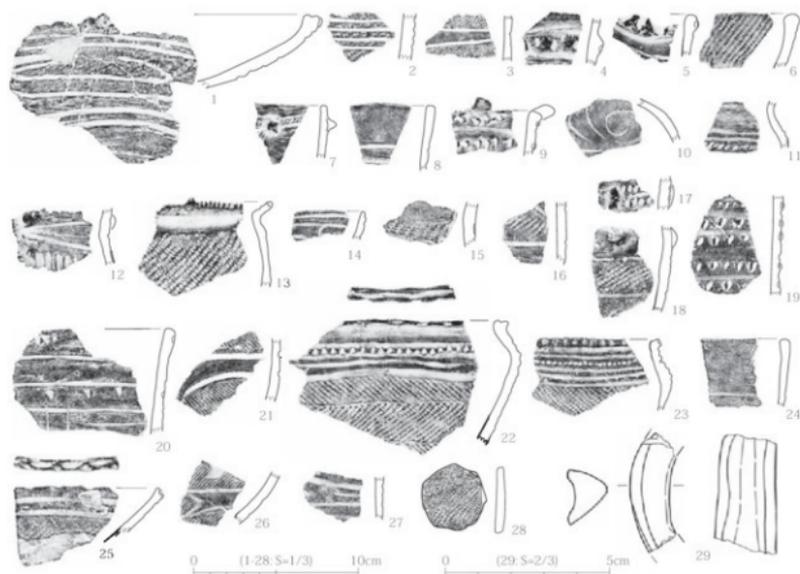
〔規模・構造〕1間×1間で平面形は南北に長い長方形である。柱間寸法はP1-P2間2.9m、P2-P3間3.2m、P3-P4間2.9m、P4-P1間3.4mである。

〔方向〕西側柱列でみると、北で16°西に偏する。

〔柱穴〕4カ所で確認した。長径65～90cm、短径48～74cm、残存する深さ20～47cmの楕円

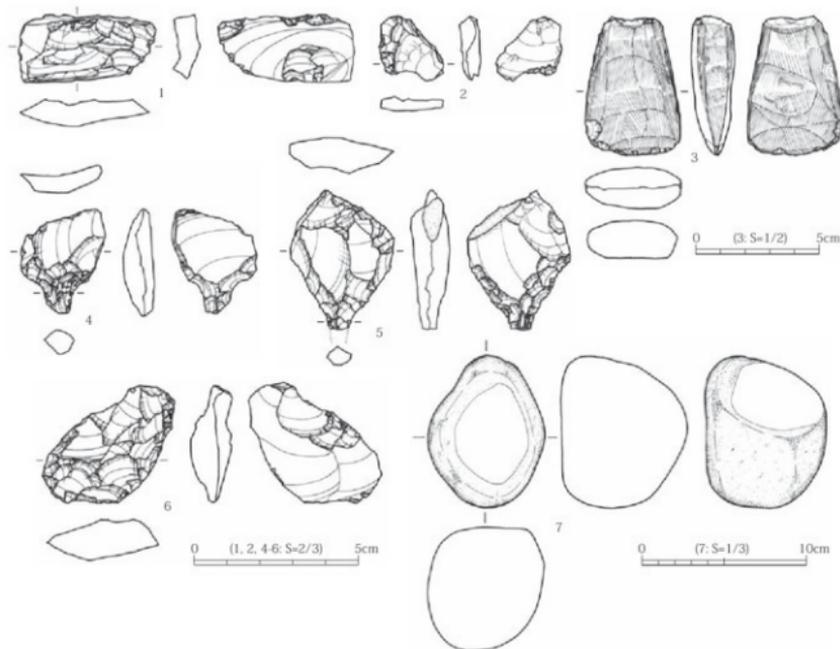
形である。埋土は暗褐色シルトまたは地山ブロックを多く含む黒褐色粘土質シルトである。柱痕跡を4カ所で確認した。直径20～28cmの円形である。P4の柱痕跡中に径40cm程の角礫が入っていることから、本来は柱を抜いた痕跡(柱抜き痕跡)と言える。

〔出土遺物〕鉢、石錐が出土している(図版70、71)。



No	器種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
70-1	皿	SB2265-P1/掘方埋土	平縁・波状浮線文。雲形文(磨り消し縄文)、縄文原体不明	37-1	Por2518
70-2	深鉢	SB2265-P1/掘方埋土	多委沈線文、縄文LR	37-2	Por2519
70-3	深鉢	SB2265-P3	沈線文、縄文LR	37-3	Por2520
70-4	深鉢	SB2228-P2	波状浮線文、刷毛のある突起、へら刷目、弧状沈線文	37-4	Por2462
70-5	深鉢	SB2228-P2	平縁、縄文LR	37-5	Por2463
70-6	鉢	SB2228-P2	平縁、刷毛、帯状文(縄文)、縄文LR	37-6	Por2464
70-7	鉢	SB2228-P2	平縁、刷毛、帯状文(縄文)、縄文LR	37-7	Por2465
70-8	鉢 or 壺	SB2228-P3/掘方埋土	平縁、平行沈線文	37-8	Por2466
70-9	深鉢	SB2228-P3/掘方埋土	平縁・突起、帯状文(刷毛刷目)	37-9	Por2467
70-10	壺 or 注口	SB2228	渦巻文	37-10	Por2454
70-11	鉢 or 壺	SB2228-P3/掘方埋土	平縁、平行沈線文	37-11	Por2467
70-12	深鉢	SB2229/確認面	刷毛、沈線文、へら刷目	37-12	Por2468
70-13	鉢	SB2229-P1	平縁・へら刷目・二個一対の小突起、縄文LR、内面沈線	37-13	Por2469
70-14	鉢	SB2229-P2	平行沈線文、弧状沈線文	37-13	Por2470
70-15	深鉢	SB2229-P3/掘方埋土	日原刷線文、沈線文	37-14	Por2471
70-16	深鉢	SB2229-P3	沈線文、縄文LR	37-15	Por2472
70-17	深鉢	SB2228、SB2229、SB2265	刷毛、帯状文(刷毛刷目)	37-16	Por2461
70-18	深鉢	SB2228、SB2229、SB2265	刷毛、帯状文、縄文LR	37-17	Por2459
70-19	深鉢	SB2228、SB2229、SB2265	平縁、帯状文(刷毛刷目)	37-18	Por2458
70-20	深鉢	SB2228、SB2229、SB2265	平縁、帯状文(つや消し、刷毛)	37-19	Por2456
70-21	深鉢	SB2228、SB2229、SB2265	刷毛文、縄文LR	37-20	Por2457
70-22	鉢	SB2228、SB2229、SB2265	平縁・上隅部沈線・へら刷目、平行沈線文、へら刷目、引状縄文LR、LR	37-25	Por2455
70-23	鉢	SB2227-P4/掘方埋土	平縁・上隅部沈線、へら刷目、平行沈線文、刷毛文、縄文LR、炭化物付着	37-21	Por2453
70-24	壺	SB2230-P1/掘方埋土	平縁、平行沈線文	37-22	Por2473
70-25	浅鉢	SB2230-P2/柱跡跡	平縁・波状浮線文、雲形文か、縄文LR	37-23	Por2474
70-26	浅鉢	SB2230-P2	雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR	37-24	Por2475
70-27	深鉢	SB2230-P4	三叉文か	37-26	Por2476
70-28	内壺	SB2228-P1	最大径40.2mm、厚さ5.1mm、打ち欠きと研磨で成形、縄文LR	37-27	土123
70-29	耳飾り	SB2228-P2	環状、無文	37-28	土36

図版70 掘立柱建物跡3群 出土土器・土製品



No	品種	類型	遺構/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	形状	加熱処理	変形	付着物	備考	写真ID	登録
1	楔形石器	I b	SB2228/P1 壁方	珉質頁岩 A	21.1	41.6	7.4	7.5	完形	0	0	0		37-31	S2222
2	不定形石器	III c	SB2228/P1 壁方	黒曜石	19.5	19.2	5.7	1.8	完形	0	0	0		37-30	S2294
3	磨製石斧	I b	SB2266/P2 壁方	安山岩	57.0	39.4	17.9	60.8	完形	0	基部再加工	0		37-29	S2197
4	石鏃	II a 立	SB2229/P1 壁方	珉質頁岩 A	32.8	25.4	8.2	5.4	完形	0	先端再加工	0		37-32	S2195
5	石鏃	II a 立	SB2227/P2 埋積土	珉質頁岩 A	42.6	31.7	11.0	13.1	鏃部欠	0	0	0		37-33	S2273
6	不定形石器	II b	SB2230/P2 柱痕跡	珉質頁岩 A	46.8	27.1	12.0	13.7	完形	0	0	0		37-34	S2226
7	磨石	-	SB2230/P2 埋積土	安山岩	93.9	67.8	73.7	659.0	完形	0	0	0		37-35	S2182

図版 71 掘立柱建物跡 3 群 出土石器

【S B 2267 建物跡】

〔重複〕 S B 2230(P2, P3, P4)、S B 2227(P3) 建物跡と重複し、S B 2227 建物跡より新しく、S B 2230 建物跡より古い。

〔規模・構造〕1間×1間で平面形は正方形である。柱間寸法は、P2-P3間3.5m、P3-P4間約3.1mである。P1-P2間、P4-P1間は不明である。

〔方向〕西側柱列でみると、北で9°西に偏する。

〔柱穴〕3カ所で確認した。長径68～76cm、短径46～68cm、残存する深さ59～76cmの楕円形である。埋土は地山小ブロックを多く含む暗褐色シルトである。柱痕跡を2カ所で確認した。直径22～32cmの円形である。

〔出土遺物〕なし。

#### 【S B 2230 建物跡】

〔重複〕 S B 2227(P1)、S B 2228(P1)、S B 2229(P1、P2)、S B 2265(P1、P4) 建物跡と重複し、これより新しい。

〔規模・構造〕 1間×1間で平面形は南北に長い長方形である。柱間寸法はP1-P2間 2.9m、P2-P3間 3.6m、P3-P4間 2.9m、P4-P1間 3.8mである。

〔方向〕 西側柱列でみると、北で9°西に偏する。

〔柱穴〕 4カ所で確認した。長径 70～110cm、短径 60～80cm、残存する深さ 43～76cmの楕円形である。埋土は地山ブロックを多く含む黒褐色シルトである。柱痕跡を4カ所で確認した。直径 24～43cmの円形である。

〔出土遺物〕 深鉢、浅鉢、磨石、不定形石器が出土している(図版 70、71)。皿には雲形文がある。

#### 【六角形・五角形建物跡】

6本の柱で建物が構成され、平面形が六角形を呈する建物跡である。5本の柱で構成され、平面形が五角形の建物跡もある。柱穴は直径 30～40cm程度で掘立柱建物跡 1～3群に比べ規模が小さい。なお、S B 2276は1間×1間の四本柱建物跡と捉えられるが、掘立柱建物跡 1～3群より柱穴の規模が小さく、建て替えも認められない。S B 2276は柱穴や建物の規模から本来六角形または五角形の建物跡の妻柱が欠失したものである可能性が高い。

#### 【S B 2268 建物跡】

〔位置〕 調査区南側で確認した(図版 73)。検出面はV層上面である。

〔重複〕 掘立柱建物跡 1群の建物跡と位置的に重複する。柱穴でみると S B 2214 建物跡(P4)と重複し、これより古い。S B 2221 建物跡(P1)との新旧関係は不明である。

〔規模・構造〕 南北方向が対称的に張り出す六角形である。主軸長(P1-P5間) 3.1m、東側柱列(P1-P6間)で1.6m、北側柱列(P4-P6間)で1.8m、突出長はP5-P4・P6間で0.9m、P2-P1・P3間で0.7mである。

〔方向〕 長軸を主軸とみた場合、主軸でみると北で35°東に偏する。

〔柱穴〕 6カ所で確認した。直径 25～30cm、残存する深さ 10～35cmの円形である。埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルトで、5カ所で柱痕跡を、1カ所で柱抜き取り穴を確認した。柱痕跡は直径約 20cmの円形である。

〔出土遺物〕 なし。



図版 72 六角形建物跡の位置

【S B 2270 建物跡】

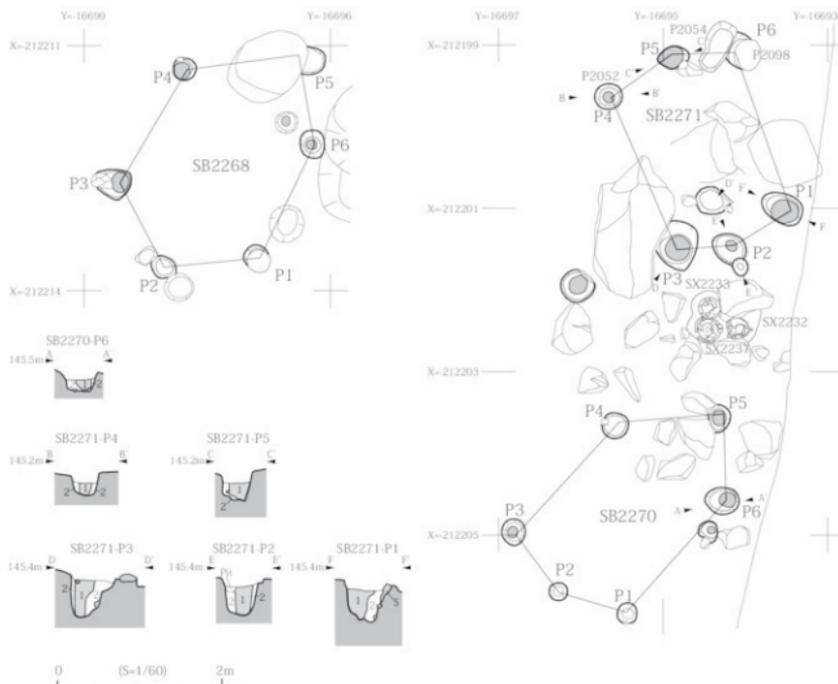
〔位置〕調査区東部で確認した（図版 73）。検出面はV層上面である。

〔重複〕重複はない。

〔規模・構造〕南北方向が対称的に張り出す六角形である。主軸長（P2-P5間）3.0m、東側柱列（P1-P6間）で1.8m、北側柱列（P4-P6間）で1.6m、突出長はP5-P4・P6間で0.8m、P2-P1・P3間で0.3mである。

〔方向〕主軸のみと北で43°東に偏する。

〔柱穴〕6カ所で確認した。直径25～40cm、残存する深さ13～32cmの円形である。埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルトで、3カ所で柱痕跡を確認した。柱痕跡は直径約20cmの円形である。



遺構名	順序	土色	土性	特徴	分類
SB2270-P6	1	黒褐色 (10YR2/3)	粘質シルト	地山粒を少し含む	柱穴跡
	2	暗褐色 (10YR3/3)	粘質シルト	地山粒を含む	柱穴埋土
SB2271-P4	1	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	焼土粒・炭化物粒をわずかに含む	柱穴跡
	2	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山小ブロックを含む。焼土粒・炭化物粒をわずかに含む	柱穴埋土
SB2271-P5	1	黒褐色 (10YR2/3)	粘質シルト	地山粒を含む	柱穴跡
	2	暗褐色 (10YR3/3)	粘質シルト	地山粒・礫を含む	柱穴埋土
SB2271-P3	1	黒褐色 (10YR2/2)	粘質シルト	地山粒・礫を含む	柱穴跡
	2	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山粒を含む	柱穴埋土
SB2271-P2	1	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山粒・炭化物粒をわずかに含む	柱穴跡
	2	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山粒・地山小ブロックを含む。焼土粒・炭化物粒をわずかに含む	柱穴埋土
SB2271-P1	1	黒褐色 (10YR2/2)	粘質シルト	地山粒を含む	柱穴跡
	2	黒褐色 (10YR2/3)	粘質シルト	地山粒を含む	柱穴埋土

図版 73 SB2268、SB2270、SB2271 建物跡 平面図・断面図

【出土遺物】なし。

#### 【S B 2271 建物跡】

【位置】調査区東部で確認した(図版73)。検出面はV層上面である。

【重複】重複はない。

【規模・構造】南北方向が対称的に張り出す六角形である。主軸長(P2-P5間)2.5m、東側柱列(P1-P6間)で2.0m、北側柱列(P4-P6間)で1.7m、突出長はP5-P4・P6間で0.3m、P2-P1・P3間で0.2mである。

【方向】主軸で見ると北で15°西に偏する。

【柱穴】6カ所で確認した。直径約30cmの円形または長径40～50cm、短径30～40cmの楕円形で、残存する深さは30～60cmである。埋土は地山ブロックを含む黒褐色粘土質シルトで、3カ所で柱痕跡を、5ヶ所で柱抜き取り穴を確認した。柱痕跡は直径15～30cmの円形である。

【出土遺物】深鉢、浅鉢の小破片(図版74-1)と円盤状石製品が出土している(同図-6)。

#### 【S B 2272 建物跡】

【位置】調査区北東部で確認した(図版75)。検出面はV層上面である。

【重複】S B 2273 建物跡、S K 2057、S K 2062a、S K 2062b 土坑、S X 2234 土器埋設遺構と重複し、S B 2273 建物跡より新しく、S K 2062a・b 土坑より古い。S K 2057 土坑、S X 2234 土器埋設遺構との新旧関係は不明である。

【規模・構造】東西が対称的に張り出す六角形である。主軸長(P3-P6間)4.4m、南側柱列(P1-P2間)で3.2m、西側柱列(P2-P4間)で約2.5m、突出長はP3-P2・P4間で0.8m、P6-P1・P5間で約0.7mである。

【方向】主軸で見ると北で63°東に偏する。

【柱穴】5カ所で確認した。直径30～45cm、残存する深さ22～40cmの円形である。埋土は暗褐色粘土質シルトで、柱痕跡を4カ所で確認した。直径約20cmの円形である。

【出土遺物】なし。

#### 【S B 2273 建物跡】

【位置】調査区北東部で確認した(図版75)。検出面はV層上面である。

【重複】S B 2272 建物跡、S K 2057 土坑と重複し、これらより古い。

【規模・構造】東が張り出す五角形である。主軸長(P5-P2・3間)約3.9m、東側柱列(P3-P4間)で3.2m、西側柱列(P2-P3間)で1.9m、東側柱列(P1-P5間)で2.2m、突出長はP5-P1・P4間で0.7mである。

【方向】主軸で見ると北で82°西に偏する。

【柱穴】5カ所で確認した。直径約40cm、残存する深さは5～25cmの円形である。埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルトで、柱痕跡を3カ所で確認した。柱痕跡は直径20～30cmの円形である。

〔出土遺物〕 縄文土器片が出土している (図版 74-3)。

### 【S B 2274 建物跡】

〔位置〕 調査区北東部で確認した (図版 75)。検出面はV層上面である。

〔重複〕 S B 2275 建物跡、S K 2061、S K 2062b、S K 2281 土坑、S X 2235、S X 2236 土器埋設遺構と重複し、S K 2062b 土坑より古い。S B 2275 建物跡、S K 2061、S K 2281 土坑、S X 2235、S X 2236 土器埋設遺構との新旧関係は不明である。

〔規模・構造〕 北西・南東が対称的に張り出す六角形である。主軸長 (P3-P6 間) 3.7m、桁行は北側柱列 (P3-P6 間) で 2.4m、梁行は東側柱列 (P1-P5 間) で 1.8m、突出長は P6-P1・P5 間で 0.6m、P3-P2・P4 間で約 0.6m である。

〔方向〕 主軸でみると北で 55°西に偏する。

〔柱穴〕 5カ所で確認した。直径約 30cm の円形または長径約 50cm、短径約 30cm の楕円形で、残存する深さは 20～70cm である。埋土は地山ブロックを含む黒褐色粘土質シルトで、柱痕跡を 3ヶ所で確認した。直径 15～20cm の円形である。

〔出土遺物〕 櫛歯状条線文がほどこされた深鉢の小破片 (図版 74-4) が出土している。

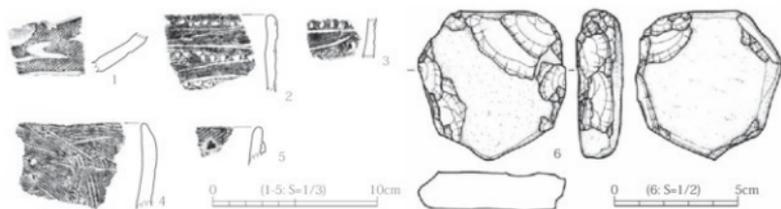
### 【S B 2275 建物跡】

〔位置〕 調査区北東部で確認した (図版 75)。検出面はV層上面である。

〔重複〕 S B 2274 建物跡、S K 2061、S K 2062b、S K 2281 土坑と重複し、S K 2062b 土坑より古い。S B 2274 建物跡、S K 2061、S K 2281 土坑との新旧関係は不明である。

〔規模・構造〕 南北が対称的に張り出す六角形である。主軸長 (P2-P5 間) 3.4m、東側柱列 (P1-P6 間) で 1.8m、北側柱列 (P4-P6 間) で 1.5m、突出長は P5-P4・P6 間で 0.5m、P2-P1・P3 間で 0.9m である。

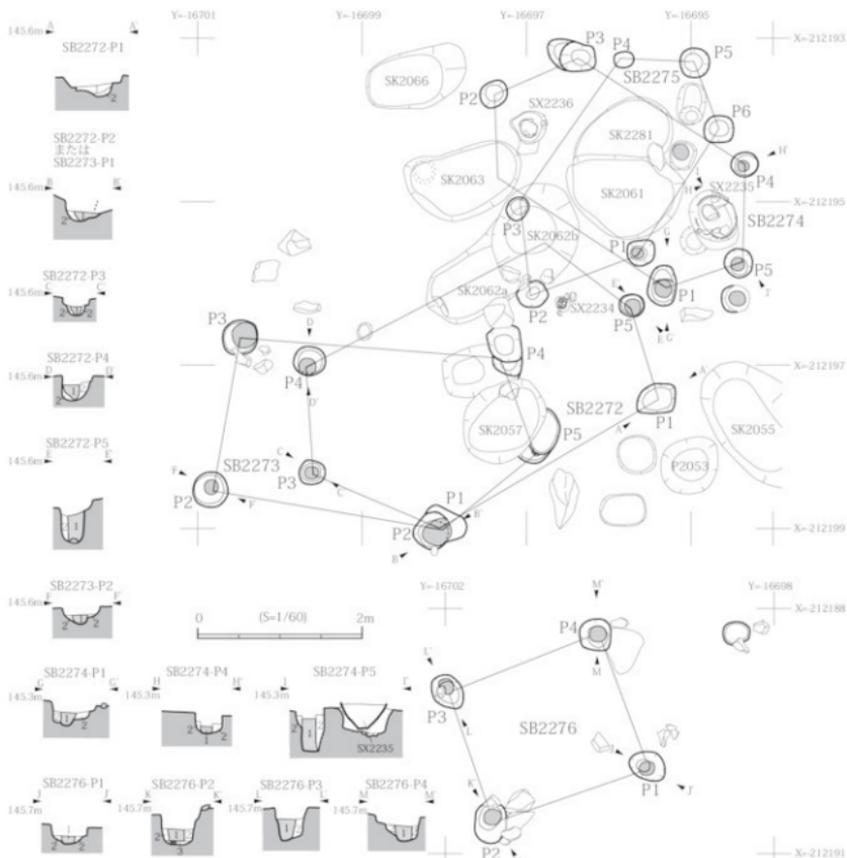
〔方向〕 主軸でみると北で 37°東に偏する。



No	器種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
1	浅鉢	SR2271-P5	凹形文 (磨り消し縄文)、縄文LR、底部内面付込に段	38-1	Por2522
2	深鉢	SR2271-P6	平縁、帯状文 (刺突刻目)	38-2	Por2523
3	深鉢	SR2273-P4	沈線文、ヘラ刻目、縄文凹体不明	38-3	Por2524
4	深鉢	SR2274-P2	平縁、条線文	38-4	Por2525
5	深鉢	SR2276-P4	平縁、帯状文 (縄文、短沈線)、刺突 (刻みあり)、縄文LR、灰化物付着	38-5	Por2477

No	器種	類型	遺構/層	石材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	加熱処理	変形	付着物	備考	写真図版	登録
6	円型灰石製品	I a 3	SR2271P3/埋積土	安山岩	62.1	60.0	16.4	97.4	完全	0	0	0		38-8	S2276

図版 74 六角形建物跡 出土遺物



遺構名	順序	土色	土性	特徴	分類
SB2272-P1	1	暗褐色 (10YR3/4)	粘質シルト	地山粉を少し含む	埋積土
	2	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山粉をわずかに含む	埋積土
SB2272-P3 or SB2273-P1	1	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	焼土粒・炭化物粒をわずかに含む	柱頭跡
	2	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山ブロックを多く含む。焼土粒をわずかに含む	柱六面土
SB2272-P3	1	黒褐色 (10YR2/2)	粘質シルト	地山粉を少し含む	柱頭跡
	2	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山小ブロックを含む	柱六面土
SB2272-P4	1	黒褐色 (10YR2/2)	粘質シルト	地山粉を少し含む	柱頭跡
	2	暗褐色 (10YR3/3)	粘質シルト	地山粉をわずかに含む	柱六面土
SB2272-P5	1	暗褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	焼土粒・炭化物粒をわずかに含む	柱頭跡
	2	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山粉・焼土粒をわずかに含む	柱六面土
SB2273-P2	1	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山粉・焼土粒をわずかに含む	柱頭跡
	2	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山粉～地山ブロックを含む。焼土粒・炭化物粒をわずかに含む	柱六面土
SB2274-P1	1	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山粉をわずかに含む	柱頭跡
	2	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	焼土粒をわずかに含む	柱六面土
SB2274-P4	1	暗褐色 (10YR3/2)	シルト	地山粉・地山小ブロックを含む	柱頭跡
	2	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山粉・地山小ブロックを含む	柱六面土
SB2274-P5	1	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山粉・黒褐色シルト小ブロックを含む	柱頭跡
	2	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト	地山粉・地山小ブロックを含む	柱六面土
SB2276 -P1,P3,P4	1	黒色 (10YR2/1)	シルト	地山小ブロックをわずかに含む	柱頭跡
	2	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山粉を少し含む	柱六面土
SB2276-P2	1	黒色 (10YR2/1)	シルト	地山小ブロックをわずかに含む	柱頭跡
	2	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	地山粉を少し含む	柱六面土
	3	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山ブロックを部分的に含む	柱六面土

図版 75 SB2272、SB2273、SB2274、SB2275、SB2276 建物跡 平面図・断面図

〔柱穴〕6カ所で確認した。直径約25～35cm、残存する深さは20～70cmの円形である。埋土は地山ブロックを含む黒褐色粘土質シルトで、柱痕跡を3ヶ所で確認した。直径15～50cmの円形である。

〔出土遺物〕なし。

#### 【S B 2276 建物跡】

〔位置〕調査区北部で確認した(図版74)。検出面はV層上面である。

〔重複〕重複はない。

〔規模・構造〕1間×1間で平面形はほぼ正方形である。柱穴や建物の規模、建て替えがないことなどの特徴から、本来は六角形または五角形の建物跡であった可能性が高い。柱間寸法はP1-P2間2.0m、P2-P3間1.6m、P3-P4間2.0m、P4-P1間1.7mである。

〔方向〕西側柱列でみると、北で西に19°偏する。

〔柱穴〕4ヶ所で確認した。長径40～60cm、短径約40cm、残存する深さ約16～38cmの円形である。埋土は地山ブロックを少し含む黒褐色シルトで、柱痕跡を4ヶ所で確認した。直径14～20cmの円形である。

〔出土遺物〕深鉢使用破片が出土している(図版74-5)。

## B. 土器埋設遺構

調査区北東部で4基確認した(図版76)。このうちS X 2238 土器埋設遺構は壺2基と高杯を合わせ口にした土器を同時に埋設しており、再葬墓と考えられる(注1)。また、S X 2234 土器埋設遺構は小型の鉢と高杯を合わせ口にしたもの、S X 2235、S X 2236 土器埋設遺構は壺を埋設している。なお、土器内の土を水洗篩で選別し、S X 2238 土器埋設遺構埋設土器から石鏃1点と土器小破片を確認した。人骨ほどの埋設土器からも確認されなかった。

#### 【S X 2238 土器埋設遺構】

〔位置〕調査区中央で確認した(図版76～78、写真図版12)。検出面はIVe層上面である。

〔重複〕S K 2282 土坑と重複し、これより新しい。

〔規模・構造〕長軸85cm、短軸65cm、残存する深さ約35cmである。埋設土器と周囲の礫の形に合わせてL字状に掘られている。

〔壁・底面〕底面は図版78-2の土器を埋設した部分が低く、土器の器高に合わせて深さを調節したものと考えられる。壁はやや開き気味に立ち上がる。

〔堆積土〕地山小ブロックを多く含む黒褐色シルトとにぶい黄褐色シルトで人為的埋土である。炭化物と骨片を少し含む。骨片はきわめて微細で同定不能であった。

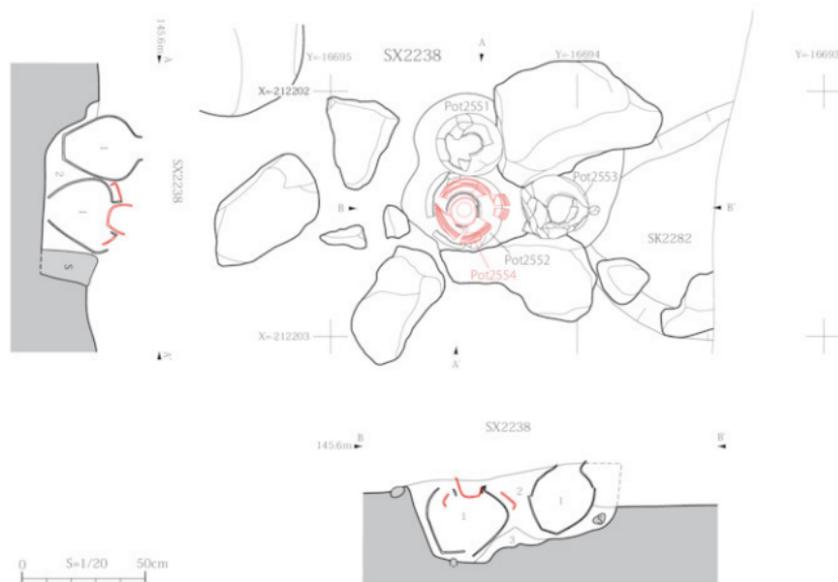
〔土器の出土状況〕図版78の壺と高杯が4個体まとまって出土した。1の壺は正位の状態で見えられており、底部は掘え方底面から2cmほど浮いている。2の壺には4の高杯を伏せて被せ蓋にして



図版 76 土器埋設遺構・土坑墓の配置

いる(図版79)。発見時は土圧でつぶれ、下の壺の口縁部が器面を突き抜けている状態であった(写真図版12)。埋土の状況からこれらの土器は同時期に埋められたものと考えられる。また図版78-1・3の壺の口縁部は周囲の礫上面とほぼ同じ高さで検出された。遺構が形成された頃の地表面は後述する集石遺構の検出状況から、基本層IV d層上面で、V層上面から30cmほど上にあっただと考えられる(写真図版13)。土器埋設遺構周囲の礫上面の高さはV層上面から約15cmの高さにあり、旧地表面で礫は見えていなかったと思われる。

[埋設土器] 正位に埋設された土器はいずれも体部が張る器形の壺である(図版78-1~3)。ヘラ描



遺構名	順序	土色	土性	特徴	分類
SX2238	1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	地山砂・地山小ブロックを多く含む。地山ブロック・地山大ブロックを少し含む。炭化物粒・骨片をわずかに含む。	埋土
	2	黒褐色(10YR3/2)	シルト	地山砂・地山小ブロックを多く含む。黒褐色シルト小ブロックを含む。	埋土
	3	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト		

No	器種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
78-1	壺	SX2238 埋設土器	口径12.7cm、器高35.2cm、体部最大径26.5cm、底径11.3cm。平縁。外面体部上半部文様→ミガキ、底面銅代箔。内面・縁部ミガキ。体部から底部ナデ。	38-9	Pot2551
78-2	壺(蓋と組む土器)	SX2238 埋設土器	口径13.5cm、器高34.0cm、体部最大径27.7cm、底径9.5cm。平縁・1側部へ少額目。外面ミガキ、底面ミガキ。内面・縁部ミガキ。体部から底部ナデ。	37-37	Pot2552
78-3	壺	SX2238 埋設土器	口径13.9cm、器高30.7cm、体部最大径27.6cm、底径9.8cm。波状縁・頂部彫み。外面ミガキ、底面木葉組。内面・縁部ミガキ。体部から底部ナデ。炭化物付着。	38-10	Pot2553
78-4	高坪	SX2238 埋設土器	口径21.7cm、器高15.7cm、台部径11.9cm。平縁。2条一組の波状文(杯部3単位、脚部2単位)が上下の平行波線文に複雑しながら出る。内外面を先端が幅2mm程度の棒状工具でミガキ。朱白着。台部底面に欠し。	37-36	Pot2554

No	器種	類型	遺構/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	残存	加熱処理	変形	付着物	備考	写真図版	登録
78-5	石鏡	1.c.1	土壇水洗(Pot2553)	片頁頁岩A	33.5	21.5	10.5	6.4	完形	0	0	0		38-6	SZ290

図版77 SX2238土器埋設遺構 平面図・断面図



図版 78 SX2238 土器埋設遺構 出土遺物

きの文様はなく、1は胴部上半に縄文を施した後に磨いてほとんど消している。また、表面には焼成後の加熱によって生じたと考えられる焼けはじけが多く認められる。2、3は無文で胴部は丁寧に磨かれている。3の壺の口縁部は頂部に刻みのある波状縁である。蓋に使用された4の高坏には体部と脚部に2条一組の沈線で波状文が施されている。なお、土器内の堆積土から土器小破片が数点出土しているが図示できるものはなかった。このほか3の壺内から石鉄1点が出土している(同図-5)。



図版 79 SX2238 合わせ口土器出土状況

### 【SX 2234 土器埋設遺構】

〔位置〕調査区中央で確認した(図版76,80)。確認面はIV d層である。

〔重複〕重複はない。

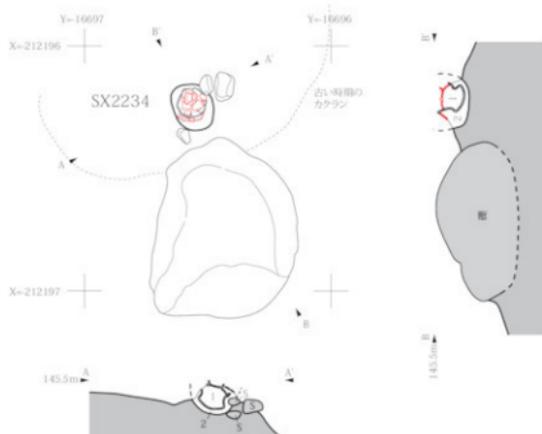
〔規模・構造〕直径20cm、残存する深さ約12cmの円形で埋設土器より一回り大きい。

〔壁・底面〕底面はやや丸みがあり、壁が急に立ち上がる。断面形は碗形である。

〔堆積土〕据え方埋土は地山ブロック、炭化物を多く含む黒褐色シルトで人為的埋土である。

〔土器の出土状況〕正位の状態では据えられた鉢と、逆位で蓋に使用された高坏が合わせ口で出土している(図版81)。底部は据え方底面から2cmほど浮いている。

〔埋設土器〕鉢は胴部がそろばん形に屈曲し、口縁部が外反する器形で、口縁部と胴部にπ字文が施



遺構名	順序	土色	土性	特徴	分類
SX2234	1	黒褐色(10YR2/3)	シルト	ローム粒をわずかに含む	埋土
	2	黒褐色(10YR2/3)	シルト	地山ロームブロック(径0.5~2cm)を多く含む。炭化物粒をやや多く含む	埋土

図版 80 SX2234 土器埋設遺構 平面図・断面図



No	器種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
1	鉢	SX2234埋設土器	上径12.6cm、器高8.7cm、底径3.8cm、平縁。上縁部に逆π字文4単位、体部中央に逆π字文3単位、体部下平縁文組、底面ナデ、内面沈線1条、ミガキ、朱付着	38-12	Por2541
2	高杯	SX2234埋設土器	上径14.2cm、器高9.0cm、台部径7.4cm、平縁・方形突起・山形突起各4単位、対向するπ字文8単位、上縁部内面沈線、台部に平上沈線	38-11	Por2542

図版 81 SX2234 土器埋設遺構 出土土器

されている。高杯は対向するπ字文が口縁部に施文され、口縁部には大小の山形突起が各4単位配置されている。

#### 【S X 2235 土器埋設遺構】

〔位置〕調査区中央で確認した(図版 76、82)。検出面はIV d 層である。

〔重複〕S B 2274 建物跡と位置が重複するが新旧関係は不明である。

〔規模・構造〕長径68cm、短径55cm、残存する深さ36cmの楕円形である。

〔壁・底面〕底面は一部窪むがほぼ平坦で、壁が急に立ち上がる。断面形は逆台形である。

〔堆積土〕地山小ブロックを含む黒褐色シルトを主体とする人為的埋土である。

〔土器の出土状況〕正位の状態では掘えられており、底部は掘え方底面から2cmほど上の位置にある。

〔埋設土器〕胴部が球形に膨らむ壺が埋設されていた(図版 83)。残存高58.5cm、胴部最大径49.0cmである。頸部から底部が残存し、胴部には縄文が施されている。同一個体と考えられる口縁部破片は波状縁で頂部は6単位と推定される。頸部と口縁部、頸部と胴部との境にそれぞれ平行沈線が巡っている。このほか埋土から鉢、浅鉢、埋設土器内から石鏃2点と石錐1点が出土している(図版 82)。鉢、浅鉢には雲形文が施されている。

#### 【S X 2236 土器埋設遺構】

〔位置〕調査区中央で確認した(図版 76、84)。検出面はIV e 層である。

〔重複〕S B 2274 建物跡と位置が重複するが重複関係は不明である。

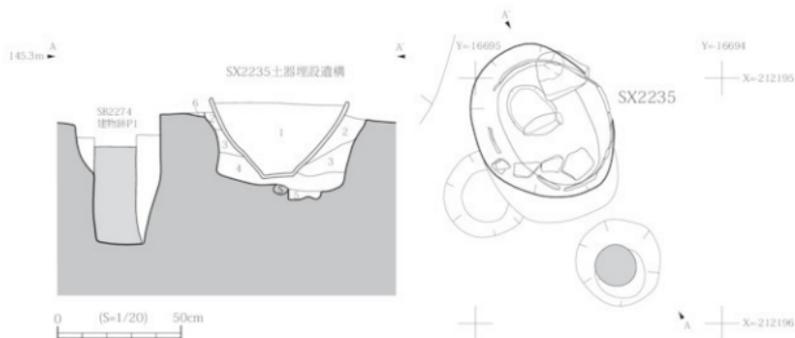
〔規模・構造〕直径40cm、残存する深さ18cmの不整形円形である。

〔壁・底面〕検出状態が悪く断面形は不明であるが、底面は不整形で、壁は急に立ち上がると推定される。

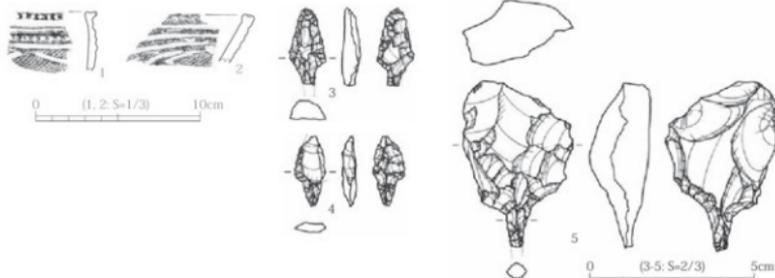
〔堆積土〕炭化物を含む暗褐色シルトで人為的埋土である。

〔土器の出土状況〕正位の状態では掘えられており、底部は掘え方底面にほぼ接している。

〔埋設土器〕埋設された土器は無文の壺で底部から体部が残存している(図版84-2)。このほか埋土中から頂部に刻みのある山形突起を有し、口縁部にπ字文が施された土器が出土している(同図-1)。器種は高環と推定され、図示した以外にも破片が数点あり、本来はS X 2238、S X 2234 土器埋設遺構と同様蓋に利用されていた可能性がある。



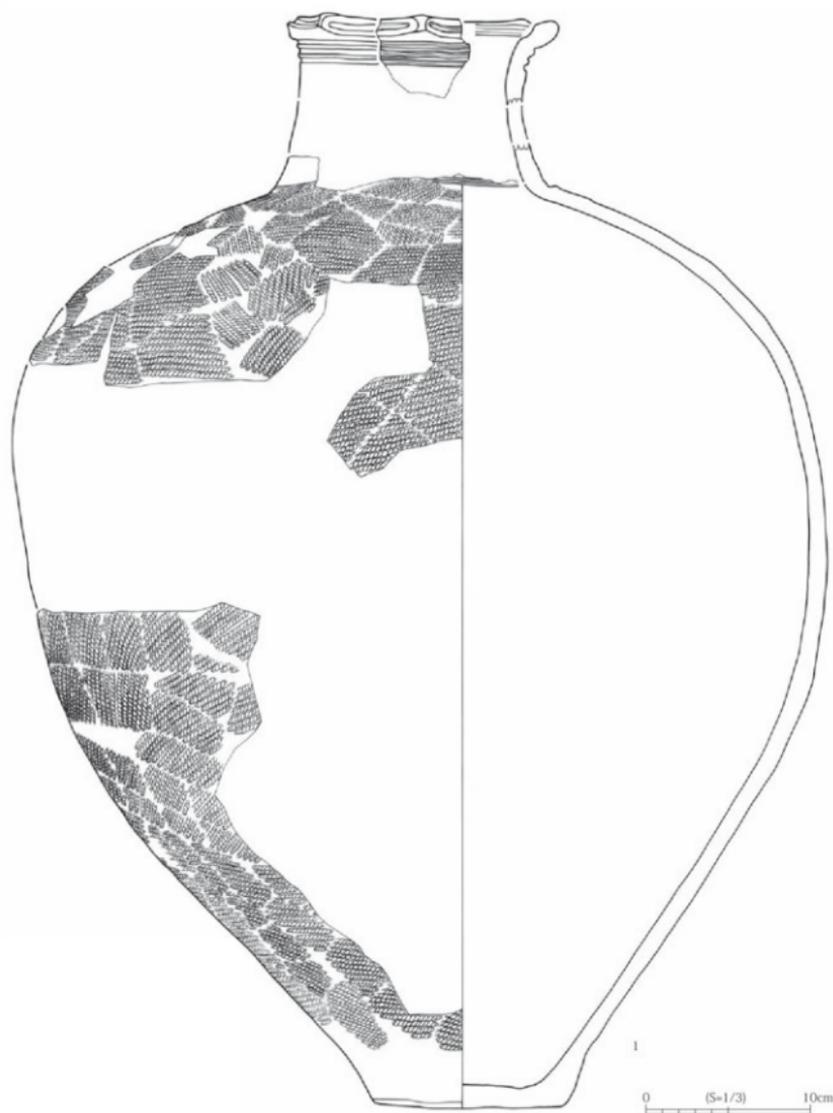
遺構名	層序	土色	土性	特徴	分類
SX2235	1	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山粒を含む	瓶方埋土
	2	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山粒・地山小ブロックを含む、小礫を含む	瓶方埋土
	3	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	地山粒・地山小ブロックを含む、小礫を含む	瓶方埋土
	4	暗赤黄褐色 (2.5Y4/2)	シルト	地山小ブロック・黒褐色シルト小ブロックを多く含む	瓶方埋土
	5	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山粒を含む	瓶方埋土
	6	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山粒・地山小ブロックを含む	崩壊土か



No.	器種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
1	鉢	SX2235	平縁・L199部沈線、ヘラ刻目・平行沈線文、雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR、炭化物付着	39-4	Pat2543
2	浅鉢	SX2235	平縁・L199部短沈線印、雲形文(磨り消し縄文)、内面沈線	39-5	Pat2546

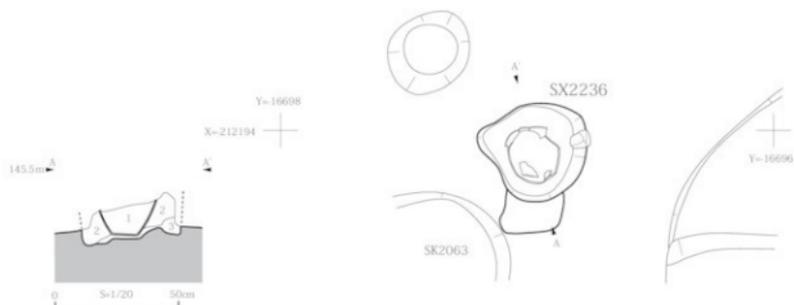
No.	器種	加工	遺構/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	発行	加熱処理	変形	付着物	備考	写真図版	登録
3	石鏡	1 a①	土器内埋積土	珪質頁岩 A	23.5	10.7	4.4	1.1	穿孔	1	0	0	土壌水洗	39-7	S2291
4	石鏡	1 a②	土器内埋積土	碧玉 A	20.9	9.2	3.5	0.6	先端～基部欠	2	0	0	土壌水洗	39-6	S2292
5	石鏡	II a①	土器内埋積土	珪質炭灰岩 B	51.2	33.9	18.1	21.3	基部欠	0	0	0	土壌水洗	39-8	S2293

図版 82 SX2235 土器埋設遺構 平面図・断面図・出土遺物

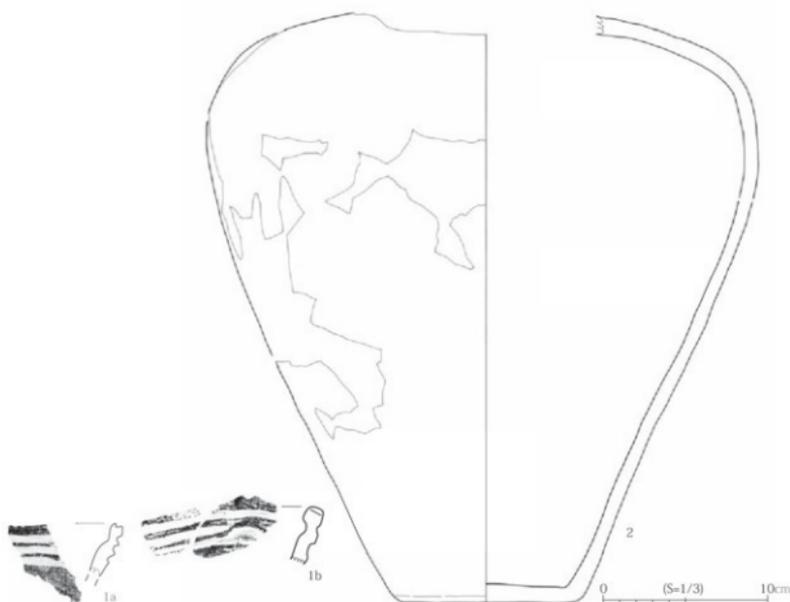


No	器種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
1	壺	SX2235 埋設土器	残存高 58.5cm, 体部最大径 49.0cm, 底径 11.0cm, 波状縁, 頸部と上腹部、腹部と胴部との境に平行沈線文, 体部縄文1段	39-3a,b	Pot2547

図版 83 SX2235 土器埋設遺構 出土土器



遺構名	層序	土色	土性	特徴	分類
SX2236	1	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山粒・炭化物粒を少し含む	埋土
	2	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山粒・炭化物粒を少し含む	埋土
	3	暗灰黄色 (2.5Y4/2)	粘質シルト	地山粒・地山小アロックを含む	埋土
	4	暗褐色 (10YR3/4)	シルト	地山粒をごくわずかに含む	埋土



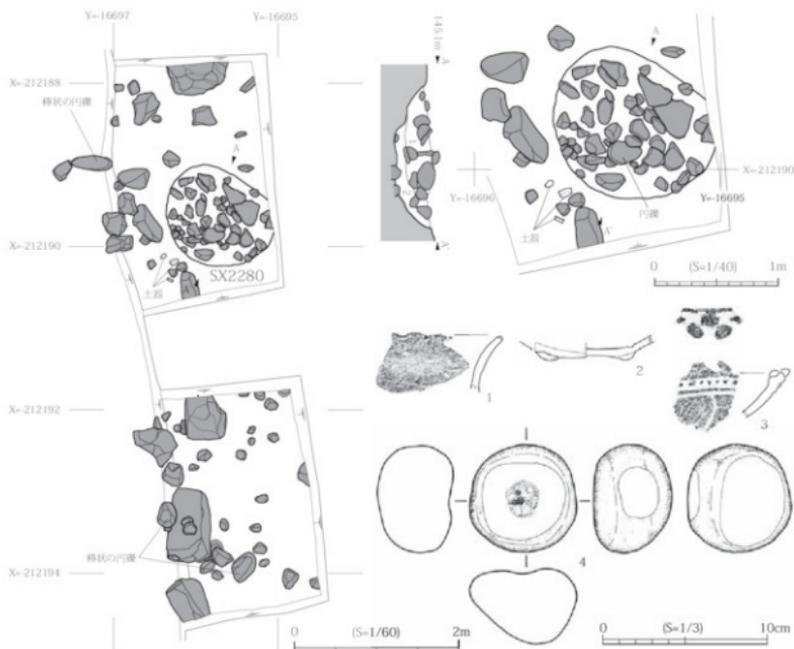
No	遺種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
1	高坪	SX2236	平縁・119部沈線・頂部切み山形突起か。✳字文。内面沈線。朱付着	39-2	Pot2544
2	竈	SX2236 埋設土器、B8/IV、II区/IX	体部最大径 33.4cm。無文。ミガキ	39-1	Pot2545

図版 84 SX2236 土器埋設遺構 平面図・断面図・出土土器

### C. 集石遺構・配石遺構

Ⅱ区北東部の拡張部分でSX 2280 集石遺構を検出した(図版 85、写真図版 13)。検出面はⅣd 層上面である。平面形が長径約 120cm、短径約 100cm 程の楕円形で、平面では中央に円礫を据え、その周囲に角礫を集めている。断面形は深さ約 30cm の皿状で、礫は底面まで密に詰められていた。埋土は 2 層で黒色～黒褐色シルトを主体とする人為的埋土である。礫の一部に焼けたものもあるが、焼面や焼土ブロックは検出されなかった。礫の中には磨石が 1 点含まれている(図版 85-4)。そのほか深鉢の口縁部破片が出土している。無文で口唇部に押圧が連続して施されている(同図-1)。

また、SX 2280 集石遺構の西側に近接して径 30cm 以上の角礫と棒状の円礫が南北方向に密に並



遺構名	順序	土色	土性	特徴	分類
集石遺構	1	黒色(10YR2/1)	シルト	礫を非常に多く含む	埋土
	2	黒褐色(10YR2/2)	シルト	地山小ブロックを少し含む。礫を多く含む	埋土

No	図種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
1	深鉢	SX2280 集石遺構下層	平縁・埋土。		Poz.2076
2	四脚付鉢	Ⅳ回礫直上	四脚付底部。底部の1/2残存。底面ミガキ。底部内面付面に沈線	39-9	Poz.2074
3	皿	Ⅳ回礫直上	平縁・平歯状浮線文、列点文、雲形文、欄文彫体不明		Poz.2075

No	図種	型名	遺構/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	残存	加熱処理	変形	付着物	備考	写真図版	登録
4	磨石	-	SX2280/底面	安山岩	66.8	63.2	47.2	285.4	完形	0	凹凸→	0		39-10	SZ250

図版 85 SX2280 集石遺構 平面図・断面図・出土遺物

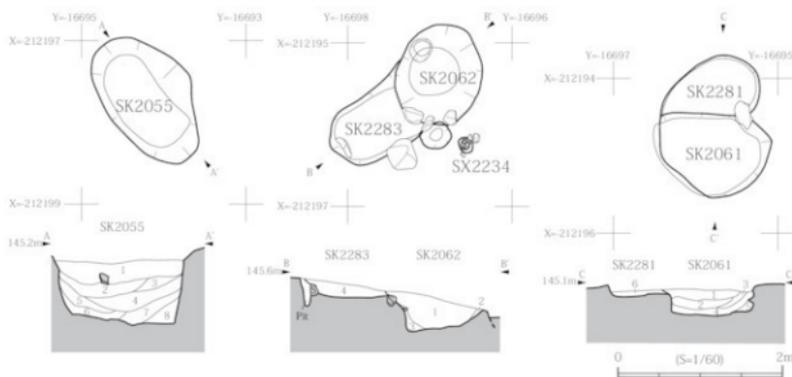
んでいる状態で検出された。検出長は7.2mで、棒状の円礫は立てられた状態にある。検出面は集石遺構と同じIV d層上面で、この面が旧表土と推定されることから、集石と一連の配石遺構である可能性が高い。なお、調査区東壁でこの礫群が並ぶ南北断面を観察したが、礫がある付近の堆積土がIV d層よりやや明るいものの、明瞭な土層の違いとして捉えることができず、礫の据え方か判断できなかった。遺物は礫直上から四脚付土器の底部、皿の小破片が出土している(図版85-1~3)。

## D. 土 坑

12基確認した。このうち10基は形態や規模、相互の位置関係から土坑墓と考えられる。

### (1) 土坑墓

調査区北東部に10基確認した(図版76)。いずれも長径、短径共に80cm以上の土坑で、検出面から底面までの深さが40cm以上のものと20cm程度の浅いものがある。土坑墓と土器埋設遺構は重複しない位置にあり、同時期の可能性がある。



遺構名	層序	土色	土性	特徴	分類	
SK2055	A-A	1	暗褐色(10YR3/3)	シルト	地山粒を少し含む	埋積土
		2	黒褐色(10YR3/2)	粘質シルト	地山ブロックを多く含む	埋土
		3	暗褐色(10YR3/3)	粘質シルト		埋土
		4	暗褐色(10YR3/3)	粘質シルト	地山ブロックを多く含む	埋土
		5	暗褐色(10YR3/3)	粘質シルト	地山粒をわずかに含む	埋土
		6	にぶい黄褐色(10YR4/3)	粘質シルト	地山小ブロックを含む	埋土
		7	にぶい黄褐色(10YR4/3)	粘質シルト	地山粒をわずかに含む	埋土
		8	灰黄褐色(10YR4/2)	粘質シルト	地山小ブロックを多く含む	埋土
SK2062	B-B	1	黒色(10YR2/1)	シルト	地山大ブロックを含む。機土粒・炭化物粒を少し含む	埋土
		2	黒褐色(10YR2/3)	シルト	地山粒・地山小ブロックを多く含む	埋積土
		3	黒褐色(10YR3/2)	シルト	地山粒・地山小ブロックを少し含む	埋積土
SK2283		1	暗褐色(10YR2/2)	シルト	地山粒・地山小ブロックをやや多く含む。炭化物粒を少し含む	埋土
		2	黒褐色(10YR3/2)	シルト	地山ブロック・地山大ブロックを含む。炭化物粒をわずかに含む	埋土
SK2061	C-C	1	暗褐色(10YR3/2)	シルト	地山ブロックを多く含む	埋土
		2	黒褐色(10YR3/2)	シルト	地山ブロックを多く含む	埋土
		3	黒褐色(10YR2/3)	シルト		埋土
		4	暗褐色(10YR3/3)	粘質シルト	地山ブロックを含む	埋土
		5	黒褐色(10YR3/1)	粘質シルト	地山ブロックを少し含む	埋土
SK2281		6	黒褐色(10YR3/2)	シルト	地山ブロックを多く含む	埋土

図版86 SK2055、SK2062、SK2283、SK2061、SK2281土坑 平面図・断面図

【S K 2055 土坑】

〔位置〕 調査区中央で確認した (図版 86)。検出面はIV層である。

〔重複〕 重複はない。

〔規模・構造〕 長径 164cm、短径 108cm、残存する深さ 94cm の楕円形である。

〔壁・底面〕 底面はほぼ平坦で、壁が急に立ち上がる。断面形は箱形である。

〔堆積土〕 8層確認した。地山ブロックを多く含む暗褐色粘土質シルトで人為的埋土である。

〔出土遺物〕 なし。

【S K 2057 土坑】

〔位置〕 調査区中央で確認した (図版 76)。検出面はIV層である。

〔重複〕 S B 2272、S B 2273 建物跡と重複し、S B 2273 建物跡より新しい。S B 2272 建物跡との新旧関係は不明である。

〔規模・構造〕 長径 124cm、短径 90cm、残存する深さ 62cm の楕円形である。

〔壁・底面〕 断面形は皿状である。

〔堆積土〕 不明である。



No	器種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
1	深鉢	SK2057	平鉢・山形突起・11羽部沈線、 $\sigma$ 字文、縄文肌 欠	39-17	Pot2536
2	鉢	SK2057、B9/IV	平鉢、 $\sigma$ 字文、縄文LR、朱付着	39-18	Pot2549
3	鉢	SK2067	平鉢・ヘラ刻目、平行沈線文、内面沈線	39-19	Pot2314
4	壺	SK2061	平鉢、無文	39-14	Pot2309
5	浅鉢	SK2061	平鉢、沈線文	39-11	Pot2310
6	深鉢	SK2061	茶碗文(ハケメ)	39-15	Pot2537
7	鉢	SK2061	平鉢、ヘラ刻目、平行沈線文、縄文肌体不明	39-12	Pot2539
8	浅鉢	SK2061	平鉢・11羽部沈線文、平行沈線文、縄文LR、内面沈線	39-16	Pot2538
9	四脚付香炉	SK2061/埋	底部に焼成前穿孔4個、幅状隆帯・沈線文、平行沈線文、工字文、内外面ミガキ、朱付着	39-13	Pot2540
10	浅鉢	SK2063	$\sigma$ 字文	39-20	Pot2311
11	壺	SK2063	平鉢、沈線文	39-21	Pot2312
12	浅鉢	SK2063	歪形文(磨り出し縄文)、縄文LR	39-22	Pot2313

図版 87 SK2057、SK2061、SK2067、SK2061、SK2063 土坑 出土土器

〔出土遺物〕 $\pi$ 字文が施された深鉢、鉢が出土している(図版 87-1・2)。

#### 【S K 2061 土坑】

〔位置〕調査区中央で確認した(図版 86)。検出面はIV層である。

〔重複〕S B 2274、S B 2275 建物跡、S K 2281 土坑と重複し、S K 2281 土坑より新しい。

S B 2274、S B 2275 建物跡との新旧関係は不明である。

〔規模・構造〕長径 140cm、短径 104cm、残存する深さ 40cm の楕円形である。

〔壁・底面〕底面はほぼ平坦で、壁が急に立ち上がる。断面形は箱形である。

〔堆積土〕5層確認した。地山ブロックをやや多く含む黒褐色シルトで人為的埋土である。

〔出土遺物〕深鉢、鉢、浅鉢、壺、香炉が出土している(図版 87-4～9)。香炉は、底部に穿孔が4個ある。

#### 【S K 2281 土坑】

〔位置〕調査区中央で確認した(図版 86)。検出面はIV層である。

〔重複〕S B 2274、S B 2275 建物跡、S K 2061 土坑と重複し、S K 2061 土坑より古い。S B 2274、S B 2275 建物跡との新旧関係は不明である。

〔規模・構造〕長径約 130cm、短径約 80cm、残存する深さ 16cm の楕円形である。

〔壁・底面〕底面はほぼ平坦で、壁が緩やかに立ち上がる。断面形は皿状である。

〔堆積土〕1層確認した。地山ブロックを多く含む黒褐色シルトで人為的埋土である。

〔出土遺物〕なし。

#### 【S K 2062 土坑】

〔位置〕調査区中央で確認した(図版 86)。検出面はIV層である。

〔重複〕S B 2272、S B 2275 建物跡、S K 2283 土坑と重複し、S B 2272 建物跡、S K 2283 土坑より新しい。S B 2275 建物跡との新旧関係は不明である。

〔規模・構造〕直径約 130cm、残存する深さ 46cm の円形である。

〔壁・底面〕底面はほぼ平坦で、壁は急に立ち上がる。断面形は逆台形である。

〔堆積土〕3層確認した。地山ブロックをやや多く含む黒褐色シルトで人為的埋土である。

〔出土遺物〕なし。

#### 【S K 2283 土坑】

〔位置〕調査区中央で確認した(図版 86)。検出面はIV層である。

〔重複〕S B 2272 建物跡、S K 2062 土坑と重複し、S K 2062 土坑より古い。S B 2272 建物跡との新旧関係は不明である。

〔規模・構造〕長径 135cm 以上、短径約 80cm、残存する深さ 22cm の楕円形と推定される。

〔壁・底面〕底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。断面形は皿状である。

〔堆積土〕1層確認した。地山大ブロック、炭化物、焼土粒を含む黒褐色シルトで人為的埋土である。  
〔出土遺物〕なし。

#### 【S K 2063 土坑】

〔位置〕調査区中央で確認した(図版76)。検出面はIV層である。  
〔重複〕S B 2274 建物跡と位置的に重複するが重複関係は不明である。  
〔規模・構造〕長径135cm以上、短径約80cm、残存する深さ22cmの楕円形である。  
〔壁・底面〕ほぼ平坦で、壁は急に立ち上がる。  
〔堆積土〕不明である。  
〔出土遺物〕浅鉢、壺が出土している(図版87-10～12)。浅鉢にはπ字文が施されている。

#### 【S K 2066 土坑】

〔位置〕調査区中央で確認した(図版76)。  
〔重複〕重複はない。  
〔規模・構造〕長径94cm、短径92cm、残存する深さ9cmの楕円形である。  
〔壁・底面〕底面はほぼ平坦で、断面形は皿状である。  
〔堆積土〕不明である。  
〔出土遺物〕なし。

#### 【S K 2067 土坑】

〔位置〕調査区中央で確認した(図版76)。  
〔重複〕重複はない。  
〔規模・構造〕長径128cm、短径74cm、残存する深さ12cmの楕円形である。  
〔壁・底面〕底面はほぼ平坦で、断面形は皿状である。  
〔堆積土〕不明である。  
〔出土遺物〕鉢の口縁部破片が出土している(図版87-3)。

#### 【S K 2282 土坑】

〔位置〕調査区中央で確認した(図版76、77)。東半は調査区外に延びる。検出面はV層上面である。  
〔重複〕S X2238 土器埋設遺構と重複し、これより古い。  
〔規模・構造〕長径約70cm以上、短径約80cm、残存する深さ約30cmの楕円形である。  
〔壁・底面〕底面はほぼ平坦で、壁が緩やかに立ち上がる。断面形は皿状である。  
〔堆積土〕地山大ブロックを多く含む黒褐色シルトである。  
〔出土遺物〕なし。

## (2) 土坑

2 基確認した (図版 88)。

### 【S K 2201 土坑】

〔位置〕 調査区中央で確認した。検出面はV層上面である。

〔重複〕 ビットと重複し、これより古い。主な遺構との重複はない。

〔規模・構造〕 長径 84cm、短径 70cm、残存する深さ 8cm の楕円形である。

〔壁・底面〕 底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。断面形は皿状である。

〔堆積土〕 1 層確認した。地山ブロックを含む黒褐色シルトの自然堆積層である。

〔出土遺物〕 図示できる出土遺物はなかった。



### 【S K 2204 土坑】

〔位置〕 調査区中央で確認した。

〔重複関係〕 S B 2214 建物跡 P3、ビットと重複し、S B 2214 建物跡より新しく、ビットより古い。

〔規模・構造〕 長径 74cm、短径 64cm、残存する深さ 22cm の楕円形である。

〔壁・底面〕 底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。断面形は皿状である。

〔堆積土〕 1 層確認した。黒褐色シルトの自然堆積層である。

〔出土遺物〕 図示できる出土遺物はなかった。

## E. Pit

Ⅱ区で確認したビットで建物の柱穴として捉えられなかったものから出土した遺物をまとめておく (図版 89)。各ビットの位置については図版 56 を参照されたい。Pit2088 から体部有段の小型鉢 (同図-21) が出土しているほか、Pit2001 では玉抱き三叉文 (同図-1)、Pit2020 から雲形文 (同図-4) が施された土器など後期後葉から晩期末の土器片、石匙、不定形石器などが出土している。

## 第3節 Ⅲ区

Ⅲ-1区では3m幅のトレンチを4ヶ所設定して遺構の有無を確認したが、遺構は検出されなかった。Ⅲ-2区では遺構は確認されなかったが、北東に向かって急斜面になっており、黒色土が堆積していた。この堆積土中から縄文土器 (図版 173、174) と石器が少数出土している。



No	器種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
1	深鉢	P2001	平鉢、玉磨き三叉文		Por2301
2	浅鉢	P2010	平鉢、雲形文(磨り消し縄文)、縄文主体不明		Por2335
3	鉢	P2010	平行沈線文、へう割目、縄文LR		Por2336
4	浅鉢	P2020	雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR		Por2338
5	注口or壺	P2020	平鉢、無文		Por2337
6	深鉢	P2042	平行沈線文、新突岡		Por2305
7	深鉢	P2042	平鉢、縄文LR		Por2303
8	鉢	P2078	平鉢・へう割目・二個一対の小突起、平行沈線文、縄文LR		Por2315
9	鉢	P2078	平鉢・へう割目、平行沈線文、縄文主体不明、内面沈線		Por2316
10	鉢	P2079	平鉢・へう割目、平行沈線文、礫面状割目、縄文LR、炭化物付着		Por2317
11	壺	P2083	平鉢、無文		Por2318
12	深鉢	P2085	平鉢、貼施、沈線文、縄文LR		Por2320
13	鉢	P2085	平鉢・礫面状割目、平行沈線文、内面沈線		Por2321
14	鉢	P2085	平鉢・炭状浮線文、平行沈線文、縄文LR、内面沈線		Por2323
15	皿or浅鉢	P2085	雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR、底部内面付近に縄文隆帯		Por2319
16	鉢	P2085	十字文		Por2324
17	深鉢	P2085	平鉢、縄文LR		Por2322
18	鉢	P2250	平鉢・へう割目、平行沈線文、羽状縄文LR.LR、内面沈線、炭化物付着		Por2333
19	深鉢	P2088	平鉢、平行沈線文、へう割目		Por2326
20	鉢	P2088	小波状鉢、玉磨き三叉文		Por2327
21	鉢	P2088	L径(9.2cm)、器高(7.6cm)、L鉢底部平鉢、横線1条、胴部に段、底部付近に沈線文(門文か)、丸底風、内外面ミガキ		Por2302

No	器種	加型	遺構/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	残存	加熱処理	変形	付着物	備考	写真図版	登録
22	石匙	I	P2010	玉髓	29.9	11.4	5.8	1.5	先端欠	1	0	0			S2024
23	不定形石器	Ⅲa	P2006	珉質白岩A	39.0	23.2	11.5	11.9	一部欠	0	0	0			S2071

図版 89 Ⅱ区 Pit 出土遺物

## 第4節 IV区の遺構とその出土遺物

### 1. IV-1区

調査区北側で焼土ブロックの拵がり(SX4010)を確認した(図版4)。長軸約100cm、短軸約40cmの不整形である。周囲で時期不明の土器片が出土しているが図示できるものはなかった。

### 2. IV-2・3区

湿地になる以前の沢跡を検出し、浅いところで表土下約60cm、深いところで約160cm下で土器片を多く含む黒色粘土層(5層)、その下に沢跡の底面にあたる礫層を検出した。IV-2区南部では植物質が多く含まれるスクモ層(3層)を5層上で確認し、6層でグライ化がみられるなど湿地性の堆積層が確認された(図版90)。

遺物は黒色粘土層(5層)中から土器が多数出土したほか、沢跡底面の礫層(7、8層)中から土器小破片、石器などが確認された(図版91～96)。これらは縄文時代早期～弥生時代中期の土器、ロクロ土師器が混在し、出土する土器片の割れ口も丸くなっているものが多いことから沢に流れ込んだ二次堆積であると考えられる。沢跡から出土した土器は縄文時代晩期後半～弥生時代中期のものが多く、また、出土した遺物には頸部に木目筋の残るへら状工具によって施文されたいわゆる「ワラジ虫」状の列点文がある土器片が含まれている(図版92-14、94-15～18)。

なお、IV-2区北端の沢頭付近に直径140cm程度の範囲で黒色土が堆積している窪み(SX4058)を検出した。比較的大形の土器片がまとめて出土したが、杭跡や石組みなどの人工的な施設は確認されず、ドングリヤトチの実などの植物遺体の堆積もみられなかった。

西側にある丘陵東斜面に設定したIV-3区では、遺構や包含層などは検出されず、ほとんどの場所で表土直下はすぐ地山であった。遺物は土器片、石器が少数出土している。

### 3. IV-4区

北部で縄文時代の竪穴住居跡1軒、中央部で溝跡1条と土坑2基を確認した(図版90)。南部は攪乱が多く、縄文時代から弥生時代の遺構は検出されなかった。

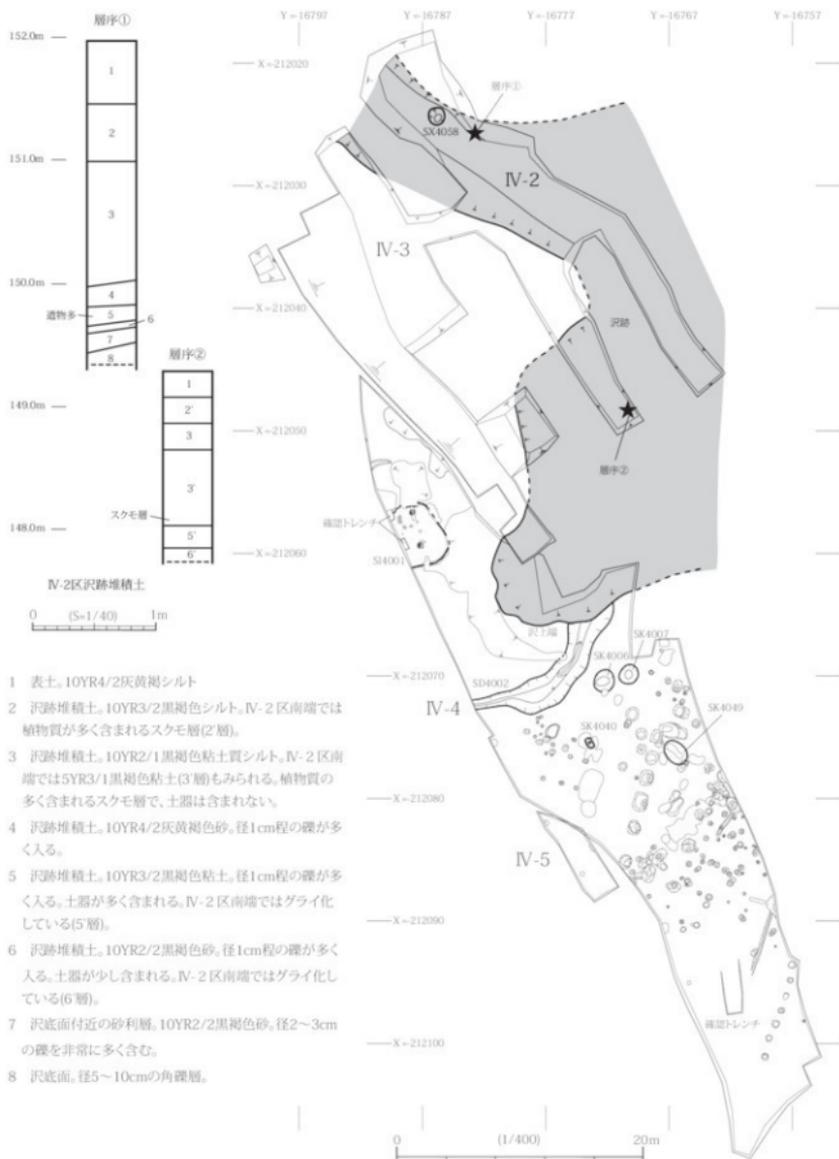
#### A. 住居跡

##### 【S I 4001 住居跡】

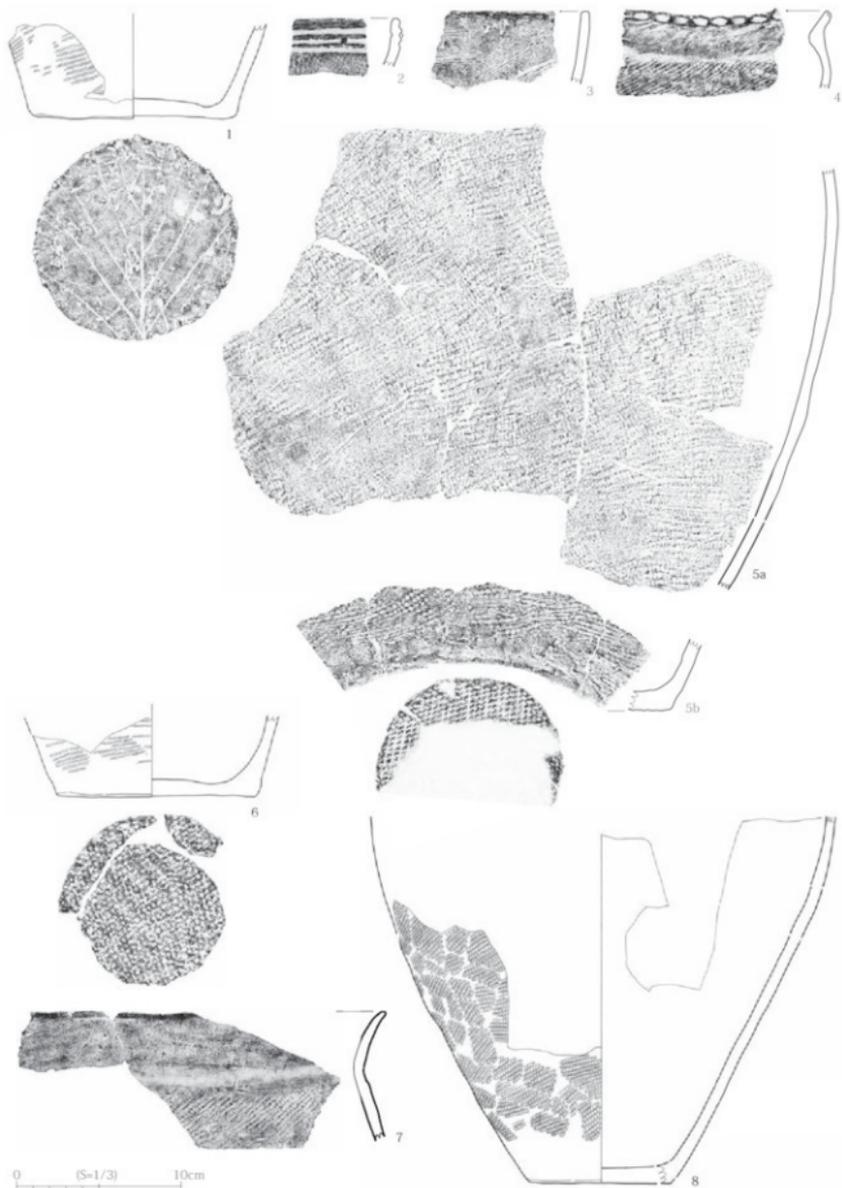
〔位置〕調査区北部で確認した(図版97)。住居跡西側1/3程度が調査区外に延びる。削平によって堆積土や壁、床面は残存していない。

〔重複〕主な遺構との重複はない。

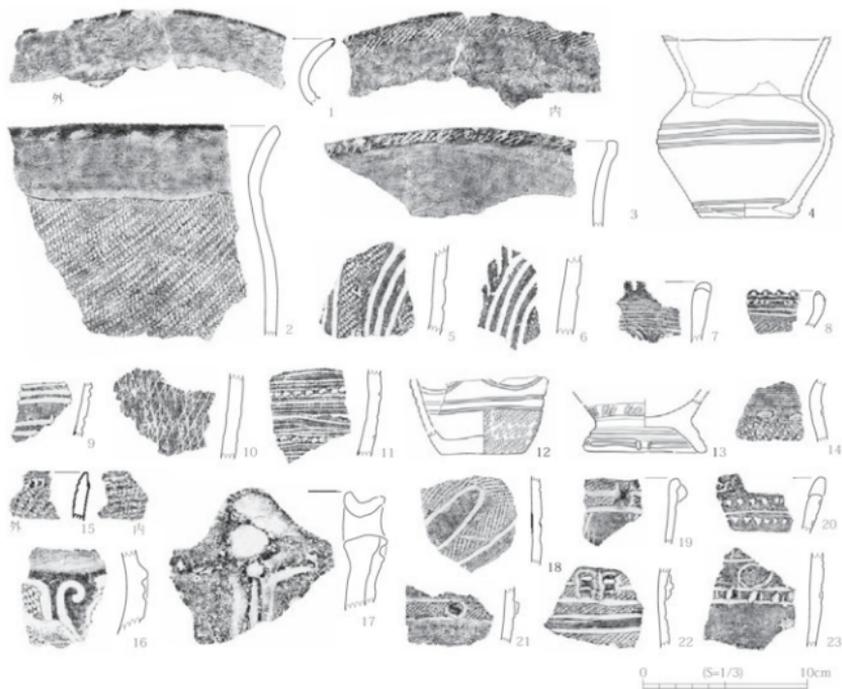
〔規模・構造〕平面形は南北約5.1m、東西3.4以上の円形と推定される。



図版 90 IV-2・3・4区 遺構配置

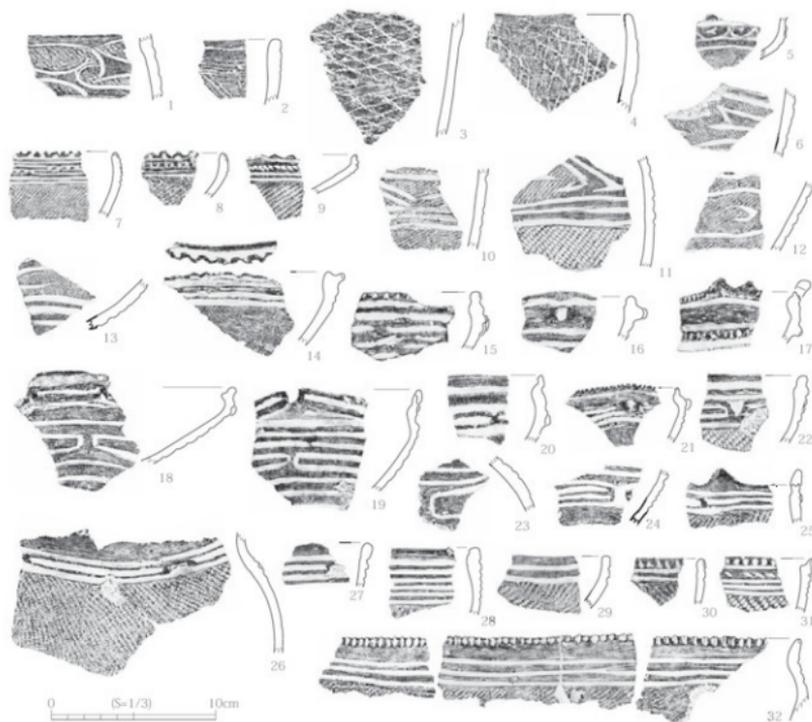


图版 91 IV-2区 出土土器(1)



No	器種	遺構/層	特徴	写真図	登録
91-1	深鉢	SX4058/5/6	縄文土、底部木葉痕、炭化物付着		Pot4089
91-2	浅鉢	SX4058/5/6	平縁、平行沈線文、粘土粘着付文(α字文風)、内面沈線	40-1	Pot4083
91-3	深鉢	SX4058/5/6	平縁、条線文		Pot4082
91-4	深鉢	SX4058/5/6	平縁・押土、縄文LR	40-4	Pot4085
91-5	深鉢	SX4058/5/6	条線文LR、底部刷代痕、炭化物付着		Pot4087
91-6	深鉢	SX4058/5/6	縄文土、底部刷代痕、炭化物付着		Pot4088
91-7	深鉢	SX4058/5/6	平縁、縄文LR	40-2	Pot4084
91-8	深鉢	SX4058/5/6	底径 08.6cm、縄文LR、底面ミガキ		Pot4086
92-1	深鉢	SX4058/5	平縁、平行沈線文、土縁の内面に縄文LR		Pot4092
92-2	深鉢	SX4058/5	平縁、縄文LR、炭化物付着	40-5	Pot4090
92-3	壺	SX4058/5	平縁、縄文原形不明、土縁の内面に重りだし	40-3	Pot4091
92-4	壺	SX4058/5	体部最大径 10.8cm、土縁部・体部・底部付近に平行沈線	40-6	Pot4093
92-5	深鉢	IV-2/8	渦巻文か、縄文LR		Pot4070
92-6	深鉢	IV-2/8	弧状集合沈線文	40-8	Pot4071
92-7	深鉢	IV-2/8	平縁・面部斜山形突起、条線文	40-9	Pot4072
92-8	鉢	IV-2/8	平縁・ヘラ刻目、刻み、平行沈線文、ヘラ刻目、縄文土		Pot4073
92-9	鉢か	IV-2/8	平行沈線文		Pot4069
92-10	深鉢	IV-2/8	刷目状擦糸文R		Pot4074
92-11	深鉢	IV-2/8	条線文、ヘラ刻目		Pot4075
92-12	鉢	IV-2/8	底径 5.1cm、弧状沈線文、平行沈線文、縄文LR	40-7	Pot4078
92-13	付部	IV-2/8	付部径 7.6cm、α字文、縄文LR		Pot4076
92-14	甕	IV-2/8	胴部ヨコナデ、木目痕の残るヘラ状工具による列点文、縄文(原形不明)	40-10	Pot4067
92-15	深鉢	IV-2/8	刻み列、内外面縄文原形不明		Pot4032
92-16	深鉢	IV-2/8	渦巻文、縄文LR	40-13	Pot4011
92-17	深鉢	IV-2/8	平縁・弧状突起、首首、隆線文、土縁の内面に段	40-14	Pot4054
92-18	深鉢	IV-2/8	弧状縄文帯区画文(充填縄文)、縄文LR	40-11	Pot4002
92-19	深鉢	IV-2/8	平縁、胎面、帯状文(縄文)、格子状沈線文か	40-12	Pot4018
92-20	深鉢	IV-2/8	平縁・突起、平行沈線文、斜突刻目		Pot4046
92-21	深鉢	IV-2/8	胎面、帯状文、縄文LR		Pot4003
92-22	深鉢	IV-2/8	刻みのある突部、帯状文(縄文)、縄文LR	40-15	Pot4023
92-23	深鉢	IV-2/8	帯状文(斜突刻目)、円文	40-16	Pot4031

図版 92 IV-2区 出土土器(2)



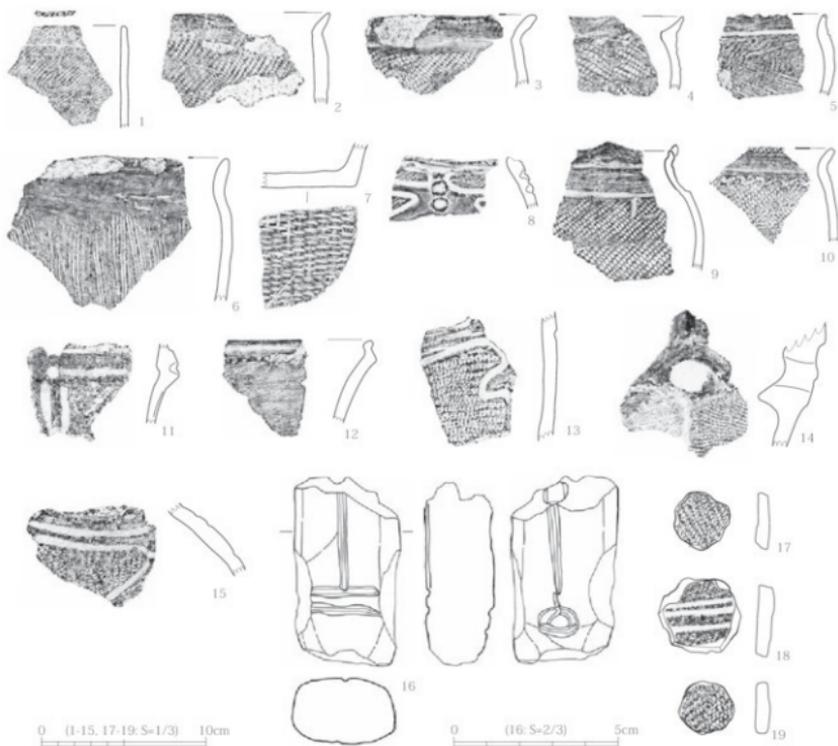
No	器種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
1	深鉢	IV-2/5	人形部状文、縄文RLか		Por4022
2	深鉢	IV-2/5	平鉢、条線文	40-18	Por4047
3	深鉢	IV-2/5	網目状懸糸文L		Por4034
4	深鉢	IV-2/5	平鉢、網目状懸糸文R	40-17	Por4062
5	浅鉢	IV-2/5	楕円形の突起(三叉文)、平行沈線文、縄文(器体不明)	40-19	Por4005
6	浅鉢か	IV-2/5	雲形文(磨り消し縄文)、縄文RL		Por4004
7	鉢	IV-2/5	平鉢・へう刷目、羊歯状文、縄文LR	40-20	Por4016
8	浅鉢	IV-2/5	平鉢・へう刷目、刷目、平行沈線文、縄文LR		Por4052
9	浅鉢	IV-2/5	平鉢・へう刷目、平行沈線文、刷突列、縄文LR	40-21	Por4040
10	鉢	IV-2/5	網面状沈線文、縄文LR	40-22	Por4042
11	鉢	IV-2/5	雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR2種	40-23	Por4001
12	鉢	IV-2/5	沈線文、縄文L		Por4044
13	皿or浅鉢	IV-2/5	雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR		Por4045
14	浅鉢	IV-2/5	平鉢・波状浮線文、平行沈線文	40-25	Por4021
15	浅鉢	IV-2/5	平鉢・へう刷目、平行沈線文、メガネ状浮線文、内面沈線	40-28	Por4033
16	鉢	IV-2/5	平鉢、二個一対の変形、平行沈線文、内面沈線		Por4028
17	浅鉢	IV-2/5	平鉢・山形押目山形突起・L側部沈線、平行沈線文、へう刷目、内面沈線	40-29	Por4027
18	鉢	IV-2/5	平鉢、メガネ状浮文、工字文、内面沈線	40-26	Por4035
19	浅鉢	IV-2/5	波状鉢・面部刷目、刷目沈線文、工字文、内面沈線	40-27	Por4055
20	浅鉢	IV-2/5	平鉢、平行沈線文、粘土粘貼付、内面沈線	40-31	Por4051
21	鉢	IV-2/5	平鉢・楕圓状刷目、二個一対の変形、平行沈線文、内面沈線	40-24	Por4039
22	浅鉢	IV-2/5	平鉢、α字文、縄文LR、内面沈線、朱付着	40-44	Por4043
23	皿	IV-2/5	工字文か	40-34	Por4056
24	鉢	IV-2/5	工字文	40-36	Por4037
25	深鉢	IV-2/5	平鉢・山形突起・L側部沈線、α字文(粘土粘貼付、磨り込み)、内面沈線	40-37	Por4024
26	深鉢	IV-2/5	α字文(粘土粘貼付、磨り込み)、縄文RL	40-38	Por4057
27	浅鉢	IV-2/5	波状鉢・L側部沈線か、α字文、内面沈線	40-30	Por4048
28	鉢	IV-2/5	平鉢・平行沈線文、縄文器体不明、内面沈線	40-35	Por4065
29	鉢	IV-2/5	平鉢、平行沈線文、縄文LR	40-32	Por4015
30	鉢	IV-2/5	平鉢、へう刷目、平行沈線文、縄文RL		Por4049
31	鉢	IV-2/5	平鉢、へう刷目、平行沈線文、列点文B、縄文RL、内面沈線	40-33	Por4019
32	鉢	IV-2/5	平鉢・へう刷目、平行沈線文、縄文LR	40-42	Por4009

図版 93 IV-2区 出土土器(3)



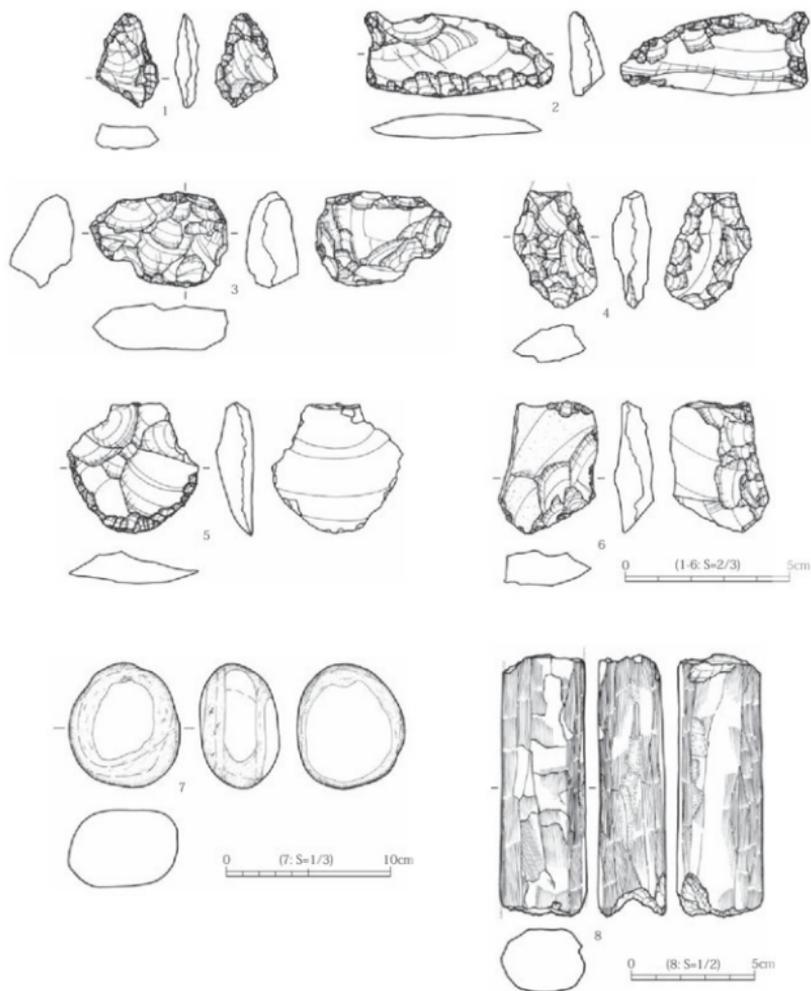
No	器種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
1	深鉢	IV-2/5	平縁・ヘラ刷目, 平行沈線文	40-41	Pos4036
2	深鉢	IV-2/5	平縁・ヘラ刷目, 平行沈線文, 縄文RL	40-43	Pos4038
3	深鉢	IV-2/5	小波状縁, 弧状沈線文, 平行沈線文, 縄文LL, 内面沈線	40-46	Pos4041
4	蓋	IV-2/5	つまみ部径 7.4cm, 上面に同心円文, 側面に縄文LR	40-39	Pos4064
5	蓋	IV-2/5	つまみ部径 5.6cm, 上面に副代面・田の字状の区画沈線文	40-40	Pos4063
6	深鉢	IV-2/5	小波状縁・L1斜部沈線, 縄文LR, 内面沈線	40-48	Pos4020
7	深鉢	IV-2/5	平縁・山形突起・L1斜部沈線, 平行沈線文, 内面沈線	40-45	Pos4030
8	皿	IV-2/5	L1縁部内面に変形工字またはH字文か	40-55	Pos4017
9	深鉢	IV-2/5	平縁, 三角形文(磨り消し縄文), 縄文LR	40-56	Pos4008
10	深鉢	IV-2/5	重層三角形文(磨り消し縄文), 縄文LR	40-47	Pos4006
11	深鉢	IV-2/5/8	重層三角形文・変形文(磨り消し縄文), 縄文LR	40-57	Pos4068
12	深鉢	IV-2/5	平縁・L1斜部縄文, ヨコナデ, 縄文LR	40-54	Pos4014
13	甕	IV-2/5	平縁・L1斜部縄文, ヨコナデ, 縄文LR	40-53	Pos4025
14	深鉢	IV-2/5	平縁・L1斜部縄文, 平行沈線, 縄文LR	40-49	Pos4013
15	皿	IV-2/5	ハケメ=縄文彫体不明, 平行沈線副列点文, 内面ミガキ	40-51	Pos4026
16	甕小	IV-2/5	列点文, 縄文LR	40-52	Pos4007
17	甕	IV-2/5	断面ヨコナデ, 列点文, 体部縄文彫体不明	40-50	Pos4029
18	甕	IV-2/5	平縁, L1斜部縄文, L1縁部ヨコナデ, 頸部に本目筋の残るヘラ状工具による列点文, 体部付加染文(LR-L)か, 内面ミガキ	41-1	Pos4012

図版 94 IV-2区 出土土器(4)



No	器種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
1	深鉢	IV-2/5	平縁・口内面縄文、貫条縄文し、LR	41-4	Pot4056
2	深鉢	IV-2/5	平縁、口縁部無文、縄文LR	41-5	Pot4058
3	深鉢	IV-2/5	平縁、口縁部無文、縄文LR	41-2	Pot4059
4	深鉢	IV-2/5	平縁、口縁部無文、縄文LR	41-3	Pot4060
5	深鉢	IV-2/5	平縁・ヘラ刻目、口縁部無文、平行沈線文、縄文LR	41-6	Pot4061
6	深鉢	IV-2/5	平縁、口縁部無文、体部ハケメカ	41-7	Pot4053
7	深鉢	IV-2/5	底面刷代痕	41-8	Pot4050
8	深鉢	IV-2/確認面	二個一対の舌孔、区画文、縄文LR	41-9	Pot4080
9	深鉢	IV-2/確認面	平縁・山形突起、縄文LR	41-11	Pot4079
10	深鉢	IV-2/確認面	平縁・縄文、縄文LR、結節部強調	41-10	Pot4081
11	深鉢	IV-3/表土	舌孔、平行沈線文、縄文原形不明、口縁部内面張り出し	41-14	Pot4095
12	深鉢	IV-3/表土	平縁、平行沈線文		Pot4098
13	深鉢	IV-3/表土	獅子状文、縄文LR	41-12	Pot4097
14	深鉢	IV-3/表土	平縁・突起、貫通孔、幅広の沈線文、縄文LR、口縁部内面に張りだし	41-13	Pot4096
15	深鉢 or 壺	IV-3/表土	三角形文(充填縄文)、縄文LR		Pot4094
16	土偶胴体	IV-2/5	中央、表面に平行沈線文、斗線、背面に環状沈線、中線、上部に接納孔		土 22
17	円盤	SK4038/5/6	最大径 34mm、器厚 8.4mm、周縁を打ち欠いて成形、縄文LR		土 127
18	円盤	IV-2/5	最大径 47.4mm、器厚 9.2mm、周縁を打ち欠きと研ぎで成形、平行沈線、縄文(原形不明)	41-15	土 126
19	円盤	IV-2/5	最大径 31.1mm、器厚 8.3mm、周縁を打ち欠いて成形、縄文LR		土 125

図版 95 IV-2・3区 出土土器・土製品



No	器種	加工	遺跡/層	石材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	状態	加工処理	変形	付着物	備考	写真図版	登録
1	石鏃	不明	IV-2/5	玉髓	27.3	18.9	6.3	3.3	基部欠	2	0	0		41-16	S4010
2	石鏃	Ⅱ b	SX4058/5/6	珉質頁岩 A	58.7	25.3	8.5	13.6	完形	0	0	0		41-17	S4001
3	標形石器	Ⅱ ab	IV-2/6	珉質燧石	29.3	42.3	16.2	19.0	完形	0	0	0		41-18	S4113
4	不定形石器	I	IV-2/5	玉髓	22.4	37.1	10.4	9.0	一部欠	1	0	0		41-19	S4007
5	不定形石器	Ⅱ a	IV-2/5	珉質頁岩 A	40.6	40.2	11.5	14.5	完形	0	0	0		41-20	S4006
6	不定形石器	Ⅱ d	SX4058/5/6	珉質頁岩 A	28.8	41.6	11.2	13.4	完形	0	0	0		41-21	S4112
7	磨石	-	IV-2/5	安山岩	76.5	66.7	47.0	334.6	完形	-	0	0		41-22	S4002
8	石棒	-	IV-3/確認面	粘板岩	107.1	34.3	27.7	192.1	一部欠	0	0	0		41-23	S4012

図版 96 IV-2・3区 出土石器・石製品

〔床面〕ほとんど残存していないと考えられるが、掘方埋土上面に焼け面を4ヶ所確認しており、掘方埋土上面を床としていた可能性がある。

〔柱穴〕2カ所で確認した(P1・P2)。長径約45cm、残存する深さ16～31cmの楕円形である。埋土は地山ブロックを多く含む暗褐色シルトである。2ヶ所で柱痕跡を1ヶ所で柱抜き取り穴を確認した。柱痕跡は直径18cmの円形である。柱間寸法はP1-P2間2.7mである。

〔炉跡〕掘方埋土検出面に焼け面を4ヶ所確認しており、地床炉であった可能性がある。

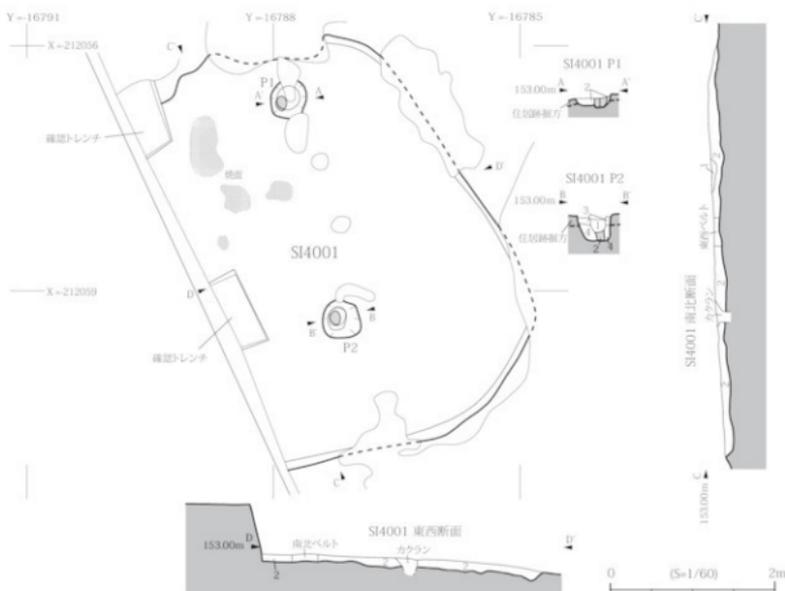
〔堆積土〕掘方埋土は地山ブロックを含む暗褐色シルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から弧状文、短沈線文などが施された深鉢と尖頭器、不定形石器が出土している(図版98)。

## B. 溝 跡

### 【S D 4002 溝跡】

〔位置〕調査区中央付近で確認した(図版99)。



遺構名	順序	土色	土性	特徴	分類	
SI4001-P1	A-A'	1	暗褐色(10YR3/4)	シルト	地山1ブロックを多く含む。黒褐色シルト粒を含む	柱面跡
		2	暗褐色(10YR3/4)	シルト	地山1ブロックを多く含む	柱穴埋土
SI4001-P2	B-B'	1	黒褐色(10YR2/3)	シルト	(上部) 地山ブロックを含む	柱抜き穴
		2	暗褐色(10YR3/3)	粘質シルト	地山1小ブロックを多く含む。地山3小ブロックをわずかに含む	柱面跡
		3	暗褐色(10YR3/3)	シルト	地山1ブロックを非常に多く含む。地山3ブロックをわずかに含む	柱穴埋土
SI4001	C-C' D-D'	1	暗赤褐色(5YR3/4)	シルト	焼土粒~焼土ブロック・炭化物粒を多く含む	焼土
		2	暗褐色(10YR3/4)	シルト	地山1ブロック~大ブロックを非常に多く含む	埋土

図版97 SI4001住居跡 平面図・断面図

〔重複〕 主な遺構との重複はない。

〔規模・断面形〕 検出長約 13.0m、上幅約 2.5m、下幅約 0.6m、残存する深さ約 80cm、断面形は皿状で、一部 V 字形になっている。IV-4 区西辺から北に緩やかに屈曲し、丘陵下の湿地に繋がっている。

〔堆積土〕 7 層確認した。地山粒と炭化物を少し含む褐色シルトの自然堆積層である。

〔出土遺物〕 深鉢、石鐮、楔形石器、不定形石器、石皿、磨石、凹石、土偶、土錘、耳飾り、土製円盤が出土している (図版 99 ~ 102)。

### C. 土 坑

#### 【S K 4040 土坑】

〔位置〕 調査区中央付近で確認した (図版 103)。

〔重複〕 主な遺構との重複はない。

〔規模・構造〕 長径 91cm、短径 53cm、残存する深さ 40cm の楕円形である。

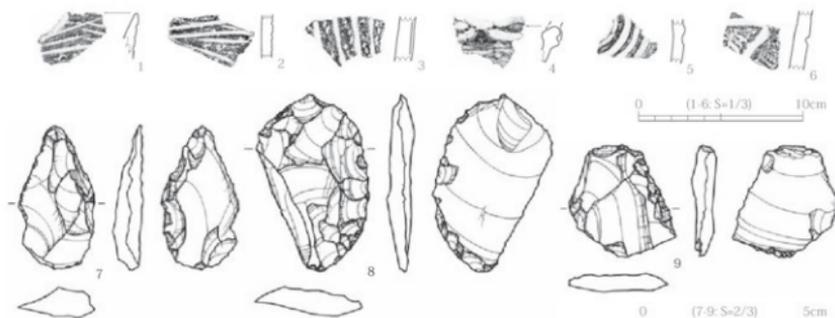
〔壁・底面〕 底面は一部高くなっているがほぼ平坦で、中央に直径 20cm、深さ 16cm の小柱穴がある。壁は急に立ち上がる。断面形は箱形である。

〔堆積土〕 7 層確認した。暗褐色シルトを主体とする自然堆積層である。

〔出土遺物〕 石鐮が 1 点出土している (図版 103)。

#### 【S K 4049 土坑】

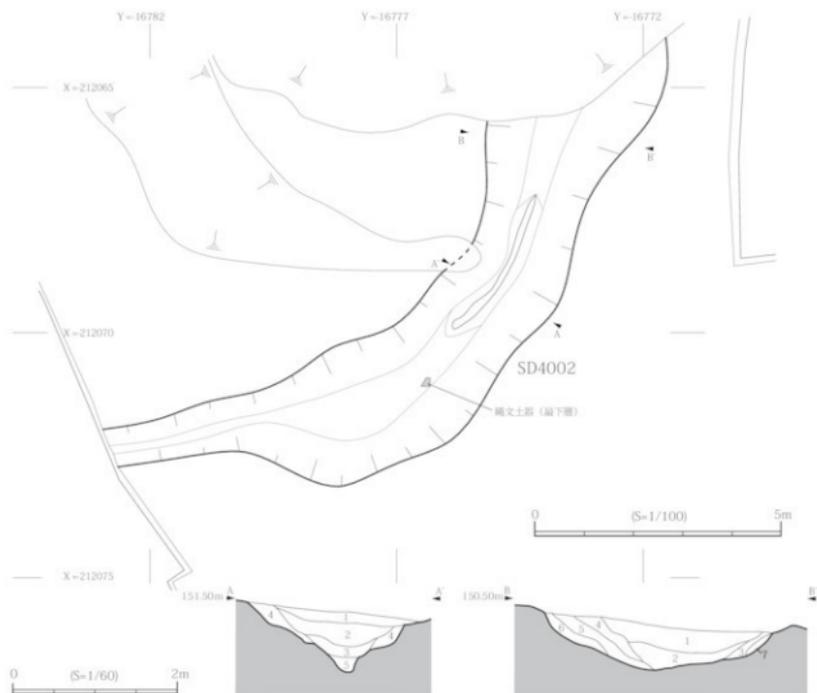
〔位置〕 調査区中央で確認した (図版 103)。



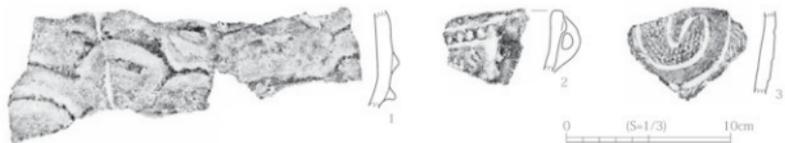
No	器種	遺構 / 層	特徴	写真/版	登録
1	深鉢	掘方埋土	平鉢、多葉山形沈線文		Pot4202
2	深鉢	掘方埋土	平鉢、多葉山形沈線文		Pot4203
3	深鉢	掘方埋土	沈線文、縄文依体不明		Pot4204
4	深鉢	掘方埋土	平鉢・尖尾か、沈線文	41-24	Pot4205
5	深鉢	確認面	同心円文または高登文か		Pot4200
6	深鉢	確認面	沈線文、縄文依体不明		Pot4201

No	器種	類型	遺構 / 層	石材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	形状	刃端処理	変形	付着物	備考	写真/版	登録
7	凹石器	凹	掘方埋土	珪質頁岩 A	43.8	23.7	8.3	7.3	完形	0	0	0		41-25	S4040
8	不定形石器	凹 b	掘方埋土	珪質頁岩 A	53.7	32.5	6.6	12.2	一部欠	0	0	0		41-27	S4039
9	不定形石器	凹 e	掘方埋土	珪質頁岩 B	34.4	32.3	6.5	6.4	完形	0	0	0		41-26	S4038

図版 98 S4001 住居跡 出土遺物



遺構名	層序	土色	土性	特徴	分類	
SD4002	A-A'	1	暗褐色 (10YR3/4)	シルト	炭化物粒を少し含む	堆積土
		2	褐色 (10YR4/4)	シルト	地山粒 (地山2 主体) を少し含む。炭化物粒を少し含む	堆積土
		3	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト	地山2・4 粒を含む。炭化物粒を少し含む	堆積土
		4	褐色 (10YR4/4)	シルト	地山2・4 大ブロックを非常に多く含む	堆積土
	B-B'	5	暗褐色 (10YR3/4)	粘質シルト	地山4 粒・小ブロックを含む。炭化物粒を少し含む	堆積土
		1	暗褐色 (10YR3/4)	粘質シルト	地山小ブロック (地山2)・粘土粒・炭化物粒をわずかに含む	堆積土
		2	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山小ブロック・アブロック (地山4) をわずかに含む。炭化物粒を含む	堆積土
3	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山小ブロック (地山4) を含む	堆積土		
4	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	粘質シルト	地山粒～地山ブロックを含む。焼土粒・炭化物粒をわずかに含む	堆積土		
5	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	粘質シルト	地山粒～地山ブロックを多く含む。焼土粒・炭化物粒をわずかに含む	堆積土		
6	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	粘質シルト	地山粒～地山ブロックを非常に多く含む。焼土粒・炭化物粒をわずかに含む	堆積土		
7	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	地山ブロック・地山大ブロックを主体とする	堆積土		

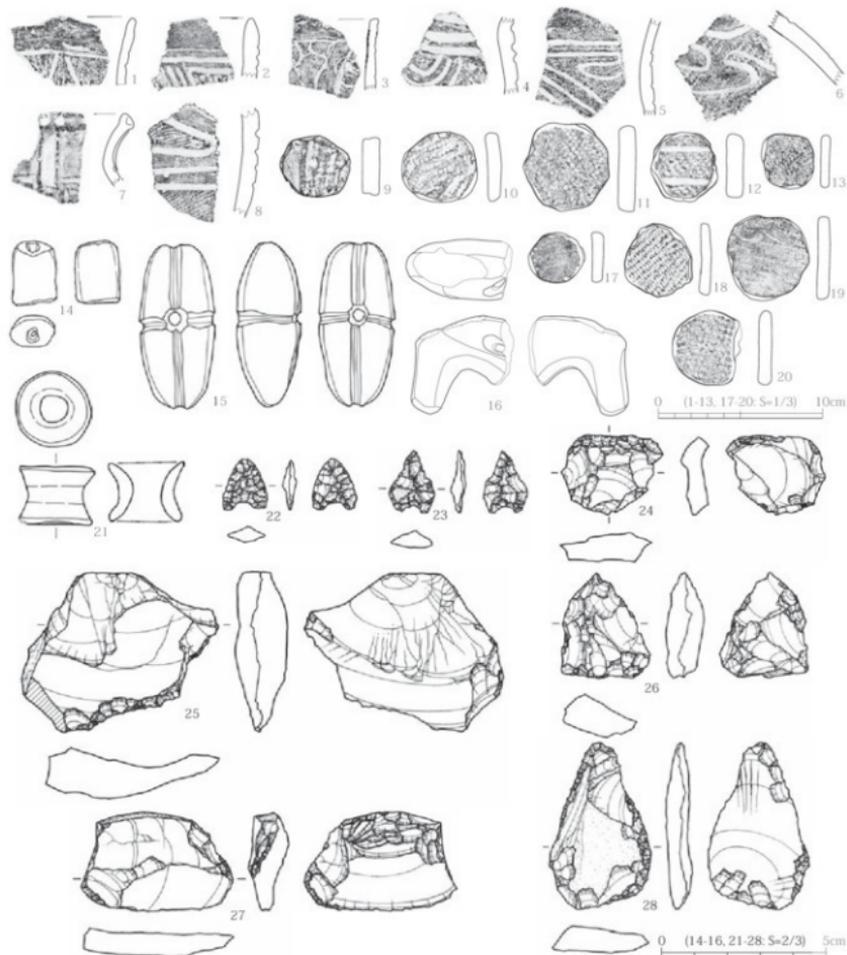


No	器種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
1	深鉢	4, 下層	弧状降線文	41-30	Por4170
2	深鉢	下層	平縁。縄状突起。刻みのある降帯。縄文原形不明		Por4171
3	深鉢	下層	渦巻文。縄文LR	41-29	Por4175

図版 99 SD4002 溝跡 平面図・断面図・出土土器

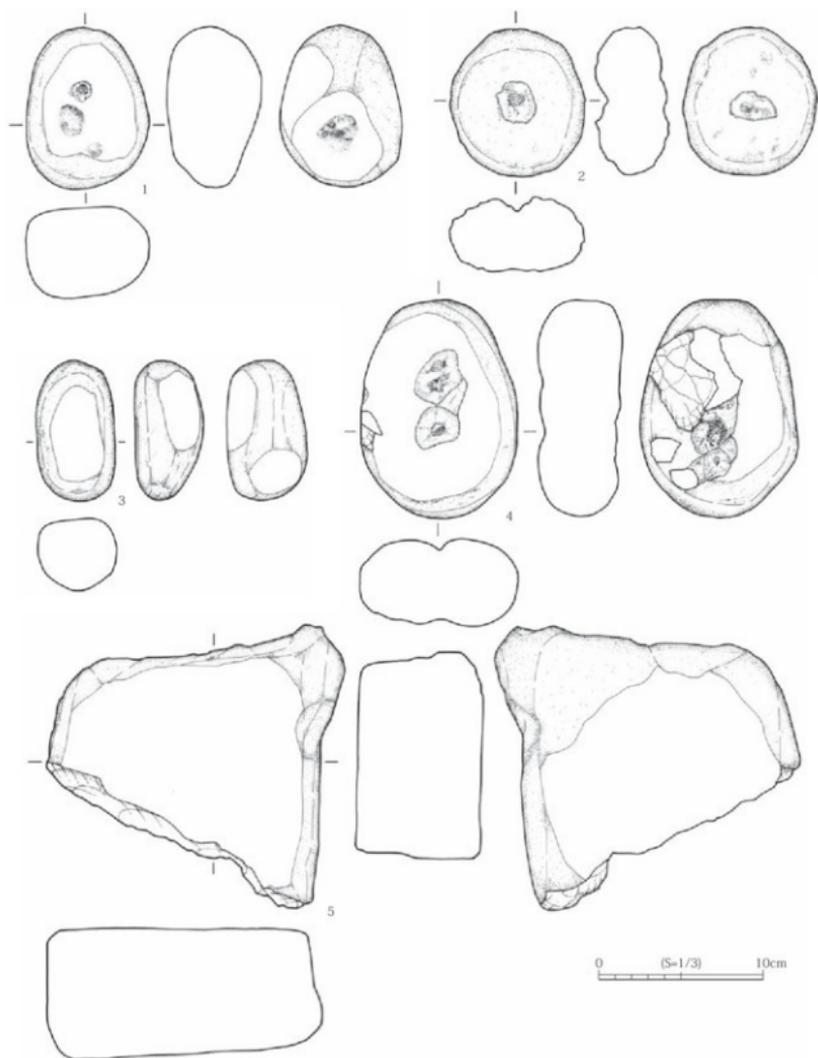


No	器種	遺構/層	特徴	写真図版	附録
1	深鉢	下層	口径17.6cm, 波状縁, 首孔, 弧状沈線文	41-31	Pot4178
2	深鉢	下層	波状縁, 平行沈線文, 扇形短行沈線文か, 縄文原体不明		Pot4174
3	深鉢	下層	平縁, 条痕文	41-28	Pot4172
4	深鉢	下層	口径17.0cm, 器高19.6cm, 底径9.8cm, 平縁, 帯状文R, 底部木葉筋か, 比類による厚減薄	42-1	Pot4177
5	深鉢	下層	平縁, 弧状区画沈線文, 縄文LR		Pot4173
6	深鉢	中・下層	平縁, 面水状条痕文	42-2	Pot4169
7	深鉢	上層	平縁か, 首孔, 入組割文, 縄文原体不明	42-3	Pot4168
8	深鉢	1層	首孔, ヘラ削目, 連続割文	42-4	Pot4167
9	深鉢	増積土	平縁, 平行沈線文, 扇状沈線文, 二個一対の首孔, 網子状文または渦巻文か, 縄文LR, 口縁部内面に張りだし	42-5	Pot4183
10	深鉢	増積土	波状縁, 首孔, 短沈線文, 平行沈線文	42-6	Pot4187
11	深鉢	増積土	二個一対の首孔, 平行沈線文, 縄文LR	42-8	Pot4181
12	深鉢	増積土	波状縁, 首孔, 渦巻文, 縄文原体不明	42-7	Pot4185
13	深鉢	増積土	波状縁, 首孔, 渦巻文か, 縄文原体不明	42-8	Pot4195
14	深鉢	増積土	首孔, 扇状沈線文, 沈線文		Pot4197
15	深鉢	増積土	二個一対の首孔, 区画沈線文, 縄文LR	42-11	Pot4179
16	深鉢	増積土	二個一対の首孔, 渦巻文, 縄文原体不明	42-10	Pot4180
17	深鉢	増積土	渦巻文, 縄文LR	42-10	Pot4184
18	深鉢	増積土	底部の窪んだ突起, 弧状沈線文, 縄文原体不明	42-12	Pot4192
19	深鉢	増積土	平縁, 渦巻文, 縄文原体不明	42-9	Pot4189



No	器種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
101-1	深鉢	埴垣土	波状線、沈線文、縄文(原体不明)	42-13	Pos4188
101-2	深鉢	埴垣土	多条沈線文	42-14	Pos4182
101-3	深鉢	埴垣土	波状線か、平行沈線文、波状沈線文、縄文(原体不明)	42-15	Pos4196
101-4	深鉢	埴垣土	弧状区画沈線文、縄文(原体不明)		Pos4190
101-5	深鉢	埴垣土	沈線文、縄文(原体不明)	42-16	Pos4191
101-6	深鉢	埴垣土	沈線文、縄文LR	42-17	Pos4186
101-7	深鉢	確認面	区画沈線文(磨り消し縄文)、縄文L	42-18	Pos4199
101-8	深鉢	確認面	平縁+13周部沈線+首孔、縦位隆線文、平行沈線文	42-19	Pos4198
101-9	円盤	4層	最大径 40.8mm、厚さ 10.6mm、周縁を研磨で成形、縄文(原体不明)	42-24	土136
101-10	円盤	1・2層	最大径 44.3mm、厚さ 8.3mm、周縁を研磨で成形、縄文(原体不明)	42-23	土132
101-11	円盤	2層	最大径 55.7mm、厚さ 10.5mm、周縁を打ち欠いて成形、縄文(原体不明)	42-22	土133
101-12	円盤	上層	最大径 40.6mm、厚さ 10.6mm、周縁を打ち欠きと研磨で成形、平行沈線、縄文	42-25	土129
101-13	円盤	上層	最大径 35.2mm、厚さ 5.2mm、周縁を研磨で成形、縄文(原体不明)	42-29	土131
101-14	不明土製品	埴垣土	長さ 19mm、幅 13mm、貫通孔直径 2.4mm	42-21	土39
101-15	土押	下層	長さ 49mm、幅 22mm、貫通孔直径 52mm、十字沈線	42-31	土40
101-16	土瓦筒	確認面	首孔	42-20	土23
101-17	円盤	上層	最大径 33.1mm、厚さ 7.2mm、周縁を研磨で成形、無文	42-28	土130
101-18	円盤	埴垣土	最大径 43.2mm、厚さ 6.1mm、周縁を打ち欠きと研磨で成形、縄文LR	42-27	土134
101-19	円盤	埴垣土	最大径 51.8mm、厚さ 7.1mm、周縁を研磨で成形、縄文(原体不明)	42-30	土135
101-20	円盤	確認面	最大径 45.3mm、厚さ 8.6mm、周縁を研磨で成形、縄文(原体不明)	42-26	土141
101-21	耳飾り	下層	直径 22mm、長さ 18mm、貫通孔 7.8mm、鼓状		土38

図版 101 5D4002 溝跡 出土遺物



No	品種	類型	遺構/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	殘存	加熱処理	変形	付着物	層号	写真ID	登録
101-22	石頭	IV b 1	堆積土	玉髓	15.3	13.2	3.8	0.6	完形	2	0	0		42-32	S4018
101-23	石頭	IV b 3	1	珪質灰岩A	18.6	13.7	4.1	0.7	完形	1	0	0		42-33	S4019
101-24	磨形石器	I b	堆積土	碧玉B	24.5	30.8	10.9	7.5	一部欠	0	0	0		42-36	S4030
101-25	不定形石器	磨	下層	珪質灰岩A	48.8	60.7	15.2	38.3	完形	0	0	0		42-37	S4044
101-26	不定形石器	I	上層	珪質灰岩A	30.9	30.2	10.9	8.7	完形	0	0	0		42-34	S4045
101-27	不定形石器	磨	堆積土	英安岩	30.3	44.6	10.6	15.4	完形	0	0	0		42-38	S4114
101-28	不定形石器	I	堆積土	珪質灰岩A	51.5	30.7	7.4	10.1	完形	0	0	0		42-35	S4047
102-1	磨石	-	堆積土	安山岩	99.0	75.0	57.8	610.0	完形	-	凹石→	0		43-3	S4077
102-2	凹石	-	2	玄武岩	91.5	82.4	47.2	314.9	完形	-	0	0		43-2	S4065
102-3	磨石	-	下層	安山岩	90.2	48.1	40.9	234.9	完形	-	0	0		42-40	S4008
102-4	凹石	-	中・下層	安山岩	132.2	91.3	44.8	779.0	完形	-	磨石→	0		43-1	S4078
102-5	石頭	-	堆積土	安山岩	176.7	158.8	76.9	3159.0	一部欠	-	0	0		42-39	S4070

圖版 102 SD4002 溝跡 出土石器

〔重複〕 主な遺構との重複はない。

〔規模・構造〕 長径 214cm、短径 158cm、残存する深さ 158cmの楕円形である。

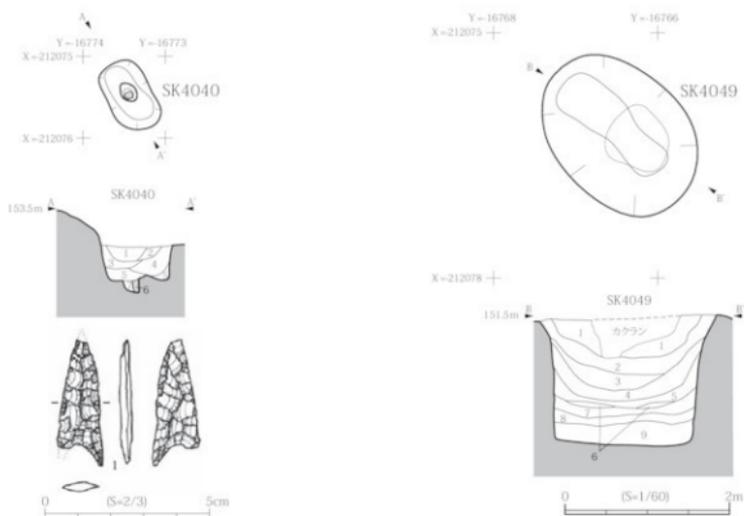
〔壁・底面〕 底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。断面形は箱形である。

〔堆積土〕 9層確認した。炭化物、地山小～大ブロックを含む暗褐色シルト質粘土の自然堆積層である。

〔出土遺物〕 なし。

#### 4. IV-5区

IV-4区西側に接して設定した調査区である。削平のため、遺構は検出されなかった。遺物は楔形石器1点が出土している(図版176-7)。



遺構名	層序	土色	土性	特徴	分類	
SK4040	A-A'	1	褐色(7.5YR4/3)	シルト		埋土
		2	暗褐色(10YR3/4)	シルト質粘土	地山小ブロックを含む	埋土
		3	暗褐色(10YR3/4)	粘置シルト	地山大ブロックを含む	埋土
		4	暗褐色(10YR3/3)	シルト		埋土
		5	暗褐色(10YR3/4)	シルト		埋土
		6	暗褐色(10YR3/4)	シルト		柱穴埋土
SK4049	B-B'	1	褐色(10YR4/4)	粘置シルト	地山1小ブロック～大ブロックを多く含む	埋土
		2	暗褐色(10YR3/4)	粘置シルト	地山1・2粒をこわすかに含む。小礫を多く含む	埋土
		3	暗褐色(10YR3/3)	シルト質粘土	地山1・2粒を少し含む	埋土
		4	暗褐色(10YR3/4)	粘土	地山1・2小ブロック～大ブロックを多く含む。地山4粒を少し含む	埋土
		5	暗褐色(10YR3/3)	粘土	地山1・2粒～大ブロックを多く含む	埋土
		6	広範囲・黄褐色(10YR5/4)	粘土	地山2を土体とする	埋土
		7	暗褐色(10YR3/3)	シルト質粘土	地山1小ブロック・ブロックを多く含む	埋土
		8	暗褐色(10YR3/4)	粘土	地山1大ブロックを非常に多く含む	埋土
		9	暗緑灰色(10GY3/1)	粘土		埋土

No.	図種	類型	遺構/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	残存	加熱処理	変形	目録番号	撮影者	写真No.	登録
1	石鏡	IV-a-3	SK4040/埋積土	貝質白灰A	38.6	14.6	3.3	1.6	先端・かみし欠	0	0	0	43-4	S4016	

図版 103 SK4040、SK4049 土坑 平面図・断面図・出土石器

## 5. IV-6区

IV-4区南側に位置する(図版4)。表土下に灰黄褐色粘土、砂層、小礫層が堆積し、南に向かって傾斜する。遺構は検出されず、遺物は縄文土器片が出土したが、図示できるものはなかった。

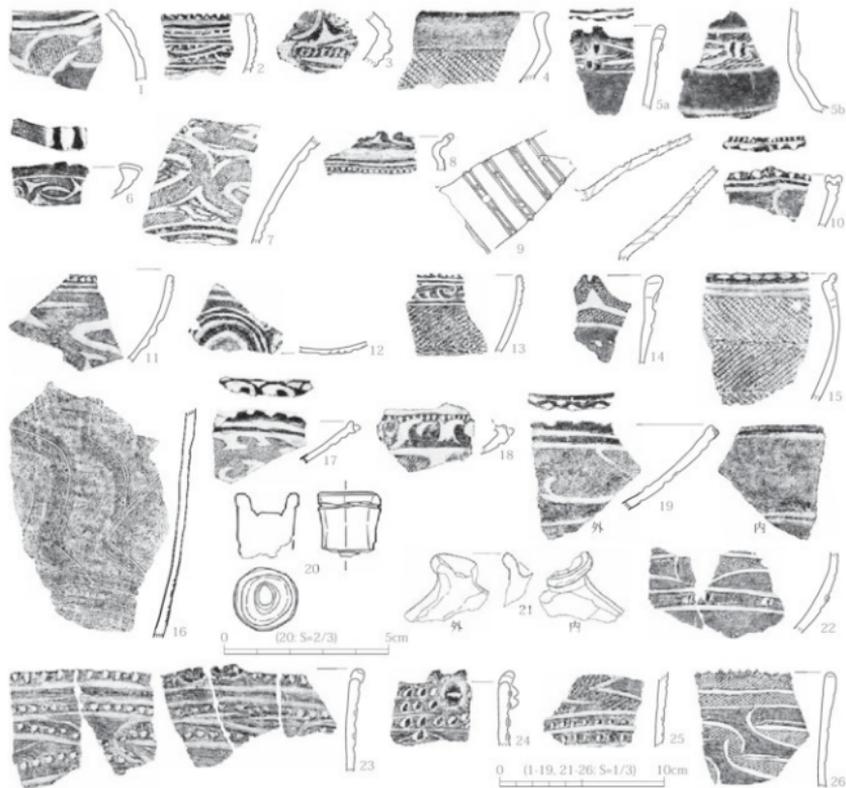
## 第5節 その他の遺構から出土した遺物

ここでは、時期不明の遺構から出土した遺物についてまとめ、主なものについて提示した(図版104～107)。時期不明とした中には縄文時代に属する可能性はあるが遺物や遺構の形状、堆積土の特徴からは判断できなかったものも含まれる。主な遺構については併せて特徴を記述する。

土坑はSK 1110、SK 1119、SK 1136、SK 2100などがある(図版7)。SK 1110土坑はI区北部で確認した。平面形は長径約90cm、短径約70cm、残存する深さ約40cmの楕円形である。断面形は箱形である。堆積土は1層で黒褐色シルトを主体とする自然堆積層である。縄文時代後期後葉から晩期中葉の土器片と剥片石器が1点出土している。SK 1119土坑はI区西壁際で確認した。平面形は長径約55cm、短径40cm、残存する深さ約25cmの楕円形で断面形は皿形である。堆積土は1層で黒褐色シルトの自然堆積層である。不定形石器が1点出土している。SK 1136土坑はI区西壁際で確認した。SI 1104住居跡P2と重複し、これより新しい。平面形は長軸約120cm、短軸約85cm、残存する深さ約30cmの隅丸方形である。断面形は皿状である。縄文土器片、不明石製品、石皿が出土している。SK 2100土坑はII区西調査区北壁際で確認した。検出面はIII層上面である。平面形は北側が調査区外のため全体の形状は不明だが、直径160cm、残存する深さ75cmの円形または楕円形と推定される。断面形は逆台形である。堆積土は16層確認した。炭化物、地山粒を含む黒褐色シルトの自然堆積層である。縄文土器片と石器が出土している。

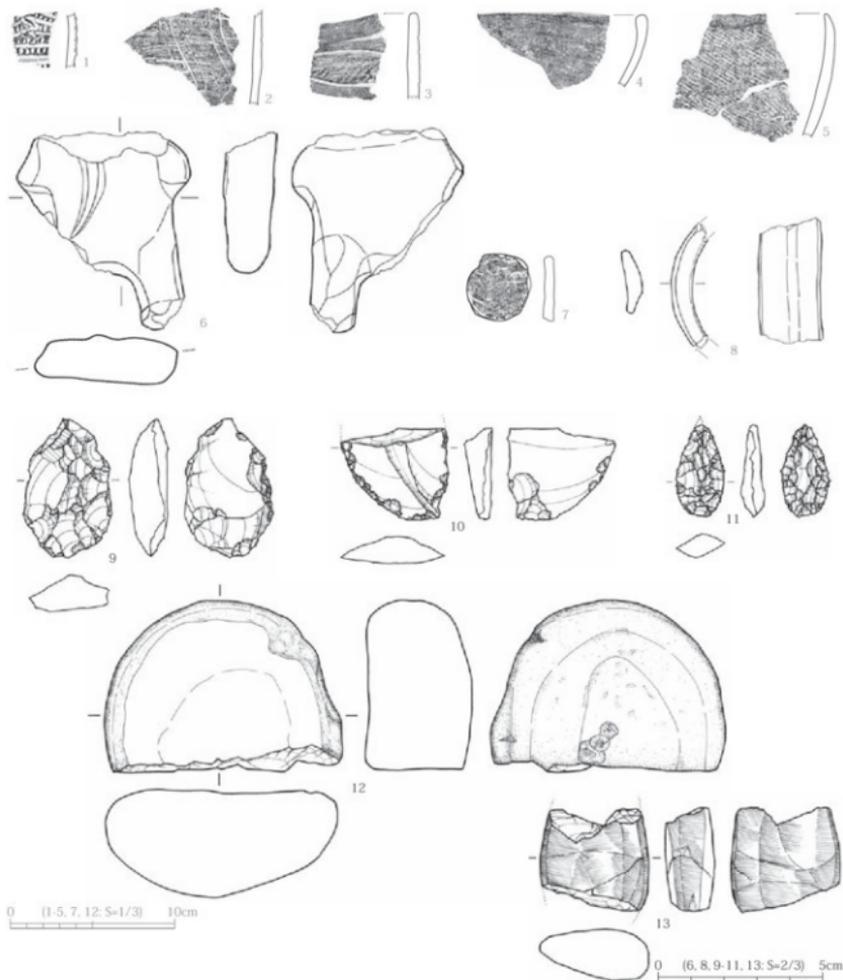
溝跡はI区南で南北方向のものを2条確認した(図版7)。SD 1201溝跡は調査区南壁際で確認した。検出長約8.8m、上幅約1.3m、下幅約0.5m、残存する深さ約50cm、断面形は皿状である。方向は北で西へ14°偏する。堆積土は4層で暗青灰色シルト質砂と地山小ブロックを多く含む暗褐色シルトの自然堆積層である。SD 1204溝跡は北部で確認した。SK 1207土坑と重複し、これより古い。検出長約5.0m、上幅約1.4m、下幅0.4m、残存する深さ約42cm、断面形は皿状である。方向は北で西へ25°偏する。堆積土は2層で暗褐色または黒褐色シルトの自然堆積層である。

そのほか、I区北部中央付近と北東部で焼土ブロック、土器片、石器などが多く含まれる落ち込み(SX 1101、SX 1135)を確認した(図版7)。これらは平面形が長径4m以上の楕円形であるが、底面に凹凸があり、明確な立ち上がり認められないことから住居跡や土坑などではなく、自然の窪みであったと考えられる。貼瘤土器や雲形文が施された深鉢、鉢、浅鉢、皿、注口土器、石鐮、石錐、石皿などの石器、土偶、耳飾り、土製円盤などの土製品が出土した。また、貝形土製品の破片が出土し、SI 1104住居跡柱穴から出土した破片と接合している。



No	器種	遺構/層	特徴	写真/図版	登録
1	壺か	SK1110/埋土	雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR、内面に段		Post785
2	鉢	SK1134/埋土	平縁+ヘラ刷目、平歯状文	43-5	Post788
3	注口土器	SK1134/埋土	包み目、沈線文、縄文原形不明、朱付着		Post792
4	鉢	SK1134/埋土	平縁、縄文RL		Post791
5	壺	SK1136	平縁+二個一對の突起、帯状文、二個一對の彫痕、縄文原形不明		Post798
6	皿	SK1146/埋土	平縁+二個一對の突起、大組三叉文		Post824
7	浅鉢	SK1146/埋土	雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR	43-7	Post826
8	鉢	SK2100/埋土	平縁+2個一對の突起+ヘラ刷目、三叉文、平行沈線文、ヘラ刷目		Post2084
9	注口or甕	SX1101/1	胎輪、帯状文(縄文)、縄文L	43-10	Post1876
10	皿	SX1101/2	平縁+突起+波状浮線文+ヘラ刷目、雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR		Post1866
11	浅鉢	SX1101/2	平縁、平行沈線、ヘラ刷目、雲形文(磨り消し縄文)、縄文RL	43-6	Post1874
12	皿か	SX1101/2	雲形文(磨り消し縄文)か、縄文原形不明、挿修孔、朱付着		Post1868
13	鉢	SX1101/1	平縁+ヘラ刷目、平歯状文、縄文LR未端強調、炭化物付着		Post1860
14	深鉢	SX1101/1	平縁+突起(面部部引)、三叉文、縄文LR(裏象)		Post1862
15	深鉢	SX1101/1	平縁+胎土、平行沈線文、羽状縄文RL、LR、挿修孔、炭化物付着	43-9	Post1852
16	深鉢	SX1101/1	流水条線文	43-13	Post1850
17	皿	SX1101/1	平縁+平歯状浮線文、雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR、内面に段、漆塗りか		Post1848
18	注口土器	SX1101/1	平歯状浮線文、ヘラ刷目、雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR		Post1854
19	皿	SX1101/1	平縁+波状浮線文、雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR	43-8	Post1854
20	耳飾の	SK1103/G/1	耳環18.5mm、現存長19mm、沈線文	43-17	土28
21	突起	SK1135/堆積土	波状線+先端部凸出帯		Post1919
22	壺	SK1135/堆積土	帯状文(縄文+刺突刷目)、縄文L		Post1907
23	深鉢	SK1135/堆積土	平縁+二個一對の突起(初み有り)、帯状文(刺突刷目)	43-12	Post1897
24	深鉢	SK1135/堆積土	平縁+二個一對の突起、胎輪(初み有り)、帯状文(刺突刷目)	43-11	Post1898
25	深鉢	SK1135/堆積土	帯状文(縄文、刺突刷目)か、縄文LR		Post1903
26	深鉢	SK1135/堆積土	平縁+ヘラ刷目、階段状帯状文(縄文)、充填縄文LR		Post1909

図版 104 その他の遺構出土遺物(1)



No	部種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
1	深鉢	SX1135/埋積土	ヘラ刻目、平行波線文、S字状沈線文		Pot1918
2	深鉢	SX1135/埋積土	弓条一組の流水沈線文		Pot1900
3	深鉢	SX1135/埋積土	波状縁、三又文か、帯状文、縄文LR		Pot1911
4	浅鉢	SX1135/埋積土	平縁、無文		Pot1896
5	鉢	SX1135/埋積土	平縁、縄文根(未確認洗濯)、灰化物付着		Pot1893
6	土器	-	現存長57mm、幅54mm、厚さ約14mm。平身残存。板状。腹部は短く突出する。弧状隆帯	43-15	土8
7	円盤	SX1135/埋積土	径大径40.3mm、厚さ7.0mm、打ち欠きと研磨で成形。無文		土105
8	瓦飾り	SX1135/埋積土	帯状。無文	43-16	土34

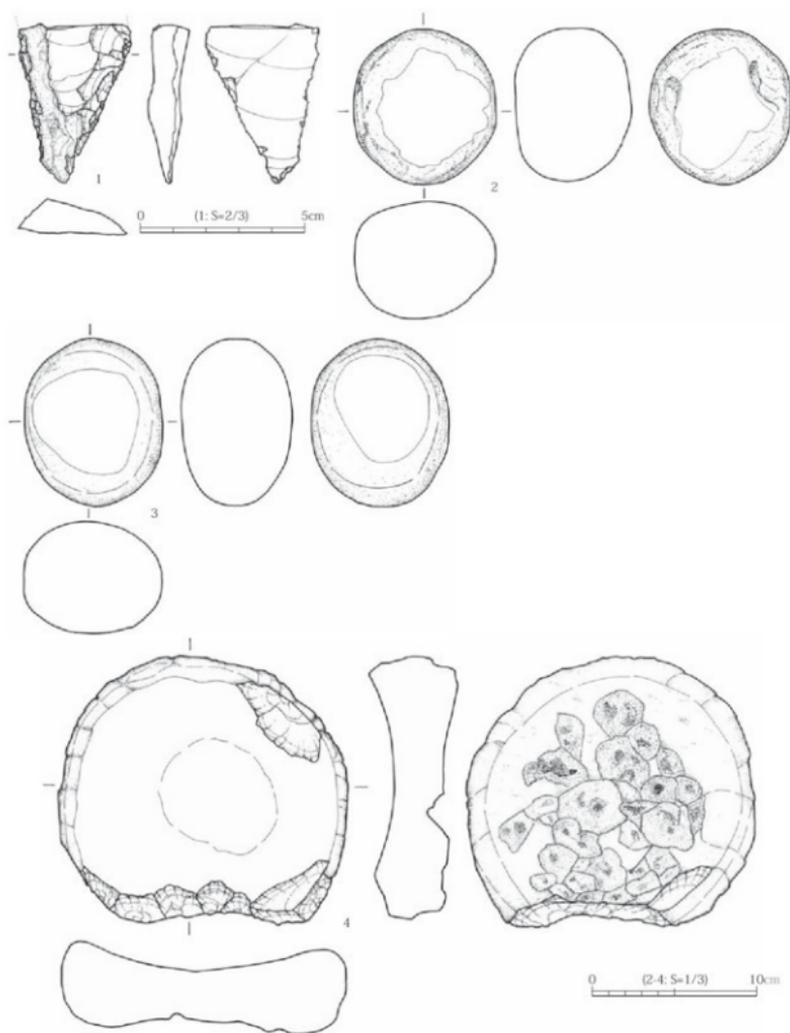
No	部種	形状	遺構/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	残存	加飾処理	変形	付着物	磨き	写真図版	登録
9	尖頭器	I b c	SK1110/埋土	碧玉A	43.0	27.1	11.4	14.1	完形	0	0	0			S1039
10	不定形石器	III d	SK1110/埋土	珧質頁岩A	28.7	32.9	7.9	7.0	一部欠	0	0	0			S1056
11	石鏃	II	SK1134/埋土	珧質頁岩A	28.4	14.4	6.7	2.7	先端欠	0	0	0			S1066
12	石鏃	-	SK1136/埋土	安山岩	103.9	145.0	56.9	1323.0	一部欠	-	-	凹面あり	0		S6334
13	不明石製品	-	SK1136/埋土	碧玉A	32.2	33.7	15.2	23.8	破片	-	0	0	43-19		S1067

図版 105 その他の遺構出土遺物(2)



No.	品種	形状	遺構/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	残存	加熱処理	変形	付着物	備考	写真掲載	登録
1	不定形石器	Ⅱb	SK2100/増城上	丹波白岩A	27.6	29.4	10.1	6.8	完形	0	0	0			S2103
2	凹石	-	SK2100/増城上	安山岩	166.2	42.4	40.5	455.0	完形	-	磨石→	0		43-21	S2184
3	石鏃	I b①	SX1101/2	碧玉B	31.2	20.4	4.0	1.9	完形	1	0	0			S1863
4	石鏃	I a①	SX1101/2	埴野黒灰岩A	25.6	14.7	6.7	1.9	基部欠	0	0	0			S1076
5	石鏃	V	SX1101/1	丹波白岩A	26.2	18.1	5.2	2.3	先端欠	1	0	0			S1072
6	石鏃	I b②	SX1101/1	丹波白岩A	41.0	12.6	9.4	3.7	完形	0	0	0	先端磨滅	43-18	S1073
7	石鏃	Ⅱ a①	SX1101/1	丹波白岩A	42.5	25.2	6.3	2.2	基部欠	0	0	0			S1075
8	楔形石器	I a	SX1101/1	丹波白岩A	23.3	14.2	7.4	2.1	完形	0	0	0			S1764
9	石皿	-	SX1101/1	安山岩	114.0	99.3	59.5	940.0	破片	-	0	0	使用面一部赤化		S1571
10	砥石	-	SX1101/1	安山岩	72.7	55.1	45.0	109.7	完形	-	凹石→	0		43-20	S1565
11	磨石	-	SX1101/1	デイスait	116.2	58.5	36.1	355.6	完形	-	凹石→	0			S1566
12	磨石	-	SX1101/2	安山岩	120.5	61.7	52.8	627.0	完形	-	凹石→	0			S1564

図版 106 その他の遺構出土遺物(3)



No	品種	形状	遺構/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	残存	加熱処理	赤彩	付着物	備考	写真掲載	登録
1	不定形石器	遺石	SX1135/埋積土	埴貫頁岩A	49.0	34.5	11.4	15.0	一部欠	0	0	0			S1399
2	磨石	-	SX1135/埋積土	安山岩	94.4	86.6	69.7	791.0	完形	-	0	0			S1576
3	磨石	-	SX1135/埋積土	安山岩	101.8	83.5	66.2	877.0	完形	-	0	0			S1577
4	石皿	-	SX1135/埋積土	玄武岩	160.8	175.5	56.6	1314.0	一部欠	-	門前多数	0		43-22	S1681

図版 107 その他の遺構出土遺物 (4)

## 第6節 遺物包含層

### 1. 堆積状況と分布範囲

遺物包含層はⅠ区南の北西端、Ⅰ区、Ⅱ区北東部で基本層のⅢ層、Ⅳa層に土器、石器などの遺物が多量に含まれている状況を確認したため、この範囲を遺物包含層として認識し、調査を行った(図版108)。これらの遺物包含層の堆積土の特徴はよく類似していることから一連のものである可能性もあるが、検出された地点が離れているため、Ⅰ区、Ⅰ区南で検出したものを遺物包含層1、Ⅱ区で検出したものを遺物包含層2としてそれぞれ別に説明することとする。なお、Ⅰ区南で検出された範囲についてはSX1209遺物包含層として遺物の取り上げを行っている。

Ⅱ区西部から南部の表土下は盛土または粘土質シルト層(V層)になっており、昭和40年代に行われた開田の造成で削平を受けたものと考えられる。遺物包含層が確認されたⅠ区南の北端からⅡ区の地形をみると、南西部が最も高く、東部、北東部にかけて緩やかに傾斜する地形になっている。Ⅰ区北西部とⅠ区北東端は直線距離で約68.4m、V層上面での比高は約5.7m、勾配は8.3%で、Ⅰ区南の北端とⅡ区北東部は直線距離で約82.1m、Ⅳd層上面での比高は約7.5m、勾配は約9.1%である。層厚はⅠ区西部でⅢ層40cm、Ⅳa層約30cm、Ⅰ区南の北端でⅢ層約42cm、Ⅳa層22cm、Ⅱ区北東部でⅢ層約36cm、Ⅳa層は検出されていない。Ⅳb層、Ⅳd層とその下のⅣe層からも土器片や石器が少数出土している。なお、Ⅳ層については断面観察でa～d層に細分できるが、平面では認識が難しく、大部分の遺物はⅣa～b層をⅣ層、Ⅳb層とⅣd層を一括してⅣb・d層で取り上げている。

### 2. 土 器

遺物包含層から出土した土器は整理箱で約240個である。各層から出土している土器の特徴をみるといずれの層でも破片資料が多く、押型文、貝殻沈線文、条痕文、縄文帯区画文、器面に瘤を貼り付けた土器(以下貼瘤土器)、帯状文、入組帯状文、三叉文、羊歯状文、雲形文、工字文、π字文、変形工字文など様々な文様が施された土器が混在している。以下では各層位ごとにどのような土器が出土しているかを示し、出土土器の編年的な位置や特徴については考察で述べることとする。

出土した土器で器形がある程度わかる個体は84点である。破片資料については口縁部、胴部で一辺4cm以上、底部が1/2以上残存し、沈線文など土器の特徴が捉えられる個体を選んで資料化した。また、これより小さい破片についても、器形、文様、地文において特徴的な部分が看取できるものについては積極的に抽出し、資料化した。抽出土器は約2,450点である。

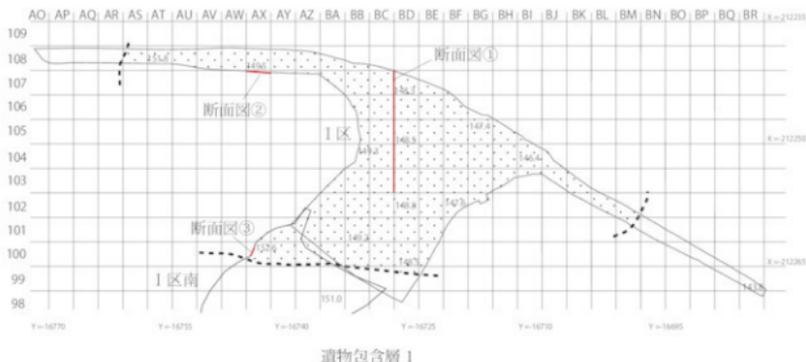
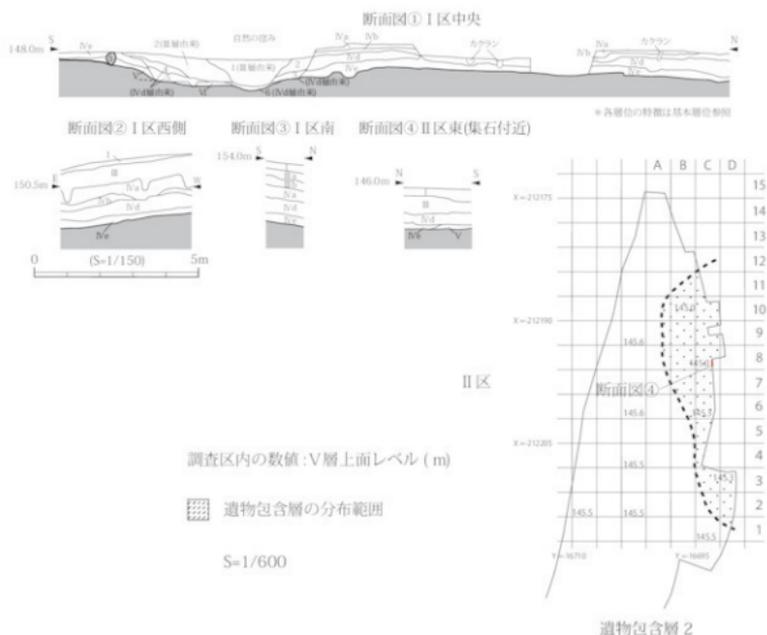
#### (1) 遺物包含層1

##### ①土器の出土状況

土器のグリッドごとの出土傾向をみると総数(表土、遺構確認面、攪乱層を含む)では北部から中央部が多い(図版109)。次に各層位ごとにみるとⅢ層では総数と同じような出土傾向がある一方、

IV層では東部に集中がみられる。また、B D～B K列のI区調査区際のグリッドで出土数が多く、北にいくほど包含層中の土器の密度が高くなる傾向がある。

土器の接合関係(同一個体含む)をみると、同一グリッド内または隣接するグリッドでの接合が多い一方で、図版114-12はBF106とBM105出土資料で接合し、図版122-42はI区とII区で接合がみられるなど、土器が一時廃棄された地点から動いている状況がみられる。



図版 108 I区・I区南 遺物包含層の範囲とグリッド

## ②各層出土土器の特徴

遺物包含層の各層で出土した土器は小破片が多く、器形がわかるものは少ない。そのため土器の特徴は土器に施された文様や地文、胎土の繊維混入の有無などを中心に説明する。各層から出土した土器に施される主な文様は表の通りである(第10表)。

最下層であるⅣd層では、山形または菱形押型文が施された深鉢が多く出土している(図版110-1～8)。このほか外面と内面に条痕が施された土器が出土している(同図-15)。これらの土器の胎土には顕著な繊維の混入がみられる。

Ⅳc層出土土器で抽出した資料は深鉢1点で、菱形押型文が施されている(図版110-16)。

Ⅳb層ではⅣd層同様に、押型文が施された深鉢が多く出土している(図版110-17～26)。押型文には、山形、菱形、平行線状があり、口唇部に連続して押圧が加えられるもの(同図-17)がある。また、平行沈線が施される土器もある(19)。また、外面と内面に条痕が施された土器が出土している(41・42)。これらの土器の胎土には顕著な繊維の混入がみられる。このほか貝殻沈線文が施された土器が2点(29・30)、0段多条縄文の施された土器(44)、網目状燃糸文(45)、鋸歯状沈線文(46)が施された土器がある。貝殻沈線文が施された土器には繊維の顕著な混入は観察されず、混入されていてもごくわずかか、あるいは混入されていないとみられる。0段多条縄文や網目状燃糸文が施された土器には顕著な繊維の混入がみられる。35は尖底の深鉢の体下半である。器面は丁寧に磨かれていて、焼成は良好である。胎土に繊維の混入は観察されない。このほか貼瘤土器や带状文が施された土器が出土している。

Ⅳa層からは羊歯状文(図版110-60)や雲形文(同図-61・62)が施された土器が出土している。

Ⅳ層では押型文、貝殻沈線文、条痕文、方形や弧状の縄文帯区画文(図版111-16・19・23)、貼瘤土器(同図20～22・24～53、図版112-1～14)、带状文(図版112-15～24)、入組带状文(図版112-25、図版113-1～4・23)、三叉文(図版114-6・7・11・14～27)、羊歯状文(図版115)、雲形文(図版116)、π字文(図版117-12・13)、変形工字文(同図-11・14)が施された土器が出土しており、その中で貼瘤土器、带状文、羊歯状文、雲形文が施された土器が多い。器種は深鉢、鉢、浅鉢、皿、壺、注口土器、高坏脚部(香炉に転用)がある。このほか大型の突起(図版111-11・13)が出土している。器形がわかる土器は図版111-23、113-1～4、115-10・21・32・42・59である。図版111-23は直線的な体部に外反する長い波状線が付く器形で、波頂部内側には突帯を持つ。口唇部には縄文が施される。口縁部は丁寧に磨かれ、体上部には方形の縄文帯区画文が施され、体下部は磨かれて無文である。図版113-1～3は内湾する体部に外反する長い口縁部が付く器形で、口縁部には頂部に刻みのある山形突起が配される。文様は入組带状文が施され、文様内には縄文が充填されている。また2、3には三叉文が突起や文様接続部に充填されている。体部と口縁部の境の括れ部にはメガネ状浮文が巡る。4はヘラ刻目が带状に充填されている。図版115-10は口縁部が内湾する鉢で、口唇部にヘラ刻目が施され、口縁部には平行沈線とヘラ刻目が施されている。体部には縄文が施され、原体末端の結び目(結節部)が強調されている。同図-21と32は口縁部に羊歯状文、体部に三叉文や渦巻文が施された浅鉢である。図版114-40はもともと高坏であったものを転用した香炉の脚部と

みられる。内面に焼けはじけがあり、脚端部は研磨によって再調整されたとみられ、文様がとぎれる箇所や接地部に凹凸がある。穿孔と沈線を組み合わせてX字状の透かし文様が施されている(写真図版45-6)。

Ⅲ層では貝殻沈線文、縄文帯区画文(図版119-10・11・16)、貼瘤土器(同図-17～37、図版120)、帯状文(図版119-30、図版120-43～55)、入組帯状文(図版121-21)、三叉文(同図-43～52、図版122-8～22)、羊歯状文(同図-23～46、図版123-1～12)、雲形文(図版124、125-1～33)、工字文(図版126-33・34)、π字文(同図-26～28)、変形工字文(32)が施された土器が出土しており、その中で貼瘤土器、帯状文、羊歯状文、雲形文が施された土器が多い。器種は深鉢、鉢、(台付)浅鉢、皿、壺、注口土器がある。図版119-11は小型の壺で体部に波溝状の縄文帯区画文が施されている。図版120-38の注口土器は倒卵形の体部に伏腕形の頸部が付く器形である。頸部と体部には横位の帯状文に弧状、環状の沈線文が充填されている。帯状文の内部は軽くなでつけただけで、小瘤が貼り付けられている。また、注口部には弧状隆線と扁平なボタン状貼瘤が施されている。図版122-27の台付浅鉢は、内湾して立ち上がる体部に外反する口縁部が付く器形で、台部を欠損している。平縁で、口唇部と口縁部内面に羊歯状の貼付文が施され、外面にはZ字状文が施されている。図版124-1の深鉢は体上部に雲形文が施されている。フック状の単位文様に鼓状の充填文様を組み合わせている。同図-2は直線的に開く器形の皿で、口唇部に羊歯状の浮線文が施され、体部にはC字状の単位文様に三叉文を充填した雲形文が施されている。3は内湾しながら立ち上がる器形の皿で、口唇部に沈線が巡り、体部にはC字状単位文に鼓状の充填文様を組み合わせた雲形文が施されている。いずれも磨り消し縄文手法で文様が描かれている。図版125-40の鉢は体部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる器形で、口縁部に山形突起が付く。体部には渦巻き状の雲形文が施され、文様内に縄文はみられない。

Ⅱ層では貼瘤土器や羊歯状文が施された土器が出土している(図版129-8～14)。

I層(表土、遺構確認面、攪乱層含む)では口縁部に環状刺突が施される織維土器(図版129-15)、縄文帯区画文(同図-19)、貼瘤土器(同図-27～32、図版130-2～29)、三叉文(図版131-22～30)、羊歯状文(同図-36～60、図版132-1～4)、雲形文(同図-11～40)などがあり、貼瘤土器、羊歯状文、雲形文の施された土器が多い。器種には深鉢、鉢、浅鉢、皿、壺、注口土器、高環がある。このほか帯状文(羽状条線文充填)が施された注口土器(図版129-22)や浅い多条沈線で凸レンズ状の文様が施された深鉢(図版130-1)などがある。

第10表 I区遺物包含層出土土器主要文様の出現数

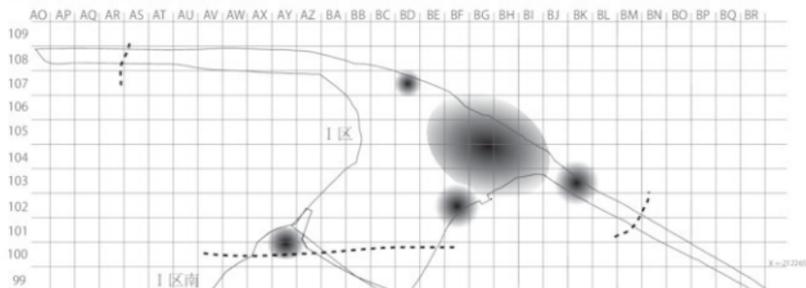
\* ( )は器形の判別できる土器の点数

層位	押型文	貝殻沈線文	条線文	縄文帯区画文	貼瘤土器	帯状文	入組帯状文	三叉文	羊歯状文	雲形文	工字文	π字文(鉢・皿のみに適用)	変形工字文
I区IV-d	10(0)	0	5(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
I区IV-c	1(0)	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0
I区IV-b	13(0)	2(0)	2(0)	0	4(0)	0	0	0	0	0	0	0	0
I区IV-a	0	0	2(0)	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0
I区IV	4(0)	4(0)	2(0)	4(1)	49(1)	41	25(4)	25(0)	64(4)	43(1)	0	2(0)	2
I区皿	0	1(0)	0	5(2)	57(2)	37	20(1)	18(1)	35(2)	72(5)	2(0)	3(0)	1
I区Ⅱ	0	0	0	0	3(0)	0	0	0	1(0)	1(0)	0	0	0
I区Ⅰ	0	0	0	0	33(1)	6	15(0)	7(0)	31(6)	35(3)	1(0)	0	1
I区南坪土(Ⅱ)	0	0	0	0	23(0)	0	4(0)	0	0	1	0	0	0
I区南Ⅰ	0	0	1(0)	1(0)	5(0)	0	0	0	0	0	0	0	0

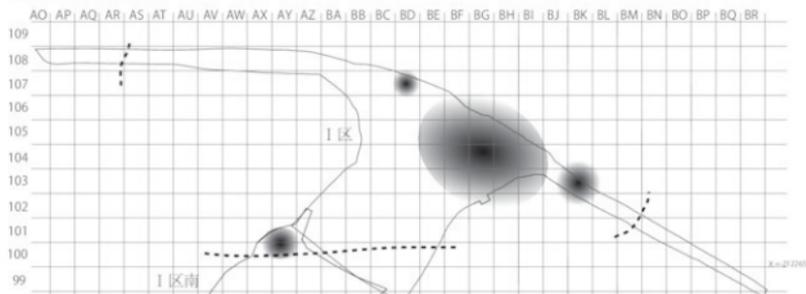
I 区南 S X 1209 堆積土出土土器では、土器の装飾に貼瘤土器、帯状文、雲形文がみられるが、そのほとんどは貼瘤土器である。器種には深鉢、鉢、壺、注口土器がある（図版 134、135）。

\* 図中の色の濃い範囲は土器の出土が多いところを表す。

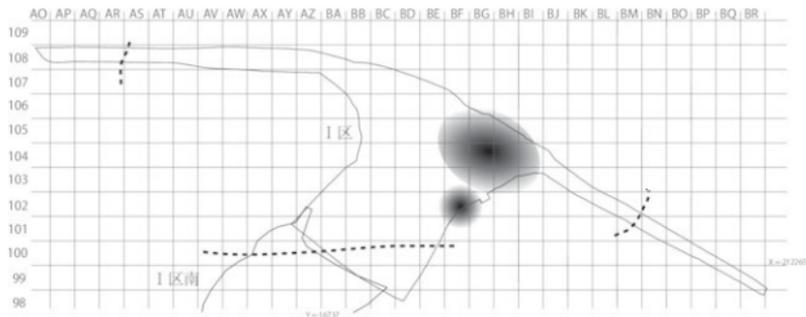
グリッドごと出土総数（表土、遺構確認面含）



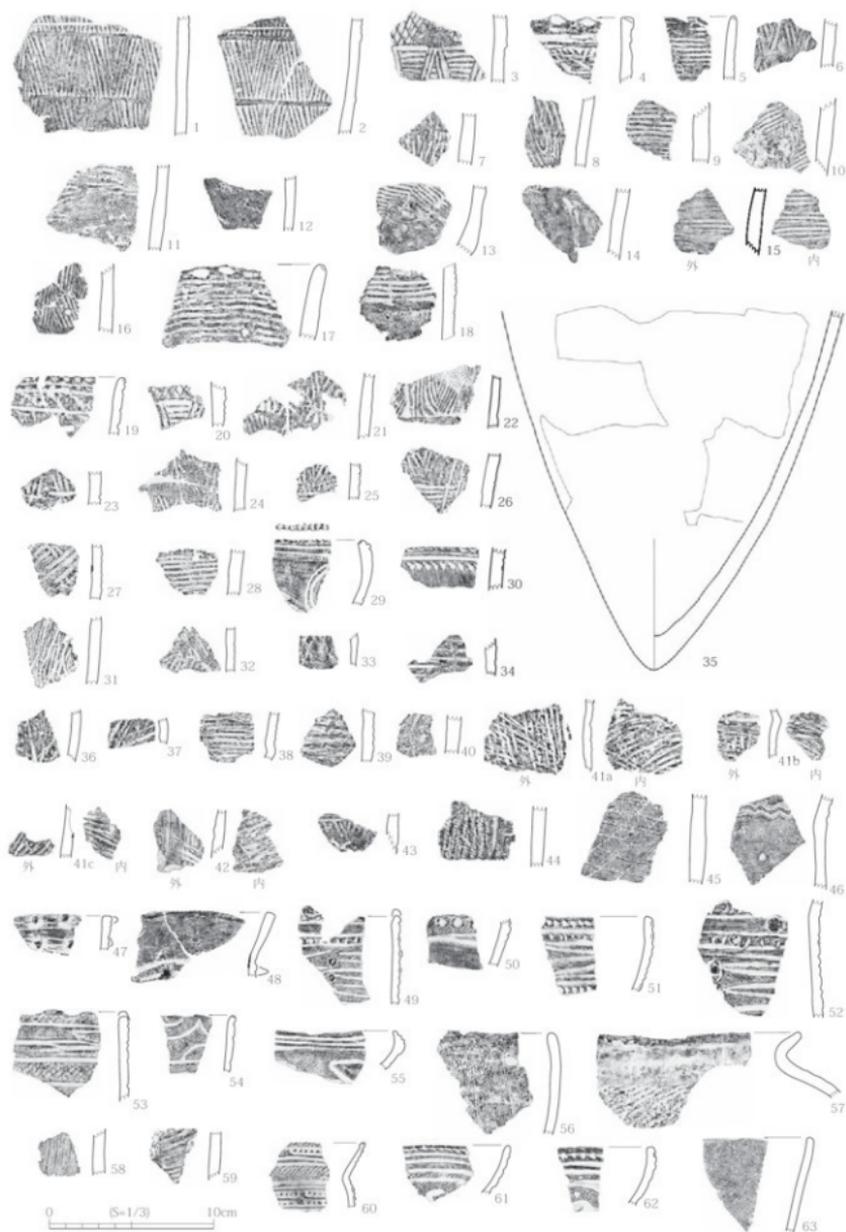
グリッドごとの出土数（III層）



グリッドごとの出土数（IV層）



図版 109 I 区・I 区南 グリッド・層別土器出土状況



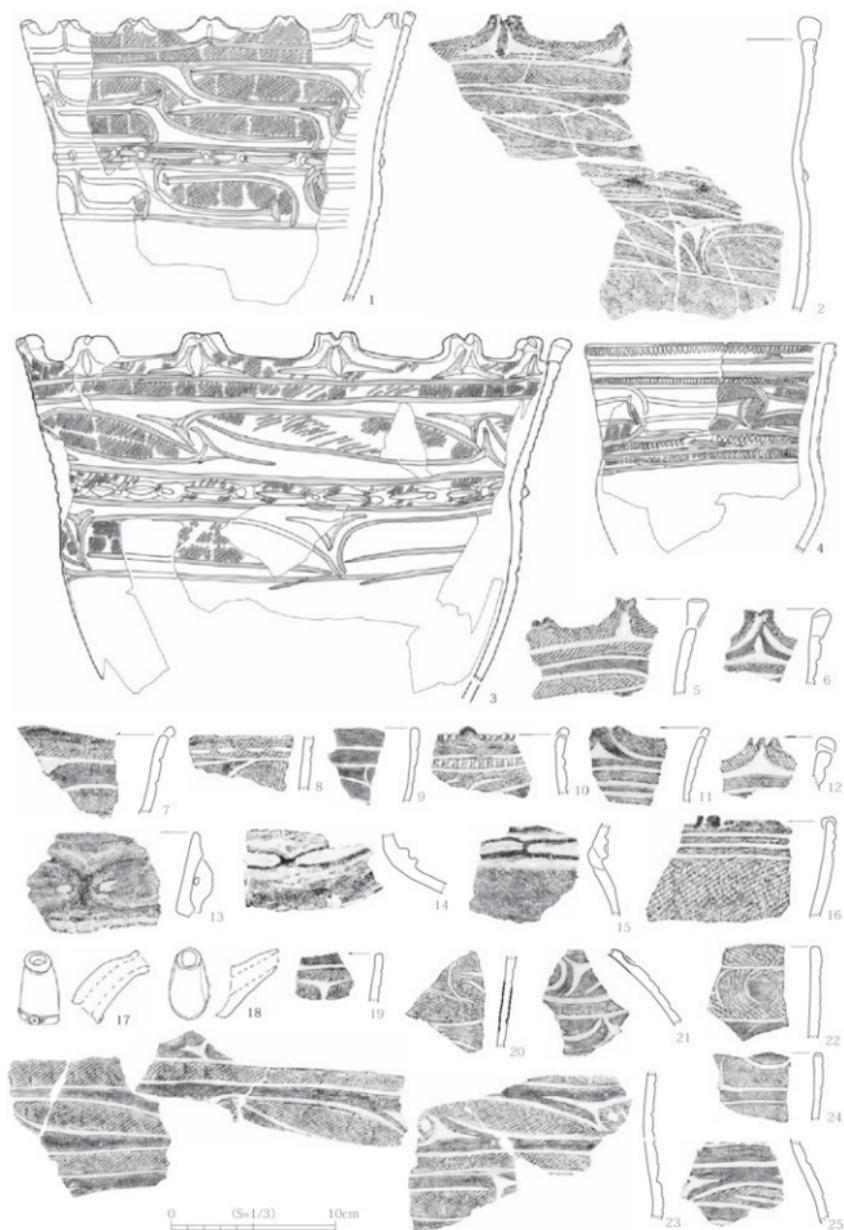
図版 110 I 区遺物包含層出土土器 IV d ~ IV a 層



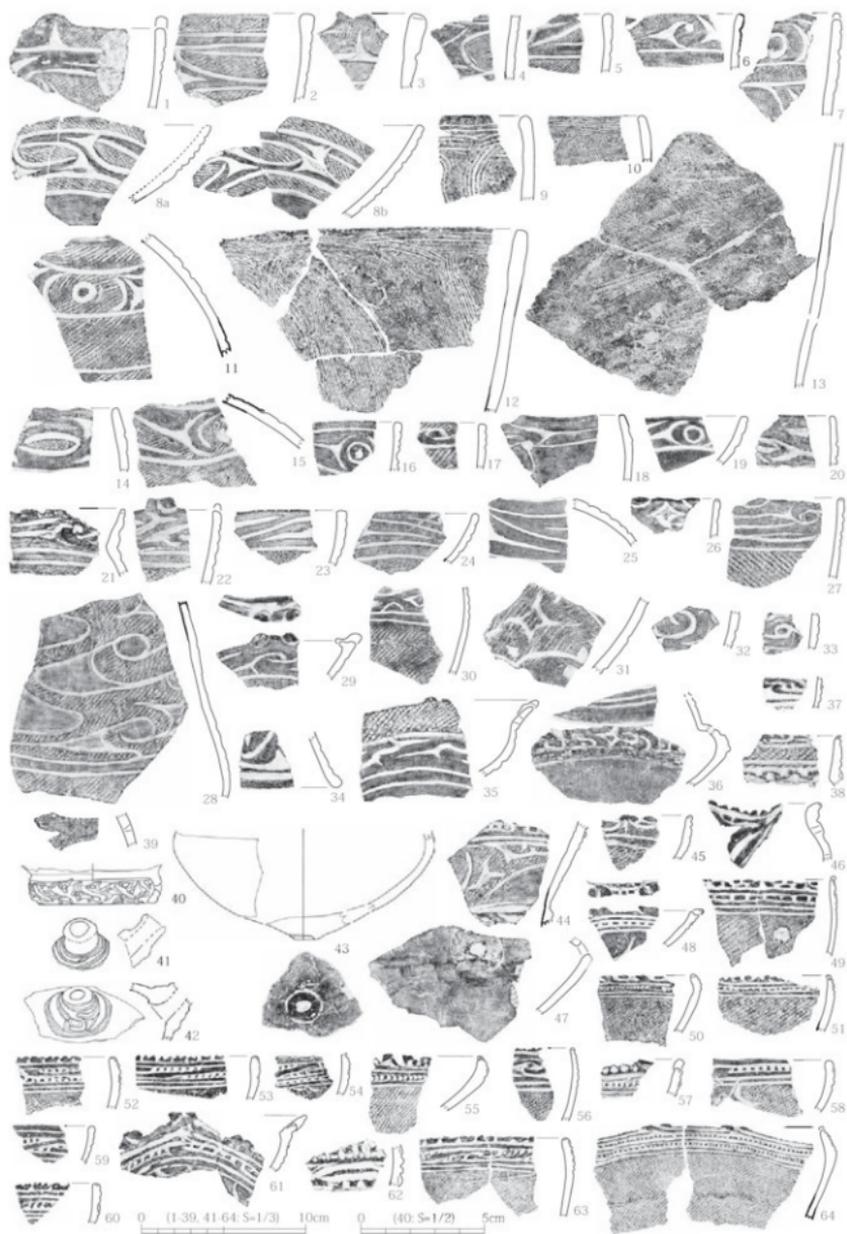
图版 111 | 区遺物包含層出土土器 IV層(1)



图版 112 I 区遗物包含层出土土器 IV 层 (2)



图版 113 I区遗物包含层出土土器 IV层(3)



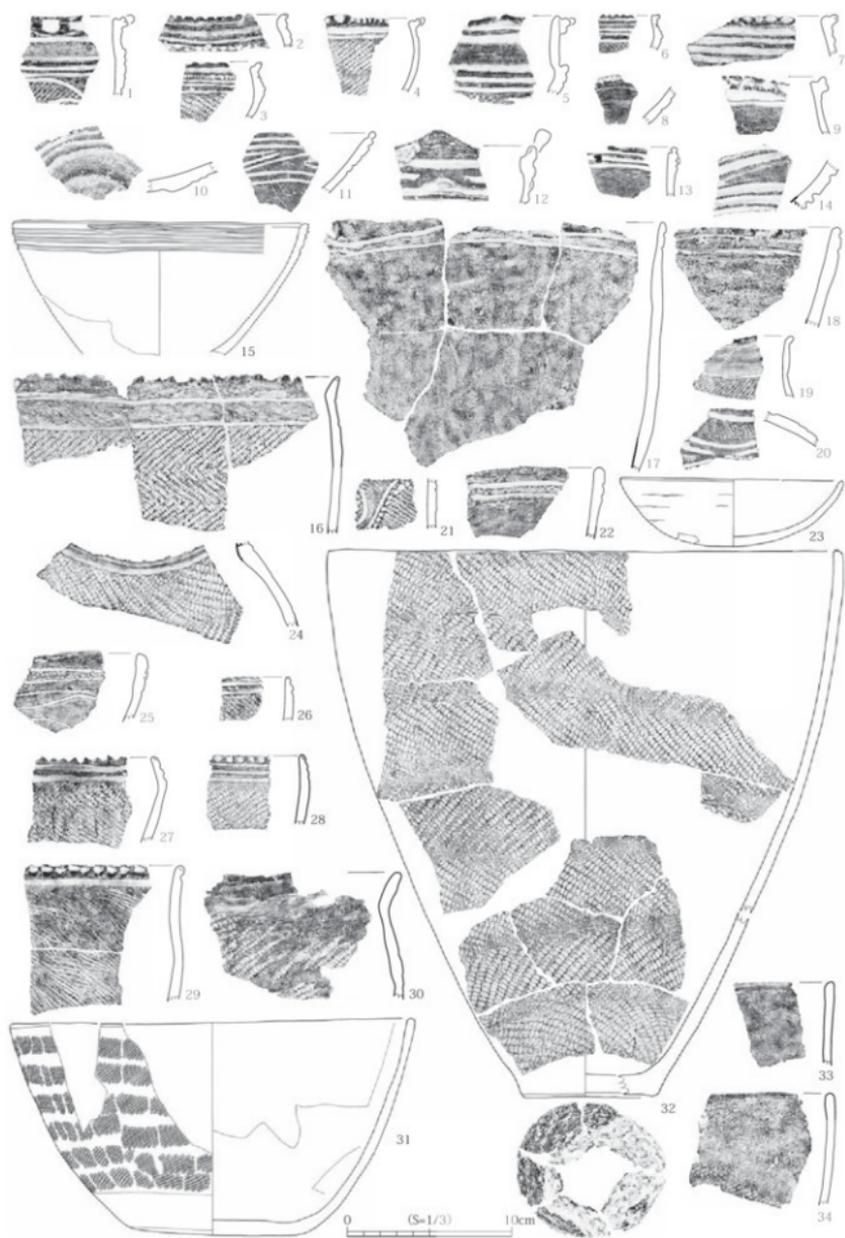
图版 114 I 区遗物包含层出土土器 IV 层 (4)



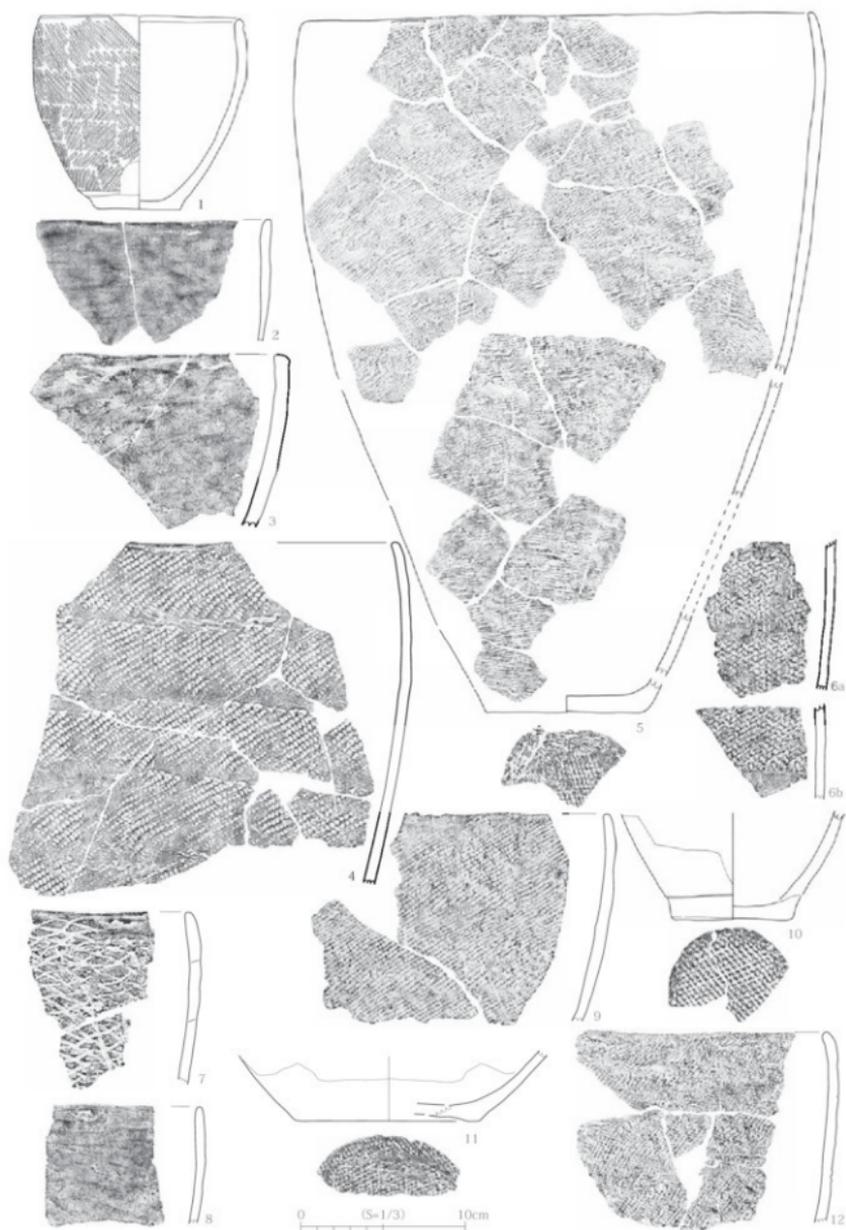
图版 115 I区遗物包含层出土土器 IV层(5)



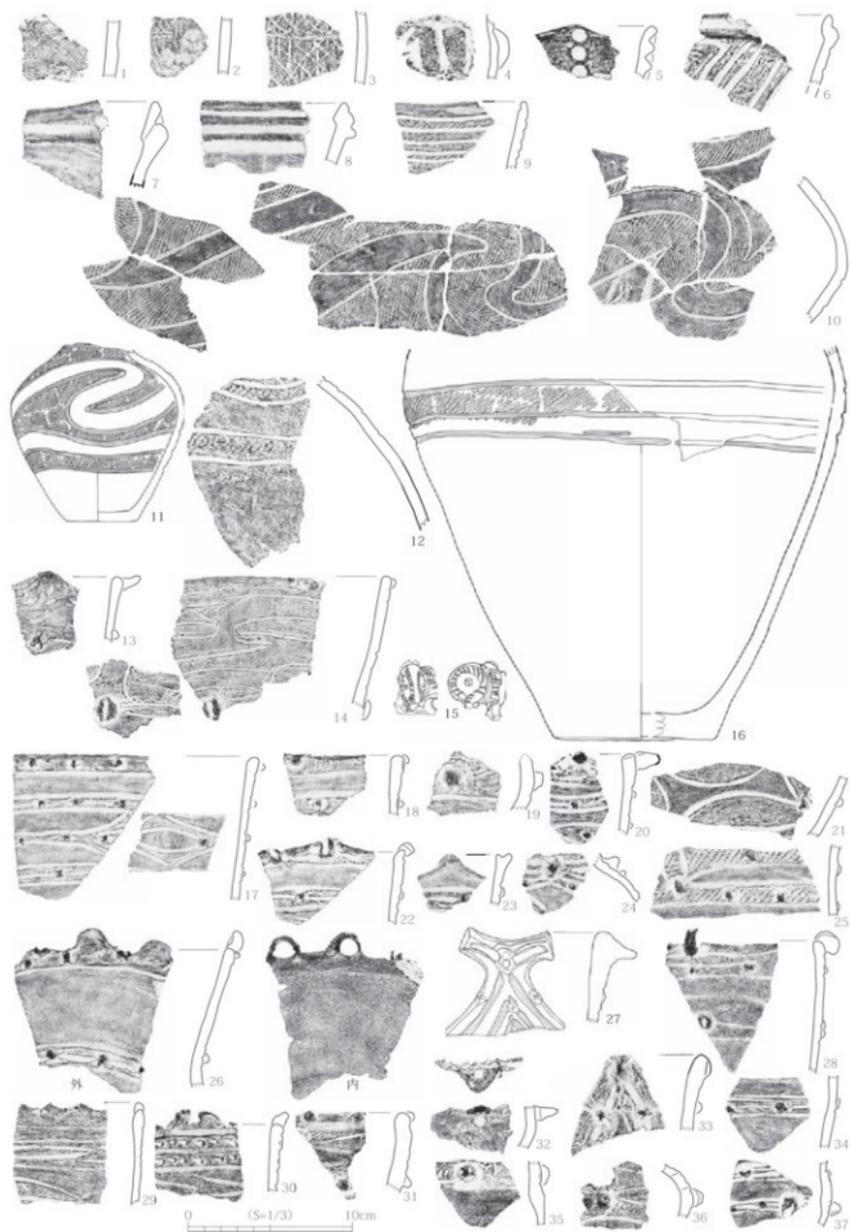
图版 116 I 区遗物包含层出土土器 IV 层 (6)



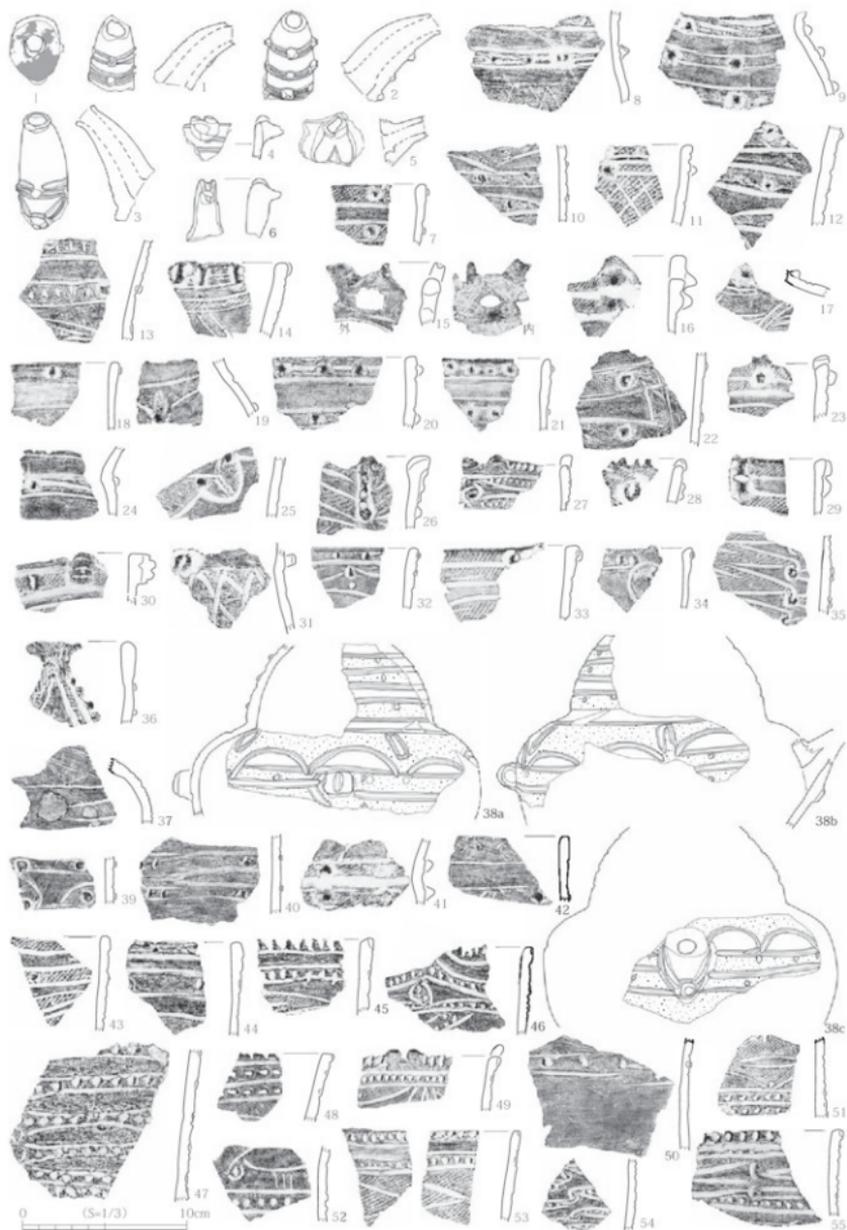
图版 117 I 区遗物包含层出土土器 IV 层 (7)



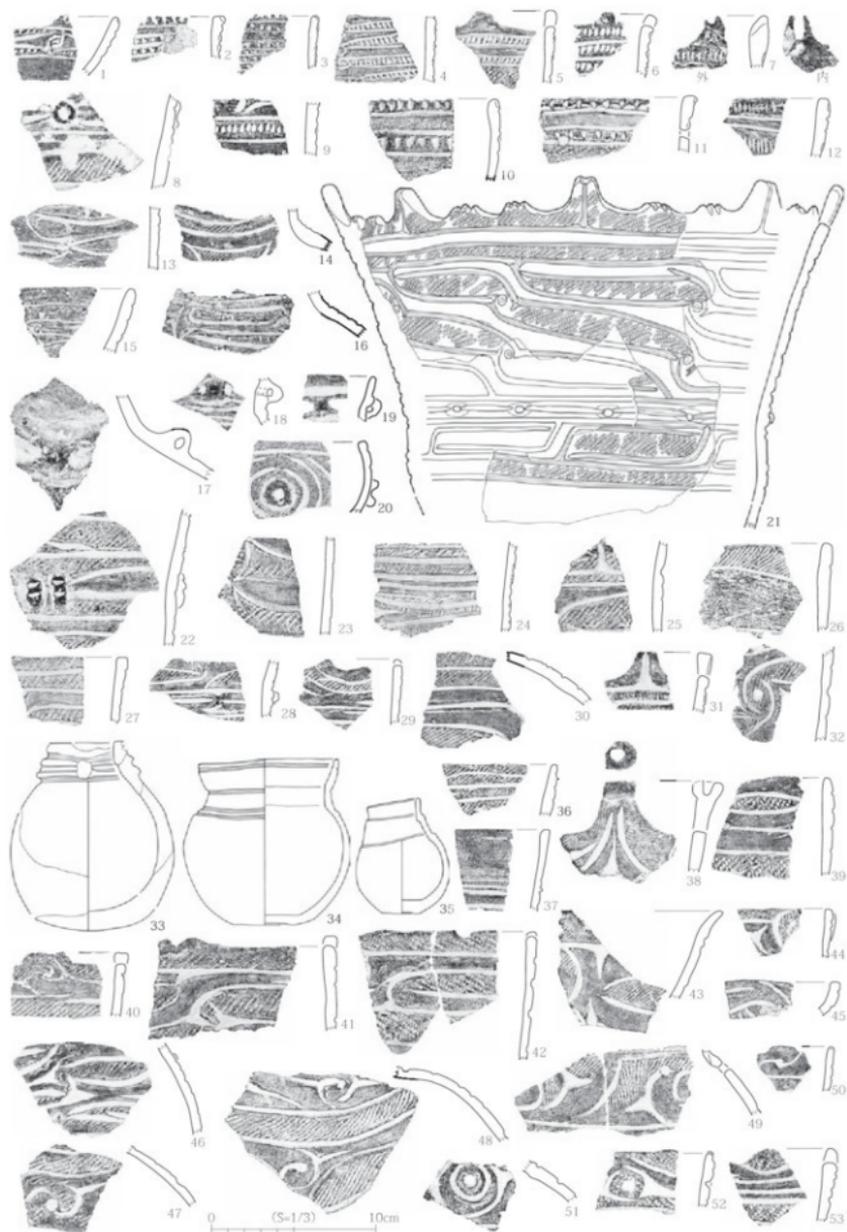
图版 118 I 区遗物包含层出土土器 IV 层 (8)



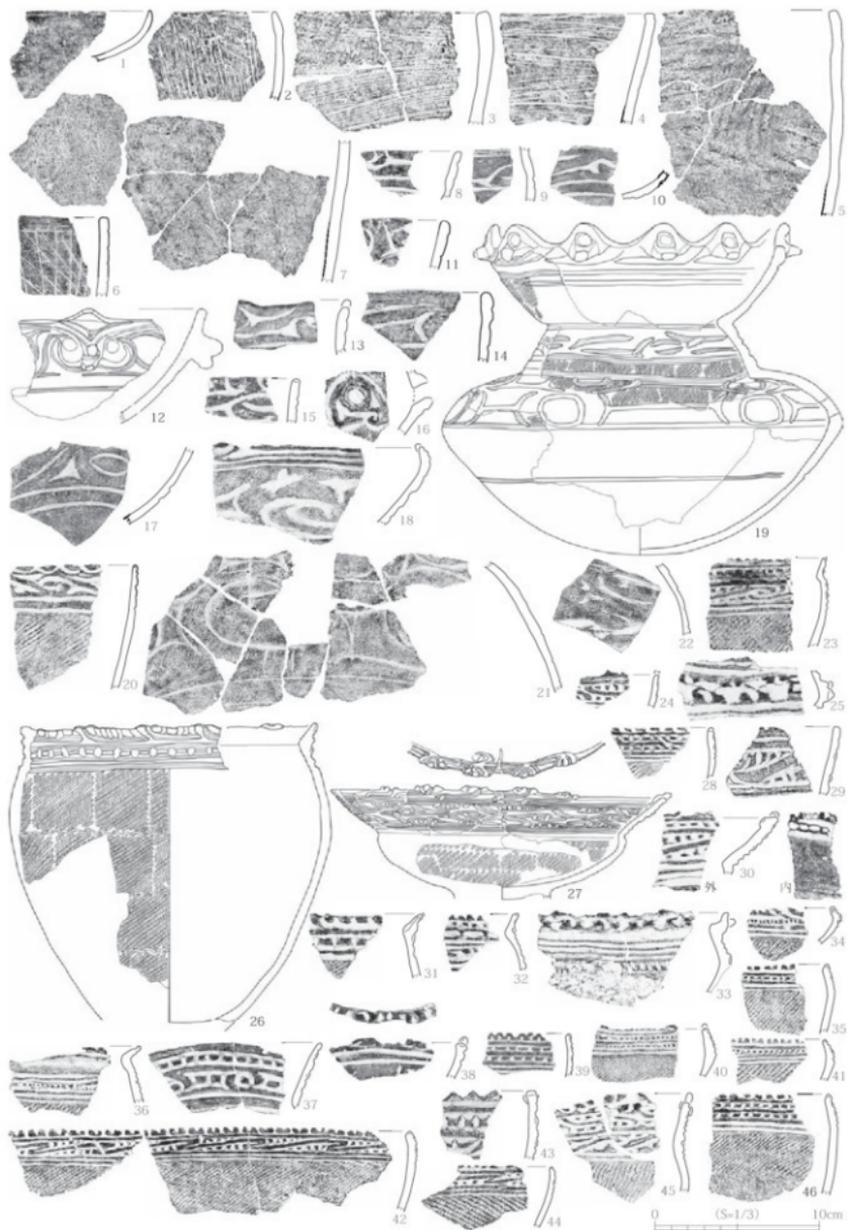
图版 119 I区遺物包含層出土土器 III層(1)



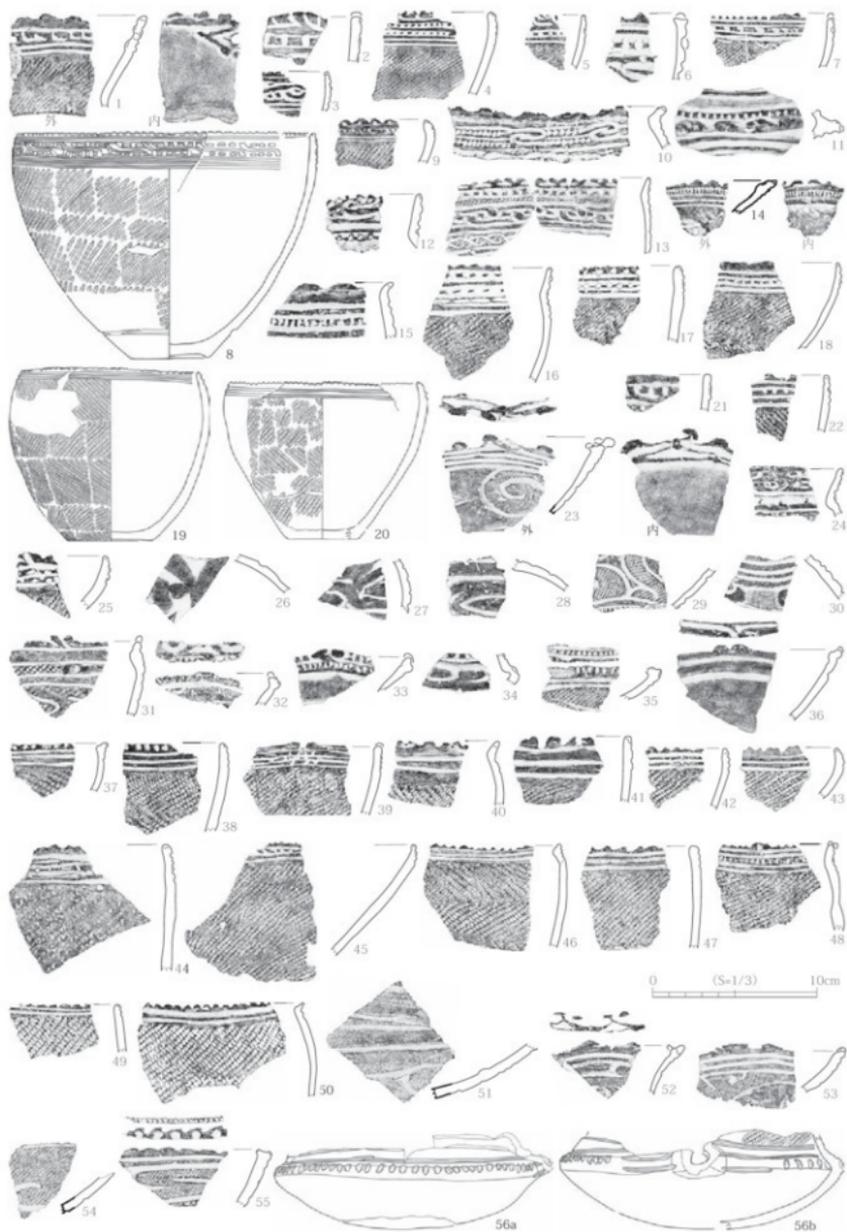
图版 120 I 区遗物包含层出土土器 III 层 (2)



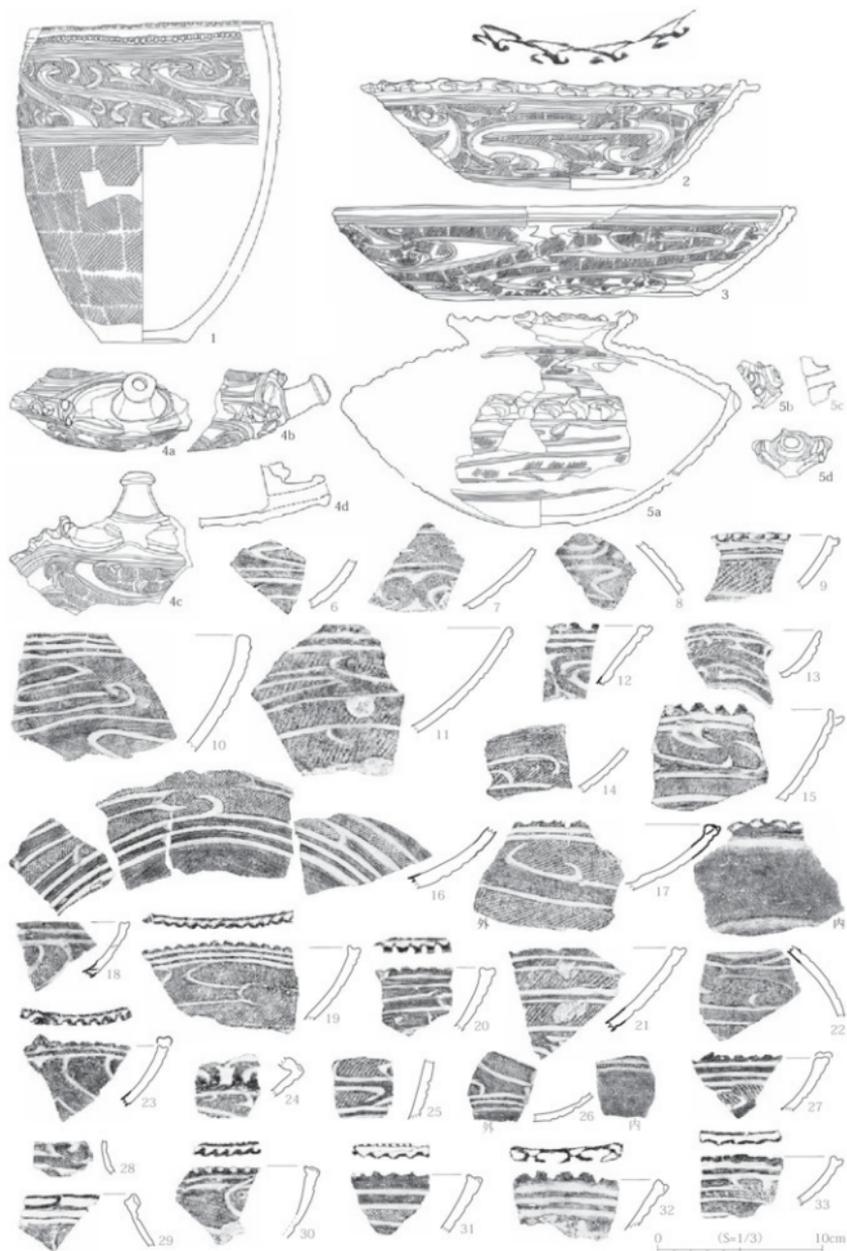
图版 121 I 区遗物包含层出土土器 III 层 (3)



图版 122 I 区遗物包含层出土土器 III 层 (4)



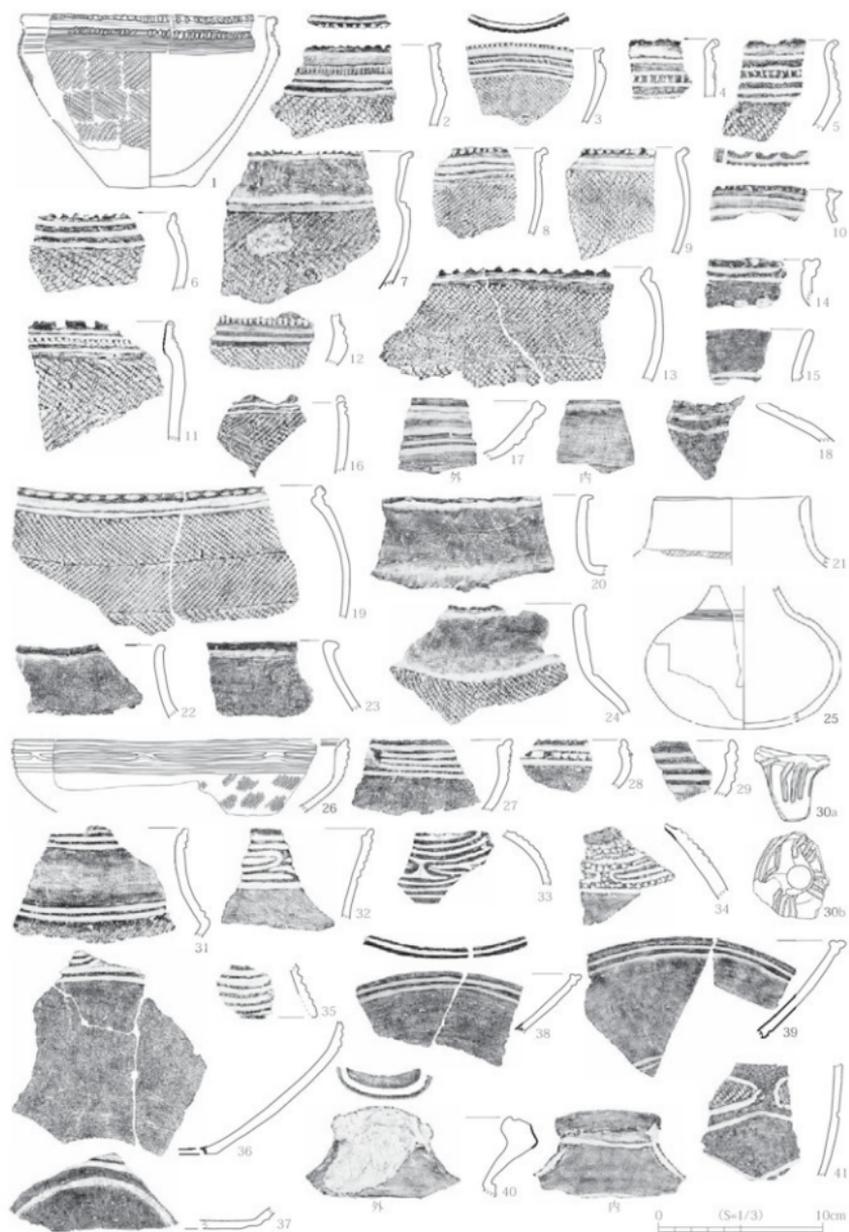
图版 123 I 区遗物包含层出土土器 III 层 (5)



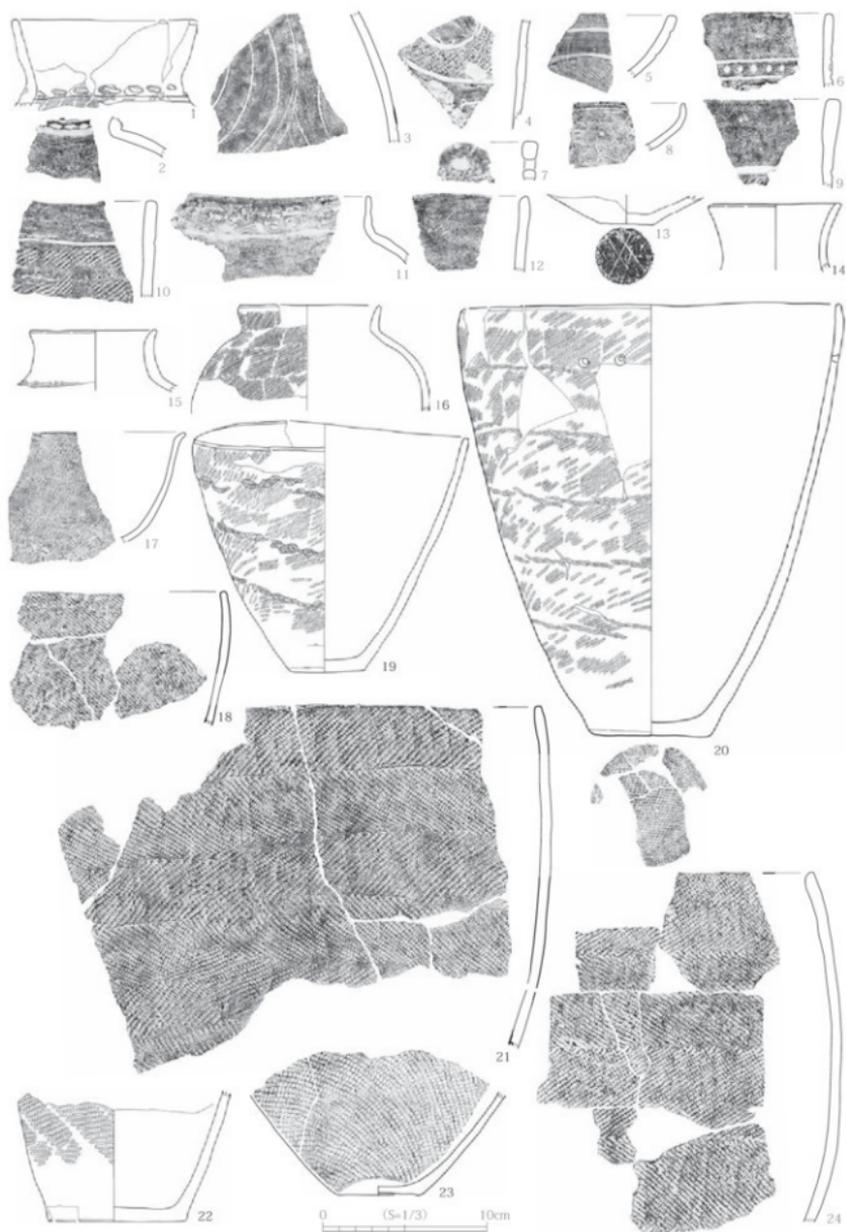
图版 124 I 区遗物包含层出土土器 III 层 (6)



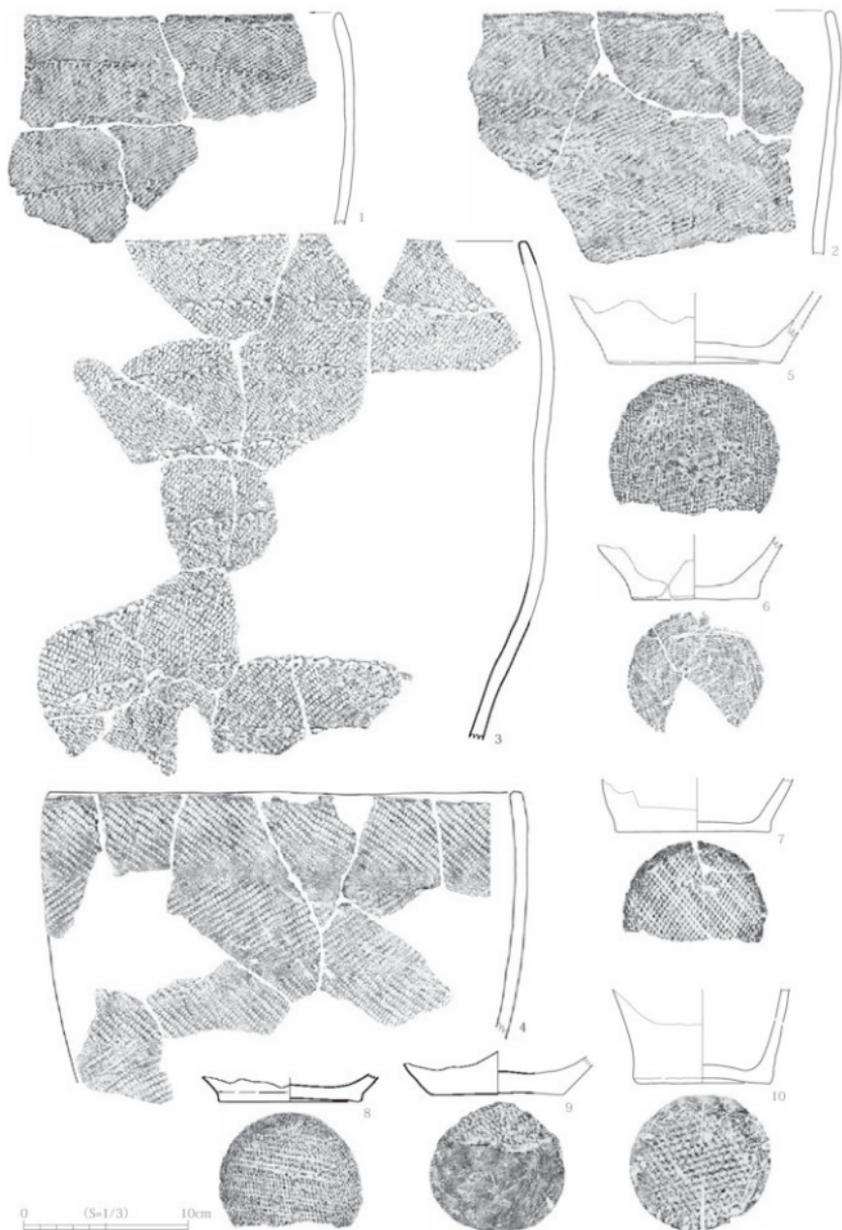
图版 125 I 区遗物包含層出土土器 III 層 (7)



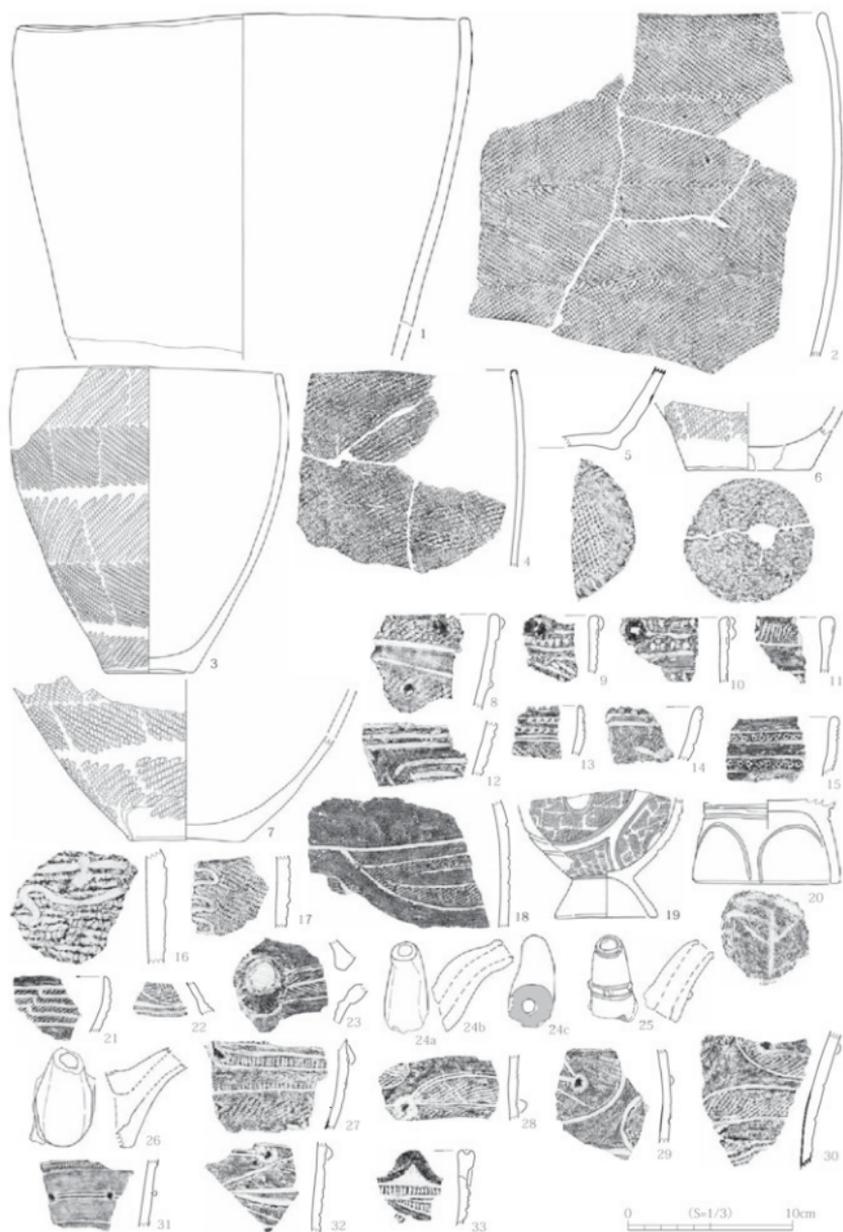
图版 126 I 区遗物包含层出土土器 III 层 (8)



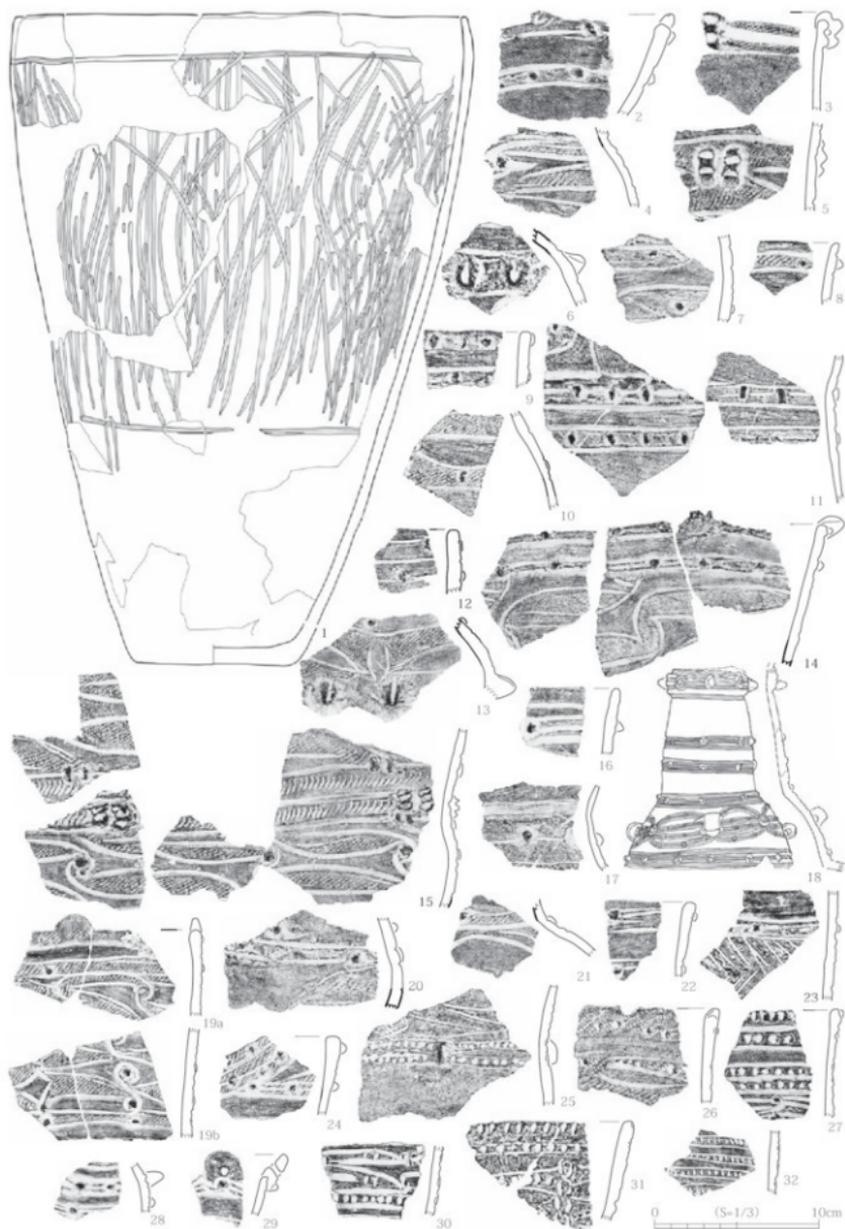
图版 127 I区遺物包含層出土土器 III層(9)



图版 128 I 区遗物包含层出土土器 III 层 (10)



図版 129 I区遺物包含層出土土器 III層(11)、II層、I層ほか(1)



図版 130 I区遺物包含層出土土器 I層ほか(2)



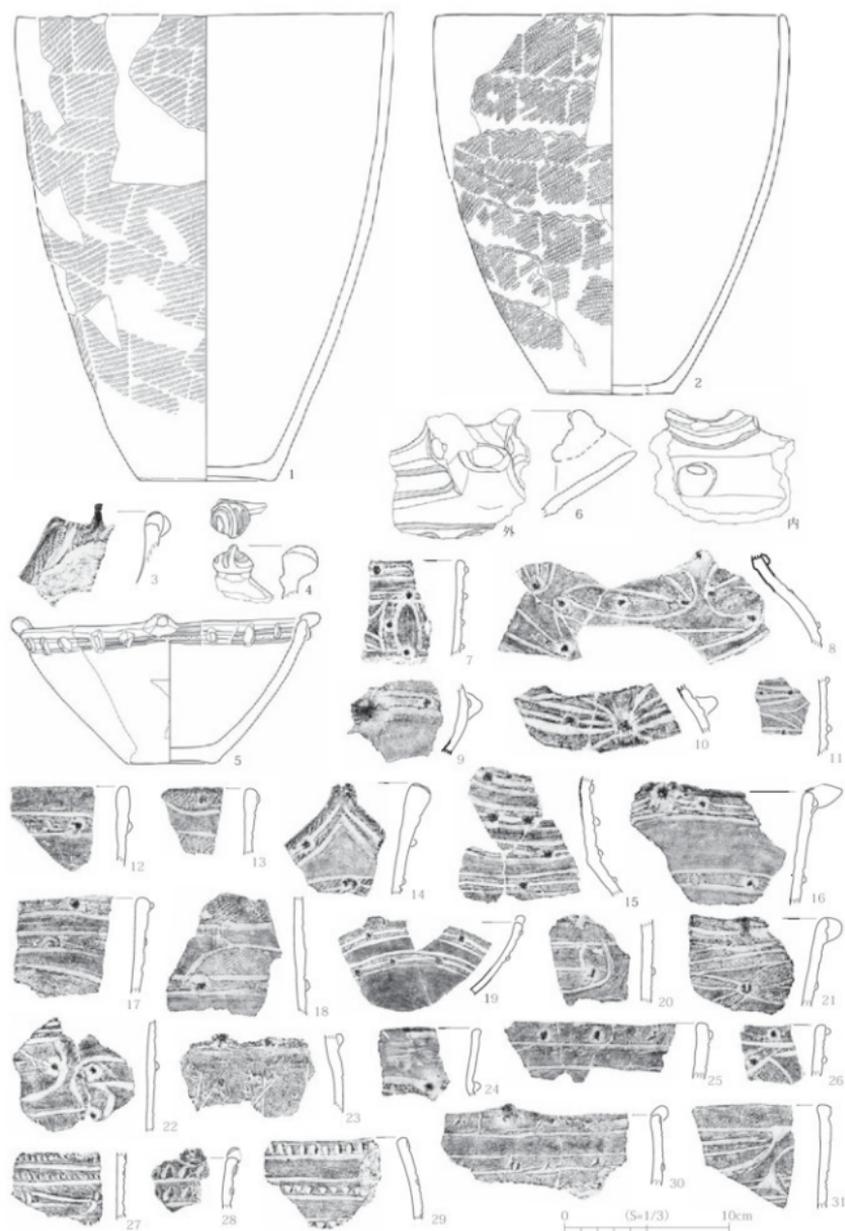
図版 131 I区遺物包含層出土土器 I層ほか(3)



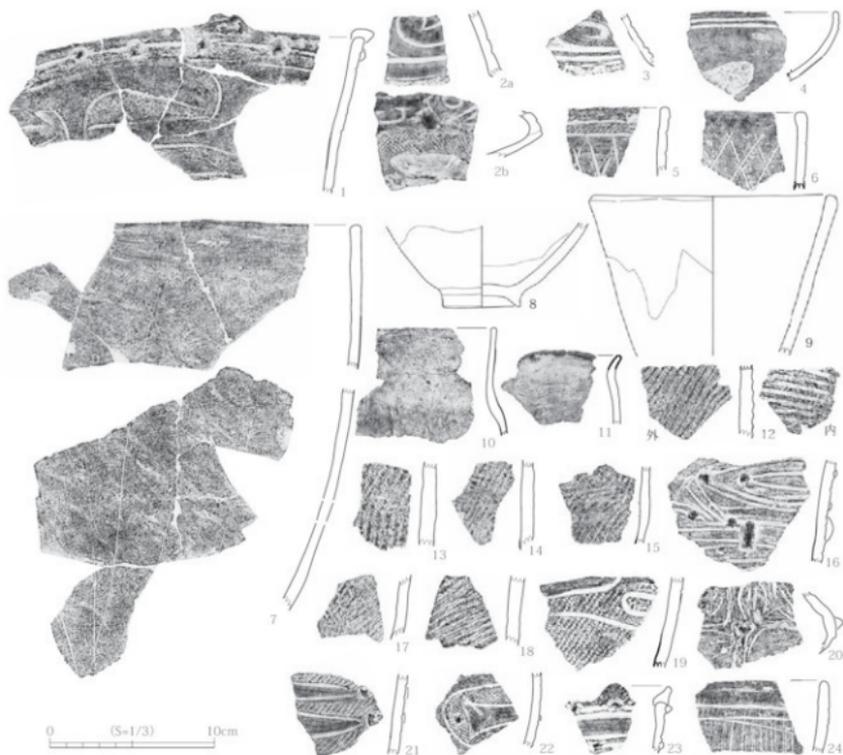
図版 132 I 区遺物包含層出土土器 I 層ほか (4)



図版 133 I区遺物包含層出土土器 I層ほか(5)



図版 134 I区・I区南遺物包含層出土土器 I区I層ほか(6)、I区南SX1209堆積土(III層)



図版 135 | 区南遺物包含層出土土器 SX1209 堆積土 (Ⅲ層)、Ⅰ層

## (2) 遺物包含層 2

### ①土器の出土状況

遺物包含層 1 に比べ出土総数は少ない。グリッドごとの出土傾向をみると、土器の総数(表土、遺構確認面、攪乱層を含む)、Ⅲ層、Ⅳ層に共通して目立った偏りはみられない。出土土器の特徴をみると雲形文、π字文が施される土器が多く出土している(第 11 表)。そのほかでは貼瘤土器と帯状文が施された土器、変形工字文が施された土器などが出土している。以下では遺物包含層Ⅲ、Ⅳ層出土土器について層位ごとに特徴を示し、表土、遺構確認面出土土器についてもあわせて提示する。

### ②各層出土土器の特徴

Ⅳ層からは貝殻文(図版 137-1)、帯状文(同図-2)、雲形文(4・5・7・14~17)、π字文(同図-26・30)、平行沈線間に 2 個一対の粘土粒を貼付しπ字文状にしたもの(29)、不整沈線で雲形文が崩れたような文様(22)が施された土器などが出土しており、その中で雲形文、π字文が施された土器が比較的多い。器種は深鉢、鉢、浅鉢、皿、壺、注口土器がある。

Ⅲ層では、帯状文(図版137-44)、羊歯状文(同図-50)、雲形文(同図55～59、図版138-1～17)、工字文(同図-34、図版139-9)、π字文(図版138-35～42、図版139-12)、変形工字文(図版139-13・15・19)が施された土器、磨り消し縄文による三角形文(同図-16)などがあり、その中で雲形文、π字文が施された土器が比較的多いがいずれも破片資料で、器形がわかる土器は変形工字文が施された土器である。器種は深鉢、鉢、浅鉢、皿、壺、注口土器、高坏がある。このほかに羽状縄文による区画文が施された土器(図版137-43)や大型の突起や突帯が出土している(同図40～42)。

Ⅱ層では、貼瘤土器(図版139-25)、入組帯状文(同図-27)、雲形文(図版140-1～3)、π字文(同図-5)が施された土器などが出土している。器種は深鉢、鉢、浅鉢、壺がある。

I層からは、貼瘤土器(図版140-12)、入組三叉文(同図-17)、雲形文(22～34・37～39)、工字文(42)、π字文(40・41)、変形工字文(46)が施された土器などが出土している。器種は深鉢、鉢、浅鉢、皿、壺、高坏がある。

このほかⅡ区拡張区で雲形文(図版141-6・10)や変形工字文(同図-11)が施された土器などが出土している。

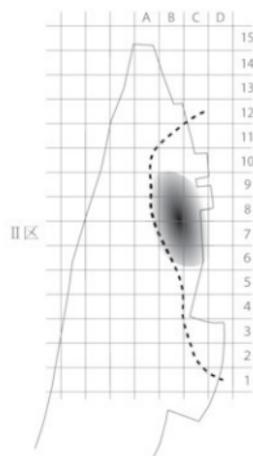
第11表 Ⅱ区遺物包含層出土土器主要文様の出現数

\* ( ) は器形の判別できる土器の点数

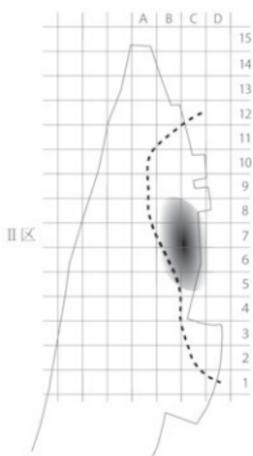
層位	押型文	貝殻状版文	条状文	縄文型区画文	貼瘤土器	帯状文	入組帯状文	三叉文	羊歯状文	雲形文	工字文	π字文(2層-3層の貼瘤土器可含む)	変形工字文
Ⅱ区IV層	0	1(0)	0	0	0	1(0)	0	0	0	11(1)	0	4(1)	1
Ⅱ区Ⅲ層	0	0	0	0	0	2(0)	0	0	3(0)	23(0)	2(1)	12(1)	3(0)
Ⅱ区Ⅱ層	0	0	0	0	1(0)	0	0	1(0)	0	0	0	0	0
Ⅱ区I層ほか	0	0	0	0	3(0)	2(0)	1(0)	2(0)	3(0)	15(0)	2(0)	1(0)	1(0)
Ⅱ区拡張区IV層	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1(0)	0	0	0
Ⅱ区拡張区Ⅲ層	0	0	0	0	0	1(0)	0	0	0	1(0)	0	0	1(0)

\* 図中の色の濃い範囲は土器の出土が多いところを表す。

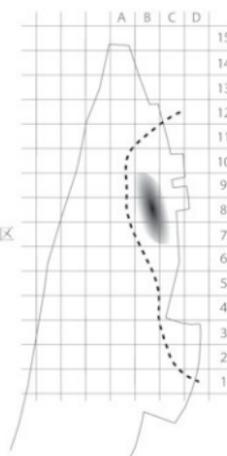
グリッドごと出土総数(表土、遺構確認面含)



グリッドごと出土総数(Ⅲ層)



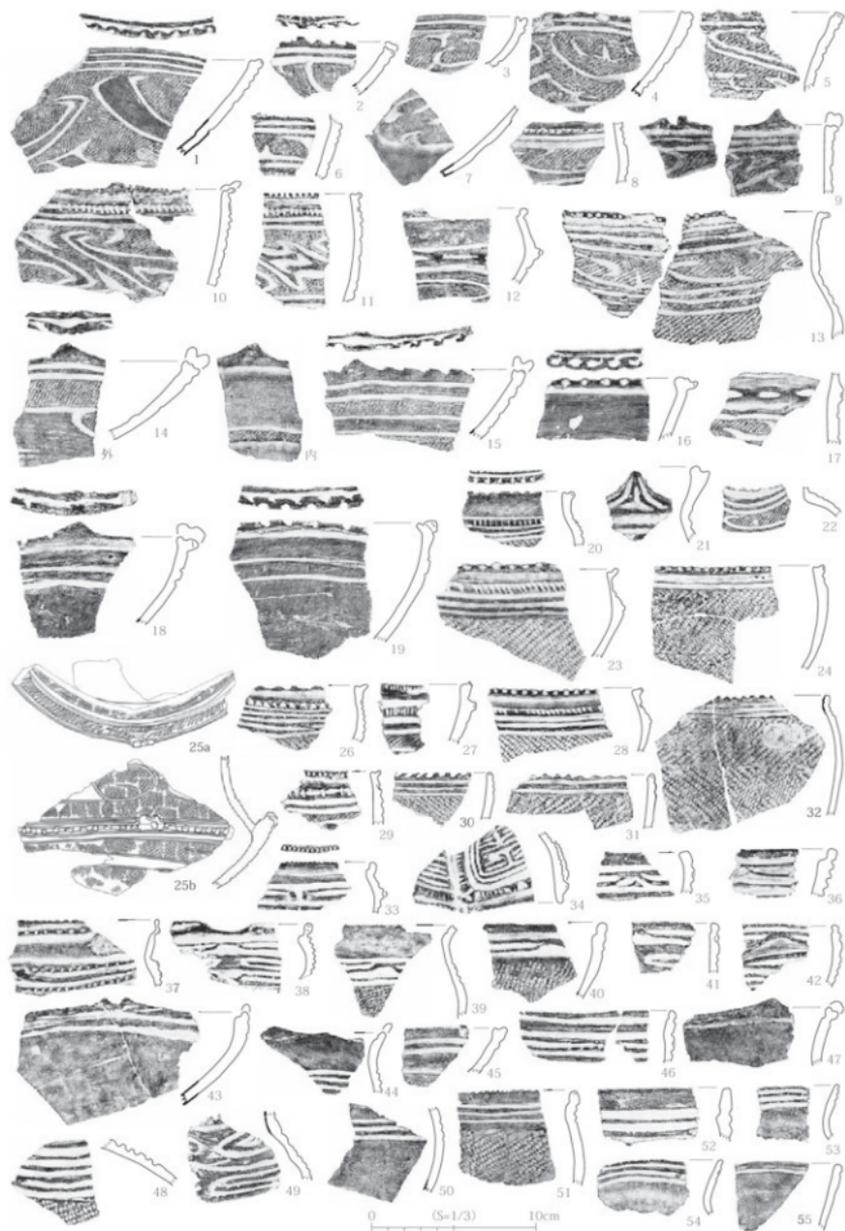
グリッドごと出土総数(Ⅳ層)



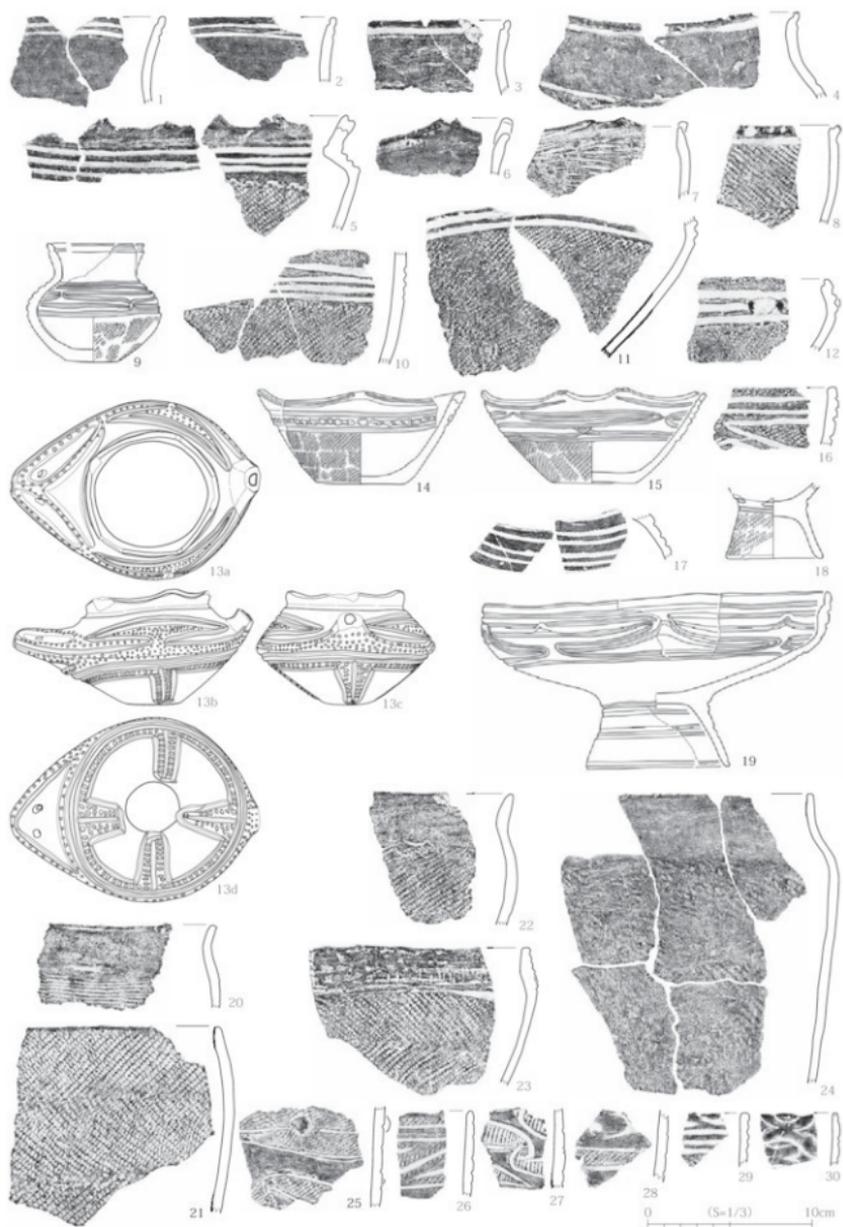
図版136 Ⅱ区 グリッド・層別別土器出土状況



图版 137 II区遺物包含層出土土器 IV層、III層(1)



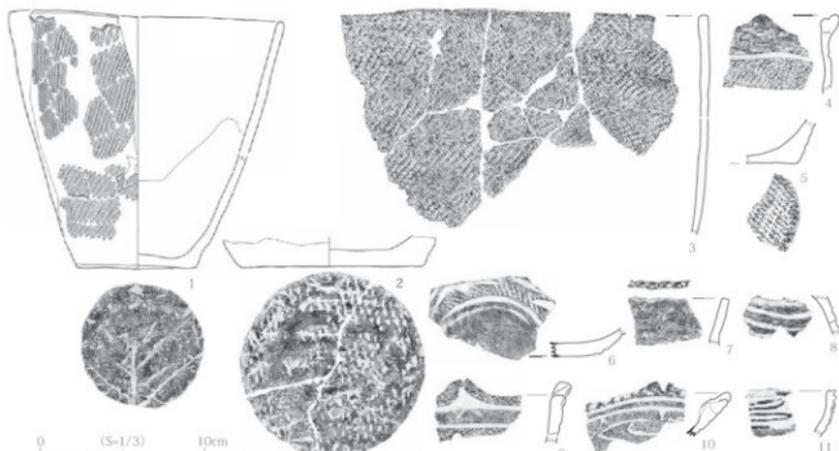
图版 138 II区遗物包含層出土土器 III層(2)



图版 139 II区遗物包含層出土土器 III層(3)、II層(1)



図版 140 II区遺物包含層出土土器 II層(2)、I層ほか(1)



図版 141 II区遺物包含層出土土器 I層ほか(2)、II区拡張区

第12表 遺物包含層出土土器属性表(1) I区 IVd~IVb層

No	器種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
110-1	深鉢	AY108/IVd	山形押型文、平行沈線文、縞線混入	44-2	Pat168
110-2	深鉢	AY108/IVd	平行沈線文、山形押型文、炭化物付着、AMS放射性炭素年代測定	44-3,4	Pat148
110-3	深鉢	AY108/IVd	山形押型文、格子状押型文、縞線混入	44-8	Pat169
110-4	深鉢	AY108/IVd	平線・押型、山形押型文、縞線混入	44-5	Pat165
110-5	深鉢	IVd	押型文、縞線混入		Pat82
110-6	深鉢	AY108/IVd	山形押型文、縞線混入		Pat142
110-7	深鉢	AY108/IVd	山形押型文、縞線混入		Pat143
110-8	深鉢	AY108/IVd	山形押型文、縞線混入、内面に炭化物付着		Pat146
110-9	深鉢	AY108/IVd	押型文、縞線混入		Pat167
110-10	深鉢	AY108/IVd	山形押型文、縞線混入か		Pat166
110-11	深鉢	AY108/IVd	押型文、縞線混入		Pat143
110-12	深鉢	IVd	無文、内面に条痕文、縞線混入、海綿骨針		Pat83
110-13	深鉢	AY108/IVd	外：条痕、内：無文、縞線混入		Pat170
110-14	深鉢	AY108/IVd	押型文、縞線混入		Pat171
110-15	深鉢	AX108/IVd	外：条痕、内：条痕、縞線混入	44-16	Pat144
110-16	深鉢	IVc	菱形押型文、縞線混入		Pat82
110-17	深鉢	AY108/IVb	平線・押型、平行線状押型文、縞線混入	44-11	Pat162
110-18	深鉢	BC106/IVb・IVd	山形押型文、縞線混入	44-10	Pat209
110-19	深鉢	BD107/IVb・IVd	平線・へろ状目、平行沈線文、縄文原体不明、縞線混入	44-6	Pat320
110-20	深鉢	BD107/IVb・IVd	格子状、格子状押型文、縞線混入	44-9	Pat324
110-21	深鉢	BD107/IVb・IVd	山形押型文、縞線混入		Pat321
110-22	深鉢	BF106/IVb・IVd	山形押型文、縞線混入	44-7	Pat617
110-23	深鉢	BF106/IVb・IVd	山形押型文、縞線混入		Pat616
110-24	深鉢	BD107/IVb・IVd	山形押型文、縞線混入		Pat322
110-25	深鉢	BC106/IVb・IVd	山形押型文、縞線混入		Pat212
110-26	深鉢	BD106/IVb・IVd	山形押型文、縞線混入		Pat296
110-27	深鉢	BD106/IVb・IVd	外：条痕、内：条痕か、縞線混入		Pat299
110-28	深鉢	BD107/IVb・IVd	押型文、縞線混入		Pat323
110-29	深鉢	BF106/IVb・IVd	平線・口内面に羽状線による刻目、平行沈線文、弧状沈線文(人髪文の一部)、縞線混入	44-12	Pat619
110-30	深鉢	BF106/IVb・IVd	目型刻線文、沈線文、縞線混入	44-13	Pat618
110-31	深鉢	BD107/IVb・IVd	押型文か、縞線混入		Pat325
110-32	深鉢	BC106/IVb・IVd	山形押型文、縞線混入		Pat211
110-33	深鉢	BD105~107/IVb・IVd	押型文か、縞線混入		Pat326
110-34	深鉢	BD105~107/IVb・IVd	外：条痕、内：不明、縞線混入		Pat327
110-35	深鉢	IVb~c	尖底、外面ミラキ、内面ナデ、杓成良好、縞線混入	44-1	Pat1890
110-36	深鉢	BD105~107/IVb・IVd	押型文、縞線混入		Pat329
110-37	深鉢	BD105~107/IVb・IVd	押型文、縞線混入		Pat328
110-38	深鉢	BD106/IVb・IVd	外：条痕、内：条痕、縞線混入		Pat298
110-39	深鉢	BC106/IVb・IVd	外：条痕、内：条痕か、縞線混入		Pat210
110-40	深鉢	BC106/IVb・IVd	外：条痕、内：無文、縞線混入		Pat213
110-41	深鉢	IVb	外：条痕、内：条痕、縞線混入	44-14,15	Pat78
110-42	深鉢	BG105/IVb・IVd	外：条痕、内：条痕、縞線混入		Pat742
110-43	深鉢	IVb~c	押型文、縞線混入		Pat80
110-44	深鉢	IVb~c	0段多条LR、内面ナデ、縞線混入	44-17	Pat79
110-45	深鉢	AY108/IVb	斜目状器底文R、縞線混入		Pat163

第13表 遺物包含層出土土器属性表(2) I区 IVb~a層、IV層

No	器種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
110-46	深鉢	BC107付近/IVb	前面文、楕圓器入か		Pa242
110-47	浅か	BE102/IVb・IVd	平縁、帯状文、胎瘤		Pa2388
110-48	浅か	BE102/IVb・IVd	平縁、帯状文、胎瘤、縄文LRか		Pa2390
110-49	深鉢	AY108/IVb	平縁か、刺突刻目、胎瘤、帯状文、縄文LR		Pa164
110-50	深鉢	BF106/IVb・IVd	帯状文(刺突刻目)、縄文L		Pa614
110-51	深鉢	AY108/IVb	平縁、帯状文(刺突刻目)か		Pa160
110-52	深鉢	AY108/IVb	帯状文(つや消し、斜み列切、胎瘤)		Pa161
110-53	深鉢	BD106/IVb・IVd	小波状縁か、帯状文(縄文)、縄文LR		Pa295
110-54	深鉢	BD106/IVb・IVd	弧状沈線文、縄文LR		Pa297
110-55	鉢	BD107/IVb	平縁、平行沈線文、縄文帯面文か、縄文LR		Pa317
110-56	深鉢	BE102/IVb・IVd	平縁、楕圓状染線文		Pa389
110-57	壺	BF102/IVb・IVd	平縁、I頸部ナギ、体部縄文L		Pa476
110-58	深鉢	AV108/IVa	外:条痕、内:無文、楕圓器入		Pa136
110-59	深鉢	AV108/IVa	外:条痕、内:条痕、楕圓器入		Pa138
110-60	鉢	AV108/IVa	平縁・へう刻目、斜点文、平歯状文、縄文LR		Pa137
110-61	深鉢	AT108/IVa	平縁・山形突起・I頸部沈線、平行沈線文、へう刻目、差形文か、縄文LR		Pa135
110-62	浅鉢	BF105/IVa	平縁・山形突起・I頸部沈線、平行沈線文、へう刻目、差形文か、縄文LR、朱付着		Pa577
110-63	注I or 壺	AX108/IVa	平縁、無文		Pa142
111-1	深鉢	IV	山形押型文、楕圓器入	44-18	Pa84
111-2	深鉢	BH104/IV	変形押型文、楕圓器入	44-19	Pa975
111-3	深鉢	BC104/IV	平行線押型文、楕圓器入		Pa715
111-4	深鉢	BG107付近/IV	平縁・I頸部押型、縄文L・沈線文、楕圓器入	44-20	Pa247
111-5	深鉢	IV	波状縁・目取彫りによる刻目、目取彫縁文、目取沈線文、楕圓無	44-23	Pa94
111-6	深鉢	BE103/IV	山形彫り不明、I頸部刻突、沈線文、目取彫縁文、内面I頸部付近に目取彫縁文、楕圓無	44-24	Pa403
111-7	深鉢	BH106/IV	目取彫縁文、楕圓無	44-22	Pa1022
111-8	深鉢	BH105/BH106/IV	目取彫縁文、目取彫縁文、楕圓無	44-21	Pa790
111-9	深鉢	IV	無文、内面に条痕か、楕圓器入、海柳付針		Pa85
111-10	深鉢	BC107付近/IV	外:条痕、内:条痕か、楕圓器入、内面厚減造		Pa255
111-11	突起	BC104/IV	楕圓状突起、溝巻文、	44-28	Pa723
111-12	深鉢	BH104/IV	波状縁、弧状隆帯、I縁部内面張りだし		Pa870
111-13	深鉢	BE103/IV	傾斜状突起、溝巻文		Pa410
111-14	深鉢	BG105/IV	弧状突起、沈線文		Pa753
111-15	鉢	BC107付近/IV	平縁、つまみ状突起(貫通孔有り)、沈線文		Pa252
111-16	壺	BC107付近/IV	縄文帯面文、縄文LR		Pa243
111-17	注I or 壺	BH104/IV	平縁、内文、弧状文(充満縄文)、縄文LRか		Pa961
111-18	深鉢	BH105/IV	波状縁、車輪山形沈線文、縄文LR		Pa926
111-19	深鉢か	BC107付近	平縁、内面沈線・内面胎瘤、磨り消し縄文		Pa246
111-20	鉢	BH105/IV	平縁、胎瘤、人組帯状文(磨り消し縄文)、縄文LRか		Pa274
111-21	浅か	BE101/IV	帯状文、胎瘤、縄文LR		Pa375
111-22	深鉢	BF102/IV	平縁・胎瘤、帯状文(つや消し・刺突刻目)		Pa490
111-23	深鉢	AX108付近/IV	I径(25.2cm)、波状縁・前面胎瘤、I頸部と波頂部先端に縄文LR、I縁部ミガキによる無文、外面縄文帯面文、縄文LR、内面ミガキ、炭化物付着	44-25	Pa149
111-24	深鉢か	BD105~BF106/BD1054	平行沈線、胎瘤(縁み有り)		Pa580
111-25	深鉢	BC105/IV	人組帯状文(つや消し)、扁平な胎瘤(刺突有り)		Pa202
111-26	深鉢	BE103/IV	帯状文(つや消し)、胎瘤		Pa408
111-27	深鉢	BE102/IV	平縁、帯状文(楕圓状染線文)、胎瘤		Pa392
111-28	深鉢	BC107付近/IV	波状L縁・胎瘤(縁み有り)、弧状沈線文、胎瘤	44-26	Pa254
111-29	鉢	BF102/IV	平縁・胎瘤、平行沈線文、胎瘤		Pa494
111-30	深鉢	BE102/IV	帯状文(縄文LR、つや消し)、胎瘤	44-30	Pa391
111-31	深鉢	BC107付近/IV	帯状文(つや消し)、胎瘤		Pa244
111-32	深鉢	BC107付近/IV	平縁、人組帯状文(縄文)、胎瘤、縄文LR		Pa253
111-33	深鉢	BE103/IV	平行沈線文、胎瘤、斜状沈線文		Pa407
111-34	深鉢	BE103/IV	人組帯状文(つや消し)、胎瘤		Pa406
111-35	深鉢	BF102/IV	帯状文(縄文・短沈線)、縄文LR		Pa491
111-36	深鉢	BF102/IV	平縁、帯状文(縄文・短沈線)、扁平な胎瘤、縄文LR		Pa480
111-37	深鉢	BF102/IV	人組帯状文(縄文)、胎瘤、縄文L		Pa493
111-38	深鉢	BC103/IV	平縁、胎瘤、平行沈線文		Pa883
111-39	深鉢	BF102/IV	平縁、帯状文(刺突刻目)、胎瘤		Pa482
111-40	壺	BF102/IV	帯状隆帯(充満縄文)、扁平な胎瘤、楕圓状帯(貫通孔有り)、縄文LR表面段差条か		Pa487
111-41	深鉢	BF102/IV	帯状文(楕圓状刻目)、胎瘤(斜み、刺突有り)		Pa495
111-42	深鉢	BC104/IV	平縁・前面部山形突起、帯状文(つや消し、縄文)、胎瘤、縄文LR		Pa708
111-43	深鉢	BF102/IV	平縁・前面部山形突起、人組帯状文(楕圓状刻目)		Pa496
111-44	深鉢	BF104/IV	平縁、平行沈線文、胎瘤		Pa550
111-45	壺 or 注I	BF102/IV	帯状文(縄文)、胎瘤(前面に刺突)、縄文LR		Pa504
111-46	深鉢	BF104/IV	人組帯状文(つや消し)、胎瘤		Pa561
111-47	壺	BF105/IV	帯状文(縄文)、胎瘤、縄文L		Pa579
111-48	壺	BF102/IV	帯状文(つや消し)、胎瘤		Pa506
111-49	深鉢	BF102/IV	帯状文(縄文)、胎瘤、縄文LR		Pa478
111-50	壺	BC104/IV	帯状文(つや消し)、胎瘤		Pa721
111-51	深鉢	BF102/IV	帯状文(楕圓状刻目)、扁平な胎瘤、二個一対の胎瘤		Pa511
111-52	深鉢	BH104/IV	平縁、帯状文(縄文)、胎瘤、縄文彫り不明		Pa248
111-53	浅鉢	BF104/IV	平縁・胎瘤・平行沈線文、胎瘤		Pa459
112-1	深鉢	BC105/IV	平縁・山形突起か、胎瘤、帯状文(楕圓状刻目)		Pa256
112-2	深鉢	BC105/IV	平縁・小突起、胎瘤、帯状文LR		Pa767
112-3	深鉢	BC105/IV	平縁、人組帯状文(染線文)、胎瘤	44-29	Pa777
112-4	深鉢	BH105/IV	平縁、帯状文(沈線文)、胎瘤		Pa780
112-5	深鉢	BH105/IV	平縁・山形小突起、帯状文(楕圓状刻目)、胎瘤、縄文彫り不明		Pa913
112-6	深鉢	BH105/IV	平縁・前面部山形突起、帯状文(刺突刻目)、二個一対の胎瘤		Pa914
112-7	深鉢	BH105/IV	沈線、帯状文(つや消し・小突起刻目)、二個一対の胎瘤		Pa1009
112-8	深鉢	BH105/IV	胎瘤、帯状文(縄文)、胎瘤、縄文LR		Pa930
112-9	深鉢	BH105/IV	人組帯状文(縄文)、胎瘤、縄文彫り不明		Pa922

第14表 遺物包含層出土土器属性表(3) I区 IV層

No	器種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
112-10	鉢	BI104/IV	平縁、体部平行沈線、条線文、内面に灰化物質着		Por73
112-11	深鉢	4BI106/IV	波状縁、沈線文、縄文(原体不明)、粘濁、灰化物質着		Por1021
112-12	壺か	BK103付近/IV	帯状文(短沈線)、粘濁		Por142
112-13	深鉢	BL102付近/IV	帯状文(縄文)、粘濁、縄文LR		Por151
112-14	深鉢	BL102付近/IV	粘濁、帯状文、縄文LR	44-27	Por152
112-15	深鉢	BC107付近/IV	平縁・面部押山形突起、帯状文(刺突刻目)		Por248
112-16	深鉢	BE101/IV	平縁・突起(面部刻目)、帯状文(刺突刻目)		Por374
112-17	深鉢	BE103/IV	平縁、粘濁、帯状文(刺突刻目)		Por409
112-18	深鉢	BE104/IV	平縁、帯状文(縄染状刻目)、短沈線文		Por428
112-19	深鉢	BE107付近/IV	平縁・突起、帯状文(刺突刻目)		Por468
112-20	深鉢	BC107付近/IV	平縁・山形突起、帯状文(縄染状刻目)		Por249
112-21	深鉢	BF102/IV	前面平坦な波状縁、三角形文、平行沈線文、刺突刻目、縄文LR、穿孔		Por486
112-22	深鉢	BF102/IV	平縁、平行沈線文、縄染状刻目		Por484
112-23	深鉢	BF102/IV	平縁・突起か、帯状文(刺突刻目)		Por492
112-24	深鉢	BF102/IV	平縁、帯状文(縄染状刻目)、縄文LR		Por488
112-25	深鉢	BF102/IV	人組帯状文(縄染状刻目)		Por489
112-26	鉢	BF102/IV	帯状文(縄染状刻目)、体部下部に縄染状刻目		Por481
112-27	深鉢	BF102/IV	平縁、平行沈線文、縄染状刻目		Por501
112-28	深鉢	BF102/IV	平縁、帯状文(刺突刻目)		Por502
112-29	深鉢	BF102/IV	平縁・山形突起、三叉文、縄文LR		Por507
112-30	深鉢	BF102/IV	平縁、平肩の張り出し、帯状文(縄文)、縄文LR		Por508
112-31	壺	BF102/IV	メガネ状浮文、縄文原体不明		Por509
112-32	深鉢	BF103/IV	メガネ状浮文、沈線、縄文LR		Por524
112-33	深鉢	BF103/IV	平縁、帯状文(刺突刻目)、縄文LR		Por532
112-34	深鉢	BF103/IV	帯状文(刺突刻目)、縄文、縄文LR		Por533
112-35	深鉢	BF103/IV	平縁、帯状文(刺突刻目)		Por534
112-36	深鉢	BF104/IV	平縁、帯状文(ツボシ・刺突刻目)、幅縁		Por558
112-37	深鉢	BF106/IV	平縁・へう朝目・突起、帯状文(刺突刻目)		Por629
112-38	深鉢	BC103/IV	人組帯状文(刺突刻目)		Por681
112-39	深鉢	BC103/IV	平縁・二個一対の突起、帯状文(縄染状刻目)		Por693
112-40	深鉢	BC103/IV	平縁・山形突起、帯状文(縄染状刻目)		Por695
112-41	深鉢	BG104/IV	平縁、帯状文(縄文)、縄文LR		Por709
112-42	深鉢	BG104/IV	メガネ状浮文、縄文LR		Por713
112-43	深鉢	BG105/IV	平縁、帯状文(刺突刻目)		Por744
112-44	鉢	BG105/IV、BF104/IV	平縁、へう朝目、帯状文(刺突刻目)		Por748
112-45	深鉢	BG105/IV	平縁、平行沈線文、刺突刻目		Por759
112-46	深鉢	BG105/IV	小波状縁か、帯状文(縄文)、縄文LRか、灰化物質着		Por762
112-47	深鉢	BG105/IV	平縁、帯状文(刺突刻目)		Por763
112-48	深鉢	BG105/IV	平縁、帯状文(刺突刻目)		Por766
112-49	深鉢	BG105/IV	平縁・面部刻目山形突起、帯状文(縄染状刻目)		Por781
112-50	深鉢	BI104/IV	平縁・山形突起、帯状文(刺突刻目)		Por979
112-51	鉢	BH105/IV	平縁、帯状文(縄文・刺突刻目)、縄文LR		Por923
112-52	深鉢	BH105/IV	平縁・面部刻目山形突起、人組帯状文(縄文)、縄文原体不明		Por933
112-53	深鉢	BH106/IV	帯状文(縄文)、縄文LR		Por944
112-54	深鉢	BI104/IV	平縁、帯状文(縄文・刺突刻目)、縄文LR		Por969
112-55	深鉢か	BI104/IV	平縁・へう朝目、平行沈線文・帯状文による刺突		Por984
112-56	深鉢	BI105/IV	波状縁・面部刻目突起・へう朝目、捺込縁、刺突刻目、弧状沈線文、縄文LR		Por1029
112-57	深鉢	BI105/IV	帯状文(刺突刻目)、粘濁(初みあり)		Por1093
112-58	深鉢	BI105/IV	平縁、帯状文(刺突刻目)		Por1019
112-59	深鉢	BH106/IV	平縁、へう朝目、平行沈線文		Por947
112-60	深鉢	BI104/IV	矢引状沈線、刺突刻目		Por822
112-61	深鉢	BI104/IV	平縁、平行沈線文、刺突刻目		Por983
112-62	深鉢	BH105/IV	平縁・二個一対の突起、平行沈線		Por935
112-63	鉢か	BH104/IV	縄染突起2個、平行沈線文、縄文LR		Por882
112-64	深鉢	BJ104/IV	帯状文(縄文)、粘濁、縄文LR		Por1043
113-1	深鉢	BG105/IV	口径(24.5cm)、面部に初みのある波状縁、三叉状の沈線で囲まれる人組帯状文(充填縄文)、平行沈線文、メガネ状浮文、縄文LR、体部下半部へう朝目・かきり、内面かきりミガキ	45-4	Por786
113-2	深鉢	BC104/IV	平縁・面部刻目山形突起、人組帯状文、三叉文、メガネ状浮文、縄文LR	45-3	Por718
113-3	深鉢	BG104/IV	口径33.4cm、平縁・面部刻目突起、人組三叉文、人組帯状文(縄文)、縄文LR、体部下半部へう朝目、内面かきりミガキ、灰化物質着	45-2	Por724
113-4	深鉢	BF102/IV、BF102/3、BG103/IV	口径19.5cm、平縁、へう朝目、人組帯状文(縄文)、縄文LR、体下半部かきりミガキ、内面かきりミガキ	44-31	Por497
113-5	深鉢	BF105/IV	平縁・突起(面部刻目)、三叉文、帯状文、縄文LR		Por580
113-6	深鉢	BF105/IV	平縁・突起(面部刻目)、三叉文、帯状文、縄文LR		Por582
113-7	深鉢	BF105/IV	波状縁、帯状文、縄文LR		Por584
113-8	深鉢	BF106/IV	帯状文(縄文)、短沈線文		Por631
113-9	鉢	BC105/IV	小波状縁、人組帯状文か、縄文LR		Por747
113-10	鉢	BC105/IV	平縁・へう朝目・小突起、帯状文(刺突刻目、縄文)、縄文LR		Por765
113-11	深鉢	BG105/IV	平縁・面部刻目山形突起、三叉文、帯状文、縄文LR		Por775
113-12	深鉢	BH104/IV	平縁・面部刻目山形突起、縄染状刻目、三叉文		Por886
113-13	壺	BH105/IV	平縁、メガネ状浮文(貫通孔)		Por910
113-14	壺	BH104/IV	メガネ状浮文、平行沈線文		Por868
113-15	壺	BJK104/IV	メガネ状浮文		Por1053
113-16	深鉢	BL102付近/IV	平縁・二個一対の突起、平行沈線文、縄文LR		Por1150
113-17	出口土器	BF102/IV	帯状文、縄文LRか		Por498
113-18	出口土器	BF102/IV	ミガキ		Por499
113-19	深鉢	BG105/IV	小波状縁、三叉文、縄文LR		Por749
113-20	深鉢	BH104/IV	人組帯状文、縄文LR		Por888
113-21	壺	BG105/IV	魚眼状三叉文、平行沈線文、縄文原体不明		Por770
113-22	深鉢	BH104/IV	小波状縁、凹文、縄文LR		Por904
113-23	深鉢	BG105/IV、BF105/IV、BG104/IV	人組帯状文(縄文)、玉指三叉文、縄文LR	45-1	Por700
113-24	深鉢	BH104/IV	小波状縁、三叉文、弧状沈線文、縄文LR		Por903
113-25	深鉢	BI104/IV	三叉文(磨り出し縄文)、縄文LR		Por972

第15表 遺物包含層出土土器属性表(4) I区 IV層

No	器種	遺構/層	特徴	写真掲載	登録
114-1	深鉢	BH105/V	平縁・山形突起。三叉文、人組状文、縄文LR		Put919
114-2	深鉢	BH105/V	平縁。三叉文、人組状文、縄文LR		Put928
114-3	深鉢	BH106/V	平縁・頂部押し山形突起。三叉文、縄文LR		Put946
114-4	深鉢	BH103付近/V	人組状文(つや消し)		Put1144
114-5	鉢or深鉢	BK104/V	三叉文、縄文LR		Put1059
114-6	深鉢	BG105/V	小波状縁。玉突き三叉文、縄文LR、炭化物付着	45-5	Put1153
114-7	深鉢	BH105/V	小波状縁。魚眼状三叉文、縄文LR		Put929
114-8	皿	BF103,BH103,BH105/V	人組状文(縄文)、縄文刻。三叉付着	45-10	Put528
114-9	深鉢	BF104/V	平縁。轆轤状縁文による弧状文		Put639
114-10	深鉢	BF104/V	平縁。轆轤状縁文による弧状文		Put565
114-11	壺	BH104/V	魚眼状三叉文、縄文LR+黒割加茶か		Put985
114-12	深鉢	BF106/V,皿,BH105/V	平縁。轆轤状縁文による凸レシズ状文	45-12	Put622
114-13	深鉢	BH105/V	轆轤状縁文による格子状文	45-11	Put917
114-14	鉢	BH104付近/V	魚眼状三叉文、縄文原形不明		Put906
114-15	壺	BG103/V	魚眼状三叉文、縄文LR		Put699
114-16	鉢or深鉢	BH104/V	平縁。魚眼状三叉文、縄文LR		Put1045
114-17	鉢	BH104/V	平縁。人組三叉文、縄文LR		Put1048
114-18	鉢	BG103/V	平縁。玉突き三叉文、縄文LR		Put678
114-19	皿	BF104/V	平縁。魚眼状三叉文		Put559
114-20	深鉢or鉢	BF103/V	波状縁。人組三叉文		Put526
114-21	鉢	BG105/V	平縁・ヘラ割目。人組三叉文、平行波線文		Put764
114-22	鉢	BG104/V	平縁・頂部押し山形突起。人組三叉文、縄文LR、炭化物付着		Put711
114-23	鉢	BG105/V	三叉文、縄文LR		Put751
114-24	皿	BG105/V	平縁。人組三叉文か。		Put769
114-25	壺	BH106/V	三叉文		Put945
114-26	深鉢	BH105/V	小波状縁。雲形波線文		Put1016
114-27	深鉢	BH104/V	小波状縁。人組三叉文、縄文LR、炭化物付着		Put1044
114-28	皿	BG104/V	文字文、縄文LR	45-13	Put702
114-29	皿	BH105/V	平縁・突起+L19部三叉文。人組三叉文、縄文LR、口縁内面に黒し。		Put909
114-30	鉢	BH104/V	波線文、縄文LR		Put1040
114-31	鉢or壺	BH104/V	菱形文。三叉文か、縄文LR		Put987
114-32	器種不明	BG103/V	人組三叉文		Put684
114-33	鉢	BG103/V	人組三叉文		Put686
114-34	台部	BF104/V	三叉文		Put560
114-35	(付付)浅鉢	BK104/V	平縁・二個一対の突起。帯線文、人組三叉文、縄文LR、内面突起に繋がる浮線文、増付孔	45-7	Put1051
114-36	注口土器	BK104/V	菱形文。人組三叉文		Put1052
114-37	鉢	BG103/V	人組三叉文		Put687
114-38	鉢	BH105/V	平縁・ヘラ割目。平行波線文、波状浮線文(交互割目)、縄文LR		Put932
114-39	香炉	BF103/V	三叉文の透かし		Put525
114-40	香炉(高坏)	BH105/V	口径径7.1cm、残存高2.3cm、穿孔孔と浅溝十字状縁を組み合わせたX字状の透かし文様。底部に突起はけしけ。高坏部を研磨して内面に転用か。	45-6	Put921
114-41	注口土器	BH105/V	波線文		Put908
114-42	注口土器	BG103/V	玉突き三叉文		Put688
114-43	注口or壺	BF106/V	ミガキによる無文。底部先端が直径2cm程の環状突起風。内面ナデ		Put621
114-44	鉢	BG104/V	三叉文、列点文、三叉文、縄文LR		Put912
114-45	鉢	BH104/V	波状縁。波線文、体部縄文		Put781
114-46	香炉	BH104/V	波状縁・L19部三叉文、波線文。三叉文の透かし		Put968
114-47	注口土器	BF102/V	無文。注口部脱落。		Put510
114-48	皿	BC107付近/V	平縁。二個一対の突起。L19部波線、割目列B、列点文、滑し磨し縄文、縄文原形不明		Put245
114-49	深鉢	BK107付近/V	平縁・二個一対の突起。平歯状文、縄文LR		Put250
114-50	鉢	BF102/V	平縁・平歯状の浮線文。平行波線文、割目列B、縄文LR		Put505
114-51	鉢	BF103/V	平縁・ヘラ割目。二個一対の突起。平行波線文、ヘラ割目、縄文LR、炭化物付着		Put523
114-52	鉢	BF103/V	平縁・ヘラ割目。平歯状文、縄文LR		Put535
114-53	鉢	BF104/V	平縁・ヘラ割目。平歯状文、縄文原形不明、炭化物付着		Put537
114-54	浅鉢	BF104/V	平歯状文、縄文LR(結節部強調)		Put543
114-55	皿	BF104/V	平縁・ヘラ割目。二個一対の突起。平歯状文、平行波線文、割目列B、縄文LR		Put547
114-56	浅鉢	BF104/V	平縁・ヘラ割目。平歯状文、縄文LR、炭化物付着		Put555
114-57	鉢	BF105/V	平縁・ヘラ割目・突起。平行波線文、ヘラ割目、炭化物付着		Put578
114-58	浅鉢	BF104/V	平縁。列点文、雲形文、縄文LR		Put557
114-59	浅鉢	BF105/V	平縁。平歯状文		Put584
114-60	鉢	BG103/V	平縁・ヘラ割目。平行波線文、列点文		Put685
114-61	浅鉢	BG103,BH104/V	波状縁・内面短波線のある小突起・ヘラ割目。平行波線文、列点文、三叉文	45-8	Put679
114-62	深鉢	BG103/V	平歯状文		Put680
114-63	鉢	BG103/V	平縁・ヘラ割目。平歯状文、縄文LR		Put692
114-64	鉢	BG103/V	平縁・二個一対の小突起・ヘラ割目。平行波線文、ヘラ割目二段。縄文LR(結節部強調)、炭化物付着	45-14	Put691
115-1	鉢	BG103/V	平縁・ヘラ割目。平歯状文、縄文LR		Put690
115-2	鉢	BG103/V	平縁・突起。人組三叉文、平行波線文、縄文原形不明、口縁部内面突起から繋がる貼付状突起		Put694
115-3	鉢	BG105/V	平縁・二個一対の小突起・ヘラ割目。平歯状文		Put746
115-4	鉢	BG104/V	平縁・ヘラ割目。平歯状文、縄文LR、炭化物付着		Put717
115-5	鉢	BG105/V	平縁・割目列。平歯状文、縄文LR(結節部強調)、炭化物付着		Put577
115-6	鉢か	BG103/V	底部か。三叉文、増付孔		Put698
115-7	鉢か	BH103/V	平縁・割みか。平歯状文、縄文LR		Put856
115-8	鉢	BG105/V	平縁・ヘラ割目・二個一対の小突起。平歯状文、雲形文(滑し磨し縄文)、縄文Lか。炭化物付着。内面波線	46-4	Put778
115-9	浅鉢or皿	BG104/V	X字状文、縄文LR		Put705
115-10	鉢	BG105/V	口径22.6cm、器高17.4cm、底径7.2cm、L1縁部平縁・割目列B・二個一対の小突起(0単位)。突起を数回波線文。平行波線文、ヘラ割目。底部付着に輪郭。ミガキによる無文。縄文LR(結節部強調)。底縁材にL17状。炭化物付着。内面に刻ミガキ	46-6	Put787
115-11	鉢	BG105/V	平縁・ヘラ割目。平歯状文、縄文LR、炭化物付着	45-18	Put783
115-12	注口土器	BG104/V	平歯状文		Put701
115-13	鉢	BH104/V	平縁か。平歯状文、内面平行波線、弧状波線文		Put905
115-14	鉢	BH104/V	平縁。ヘラ割目。平歯状文、縄文LR。炭化物付着	45-16	Put871
115-15	鉢	BH104/V	平縁。平歯状文。三叉文、縄文LR		Put872

第 16 表 遺物包含層出土土器属性表(5) I 区 IV 層

No	器種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
115-16	皿	BC105/IV	平縁・突起(三叉文の入る内外面対称の突起と面部押し小山形突起)。平行沈線文、十字沈線文の入る横状突起。1層部内面に盛りだし。平縁沈線	46-3	Pa8774
115-17	鉢	BH104/IV	平縁・ヘラ割目。平縁沈線文、縄文 LR		Pa8778
115-18	鉢	BH104付益/IV	平縁・ヘラ割目。ヘラ割目。平行沈線文(平縁状文)。縄文 LR。炭化物付着		Pa8787
115-19	鉢	BH104/IV	平縁状文。縄文 LR。炭化物付着		Pa8775
115-20	鉢	BH104/IV	平縁・二個一対の小突起。平縁状文、縄文 LR。炭化物付着。補修孔		Pa8887
115-21	浅鉢	BH104/IV	L径(15.2cm)。1層部平縁・二個一対の小突起。列点文A二段。平行沈線文。巻帯文(充填縄文)。三叉文。縄文 LR 直前段多葉。列点文A。平行沈線文。底部付益縄文 LR 直前段多葉。内面ミガキ		Pa8779
115-22	鉢	BH104/IV	平縁・ヘラ割目。平縁状文		Pa8786
115-23	鉢	BH104/IV	平縁・ヘラ割目。平縁状文、縄文 LR		Pa9011
115-24	甗	BH104/IV	平縁状文		Pa8809
115-25	鉢	BH105/IV	平縁・二個一対の小突起。平縁状文		Pa9034
115-26	鉢	BH104/IV	平縁・ヘラ割目。平縁状文、縄文 LR		Pa9002
115-27	注口土器	BH104/IV	平縁。平縁状文。乙字状文		Pa8873
115-28	甗 or 鉢	BH104/IV	雲形文(磨り消し縄文)。附加条縄文(非R形)。金雲形		Pa8622
115-29	浅鉢	BH105/IV	平縁・二個一対の小突起。平縁状文。平行沈線文・粘土粒散付		Pa9165
115-30	壺か	BH105/IV	平縁状文。格子状突起文		Pa9116
115-31	壺	BH105/IV	二個一対の小突起を繋ぐ浮線文。乙字状文。朱付着		Pa8111
115-32	浅鉢	BH104/IV	L径(15.2cm)。器高8cm。底径約6cm。平縁。1層部平縁状文。体部平縁状文・三叉文。体部下ミガキによる無文面。内面ミガキ。朱付着		Pa8880
115-33	鉢	BH104/IV	平縁・ヘラ割目。1層部平行沈線文・初め列。体部縄文 LR		Pa9805
115-34	鉢	BH104/IV	平縁・ヘラ割目。1層部の初めと一体化した平縁状文。縄文 LR		Pa9878
115-35	注口土器	BH104/IV	体部上半に平縁状文		Pa9900
115-36	小形壺か	BH104/IV	平縁。平行沈線文。ヘラ割目。附加条縄文(粘部部強調 LR-L)		Pa9771
115-37	鉢	BH104/IV	平縁。1層部から体部上半に平縁状文の变形。1層部は平縁。胴部上半は初めB。体部 LR 縄文		Pa9074
115-38	鉢	BH104/IV	平縁・突起か。平縁状文		Pa9067
115-39	鉢	BH105/IV	平縁。平縁状文。縄文形体不明		Pa1015
115-40	鉢	BH104/IV	小波状縁。平行沈線文。ヘラ割目		Pa1046
115-41	鉢	BK103/IV	平縁状文		Pa1145
115-42	鉢	BH105/IV	L径18.5cm。体部器大径19.1cm。1層部平縁・ヘラ割目。1層部初めと交互に入る加沈線文。平縁状文(体部上半に付着)。1層部。縄文 LR。1層部内部沈線1条。1層部内部ミガキ。体部下部。炭化物付着		Pa8918
115-43	注口土器か	BK104/IV	平縁状文		Pa1054
115-44	鉢	BH104/IV	平縁・ヘラ割目。平縁状文、縄文 LR。炭化物付着		Pa9922
115-45	浅鉢	BK104/IV	平縁。平縁状文。縄文 LR		Pa1061
115-46	鉢	BH104/IV	平縁・ヘラ割目。列点文。縄文 LR。炭化物付着		Pa9991
115-47	鉢	BK103付益/IV	平縁・ヘラ割目・突起。削れた平縁状文。縄文 LR		Pa1143
115-48	鉢	BH104/IV	平縁・割目・L1層部沈線。磨り消し縄文。沈線内に朱付着		Pa9886
115-49	深鉢	BD105/IV	平縁・ヘラ割目。初突割目。平行沈線文。縄文 LR		Pa275
115-50	鉢	BF102/IV	平縁・ヘラ割目。初突割目。平行沈線文。縄文 LR		Pa483
115-51	鉢	BF103/IV	平縁。平行沈線文。磨り消し縄文。縄文 LR		Pa522
115-52	鉢	BF104/IV	平縁・ヘラ割目。平行沈線文。縄文 LR		Pa564
115-53	深鉢	BF106/IV	小波状縁。三叉文		Pa632
115-54	鉢	BC105/IV	平縁・ヘラ割目・二個一対の突起。平行沈線文。縄文 LR		Pa201
115-55	深鉢	BC105/IV	平縁・ヘラ割目・二個一対の小突起。平行沈線文。縄文 LR		Pa776
115-56	深鉢	BF104/IV	平縁・ヘラ割目。平行沈線文。縄文 LR。炭化物付着		Pa553
115-57	鉢	BC104/IV	平縁・ヘラ割目。平行沈線文。初突割目。縄文 LR か		Pa703
115-58	鉢	BC105/IV	平縁・ヘラ割目。平行沈線文。縄文 LR 未成形強調		Pa784
115-59	小形浅鉢	BH105/IV	L径(8.8cm)。器高3.3cm。底径10.2cm。平縁。交互ヘラ割目による波状浮線文と列点文。平縁状文。底面縄文 LR。内面ミガキ		Pa920
116-1	鉢	BK104/IV	平縁・初め。平行沈線文。ヘラ割目。縄文 LR。炭化物付着		Pa1058
116-2	鉢	BK103付益/IV	平縁・初め列B。三叉文。平行沈線文		Pa1146
116-3	壺	BH105/IV	磨り消し縄文。縄文 LR。朱付着		Pa1018
116-4	皿	BA108/IV	平縁・平縁状浮線文。雲形文(磨り消し縄文)。縄文 LR。内面沈線		Pa188
116-5	浅鉢	BC105/IV	平縁。1層部平縁状の浮線文。雲形文(磨り消し縄文)。縄文 LR		Pa203
116-6	浅鉢	BE104/IV	平縁・平縁状浮線文。雲形文(磨り消し縄文)。内面沈線		Pa427
116-7	皿	BE105/IV	平縁・1層部沈線。雲形文(磨り消し縄文)。縄文 LR。内面底部付益に段		Pa477
116-8	注口土器	BE106/IV	平行沈線文。平縁状浮線文か。朱付着多		Pa467
116-9	浅鉢	BE107付益/IV	平縁・1層部平縁。雲形文(磨り消し縄文)。縄文 LR。1層部内面に盛りだし		Pa469
116-10	皿	BF102/IV	平縁・平縁状浮線文。雲形文。縄文 LR。1層部内面盛りだし		Pa485
116-11	浅鉢	BE103/IV	平縁・平縁状浮線文。雲形文(磨り消し縄文)。直前段多葉縄文 LR。内面沈線		Pa1404
116-12	浅鉢か	BF103/IV	雲形文(磨り消し縄文)。縄文 LR		Pa521
116-13	浅鉢	BF104/IV	平縁。平行沈線文。ヘラ割目。雲形文(磨り消し縄文)。縄文 LR		Pa556
116-14	皿	BF105/IV	平縁・平縁状浮線文。雲形文(磨り消し縄文)。縄文 LR		Pa583
116-15	浅鉢か	BH106/IV	雲形文(磨り消し縄文)。縄文 LR		Pa627
116-16	浅鉢	BC104/IV	雲形文(充填縄文)。縄文 LR		Pa707
116-17	鉢	BC105/IV	雲形文(磨り消し縄文)か。平行沈線文。ヘラ割目		Pa711
116-18	浅鉢	BC104/IV	平縁。平行沈線文。ヘラ割目。雲形文(充填縄文)。縄文 LR		Pa774
116-19	浅鉢 or 皿	BC104/IV	平縁か。雲形文(磨り消し縄文)。縄文 LR。1層部内面に初め列のある盛りだし		Pa716
116-20	注口土器	BC105/IV	筒部(ヘラ割目)。突起。沈線文。雲形文(磨り消し縄文)。縄文 LR		Pa145
116-21	浅鉢	BC105/IV	平縁・ヘラ割目・小突起・1層部沈線。雲形文(磨り消し縄文)。縄文 LR		Pa788
116-22	皿	BJ104/IV	平縁・山形小突起。雲形文(磨り消し縄文)。縄文 LR		Pa1060
116-23	皿	BH105/IV	小波状縁。1層部沈線。雲形文(磨り消し縄文)。縄文 LR。内面に縄文雲形		Pa1012
116-24	注口土器	BH105/IV	雲形文(磨り消し縄文)。胴体 LR か。朱付着		Pa1014
116-25	浅鉢	BH105/IV	平縁。1層部に X 字状の浮線文。体部雲形文(磨り消し縄文)。縄文 LR		Pa1017
116-26	注口土器	BC107付益/IV	平縁状浮線文		Pa256
116-27	甗 or 浅鉢	BC105/IV	平縁・波状浮線文。雲形文(磨り消し縄文)。縄文形体不明。1層部内面に盛りだし		Pa772
116-28	皿	BH104/IV	平縁・波状浮線文。雲形文(磨り消し縄文)。縄文形体不明。内面沈線2条		Pa1042
116-29	皿	BK103付益/IV	平縁・平縁状浮線文。雲形文(磨り消し縄文)。縄文形体不明		Pa1141
116-30	鉢	BC105/IV	平縁・平縁状浮線文。平内文。平行沈線文。雲形文(磨り消し縄文)。縄文 LR。赤黒漆塗り		Pa779
116-31	壺	BC105/IV	三叉文。朱付着多。赤色顔料分析		Pa788
116-32	鉢	BH104/IV	平縁・X字状浮線文。雲形文(磨り消し縄文)。縄文 LR。1層部内面盛りだし		Pa8777

第 17 表 遺物包含層出土土器属性表(6) I 区 IV層、III層

No	器種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
116-33	浅鉢	BH103/Ⅳ	平縁、へう割目、雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR		Pat853
116-34	浅鉢	BG105/Ⅳ	平縁、へう割目・1脚部沈線、雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR、朱塗り、赤色顔料分析		Pat789
116-35	盃 or 注口	BH103/Ⅳ	雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR		Pat854
116-36	鉢	BH104/Ⅳ	平縁、雲形文(磨り消し縄文)、縄文原形不明		Pat963
116-37	盃	BH104/Ⅳ	平縁、へう割目・平縁沈線、平行沈線、内面沈線		Pat900
116-38	皿	BH105/Ⅳ	平縁・1脚部沈線、雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR、内面沈線底部付近に段		Pat927
116-39	浅鉢	BH104/Ⅳ	雲形文(磨り消し縄文)、縄文L脚		Pat966
116-40	鉢	BH105/Ⅳ	平行沈線、へう割目、雲形文(磨り消し縄文)、縄文原形不明		Pat925
116-41	盃	BH105/Ⅳ	磨り消し縄文、原形不明		Pat1011
116-42	鉢	BF104/Ⅳ	平縁・へう割目、平行沈線文、引込縄文LR脚、炭化物付着	46-11	Pat430
116-43	鉢	BF102/Ⅳ	波状縁、1脚部沈線、雲形文(磨り消し縄文)、縄文L	46-9	Pat479
116-44	鉢	BF104/Ⅳ	平縁・山形突起、1脚部沈線、雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR、炭化物付着	46-10	Pat546
116-45	深鉢	BE103/Ⅳ	平縁・押目、平行沈線文、列点文、縄文原形不明		Pat1057
116-46	鉢	BH104/Ⅳ	平縁・へう割目、刺突列、縄文(結節部強調)		Pat1055
116-47	注口土器	BH105/BG105/Ⅳ	鉢蓋雲形文(磨り消し縄文)、屈曲部に施す波状沈線文、縄文帯、縄文体上RL、体下LR	46-18	Pat936
116-48	鉢	BF104/Ⅳ	平縁・へう割目、メガネ状浮文、雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR		Pat962
116-49	鉢	BF104/Ⅳ	平縁・へう割目・山形突起、平行沈線文、内面沈線		Pat563
116-50	盃	BF105/Ⅳ	平縁、縄文L		Pat581
116-51	深鉢	BF104/Ⅳ	平縁・へう割目、平行沈線文、へう割目、縄文RL		Pat522
116-52	鉢	BG104/Ⅳ	平縁・へう割目、平行沈線文、縄文RL、炭化物付着		Pat750
117-1	鉢	BG104/Ⅳ	平縁・1脚部沈線、割目、沈線、雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR、炭化物付着		Pat719
117-2	鉢	BH103/Ⅳ	平縁・へう割目、平行沈線文、へう割目		Pat851
117-3	深鉢	BH104/Ⅳ	平縁・へう割目、1脚部平行沈線文・彎曲状割目、縄文RL		Pat978
117-4	鉢	BH104/Ⅳ	平縁・1脚部へう割目・2個一対の突起、平行沈線、縄文LR		Pat977
117-5	鉢	BF104/Ⅳ	平縁、1脚部沈線、1脚部2個一対の突起、割部雲形文?		Pat964
117-6	鉢	BH104/Ⅳ	平縁・1脚部沈線、へう割目、平行沈線文、彎曲状割目、縄文RL		Pat1049
117-7	深鉢 or 鉢	BF104/Ⅳ	平縁・へう割目・1脚部沈線、平行沈線文、炭化物付着		Pat554
117-8	器種不明	BF103/Ⅳ	沈線、束付着		Pat527
117-9	盃	BF106/Ⅳ	平縁・へう割目、割み列、平行沈線文		Pat823
117-10	鉢か	BG104/Ⅳ	平行沈線文、底部上段沈		Pat704
117-11	鉢	BF104/Ⅳ	平縁、変形工字文の屈折、内面沈線	46-15	Pat429
117-12	深鉢	BH106/Ⅳ	平縁・山形突起、メ字文、内面沈線	46-14	Pat943
117-13	盃	BH104/Ⅳ	平行沈線文・2個一対の粘土粒を貼付したメ字文	46-16	Pat976
117-14	鉢	BF104/Ⅳ	太極形の斜行沈線(変形工字文の一部か)	46-17	Pat426
117-15	鉢	BE102/Ⅳ	口径(18.4cm)、平縁、平行沈線文、内外面ともミガキ		Pat393
117-16	深鉢	BG105/Ⅳ	平縁・割み列B、平行沈線文、引込縄文LR脚		Pat754
117-17	深鉢	BE101/Ⅳ	平縁、平行沈線文		Pat372
117-18	鉢	BF106/Ⅳ	平縁、平行沈線文		Pat626
117-19	盃 or 注口	BC106/Ⅳ	平縁か、帯状文		Pat206
117-20	盃か	BH104/Ⅳ	沈線文、縄文RL、束付着		Pat1041
117-21	鉢?	BH105/Ⅳ	沈線、縄文RL、刺突列		Pat1013
117-22	深鉢	BG105/Ⅳ	平縁、平行沈線文		Pat760
117-23	皿	BH105/Ⅳ	口径 13.2cm、器高 4.2cm、丸底、1脚部～体部内外面平直、底部付近内外面からいミガキ		Pat990
117-24	盃	BG104/Ⅳ	平行沈線文、引込縄文LR脚		Pat706
117-25	鉢	BG105/Ⅳ	平縁、刺突列、平行沈線文、山形沈線文		Pat761
117-26	鉢	BH104/Ⅳ	平縁、へう割目、平行沈線文、縄文RL、炭化物付着		Pat874
117-27	鉢	BH103/Ⅳ	平縁・へう割目、平行沈線文、引込縄文(LR・RL)、炭化物付着		Pat852
117-28	鉢	BH104/Ⅳ	平縁・へう割目、平行沈線文、縄文LR		Pat889
117-29	深鉢	BF104/Ⅳ	平縁・へう割目、沈線、条線文、炭化物付着	46-20	Pat551
117-30	深鉢	BH105/Ⅳ	胎面、帯状文、縄文LR		Pat980
117-31	鉢	BG104/Ⅳ	口径 25.0cm、器高 13.0cm、底径 9.6cm、縄文LR、底面付近～底面ミガキ、内面ミガキ	46-19	Pat725
117-32	深鉢	BG105/Ⅳ BH105/Ⅳ III	口径(29.8cm)、器高(32.0cm)、底径 8.2cm、1脚部平縁、引込縄文RL脚、内面ミガキ、底部ケズリ→ミガキ、炭化物付着	47-1	Pat794
117-33	深鉢	BE101/Ⅳ	平縁、無文(ミガキ)		Pat373
117-34	深鉢	BG105/Ⅳ	平縁、縄文LR		Pat758
118-1	深鉢	BF106/Ⅳ BF106/Ⅲ	口径 12.2cm、器高 12.0cm、底径(5.2cm)、平縁、引込縄文RL脚、内面ケズリ→1脚部ナデ、炭化物付着	46-23	Pat625
118-2	鉢	BG105/Ⅳ	平縁、無文		Pat752
118-3	深鉢	BE103/Ⅳ	平縁、無文		Pat411
118-4	鉢	BG105/Ⅳ	平縁、縄文LR		Pat743
118-5	深鉢	BG103/Ⅳ	口径(28.2cm)、縄文L		Pat696
118-6	深鉢	BH104/Ⅳ	縄文帯に段合標形足筒	46-22	Pat989
118-7	深鉢	BF103/Ⅳ BH104/Ⅳ BG103/Ⅳ BH105/Ⅳ	平縁、割目状態系文、縁線無	46-21	Pat529
118-8	深鉢	BG105/Ⅳ	無文		Pat755
118-9	深鉢	BE103/Ⅳ	平縁、縄文LR		Pat418
118-10	底部	BG105/Ⅳ	底径 7.4cm、体部と底部の間に横線、刺突列		Pat793
118-11	深鉢	BH103/Ⅳ	底部、無文、刺突列		Pat849
118-12	深鉢	BH105/Ⅳ	平縁、縄文LR(結節部強調)		Pat912
119-1	深鉢	AY108/Ⅲ	縁線帯入		Pat154
119-2	深鉢	BK103付着/Ⅲ	引込縁線文、縁線帯入		Pat1100
119-3	深鉢	AX108/Ⅲ	割目状態系文、縁線帯入		Pat140
119-4	深鉢	BF106付着/Ⅲ	帯状縁帯2個、縄文		Pat647
119-5	深鉢	BD107付着/Ⅲ	波状縁か、首孔、沈線文		Pat352
119-6	深鉢	BF106/Ⅲ	平縁か、幾何学文、縄文Lか、縁線有りか		Pat602
119-7	深鉢	BH103/Ⅲ	波状縁、1脚部肥厚、首孔		Pat814
119-8	深鉢	BH103/Ⅲ	平縁、1脚部肥厚、平行沈線文		Pat815
119-9	深鉢	AX108/Ⅲ	波状縁、平行沈線文、縄文LR、内面沈線		Pat139
119-10	盃	ED107/Ⅲ	区画線文、縄文LR	47-10	Pat316
119-11	盃	AY108/Ⅲ	体部最大径 10.6cm、底部 4.3cm、波状引込縄文帯区画文、縄文LR、底部からいミガキ、内面ナデ	47-2	Pat518
119-12	盃か	AZ108/Ⅲ	縄文帯区画文、縄文LR		Pat176

第18表 遺物包含層出土土器属性表(7) | 区 Ⅲ層

No	器種	遺構/層	特徴	写真掲載	登録
119-13	深鉢	AX108/Ⅲ	平縁、貼面、沈線文		Pat141
119-14	深鉢	Ⅲ	平縁、貼面、人形帯状文(纏帯状刻目)		Pat76
119-15	器種不明	AZ108/Ⅲ	平縁・刻みのある小突起、突起(穿孔、纏帯状刻目)	47-6	Pat172
119-16	深鉢	Ⅲ	底径(9.4cm)、帯状文(縄文)か、縄文LR、内面ナデ、炭化物付着	47-13	Pat77
119-17	深鉢	AY108/Ⅲ	平縁、帯状文(つや消し+短沈線)、貼面	47-5.7	Pat150
119-18	深鉢	AY108/Ⅲ	平縁、帯状文(纏帯状刻目)、貼面		Pat151
119-19	深鉢	AZ108/Ⅲ	貼面、帯状文(縄文)、縄文L		Pat178
119-20	深鉢	AZ108/Ⅲ	平縁か、平縁、帯状文(つや消し)		Pat179
119-21	壺か	BK105/Ⅲ	帯状文(纏帯状刻目)、貼面		Pat199
119-22	深鉢	AY108/Ⅲ	平縁、帯状文(沈線文)、貼面		Pat153
119-23	不明	BK107/Ⅲ	底部から山形突起、オガネ状浮文		Pat296
119-24	壺	BD104/Ⅲ	変形沈線文、貼面		Pat260
119-25	深鉢	BD105/Ⅲ	人形帯状文+貼面、磨り消し縄文、一部充填縄文、縄文LR		Pat265
119-26	器種不明	BK107/Ⅲ	平縁・内面に穿孔のある突起・底部刻み小突起、貼面を沈線で覆く	47-4	Pat227
119-27	土師製深鉢	BK107付添/Ⅲ	波状縁、波面部左右に突出する、弧状沈線文、貼面、動物痕跡か	47-3	Pat240
119-28	深鉢	BK107/Ⅲ	突起(刻みあり)、平行沈線文、貼面		Pat229
119-29	深鉢	BD105/Ⅲ	平縁・山形小突起、人形帯状文		Pat267
119-30	深鉢	BD105/Ⅲ	平縁・二個一対の突起、刺突列、人形帯状文(磨り消し縄文)、縄文LR		Pat269
119-31	深鉢	BD105/Ⅲ	平縁、貼面、帯状文、縄文LR		Pat270
119-32	壺か	BD105/Ⅲ	無文、つまみ状突起+穿孔		Pat273
119-33	深鉢	BD106/Ⅲ	波状縁、貼面、山形沈線文、縄文LR		Pat292
119-34	深鉢	BE104/Ⅲ	帯状文(つや消し)、貼面		Pat422
119-35	深鉢	BE102/Ⅲ	平縁、貼面、帯状文か(纏帯状刻目)		Pat381
119-36	注口土器	BD106/Ⅲ	注口部割断、帯状文(縄文)、貼面、縄文LR		Pat285
119-37	壺	BD106/Ⅲ	帯状文(短沈線文)、貼面		Pat286
120-1	注口土器	BD105/Ⅲ	帯状文(短沈線文)	47-19	Pat268
120-2	注口土器	BD106/Ⅲ	帯状文(短沈線文、纏帯状刻目)、貼面	47-18	Pat283
120-3	注口土器	BK107付添/Ⅲ	帯状文(短沈線文)アスファルト付着	47-8	Pat241
120-4	深鉢か	BD106/Ⅲ	突起(動物痕跡)、沈線文	47-20	Pat294
120-5	注口土器	BD106/Ⅲ	三つ叉か	47-21	Pat282
120-6	深鉢か	BK103付添/Ⅲ	突起、底部刻み、貼面	47-11	Pat1131
120-7	深鉢	BF102/Ⅲ	平縁、帯状文(縄文)、貼面、縄文LR(貫差R、周)		Pat472
120-8	深鉢	BK107付添/Ⅲ	貼面、帯状文(短沈線文)、格子状沈線文か		Pat354
120-9	壺	BD107付添/Ⅲ	貼面、帯状文(つや消し)		Pat355
120-10	深鉢	BE101/Ⅲ	帯状文(つや消し)、貼面		Pat370
120-11	深鉢	BE102/Ⅲ	平縁、貼面、平行沈線文、格子状沈線文、縄文LR	47-17	Pat379
120-12	深鉢	BE102/Ⅲ	貼面、人形帯状文(つや消し)		Pat385
120-13	深鉢	BE103/Ⅲ	貼面、帯状文(刺突刻目)		Pat397
120-14	深鉢	BE105/Ⅲ	波状縁、貼面、平行沈線文、帯状文、縄文		Pat439
120-15	深鉢	BF102/Ⅲ	平縁+突起(底部刻み、山形小突起)、沈線、透かし孔		Pat470
120-16	深鉢	BD107付添/Ⅲ	平縁+山形突起、貼面、平行沈線文、縄文LR		Pat360
120-17	壺	BE102/Ⅲ	貼面、沈線文		Pat387
120-18	深鉢	BF103/Ⅲ	平縁、帯状文(つや消し)、貼面		Pat512
120-19	壺	BK105/Ⅲ	帯状文(縄文)、貼面、縄文原体不明		Pat809
120-20	深鉢	BK103/Ⅲ	平縁、貼面、帯状文(つや消し)		Pat559
120-21	深鉢	BH103/Ⅲ	平縁、帯状文(つや消し)、貼面		Pat644
120-22	深鉢	BH104/Ⅲ	人形帯状文(つや消し)、貼面		Pat658
120-23	深鉢	BH104/Ⅲ	平縁・底部刻み山形小突起、帯状文(縄文)、縄文LR		Pat860
120-24	深鉢	BH103/Ⅲ	平行沈線、貼面、縄文LR		Pat820
120-25	深鉢	BF103/Ⅲ	貼面、人形帯状文(つや消し)		Pat519
120-26	深鉢	BE104/Ⅲ	波状縁+突起(刻み有り)、縦帯付帯、帯状文(縄文)か、縄文LR		Pat421
120-27	深鉢	BF102/Ⅲ	平縁・二個一対の突起、人形帯状文(刺突刻目)		Pat471
120-28	深鉢	BF103/Ⅲ	平縁・二個一対の突起(底部刻み)、貼面、縄文LR		Pat517
120-29	深鉢	BH104/Ⅲ	平縁、帯状文(縄文)、変帯、縄文LR		Pat864
120-30	深鉢	BK103/Ⅲ	縦帯付帯(刻み有り)、帯状文、貼面(刻み有り)、縄文LR		Pat657
120-31	深鉢	BF103/Ⅲ	格子状沈線文、貼面(刻み有り)	47-14	Pat514
120-32	深鉢	BK103/Ⅲ	平縁、帯状文(つや消し+刻み)		Pat658
120-33	深鉢	BK104/Ⅲ	平縁、刺突刻目、帯状文(縄文)、縄文LR		Pat728
120-34	深鉢	BK102/Ⅲ	平縁+突起、人形帯状文(縄文)、縄文LR		Pat651
120-35	深鉢	BK103/Ⅲ	人形帯状文(縄文)、貼面、縄文LR	47-16	Pat663
120-36	深鉢	BK103付添/Ⅲ	波状縁、波面部左右に垂し出し、沈線文、貼面、縄文原体不明	47-9	Pat1121
120-37	壺or注口	BH104BK103/Ⅲ	平行沈線文、羽状沈線文、細線線文、貼面(溝痕)	47-12.15	Pat1031
120-38	注口土器	BK103付添/Ⅲ	体部最大径(19.2cm)、大小の貼面、帯状文(つや消し)、瘤凹文、平凹文、注口部ナデ、内	47-22	Pat1132
120-39	深鉢	BD104付添/Ⅲ	帯状文(つや消し)、貼面		Pat996
120-40	深鉢	BH104/Ⅲ	平行沈線文、帯状文(刺突刻目)		Pat1032
120-41	深鉢	BK103付添/Ⅲ	帯状文(縄文)、貼面、縄文LR		Pat1127
120-42	深鉢	BH104付添/Ⅲ	平縁、帯状文(つや消し)、貼面		Pat995
120-43	深鉢	BK103付添/Ⅲ	波状縁、帯状文(縄文)、貼面、縄文LR		Pat1118
120-44	深鉢	BK103付添/Ⅲ	帯状文(つや消し+刺突刻目)		Pat1123
120-45	深鉢	BK103/Ⅲ	平縁、刺突刻目、帯状文(縄文)か、縄文(原体不明)		Pat198
120-46	深鉢	BD107区付添/Ⅲ	波状縁か、帯状文(刺突刻目)		Pat346
120-47	深鉢	BK107/Ⅲ	帯状文(刺突刻目)		Pat233
120-48	深鉢	BE105/Ⅲ	平縁+へら刻目、帯状文(刺突刻目)、縄文、縄文LR		Pat444
120-49	深鉢	BK103/Ⅲ	平縁・二個一対の小突起、平行沈線文、へら刻目、弧状沈線文、縄文(原体不明)		Pat637
120-50	深鉢	BK103/Ⅲ	帯状文(刺突刻目)		Pat537
120-51	深鉢	BK103/Ⅲ	帯状文(縄文、刺突刻目)、縄文L		Pat661
120-52	深鉢	BF102/Ⅲ	弧状沈線文、平行沈線文、円形刺突、刻目、炭化物付着		Pat474
120-53	深鉢	BF103/Ⅲ 跡102/Ⅳ	平縁+へら刻目、刺突刻目、沈線文、縄文LR		Pat503
120-54	深鉢	BF103/Ⅲ	人形帯状文(刺突刻目)		Pat516
120-55	深鉢	BE106/Ⅲ	平縁、へら刻目、人形帯状文(縄文)、縄文LR		Pat448

第 19 表 遺物包含層出土土器属性表 (8) | 区 III 層

No	器種	遺構/層	特徴	写真掲載	登録
121-1	深鉢 or 鉢	B1104/Ⅲ	平縁・朝日、帯状文(刺突朝日)		Pos1035
121-2	深鉢	BK103/Ⅲ	平縁・へう朝日、帯状文(刺突朝日)		Pos1079
121-3	深鉢	BK103付近/Ⅲ	平縁・朝日、平行沈線文、刺突朝日		Pos1105
121-4	深鉢	BK103付近/Ⅲ	人相帯状文(櫛歯状朝日)		Pos1119
121-5	深鉢	BG102/Ⅲ	平縁・山形小突起、帯状文(櫛歯状朝日)、縄文 L		Pos650
121-6	深鉢	BE102/Ⅲ	平縁・山形小突起、帯状文(櫛歯状朝日)		Pos376
121-7	深鉢	BE102/Ⅲ	肩部彫り山形突起、帯状文(櫛歯状朝日)		Pos382
121-8	深鉢	BG105/Ⅲ	平行沈線、扁平な胎面、帯状文(縄文)、縄文 LR		Pos798
121-9	深鉢	BG103/Ⅲ	平行沈線(刺突朝日)、弧状沈線文、縄文胎面不明		Pos799
121-10	深鉢	BD107付近/Ⅲ	平縁、帯状文(刺突朝日)、炭化物付着		Pos349
121-11	深鉢	BE101/Ⅲ	平縁、帯状文(刺突朝日)、縄文 LR、補修孔		Pos369
121-12	深鉢	BE102/Ⅲ	平縁、帯状文(櫛歯状朝日)		Pos380
121-13	深鉢	BD106/Ⅲ	帯状文(つゆ消し)		Pos278
121-14	壺	BD107付近/Ⅲ	帯状文(縄文)、縄文 LR		Pos347
121-15	深鉢	BE103/Ⅲ	帯状文(縄文)、縄文 LR、胎面剥離		Pos399
121-16	壺	BE102/Ⅲ	帯状文(縄文・二個一対の朝日)、縄文胎面不明		Pos384
121-17	壺	BH103/Ⅲ	横状突帯、沈線文、縄文胎面不明		Pos816
121-18	深鉢	BH103/Ⅲ	横状突帯、平行沈線文		Pos824
121-19	壺	BH103/Ⅲ	平縁、横状突帯、平行沈線文		Pos827
121-20	鉢	BG103/Ⅲ	ボタタキ胎付文、同心円文、縄文 LR		Pos652
121-21	深鉢	BE106/Ⅲ 跡106付近/Ⅲ Ⅲ A	口径 32.0cm、小波紋、人相部に穿孔のある人相帯状文(縄文)、メガネ状浮文、縄文 L、体部下半横線 1条、内面かみいミガネ	48-1	Pos464
121-22	深鉢	BF103/Ⅲ	胎面、人相帯状文(縄文)、縄文 LR		Pos518
121-23	深鉢	BE105/Ⅲ	帯状文(縄文)、縄文 LR		Pos393
121-24	深鉢	BG102BF102/Ⅲ	人相帯状文(櫛歯状朝日)		Pos498
121-25	深鉢	BF102/Ⅲ	人相帯状文(縄文)、縄文 LR		Pos473
121-26	深鉢	BF106/Ⅲ	波状縁、帯状文(縄文)、縄文 LR		Pos603
121-27	深鉢	BG104/Ⅲ	平縁、帯状文(縄文)、縄文 LR		Pos727
121-28	深鉢	BH103/Ⅲ	メガネ状浮文、人相帯状文(縄文)、縄文 LR		Pos817
121-29	深鉢	BH103/Ⅲ	小波紋縁、弧状沈線文、平行沈線文、縄文 LR		Pos823
121-30	壺か	BK103/Ⅲ	帯状文、縄文 LR		Pos1076
121-31	深鉢	BK103付近/Ⅲ	平縁・山形小突起、三文文、帯状文(櫛歯状朝日)		Pos1104
121-32	深鉢	B1103/Ⅲ	穿孔、人相帯状文、三文文、縄文 LR		Pos1024
121-33	壺	BH104/Ⅲ~Ⅳ	胎面径 13.0cm、底径 4.0cm、肩部に平行沈線文、胎面 3 単位(断面か)、内面ナデ	47-28	Pos960
121-34	壺	AY108/Ⅲ	口径 8.2cm、器高 10.1cm、体部最大径 10.2cm、底径 4.0m、上縁部平縁、平行沈線文、ミガネ、上縁部内面かみいミガネ、内面ナデ、朱付着	48-2	Pos156
121-35	壺	AY108/Ⅲ	口径 3.4 cm、器高 7cm、体部最大径 5.7cm、底径 2.6cm、体部下段から上縁部にかけて、外面および上縁部内面ミガネ、内面ナデ	47-27	Pos157
121-36	鉢	BK103付近/Ⅲ	平縁、平行沈線文、縄文 LR、炭化物付着		Pos1113
121-37	深鉢	BD104/Ⅲ	平縁、平行沈線文		Pos259
121-38	深鉢	BH105/Ⅲ	肩部にボタタキ突帯のある波状縁か、三文文、縄文 LR	47-23	Pos941
121-39	深鉢	BH104付近/Ⅲ	小波紋縁か、人相三文文か、縄文 LR		Pos994
121-40	深鉢	BK103/Ⅲ	平縁・肩部彫り山形突起、玉座き三文文、縄文 LR		Pos1127
121-41	深鉢	BK103付近/Ⅲ	平縁・二個一対の突起、人相帯状文(縄文)、縄文 LR		Pos1124
121-42	深鉢	BE102/Ⅲ	平縁・小波紋縁、人相帯状文(縄文)、縄文 LR		Pos377
121-43	深鉢	AZ108/Ⅲ	小波紋縁か、三文文、人相帯状文(縄文)、縄文 LR		Pos177
121-44	深鉢	BK103付近/Ⅲ	平縁、三文文、縄文 LR		Pos1102
121-45	浅鉢	BK103付近/Ⅲ	平縁、人相三文文、縄文胎面不明		Pos1111
121-46	壺	B1103/Ⅲ	三文文、人相帯状文(縄文)、胎面、縄文 LR		Pos1025
121-47	壺	AY108/Ⅲ	玉座き三文文、縄文 LR	47-26	Pos155
121-48	壺	BE103/Ⅲ	玉座き三文文、帯状文、縄文 LR	47-25	Pos396
121-49	壺	BD107付近/Ⅲ	魚眼状三文文、縄文 LR、補修孔	47-24	Pos361
121-50	鉢	BH103/Ⅲ~Ⅳ	小波紋縁、玉座き三文文、縄文 LR		Pos47
121-51	壺	BE103/Ⅲ	魚眼状三文文		Pos398
121-52	壺	BE103/Ⅲ	魚眼状三文文、縄文 LR		Pos400
121-53	深鉢	BE104/Ⅲ	小波紋縁、弧状沈線文、平行沈線文、縄文 LR		Pos424
122-1	浅鉢	BC106/Ⅲ	平縁、無文		Pos204
122-2	深鉢	BF105/Ⅲ	平縁、条線文、胎土長行多		Pos576
122-3	深鉢	BE103/Ⅲ	平縁、条線文		Pos394
122-4	深鉢	BD107付近/Ⅲ	平縁、条線文		Pos336
122-5	深鉢	BL102付近/Ⅲ	平縁、引状縄文(LR・R)		Pos1148
122-6	深鉢	BE106/Ⅲ	平縁、格子状沈線文	48-4	Pos460
122-7	深鉢	BE103/Ⅲ	波状条線文	48-6	Pos395
122-8	浅鉢 or 皿	BH103/Ⅲ	平縁、玉座き三文文		Pos825
122-9	鉢	BK103/Ⅲ	人相三文文、縄文 LR		Pos1080
122-10	器種不明	BH103/Ⅲ~Ⅳ	三文文		Pos848
122-11	深鉢	BK103付近/Ⅲ	平縁か、玉座き三文文		Pos1130
122-12	鉢	BK103付近/Ⅲ	平縁・山形突起、三文文、メガネ状突起を基調とした動物図形(ミミズクか)	48-3	Pos1133
122-13	深鉢	BE105/Ⅲ	平縁・突起、玉座き三文文		Pos443
122-14	浅鉢	B1104/Ⅲ	平縁、三文文		Pos154
122-15	深鉢	BH104付近/Ⅲ	平縁・朝日、人相三文文		Pos993
122-16	皿口	BC104/Ⅲ	三文文、滑面		Pos731
122-17	壺か	BE106/Ⅲ	円筒状三文文(磨り消し縄文)、縄文 LR	48-7	Pos451
122-18	鉢	BH103/Ⅲ	平縁・小突起、三文文、型形文(磨り消し縄文)、縄文 LR	49-11	Pos841
122-19	皿口土器	BD107/Ⅲ・I	口径(約8.0cm)体部最大径 24.5cm、器高 20.8cm、丸底、注口部剥離、小波紋縁、波状部に穿孔、横状突帯、波状短沈線、平行沈線文、魚眼状三文文、体部下半横線 1条、ミガネ、縄文 LR、内面ナデ	48-5	Pos366
122-20	鉢	BH103/Ⅲ~Ⅳ	平縁・朝日、弧状沈線文、人相三文文、縄文 L、炭化物		Pos845
122-21	壺	BH104/Ⅲ~Ⅳ	型形文か(磨り消し縄文)、胎面不明	48-8	Pos959
122-22	壺か	BC107/Ⅲ	人相三文文		Pos235
122-23	鉢	AZ108/Ⅲ	平縁・へう朝日、平歯状文、LR 縄文、炭化物付着	49-2	Pos175

第20表 遺物包含層出土土器属性表(9) | 区 Ⅲ層

No	器種	遺構/層	特徴	写真掲載	登録
122-24	鉢	BD106/Ⅲ	小波状縁。羊歯状文。		Pot287
122-25	注1土器	BD105/Ⅲ	羊歯状浮線文、黒赤漆		Pot272
122-26	鉢	BD107/Ⅲ、I	口径(17.2cm) 平縁。二個一対の小突起。突起裝飾と一体の羊歯状文、縄文LR結節部強調、内面ナデ、炭化物付着	48-9	Pot365
122-27	白付浅鉢	BD107付足/Ⅲ、I	口径 20.5cm、鉢縁部高7cm、体部最大径 15.4cm、上縁端部平縁・傾みのある小突起4個、フチ文13単位・列点充填、体部下羊歯文LR、上縁部内面突起を繋ぐ羊歯状浮線文、内面からいミガキ	48-10	Pot368
122-28	鉢	BE107/Ⅲ	平縁・へう割目。羊歯状文、縄文LR	49-6	Pot234
122-29	深鉢	BD107付足/Ⅲ	平縁・へう割目。羊歯状文		Pot351
122-30	鉢	BD107付足/Ⅲ	平縁・へう突起。羊歯状文、遺失物付着		Pot358
122-31	鉢	BD107付足/Ⅲ	平縁。羊歯状文、縄文LR		Pot362
122-32	鉢	BD107付足/Ⅲ	平縁・へう割目。平行沈線文、粘土粒附付。羊歯状文		Pot363
122-33	鉢	BE102/Ⅲ	小波状縁。羊歯状浮線文。平行沈線文、へう割目、縄文形体不明		Pot378
122-34	鉢	BE104/Ⅲ	平縁・へう割目・突起。縄文状刻目。三文文、平行沈線文、附加縄文LR-L		Pot425
122-35	鉢	BF104/Ⅲ	平縁・へう割目。列点文、縄文LR		Pot545
122-36	鉢	BE105/Ⅲ	平縁・へう割目。平行沈線文、へう割目。縄文L		Pot440
122-37	鉢	BG103/Ⅲ	平縁。羊歯状文	49-4	Pot638
122-38	皿	BE106/Ⅲ	平縁。口内側にへう割目。二個一対の突起。沈線文。		Pot458
122-39	鉢	BG103/Ⅲ	平縁。波状浮線文(交互刻み列)。羊歯状文。炭化物付着		Pot662
122-40	鉢	BG103/Ⅲ	平縁・小突起・へう割目。へう割目。縄文LR	49-3	Pot566
122-41	鉢	BG103/Ⅲ	平縁・へう割目。平行沈線文、へう割目。縄文LR	49-7	Pot664
122-42	鉢	I区BC103/Ⅲ、BG104/Ⅳ、BH103/Ⅳ、BH105/Ⅳ、Ⅱ区L/Ⅳ	平縁・へう割目。羊歯状文、縄文LR	49-9	Pot736
122-43	深鉢	BE103/Ⅲ	平縁・押目。羊歯状文		Pot660
122-44	鉢	BE103/Ⅲ	平縁・刻み列。羊歯状文、縄文L	49-5	Pot669
122-45	鉢	BE103/Ⅲ	小波状縁。羊歯状文二段。縄文LR	49-1	Pot654
122-46	鉢	BE103/Ⅲ	平縁・へう割目。羊歯状文、羽状縄文LR-L	49-10	Pot671
122-47	鉢	BE103/Ⅲ	小波状縁・L1側部沈線。平行沈線文、列点文、縄文LR、等孔。L1縁部内面波状浮線文	49-16	Pot677
122-48	鉢	BE104/Ⅲ	平縁・突起か。羊歯状文		Pot729
122-49	鉢	BH103/Ⅲ	平縁・へう割目。羊歯状文		Pot819
122-50	鉢	BH103/Ⅲ	平縁・へう割目。羊歯状文、縄文LR	49-14	Pot818
122-51	浅鉢	BH103/Ⅲ	平縁・へう割目。羊歯状文、縄文LR		Pot828
122-52	鉢	BH103/Ⅲ	平縁・押目。羊歯状文		Pot831
122-53	鉢	BH103/Ⅲ	平縁・二個一対の小突起。へう割目。平行沈線文、列点文、縄文LR、炭化物付着		Pot834
122-54	鉢	BH104/Ⅲ、BH103/Ⅳ	口径 18.5cm、高 13.8cm、底径 9.0cm、上縁端部平縁・へう割目。羊歯状文、縄文LR、L1縁部刻みに横線。底面付足→底面ミガキ。からいの浮記。内面からいミガキ	49-20	Pot850
122-55	鉢	BH104付足/Ⅲ	平縁・へう割目。平行沈線文、へう割目。縄文LR、炭化物付着		Pot998
122-56	鉢	BH103/Ⅲ	小波状縁(羊歯状の浮線文)。羊歯状文、体部LR縄文、炭化物付着	49-8	Pot1003
122-57	注1土器	BH103/Ⅲ	平行沈線文、へう割目。漆喰灰土浮線文		Pot836
122-58	鉢	BH103/Ⅲ	平縁・へう割目。羊歯状文、へう割目		Pot837
122-59	鉢	BC103/Ⅲ、BH105/Ⅳ	平縁・へう割目。羊歯状文二段、LR縄文、縄文L筋状の結節部強調	49-15	Pot924
122-60	浅鉢	BH104/Ⅲ	平縁・へう割目。平行沈線文、縄文状刻目。縄文形体不明。L1縁部内面張りだし、三文文、平行沈線文、縄文状刻目		Pot948
122-61	鉢	BE103/Ⅲ	小波状縁。平行沈線文。縄文状刻目		Pot1007
122-62	鉢	BE103/Ⅲ	平縁・へう割目。羊歯状文、縄文LR、炭化物付着	49-12	Pot1023
122-63	鉢	BK103/Ⅲ	平縁・へう割目。羊歯状文、縄文LR		Pot1075
122-64	鉢	BH103/Ⅲ	平縁・押目。平行沈線文、へう割目。縄文L、炭化物付着		Pot813
122-65	鉢	BD107付足/Ⅲ、I	口径 10.7cm、高 10.7cm、底径 4.7cm。平縁・へう割目。平行沈線文、羽状縄文LR-L、底面ミガキ。内面からいミガキ。炭化物付着	49-19	Pot345
122-66	鉢	BC107付足/Ⅲ、I	口径(12.0cm) 器高9.5cm、上縁端部平縁・へう割目。平行沈線、羽状縄文LR-L。内面ナデ、朱付着	49-18	Pot239
122-67	鉢	BE103/Ⅲ	平縁。羊歯状文		Pot1027
122-68	鉢	BE103/Ⅲ	平縁・へう割目。平行沈線文、へう割目。縄文LR。		Pot1029
122-69	鉢	BE103/Ⅲ	小波状縁・X字状縦線文・山形小突起・L1側部沈線。滑文文、縄文LR	49-13	Pot1000
122-70	鉢	BE103/Ⅲ	平縁。羊歯状文。平行沈線文・粘土粒附付		Pot1028
122-71	鉢	BE103/Ⅲ	平縁・へう割目。平行沈線文、羽状縄文、新突列。縄文L		Pot670
122-72	鉢 or 壺	BH103/Ⅲ	沈線文、漆塗り		Pot832
122-73	壺か	BE106/Ⅲ	沈線文		Pot462
122-74	壺	BE102/Ⅲ	雲形文(磨り消し縄文)、面周段多条縄文かLR		Pot386
122-75	鉢	BE103/Ⅲ	へう割目。磨り消し縄文、縄文LR		Pot401
122-76	鉢	BE103/Ⅲ	沈線文		Pot1078
122-77	鉢	BD107/Ⅲ	平縁・へう割目。二個一対の突起。雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR、炭化物付着。	49-17	Pot314
122-78	浅鉢	BE103/Ⅲ	平縁・羊歯状浮線文、沈線文、L1縁部刻みに張りだし		Pot666
122-79	浅鉢	BE103/Ⅲ	平縁・へう割目・二個一対の小突起。平行沈線文、内面沈線。朱付着		Pot668
122-80	注1土器か	BF106付足/Ⅲ	羊歯状文か		Pot644
122-81	注1土器	BE105/Ⅲ	へう割目。雲形文か。縄文LR		Pot445
122-82	浅鉢 or 皿	BF106付足/Ⅲ	平縁・二個一対の小突起。口内側三文文。平行沈線文、朱付着		Pot641
122-83	鉢	BE105/Ⅲ	平縁・へう割目。平行沈線文、縄文LR。内面沈線。炭化物付着		Pot804
122-84	鉢	BH103/Ⅲ	平縁。へう割目。平行沈線文、羽状縄文LR-L		Pot843
122-85	鉢	BE105/Ⅲ	平縁・二個一対の小突起。平行沈線文、へう割目。縄文LR		Pot805
122-86	鉢	BH103/Ⅲ	平縁・へう割目。平行沈線文、縄文LR。炭化物付着		Pot838
122-87	深鉢	BE104/Ⅲ	平縁・へう割目。平行沈線文、縄文LR		Pot1034
122-88	鉢	BK103付足/Ⅲ	平縁・へう割目。平行沈線文		Pot1112
122-89	鉢	BE103/Ⅲ	平縁・へう割目。平行沈線文、貫条縄文LR-L		Pot1026
122-90	深鉢	BE103/Ⅲ	平縁・へう割目。羊歯状文、縄文LR		Pot672
122-91	鉢	BE103/Ⅲ	平縁・へう割目。羊歯状文か。縄文LR。炭化物付着		Pot673
122-92	鉢	BE103/Ⅲ	平縁・へう割目。平行沈線文、羽状縄文LR-L。炭化物付着		Pot674
122-93	鉢	BE103/Ⅲ	平縁・へう割目。平行沈線文、縄文LR(未端部強調)		Pot675
122-94	鉢	BD107/Ⅲ	平縁・山形小突起・へう割目。平行沈線文、刻み列L。縄文LR		Pot310
122-95	深鉢	BE104/Ⅲ	平縁・へう割目。平行沈線文、縄文LR		Pot540
122-96	鉢	BH105/Ⅲ	平縁・へう割目。平行沈線文、縄文LR。炭化物付着		Pot937
122-97	鉢	AZ108/Ⅲ	雲形文(磨り消し縄文)、底面内面付足に縄文附着		Pot173
122-98	浅鉢か	BC106/Ⅲ	平縁。L1側部にX字状の浮線文。雲形文(磨り消し縄文)。縄文LRか		Pot205
122-99	浅鉢か	BC106/Ⅲ	平縁。二個一対の突起。雲形文(磨り消し縄文)。附加条縄文LR-L		Pot207

第 21 表 遺物包含層出土土器属性表 (10) | 区 Ⅲ層

No	器種	遺構/層	特徴	写真/図版	登録
123-54	壺か	BC106/Ⅲ	変形文(磨り消し縄文)。縄文LR		Pos208
123-55		BD104/Ⅲ	波状浮線文。変形文(磨り消し縄文)。縄文LR		Pos263
123-56	注口土器	BE104/Ⅲ	へう割目。平行波線文。縄文LR。底部下半～底ケズリ。丸底か。内面ナデ。	49-21	Pos635
124-1	深鉢	BH104/Ⅲ BC103/Ⅲ	L径15.0cm。器高20.0cm。底径5.5cm。平縁・へう割目。口内面波線。へう割目。口内面波線。波状浮線文。変形文(磨り消し縄文)。縄文LR。底部内面凸出する無文帯。底部ミガキ。内面ナデ。炭化物付着	49-22	Pos867
124-2		BG104/Ⅲ	L径25.0cm。器高6.6cm。底径12.2cm。L縁端部平縁・平縁状浮線文。変形文(磨り消し縄文)C字形ノドに丸底4単位。三叉状光填文。波状上の端に平行波線文。波状下ミガキ。口縁部底面に浅線1条。底部との間に輪筋。内面ミガキ。L縁端部に浅線残存。	49-23	Pos734
124-3	皿	BH103/Ⅲ 遺104/Ⅲ BC103/Ⅲ 遺104/Ⅲ Ⅱ 遺106/Ⅳ	L径30.0cm。器高5.3cm。底径17.8cm。平縁・L口内面波線。変形文(磨り消し縄文)フック(し)の字単位文・表状。C字状光填文。縄文LR。内面底部付近に段	49-24	Pos689
124-4	注口土器	BE104/Ⅲ	注口部浅凹肥田。口縁部輪筋に平縁状浮線文。体内下部に変形文(磨り消し縄文)C字形単位文。縄文LR。内面凸出する字	49-25	Pos950
124-5	注口土器	BH104/Ⅲ BC105/Ⅲ	L径。底径丸底。平縁状浮線文。変形文(磨り消し縄文)		Pos757
124-6	浅鉢	BD105/Ⅲ	変形文(磨り消し縄文)。縄文LR		Pos271
124-7	鉢	BD106/Ⅲ	変形文(磨り消し縄文)。縄文LR		Pos279
124-8	鉢	BD106/Ⅲ	変形文(磨り消し縄文)。縄文LR		Pos280
124-9	浅鉢	BD106/Ⅲ	平縁・波状浮線文。変形文。縄文LR		Pos288
124-10	鉢	BD104/Ⅲ	平縁。変形文(磨り消し縄文)。縄文LR	50-1	Pos261
124-11	鉢	BD106/Ⅲ	変形文(磨り消し縄文)。縄文LR	50-2	Pos290
124-12	浅鉢	BE104/Ⅲ	平縁・平縁状浮線文。変形文(磨り消し縄文)。縄文LR。朱付着		Pos423
124-13	皿か	BD107付添/Ⅲ	変形文(磨り消し縄文)。縄文形体不明		Pos350
124-14	壺	BD107付添/Ⅲ	変形文(磨り消し縄文)。縄文LR		Pos353
124-15	鉢	BD107付添/Ⅲ	平縁・平縁状浮線文。変形文(磨り消し縄文)。縄文LR	50-5	Pos357
124-16	皿	BE104/Ⅲ	変形文(磨り消し縄文)。縄文LR	50-4	Pos103
124-17	皿	BE105/Ⅲ	平縁・波状浮線文。変形文(磨り消し縄文)。縄文LR。口縁部内面凸出し。底部付近に段	50-3	Pos436
124-18	皿	BE105/Ⅲ	平縁・口内面波線。変形文。縄文LR。内面底部付近に段		Pos441
124-19	皿	BE106/Ⅲ	平縁・波状浮線文。変形文(磨り消し縄文)。縄文LR		Pos450
124-20	浅鉢	BE106/Ⅲ	平縁・波状浮線文。磨り消し縄文。形体不明		Pos453
124-21	皿	BE105/Ⅲ	平縁・波状浮線文。変形文(磨り消し縄文)。縄文LR。		Pos437
124-22	鉢	BE105/Ⅲ	変形文(磨り消し縄文)。縄文LR。		Pos438
124-23	皿	BE106/Ⅲ	平縁・波状浮線文・突起。変形文(磨り消し縄文)。縄文形体不明。内面波線1条		Pos454
124-24	注口土器	BE105/Ⅲ	平縁状浮線文。変形文。縄文		Pos446
124-25	浅鉢か	BE106/Ⅲ	変形文(磨り消し縄文)。形体LR。炭化物付着		Pos455
124-26	浅鉢	BE106/Ⅲ	変形文(磨り消し縄文)。形体LR。内面に準状文		Pos456
124-27	皿	BE106/Ⅲ	平縁・へう割目・突起・口内面波線。平行波線文。変形文(磨り消し縄文)。縄文LR		Pos459
124-28	壺or注口	BE106/Ⅲ	変形文(磨り消し縄文)。形体不明		Pos461
124-29	壺	BF104/Ⅲ	平縁・口内面波線。メガネ状浮文。内面波線		Pos538
124-30	鉢	BF104/Ⅲ	平縁・波状浮線文。へう割目。変形文(磨り消し縄文)。縄文LR		Pos539
124-31	浅鉢	BF104/Ⅲ	平縁・波状浮線文。へう割目。変形文(磨り消し縄文)か。縄文LR		Pos541
124-32	浅鉢	BF106/Ⅲ	平縁・平縁状浮線文。平行波線文		Pos600
124-33	浅鉢	BF106/Ⅲ	平縁・波状浮線文。変形文(磨り消し縄文)。縄文(RL)		Pos601
125-1	浅鉢	BF106付添/Ⅲ	平縁・へう割目。口内面波線。変形文(磨り消し縄文)。縄文LR		Pos642
125-2	浅鉢	BF106付添/Ⅲ	平縁。変形文(磨り消し縄文)。縄文LR		Pos643
125-3	鉢か	BG103/Ⅲ	変形文(磨り消し縄文)か。平行波線文。へう割目		Pos655
125-4	浅鉢	BG103/Ⅲ	変形文(磨り消し縄文)。縄文LR。底部内面付近に段		Pos665
125-5	浅鉢	BG103/Ⅲ	変形文(磨り消し縄文)。縄文LR		Pos667
125-6	皿	BC104/Ⅲ	平縁・波状浮線文・小突起。変形文(磨り消し縄文)。縄文LR。L縁部内面裏りだし		Pos733
125-7	皿	BC105/Ⅲ	平縁・波状浮線文。変形文(磨り消し縄文)。縄文LR。L縁部内面裏りだし		Pos800
125-8	浅鉢	BC105/Ⅲ	平縁・文字状浮線文・へう割目。変形文(磨り消し縄文)。縄文LR。内面波線	50-17	Pos802
125-9	皿	BC105/Ⅲ	変形文(磨り消し縄文)。縄文形体不明。底部内面付近に縄文隆帯		Pos803
125-10	皿	BC105/Ⅲ	平縁・部別割・口内面波線。変形文(磨り消し縄文)。縄文LR。内面波線。内面底部付近に波線		Pos806
125-11	浅鉢	BC105/Ⅲ	変形文(磨り消し縄文)。縄文LR		Pos807
125-12	皿	BH103/Ⅲ	変形文。縄文LR。内面に段		Pos821
125-13	浅鉢	BH103/Ⅲ	平縁・平縁状浮線文。変形文(磨り消し縄文)。縄文LR。内面波線	50-22	Pos835
125-14	壺or鉢	BH103/Ⅲ	変形文。縄文LR		Pos839
125-15	皿	BH104/Ⅲ	平縁・波状浮線文。変形文(磨り消し縄文)。縄文LR		Pos859
125-16	注口土器か	BH104/Ⅲ	へう割目のある隆帯。突起。変形文(磨り消し縄文)。縄文LR		Pos861
125-17	皿か	BH104/Ⅲ	変形文(磨り消し縄文)。縄文LR		Pos862
125-18	皿	BH104/Ⅲ	変形文(磨り消し縄文)。内面突起。縄文LR		Pos866
125-19	鉢	BH104/Ⅲ	変形文(磨り消し縄文)。縄文LRと形体不明1。炭化物付着		Pos863
125-20	皿	BH104/Ⅲ	変形文(磨り消し縄文)。縄文LR。LR。内面波線2条		Pos865
125-21	浅鉢	BH105/Ⅲ	平縁。へう割目。変形文(磨り消し縄文)。縄文形体不明	50-8	Pos388
125-22	鉢or浅鉢	BH105/Ⅲ	変形文(磨り消し縄文)。縄文LR		Pos399
125-23	浅鉢	BH104/Ⅲ	平行波線文。輪筋状割目。変形文(光填縄文)縄文RL	50-7	Pos951
125-24	浅鉢	BH105/Ⅲ	平縁・へう割目・口内面波線。変形文。縄文形体不明。口縁部内面に裏りだし		Pos940
125-25	浅鉢	BH103/Ⅲ	平縁。平行波線文。へう割目。変形文(磨り消し縄文)。縄文LR	50-9	Pos1042
125-26	壺	遺103/Ⅲ 遺104/Ⅲ	平縁。変形文(磨り消し縄文)。縄文LR		Pos1001
125-27	浅鉢	BE103/Ⅲ	平縁・平縁状浮線文。平行波線文		Pos1083
125-28	皿	BK103付添/Ⅲ	平縁・平縁状浮線文。変形文。縄文形体不明		Pos1129
125-29	鉢	BD107/Ⅲ	平縁。口内面波線。平行波線文。切み。変形文(磨り消し縄文)。縄文LR		Pos309
125-30	鉢	BD107/Ⅲ	平縁・へう割目。変形文。摩滅強	50-12	Pos312
125-31	鉢	BF106/Ⅲ	平縁・へう割目・口内面波線。へう割目。変形文(磨り消し縄文)。縄文LR	50-13	Pos944
125-32	皿	BJ104/Ⅲ	平縁・平縁状浮線文。変形文(磨り消し縄文)。縄文LR	50-6	Pos1038
125-33	鉢or注口	BD106/Ⅲ	平縁・へう割目・小突起・口内面波線。鉢巻状変形文(磨り消し縄文)。縄文LR。内面波線。	50-11	Pos293
125-34	壺	BG104/Ⅲ	平縁。無文		Pos737
125-35	鉢or注口	BH104/Ⅲ	鉢巻状変形文(磨り消し縄文)。縄文LR		Pos952
125-36	鉢	BH103/Ⅲ	平縁・口内面波線。二個一対の隆帯。変形文。縄文形体不明		Pos1005
125-37	注口土器か	BF106/Ⅲ	文字。変形文(磨り消し縄文)。輪筋状割目。縄文形体不明	50-10	Pos1008
125-38	鉢	BE105/Ⅲ	平行波線文。メガネ状浮文か		Pos1442
125-39	注口土器か	BF106/Ⅲ	メガネ状浮文。縄文LR	50-14	Pos1112
125-40	鉢	BH103/BG102/Ⅲ	平縁・山形突起・口内面波線。輪筋状割目。滑き状変形文(C字状文)。炭化物付着	50-15	Pos829
125-41	皿	BC105/Ⅲ	平縁・山形突起・二個一対の小突起・口内面波線。平行波線文。内面波線。山形突起部に三叉文。底部内面付近に縄文隆帯		Pos801

第22表 遺物包含層出土土器属性表(11) I区 III層

No	器種	遺跡/層	特徴	写真/図	登録
125-42	鉢	BD107 付添/Ⅲ	平縁・ヘラ割目。平行沈線文、ヘラ割目		Pot356
125-43	鉢	BD106/Ⅲ	平縁・山形小突起。二個一對の小突起。平行沈線文、纏面沈線文、纏面L.R.、炭化物付着	50-16	Pot291
125-44	浅鉢	BK103/Ⅲ	平縁・L字脚部沈線。変形文(磨り消し横文)。縄文L.R.、L字脚の内面張りだし		Pot1082
125-45	鉢	BH103/Ⅲ~Ⅳ	平縁・押目。平行沈線文、ヘラ割目		Pot846
125-46	鉢	BJ104/Ⅲ	小変縁。平行沈線文、ヘラ割目、縄文L.R.		Pot1033
125-47	鉢	BD104/Ⅲ	平縁・ヘラ割目。平行沈線文、縄文L.R.、炭化物付着		Pot264
126-1	鉢	BD104/Ⅲ BD105/Ⅲ	口径15.6cm、器高10.4cm、底径5.5cm。平縁・L字脚部沈線。ヘラ割目。平行沈線文、纏面沈線文、羽状割目、羽状縄文L.R.R.、底部からL字底。内面ナデ、炭化物付着	50-35	Pot262
126-2	鉢	BF106/Ⅲ	平縁・ヘラ割目。平行沈線文、纏面沈線文、纏面L.R.、炭化物付着		Pot596
126-3	鉢	BF106付添/Ⅲ	平縁・L字脚部沈線。ヘラ割目。平行沈線文、纏面沈線文、羽状割目、羽状縄文L.R.、附加条縄文L.R.		Pot640
126-4	鉢	BE104/Ⅲ	平縁・押目。平行沈線文、ヘラ割目		Pot730
126-5	鉢	BH104/Ⅲ	平縁・押目。平行沈線文、羽形列B、縄文L.R.		Pot953
126-6	鉢	BF104/Ⅲ	平縁・ヘラ割目。平行沈線文、縄文L.R.、炭化物付着		Pot544
126-7	鉢	BF106付添/Ⅲ	平縁・ヘラ割目。平行沈線文、内面沈線文、縄文L.R.、炭化物付着		Pot648
126-8	鉢	BF106付添/Ⅲ	平縁・ヘラ割目。平行沈線文、内面沈線文、縄文L.R.、炭化物付着		Pot636
126-9	深鉢	BG104/Ⅲ	平縁・突起・ヘラ割目。平行沈線文、羽状割目、羽状縄文L.R.R.		Pot736
126-10	注口土器か	BF106付添/Ⅲ	平縁・連続弧状沈線文。ヘラ割目。平行沈線文、内面沈線文		Pot645
126-11	鉢	BC107/Ⅲ	平縁・ヘラ割目。平行沈線文、ヘラ割目、羽状縄文L.R.R.		Pot225
126-12	鉢	BH103/Ⅲ	平行沈線文、押し曳き沈線文、縄文L.R.		Pot822
126-13	鉢	BD107/Ⅲ	平縁・ヘラ割目。内面沈線文、沈線、羽状縄文L.R.R.		Pot308
126-14	甕	BJ104/Ⅲ	平縁・L字脚部沈線。平行沈線文		Pot1036
126-15	甕	BD106/Ⅲ	平縁。平行沈線文		Pot284
126-16	鉢	BE106/Ⅲ	小変縁。平行沈線文、羽状縄文L.R.R.		Pot457
126-17	皿	BF107付添/Ⅲ	平縁・L字脚部沈線。平行沈線文、内面沈線文、底部付添に縄文隆帯。縄文L.R.、朱付着		Pot359
126-18	鉢	BF103/Ⅲ	平行沈線文、朱付着		Pot515
126-19	深鉢	BE104/Ⅲ	平縁・ヘラ割目。平行沈線文、羽状縄文L.R.R.、炭化物付着	50-33	Pot419
126-20	甕	BC105/Ⅲ	平縁。縄文底形不明		Pot810
126-21	甕	BD105/Ⅲ	L口径9.7cm。平縁。縄文L.R.		Pot266
126-22	甕	BD107/Ⅲ	平縁		Pot315
126-23	甕	BE106/Ⅲ	平縁		Pot452
126-24	甕	BC105/Ⅲ	平縁。平行沈線文、縄文L.R.		Pot808
126-25	甕	BD107付添/Ⅲ	体部最大径(11.8cm)。平行沈線文、内面ナデ、朱付着	50-34	Pot364
126-26	浅鉢	BH104/Ⅲ	L口径(20.6cm)。L字脚部平縁。α文字8単位。縄文L.R.、L字脚部内面沈線。内面、朱付着	50-20	Pot949
126-27	鉢	BH103/Ⅲ	平縁。α文字。内面沈線		Pot842
126-28	浅鉢	BH103/Ⅲ	平縁。平行沈線文、二個一對の粘土粒貼付文(α文字文)、押し曳き沈線文	50-21	Pot830
126-29	鉢か	BK103付添/Ⅲ	平縁。平行沈線文、内面沈線文、縄文底形不明、朱付着、炭化物付着		Pot1109
126-30	内脚鉢脚部	BF105/Ⅲ	平行沈線文	50-26	Pot575
126-31	浅鉢	BK103付添/Ⅲ	平行沈線文、縄文L.R.、朱付着	50-18	Pot1126
126-32	鉢	BG106/Ⅲ	平縁。変形L字文の彫形。内面沈線	50-23	Pot812
126-33	甕	BF106付添/Ⅲ	流線L字文	50-25	Pot646
126-34	甕	AY108/Ⅲ	L字文、新突列	50-24	Pot152
126-35	台部	BH103/Ⅲ	平行沈線文		Pot826
126-36	浅鉢	BF106/Ⅲ	α文字		Pot613
126-37	皿 or 鉢	BJ104/Ⅲ	平行沈線文		Pot1030
126-38	浅鉢 or 鉢	BF106付添/Ⅲ	平縁・L字脚部沈線。平行沈線文、纏面沈線文、纏面L.R.、L字脚の内面張りだし	50-28	Pot639
126-39	皿	BC104/Ⅲ	平縁・L字脚部沈線。平行沈線文、L字脚の内面張りだし		Pot732
126-40	高坏か	BF106/Ⅲ	変形(大型のホタテ粘り付付き有り)。L字脚部沈線。内面沈線。	50-27	Pot611
126-41	浅鉢	BE104/Ⅲ	変形文、縄文L.R.、炭化物付着	50-29	Pot420
127-1	甕	BF103/Ⅲ	L口径(10.8cm)。平縁。L字脚部内外面ミガキ。頸部列点文。体部縄文L	50-30	Pot520
127-2	甕	BE102/Ⅲ	頸部隆帯・列点文	50-32	Pot383
127-3	甕	BC105/Ⅲ	同心円文	50-31	Pot797
127-4	鉢か	BC107/Ⅲ	帯状文(光焼縄文)か。附加条縄文L.R.L		Pot231
127-5	浅鉢	BH104付添/Ⅲ	平縁。区画沈線文、縄文L.R.		Pot997
127-6	甕 or 注口	BF103/Ⅲ	平縁。平行沈線文、列点文		Pot513
127-7	深鉢 or 鉢	BJ104/Ⅲ	瘤状突起。縄文(原形不明)		Pot1039
127-8	皿 or 浅鉢	BK103付添/Ⅲ	平縁。平行沈線文		Pot1116
127-9	深鉢	BK103付添/Ⅲ	平縁。沈線。縄文底形不明		Pot1125
127-10	深鉢	BL102付添/Ⅲ	平縁。沈線文、縄文L.R.		Pot1149
127-11	甕	BE101/Ⅲ	平縁。無文。胎土に長石多		Pot371
127-12	浅鉢 or 皿	BF106付添/Ⅲ	平縁・L字脚部沈線。平行沈線文		Pot639
127-13	鉢か	BC104/Ⅲ	底部に椅子状の不明土着		Pot735
127-14	甕	BE105/Ⅲ	L口径(8.1cm)。平縁。		Pot811
127-15	甕	BH104/Ⅲ	L口径(7.8cm)。平縁。縄文L.R.		Pot955
127-16	甕	B=BC付添/Ⅲ	L口径9.0cm。平縁。縄文L.R.、内面ナデ	51-1	Pot258
127-17	鉢	BC103/Ⅲ	平縁。縄文L.R.		Pot675
127-18	深鉢	BH104/Ⅲ~Ⅳ	平縁。縄文L.R.		Pot958
127-19	鉢	AY108/Ⅲ	L口径17.0cm、器高13.8cm、底径4.8cm。平縁。縄文L字結束部強調。底面無調整。内面からいミガキ。炭化物付着	51-2	Pot159
127-20	深鉢	BC107/Ⅲ	L口径22.4cm、器高26.5cm、底径7.5cm。L字脚部平縁。縄文L.R.、L字脚部強調。内面ナデ、挿し孔	50-36	Pot236
127-21	深鉢	BL102付添/Ⅲ	平縁。無文。炭化物付着	51-4	Pot1147
127-22	深鉢	BD107付添/Ⅲ	底径8.4cm。縄文L.R.、底面からいミガキ。内面ナデ。炭化物付着		Pot367
127-23	鉢	BE106/Ⅲ	底径5.0cm。縄文L.R.、からい上げ底。内面からいミガキ。炭化物付着		Pot463
127-24	深鉢	BH104/Ⅲ BF104/Ⅲ N、BC104/Ⅲ BC105/Ⅲ Ⅳ、BH104/Ⅲ、Ⅳ	平縁。羽状縄文L.R.L.R.		Pot566
128-1	深鉢	BE106、BD106/Ⅲ	平縁。縄文L.R.、炭化物付着		Pot466
128-2	深鉢	BE105/Ⅲ	平縁。縄文L.		Pot434
128-3	深鉢	BH104/Ⅲ BC105/Ⅲ、BJ104/Ⅲ、BH104/Ⅲ	平縁。羽状縄文L.R.R.L.、L字脚部強調	51-3	Pot795
128-4	深鉢	BH105/Ⅲ	L口径30.2cm。L字脚部平縁。羽状縄文L.R.L.R.、内面ナデ。炭化物付着	51-6	Pot942
128-5	底部	BH104付添/Ⅲ	底部副代痕		Pot999
128-6	底部	BF102/Ⅲ	底部副代痕		Pot475
128-7	底部	BE103/Ⅲ	底部副代痕		Pot402

第23表 遺物包含層出土土器属性表(12) I区 III層、II層、I層ほか

No	器種	遺構/層	特徴	写真掲載	登録
128-8	深鉢	BE103/Ⅲ	底形銅代直		Pat833
128-9	深鉢	BE103/Ⅲ	底形銅代直+粘土粘り足し、無文		Pat1006
128-10	深鉢	BC107/Ⅲ	底形木葉形、銅代直		Pat232
129-1	深鉢	BC107付近/Ⅳ	口径28.2cm、平縁、かるいミガキ、内面ナデ		Pat257
129-2	深鉢	BE106/Ⅲ	平縁、引伏線文、縄文LR.LR	5-1	Pat465
129-3	深鉢	BE105/Ⅲ	口径15.0cm、器高18.4cm、底径5.1cm、平縁、引伏線文LR.RL、内面ナデ、炭化物付着	51-7	Pat435
129-4	深鉢	BD107付近/Ⅲ	平縁、縄文LR、炭化物付着		Pat348
129-5	深鉢	BE107付近/Ⅲ	底形銅代直		Pat238
129-6	底形	BE104/Ⅲ	深鉢、底形95孔		Pat595
129-7	深鉢	BF106/Ⅲ	赤粘土引伏線文LR、RL、炭化物付着		Pat595
129-8	深鉢	BE103/Ⅲ	平縁、帯状文(縄文)+粘瘤、縄文LR		Pat1155
129-9	深鉢	BE103/Ⅲ	高伏縁、粘瘤、割突削目、沈線		Pat1156
129-10	深鉢	BE103/Ⅲ	平縁、帯状文(割突削目)+粘瘤		Pat1158
129-11	深鉢	BE103/Ⅲ	平縁、帯状文(縄文粘削目)		Pat1160
129-12	深鉢	BE103/Ⅲ	沈線文		Pat1154
129-13	鉢	BE103/Ⅲ	平縁+ヘラ削目、雲南状文、縄文LR		Pat1161
129-14	浅鉢	BE103/Ⅲ	平縁+ヘラ削目、雲南文か、縄文LR		Pat1157
129-15	深鉢	X	平縁、平行沈線部+環状刻突列、横線段入	52-2	Pat92
129-16	深鉢	I	沈線文、原体不明		Pat13
129-17	深鉢	BC107/Ⅰ	粘土状文か、縄文LR		Pat223
129-18	深鉢	X	帯状文(縄文)、縄文LR		Pat91
129-19	台付壺か	BA108付近/Ⅰ	口径径26.2cm、縄文帯区画文、直前段条線文LR、台部ミガキ、内面ナデ	52-7	Pat184
129-20	台部	BA108付近/Ⅰ	底面に木葉形	52-6	Pat183
129-21	浅鉢	I	平縁、扇状沈線文、縄文LR	52-3	Pat46
129-22	皿口器か	I	沈線文、扇状粘削目、引伏線文LR.RL		Pat20
129-23	皿口器	I	引伏沈線文		Pat41
129-24	皿口器	I	アスファルト付着	52-8	Pat31
129-25	皿口器	I	帯状文、粘瘤	52-5	Pat61
129-26	皿口器	I	無文	52-9	Pat75
129-27	鉢	I	帯状文(扇状粘削目)、粘瘤、縄文LR		Pat6
129-28	深鉢	I	帯状文、粘瘤、縄文LR、炭化物付着		Pat12
129-29	深鉢	I	帯状文(ヘラ削目)、粘瘤	52-10	Pat64
129-30	深鉢	I	人組帯状文、粘瘤、縄文LR		Pat18
129-31	壺	I	帯状文(扇状粘削目)、粘瘤		Pat8
129-32	深鉢	I	帯状文		Pat11
129-33	深鉢	I	平縁+山形突起、沈線文、扇状粘削目		Pat11
130-1	深鉢	BE104/Ⅲ/風例	口径27.5cm、器高39.2cm、底径9.5cm、平縁、横線1条、凸レンズ状集合沈線文、ケズリミガキ、内面かるいミガキ	52-11	Pat1980
130-2	鉢	I	平縁+突起、帯状文(ヘラ削目)、粘瘤		Pat25
130-3	壺	I	平縁+突起(削目)、通し孔、平行する隆帯、縄文LR		Pat52
130-4	壺	X	人組帯状文(縄文)、粘瘤、縄文LR		Pat95
130-5	深鉢	X	帯状文(縄文)、扇状隆帯(削目有り)、縄文LR		Pat90
130-6	壺か	I	帯状文(ヘラ削目)、粘瘤(削目有り)		Pat66
130-7	深鉢	AS108/Ⅰ	帯状文(条線文)、粘瘤		Pat129
130-8	深鉢	BD106/X	平縁、帯状文(縄文)、粘瘤、縄文LR		Pat302
130-9	深鉢	BD105/X	平縁、帯状文(ヘラ削目)、粘瘤		Pat276
130-10	深鉢	BD107付近/Ⅰ	粘瘤、帯状文(縄文)、縄文LR		Pat357
130-11	深鉢	I	帯状文(ヘラ削目)、粘瘤	52-14	Pat47
130-12	深鉢	BE105/確認面	平縁、平行沈線文、粘瘤、流水状の条線文		Pat1304
130-13	壺	確認面	帯状文(削目有り)、縄文LR		Pat116
130-14	深鉢	確認面	平縁、粘瘤、人組帯状文(ヘラ削目)、炭化物付着	52-12.13	Pat111
130-15	深鉢	確認面	帯状文(扇状粘削目)、二個一対の削目、人組帯状文、粘瘤(玉状、削目有り)、縄文LR、炭化物付着	52-15.16	Pat112
130-16	深鉢	BE106/Ⅰ	平縁、帯状文(加沈線)、粘瘤		Pat592
130-17	壺	BD106/X	帯状文(ヘラ削目)+短沈線、粘瘤		Pat304
130-18	壺or注口	BD105/X	粘瘤、帯状文(沈線文)、扇状縦線文、内面ナデ	52-17	Pat277
130-19	深鉢	BC107/Ⅰ	平縁+山形突起、人組帯状文(縄文)、粘瘤、縄文LR		Pat219
130-20	深鉢	BD107付近/Ⅰ	粘瘤、帯状文(縄文)、縄文原体不明		Pat340
130-21	壺	BE104/Ⅰ	粘瘤、帯状文(縄文)、扇状沈線文、縄文LR		Pat106
130-22	深鉢	BE104/風例	平縁、粘瘤、帯状文(加沈線)か、		Pat1995
130-23	深鉢	I	帯状文(加沈線)、粘瘤、矢形短沈線文		Pat16
130-24	深鉢	BF106/Ⅰ	高伏縁、帯状文(縄文)、粘瘤、縄文LR		Pat587
130-25	深鉢	BD107付近/Ⅰ	平行沈線文、粘瘤、帯状文(割突削目)		Pat344
130-26	深鉢	BD107付近/Ⅰ	平縁、帯状文(割突削目)、縄文LR、内面ヘラ削目		Pat343
131-27	深鉢	I	平縁、帯状文(割突削目)		Pat63
130-28	壺	BE104/風例	帯状文(割突削目)、粘瘤		Pat1996
130-29	鉢か	X	平縁+環状突起、帯状文(加沈線)、粘瘤		Pat105
130-30	深鉢	I	人組帯状文(二個一対の削目、割突削目)		Pat65
130-31	深鉢	I	平縁、帯状文(割突削目)、扇状縦状割突削目	53-1	Pat49
130-32	深鉢	BC106/X	帯状文(割突削目)		Pat216
131-1	鉢	X	平縁+二個一対の山形突起(扇状削目)、二個一対の削目、粘瘤、帯状文(割突削目)、縄文LR	53-2	Pat107
131-2	壺	I	帯状文、二個一対の削目、縄文LR		Pat132
131-3	鉢	X	人組帯状文(割突削目)		Pat97
131-4	浅鉢	I	平縁、帯状文(縄文)、縄文しか		Pat70
131-5	深鉢	I	平縁、帯状文(割突削目)		Pat1071
131-6	壺か	X	削目文		Pat215
131-7	鉢	I	平縁+突起、玉座き三叉文、縄文LR、内面沈線、集付着		Pat60
131-8	鉢	I	人組帯状文(縄文)、凹文、縄文LR		Pat67
131-9	台部	I	流状縁(扇状削目)、帯状文(縄文)、縄文LR、炭化物付着		Pat56
131-10	浅鉢	I	人組帯状文(縄文)、三叉文、縄文LR		Pat42
131-11	深鉢	I	平縁+突起(扇状中央突起)、十字沈線文、人組帯状文(扇状粘削目)	53-3	Pat591
131-12	深鉢	I	流状縁(扇状突起)、三叉文、扇状沈線文、縄文LR		Pat40
131-13	深鉢	BE105/確認面	平縁、三叉文、扇状文、縄文LR		Pat1210

第 24 表 遺物包含層出土土器属性表 (13) | 区 | 層ほか

No	器種	遺積/層	特徴	写真/図版	登録
131-14	深鉢	BK103付近 / 1	成状様、帯状文(縄文)、縄文LR、補修孔		Pat1085
131-15	深鉢	BD107付近 / 1	人形帯状文(縄文)、縄文LR		Pat342
131-16	深鉢	BK103付近 / 1	平縁・突起(面取型)、渦巻文、縄文LR		Pat1084
131-17	皿	BD107付近 / 1	L口径(23.2cm)、平縁・切みのある二個一対の小突起・小突起、平行沈線文、切みのある突起、体部下平ミガキ、内面ミガキ、未付着	53-6	Pat332
131-18	深鉢	X	平縁、三文文、人形帯状文(縄文)、縄文LR		Pat1044
131-19	皿	X	土物基三文文、渦巻沈線文、縄文LR		Pat96
131-20	深鉢	BK・BL104 / 1	平縁・三文文か、縄文LR		Pat1065
131-21	深鉢	BK104.BG105/X	小波状縁か、帯状文、帯状文(縄文)、縄文LR		Pat739
131-22	深鉢	1	魚彫状三文文、縄文LR		Pat27
131-23	深鉢	X	小波状縁、魚彫状三文文、縄文LR		Pat98
131-24	壺	BM・BL103 / 1	メガネ状浮文		Pat1168
131-25	深鉢	確認	小波状縁、人形三文文、縄文LR、炭化物付着		Pat115
131-26	鉢	BD107付近	平縁・小突起、人形三文文、縄文LR		Pat331
131-27	深鉢	BC107 / 1	平縁・山形小突起、人形三文文、縄文LR、炭化物付着	53-4	Pat220
131-28	壺 or 注口	1	平縁、三文文		Pat28
131-29	注口土器	X	口文、三文文か		Pat108
131-30	香炉	表土	魚彫状三文文の透かし、縄文LR	53-5	Pat2
131-31	皿	1	平縁、平行沈線文		Pat7
131-32	器種不明	BD106/X	帯形文か		Pat306
131-33	注口土器	BK・BL104 / 1	平縁浮線文		Pat1063
131-34	浅鉢	BK・BL104 / 1	平縁・平縁浮線文、平行沈線文、内面沈線		Pat1066
131-35	注口土器	X	無文		Pat100
131-36	深鉢	表土	平縁・へう割目、平縁状文、縄文LR、炭化物付着		Pat1
131-37	浅鉢	1	平縁・へう割目、平行沈線文、平縁状の列点文、縄文LR、炭化物付着		Pat4
131-38	鉢	1	平縁、平行沈線文、平縁状の切み列		Pat15
131-39	浅鉢 or 注口	1	平縁状文、Z字状文		Pat22
131-40	鉢	1	平縁・切み列B、平縁状文、縄文LR	53-8	Pat45
131-41	浅鉢	1	平縁・突起、平縁状の列点文、帯形文(磨り消し縄文)、縄文LR	53-14	Pat51
131-42	鉢	1	平縁・切み列B、列点文、縄文LR		Pat36
131-43	鉢	1	平縁、列点文、平縁状文、縄文印体不明、炭化物付着	53-13	Pat62
131-44	鉢	1	平縁・波状縁文、平縁状文、縄文印体不明、炭化物付着		Pat54
131-45	鉢	1	L口径(14.4cm)、L縁部平縁・へう割目、U字状浮文、平縁状文、列点文、縄文LR、内面ミガキ、炭化物付着	53-15	Pat58
131-46	浅鉢	1	平縁、列点文、帯形文(磨り消し縄文)、縄文LR、内面沈線、未付着		Pat58
131-47	浅鉢	1	平縁、列点文、帯形文(磨り消し縄文)、縄文LR、未付着		Pat59
131-48	注口土器	X	列点文、縄文LR		Pat93
131-49	注口土器か	X	平縁状文、Z字状文		Pat99
131-50	鉢	BK	平縁・へう割目、縄文LR、平縁状文		Pat106
131-51	鉢	BA108/X	平縁・へう割目、帯状縁文、平縁状文、炭化物付着		Pat182
131-52	鉢	BD105/確認	平行沈線文、列点文、縄文LR		Pat1343
131-53	鉢	BK103付近 / 1	平縁・へう割目、平縁状文、縄文LR、炭化物付着		Pat1086
131-54	鉢	BF104 カクラン	L口径12.6cm、器高16.0cm、底径5.0cm、平縁・へう割目・二個一対の小突起、平縁状文、縄文LR、底面から付着むか、内面から付着するミガキ、炭化物付着	53-9	Pat574
131-55	浅鉢か	BK103 / 1	平縁・へう割目、平縁状文		Pat1074
131-56	鉢 or 注口	BF106/確認	平縁・へう割目、帯状縁文、刺突列		Pat634
131-57	鉢	BF106 / 1	平縁・へう割目、平縁状文、縄文LR		Pat593
131-58	鉢	BB107/X	平縁・平縁浮線文、平縁状文、縄文印体不明		Pat187
131-59	鉢	1	L口径(20.8cm)、L縁部平縁・へう割目、連続沈線文、平縁状文、人形文、縄文LR、内面ミガキ、炭化物付着	53-10	Pat74
131-60	鉢	1	L口径(14.4cm)、L縁部平縁・切み列B、U字状浮文、平縁状文、縄文LR、内面ミガキ、炭化物付着	53-11	Pat72
132-1	深鉢	BH104 / 1, 2	平縁・へう割目、平縁状文、縄文LR	53-12	Pat857
132-2	鉢	BD107付近 / 1	L口径(17.5cm)、器高13.0cm、底径5.8cm、L縁部平縁・へう割目、U字状浮文(帯状縁状知沈線文)、平縁状文、羽状縄文LR、底部付着ミガキによる無文帯、底部ミガキ、内面ミガキ、炭化物付着	53-17	Pat333
132-3	鉢	1	L口径(20.8cm)、器高12.2cm、底径6.3cm、L縁部平縁・へう割目、U字状浮文(帯状縁状知沈線文)、平縁状文、羽状縄文LR、底部付着ミガキによる無文帯、かるい上げ紙、内面ミガキ、炭化物付着	53-18	Pat73
132-4	鉢	BC107付近 / 1	平縁・L19部交互刺突列、平縁状文		Pat251
132-5	注口土器	BK・BL104 / 1	魚彫状三文文	53-7	Pat1070
132-6	壺	BK・BL104 / 1	人形三文文		Pat1067
132-7	壺 or 注口	1	平縁状文		Pat30
132-8	注口土器	1	三文文		Pat14
132-9	注口土器	1	平縁浮線文、三文文、縄文印体不明		Pat21
132-10	台座	1	底部、平行沈線		Pat53
132-11	浅鉢か	1	平縁か、帯形文(磨り消し縄文)、縄文LR、炭化物付着		Pat5
132-12	浅鉢か	1	帯形文(磨り消し縄文)、縄文LR、未付着		Pat17
132-13	鉢	BD107付近 / 1	羽状縄文LR、底部付着ミガキによる無文帯、かるい上げ紙、内面ミガキ、炭化物付着		Pat330
132-14	皿か	1	帯形文(磨り消し縄文)、縄文LR、黒縁準り		Pat32
132-15	皿か	1	帯形文(磨り消し縄文)、縄文LR		Pat19
132-16	皿	1	平縁・平縁状の浮線文、帯形文(磨り消し縄文)、縄文LR、内面沈線		Pat3
132-17	皿	1	帯形文(磨り消し縄文)、縄文LR		Pat69
132-18	皿	1	平縁・平縁浮線文、帯形文(磨り消し縄文)、縄文LR、内面沈線、炭化物付着	53-6	Pat24
132-19	皿	1	平縁・突起、帯形文(磨り消し縄文)、縄文LR		Pat44
132-20	皿	BD106/X	平縁・平縁浮線文、帯形文(磨り消し縄文)、縄文LR、L縁部内面に準りだし		Pat305
132-21	皿	X	平縁・突起、波状縁文、帯形文(磨り消し縄文)、縄文LR、内面に隆部		Pat89
132-22	浅鉢	X	平縁・波状縁文、帯形文(磨り消し縄文)、縄文LR		Pat101
132-23	皿 or 浅鉢	BD107付近 / 1	帯形文(磨り消し縄文)、縄文LR		Pat339
132-24	壺	1	帯形文		Pat23
132-25	浅鉢	BC106/X	帯形文(磨り消し縄文)、縄文LR		Pat217
132-26	皿	BK106/X	平縁、二個一対の突起、L19部沈線、帯形文(磨り消し縄文)、縄文LR		Pat218
132-27	浅鉢	AS108付近 / 1	平縁、平行沈線文、へう割目、帯形文(磨り消し縄文)、縄文LR、補修孔		Pat131
132-28	浅鉢	BB107/X	平縁・二個一対の小突起、へう割目、帯形文(磨り消し縄文)、縄文LR		Pat185
132-29	皿 or 浅鉢	BD107付近 / 1	帯形文(磨り消し縄文)、縄文LR、内面底部付着に準		Pat341
132-30	浅鉢	X	平縁、切み列B、帯形文(磨り消し縄文)、縄文LR		Pat87

第 25 表 遺物包含層出土土器属性表 (14) | 区 | 層ほか、| 区南 SX1209 堆積土 (III層)

No	器種	遺構/層	特徴	写真図録	登録
132-31	浅鉢か	BK103/ I	変形文(磨り消し縄文)、縄文LR		Pat1072
132-32	浅鉢	BF104/ 風例	平縁・成沢浮線文、変形文(磨り消し縄文)、縄文LR、内面沈線		Pat1994
132-33	浅鉢	BE104/ 風例	平縁・羊歯状浮線文・へろ割目、変形文(磨り消し縄文)、縄文LR		Pat1998
132-34	浅鉢	BF104/ 風例	平縁、変形文(磨り消し縄文)、縄文LR		Pat572
132-35	甕 or 注口	BF105/X	平縁・成沢浮線文、変形文		Pat586
132-36	浅鉢	X	平縁・11割部沈線、変形文(磨り消し縄文)、縄文LR		Pat102
132-37	皿	BD106/X	平縁・二個一對の小突起・へろ割目、変形文(磨り消し縄文)、縄文LR、内面沈線		Pat303
132-38	注上土器	BG104/X	平縁・羊歯状浮線文、変形文(磨り消し縄文)、縄文LR		Pat741
132-39	浅鉢	BF104/ 風例	平縁・羊歯状浮線文・へろ割目、変形文(磨り消し縄文)、縄文LR、底部内面付道に段		Pat1990
132-40	甕	BF104/ 風例	体高最大径11.6cm、底径5.0cm、突起3単位を隣接し繋ぐ、変形文(文字形単位文層4単位+3単位+滑文、平行沈線)、底部に径2.5cmの円文、外縁ミガキ、外周部浅溝(接合はじけ)した後、木多量に付着	53-22	Pat573
132-41	浅鉢	AS107 付道 / I	平縁・羊歯状浮線文、変形文(磨り消し縄文)、縄文LR、11割部内面に張りだし、底部内面付道に段	53-19	Pat127
132-41	皿	BF104/ 風例	変形文(磨り消し縄文)、内面沈線、縄文LR		Pat571
132-42	皿	I	平縁・羊歯状浮線文、平行沈線文、縄文LR		Pat26
132-43	浅鉢	BE104/ 風例	平縁・羊歯状浮線文、変形文(磨り消し縄文)、縄文LR、内面沈線		Pat1993
132-44	浅鉢	AS108/ I	変形文(磨り消し縄文)、縄文LR		Pat128
132-45	甕	BF105/XB104/ 風例	柄杓文(磨り消し縄文)、縄文LR	53-25	Pat585
132-46	浅鉢	BE104/ 風例	平縁・羊歯状浮線文、変形文(磨り消し縄文)、縄文LR、内面沈線		Pat1992
132-47	注上土器	X	平行沈線文、突起、柄み列A、二本一對の短沈線、変形文か、縄文LR		Pat88
132-48	浅鉢	AS108/ I	平縁、平行沈線文、へろ割目、縄文か		Pat133
132-49	鉢	BF106/ I	平縁・11割部沈線、平行沈線文、押し曳き沈線文、変形文(磨り消し縄文)、縄文LR、炭化物付着	53-20	Pat590
132-50	鉢	BG104/X	平縁・へろ割目、変形文(磨り消し縄文)、縄文LR、11割部沈線、内面に炭化物付着		Pat738
132-51	深鉢	BF104/ 風例	平縁・へろ割目、平行沈線文、縄文LR、炭化物付着		Pat569
132-52	深鉢	BF106/ I	平縁・へろ割目、平行沈線文、縄文LR		Pat588
132-53	鉢	BF106/ I	平縁・へろ割目・二個一對の突起、平行沈線文、縄文LR		Pat589
132-54	深鉢	BG105/ 確認面	平縁、へろ割目、平行沈線文、羽状縄文BとLR		Pat796
132-55	深鉢	BF104/ 風例	平縁・11割部沈線、へろ割目、平行沈線文、縄文LR、炭化物付着		Pat568
132-56	鉢	X	平縁・へろ割目、平行沈線文、羽状縄文LR-L、炭化物付着		Pat109
132-57	鉢	BD106/X	平縁・へろ割目、平行沈線文、縄文LR、炭化物付着		Pat300
132-58	鉢	X	平縁・へろ割目、平行沈線文、羽状縄文(RL-LR-L)、炭化物付着		Pat86
132-59	鉢	X	平縁・へろ割目、平行沈線文、柄み列A、縄文LR、炭化物付着		Pat113
132-60	鉢	I	小突起縁、平行沈線文、へろ割目、縄文LR		Pat9
132-61	鉢	BD107/X	平縁・へろ割目、平行沈線文、縄文器体不明、炭化物付着		Pat186
132-62	深鉢	確認面	平縁・山形突起(面部刻み)、平行沈線文、羽状縄文	53-23	Pat113
132-63	甕	I	流水工文字	53-21	Pat50
132-64	高坪	I	脚部、変形工文字か	53-24	Pat48
132-65	深鉢	BF104/ 風例	平縁、11割部からいびき平、割部縄文L、炭化物付着		Pat567
132-66	甕	AZ108 付道 / I	口径7.6cm、11割部平縁、頸部に隆線、頸部と体部の境に段、縄文LR、11割部ミガキ、内面からいびきナデ		Pat181
132-67	甕	BD106/X	平縁、平行沈線文		Pat301
132-68	皿	I	平縁、無文		Pat71
132-69	深鉢 or 鉢	BK103/ I	沈線文、縄文LR		Pat1073
132-70	深鉢	BE104/ 風例	平縁、へろ割目、変形文		Pat1997
132-71	鉢 or 甕	BD107 付道 / I	平縁、無文		Pat338
132-72	皿 or 付道浅鉢	BE105/ 確認面	平縁・面部刻み山形突起、平行沈線文、羽状縄文L		Pat1993
132-73	鉢	BE105/ 確認面	平縁、平行沈線文		Pat1303
132-74	深鉢	BD107 付道 / I	平縁、縄文LR		Pat237
132-75	深鉢	BE104/ 風例	平縁、無文		Pat1991
132-76	深鉢	AS108 付道 / I	平縁、補修孔、補修孔を繋げる途中で位置を変更		Pat130
132-77	深鉢	確認面	縄文LR(未端強調)、炭化物付着		Pat1767
132-78	深鉢	BD107 付道 / I	平縁、縄文LR		Pat334
132-79	鉢	BD107 付道 / I	平縁、無文		Pat335
132-80	台座	I	無文		Pat555
132-81	台座	I	無文		Pat57
132-82	深鉢	BG104/X	底径9.2cm、底部削代面		Pat740
134-1	深鉢	AS108 付道 / I	口径(22.6cm) 高さ28.5cm、底径8.5cm、平縁、縄文L、底部付道からいびきナデ、底部削代面→からいびきナデ、内面ナデ、炭化物付着	54-1	Pat134
134-2	深鉢	AZ108/X	体高23.0cm、底径7.6cm、平縁、縄文LR 結節部強調、底部ナデ、内面ナデ、炭化物付着	54-2	Pat180
134-3	深鉢	SX1209/ 堆	成沢縁・面部刻み・内形突起、沈線文、縄文LR		Pat1937
134-4	深鉢	SX1209/ 堆	成沢縁・縁部突起		Pat1937
134-5	鉢	SX1209/ 堆	口径17.8cm、体高9.0cm、底径4.4cm、平縁・突起、帯状文(つや消し)、貼瘤	54-3	Pat1934
134-6	深鉢	SX1209/ 堆	平縁・突起・音孔、沈線文、縄文LR	54-5	Pat1932
134-7	深鉢	SX1209/ 堆	平縁、帯状文(つや消し)、貼瘤、弧状沈線文		Pat1950
134-8	甕	SX1209/ 堆	帯状文(つや消し)、貼瘤	54-6	Pat1962
134-9	甕	SX1209/ 堆	帯状文(つや消し)、貼瘤		Pat1954
134-10	甕	SX1209/ 堆	突起、鎖状帯状文(短沈線文)、貼瘤		Pat1970
134-11	深鉢	SX1209/ 堆	帯状文(つや消し)、貼瘤		Pat1958
134-12	深鉢	SX1209/ 堆	平縁、帯状文(つや消し)、貼瘤		Pat1977
134-13	深鉢	SX1209/ 堆	貼瘤、帯状文(縄文)、縄文LR		Pat1966
134-14	深鉢	SX1209/ 堆	成沢縁、帯状文(縄文)、貼瘤、縄文LR、炭化物付着		Pat1963
134-15	深鉢	SX1209/ 堆	貼瘤、帯状文(短沈線文)		Pat1961
134-16	深鉢	SX1209/ 堆	平縁、突起、貼瘤、帯状文(つや消し)		Pat1967
134-17	深鉢	SX1209/ 堆	平縁、貼瘤、帯状文(つや消し)		Pat1972
134-18	深鉢	SX1209/ 堆	貼瘤、人面帯状文(縄文)、縄文LR		Pat1959
134-19	浅鉢	SX1209/ 堆	口径11.0cm、平縁・突起、帯状文(短沈線文、縄文)、縄文LR、内面ミガキ		Pat1930
134-20	深鉢	SX1209/ 堆	貼瘤、人面帯状文(つや消し)		Pat1935
134-21	深鉢	SX1209/ 堆	成沢縁、突起、貼瘤、帯状文(縄文)、縄文器体不明		Pat1971
134-22	甕	SX1209/ 堆	貼瘤、人面帯状文(つや消し)		Pat1948
134-23	甕	SX1209/ 堆	貼瘤、格子状沈線文		Pat1953
134-24	甕	SX1209/ 堆	平縁、貼瘤、帯状文(縄文)、縄文器体不明		Pat1949
134-25	深鉢	SX1209/ 堆	平縁、貼瘤、帯状文(つや消し)		Pat1969

第26表 遺物包含層出土土器属性表(15) I区南 SX1209堆積土(III層)、I層ほか、II区 IV層、III層

No	器種	遺構/層	特徴	写真掲載	登録
134-26	深鉢	SX1209/堆	平鉢、胎面、帯状文(縄文)、縄文LR		Pot1979
134-27	深鉢	SX1209/堆	胎面、入組帯状文(ヘラ朝目、縄文、LR)		Pot1956
134-28	深鉢	SX1209/堆	平鉢+突起、帯状文(新突朝目)		Pot1976
134-29	深鉢	SX1209/堆	平鉢、帯状文(新突朝目)		Pot1964
134-30	深鉢	SX1209/堆	平鉢、突起、胎面、帯状文(つや消し+新突朝目)	54-7	Pot1968
134-31	深鉢	SX1209/堆	平鉢、入組帯状文、三文字、縄文LR		Pot1974
135-1	深鉢	SX1209/堆	口径20.5cm、平鉢+突起(上面部から内面に短穴線)、入組帯状文(つや消し)胎面、内面ミガキ	54-8	Pot1931
135-2	注口土器	SX1209/堆	三文字、滴釜文、縄文LR		Pot1973
135-3	注口土器	SX1209/堆	雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR		Pot1952
135-4	深鉢	SX1209/堆	平鉢、平行穴線文		Pot1965
135-5	深鉢	SX1209/堆	平鉢、平行穴線文、格子状穴線文、縄文LR		Pot1978
135-6	深鉢	SX1209/堆	平鉢、格子状穴線文		Pot1975
135-7	深鉢	SX1209/堆	平鉢、格子状の浅い穴線文、炭化物付着	54-4	Pot1980
135-8	器種不明	SX1209/堆	台部径5.0cm、無文(ミガキ)、かみい上げ底、内面ナデ		Pot1929
135-9	深鉢	SX1209/堆	口径(16.0cm)、平鉢、無文(内外面ともミガキ)		Pot1928
135-10	深鉢	SX1209/堆	平鉢、無文		Pot1960
135-11	鉢	SX1209/堆	平鉢、無文		Pot1951
135-12	深鉢	SX1209/確認面	外:縄文O段多条LR、内:染痕、縞縞混入		Pot1945
135-13	深鉢	SX1209/確認面	縄文O段多条LR、縞縞混入		Pot1946
135-14	深鉢	SX1209/確認面	縄文LR、縞縞混入		Pot1947
135-15	深鉢	SX1209/確認面	縄文原体不明、縞縞混入		Pot1944
135-16	深鉢	SX1209/確認面	胎面、穴線文		Pot1943
135-17	深鉢	I区南/確認面	縄文LR、縞縞混入		Pot1982
135-18	深鉢	I区南	縄文O段多条LR、縞縞混入		Pot1986
135-19	深鉢	I区南	区画穴線文、縄文LR		Pot1983
135-20	注口土器	I区南/確認面	区画穴線文、雲状穴線文、胎面		Pot1981
135-21	深鉢	I区南	帯状文(縄文)、胎面、縄文LR		Pot1984
135-22	深鉢	I区南	帯状文(縄文)、胎面、縄文LR		Pot1985
135-23	深鉢	I区南	平鉢+突起、帯状文(短穴線文)、胎面		Pot1987
135-24	深鉢	I区南	平鉢、平行穴線文、染痕文		Pot1988
137-1	深鉢	B8/IV	平鉢+自然痕線文、自然痕線文		Pot2150
137-2	深鉢	B9/IV	平鉢、帯状文(新突朝目)		Pot2170
137-3	皿	IV	平鉢+斜みのある小突起+I層部穴線、無文、I層部内面裏りだし、底部内面付近に段、朱付着多	54-9	Pot2015
137-4	浅鉢	B8/IV	雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR		Pot2135
137-5	皿	B9/IV	平鉢、ヘラ朝目、雲形文か	54-11	Pot2163
137-6	器種不明	B9/IV	滴釜文、三文字	54-10	Pot2160
137-7	浅鉢	B8/IV	平鉢、列点文、雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR、朱付着		Pot2128
137-8	浅鉢	B9/IV	平鉢+突起+I層部三文字、平行穴線文		Pot2162
137-9	深鉢	IV	平鉢+ヘラ朝目+I層部穴線、平行穴線文、縞縞状朝目、縄文LR		Pot2016
137-10	鉢	B7/IV	平鉢+ヘラ朝目、平行穴線文、突起、縄文原体不明、内面穴線		Pot2111
137-11	鉢	B8/IV	平鉢+I層部穴線、二個一対の胎面、平行穴線文、内面穴線		Pot2130
137-12	皿	B8/IV	平鉢+I層部穴線、雲形文、縄文LR	54-12	Pot2133
137-13	注口土器	B8/IV	平行穴線文、手間穴線文、縄文LR	54-13	Pot2139
137-14	皿	B8/IV	平鉢+手間穴線文、雲形文(磨り消し縄文)、縄文原体不明		Pot2140
137-15	皿	B8/IV	平鉢+ヘラ朝目+I層部穴線+I層部刻み、雲形文(磨り消し縄文)、附加条縄文LR+I、内面穴線		Pot2137
137-16	浅鉢	B8/IV	雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR		Pot2134
137-17	鉢小	B9/IV	雲形文、縄文LR		Pot2159
137-18	鉢	B8/IV	平鉢+山形突起+二個一対の突起、I層部穴線、平行穴線文、縞縞状朝目、縄文LR		Pot2141
137-19	鉢小	B8/IV	雲形文、縄文LR		Pot2144
137-20	台部	B9/IV	雲形文、縄文LR		Pot2156
137-21	鉢	B9/IV	平鉢+突起+ヘラ朝目、平行穴線文、縄文LR		Pot2161
137-22	浅鉢	C8/IV、C9/IV	口径(28.0cm)、C字状、S字状穴線文	54-15	Pot2269
137-23	注口土器	C9/IV	体部刻み雲形文(磨り消し縄文)、縄文LR、縞縞状朝目	54-14	Pot2285
137-24	鉢小	B8/IV	平鉢+山形突起+突起、平行穴線文、炭化物付着		Pot2142
137-25	壺	B9/IV	平鉢+山形突起、I層部穴線(三文字)、二個一対の突起		Pot2172
137-26	鉢	B8/IV	平鉢、 $\alpha$ 字文、内面穴線、朱付着	54-19	Pot2129
137-27	浅鉢	B9/IV	平鉢、平行穴線文、内面穴線		Pot2165
137-28	浅鉢	B8/IV	平鉢+山形突起+I層部穴線、平行穴線文、粘土粒胎面、内面穴線、朱付着、胎土に黒鉛管針	54-17	Pot2146
137-29	(台付)浅鉢	B8/IV	平鉢、平行穴線文、内面穴線		Pot2151
137-30	浅鉢	B9/IV	平鉢+山形突起+I層部穴線、 $\alpha$ 字文、内面穴線	54-18	Pot2164
137-31	鉢	B10/IV	変形文字文(磨り消し縄文)、胎面された $\alpha$ 字文、縄文し、AMS放射性炭素年代測定		Pot2193
137-32	深鉢	B9/IV	平鉢+ヘラ朝目、平行穴線文、縄文LR、内面穴線		Pot2157
137-33	深鉢	B9/IV	平鉢+ヘラ朝目、穴線文、縄文LR		Pot2158
137-34	深鉢	B9/IV	平鉢+ヘラ朝目+I層部穴線、平行穴線文、縄文LR		Pot2136
137-35	深鉢	B8/IV	小突起線、平行穴線文、縄文LR		Pot2138
137-36	台部	B9/IV	台部径5.0cm、縄文LR、炭化物付着		Pot2177
137-37	浅鉢	B10/IV	平鉢、穴線文、縄文し、内面穴線、朱付着		Pot2190
137-38	深鉢	C9/IV	底部木葉痕		Pot2284
137-39	底部	B9/IV	底径6.6cm、縄文LR、底部副代痕		Pot2176
137-40	深鉢	B7/III	滴釜文の隆起部分		Pot2101
137-41	壺	C6/III	平鉢、縞縞状突起、穴線		Pot2223
137-42	突起	C7/III	S字状突起、首孔、穴線文		Pot2248
137-43	壺か	B9/C8/III、IV	帯状文(羽状縄文)、縄文LR、LR	54-16	Pot2188
137-44	深鉢	III、IV	平鉢+ヘラ朝目、帯状文(新突朝目)		Pot2013
137-45	深鉢	B9/C8/III、IV	平鉢、帯状文(縞縞状朝目)		Pot2184
137-46	深鉢	B7/III	小波状線、帯状穴線文、円文		Pot2105
137-47	鉢	C5/III	平鉢+ヘラ朝目+二個一対の小突起、平行穴線文、ヘラ朝目、縄文原体不明、炭化物付着		Pot2222
137-48	壺	C6/III	列点文、三文字、朱付着		Pot2237
137-49	皿	C6/III	平鉢+ヘラ朝目+突起、列点文、三文字、縄文LR		Pot2240
137-50	浅鉢小	C6/III	平鉢状文、縄文LRか、S字状胎面部強調	54-20	Pot2241
137-51	皿小	C7/III	平鉢+ヘラ朝目、列点文、 $\alpha$ 字状文、内面穴線、赤黒漆付着		Pot2253
137-52	鉢	B9/C8/III、IV	平鉢+ヘラ朝目+二個一対の突起、平行穴線文、縄文LR、炭化物付着		Pot2180

第 27 表 遺物包含層出土土器属性表(16) II区 III層

No	器種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
137-53	鉢	C6/Ⅲ	平縁・へう割目、壺面状割目、平行沈線文、縄文R、炭化物付着		Pat2231
137-54	深鉢	Ⅲ/Ⅳ	平縁・へう割目・L199部沈線、沈線文、縄文R		Pat2011
137-55	浅鉢か	C5/Ⅲ	平縁、雲形文か、縄文R		Pat2216
137-56	深鉢	B7/Ⅲ	平縁・波状浮線文、雲形文、縄文R、内面沈線	54-21	Pat2104
137-57	浅鉢	B7/Ⅲ	平縁・へう割目・L199部沈線、雲形文(磨り消し縄文)、縄文R		Pat2103
137-58	Ⅲ	B9/C8/Ⅲ/Ⅳ	平縁・平縁状浮線文、雲形文(磨り消し縄文)、縄文L.R、漆塗り		Pat2185
137-59	鉢	C5/Ⅲ	メガネ状浮文、雲形文、縄文L.Rか		Pat2213
137-60	Ⅲ	C5/Ⅲ	平縁・平縁状浮線文、雲形文(磨り消し縄文)、縄文L.R、内面に障帯(縄文)		Pat2214
138-1	深鉢	B8/Ⅲ	平縁・波状浮線文、雲形文(磨り消し縄文)、縄文L.R、内面に段	54-22	Pat2114
138-2	Ⅲ	C5/Ⅲ	平縁・山形突起・へう割目・L199部沈線、雲形文(磨り消し縄文)、縄文L.R、内面に段		Pat2218
138-3	Ⅲ	C6/Ⅲ	平縁・山形文、雲形文(磨り消し縄文)、縄文L.R		Pat2235
138-4	浅鉢	C10/Ⅲ	平縁・波状浮線文、雲形文(磨り消し縄文)、縄文L.R	55-2	Pat2288
138-5	浅鉢	C6/Ⅲ	平縁・へう割目、雲形文(磨り消し縄文)、内面沈線、縄文L		Pat2232
138-6	鉢か	B8/Ⅲ	三文文、平行沈線文、雲形文、縄文L.R		Pat2125
138-7	Ⅲ	C7/Ⅲ	雲形文(磨り消し縄文)、縄文L.R		Pat2250
138-8	鉢か	C5/Ⅲ	平行沈線文、刺突割目、雲形文(磨り消し縄文)、縄文L.R、炭化物付着		Pat2220
138-9	鉢	B7/Ⅲ	平縁・山形突起、二個一対の突起・L199部沈線、雲形文(磨り消し縄文)、縄文原体不明、炭化物付着		Pat2106
138-10	鉢	B7/Ⅲ	平縁・へう割目、山形突起・L199部沈線、雲形文(磨り消し縄文)、縄文L.R、炭化物付着	55-3	Pat2108
138-11	鉢	C7/Ⅲ	平縁・へう割目・L199部沈線、押し出し沈線文、雲形文(磨り消し縄文)、縄文L.R、炭化物付着		Pat2249
138-12	鉢	B8/Ⅲ	平縁か、メガネ状浮文、柵門文		Pat2120
138-13	Ⅲ	C3/Ⅲ	平縁・へう割目・L199部沈線、雲形文(磨り消し縄文)、平行沈線文、縄文L、L.R	55-1	Pat2204
138-14	Ⅲ	Ⅲ/Ⅳ	平縁・山形突起・L199部沈線、雲形文(磨り消し縄文)、縄文L.R		Pat2209
138-15	浅鉢	C6/Ⅲ	平縁・山形突起・波状浮線文・L199部沈線、帯状文、縄文L.R		Pat2229
138-16	浅鉢	C6/Ⅲ	平縁・波状浮線文、無文		Pat2228
138-17	器種不明	C6/Ⅲ	メガネ状浮文、雲形文(磨り消し縄文)、縄文L.R		Pat2234
138-18	浅鉢	C6/Ⅲ	平縁・山形突起・L199部沈線、平行沈線文		Pat2226
138-19	鉢	C6/Ⅲ/Ⅳ	平縁・波状浮線文、平行沈線文		Pat2244
138-20	鉢	B8/Ⅲ	平縁・へう割目・L199部沈線、平行沈線文、壺面状割目、縄文R		Pat2123
138-21	Ⅲ	C5/Ⅲ	山形突起・L199部沈線、三文文、炭化物付着		Pat2219
138-22	Ⅲ	C9/Ⅲ	雲形文(磨り消し縄文)、縄文L.R		Pat2270
138-23	鉢	C7/Ⅲ	平縁・へう割目、平行沈線文、壺面状割目、縄文L.R、内面沈線1条		Pat2252
138-24	鉢	C6/Ⅲ	平縁・L199部沈線、へう割目、平行沈線文、非結束引状縄文(L.R.R)、炭化物付着		Pat2230
138-25	注し土器	B9/Ⅲ/B9/Ⅳ	鉢状突起文(磨り消し縄文)、局部部に障帯(へう割目、壺面状割目)、縄文L.R	55-4	Pat2178
138-26	鉢	C6/Ⅲ	平縁・へう割目・L199部沈線、へう割目、平行沈線文、縄文R		Pat2238
138-27	鉢	B9/Ⅲ	平縁・L199部沈線、壺面状割目、平行沈線文、縄文L.R		Pat2154
138-28	鉢	B9/C8/Ⅲ/Ⅳ	平縁・へう割目・L199部沈線、平行沈線、へう割目、縄文R、炭化物付着		Pat2179
138-29	鉢	C7/Ⅲ/Ⅳ	平縁・L199部沈線、へう割目、平行沈線文、刻み、雲形文(磨り消し縄文)、縄文L.R、炭化物付着		Pat2247
138-30	鉢	C5/Ⅲ	平縁・へう割目、平行沈線文、縄文R		Pat2217
138-31	鉢	C5/Ⅲ	平縁・へう割目、平行沈線文、縄文L.R		Pat2221
138-32	鉢	C7/Ⅲ	平縁・へう割目、平行沈線文、引状縄文L.R、R、炭化物付着		Pat2254
138-33	浅鉢	B8/Ⅲ	平縁・へう割目、平行沈線文、メガネ状浮文、内面沈線	55-5	Pat2123
138-34	蓋	B9/C8/Ⅲ/Ⅳ	平縁、障帯(へう割目)、流水工字文	55-9	Pat2186
138-35	鉢	Ⅲ	平縁、 $\alpha$ 文字、AMS放射性炭素年代測定	55-6	Pat2007
138-36	浅鉢	Ⅲ/Ⅳ	平縁、 $\alpha$ 文字、内面沈線	55-7	Pat2012
138-37	Ⅲ or 注し土器	C6/Ⅲ	平縁・へう割目、平行沈線文、へう割目、 $\alpha$ 文字、内面沈線		Pat2027
138-38	浅鉢	Ⅲ/Ⅳ	平縁・二個一対の山形突起・L199部沈線、内面沈線	55-8	Pat2010
138-39	深鉢	B8/Ⅲ	波状縁・L199部沈線、 $\alpha$ 文字、縄文L.Rか、未付着	55-10	Pat2127
138-40	鉢	B8/Ⅲ	平縁、 $\alpha$ 文字、縄文L.R、内面沈線、未付着	55-11	Pat2119
138-41	鉢	C7/Ⅲ	平縁、 $\alpha$ 文字、工字文、内面沈線		Pat2251
138-42	浅鉢	B8/Ⅲ	平縁、 $\alpha$ 文字、内面沈線	55-14	Pat2124
138-43	浅鉢	Ⅲ/Ⅳ	平縁・二個一対の突起、平行沈線文、内面沈線		Pat2008
138-44	深鉢	B8/Ⅲ	平縁・山形突起、平行沈線文、未付着、内面沈線		Pat2122
138-45	Ⅲ	C5/Ⅲ	平縁・L199部沈線、平行沈線文、縄文原体不明		Pat2215
138-46	鉢	C6/Ⅲ	平縁、 $\alpha$ 文字		Pat2242
138-47	Ⅲ	B7/Ⅲ	平縁・山形突起・L199部沈線、沈線文、内面沈線、炭化物が滲り着		Pat2102
138-48	Ⅲ	C6/Ⅲ	工字文、縄文L.R	55-12	Pat2233
138-49	Ⅲ	C9/Ⅲ	工字文	55-13	Pat2272
138-50	器種不明	B9/C8/Ⅲ/Ⅳ	平行沈線文、未付着		Pat2189
138-51	深鉢	C10/Ⅲ	平縁・へう割目、平行沈線文、縄文L.R、内面沈線、炭化物付着		Pat2287
138-52	深鉢	B9/C8/Ⅲ/Ⅳ	平縁、平行沈線文、内面沈線		Pat2182
138-53	Ⅲ	C9/Ⅲ	平縁、平行沈線文		Pat2274
138-54	Ⅲ	C9/Ⅲ	平縁、 $\alpha$ 文字	55-15	Pat2273
138-55	鉢か	C5/Ⅲ	平縁、沈線文		Pat2212
139-1	鉢 or Ⅲ	B8/Ⅲ	平縁、平行沈線文、内面沈線、未付着		Pat2117
139-2	鉢	B8/Ⅲ	平縁、平行沈線文、内面沈線、未付着		Pat2118
139-3	Ⅲ	B9/C8/Ⅲ/Ⅳ	平縁、沈線文、内面沈線		Pat2181
139-4	Ⅲ	C6/Ⅲ	平縁、平行沈線文、縄文(形体不明)		Pat2225
139-5	鉢	B8/Ⅲ	平縁・二個一対の山形突起、平行沈線文、縄文L.R、内面沈線		Pat2119
139-6	深鉢	C6/Ⅲ	平縁・面部刻み山形突起		Pat2235
139-7	鉢	C9/Ⅲ	平縁・二個一対の突起、条線文		Pat2271
139-8	鉢	B9/C8/Ⅲ/Ⅳ	平縁・へう割目・L199部沈線、沈線文、R、縄文、炭化物付着		Pat2183
139-9	Ⅲ	Ⅲ	器高7.3cm、底径3.3cm、平縁、平行沈線文、体部下平縄文L.R、L199部内面沈線	55-17	Pat2006
139-10	深鉢	B8/Ⅲ	平行沈線文、縄文L.R		Pat2112
139-11	鉢	B8/Ⅲ	平行沈線文、縄文L.R、炭化物付着		Pat2113
139-12	Ⅲ	C9/Ⅲ	平縁、 $\alpha$ 文字(胎線大)、縄文L.Rか、AMS放射性炭素年代測定	55-25	Pat2215
139-13	動物形注し土器	C8/Ⅳ/上面/Ⅲ	L199 6.8cm、器高6.8cm、底径2.8cm、動物形の彫刻：表不明、裏方縁、注し面に厚巻表現、反りの突出部、沈線文を二個一対の山形突起、高化、割突目によって彫刻表現、体部下に彫り工字文(鋭角鋭角)、体部下に十文字帯縄文に似た工字にによる形似的突眼、同心円文に刻み沈線、底面ミガキ、内面ミガキ、内面が彫り込まれては本物とする	55-22	Pat2265
139-14	浅鉢	B9/Ⅲ	L199 13.4cm、器高5.8cm、底径5.5cm、波状縁(面部4単位内面に縦線)・L199部沈線、平行沈線・へう割目、縄文L.R表面刻み多数、底面ミガキ、内面ミガキ、未付着多	55-20	Pat2153
139-15	浅鉢	B7/Ⅲ	L199 1.2cm、器高5.5cm、底径5.5cm、二個一対の山形突起(面部刻み)、彫り工字文(沈線で彫り込まれる、斜線部分彫り込みに反り独立した縦線2単位)、簡略化された縄文 $\alpha$ 文字2単位、体下部縄文L.R、底面ミガキ、L199部内面沈線1条、内面ミガキ、未付着、横成後の穿孔	55-21	Pat2110

第 28 表 遺物包含層出土土器属性表 (17) II 区 III 層、II 層、I 層ほか

No	器種	遺構/層	特徴	写真版	登録
139-16	深鉢	C6/Ⅲ	平縁、重唇三角形文(磨り消し縄文)、縄文 LR	55-26	Pat2243
139-17	高坏脚部	C6/Ⅲ	平行沈線文		Pat2236
139-18	台部	B9/Ⅲ	台部径 6.4cm、平行沈線文、縄文 LR	55-18	Pat2155
139-19	高坏	B8/Ⅲ	口径 21.2cm、器高 10.3cm、脚部径 8.6cm、平縁、反転する沈線による変形工文字(粘着なし)、文部部口から口部まで	55-19	Pat2126
139-20	深鉢	C5/Ⅲ	平縁、1.縁部十字、縄文 L	55-24	Pat2210
139-21	深鉢	C1/Ⅲ	平縁、引伏縄文 1 段		Pat2203
139-22	深鉢	C5/Ⅲ	平縁、1.縁部十字、縄文 LR		Pat2211
139-23	鉢	B7/Ⅲ	平縁、平行沈線文、へう割目、引伏縄文 1 段 LR	55-23	Pat2109
139-24	深鉢	C10/Ⅲ	平縁、縄文 R、灰化物付着		Pat2286
139-25	深鉢	A1/Ⅱ～Ⅲ	帯状文(縄文)、粘着、縄文 L		Pat2094
139-26	深鉢	A1/Ⅱ～Ⅲ	小波状縁、三叉文、縄文 LR		Pat2095
139-27	深鉢	Ⅱ・Ⅲ	人組帯状文(櫛歯状引目)		Pat2005
139-28	深鉢	北端部/Ⅱ～Ⅲ	人組三叉文、帯状文、縄文 LR		Pat2003
139-29	鉢	D/Ⅱ・Ⅲ	平縁、三叉文、平行沈線文		Pat2296
139-30	鉢	北端部/Ⅱ～Ⅲ	小波状縁、X 字文		Pat2091
140-1	浅鉢	Ⅱ・Ⅲ	平縁、平行沈線文、櫛歯状引目、雲形文(磨り消し縄文)、縄文 LR		Pat2003
140-2	浅鉢	Ⅱ・Ⅲ	平縁・口内面沈線、浮線文、平行沈線文、縄文 LR		Pat2202
140-3	浅鉢	北端部/Ⅱ～Ⅲ	平縁・山形突起・へう割目・口内面沈線、平行沈線文、弧状沈線文		Pat2092
140-4	器	Ⅱ・Ⅲ	平行沈線文		Pat2201
140-5	浅鉢	Ⅱ・Ⅲ	平縁・山形突起、α 字文、内面沈線、朱付着	55-27	Pat2004
140-6	深鉢	X	平縁、沈線文、縄文形体不明		Pat2041
140-7	突起	X	波状縁・高気突起		Pat2053
140-8	深鉢	X	平縁・突起、沈線文、刺突引目、補修孔		Pat2037
140-9	深鉢	D2・3/X	平縁・二輪一弁の突起、櫛歯状引目		Pat2285
140-10	壺か	X	帯状文(引伏縄文)、縄文 LR 短(直前段多条)		Pat2024
140-11	深鉢	確認面	突起、粘着、沈線文		Pat2058
140-12	深鉢	X	帯状文(縄文)、粘着、縄文 L		Pat2047
140-13	浅鉢小	D2・3/X	平縁、帯状文(縄文)、粘着、縄文 LR	55-28	Pat2300
140-14	深鉢	X	平縁、帯状文(縄文)、縄文 LR		Pat2048
140-15	深鉢	X	人組帯状文(縄文)、縄文 LR		Pat2034
140-16	深鉢	X	平縁・突起(頂部のみ)、帯状文(縄文)、縄文 LR		Pat2027
140-17	深鉢	カクラン	小波状縁、人組三叉文、縄文 L、灰化物付着		Pat2063
140-18	鉢	X	平縁・へう割目・口内面沈線、三叉文、弧状沈線文		Pat2044
140-19	壺 or 口	I	渦巻文、三叉文		Pat2060
140-20	浅鉢	X	平縁・へう割目、半面状文、縄文 LR	55-29	Pat2206
140-21	鉢	D2・3/X	平縁・へう割目、斜行知沈線文、平行沈線文、へう割目、縄文形体不明		Pat2036
140-22	鉢	X	平縁・へう割目、平行沈線文、へう割目、縄文 LR(粘着部強調)		Pat2049
140-23	鉢	I	平縁・波状浮線文、雲形文(磨り消し縄文)、縄文 LR、内面沈線	55-30	Pat2061
140-24	浅鉢	X	平縁・波状浮線文、雲形文(磨り消し縄文)、縄文 LR、内面沈線		Pat2025
140-25	鉢	X	平縁・半面状浮線文、雲形文(磨り消し縄文)、縄文 LR	56-1	Pat2051
140-26	浅鉢	D2・3/X	平縁・半面状浮線文、雲形文、縄文 LR、内面沈線		Pat2292
140-27	浅鉢小	カクラン	平縁・へう割目・突起・口内面沈線、雲形文(磨り消し縄文)、縄文 LR		Pat2085
140-28	鉢	X	平縁・二輪一弁の突起、雲形文(磨り消し縄文)、縄文 LR		Pat2029
140-29	鉢	X	平縁、雲形文(磨り消し縄文)、縄文 LR 具条		Pat2040
140-30	深鉢	確認面	平縁・波状浮線文、平行沈線文、1.縁部内面に朱りなし		Pat2057
140-31	浅鉢	X	平縁・へう割目・口内面沈線、雲形文、縄文形体不明		Pat2023
140-32	浅鉢	X	平縁・口内面沈線・へう割目、雲形文(磨り消し縄文)、縄文 LR		Pat2026
140-33	浅鉢	I	平縁、メダネ状浮文、逆三角形文、縄文 L、内面沈線	55-31	Pat2062
140-34	皿	X	平縁、雲形文(磨り消し縄文)、縄文 LR		Pat2050
140-35	浅鉢	X	平縁・波状浮線文、平行沈線文		Pat2043
140-36	浅鉢	X	平縁・波状浮線文、平行沈線文		Pat2031
140-37	鉢	D2・3/X	平縁・突起・櫛歯状引目、雲形文(磨り消し縄文)、縄文 LR、内面沈線		Pat2299
140-38	浅鉢	X	平縁・山形突起・小突起・口内面沈線、雲形文、縄文 LR	56-2	Pat2045
140-39	鉢	D2・3/X	雲形文(磨り消し縄文)、縄文 LR、灰化物付着	56-3	Pat2298
140-40	浅鉢	X	平縁、α 字文		Pat2021
140-41	鉢 or 浅鉢	確認面	平縁、α 字文、内面沈線	56-5	Pat2059
140-42	鉢	X	平縁・突起、工文字、縄文 R、内面沈線	56-4	Pat2052
140-43	鉢	X	平縁、流水工文字、内面沈線	56-6	Pat2020
140-44	浅鉢	X	平縁・へう割目・突起・口内面沈線、雲形文(磨り消し縄文)、縄文 LR		Pat2293
140-45	壺	X	縁・引目	56-8	Pat2032
140-46	高坏	X	波状縁(頂部に粘着帯あり)、口内面沈線、押し突き沈線文、変形工文字(粘着有り)、内面沈線	56-7	Pat2046
140-47	鉢	X	α 字文、縄文 LR、朱付着		Pat2018
140-48	浅鉢	X	平縁、平行沈線文、内面沈線		Pat2022
140-49	浅鉢	X	平縁、平行沈線文、補修孔		Pat2035
140-50	鉢	カクラン	平縁・へう割目、沈線文、縄文 R		Pat2066
140-51	深鉢	X	平縁・へう割目・口内面沈線、平行沈線文、縄文 LR		Pat2042
140-52	鉢	カクラン	平縁、無文		Pat2064
141-1	浅	X	口径 16.8cm、器高 15.5cm、底径 7.2cm、平縁、縄文 LR	56-9	Pat2055
141-2	底部	X	底部副代皿		Pat2056
141-3	深鉢	D2・3/X	平縁、縄文 LR		Pat2297
141-4	深鉢	X	平縁・山形突起・口内面沈線、沈線文、縄文 LR、胎土に砂粒多		Pat2028
141-5	深鉢	C5/X	縄文 LR、底部副代皿		Pat2224
141-6	鉢	Ⅱ区北端区/Ⅳ(黒石上層移)	雲形文(磨り消し縄文)、縄文 R		Pat2073
141-7	深鉢	Ⅱ区北端区/Ⅳ(黒石上層移)	平行沈線文	56-10	Pat2071
141-8	台部	Ⅱ区北端区/Ⅳ(黒石上層移)	平行沈線文		Pat2072
141-9	深鉢	Ⅱ区北端区/Ⅳ(黒石上層移)	三叉文、縄文 LR、補修孔		Pat2068
141-10	皿	Ⅱ区北端区/Ⅳ(黒石上層移)	平縁・頂部部山形突起・口内面沈線、雲形文(磨り消し縄文)、縄文形体不明、口内面内面沈線、三叉文	56-12	Pat2067
141-11	浅鉢	Ⅱ区北端区/Ⅳ(黒石上層移)	平縁・口内面沈線、変形工文字の短形	56-11	Pat2069



第 32 表 Ⅰ区・Ⅰ区南遺物包含層出土片・石核の層別別石材組成

Ⅰ区・Ⅰ区南遺物包含層出土片・石核 層別別石材組成 (点数)																		
層別	珪質頁岩	黑色頁岩	頁岩	碧玉	赤碧玉	玉髄	珩化 燧灰岩	珩質 燧灰岩	燧灰岩	珩化木	石英	流紋岩	黒曜石	安山岩	粘板岩	ホルン フェルス	緑色 片岩	総計 (点)
Ⅰ層	389	12	18	168	63	46	12	12	3	1								724
Ⅱ層	9			7		1	3											20
Ⅲ層	795	20	25	370	140	70	63	37	17	3	5	1	1	4	1	1	1	1,554
Ⅳ層	494	29	14	256	58	34	36	4	8	8	1	2				2		946
Ⅴa層	2			1														3
Ⅴb層	15			2	1	4												22
Ⅴb+d層	34	3		5	2	4	2	2	1		1							54
Ⅴb+e層	7																	7
Ⅴd層	2																	2
Ⅴd+e層	2																	2
その他	329	15	6	110	47	31	16	4	5	3			1	1	1			560
総計(点)	2,069	79	63	919	311	190	132	59	34	15	7	4	2	4	2	3	1	5,894

Ⅰ区・Ⅰ区南遺物包含層出土片・石核 層別別石材組成 (重量)																		
層別	珪質頁岩	黑色頁岩	頁岩	碧玉	赤碧玉	玉髄	珩化 燧灰岩	珩質 燧灰岩	燧灰岩	珩化木	石英	流紋岩	黒曜石	安山岩	粘板岩	ホルン フェルス	緑色 片岩	総計 (g)
Ⅰ層	3,862.6	38.3	290.0	2,286.6	423.3	456.3	108.5	60.3	6.1	67.8								6,615.8
Ⅱ層	34.6			40.6		2.8	4.2											82.0
Ⅲ層	5,014.4	144.7	357.5	2,429.7	954.8	510.6	363.9	2,699.9	98.4	60.9	133.3	7.1	5.5	56.6	0.4	1.3	12.5	10,448.5
Ⅳ層	3,808.4	169.0	401.3	2,179.5	356.0	196.3	187.8	7.2	39.5	66.3	11.0	28.7						7,458.7
Ⅴa層	6.6			2.9														9.5
Ⅴb層	68.4			16.6	1.3	11.4												97.7
Ⅴb+d層	104.8	5.8		14.5	4.9	2.7	2.3	8.8	0.8		1.0							155.6
Ⅴb+e層	40.6																	40.6
Ⅴd層	11.9																	11.9
Ⅴd+e層	7.4																	7.4
その他	2,803.6	83.1	119.1	696.4	285.9	225.2	1,108.8	20.9	175.3	10.1		2.0	1.8			2.4		5,544.6
総計(点)	15,790.3	669.9	1,167.9	6,666.8	2,026.2	1,425.1	1,775.5	367.1	320.1	205.1	145.3	37.8	7.3	56.6	2.8	9.0	12.5	30,476.3

Ⅰ区・Ⅰ区南遺物包含層出土片・石核 層別別石材組成 (点数)																		
層別	珪質頁岩	黑色頁岩	頁岩	碧玉	赤碧玉	玉髄	珩化 燧灰岩	珩質 燧灰岩	燧灰岩	珩化木	石英	流紋岩	黒曜石	安山岩	粘板岩	ホルン フェルス	緑色 片岩	総計 (点)
Ⅰ層	332	10	17	142	57	38	10	12	3									621
Ⅱ層	7			6		1	3											17
Ⅲ層	729	15	24	339	123	65	57	30	17	3	4	1	1	4	1	1	1	1,415
Ⅳ層	444	27	11	234	90	31	33	4	8	7	1	2				2		854
Ⅴa層	2			1														3
Ⅴb層	15			2	1	4												22
Ⅴb+d層	34	3		5	2	3	2	2	1		1							33
Ⅴb+e層	6																	6
Ⅴd層	2																	2
Ⅴd+e層	2																	2
その他	287	15	6	94	43	28	8	4	4	3			1	1	1			495
総計(点)	1,860	70	58	823	276	170	113	52	33	13	6	4	2	4	2	3	1	3,490

Ⅰ区・Ⅰ区南遺物包含層出土片・石核 層別別石材組成 (重量)																		
層別	珪質頁岩	黑色頁岩	頁岩	碧玉	赤碧玉	玉髄	珩化 燧灰岩	珩質 燧灰岩	燧灰岩	珩化木	石英	流紋岩	黒曜石	安山岩	粘板岩	ホルン フェルス	緑色 片岩	総計 (g)
Ⅰ層	2,173.0	36.2	281.4	812.6	343.2	197.0	92.0	60.3	6.1									4,091.8
Ⅱ層	16.9			27.3		2.6	4.2											51.0
Ⅲ層	4,005.5	75.4	344.4	1,932.0	705.9	411.6	301.0	119.3	98.4	60.9	21.6	7.1	5.5	56.6	0.4	1.3	12.5	8,154.4
Ⅳ層	2,094.0	153.4	113.1	1,121.4	215.0	105.0	151.0	7.2	39.5	55.8	11.0	28.7						4,102.8
Ⅴa層	6.6			2.9														9.5
Ⅴb層	68.4			16.6	1.3	11.4												97.7
Ⅴb+d層	104.8	5.8		14.5	4.9	4.7	2.3	8.8	0.8		1.0							147.6
Ⅴb+e層	35.6																	35.6
Ⅴd層	11.9																	11.9
Ⅴd+e層	7.4																	7.4
その他	1,684.0	83.1	119.1	455.8	222.0	162.6	35.0	20.9	152.1	10.1		2.0	1.8			2.4		2,951.8
総計(点)	10,203.1	333.9	858.0	4,383.1	1,493.2	894.9	383.5	216.3	296.9	126.8	33.6	37.8	7.3	56.6	2.8	9.0	12.5	19,571.3

Ⅰ区・Ⅰ区南遺物包含層出土片・石核 層別別石材組成 (点数)															
層別	珪質頁岩	黑色頁岩	頁岩	碧玉	赤碧玉	玉髄	珩化 燧灰岩	珩質 燧灰岩	燧灰岩	珩化木	石英	総計 (点)			
Ⅰ層	57	2	1	26	6	8	2				1	103			
Ⅱ層	2			1								3			
Ⅲ層	66	5	1	31	17	5	6	7			1	139			
Ⅳ層	50	2	3	22	8	3	3				1	92			
Ⅴb+d層												1			
Ⅴb+e層	1											1			
Ⅴd層	33			16	4	3	8				1	65			
その他	209	9	5	96	35	20	19	7	1	2	1	404			

Ⅰ区・Ⅰ区南遺物包含層出土片・石核 層別別石材組成 (重量)															
層別	珪質頁岩	黑色頁岩	頁岩	碧玉	赤碧玉	玉髄	珩化 燧灰岩	珩質 燧灰岩	燧灰岩	珩化木	石英	総計 (g)			
Ⅰ層	1,689.6	22.1	8.6	474.0	80.1	259.3	16.5				67.8	2,618.0			
Ⅱ層	17.7			13.3								31.0			
Ⅲ層	1,040.9	69.3	13.1	497.7	248.9	99.0	62.9	150.6			111.7	2,294.1			
Ⅳ層	1,714.4	15.6	288.2	1,058.1	141.0	91.3	36.8				10.5	3,355.9			
Ⅴb+d層												8.0			
Ⅴb+e層	5.0											5.0			
Ⅴd層	1,119.6			240.6	63.0	72.6	1,073.8				23.2	2,592.8			
その他	5,587.2	107.0	309.9	2,283.7	533.0	330.2	1,190.0	150.6	23.2	78.3	111.7	10,908.8			

#### ①層位別出土状況

【IV d・e層】(図版 143-1) 石鏡 1点、剥片 2点の計 3点出土している。

【IV d層】(図版 143-2-5) 石鏡 1点と磨石 3点、剥片 2点の計 6点出土している。2 (S1358) は石鏡で、幅広の逆刺をもつ。このような形態の石鏡は、縄文時代早期中葉の白石市高野遺跡(片倉ほか: 1976)などで多く見られる。3 (S1535) は磨石で、いわゆる特殊磨石とよばれる、垂円礫の稜線部分を磨面として利用するものである。同様のものは、I区IV b・e層で3点、IV b・d層およびIII層で1点ずつ、またII区IV層およびIV-4区攪乱から1点ずつの、合わせて8点出土している。

【IV b・e層】(図版 144-1) ツール 5点、剥片 6点、石核 1点の計 12点出土している。ツールはすべて礫石器である。1 (S1714) は磨石で、礫の稜線部分が磨面となっている。本層から出土した磨石はすべて同様の使用状況である。

【IV b・d層】(図版 143-6・8～11、144-2) ツール 13点、剥片 53点、石核 1点の計 67点出土している。ツールのほとんどは剥片石器である。144-2 (S1591) は磨石で、礫の稜線部分が磨面となっている。

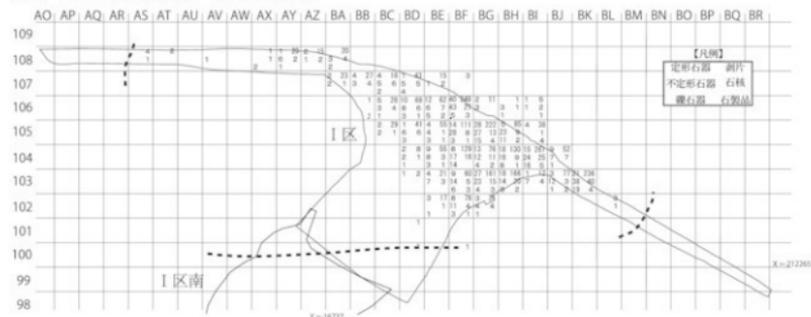
【IV b層】(図版 143-7) ツール 6点、剥片 22点の計 28点出土している。7 (S1004) は石鏡で、二次加工による成形が部分的であり、剥片の素材面を大きく残す。

【IV a層】 不定形石器 3点、剥片 3点の計 6点出土している。不定形石器は、いずれも二次加工がわずかに施される程度である。

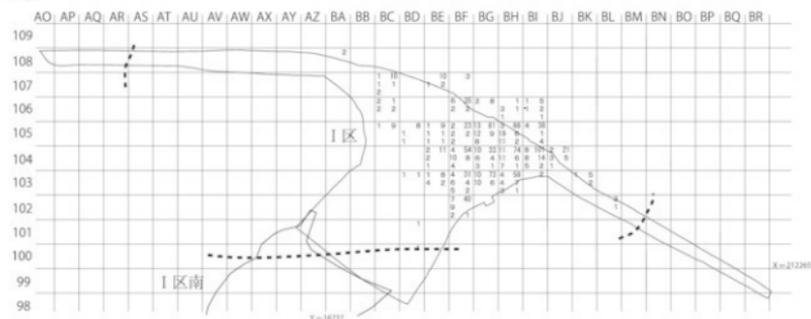
【IV層】(図版 144-3～151) ツール 296点、剥片 854点、石核 92点の計 1,242点出土している。ツールは剥片石器が主体で、不定形石器(123点)や石鏡(62点)が多くみられる。礫石器は石皿(31点)と磨石(26点)が主体である。144-4 (S1321) は石鏡で、両側辺が鋸歯状となる。145-3 (S6122)・4 (S6488) は石鏡で、縦長剥片の一端を錐部としている。7 (S1481) は磨製石斧で、研磨が基部の一部と刃部に施されるのみであり、また基部の両側辺に敲打と剥離によって抉りを入れるのが特徴的である。9 (S1488) は磨製石斧で、刃部破損後の再加工により、刃部を長軸に対して斜めに成形している。148-1 (S1676)・2 (S1678) は石皿で、使用面が黒色を呈しており、熱を受けたものとみられる。149-1 (S1672) は石皿で、使用面が大きくくぼむのが特徴的である。150-1 (S1635) は石皿で、使用面に段が付き中央部が一段高くなっている。151-1 (S1645) は石皿を転用した凹石で、両面に多数の凹みをもつ。5 (S1606) は敲石で、凹石を磨石に転用後さらに敲石として利用している。敲打痕は側縁部に顕著に見られる。

【III層】(図版 152～156、159-1・2) ツール 427点、剥片 1,415点、石核 139点の計 1,981点出土した。ツールはIV層と同様に剥片石器が主体で、不定形石器(204点)や石鏡(67点)、石鏡(28点)が多くみられる。礫石器は磨石(38点)と石皿(24点)が多く、凹石も一定量(11点)ある。152-1 (S1111) は石鏡で、先端が再加工によりやや鈍角に作出されている。4 (S1139) は石鏡で、先端が摩滅している。10 (S1116)・11 (S1193) は石鏡で、基部の両側辺に抉りを入れて逆刺を作り出している。15 (S6188) は尖頭器で、半両面加工による再加工が施されている。17 (S1278) は石鏡で、石鏡を転用しているとみられる。16 (S1289) は石鏡で、両端が摩滅している。18 (S1117)、

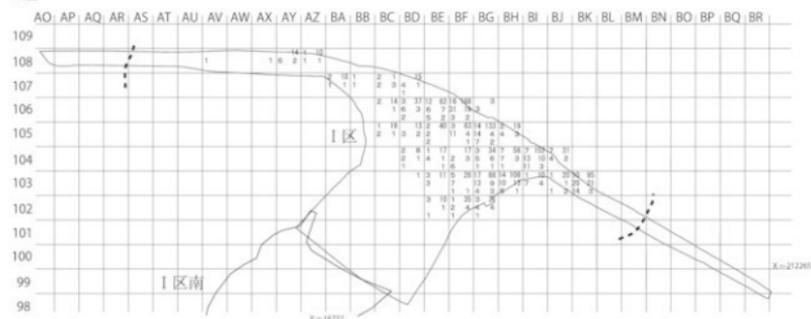
グリッド全体（遺構確認面・表土等を含む）



IV層

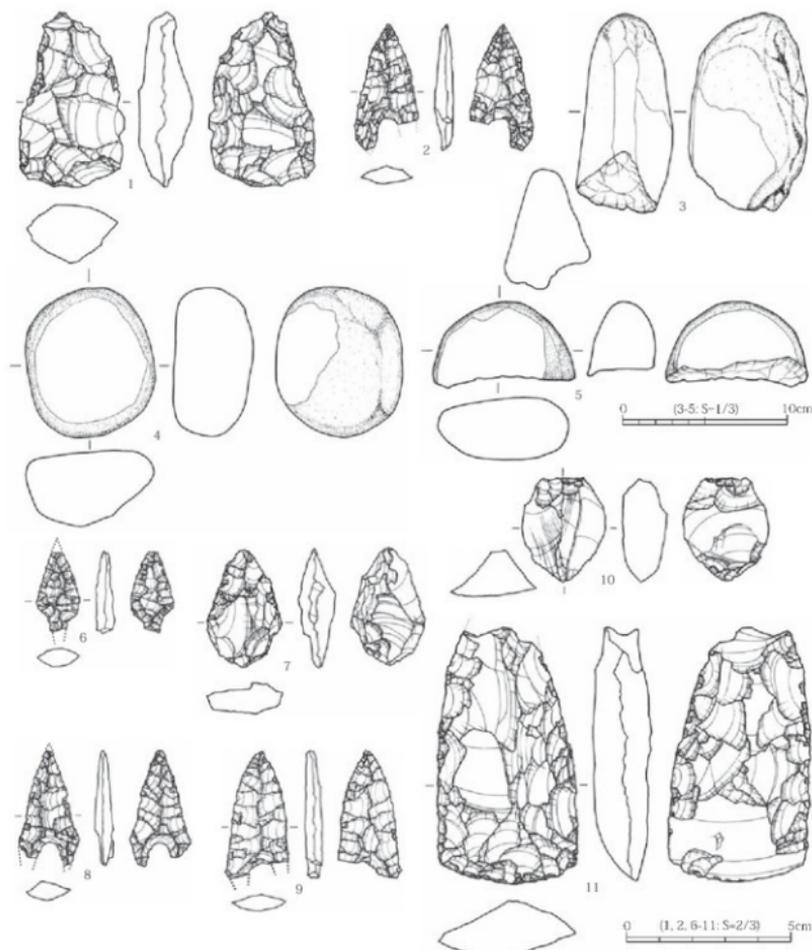


III層



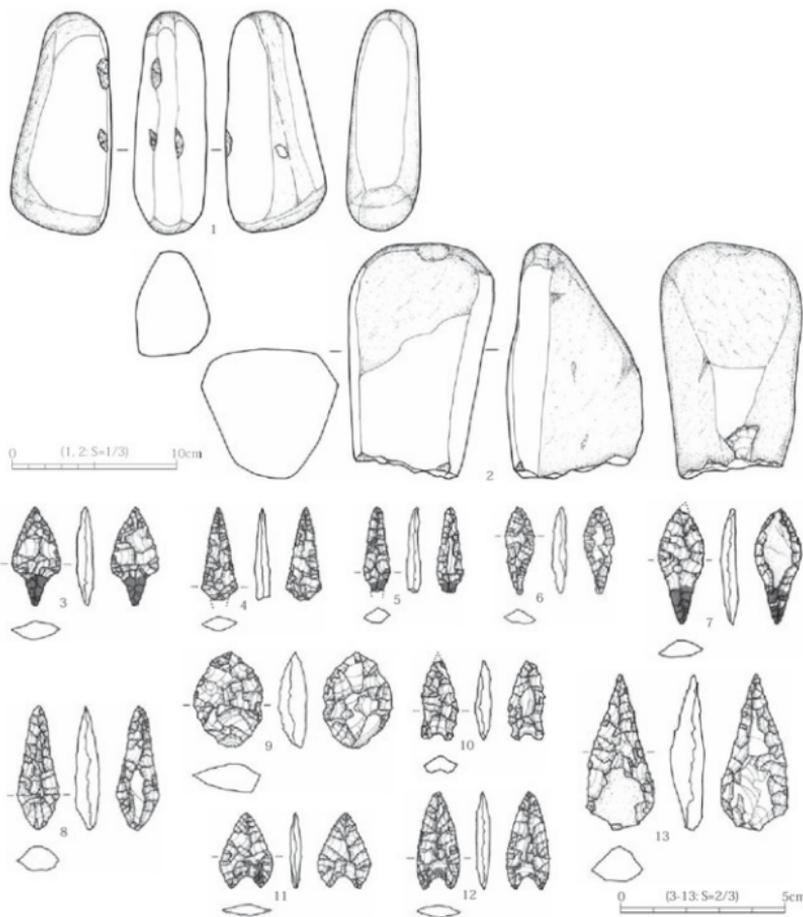
図版 142 I 区・I 区南遺物包含層 石器・石製品出土状況

153-2 (S1195)・3 (S1347)・6 (S1313) は石錐で、いずれも錐部先端が摩滅している。また、3 は錐部が再加工されている。7 (S1343) は石匙で、一边が片面からの連続する二次加工で、もう一边が片面からの連続する二次加工で刃部が作り出されている。このような製作上の特徴をもつ石匙



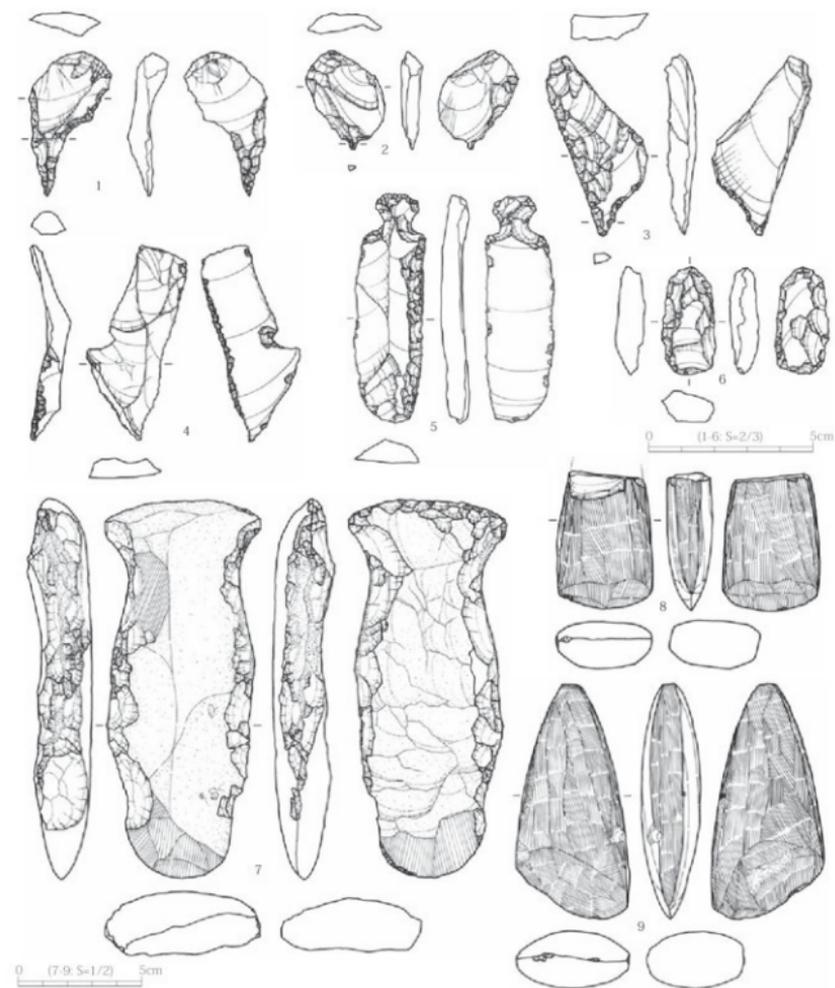
No	器種	型名	遺構 / 層	石材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	知物処理	変形	付着物	備考	写真照	登録
1	石鏃	I a	IV d・e	珉質白岩 A	54.2	31.8	16.5	24.6	完形	0	0	0		57.2	S1516
2	石鏃	IV a/2	AY108/ IV d	珉質白岩 A	37.7	19.4	5.5	2.8	かみし欠	2	0	0		57.1	S1358
3	磨石	-	AX108/ IV d	安山岩	120.9	66.6	55.7	600.0	一部欠	-	0	0	特殊磨石	57.3	S1535
4	磨石	-	AY108/ IV d	安山岩	94.8	78.0	48.6	522.0	完形	-	0	0		57.5	S1586
5	磨石	-	AX108/ IV d	安山岩	48.5	83.6	35.9	183.0	破片	-	0	0		57.4	S6413
6	石鏃	I a/3	BB107/ IV b・d	珉質白岩 A	24.4	12.7	5.0	1.4	先端・茎欠	0	0	0		57.6	S1107
7	石鏃	I c/3	IV b	珉質白岩 A	36.1	22.7	11.3	7.0	完形	0	0	0		57.7	S1004
8	石鏃	IV a/1	BC105-107/ IV b・d	珉質白岩 A	35.1	18.1	4.9	2.2	先端・かみし欠	0	0	基部		57.9	S1110
9	石鏃	IV a/2	BC107/ IV b・d	珉質白岩 A	38.5	18.5	4.7	3.0	かみし欠	0	0	0		57.8	S1119
10	楔形石鏃	I c	BD105/ IV b・d	珉質白岩 A	31.7	25.4	12.5	9.6	完形	0	0	0		57.10	S1782
11	石鏃	I a	BF106/ IV b・d	珉質白岩 A	78.7	43.0	17.1	60.7	基部欠	0	0	0		57.11	S1442

図版 143 I 区遺物包含層出土石器 (1)



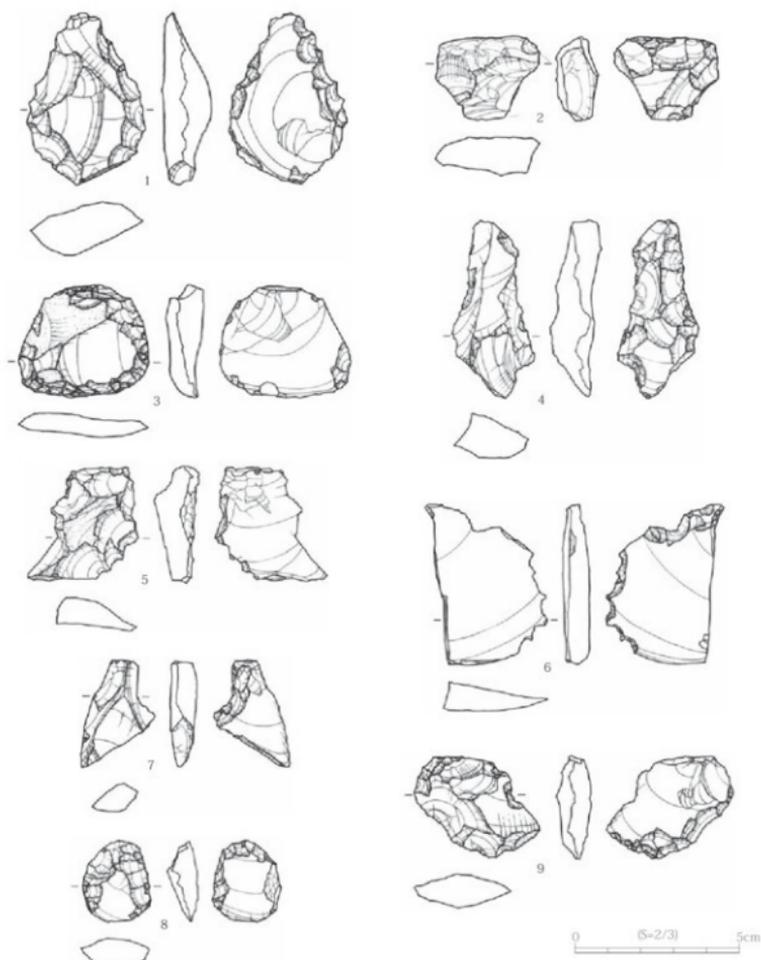
No	部種	物型	遺跡/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	残存	加熱処理	変形	付着物	備考	写真ID	登録
1	磨石	-	V b-e	安山岩	134.0	52.1	60.4	500.0	完形	-	0	0	特殊磨石	57-13	S1714
2	磨石	-	BD105/ V b・d	安山岩	137.9	86.6	81.2	1284.0	一部欠	-	0	0	特殊磨石	57-12	S1593
3	石鏃	I a 1	BG105/ V	具質頁岩 A	29.8	14.2	5.0	1.7	完形	2	0	0	葉	57-18	S1234
4	石鏃	I a 1	B-Ⅱ104/ V	具質頁岩 A	28.0	10.7	4.1	0.9	葉欠	0	0	0	向側辺削面状	57-16	S1321
5	石鏃	I b 1	BG104/ V	具質頁岩 A	25.7	7.8	4.3	0.7	葉欠	0	0	0	葉	57-19	S1218
6	石鏃	I b 2	B-Ⅱ106/ V	碧玉 B	26.3	8.8	4.2	0.9	完形	1	0	0	0	57-20	S1113
7	石鏃	I b 2	B-GH105/ V	碧玉 A	34.9	13.7	4.6	1.8	先端欠	0	0	0	葉	57-21	S1285
8	石鏃	I c 2	BH103/ V	具質頁岩 A	37.4	12.5	7.3	2.8	完形	1	0	0	0	57-17	S1153
9	石鏃	I c 1	BH104/ V	碧玉 B	28.5	20.7	7.4	4.5	完形	2	0	0	0	57-14	S1272
10	石鏃	IV b 4	BG105/ V	碧玉 A	24.0	11.6	4.5	1.0	先端欠	2	0	0	0	57-15	S1241
11	石鏃	IV b 3	BG104/ V	具質頁岩 A	22.8	15.9	3.1	0.9	完形	2	0	0	基部~かえし	57-23	S1217
12	石鏃	IV a 1	BH104/ V	碧玉 A	29.2	12.8	3.8	1.4	完形	2	0	0	基部~かえし	57-22	S1271
13	尖頭器	II	BG105/ V	具質頁岩 A	47.3	19.9	10.3	7.6	完形	0	0	0	0	57-24	S1233

図版 144 I 区遺物包含層出土石器 (2)



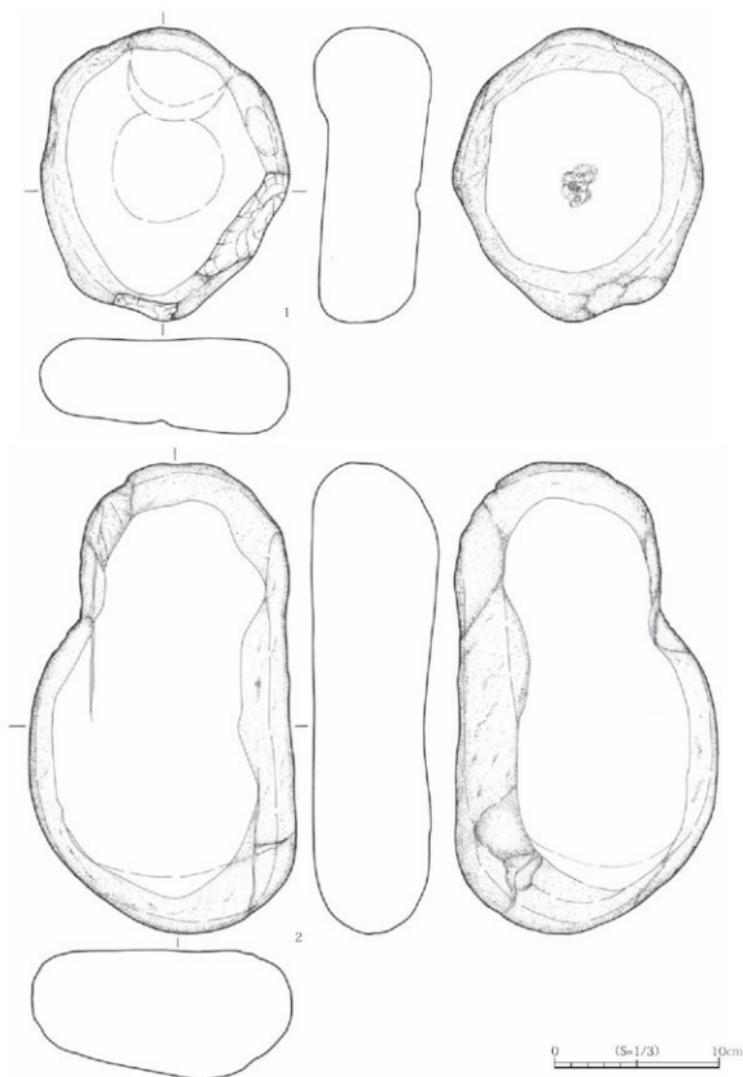
No.	器種	類型	遺構/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	残存	加熱処理	変形	付着物	備考	写真図版	登録
1	石鏃	II b-1	BF102/IV	排貫白岩 A	44.2	24.8	7.2	5.4	完形	0	0	0		57-30	S1150
2	石鏃	II c-1	BG104/IV	排貫白岩 B	30.4	24.3	6.3	3.5	完形	0	0	0		57-31	S6201
3	石鏃	II c-2	BG103/IV	排貫白岩 A	54.7	33.6	7.3	10.6	完形	0	0	0		57-32	S6122
4	石鏃	II c-2	BF106/IV	排貫白岩 B	58.2	36.2	7.3	8.5	完形	0	0	0		57-33	S6488
5	石鏃	I a-2	BH104/IV	排貫白岩 A	70.4	21.3	6.7	12.1	完形	0	0	0		58-1	S1295
6	標形石斧	II aa	BH104/IV	碧玉 A	32.8	16.3	8.4	5.8	完形	0	0	0		58-3	S1275
7	磨製石斧	II b	BH104/IV	麻吹岩	152.5	64.0	24.0	240.1	完形	0	0	0		58-4	S1481
8	磨製石斧	I	BG104/IV	白岩	55.7	38.9	18.2	78.8	基部欠	0	0	0		58-5	S1460
9	磨製石斧	I a	BH104/IV	緑色麻吹岩	96.7	45.5	23.9	132.9	完形	0	刃部内加工	0		58-6	S1488

図版 145 I 区遺物包含層出土石器 (3)



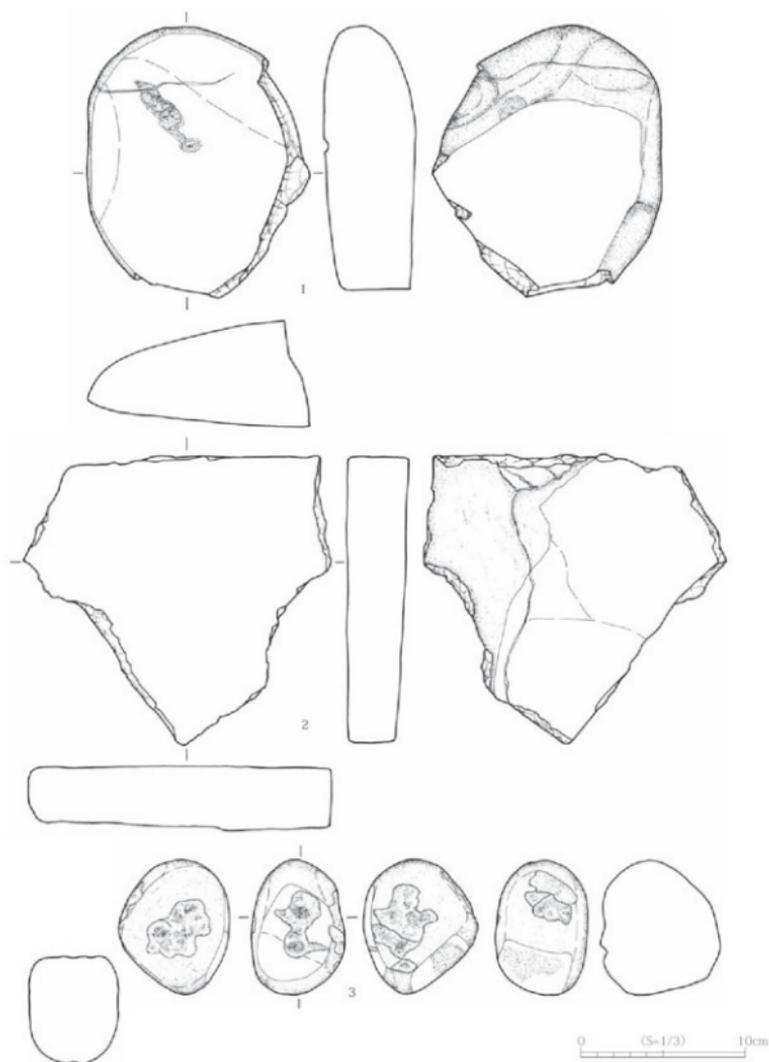
No.	器種	胎型	遺積/層	石材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	加熱処理	変形	付着物	備考	写真ID帳	登録
1	不定形石器	I	B-JK104/IV	珉質燧石B	53.1	36.3	13.4	23.0	完形	1	0	0		58-10	S1317
2	不定形石器	II c	BH104/IV	珉質燧石A	25.2	32.4	11.9	10.2	一部欠	0	0	0		58-12	S1930
3	不定形石器	III a	BH104/IV	珉質燧石A	34.4	40.1	10.4	15.1	完形	0	0	0		58-17	S1318
4	不定形石器	II c	BH103/IV	珉質燧石A	55.0	24.6	12.7	12.0	完形	0	0	0		58-11	S1988
5	不定形石器	III b	BH103/IV	碧玉A	34.5	34.8	12.2	10.6	完形	0	0	0		58-15	S1962
6	不定形石器	III b	BK103/IV	珉質燧石B	49.8	36.4	8.3	13.4	完形	0	0	0		58-18	S8212
7	不定形石器	III c	BF104/IV	珉質燧石A	33.9	22.7	7.8	4.5	一部欠	0	0	0		58-19	S6100
8	不定形石器	III d	BF103/IV	碧玉A	25.0	21.0	8.5	4.3	完形	1	0	0		58-13	S1425
9	不定形石器	III d	BH104/IV	珉質燧石B	30.8	39.2	10.5	9.9	完形	0	0	0		58-16	S1319

図版 146 I 区遺物包含層出土石器 (4)



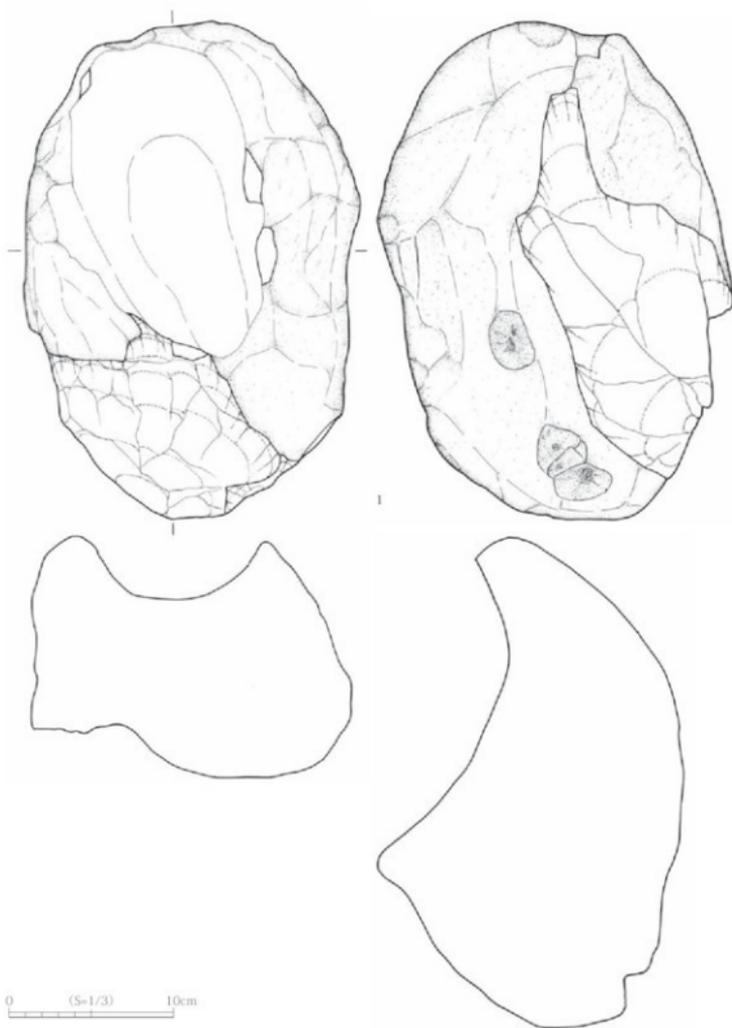
No.	品種	形状	遺構/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	現存	加熱処理	変形	付着物	備考	写真図版	作録
1	石皿	-	BH103/IV	安山岩	178.8	151.3	58.6	2460.0	完形	-	凹痕あり	0		60-1	S1644
2	石皿	-	BF105/IV	安山岩	288.0	165.5	74.6	5360.0	変形	-	0	0		59-3	S1618

図版 147 I区遺物包含層出土石器(5)



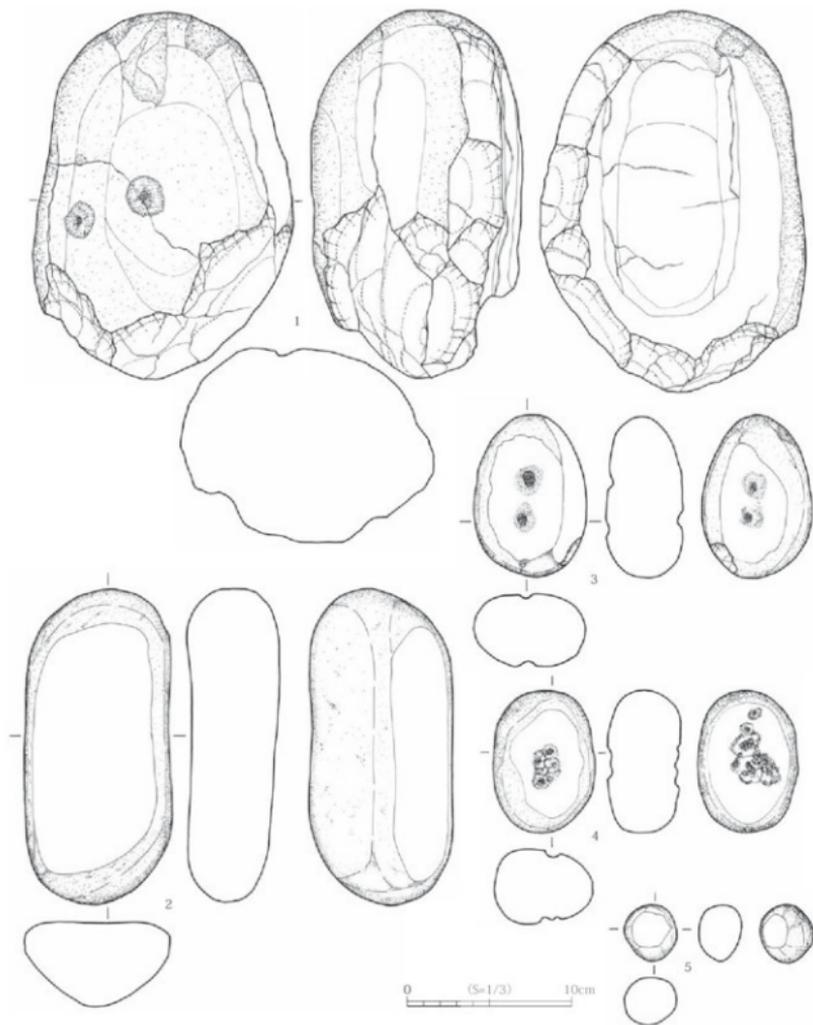
No.	品種	形状	遺構/層	石材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	保存	加熱処理	変形	付着物	備考	写真/図	登録
1	石皿	-	BH104/IV	安山岩	155.6	138.3	64.0	1997.0	一部欠	-	0	0	使用面焼熱	60-2	S1676
2	石皿	-	BH104/IV	テイサイト	175.6	184.5	41.4	1771.0	破片	-	0	0	使用面焼熱	59-1	S1678
3	磨石	-	BG105/IV	安山岩	71.2	66.9	56.2	410.6	完形	-	磨石→	0		61-12	S1639

図版 148 I区遺物包含層出土石器(6)



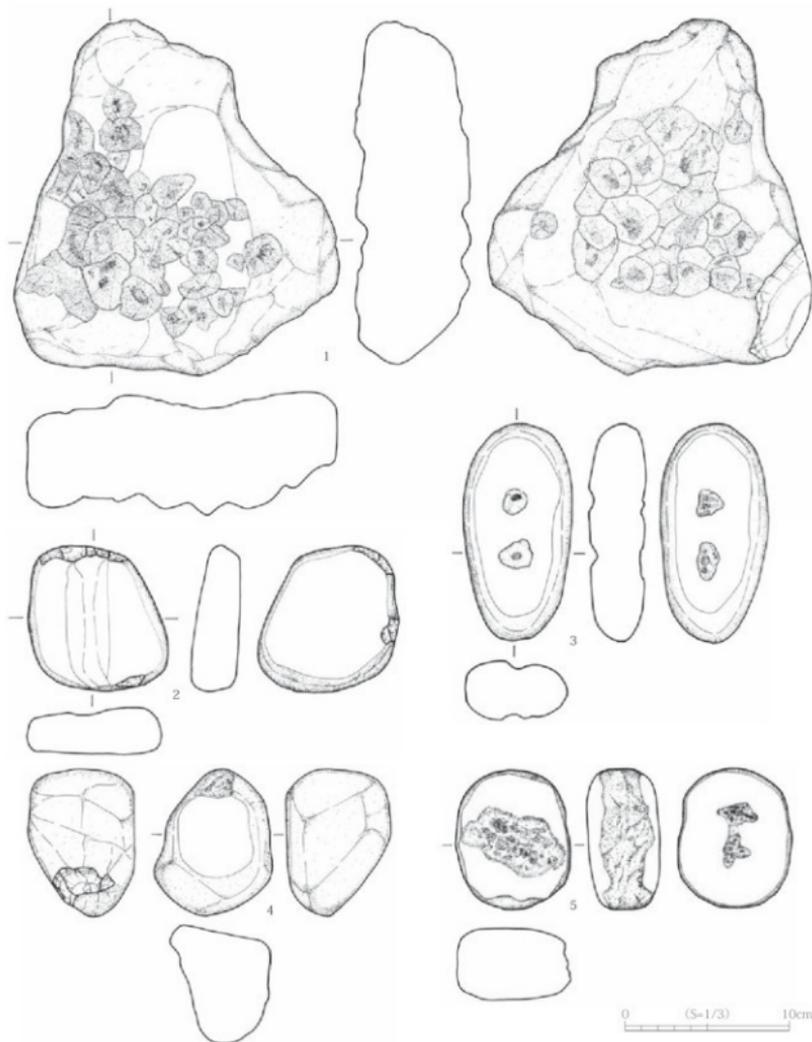
No.	品種	類型	遺構/層	石材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	加熱処理	変形	付着物	備考	写真ID	登録
1	石皿	-	B104/V	安山岩	305.4	196.0	178.5	8940.0	一部欠	-	凹痕あり	0		60.3	S1672

図版 149 I区遺物包含層出土石器(7)



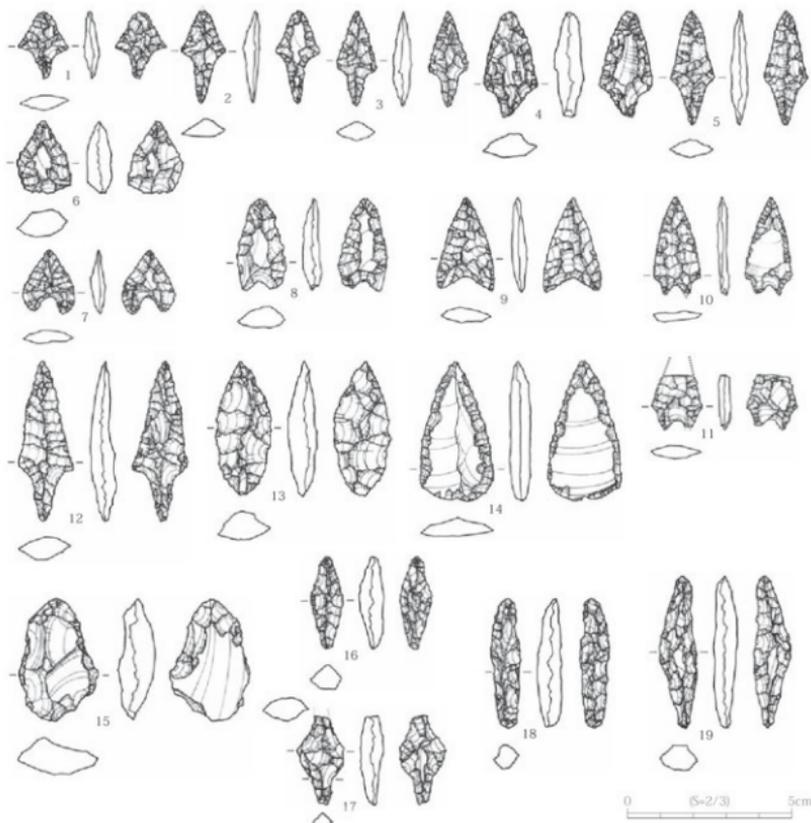
No.	形種	胎室	遺構/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	保存	加熱処理	変形	付随物	備考	写真ID	登録
1	石皿	-	BG105/IV	安山岩	226.0	153.8	129.5	5660.0	一部欠	-	凹痕あり	0		59-2	S1635
2	磨石	-	BH104/IV	安山岩	194.0	87.8	47.0	1404.0	完形	-	0	0		61-5	S1648
3	磨石	-	BH105/IV	安山岩	100.0	66.2	44.2	436.0	完形	-	凹石→	0		61-2	S1656
4	磨石	-	BF104/IV	花崗岩	87.9	60.1	45.0	373.4	完形	-	凹石→	0		61-3	S1615
5	磨石	-	BD105/IV	安山岩	35.4	31.8	27.7	34.4	完形	-	0	0		61-1	S6337

図版 150 I区遺物包含層出土石器(8)



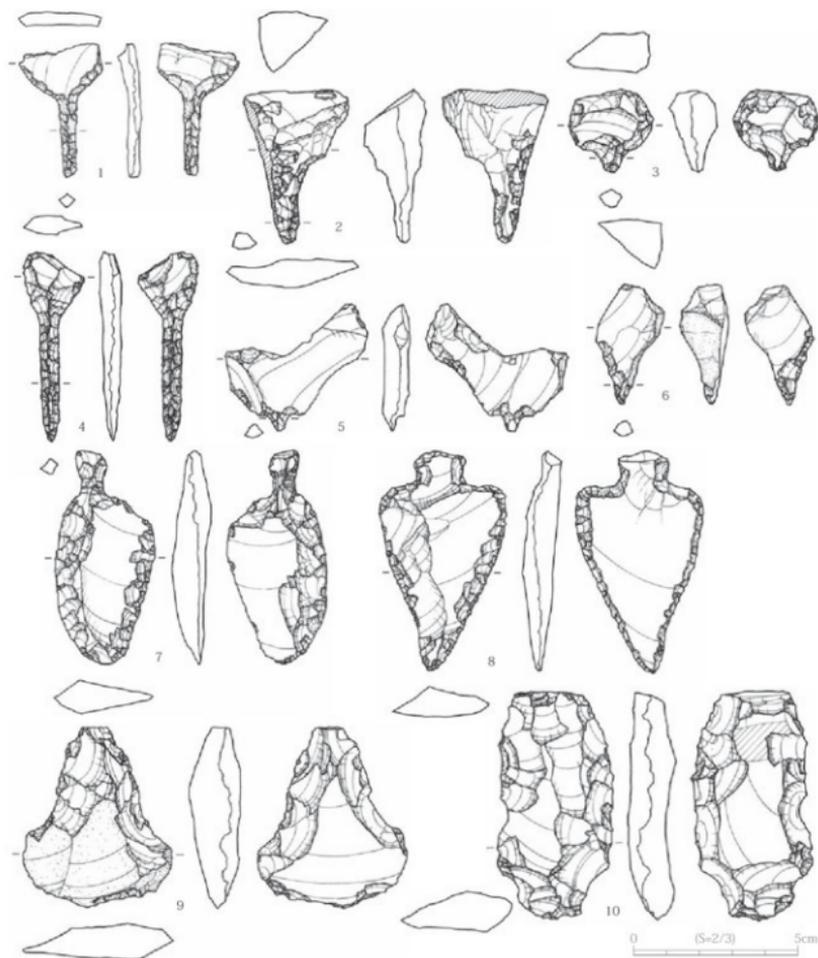
No.	器種	類型	遺構/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	残存	加熱痕跡	変形	付着物	備考	写真掲載	存続
1	凹石	-	BH103/IV	玄武岩	214.0	177.5	63.4	2580.0	一部欠	-	石胆→	0		61-9	S1645
2	凹石	-	BG105/IV	安山岩	89.8	79.4	30.0	376.0	完形	-	0	0		61-15	S6365
3	凹石	-	B-JK104/IV	デイサイト	132.2	65.3	34.6	443.0	完形	-	磨石→	0		61-6	S6378
4	凹石	-	BH105/IV	花崗岩/ベグマタイト	92.0	68.4	69.0	531.0	完形	-	磨石→	0		61-11	S1652
5	凹石	-	BF103/IV	安山岩	86.0	72.2	44.3	478.0	完形	-	凹石→磨石→	0		61-14	S1606

図版 151 | 区遺物包含層出土石器 (9)



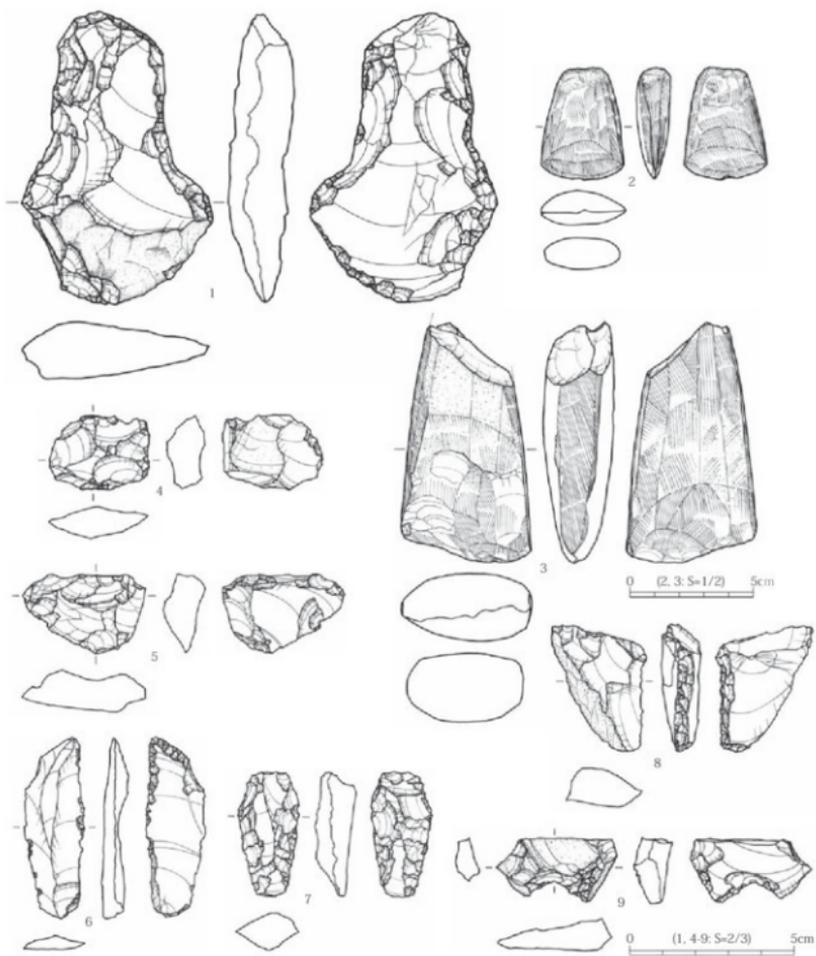
No.	器種	類型	遺積 / 層	石材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	加熱処理	変形	付着物	備考	写真図版	登録
1	石鏃	I a 2	BC106 / Ⅱ	碧玉 A	19.9	14.6	4.3	0.7	完形	2	先端内加工	0		62-2	S1111
2	石鏃	I a 2	BH103 / Ⅱ	埴貫白岩 A	28.0	13.3	5.1	1.0	先端欠	2	0	0		62-1	S1248
3	石鏃	I a 2	BE106 / Ⅱ	碧玉 B	28.5	11.8	5.3	1.2	完形	1	0	0		62-3	S1138
4	石鏃	I a 1	BE106 / Ⅱ	埴貫白岩 A	31.5	15.9	8.2	3.5	基部欠	0	0	0	先端摩滅	62-6	S1139
5	石鏃	I b 1	BH104 / Ⅱ	埴貫白岩 A	34.2	12.9	5.0	1.4	完形	2	0	0		62-4	S1263
6	石鏃	Ⅱ a	BF106 付近 / Ⅱ	埴貫白岩 A	21.7	16.4	7.3	2.4	完形	1	0	0		62-9	S1188
7	石鏃	IV a 2	BA107 / Ⅱ	玉髓	19.3	15.8	3.9	0.8	完形	1	0	0		62-10	S1104
8	石鏃	IV b 1	BC105 / Ⅱ	埴貫白岩 A	27.5	14.2	5.4	2.1	完形	0	0	0		62-11	S1109
9	石鏃	IV b 2	BE103 / Ⅱ	碧玉 A	29.3	17.2	4.2	1.6	完形	2	0	0		62-12	S1120
10	石鏃	IV b 4	BC107 付近 / Ⅱ	埴貫白岩 A	29.4	14.0	3.3	1.1	完形	0	0	0		62-13	S1116
11	石鏃	IV b 4	BF106 付近 / Ⅱ	玉髓	15.9	14.7	3.7	1.0	先端欠	2	0	0		62-14	S1193
12	尖頭器	I a	BC103 / Ⅱ	埴貫白岩 A	48.5	16.3	6.9	3.5	完形	0	0	0		62-15	S1204
13	尖頭器	I b 2	BD104 / Ⅱ	埴貫白岩 A	40.5	17.5	8.7	4.8	完形	0	0	0		62-16	S1122
14	尖頭器	Ⅱ	BD104 / Ⅱ	埴貫白岩 A	42.3	22.1	5.6	5.4	完形	1	0	0		62-17	S1121
15	尖頭器	I b 2	BE106 / Ⅱ	埴貫白岩 A	37.1	24.0	10.1	7.4	完形	0	再加工 (平両面)	0		62-18	S6188
16	石鏃	I a 2	BH104 / Ⅱ	埴貫白岩 A	27.4	9.4	7.1	1.6	完形	0	0	0	両端摩滅	62-20	S1289
17	石鏃	I a 2	BH105 / Ⅱ	埴貫白岩 B	27.2	14.1	7.1	2.0	先端欠	0	石鏃 →	0		62-25	S1278
18	石鏃	I a 1	BC107 付近 / Ⅱ	埴貫白岩 B	39.7	9.0	7.7	2.7	完形	2	0	0	両端摩滅	62-21	S1117
19	石鏃	I a 2	BH104 / Ⅱ	埴貫白岩 B	46.9	11.3	7.6	3.5	完形	1	0	0		62-22	S1264

図版 152 | 区遺物包含層出土石器 (10)



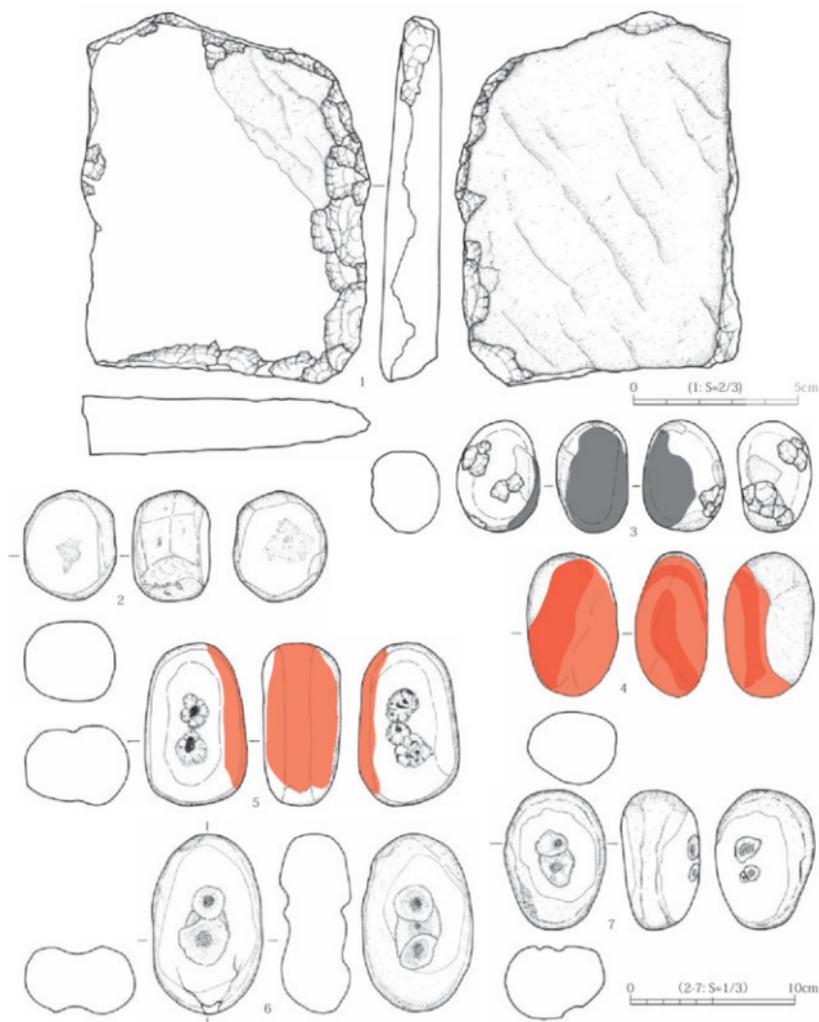
No.	器种	类型	器类/层	石种	长(mm)	宽(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	残存	加热处理	变形	附着物	编号	写真张数	存数
1	石镞	II a 1	BC103/Ⅲ	块状白岩 A	40.4	25.0	4.2	2.5	先端欠	1	0	0	62-23	S1208	
2	石镞	II a 1	BF106付添/Ⅲ	块状白岩 B	47.1	31.8	17.4	16.1	完整	0	0	0	62-24	S1195	
3	石镞	II a 2	BK103付添/Ⅲ	块状白岩 A	25.1	25.2	12.7	8.0	完整	0	先端再加工	0	62-26	S1347	
4	石镞	II a 1	BF106付添/Ⅲ	块状白岩 A	58.3	18.3	6.1	3.6	完整	0	0	0	62-19	S1189	
5	石镞	II a 1	BE104/Ⅲ	块状白岩 A	39.0	43.7	8.5	8.6	先端欠	0	0	0	62-28	S6198	
6	石镞	II a 2	BJ104/Ⅲ	块状白岩 A	36.8	19.8	13.3	6.4	完整	0	0	0	62-27	S1313	
7	石镞	II a 2	BK103付添/Ⅲ	块状白岩 A	65.9	30.9	10.6	15.8	完整	0	0	刃部	62-29	S1343	
8	石镞	I a 1	BC107付添/Ⅲ	块状白岩 A	67.7	39.0	9.2	20.2	完整	0	0	0	62-30	S1118	
9	石镞	I c	BH104/Ⅲ	块状白岩 A	55.9	46.1	15.9	29.4	完整	0	0	0	62-31	S1265	
10	石镞	I a	BC102/Ⅲ	块状白岩 A	70.8	35.8	13.5	36.9	完整	0	刃部	刃部	62-32	S1443	

图版 153 | 区遺物包含層出土石器 (11)



No.	器种	编号	遗址/层	石材	长 (mm)	宽 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	加工情况	刃部	刃部物	编号	层位/坑	作图
1	石镞	Ⅱ	BB107 衬道 / Ⅲ	碧玉 A	88.4	57.2	17.9	80.3	完整	0	0	0		62-33	S1406
2	磨制石斧	Ⅰ b	BC105/ Ⅲ	崂山岩	45.4	33.7	14.2	30.5	完整	0	0	0		63-2	S1406
3	磨制石斧	Ⅰ	BF103/ Ⅲ	石英	98.5	52.4	28.3	198.7	基部欠	0	刃部内加工	0		63-1	S1423
4	楔形石器	Ⅱ ab	BC105/ Ⅲ	珠霞白岩 A	23.0	30.8	11.0	7.2	完整	0	0	0		63-5	S1768
5	楔形石器	Ⅰ b	BH104/ Ⅲ	碧玉 B	24.2	37.2	11.4	9.7	完整	0	0	0		63-4	S1788
6	不定形石器	Ⅰ	BH105/ Ⅲ	珠霞白岩 A	54.8	18.3	5.5	5.3	完整	0	0	0		63-6	S1270
7	不定形石器	Ⅱ a	BC103/ Ⅲ	珠霞白岩 B	38.1	18.4	11.8	7.3	完整	0	0	0		63-12	S1445
8	不定形石器	Ⅲ a	BC105/ Ⅲ	珠霞白岩 B	38.3	29.5	10.6	11.9	完整	0	0	0		63-9	S6089
9	不定形石器	Ⅲ c	BF106 衬道 / Ⅲ	珠霞白岩 A	20.1	36.8	9.8	5.8	一部欠	0	0	0		63-13	S6064

图版 154 | 区遗物包含层出土石器 (12)



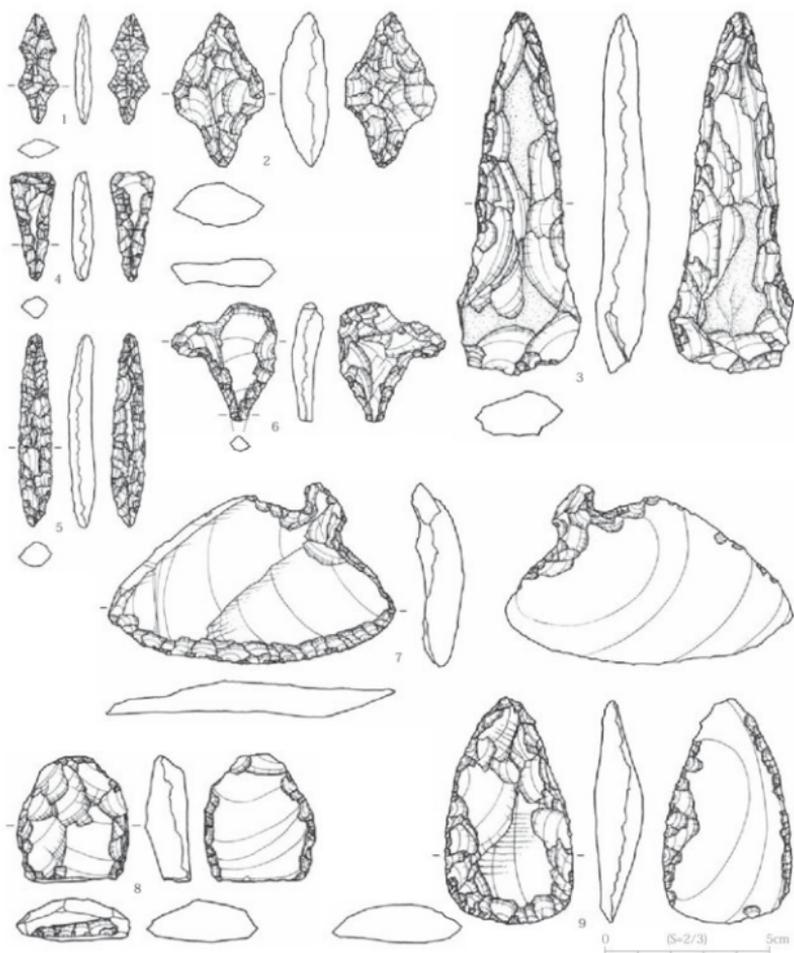
No.	形種	類型	遺構/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	残存	加熱処理	変形	付着物	備考	写真ID	登録
1	不整形石器	Ⅲ d	BK103/Ⅲ	デイサイト	111.6	87.3	19.2	285.6	完形	0	石皿→	0	板状石皿か	63-15	S1688
2	礫石	-	Ⅲ	安山岩	68.3	57.0	46.4	276.5	完形	-	磁石→	0		63-17	S1702
3	礫石	-	BG104/Ⅲ	安山岩	69.0	50.6	42.4	226.1	完形	-	0	黒色付着物		63-16	S1630
4	礫石	-	BD107/Ⅲ	安山岩	88.3	53.9	44.0	274.0	完形	-	0	ベンガラ		63-20	S1595
5	礫石	-	BK103付着/Ⅲ	安山岩	101.0	62.2	46.6	490.0	完形	-	門石→	ベンガラ	顔料分析 No.2	63-23	S1531
6	門石	-	BK103付着/Ⅲ	安山岩	117.6	67.1	39.3	425.0	完形	-	礫石→	0		63-24	S1692
7	門石	-	BH103/Ⅲ	安山岩	87.9	62.8	47.7	355.3	完形	-	礫石→	0		63-19	S1643

図版 155 | 区遺物包含層出土石器 (13)



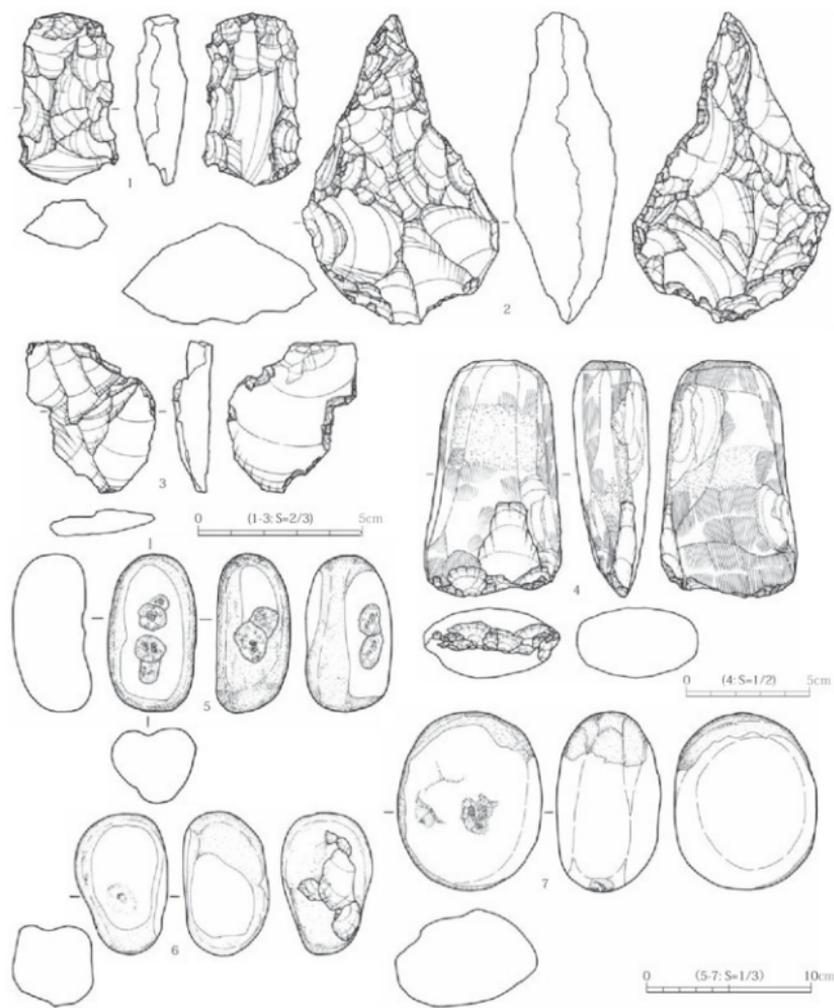
No.	品種	類型	遺構/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	残存	加熱処理	変形	付着物	備考	写真掲載	存続
1	石皿	-	BH103/Ⅲ	安山岩	327.5	258.0	101.0	12400.0	変形	-	0	ペン刀ラ	原料分析 No. 6	64-2	S1530
2	石皿	-	BK103/Ⅲ	軽石	109.0	73.2	74.8	251.6	変形	-	0	0		64-3	S1687
3	砥石	-	BK103付添/Ⅲ	安山岩	39.4	34.9	22.1	39.2	破片	-	0	0		63-21	S6382

図版 156 I区遺物包含層出土石器 (14)



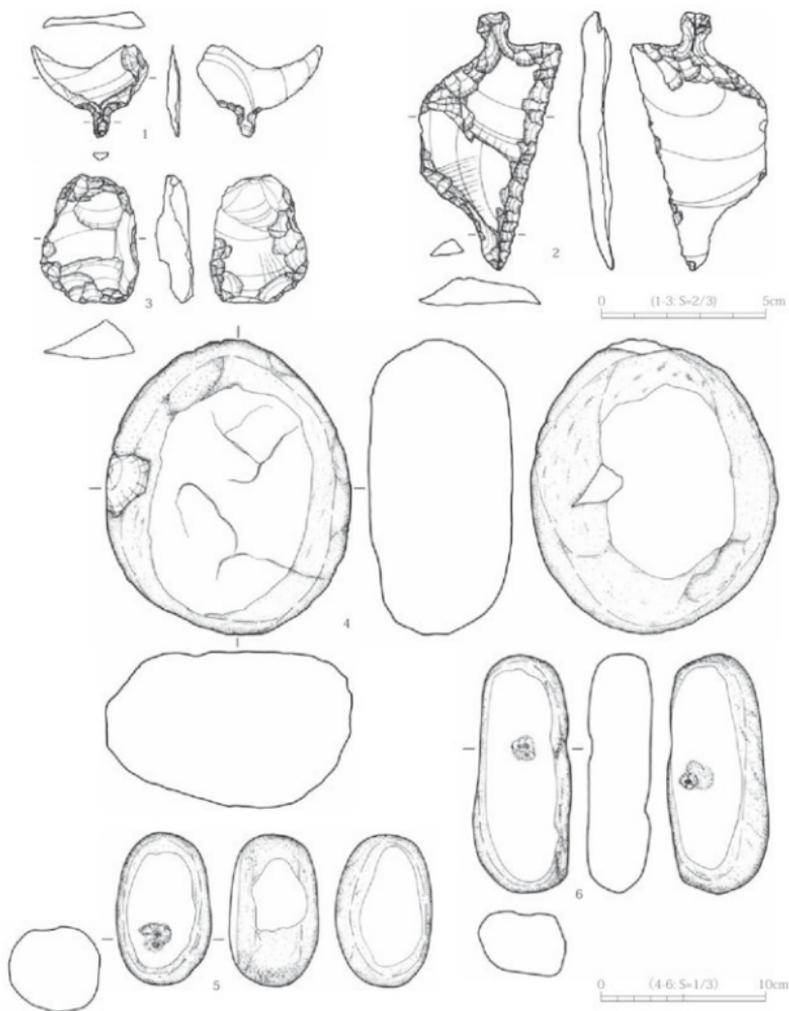
No	器種	類型	遺構/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	残存	加熱処理	変形	付着物	備考	写真ID	登録
1	石鏢	I b ①	BF106 付着 / I	珉質頁岩 A	33.0	12.0	4.8	1.5	完形	2	0	0	内側刃に残り	64-4	S1176
2	尖頭器	I a	BF106 付着 / I	縞紋判瀝輝映岩	46.3	27.2	13.2	11.4	完形	0	0	0		64-8	S1175
3	尖頭器	Ⅲ	BE104/ 覆乱	碧玉 B	111.7	37.9	13.9	48.9	完形	0	0	0		64-10	S1412
4	石鏢	Ⅱ b ①	覆乱	珉質頁岩 A	32.9	13.2	6.1	2.5	完形	0	石鏢→	鏢部微塵		64-5	S1007
5	石鏢	I a ①	I	珉質頁岩 A	59.0	9.8	7.4	5.1	完形	0	0	0	先端摩滅	64-6	S1363
6	石鏢	Ⅱ b ②	B4M103/ I	珉質頁岩 A	36.4	32.6	7.4	7.4	先端欠	0	石鏢→	0		64-7	S1355
7	石鏢	Ⅱ a	I	珉質頁岩 A	54.2	87.6	13.3	50.2	完形	0	0	0	先端摩滅	64-9	S1377
8	石鏢	I b	B-KL103/ I	珉質頁岩 A	39.3	34.0	13.5	20.1	完形	0	刃部内加工	0		64-14	S1327
9	石鏢	I a	BD106/ 不明	珉質頁岩 A	69.3	39.3	14.6	34.7	完形	0	0	0		64-13	S1746

図版 157 | 区 I 層ほか出土石器 (1)



No.	品種	加工	遺構/層	石材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	保存	加熱処理	変形	付着物	備考	写真図版	付録
1	石炭	Ⅲ	遺構確認	埴谷頁岩 A	52.9	30.8	5.2	23.4	完形	0	0	0		64-12	S1061
2	石炭	Ⅰ	不明	埴谷頁岩 B	95.0	59.9	32.0	124.9	完形	0	基部・刃部内加工	0		65-1	S1510
3	不定形石器	Ⅲ c	不明	埴谷頁岩 B	46.0	40.2	8.6	13.1	完形	0	0	0		64-15	S1528
4	磨製石斧	I b	遺構確認	安山岩	97.5	55.5	30.4	254.0	完形	0	0	0	刃部の割傷は使用による	65-3	S1521
5	凹石	-	Ⅰ	安山岩	97.3	52.9	45.6	362.0	完形	-	磨石→	0		65-6	S6407
6	磨石	-	BF105/遺構確認	安山岩	86.2	56.4	49.8	369.9	完形	-	凹石→	0		65-5	S1619
7	磨石	-	BD105/遺構確認	安山岩	108.0	85.5	67.2	888.0	完形	-	凹石→	0		65-7	S1584

図版 158 | 区 1 層ほか出土石器 (2)



No.	石种	类型	遗物/层	石材	长(mm)	宽(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	残存	加热处理	变形	附着物	编号	写真ID	存储
1	石砾	II c 1)	SX1209/ III	珉质白岩A	29.4	35.4	3.9	2.2	完形	0	0	0	65-8	S6419	
2	石砾	I a 3)	SX1209/ III	珉质白岩A	78.6	43.5	8.0	20.6	完形	0	0	0	65-10	S6421	
3	不定形石砾	II a 3)	I 区南 / I	珉质白岩A	38.6	30.2	9.9	10.8	完形	0	0	0	65-9	S6427	
4	石砾	-	SX1209/ 遺構確認	石英质岩	179.5	147.8	85.5	3640.0	-	-	0	0	65-13	S6452	
5	磨石	-	SX1209/ 遺構確認	花崗岩	92.8	57.3	54.6	449.0	完形	-	凹台→	0	65-11	S6434	
6	磨石	-	SX1209/ 遺構確認	安山岩	147.3	58.4	37.0	583.0	完形	-	凹台→	0	65-12	S6439	

图版 159 | 区南出土石器

は、縄文時代早期末～前期前葉にかけて東日本の広範囲の地域で見られる(秦:1991)。また、つまみ部の挟みの部分で見られる黒色付着物の残存状況は、紐を巻きつけた痕跡に類似する。10(S1443)は石筥で、刃部が摩滅した後に再加工されている。154-3(S1423)は磨製石斧で、刃部が破損後に再加工された痕跡がみられる。155-1(S1688)は不定形石器で、石皿の破片の縁辺に連続する二次加工を施している。このような形態の石器は、弥生時代に見られる板状石器に類似する。3(S1630)は磨石で、使用面の一部に黒色の付着物が残る。4(S1595)・5(S1531)は磨石で、4は使用面全体に、5は一部に赤色の付着物がみられる。156-1(S1530)は石皿で、使用面に赤色の付着物が残る。159-2(S6421)は石匙で、先端部が尖頭状を呈しているが、側辺部も連続する二次加工により刃部が作出されている。

【Ⅱ層・Ⅰ層ほか】(図版157・158、159-3～6) ツール376点、剥片1,133点、石核171点の計1,680点出土している。157-1(S1176)は石鎌で、両側辺に挟みを入れることにより茎状の突起を2個もつ形態になる。4(S1007)は石鎌で、石鎌を転用しており、先端が摩滅している。5(S1363)は石鎌で、鎌部先端が摩滅している。6(S1355)は石鎌で、石匙を転用している。8(S1327)は石筥で、刃部が大きく破損した後に、折れ面に二次加工を施して刃部を作出している。158-2(S1510)は石筥で、基部と刃部が再加工されている。4(S1521)は磨製石斧で、刃部には使用による剥離面が多数見られる。

#### ②平面分布

図版142は、Ⅰ区におけるグリッド別の石器・石製品出土状況である。包含層全体では調査区全体に広く分布しているが、特にBF106～BG105～BI104～BK103といった現道に沿うグリッドで石器・石製品が特に多く出土している。ただし、Ⅲ層とⅣ層それぞれの分布をみると、Ⅳ層ではBG104およびBH104を中心とした範囲に集中するが、Ⅲ層では現道に沿うように集中域が長く伸びる傾向がみられ、それぞれの平面分布状況に差異がみられる。

Ⅲ層およびⅣ層出土の剥片に限定すると、現道に沿うグリッドで碧玉の割合が大きい傾向がみられる。これはⅢ層とⅣ層の集中域の差異に類似する。また、被熱の痕跡の見られる剥片は、Ⅰ区の東半部でその割合が大きくなる。

## (2) 遺物包含層2

合計913点出土している。うち、ツール201点、剥片643点、石核69点ある。層位別の器種組成および石材組成を第33～35表に示している。石器の個別の説明についてはⅠ区同様、一部を除き省略した。

#### ①層位別出土状況

【Ⅳd層】磨製石斧の基部破片1点と剥片1点が出土している。

【Ⅳ層】(図版161-1～6) ツール31点、剥片52点、石核9点の計92点出土している。ツールは、不定形石器(12点)や磨石(7点)、石皿(6点)がやや多く見られる。5(S2151)は磨石で、円礫の平坦面のほかに稜も磨面として使用している。

第 33 表 II 区遺物包含層の層別器種組成

層位	石鏝	土鏝	石鏟	石刀	打製石斧	磨製石斧	磨製石鏟	不定形石鏟	石鏟	磨石	凹石	黄石	磨石	トール刀	削刀	石核	石部
1層	2	1	1			1	7	3	1					17	52	6	75
2層	1	1				1	10							13	28	4	45
3層	16		1	2		3	2	23	7	11	1			66	242	30	338
4層	3	1				1		12	6	7				31	52	9	92
その他	12	4	6	1		3	6	37			4			73	268	20	361
総計	34	7	7	1	3	0	8	10	39	16	23	1	0	201	643	69	913

第 34 表 II 区遺物包含層出土ツールの層別別石材組成

層位	珪石	黒色珪石	白珪	珪化凝灰岩	珪質凝灰岩	凝灰岩	碧玉	赤碧玉	玉髄	緑色片岩	黒曜石	サイズ石	燧石	花崗岩	総計
1層	9	1		1	1			1				2	2		17
2層	6	1	1	1			2	2							13
3層	13	1	3	2	4	5	8	5	5	1		1	16	2	66
4層	9	2	3		1	2			1	1			4	7	31
その他	32	3	1	3	7	3	9	4	5	1	1	1	1	3	73
総計	69	8	8	7	13	10	19	13	11	3	1	8	29	2	201

第 35 表 II 区遺物包含層出土剥片・石核の層別別石材組成

II 区遺物包含層出土剥片・石核 層別別石材組成 (点数)																
層位	珪石	黒色珪石	白珪	碧玉	赤碧玉	玉髄	珪化凝灰岩	珪質凝灰岩	凝灰岩	珪石	燧石	黒曜石	粘板岩	緑色片岩	総計 (点)	
1層	25		15	11	4	3									58	
2層	21		4	4	2							1			32	
3層	92	1	4	64	30	39	16	11	3	2	5	3		1	272	
4層	22	1	8	11	6	7	1	1	1		1				48	
その他	112	17	6	20	27	31	10	2	5	4	1	1	1	1	288	
総計 (点)	273	19	18	164	78	83	30	14	9	6	7	6	2	2	712	

II 区遺物包含層出土剥片・石核 層別別石材組成 (重量)																
層位	珪石	黒色珪石	白珪	碧玉	赤碧玉	玉髄	珪化凝灰岩	珪質凝灰岩	凝灰岩	珪石	燧石	黒曜石	粘板岩	緑色片岩	総計 (g)	
1層	142.3		137.6	87.3	6.6	5.2									379.0	
2層	142.1		18.3	18.1	6.2							3.2			187.9	
3層	727.3	5.6	43.2	721.3	133.0	126.1	108.0	64.8	15.4	4.4	135.2	32.7		1.0	83	
4層	293.0	1.7	604.9	109.1	129.0	34.3	0.3	73.0	86.2		1.8	51.7			2,506.5	
その他	5.4														5.4	
その他	569.9	102.2	51.4	543.4	203.2	120.0	18.0	67.1	20.4	28.0	2.9	5.0	4.4	2.1	1,788.0	
総計 (g)	1,880.0	109.5	699.5	1,529.7	1,712.1	293.2	131.5	204.0	122.0	32.4	139.9	89.4	7.6	3.1	6,963.1	

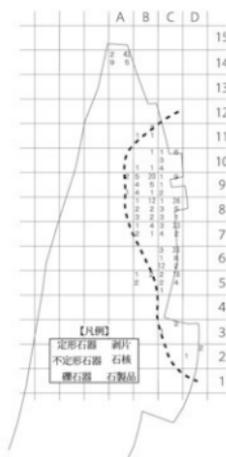
II 区遺物包含層出土剥片 層別別石材組成 (点数)																
層位	珪石	黒色珪石	白珪	碧玉	赤碧玉	玉髄	珪化凝灰岩	珪質凝灰岩	凝灰岩	珪石	燧石	黒曜石	粘板岩	緑色片岩	総計 (点)	
1層	25		12	10	4	3									52	
2層	19		4	3	2										28	
3層	80	1	4	58	26	34	15	11	3	2	3	3		1	242	
4層	20	1	6	10	5	5	1		1		1	2			52	
その他	1		6	63	26	28	10	2	5	4	1	1	1	1	1	
その他	104	16	6	63	26	28	10	2	5	4	1	1	1	1	268	
総計 (点)	247	18	16	147	70	73	29	13	9	6	3	6	1	2	643	

II 区遺物包含層出土剥片 層別別石材組成 (重量)																
層位	珪石	黒色珪石	白珪	碧玉	赤碧玉	玉髄	珪化凝灰岩	珪質凝灰岩	凝灰岩	珪石	燧石	黒曜石	粘板岩	緑色片岩	総計 (g)	
1層	110.3		98.0	27.1	6.6	5.2									247.2	
2層	120.5		18.3	9.1	6.2										154.1	
3層	367.5	5.6	43.2	630.7	83.2	71.6	97.6	64.8	15.4	4.4	12.5	32.7		1.0	83	
4層	218.2	1.7	300.6	94.9	119.5	11.7	0.3	73.0	86.2		1.8	51.7			1,438.5	
その他	5.4														5.4	
その他	483.2	90.5	51.4	431.5	190.4	78.6	18.0	67.1	20.4	28.0	2.9	5.0	4.4	2.1	1,473.5	
総計 (g)	1,305.1	97.8	395.2	1,273.4	329.3	174.7	121.1	131.9	122.0	32.4	17.2	89.4	4.4	3.1	83	

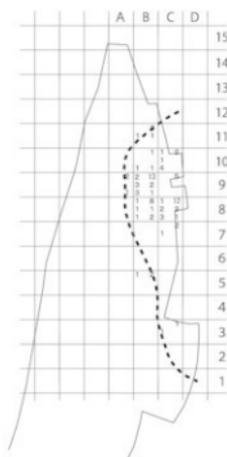
II 区遺物包含層出土石核 層別別石材組成 (点数)											
層位	珪石	黒色珪石	白珪	碧玉	赤碧玉	玉髄	珪化凝灰岩	珪質凝灰岩	石核	黒曜石	総計 (点)
1層	2			3	1						6
2層										1	1
3層	12			6	4	3	1		2		30
4層	2		2	1	1	2		1			9
その他	8	1		7	1	3					20
総計 (点)	26	1	2	17	8	10	1	1	2	1	69

II 区遺物包含層出土石核 層別別石材組成 (重量)											
層位	珪石	黒色珪石	白珪	碧玉	赤碧玉	玉髄	珪化凝灰岩	珪質凝灰岩	石核	黒曜石	総計 (g)
1層	32.0			39.6	60.2						131.8
2層	21.6				9.0					3.2	33.8
3層	359.8			90.6	69.8	54.5	10.4		122.7		707.8
4層	74.8		304.3	14.2	123.0	22.6		73.0			1,719.9
その他	86.7	11.7		111.9	12.8	41.4					264.5
総計 (g)	574.9	11.7	304.3	256.3	1382.8	118.5	10.4	73.0	122.7	3.2	2,857.8

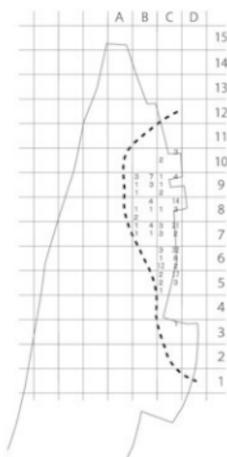
グリッド全体  
(遺構確認・表土等を含む)



IV層



III層



図版 160 II区遺物包含層石器・石製品出土状況

【III層】(図版 161-7～11, 162) ツール 66 点、剥片 242 点、石核 30 点の計 338 点出土している。剥片石器では不定形石器 (23 点) と石鏃 (16 点) が、礫石器では磨石 (11 点) と石皿 (7 点) が多くみられる。161-7 (S2206) は石鏃で、先端が錐状を呈する。8 (S2049) は石鏃で、両側辺が鋸歯状に加工されている。9 (S2209) は石鏃で、周縁が再加工により成形されている。

【II層・I層ほか】(図版 163-1～10) ツール 103 点、剥片 348 点、石核 30 点の計 481 点出土している。3 (S2036) は石鏃で、錐部先端が摩滅している。6 (S2005) は磨製石斧で、研磨による成形が部分的で剥離面を大きく残す。また、研磨後にも剥離による成形が認められる。

#### ②平面分布

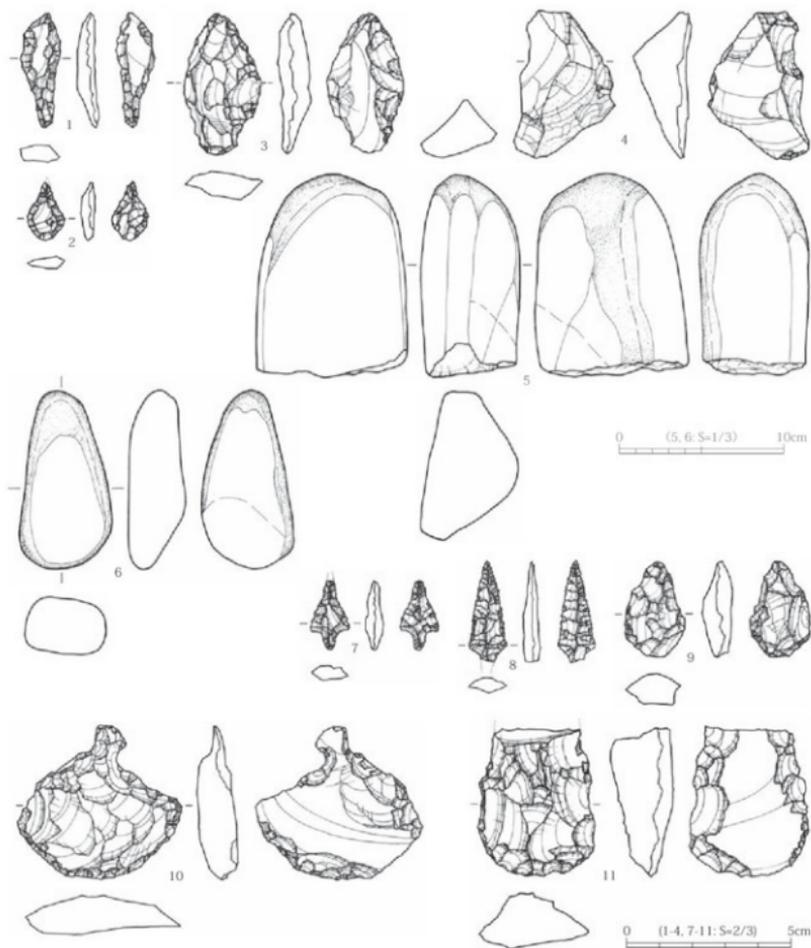
図版 160 は、II区におけるグリッド別の石器・石製品出土状況である。包含層全体では明確な集積域はみられず広く分布している。ただし、III層とIV層それぞれの分布をみると、IV層では 8 列より北側に集中するが、III層では C5～C8 に集積域がみられ、異なる分布状況となる。

注 上層水洗で回収された 破片を除く。

## 4. 土偶・土製品

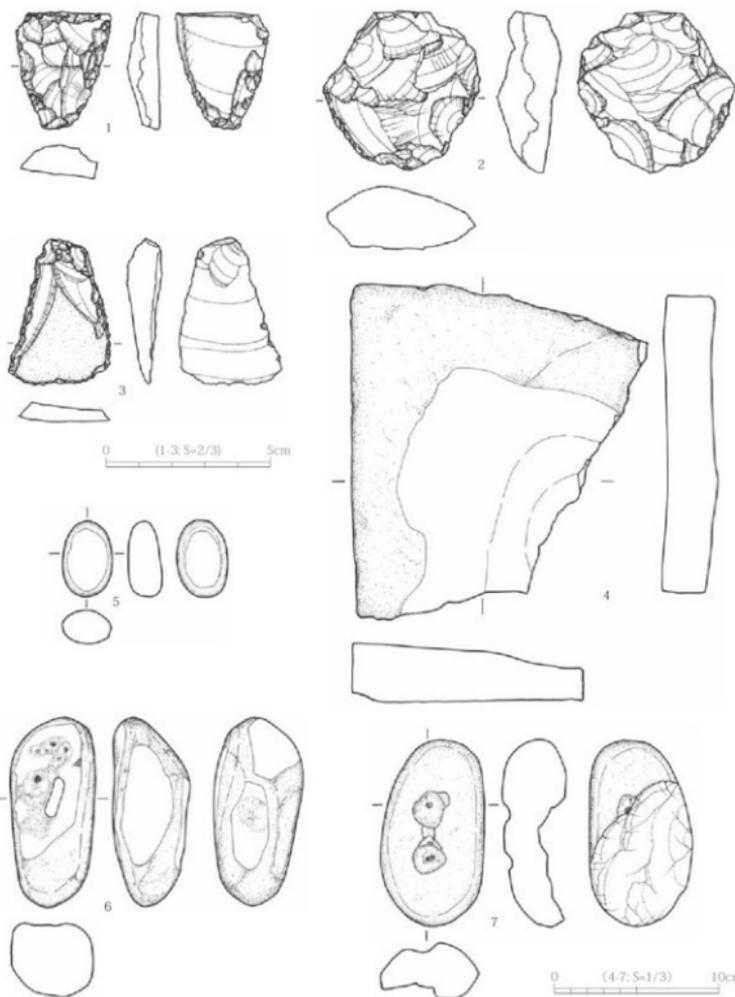
### ①土 偶

15 点出土している。いずれも破片資料で全体がわかるものではなく、頭から上半部、胴部、腕部、脚部が出土している。いずれも中実土偶である。なお、図版 165-3 は土偶脚部としたが、裏面の沈線、



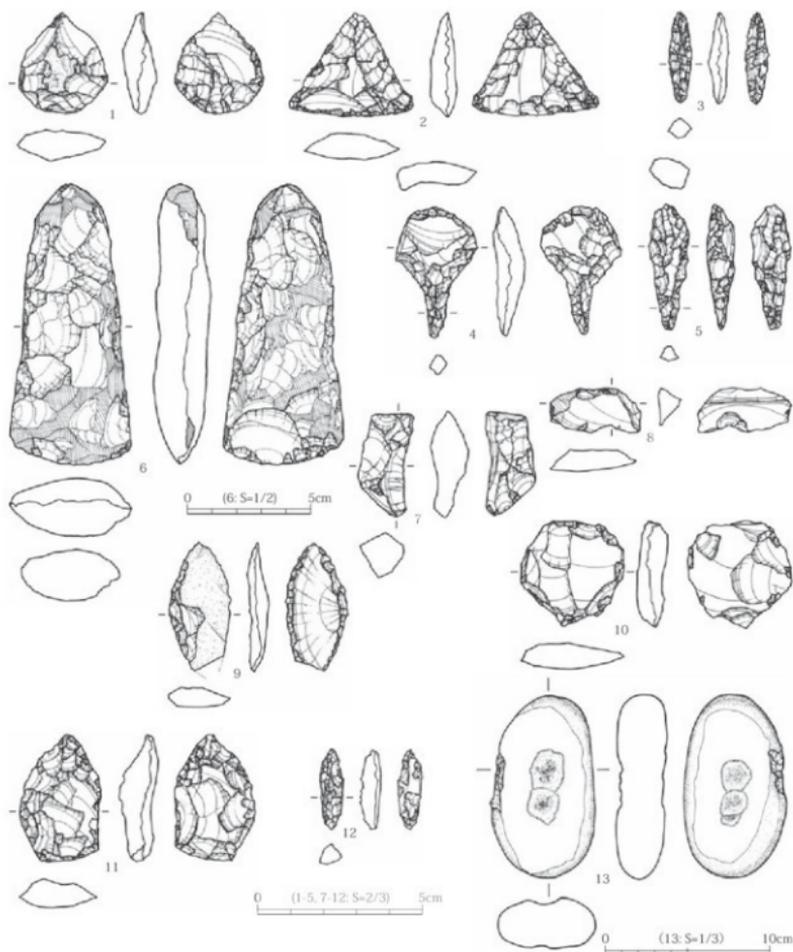
No	器種	類型	遺積/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	残存	加熱処理	変形	付着物	備考	写真図版	登録
1	石鏃	1 b 2	B-9/Ⅳ	貝質頁岩 A	35.0	12.1	5.0	2.2	完形	0	0	0		66-2	S2047
2	石鏃	1 c 1	B-5/Ⅳ	貝質頁岩 A	17.3	11.1	4.1	0.6	完形	1	0	0		66-1	S2045
3	尖頭器	1 b 2	B-8/Ⅳ	貝質頁岩 A	43.2	23.6	7.6	7.6	完形	0	0	0		66-3	S2042
4	不定形石器	Ⅲ c	B-8/Ⅳ	頁岩	39.4	39.2	16.1	15.2	完形	0	0	0		66-4	S2088
5	磨石	-	C-10/Ⅳ	安山岩	120.0	89.9	55.5	1022.0	一部欠	-	0	0	特殊磨石	66-5	S2151
6	磨石	-	C-8/Ⅳ	安山岩	108.6	55.5	27.9	284.0	完形	-	0	0		66-6	S2169
7	石鏃	1 a 1	Ⅲ	玉髓	20.7	11.4	4.5	0.7	先端欠	1	0	0	先端鎌状	66-8	S2206
8	石鏃	1 a 1	B-7/Ⅲ	碧玉 B	30.8	11.4	4.7	1.2	基部欠	2	0	0	両側刃鋸面状	66-11	S2049
9	石鏃	1 c 1	Ⅲ	碧玉 A	29.3	18.5	8.8	4.5	完形	0	0	0	周縁再加工	66-12	S2209
10	石鏃	Ⅱ a	C-5/Ⅲ	貝質頁岩 A	47.1	50.0	10.9	21.3	完形	0	0	0		66-14	S2025
11	石鏃	1 a	C-9/Ⅲ	安山岩	44.7	35.2	18.5	27.2	基部欠	0	0	0		66-15	S2009

図版 161 Ⅱ区遺物包含層出土石器(1)



No	器種	類型	遺構/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	保存	加熱処理	形状	付着物	備考	写真枚	登録
1	不定形石器	Ⅱb	C-8/Ⅱ	具質頁岩A	35.9	28.3	9.0	10.4	変形	0	0	0		66-13	S2017
2	不定形石器	Ⅱb	C-7/Ⅱ	具質頁岩B	49.1	47.4	17.1	39.8	変形	0	0	0		66-17	S2016
3	不定形石器	Ⅱc	C-7/Ⅱ	具質頁岩A	44.6	31.3	9.8	9.8	変形	0	0	0		66-16	S2011
4	石器	-	C-6/Ⅱ	安山岩	206.7	176.6	37.0	20100	破片	-	0	0		66-20	S2176
5	磨石	-	C-6/Ⅱ	凝灰岩	46.7	30.4	19.3	36.2	変形	-	0	0		66-21	S2150
6	磨石	-	C-6/Ⅱ	安山岩	116.1	45.5	46.9	394.0	変形	-	凹石→	0		66-19	S2160
7	凹石	-	C-6/Ⅱ	安山岩	113.0	62.0	39.1	307.0	一部欠	-	0	0		66-18	S2173

図版 162 Ⅱ区遺物包含層出土石器(2)



No.	器種	類型	遺構/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	殘存	加熱処理	変形	付着物	備考	写真図版	登録	
1	尖頭器	Ⅱ	I	珉質頁岩 A	31.3	26.9	9.6	6.9	完形	0	0	0	66-25	S2044		
2	尖頭器	Ⅲ	遺構確認	珉質燧灰岩 B	31.7	38.3	8.3	7.3	完形	0	0	0	66-24	S2217		
3	石鏃	I a. 1.	不明	珉質頁岩 A	27.5	6.6	5.6	0.9	完形	2	0	0	先端摩滅	66-27	S2036	
4	石鏃	Ⅱ a. 1.	不明	珉質頁岩 A	39.5	24.6	8.0	5.6	完形	2	0	0		66-26	S2026	
5	石鏃	I b. 2.	遺構確認	珉質頁岩 A	38.2	12.1	8.8	3.6	完形	1	0	0		66-29	S2211	
6	割石片	Ⅱ a	不明	緑色片岩	114.0	48.3	22.5	152.1	完形	0	0	0		67-1	S2005	
7	割石片	I c	不明	燧石	32.1	16.3	12.9	5.6	完形	0	0	0		66-23	S2062	
8	割石片	I b	北端部/Ⅱ・Ⅲ	珉質頁岩 A	11.6	28.0	7.4	2.6	完形	0	0	0		67-3	S2132	
9	不定形石器	I	Ⅱ・Ⅲ	頁岩	39.2	18.7	5.8	4.4	一部欠	0	0	0			S2010	
10	不定形石器	Ⅲ d	遺構確認	珉質頁岩 A	32.7	31.5	8.2	9.0	完形	0	0	0		67-2	S2238	
11	尖頭器	I b. 2.	Ⅱ区西/不明	玉髓	39.1	25.2	10.1	9.5	完形	0	0	0		67-4	S2007	
12	石鏃	I a. 1.	Ⅱ区西/不明	珉質頁岩 A	24.2	7.0	5.6	1.0	完形	2	0	0		67-5	S2027	
13	凹石	-	Ⅱ区西/Ⅲ	燧山岩	112.0	63.0	26.9	287.0	完形	-	磨石→	0		67-6	S2187	

図版 163 Ⅱ区・Ⅱ区西出土石器

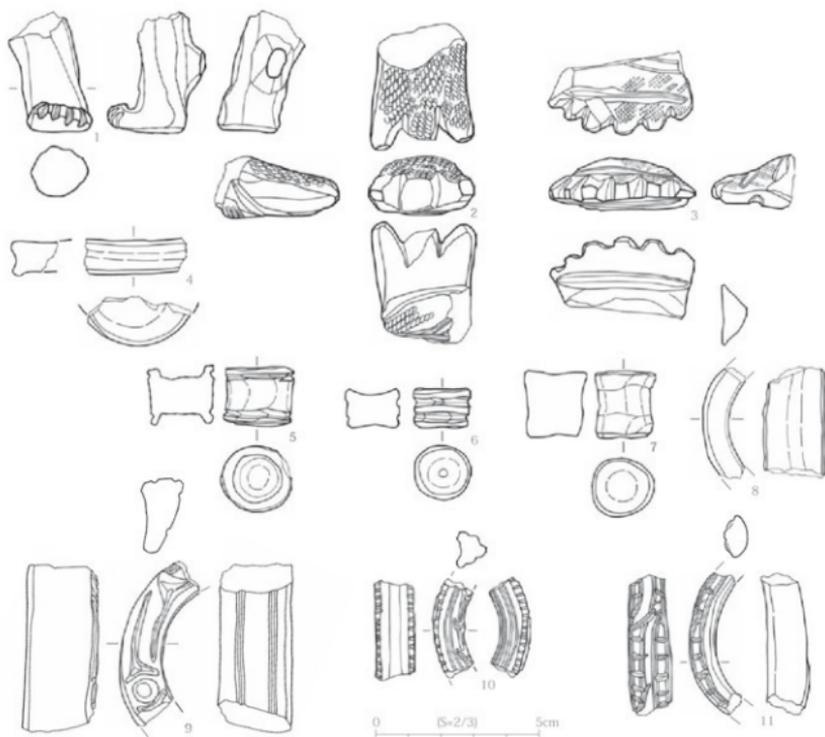
足先での剥離など土偶では考えにくいところがあり、動物形土製品の一部の可能性も考えられる。

## ②土製品

耳飾りが8点出土した。鼓状のものが4点、環状のものが4点である。図版165-9・10には三叉文、同図-11には羊歯状文が施されている。そのほか団扇形3点(図版166-1・2・7)、斧形2点(同図3・4)、凸形2点(同図-5・6)の不明土製品がある。5・6には周縁の4カ所に刻目がみられる。



図版164 遺物包含層出土土偶(1)



No	器種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
164-1	土偶胸部	I区 BA108 カクラン	残存長 80mm, 残存幅 56mm, 中央, 表: 平行沈線, 胎面, 中央に隆帯(刺突), 斜状沈線文, 背: 平行沈線文, 弧状沈線文	56-13	土 1
164-2	土偶上半身	I区 BD104-3 層	残存長 38mm, 残存幅 34.5mm, 中央, 胸が縦に張り出す, 表: 胎面, 胎面と胸部の境に沈線, 刺突列, 背: 刺突列	56-14	土 2
164-3	土偶脚	I区 BF102-4 層	残存長 41mm, 中央, 残存幅 31mm, 縄文LR	56-15	土 10
164-4	土偶脚	I区 BF105-3 層	残存長 42.5mm, 中央, 残存幅 23mm, 沈線, 刺突列	56-15	土 11
164-5	土偶胸部	I区 BK104-4 層	54.5mm, 残存幅 55.2mm, 中央, 表: 中央に隆帯(刺突), 背: 無文	56-17	土 7
164-6	土偶胴体	I区 BE104 風洞	残存長 47mm, 残存幅 52mm, 無文	56-18	土 4
164-7	土偶胸部・右胸	I区 BE104 カクラン	残存長 53mm, 残存幅 64.5mm, 中央, 胸が縦に張り出す, 表: 胎面, 中央に刺突列, 背: 無文	56-18	土 3
164-8	土偶脚	I区 BG105-3 層	残存長 35mm, 残存幅 19.5mm, 中央, 無文	56-16	土 12
164-9	土偶胸部	I区 BI104-3 層	残存長 53mm, 残存幅 50mm, 中央, 表: 胎面, 中央に隆帯, 背: 弧状文, 接合孔有り	56-18	土 6
164-10	土偶右胸	I区 BE105-3 層	残存長 42mm, 残存幅 29mm, 中央, 表: 胎面, 刺突, 沈線, 側面から背面に帯状文(刺突列)・扁平凸胎面	56-17	土 5
164-11	土偶脚	I区 BG105-4 層	残存長 27mm, 残存幅 14.5mm, 中央, 胎面	56-19	土 13
164-12	土偶脚	I区 BI103-3 層	残存長 36mm, 残存幅 12mm, 中央, 無文	56-19	土 14
165-1	土偶脚	I区 IV 層	残存長 38mm, 残存幅 18.5mm, 腐有り	56-20	土 16
165-2	土偶脚か	I区 BC105-4 層	中央, 縄文LR, 足先が三叉に分かれる, 裏面に沈線文, 動物型土製品の一部か	56-19	土 21
165-3	土偶脚	I区 X	中央, 縄文LR, 足先が六叉に分かれる, 沈線文, 動物型土製品の一部か	56-20	土 15
165-4	耳飾り	I区 BF106-3 層	鼓状	56-24	土 29
165-5	耳飾り	II区	直径 19mm, 長さ 17mm, 鼓状, 平行沈線文, 朱付着	56-24	土 27
165-6	耳飾り	I区 BC106-4 層	直径 16mm, 長さ 11.5mm, 鼓状	56-26	土 24
165-7	耳飾り	I区 B C 103-4 層	直径 18mm, 長さ 19mm, 鼓状	56-25	土 26
165-8	耳飾り	I区 BC102-3 層	瘤状	56-22	土 31
165-9	耳飾り	I区 BC104-4 層	瘤状, 魚形三叉文	56-22	土 32
165-10	耳飾り	I区 BF102-3 層	瘤状, 三叉文	56-23	土 30
165-11	耳飾り	II区	瘤状, 平歯状文	56-21	土 37

図版 165 遺物包含層出土土偶(2)、土製品(1)



No	器種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
168-1	不明土製品	I区-1層	残存長38mm, 残存幅45.5mm, 円扁形, 無文		土43
168-2	不明土製品	I区南イカク	残存長58.6mm, 残存幅53.5mm, 円扁形, 無文		土45
168-3	不明土製品	I区BG105-4層	残存長94.6mm, 残存幅42.3mm, 斧形, 縄文LR	56-36	土42
168-4	不明土製品	I区田104付近-3層	残存長83mm, 残存幅49mm, 斧形, 無文	56-37	土44
168-5	不明土製品	II区B9-3層	長さ35mm, 直径47mm, 凸形, 周縁4カ所に刻目, 無文	56-39	土47
168-6	不明土製品	I区田104-3層	高さ14.2mm, 直径48mm, 凸形, 周縁4カ所に刻目(1カ所破損), 無文	56-38	土46
168-7	不明土製品	I区BE105-3層	長さ62mm, 幅72mm, 円扁形, 無文		土41
168-8	ミニチュア	I区BE104 遺構	L径(51.5mm), 器高(22mm), 底径(32mm), 輪郭込, 鉢形, 無文	56-40	土49
168-9	ミニチュア	I区BG105-4層	L径31.5mm, 器高18mm, 台径19.6mm, 台付鉢形の手づくね土器, 無文	56-41	土51
168-10	ミニチュア	I区BG103-3層	底径(21mm), 輪郭込, 鉢形, 無文		土50

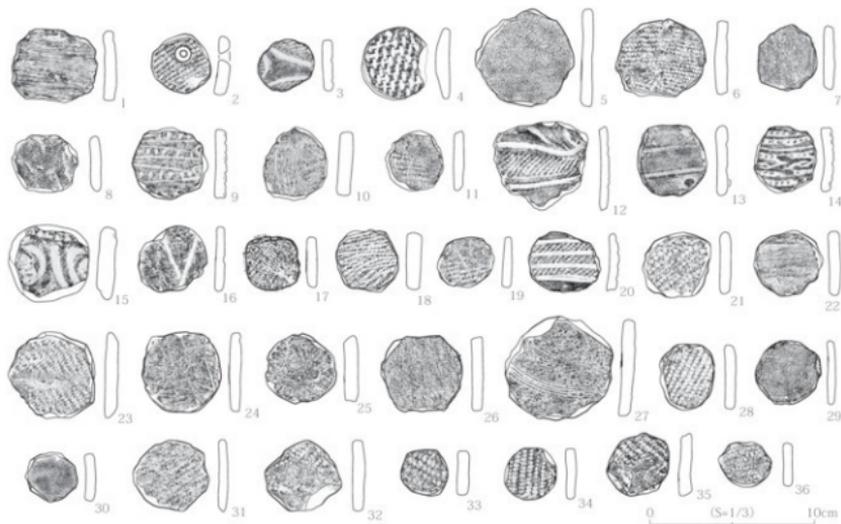
図版 166 遺物包含層出土土製品(2)、ミニチュア土器

### ③土製円盤

土製円盤は38点出土し、そのうち形の良いもの36点を図示した(図版167)。大部分が深鉢の体部破片を利用し、周縁を打ち欠くか研磨をして成形されている。大きさは最大径で30.2mm～65.7mmのものがあり、30～45mmのものが多い。14は壺または注口土器の体部破片を利用したもので、外面に羊歯状文がみられる。

### ④ミニチュア土器

4点出土し、3点を図示した。鉢と台付鉢がある。図版166-8・10は輪積みで、9は手づくねである。



No	遺構/層	特徴	写真図版	登録	No	遺構/層	特徴	写真図版	登録
1	1区-C6ト/N/b-e	最大径54.0mm, 器厚7.2mm, 柔版, 打ち欠き, 研削		土113	19	1区1層	最大径34.5mm, 器厚6.1mm, 縄文打ち欠き, 研削		土81
2	1区BC107付近/N	最大径33.3mm, 器厚7.5mm, 穿孔, 縄文LR, 研削	56-27	土84	20	1区1層	最大径44.1mm, 器厚6.5mm, 沈凹面, 縄文, 打ち欠き, 研削	56-30	土82
3	1区AZ108/Ⅲ	最大径34.5mm, 器厚6.2mm, 帯状文か, 打ち欠き, 研削		土83	21	1区X	最大径43.7mm, 器厚7.6mm, 縄文, 研削		土108
4	1区BD107付近/Ⅲ	最大径58.1mm, 器厚8.6mm, 底深凹面, 打ち欠き, 研削		土85	22	1区X	最大径41.2mm, 器厚7.4mm, 無文, 打ち欠き, 研削		土109
5	1区BE106/Ⅲ	最大径58.1mm, 器厚7.2mm, 無文, 打ち欠き, 研削		土86	23	1区表探	最大径52.6mm, 器厚7.2mm, 縄文, 打ち欠き, 研削		土107
6	1区BF104/Ⅲ	最大径54.4mm, 器厚7.5mm, 縄文, 打ち欠き, 研削		土88	24	1区表探	最大径51.1mm, 器厚7.3mm, 無文, 打ち欠き→研削		土106
7	1区BF106/Ⅰ	最大径41.2mm, 器厚6.2mm, 無文, 打ち欠き, 研削		土89	25	1区表探	最大径42.5mm, 器厚9.0mm, 無文, 研削		土110
8	1区BF106/Ⅰ	最大径38.7mm, 器厚7.2mm, 無文, 周縁研削		土90	26	1区南表土	最大径59.7mm, 器厚6.6mm, 無文, 打ち欠き, 研削		土111
9	1区BG104/N	最大径44.2mm, 器厚6.8mm, 帯状文, 打ち欠き, 研削	56-28	土91	27	1区南イカサ	最大径65.7mm, 器厚7.5mm, 柔版文, 打ち欠き	56-33	土112
10	1区BG104/N	最大径43.5mm, 器厚9.5mm, 柔版文, 打ち欠き, 研削		土92	28	Ⅲ区4層	最大径39.3mm, 器厚6.6mm, 縄文, 打ち欠き, 研削		土114
11	1区BG105/Ⅲ	最大径36.3mm, 器厚4.9mm, 縄文, 打ち欠き, 研削		土93	29	Ⅲ区B8/Ⅲ	最大径40.0mm, 器厚4.3mm, 無文, 打ち欠き, 研削		土115
12	1区BH103/Ⅲ	最大径53.3mm, 器厚5.5mm, 人形帯状文か, 打ち欠き, 研削		土94	30	Ⅲ区B8/Ⅲ	最大径30.3mm, 器厚6.4mm, 無文, 打ち欠き, 研削		土116
13	1区BH104/N	最大径45.1mm, 器厚6.8mm, 帯状文か, 筋帯, 打ち欠き, 研削		土95	31	Ⅲ区B9/Ⅲ	最大径45.3mm, 器厚5.5mm, 縄文, 打ち欠き, 研削		土117
14	1区BH104/N	最大径40.0mm, 器厚5.0mm, 周縁打ち欠き→研削, 羊歯状文	56-29	土96	32	Ⅲ区B9/Ⅲ	最大径46.6mm, 器厚7.5mm, 縄文, 研削		土118
15	1区BH104/N	最大径49.8mm, 器厚10.5mm, 沈凹面, 研削	56-31	土97	33	Ⅲ区B9/Ⅲ	最大径39.2mm, 器厚9.0mm, 無文, 周縁研削	56-34	土119
16	1区BH105/N	最大径42.2mm, 器厚5.7mm, 沈凹, 打ち欠き, 研削		土98	34	Ⅲ区B9/Ⅲ	最大径32.5mm, 器厚6.1mm, 縄文, 周縁研削	56-35	土120
17	1区BK103付近3	最大径36.2mm, 器厚6.5mm, 縄文, 研削	56-32	土100	35	Ⅲ区B9/Ⅲ	最大径39.7mm, 器厚6.8mm, 縄文, 周縁研削		土121
18	1区BK1033層	最大径39.8mm, 器厚7.8mm, 縄文, 打ち欠き, 研削		土101	36	Ⅲ区B10/Ⅲ	最大径32.3mm, 器厚5.8mm, 縄文, 打ち欠き, 研削		土122

図版167 遺物包含層出土土製円盤

## 5. 石製品

石製品は、調査区全体で合計 100 点出土した（第 36、37 表）。遺構出土のものを除き、Ⅰ・Ⅱ区から出土したものを一括して図示した。なお、個々の石製品の属性や特徴を観察表に記しているため、個別の説明は一部を除いて省略した。

### ①円盤状石製品

扁平な礫の縁辺を剥片剥離や敲打等により成形し、円盤状を呈するもの。剥離や敲打等による成形は粗く、平面形は円形のものから多角形のものまで多様である。調査区全体で 20 点出土している。ほとんどが安山岩製で、1 点を除きほぼ完形品である。これらは素材の礫の種類で 2 類に大別される。

I 類：扁平な礫を素材とするもの

a：縁辺がほぼ平坦な部分のみで構成されるもの

①主に剥離により成形しているもの／②主に敲打により成形しているもの

③主に研磨により成形しているもの

b：鋭い縁辺をもつもの（わずかに見られるものを除く）

Ⅱ類 扁平な大型礫の破片を素材とし、直径に対して厚みのあるもの。Ⅰ区の 2 点のみである。

Ⅰ・Ⅱ類とも縁辺は平坦な部分で構成されるものが多く（50%）、その成形は敲打が最も多く見られる。

図版 168-4 (S2158) は、片面が大きく破損した後に縁辺を敲打や剥離により成形している。

### ②石錘

Ⅰ区Ⅰ層から 1 点出土している。図版 169-1 (S1357) は、研磨した礫の両面に溝状の刻みを加

第 36 表 調査区別の石製品出土点数

調査区	円盤状石製品	石錘	石冠	石冠?	石棒	石刀	異形石器	刮削	短玉	小玉	イモガイ形石製品	ボタン状石製品	有孔石製品	板状礫	小字磨製石片	不明石製品	石製品計
Ⅰ区・Ⅰ区南	遺構	3			5	2		1	2							2	15
	包含層	14	1	1	12	12	1	1	2		2	2	4	3	3	4	63
	計	17	1	1	17	14	1	2	2		2	2	4	3	3	6	78
Ⅱ区	遺構	2			3												7
	包含層	1	1		2	6										3	13
	計	3	1		7	6										3	20
Ⅲ区西	遺構																
	包含層				1												1
	計				1												1
Ⅳ-2区																	
Ⅳ-3区					1												1
Ⅳ-4区	遺構																
	遺構表面																
	計																
Ⅳ-5区																	
計	20	1	2	1	26	20	1	2	2	2	2	2	4	3	3	9	100

第 37 表 遺物包含層 層別別の石製品出土点数

Ⅰ区・Ⅰ区南	円盤状石製品	石錘	石冠	石冠?	石棒	石刀	異形石器	刮削	短玉	イモガイ形石製品	ボタン状石製品	有孔石製品	板状礫	小字磨製石片	不明石製品	計
Ⅰ層	1	1				3			1	1	1	2			1	11
Ⅱ層	4			1	1	5	4	1	1			1	2	2	1	24
Ⅲ層	8					5	3								2	18
その他	1					2	2			1		1	1	1	1	10
計	14	1	1	1	1	12	12	1	1	2	2	4	3	3	4	63

Ⅱ区	円盤状石製品	石錘	石棒	不明石製品	計
Ⅰ層			1		1
Ⅱ層	1		1	2	1
Ⅲ層		1	1	2	6
その他			1		1
計	1	1	2	6	13

えている。その位置は最大長の部分と推定される。

### ③石冠

平面形が半円形や長方形を呈し、長辺の一つを石斧の刃部状に成形することで断面三角形となるものを石冠とした。可能性のあるものも含めて、Ⅰ区Ⅲ層から2点、Ⅱ区Ⅳ層から1点出土している。図版 169-3 (S2178) は、刃部と対になる縁辺部が浅い溝状に成形されている。

### ④石棒・石刀

主に粘板岩製で、敲打や研磨により棒状あるいは刀剣状に成形したもの。断面円形のを石棒、断面偏平のを石刀とした。調査区全体で石棒 26 点、石刀 20 点出土している。完形品はなく、ほとんどが破片資料である。また、頭部破片もしくは頭部をもつものは2点のみと少ない。

図版 170-1 (S1475) は、敲打による成形後、研磨により調整を加えている。側面には線条痕が観察される。2 (S1482) は、破損後に基部を再加工している。また、軸輪に直交する細い刻みが観察される。4 (S1491) は石刀頭部破片で、平行する沈線状の刻みを組み合わせてコ字状の文様を表現している。6 (S1758) は湾曲しない平坦面をもち、稜線を明瞭に作出している。刃部と推定される縁辺には、縁辺と直交する擦痕が観察される。9 (S2002) は石刀の未成品として分類しているが、一辺が刃のような鋭い角度をもつことや、平面形が半月形を呈することから、石庖丁の未成品の可能性も考えられる。

### ⑤異形石器

Ⅰ区Ⅲ層から1点出土している。図版 168-10 (S1763) は、破損のため全体の形状は不明である。剥片を素材として剥離による成形を行っているが、その平面形から実用的でないと思われる。

### ⑥耳飾り

Ⅰ区S K 1111 土坑およびⅢ層から1点ずつ出土している。いずれも破損しており全体の様相は不明である。両者は、残存部の平面形は異なるものの、石材や研磨の状況、断面形という点で類似する。

### ⑦勾玉・小玉

勾玉はⅠ区Ⅰ層および遺構確認面で2点、小玉はS B 1164 建物跡柱状取穴から2点出土している。これらのうち、勾玉1点および小玉2点はヒスイ製である。図版 171-3 (S6469) は細粒凝灰岩製の小型の勾玉で、他の石器や石製品にもよく用いられている石材を用いている。

### ⑧イモガイ形石製品

イモガイの殻頂部を横位に切断したものに形態が類似するものをイモガイ形石製品とした(註)。Ⅰ区から2点出土している。いずれも中央に貫通孔が穿たれており、外面および側面は研磨による成形である。内面は断面V字形の刻みにより溝状の表現がなされ、平坦面および刻みの斜面部に研磨の痕跡が見られる。図版 171-6 (S6473) は内面の溝が左巻で、殻口部が表現されている。また、内面がやや内湾し、外面が半球状を呈する。7 (S6467) は内面の溝が右巻で、殻口部は表現されない。内面がやや外湾し、外面がやや内湾する円盤状を呈する。

### ⑨ボタン状石製品

中央部の大きなくぼみに2個1組の貫通孔が穿たれたもので、全体の形状がボタンに類似するもの

をボタン状石製品とした。I区から2点出土している。素材は、自然の状態で中央部が窪んでいる偏平な円礫である。くぼみと反対側の面は、全面に研磨による成形が施され半球状を呈する。図版171-1 (S6460)は中央部のくぼみは自然面のままであるが、2 (S6459)は、中央部のくぼみまで研磨が施されている。

#### ⑩有孔石製品

偏平な円礫等に貫通孔が穿たれているもので、上記の孔のある石製品以外を有孔石製品として総称した。I区から4点出土している。図版171-9 (S6470)は、孔の並びに沿って折れた部分を再加工し、別の位置に2個1組の孔が穿たれている。10 (S6468)は、偏平な円礫の平坦面にある多数の孔は貫通しておらず、その大きさも多様である。貫通孔がないことから垂飾品の未成品の可能性が考えられる。あるいは、孔の位置や大きさ・深さが不規則であることから、石錐の試用を目的としたものとみられる。

#### ⑪線刻礫

円礫の全面もしくは一部に断面V字形の細い線刻を入れたものを総称して線刻礫とした。I区から3点出土している。図版172-1 (S6359)は円礫のほぼ全面に線刻を入れているが、短い線を重複させることにより文様を表現している。一方の面が、正中線とそれを挟んで左右対称に数条の円弧を2段描く文様で、もう一方の面が直線のみで構成される格子状の文様である。正中線の左右に対称の円弧を描く表現は、県内では栗原市山王開遺跡出土土版(伊東・須藤:1985)等にみられる。2 (S1467)は研磨によりほぼ全面を成形した後、縦横に線刻を入れている。線刻は重複しない長い線である。3 (S1494)は磨石の平坦面に平行する刻みをわざわざに入れている。

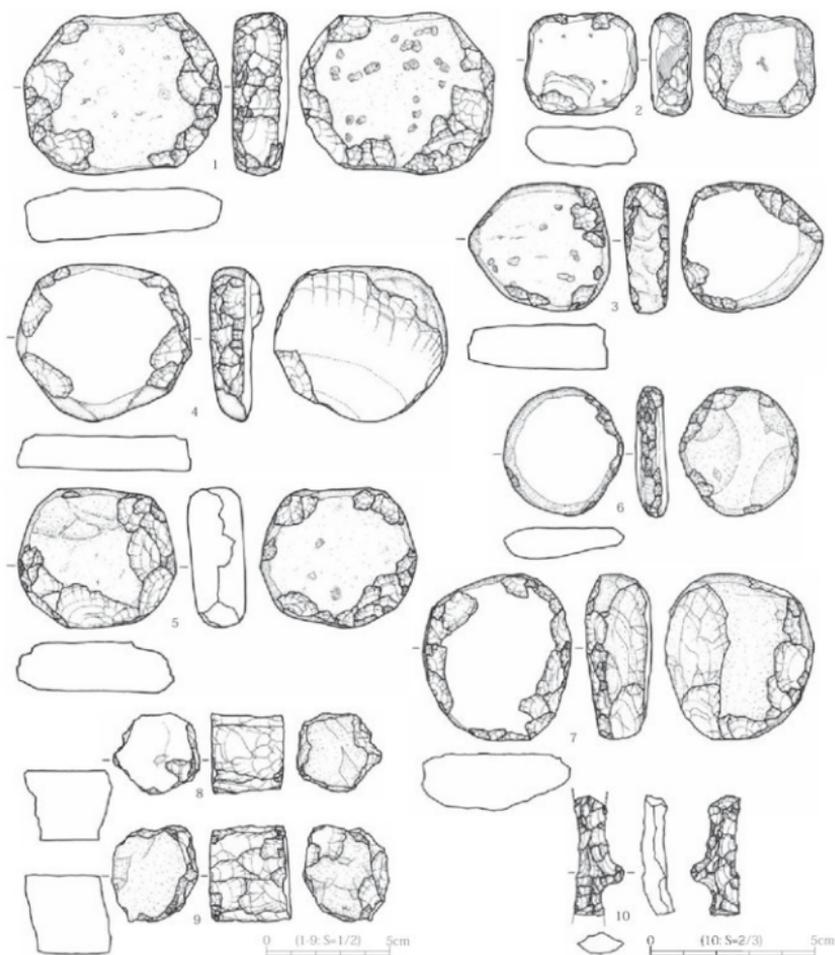
#### ⑫小型磨製石斧

研磨等により小型で薄く偏平に成形したもので、先端に刃を付けるなど、形態は磨製石斧に類似する。その形状が実用的でないこととみられることから石製品に含めた。I区から3点出土している。図版172-7 (S6461)は粘板岩製で、石刀の端部の可能性も考えられる。9 (S1520)は剝離面を大きく残しており、磨製石斧の破片を利用したものとみられる。

#### ⑬不明石製品

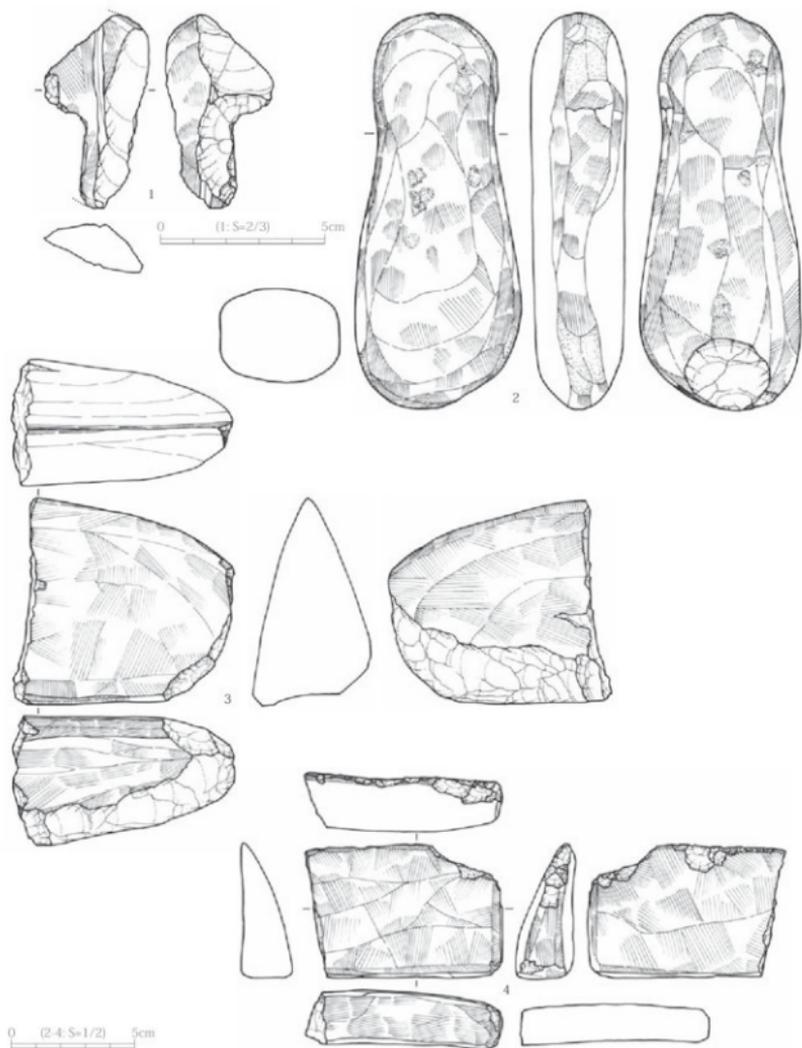
上記以外の石製品を総称して不明石製品とした。図版169-2 (S1700)は、両側面を研磨して石棒の頭部状のものを作出し、頂部に敲打による浅い刻みを加えている。有頭石錘や岩偶の未成品等の可能性が考えられる。しかし、刻みや線刻等の加工が不明瞭である点や、縄文時代後・晩期において東北地方南部では類例が少ない点、出土層位が表土であり正確な帰属時期が不明である点を考慮すると、いずれにも断定することはできない。172-4 (S2289)は自然に形成されたとみられる大きな凹みの内部を研磨により調整し、また、凹みの縁には多数の刻みを加えている。5 (S1413)は円礫の一端に両面から細かな剝離を加えて、鋸歯状の縁辺を作出している。

注 本製品はイモガイ殻頂部を加工した製品を模倣したもので、イモガイ全体を模倣したものではないことから、「イモガイ形」と呼称するのは不適切とする意見(稲野:1998)がある。しかし、海岸で採集されるイモガイには殻頂部が分離したものもあり(忍澤:2004)、全体が残るもののみがイモガイとして認識されていたとは考えにくい。したがって、「イモガイ形石製品」と呼称しても不適切ではないと判断した。



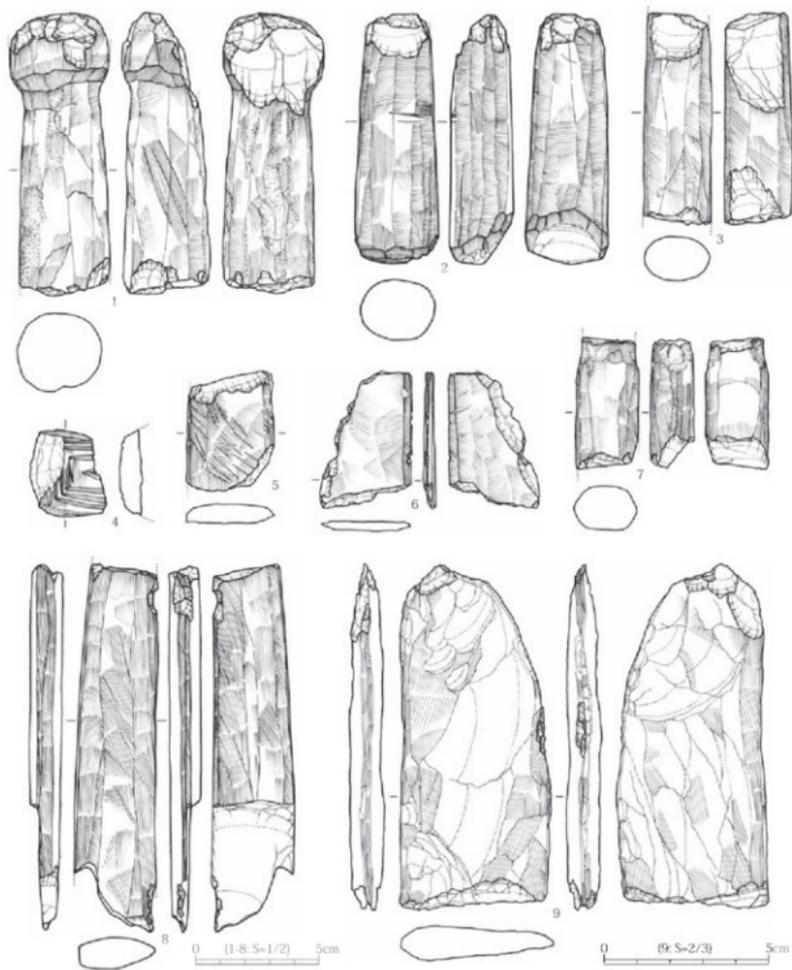
No.	名称	類型	遺構/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	残存	加熱処理	変形	付着物	備考	写真ID	登録
1	円盤状石製品	I a 1	B-JK104/Ⅳ	安山岩	66.4	79.5	21.4	209.0	完形	0	0	0		68-1	S6377
2	円盤状石製品	I a 3	BE104/Ⅲ	安山岩	40.9	44.2	16.9	51.1	完形	0	磨面あり	0		68-10	S1598
3	円盤状石製品	I a 2	BE106/Ⅳ	安山岩	53.4	57.4	17.5	86.8	完形	0	磨面あり	0		68-5	S1680
4	円盤状石製品	I a 2	C-6/Ⅲ	デイサイト	64.1	70.7	20.7	122.0	完形	0	磨面あり	0		68-7	S2158
5	円盤状石製品	I a 2	B-JK104/Ⅳ	安山岩	57.3	64.2	21.8	134.0	完形	0	0	0		68-3	S6376
6	円盤状石製品	I b	B-BC107付遺/Ⅲ	安山岩	51.9	49.4	12.3	48.8	完形	0	磨面あり	0		68-2	S6417
7	円盤状石製品	I b	BE104/Ⅳ	安山岩	68.8	59.8	24.7	154.3	完形	0	磨面あり	0		68-4	S1677
8	円盤状石製品	Ⅱ	BG105/不明	安山岩	34.4	35.8	29.0	53.0	完形	0	磨面あり	0		68-11	S6360
9	円盤状石製品	Ⅱ	BK103付遺/Ⅲ	安山岩	39.7	31.5	32.6	74.5	完形	0	0	0		68-12	S6381
10	異形石器	-	BE106/Ⅲ	柱状閃片岩	36.3	15.7	6.7	3.1	一部欠	0	0	0		69-12	S1763

図版 168 | Ⅱ区遺構外出土石製品(1)



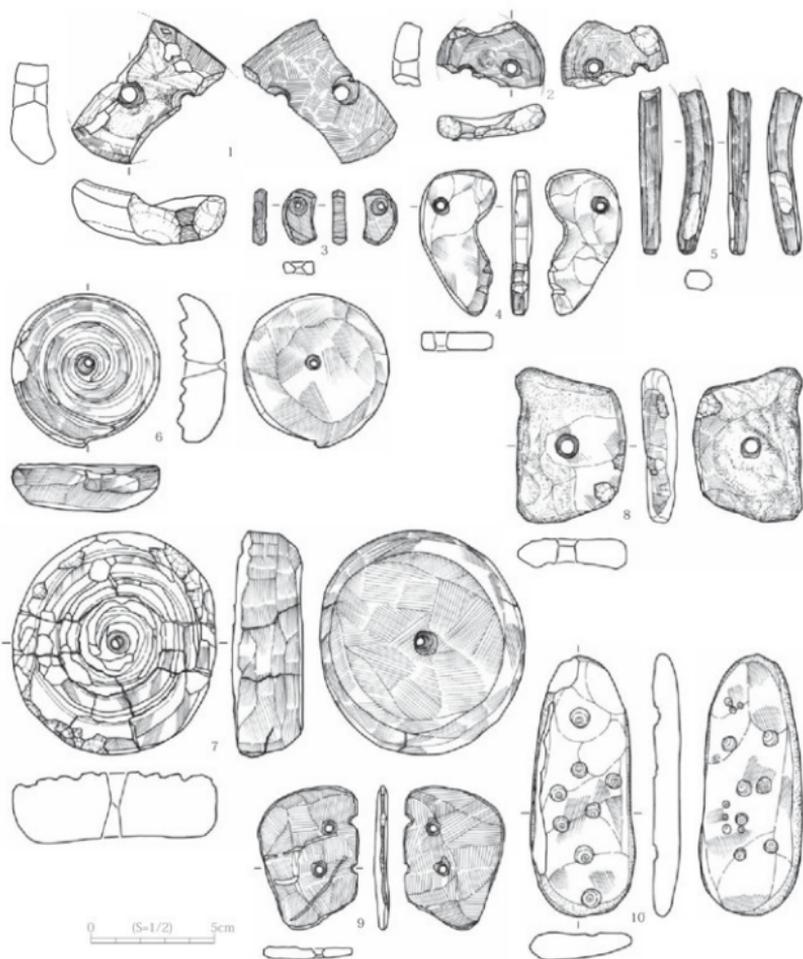
No.	石種	類型	遺構 / 層	石材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	加熱処理	変形	付着物	発掘	写真ID等	登録
1	石鏃	-	AS108 付着 / I	粘板岩	58.5	31.0	14.8	18.2	破片	-	0	0	69-13	S1357	
2	不明石製品	-	I区 / I	燧石砂岩	159.0	65.3	37.8	574.0	完形	-	0	0	69-14	S1700	
3	石冠	-	A和 B	安山岩	81.2	83.2	51.9	413.0	破片	-	0	0	68-14	S2178	
4	石剣	-	BC104 / III	安山岩	56.5	77.5	20.4	128.2	一部欠	-	0	0	68-13	S1629	

図版 169 I・II区遺構外出土石製品(2)



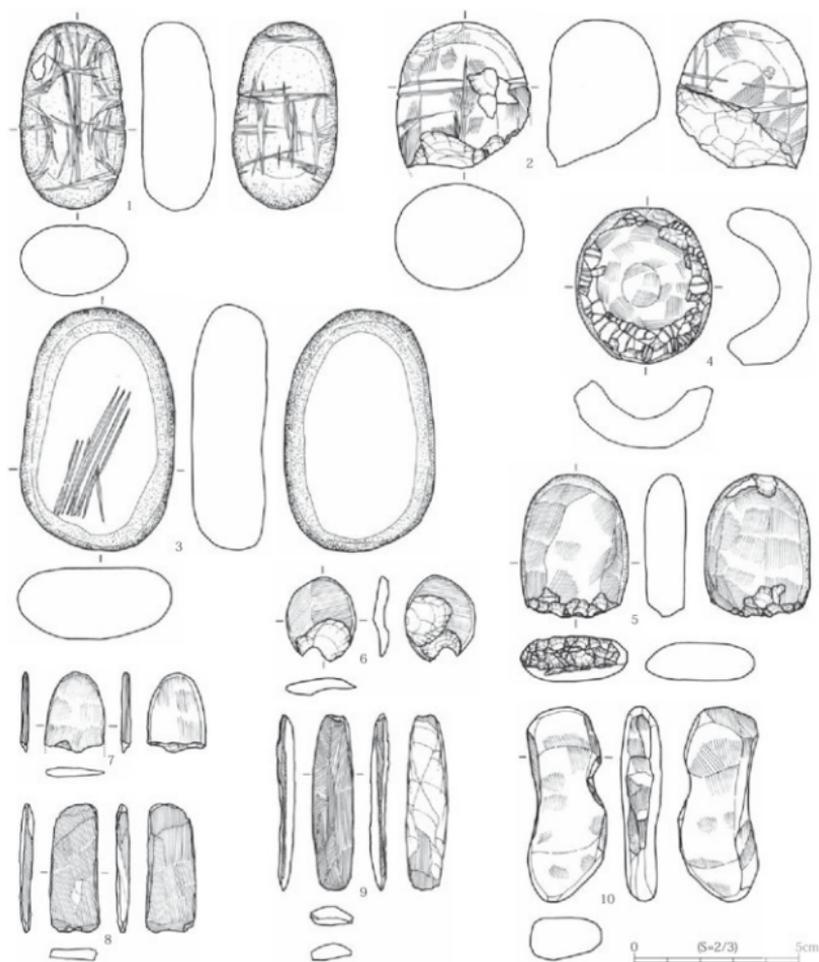
No	石種	類型	遺構 / 層	石材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	加熱処理	変形	付着物	編年	写真ID	登録	
1	石棒	-	BH103/IV	粘板岩	115.2	41.0	35.3	210.3	一部欠	0	0	0	69-1	S1475		
2	石棒	-	BH105/IV	粘板岩	102.6	33.0	26.0	141.6	一部欠	0	破損後再加工	0	69-2	S1482		
3	石棒	-	BG103/III	粘板岩	86.6	27.5	17.7	72.1	一部欠	0	0	0	69-6	S1454		
4	石刀	-	BH105/IV	粘板岩	35.8	32.2	9.0	13.5	破片	0	0	0	69-5	S1493		
5	石刀	-	B-9/IV	粘板岩	49.7	35.9	8.0	18.3	破片	0	0	0	69-8	S2146		
6	石刀	-	Ⅱ区 / 不明	粘板岩	55.8	37.2	3.4	11.2	破片	0	0	0	69-10	S1758		
7	石棒	-	Ⅱ区 / III	粘板岩	54.1	26.0	17.9	40.8	破片	0	0	0	69-3	S2210		
8	石刀	-	BH106 付着 / III	粘板岩	151.2	33.1	12.8	96.7	一部欠	0	0	0	69-9	S1441		
9	石刀	-	B-10/IV	粘板岩	106.1	46.1	9.8	69.4	一部欠	0	0	0	未成品	69-11	S2002	

図版 170 | Ⅱ区遺構外出土石製品 (3)



No.	器種	加工	遺構 / 層	石材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	加工処理	変形	付着物	番号	写真図版	注釋
1	ボタノ状石製品	-	B1106 / I	凝灰岩	46.1	44.8	13.2	17.6	破片	-	0	0	貫通孔	70-1	S6460
2	ボタノ状石製品	-	BD106 / 不明	凝灰岩	33.2	20.2	6.8	4.1	破片	-	0	0	貫通孔	70-2	S6459
3	勾玉	-	I区 / I	凝結凝灰岩	16.4	9.8	3.8	0.8	完形	-	0	0	貫通孔	70-3	S6469
4	勾玉	-	SX1209 / 遺構確認	ヒスイ	45.2	23.9	5.6	10.3	完形	-	0	0	貫通孔	70-4	S6474
5	耳飾	-	B1104 / Ⅱ	凝灰岩	50.7	106	5.9	3.6	破片	-	0	0		70-5	S6466
6	子毛丹形石製品	-	I区 / I	凝灰岩	48.2	45.2	13.1	33.9	完形	-	0	0	貫通孔	70-6	S6473
7	子毛丹形石製品	-	B1103 / Ⅱ	凝灰岩	68.7	62.6	20.3	83.0	完形	-	0	0	貫通孔	70-7	S6467
8	有孔石製品	-	I区 / I	凝灰岩	47.4	34.2	9.6	20.7	完形	-	0	0	貫通孔	70-8	S6472
9	有孔石製品	-	I区 / I	片岩	44.8	30.9	3.7	6.7	完形	-	破損後再加工	0	貫通孔	70-9	S6470
10	有孔石製品	-	I区 / Ⅱ	凝灰岩	80.7	31.5	9.7	19.7	完形	-	0	0	貫孔	70-11	S6468

図版 171 | I・II区遺構外出土石製品 (4)

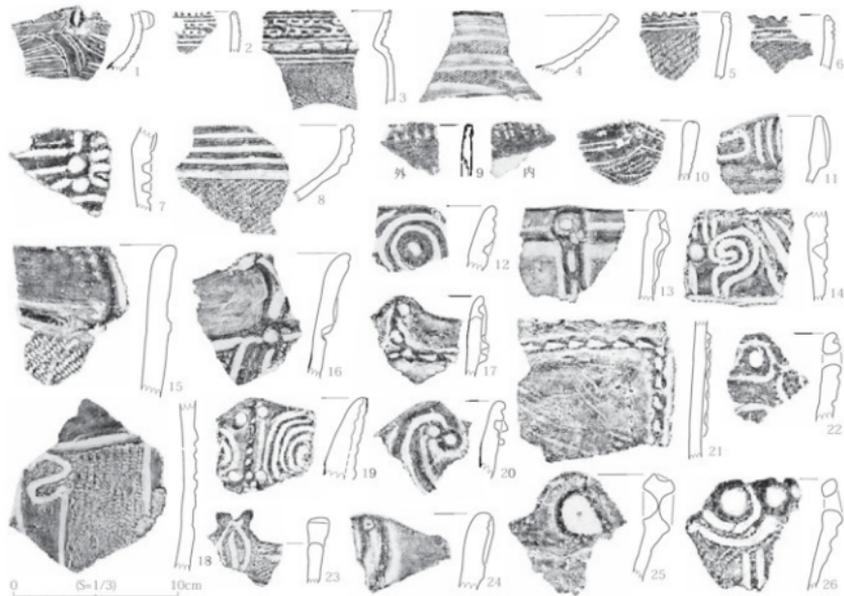


No.	器種	形状	遺跡/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	残存	加熱処理	変形	付着物	備考	写真ID	登録
1	磨石	-	BG105/不明	アイサイト	57.5	31.7	21.7	55.4	完形	-	0	0		70-13	S6359
2	磨石	-	BG105/Ⅲ	安山岩	45.5	40.7	32.4	68.2	一部欠	-	0	0		70-12	S1467
3	磨石	-	BK103/付添/Ⅲ	凝灰岩	74.8	45.6	23.5	103.9	完形	-	磨石⇒	0		70-18	S1494
4	不明石製品	-	C6/Ⅲ	凝灰岩	48.0	41.3	19.3	21.0	完形	-	0	0		70-14	S2289
5	不明石製品	-	BH105/Ⅳ	凝灰岩	44.1	32.4	13.6	23.3	完形	-	0	0		70-16	S1413
6	不明石製品	-	BH105/Ⅳ	凝灰岩	25.3	21.0	4.5	2.3	一部欠	-	0	0		70-15	S6465
7	小型磨石片	-	BH106/Ⅲ	凝灰岩	23.9	17.3	2.3	1.5	破片	0	0	0	石刀の端部	69-15	S6461
8	小型磨石片	-	BH103/Ⅲ	珪長霞片岩	39.0	14.5	3.5	2.6	完形	0	0	0		69-16	S6464
9	小型磨石片	-	I区/不明	片麻岩	53.0	12.3	4.9	4.8	完形	0	0	0		69-17	S1520
10	不明石製品	-	B-8/Ⅳ	安山岩	60.0	24.4	12.0	26.5	完形	-	0	0		70-17	S2155

図版 172 | II区遺構外出土石製品(5)

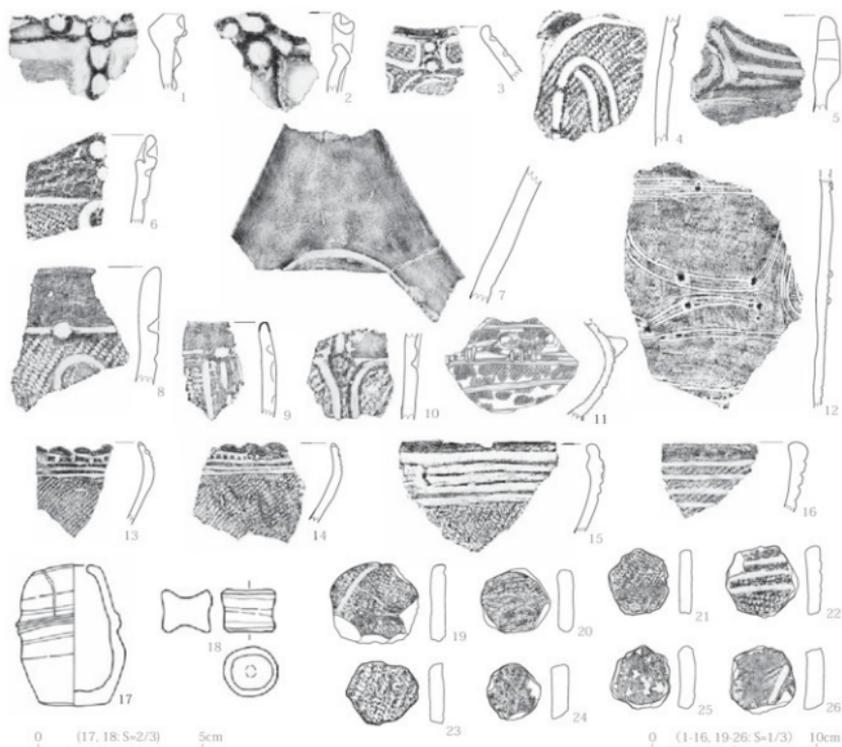
## 第7節 遺構外出土遺物

遺物包含層が検出されたⅠ区、Ⅰ区南、Ⅱ区以外で表土や攪乱層など遺構外から出土した遺物についてまとめて提示する。Ⅱ区西からは細隆線、小突起、帯状文(羽状条線文)が施された壺や羊歯状文が施された鉢などが出土している。Ⅲ区からは首孔のある深鉢やミニチュア土器(図版174-17)が出土している。Ⅳ区からは渦巻文(図版173-20)や、蕨手状文(同図-18)、鎖状隆線文が施された土器、石鏃、石錐、石匙、磨製石斧、石皿などが出土している。



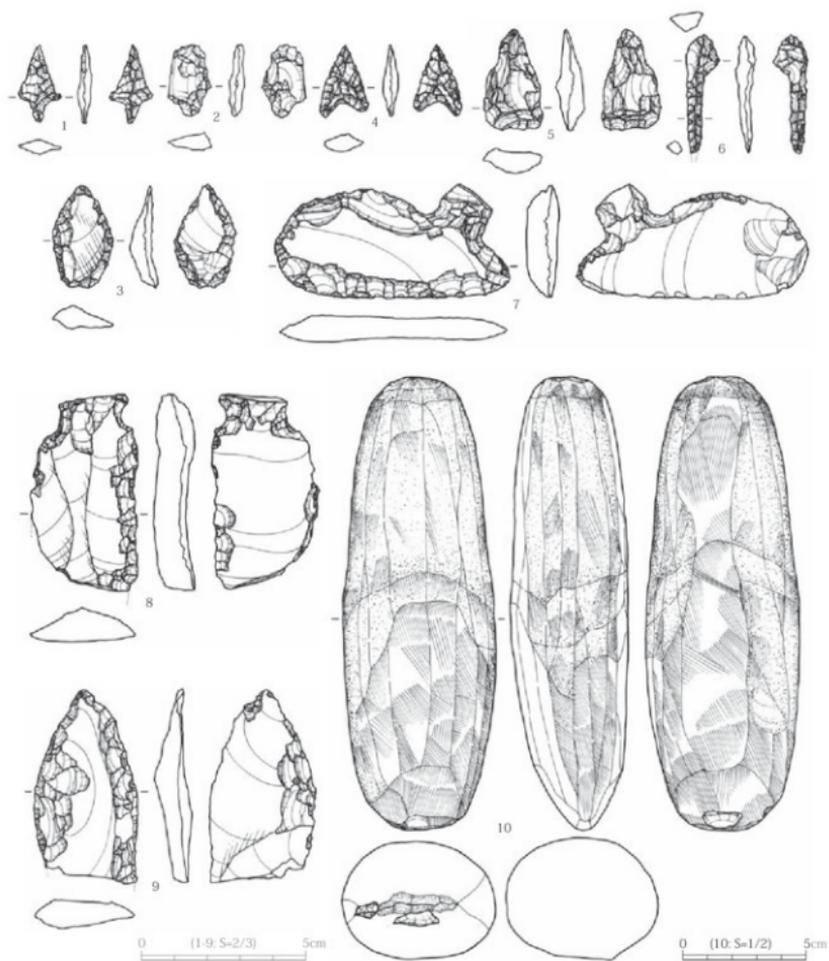
No	品種	遺構/層	特徴	写真版	登録
1	壺	Ⅱ区西/Ⅲ	隆線文、矢羽状沈線文、彫筋(形み有り)、朱付着		Pot2085
2	鉢	Ⅱ区西/Ⅲ	平線・ヘラ刷目、羊歯状文		Pot2090
3	鉢	Ⅱ区西/Ⅲ	平線・羊歯状浮線文、羊歯状文、短沈線文、羽状條線L.R.、皿、炭化物付着		Pot2079
4	皿	Ⅱ区西/Ⅲ	平線・山形彫筋、雲形文(磨り消し網文)、網文L.R.、内面に段		Pot2078
5	鉢	Ⅱ区西/Ⅲ	平線・ヘラ刷目、平行沈線文、網文L.R.		Pot2080
6	鉢	Ⅱ区西/Ⅲ	平線・彫り、短沈線文、平行沈線文、網文L.R.		Pot2081
7	深鉢	Ⅲ-Ⅰ区	沈線文、二個一対の首孔		Pot3002
8	鉢	Ⅲ-2/確認面	平線、平行沈線文、網文L.R.、内面沈線、炭化物付着		Pot3001
9	深鉢	Ⅳ-4/確認面	平線・貝殻彫線文、内外面貝殻彫線文		Pot4145
10	深鉢	Ⅳ-4/確認面	波状線・貝殻彫線文、貝殻彫線文		Pot4146
11	深鉢	Ⅳ-4/確認面	連続弧状沈線文、楕円文		Pot4138
12	深鉢	Ⅳ-4/確認面	渦巻文		Pot4101
13	深鉢	Ⅳ-4/確認面	平線、首孔、鎖状隆線文、土層部内面に段		Pot4129
14	深鉢	Ⅳ-4/確認面	蕨手状文、首孔		Pot4116
15	深鉢	Ⅳ-4/確認面	隆線文、網文L.R.		Pot4120
16	深鉢	Ⅳ-4/確認面	波状線、首孔、弧状沈線文、網文彫り不明		Pot4099
17	深鉢	Ⅳ-4/確認面	平線・山形突起、鎖状隆線文		Pot4140
18	深鉢	Ⅳ-4/確認面	蕨手状文		Pot4147
19	深鉢	Ⅳ-4/確認面	波状線、首孔、渦巻文、形みのある隆線文		Pot4137
20	深鉢	Ⅳ-4/確認面	波状線か、渦巻状の隆線文、二個一対の首孔		Pot4115
21	深鉢	Ⅳ-4/確認面	鎖状隆線文、網文L		Pot4123
22	深鉢	Ⅳ-4/確認面	波状線か、首孔、円文、弧状沈線文		Pot4151
23	深鉢	Ⅳ-4/確認面	平線・突起、弧状沈線、平行沈線文、網文L.R.		Pot4109
24	深鉢	Ⅳ-4/確認面	波状線、弧状隆線文、首孔(工具による彫り)		Pot4143
25	深鉢	Ⅳ-4/確認面	弧状隆線文、土層部内面に首孔		Pot4118
26	深鉢	Ⅳ-4/確認面	平線・瘤状突起、首孔、弧状沈線文、網文L.R.、炭化物付着		Pot4112

図版173 遺構外出土土器(1)



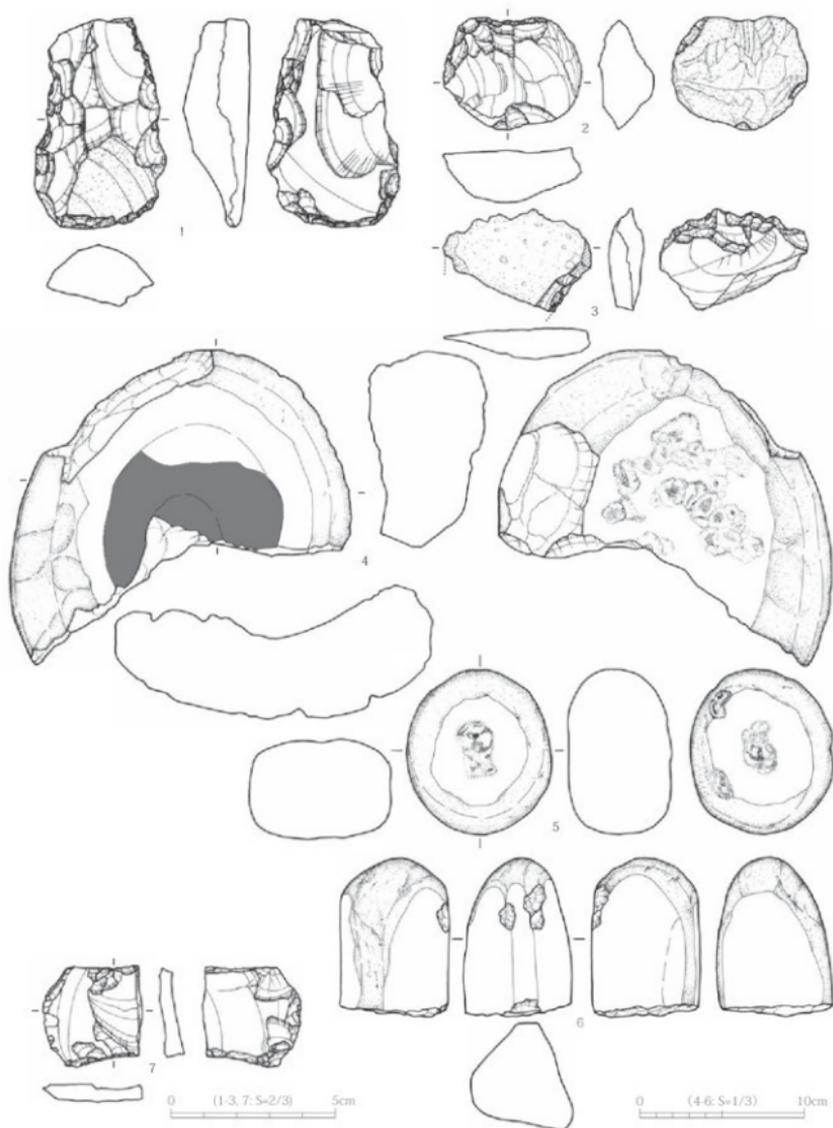
No	器種	遺構/層	特徴	写真図版	登録
174-1	深鉢	IV-4/カクラン	首孔, 筋状隆線文, 内面沈線, L1層部肥厚		Pos4163
174-2	深鉢	IV-4/カクラン	波状線か, 首孔の周囲に連続する首孔, 隆線文		Pos4164
174-3	深鉢	IV-4/カクラン	波状線, 二個一対の首孔, 弧状沈線文, 区画沈線文, 縄文LR		Pos4162
174-4	深鉢	IV-4/カクラン	渦巻文, 縄文LR		Pos4165
174-5	深鉢	IV-4/カクラン	波状線, 首孔, 弧状沈線文, 平行沈線文, L1層部肥厚		Pos4157
174-6	深鉢	IV-4/確認面	波状線, 二個一対の首孔, 蕨手文か, 縄文LR		Pos4117
174-7	深鉢	IV-4/確認面	波状線, 弧状沈線文		Pos4132
174-8	壺	IV-4/確認面	胎面, 3葉一組の縦位短沈線文, 平行沈線文, 縄文LR		Pos4122
174-9	深鉢	IV-4/確認面	首孔, 短沈線文, 沈線文, 縄文原体不明		Pos4134
174-10	深鉢	IV-4/確認面	平縁, 首孔, 縄文LR		Pos4130
174-11	深鉢	IV-4/カクラン	平縁, 首孔, 蕨手文か, 縄文LR		Pos4156
174-12	深鉢	IV-4/確認面	胎面, 弧状隆線文		Pos4121
174-13	鉢	IV-4/確認面	小波状線, 列点文A, 平行沈線文, 縄文LR, 炭化物付着		Pos4152
174-14	鉢	IV-4/確認面	平縁・割目列B, 平行沈線文, 割目列B, 縄文LR, 炭化物付着		Pos4131
174-15	鉢	IV-4/確認面	平縁, α字文, 縄文LR, 内面沈線		Pos4124
174-16	深鉢	IV-4/1層	平縁, 平行沈線文, 縄文LR, L1層部内面張りだし		Pos4155
174-17	ミニチュア	Ⅲ-2/確認面	L1層 22mm, 器高 42mm, 底径 21mm, 壺形, 輪轆み, 平縁, 体中央に隆線, 沈線文		土 54
174-18	耳飾り	表採	鼓状, 直径 15mm, 高さ 12mm		土 25
174-19	円盤	IV/1層	最大径 53.5mm, 厚さ 8.5mm, 打ち欠き, 研磨		土 128
174-20	円盤	IV-4/確認面	最大径 40.5mm, 厚さ 10.1mm, 打ち欠き, 研磨		土 137
174-21	円盤	IV-4/確認面	最大径 39.3mm, 厚さ 7.3mm, 打ち欠き, 研磨		土 138
174-22	円盤	IV-4/確認面	最大径 43.5mm, 厚さ 9.3mm, 打ち欠き, 研磨		土 140
174-23	円盤	IV-4/確認面	最大径 42.2mm, 厚さ 9.8mm, 打ち欠き		土 142
174-24	円盤	IV-4/確認面	最大径 32.0mm, 厚さ 10.1mm, 打ち欠き, 研磨		土 143
174-25	円盤	IV-4/確認面	最大径 37.2mm, 厚さ 10.2mm, 打ち欠き, 研磨		土 144
174-26	円盤	IV-4/確認面	最大径 39.6mm, 厚さ 11.5mm, 打ち欠き, 研磨		土 145

図版 174 遺構外出土土器 (2)、土製品



No	石種	類型	遺構/層	石材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	加熱処理	発色	付着物	発所	写真ID	登録
1	石炭	I a 1	短刃	埴貫頁岩 A	23.5	12.4	3.8	0.7	先端欠	2	0	0	67-10	S4020	
2	石炭	V	遺構確認	堺麻石	22.3	14.0	4.9	1.2	完形	1	0	0	67-11	S4051	
3	石炭	I c 1	短刃	埴貫頁岩 A	31.3	18.3	6.7	3.4	完形	0	0	0	67-7	S4023	
4	石炭	IV a 3	短刃	5層	21.8	14.5	4.7	0.9	完形	0	0	0	67-13	S4015	
5	石炭	Ⅱ a 1	短刃	埴貫頁岩 A	31.1	17.7	7.2	3.4	完形	0	0	0	67-8	S4029	
6	石炭	Ⅱ a 1	短刃	埴貫頁岩 A	36.0	10.1	5.7	1.1	先端・基部欠	0	0	0	67-12	S4017	
7	石炭	Ⅱ b	遺構確認	埴貫頁岩 A	34.6	71.2	9.1	23.6	完形	1	0	0	67-16	S4023	
8	石炭	I b	遺構確認	埴貫頁岩 A	60.8	33.0	11.2	26.4	先端欠	0	0	0	67-14	S4024	
9	尖頭器	不明	遺構確認	埴貫頁岩 A	60.4	32.1	9.9	17.9	基部欠	0	0	0		S4057	
10	磨製石斧	I a	表土	安山岩	183.0	61.4	47.6	908.0	完形	0	0	0	67-10	S4106	

図版 175 遺構外出土石器 (1)



No.	器種	型名	遺構/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	形状	加熱処理	表面	付着物	備考	写真掲載	登録
1	石斧	1 a	遺構確認	碧玉 A	64.4	40.9	20.0	50.4	尖形	0	0	0		67-9	S4014
2	楔形石器	1 a	遺構確認	石英	34.3	42.4	13.3	24.7	尖形	0	0	0			S4034
3	不定形石器	Ⅱ b	遺構確認	珉質頁岩 A	35.3	39.7	9.3	12.7	一部欠	0	0	0			S4052
4	石皿	-	痕瓦	安山岩	122.4	195.5	70.3	2310.0	一部欠	-	凹石→	炭化物	67-17		S4090
5	磨石	-	遺構確認	安山岩	101.2	86.7	59.1	807.0	尖形	-	凹石→	0			S4085
6	磨石	-	痕瓦	デキサイト	95.1	73.2	66.9	623.0	一部欠	-	0	0	特殊磨石		S4062
7	楔形石器	1 d	遺構確認	珉質頁岩 A	30.5	30.2	6.2	7.2	尖形	0	0	0	67-18		S4119

図版 176 遺構外出土石器(2)

## 第4章 総括

### 第1節 考察

ここでは今回の調査で主体となる縄文時代から弥生時代の出土遺物と遺構について特徴や年代を検討する。以下では遺物、遺構の順に考察する。

#### 1. 遺物

##### A. 土器・土製品

###### (1) 出土土器の分類

遺物包含層や遺構などから出土した土器で抽出した資料は約2,450点である。これらの土器は小破片が多く、器形や文様の全体が判別できる土器は100点弱である。このため、土器の特徴を捉えるにあたって主に器面に施されている文様で分類し、口唇部装飾、土器胎土の繊維混入の有無などの観察も併せて行った。(I～X類：図版177、XI～XXVI類：図版178)。

I類：土器の胎土に繊維が顕著に混入されるもの

a：押型文が施されるもの

1：山形、菱形(図版177-1～4) 2：平行線状(5)

b：平行沈線文が施されるもの(6・7)

c：条痕文が施されるもの

1：外面・条痕・内面・条痕(12) 2：外面・縄文・内面・条痕(13) 3：外面・条痕・内面・無文(14)

d：円形刺突が施されるもの(15)

II類：貝殻沈線文、貝殻腹縁文が施されるもの(8～11)

III類：太描きの沈線で盲孔を中心とした弧状文が施されるもの(16)

IV類：蕨手状の渦巻文が施されるもの(17・18)

V類：幅広の縄文帯で区画文様が描かれるもの

a：方形(19・20) b：弧状、半円形(21～24)

VI類：貼瘤と帯状文が施されるもの

a：縄文(26・35) b：未調整、またはかろいナデ(仮称：つや消し手法)(27・28・34)

c：短沈線文(30・31・34) d：羽状条線文(25) e：櫛歯状条線文(29) f：刺突刻目(32・33)

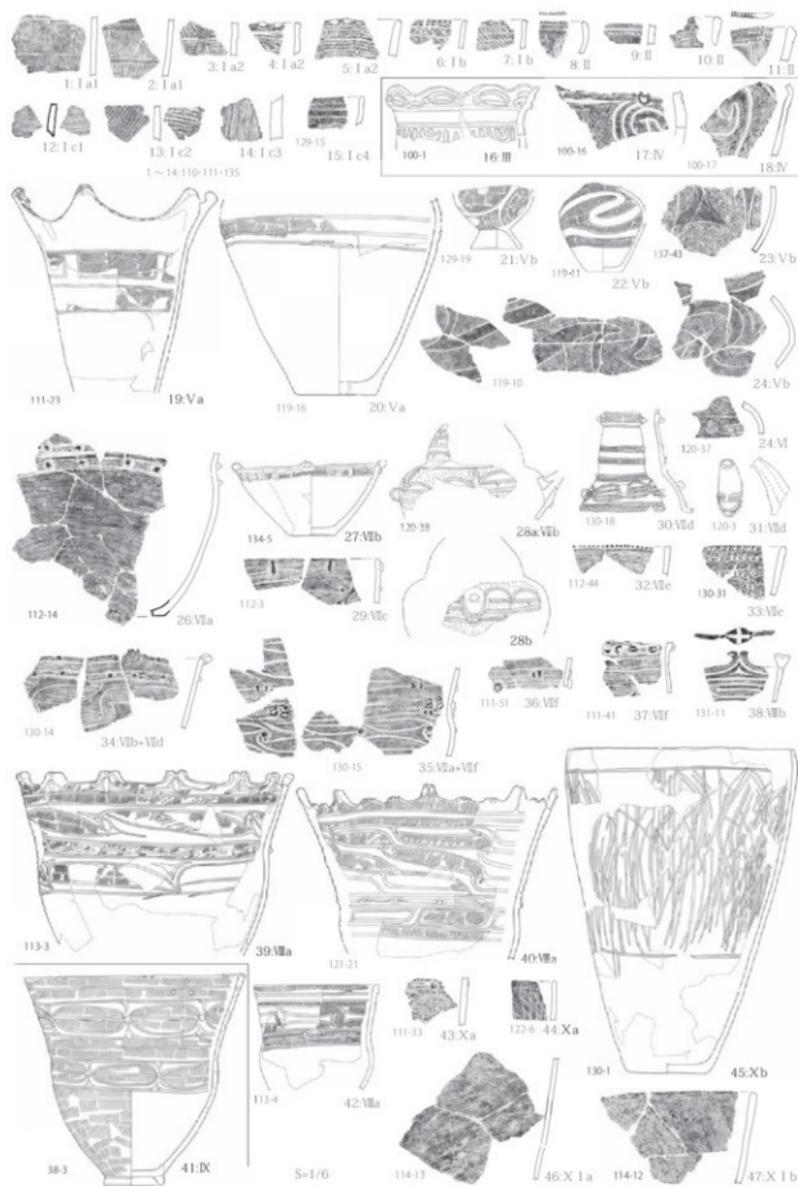
g：櫛歯状刻目(35・36・37)

VII類：入組帯状文が施されるもの(38～40・42)

VIII類：鎖状帯状文が施されるもの(41)

IX類：多条沈線で文様が描かれるもの

a：格子状(43・44) b：弧状、凸レンズ状(45)



図版 177 土器の類型 (1)

X類：櫛歯状条線文で文様が描かれるもの

a：格子状(46) b：弧状、凸レンズ状(47)

XⅠ類：三叉文が施されるもの

a：魚眼状(図版178-1～3) b：玉抱き(4・5・11) c：入組(6～8)

XⅡ類：羊歯状文(12～20) \*羊歯状文に類した文様(21)をXⅡ'とする

XⅢ類：アルファベット形の文様が施されるもの

a：Z字状(22～24・26) b：X字状(25)

XⅣ類：雲形文が施されるもの(27～39) \*雲形文に類する沈線文様(40)をXⅣ'とする

XⅤ類：π字文が施されるもの

a：平行沈線間の隆線を押上げて文様を作成するもの(41・42) b：平行沈線間の隆線の一部を彫り込みその両側に粘土粒を貼付するもの(43) c：平行沈線に2個一對の粘土粒を貼付したもの(44) d：平行沈線間に刻目列を施し、その一部を深く彫り込んでπ字文にしたもの(45)

XⅥ類：工字文が施されるもの(46～49)

XⅦ類：変形工字文が施されるもの(50～52)

XⅧ類：磨り消し縄文による重層三角形文、菱形文が施されるもの(53・54)

XⅨ類：頸部または体上部に刺突による列点文が施されるもの

a：木目筋が残るへう状工具による刺突列(56) b：棒状またはへう状工具による刺突列(55・58)

XⅩ類：太描きの沈線による波状文が施されるもの(57)

XⅩⅠ類：細描き沈線による同心円文が施されるもの(60)

XⅩⅡ類：口唇部に刻目または押圧+口頸部に平行沈線や刻目+体部に羽状縄文が施されるもの

a：屈曲のある器形(59・61) b：屈曲のない器形(62)

XⅩⅢ類：縄文のみが施され、沈線や刻目、突起などをもたないもの

a：口縁部から底部付近まで縄文が施されるもの

1：縄文(斜行・横走・縦走)(63・66) 2：羽状縄文(67) 3：網目状縻糸文(図版59-17)

b：口縁部がナデまたはミガキによる無文帯で、体部に縄文が施されるもの(65)

## (2) 出土土器の時期

I a類が施される器種には深鉢がある。類例は宮城県白石市松田遺跡(1981年調査)第2号住居跡(土岐山：1982)や岩手県盛岡市大新町遺跡R A 6507住居跡(千田和文ほか：1990)などにあり、縄文時代早期前葉の後半頃に相当すると考えられている。なお、図版177-2の深鉢についてはC14年代測定をしており、8,060 ± 50yrBPの年代が報告されている。

I b類が施される器種には深鉢がある。平行沈線文が施された繊維土器は前述の遺跡で押型土器と共伴して出土しており、本遺跡出土資料もI a類と共伴するものと考えられる。

I c類が施される器種には深鉢がある。いわゆる条痕土器と縄文条痕土器に相当すると考えられ、縄文時代早期後葉から末に位置づけられている(熊谷：2008)。宮城県では素山上層式が設定された



図版 178 土器の類型 (2)

美里町素山貝塚、(伊東:1957)、柴田町榎木貝塚、仙台市北前遺跡(佐藤:1982)などで出土している。

I d類が施される器種には深鉢がある。竹環状工具による円形刺突が施された土器は縄文時代早期末から前期前葉にあるとされる(熊谷:2008、早瀬:2008)。

II類が施される器種には深鉢がある。類例は明神裏Ⅲ式が設定された宮城県蔵王町明神裏遺跡(林:1965)や栗原市大寺遺跡(興野:1970)などから出土している。明神裏Ⅲ式は関東地方の田戸上層式に相当するとされ、縄文時代早期中葉の後半に位置づけられている(陵塚:2008)。なお、図版110-35の尖底体下半資料は、器形がこの時期の土器と類似し、胎土に繊維が観察されないことから、この類のものである可能性が高い。

III類が施された器種には深鉢がある。宮城県七ヶ宿町小梁川遺跡(相原:1986)で類似した資料が出土しており、縄文時代前期末から中期初頭と考えられている。

IV類が施される器種には深鉢がある。類例は蔵王町二屋敷遺跡出土資料があり、縄文時代後期前葉に位置づけられている(加藤ほか:前掲)。

V類が施される器種には深鉢、壺、台付壺がある。深鉢には波状口縁のもの(図版177-19)があり、直線的な体部から口縁部が外に開く器形である。類例は、気仙沼市田柄貝塚第Ⅲ群土器(手塚ほか:1986)、仙台市王ノ境遺跡(小川ほか:2000)、登米市坂戸遺跡遺物包含層(西村ほか:2003)にある。これらの遺跡から出土した土器群は宝ヶ峯式、加曾利BⅡ式段階とされ(手塚ほか:1986)、縄文時代後期中葉に位置づけられている。本遺跡出土資料もこの時期ものと考えられる。

VI類が施される器種には深鉢、鉢、壺、注口土器がある。貼瘤と帯状文はほとんどの場合併用されるとみられる。帯状文の充填要素としてはVI a類、VI b類、VI f類が多い。VI b類は文様内を軽くなでつけるかまったく手を加えず、その周囲を磨きあげて文様を表出させるもので「つや消し手法」と仮称しておく。VI f類の刺突刻目(小井川:2004)は土器の横方向や正面から斜位にヘラ状の施文具を刺して施文する刻目で、捲り上げた粘土が器面から張り出し低い瘤状になるもの(図版120-40・50)もある。類例は、宮城県気仙沼市田柄貝塚や里浜貝塚風越地点、松島町西の浜貝塚などで出土しており、縄文時代後期後葉に位置づけられている。

VII類が施される器種には深鉢がある。体上部が軽く張り、外反する長い口縁部が付く器形で、文様は口縁部から体上部に施される。口縁形態は平縁のもの突起が付くものがあり、口縁部と体部の境にはメガネ状浮文が施される(図版177-39・40)ものが多い。帯状文は三叉状の沈線を描かれ、入組部に三叉文(39)や盲孔(40)が充填される。類例は田柄貝塚VII群土器、風越地点IV群土器にあり、縄文時代後期末に位置づけられている。本遺跡出土資料もこの時期のものと考えられる。

VIII類が施される器種には深鉢がある。基本的な文様要素はVII類と共通しており、三叉文が充填される点などから考えてVII類と同様に縄文時代後期末に位置づけられると考えられる。

IX類が施される器種には深鉢がある。田柄貝塚V群土器に類例がみられることから、後期後葉頃のものと考えられる。

X類が施される土器には深鉢がある。田柄貝塚IV群やV群に類例がある。また、関根達人氏によって櫛歯状条線文が施される土器について時期が検討されており、西の浜式(田柄貝塚IV群土器段階に

相当)から次段階の宮戸Ⅲ a式(田柄貝塚Ⅴ群土器、風越地点Ⅱ群土器に相当)に含まれるとされる(関根：1993)。このことから同様の特徵を持つ本遺跡出土資料は概ね後期後葉前半頃の時期と考えられる。また、地文に櫛歯状の条線を施す土器(図版122-2～4)は櫛歯状条線文と同種の施文工を用いて器面調整したとみられ、これらも後期後葉前半頃と考えられる。

XⅠ類が施される器種には深鉢、鉢、壺、注口土器がある。SX 1143 土器埋設遺構出土土器は屈曲無く、内湾しながら立ち上がる器形で、文様帯は口縁部にある。(図版43-4)。図版178-9の鉢に施された動物形意匠も三叉文を基調としている。注口土器は丸底で算盤形の体部に直線的に内傾する頸部がつき、口縁部が緩やかに内湾しながら開く器形である。類例は宮城県泉仙沼市田柄貝塚、大崎市中沢目貝塚(須藤ほか：1984)、大和町摺蓑遺跡(柳沢ほか：1990)などで出土しており、縄文時代後期末から晩期前葉前半頃に位置づけられている。本遺跡出土資料もこの時期のものと考えられる。

XⅡ類が施される器種には深鉢、鉢、浅鉢、壺があり、比較的器形がわかる土器が多く出土している。深鉢には口縁部が体部から屈曲を持たずに立ち上がるものと、屈曲を持つものがある。鉢は口縁部が屈曲を持たずにほぼまっすぐ立ち上がるもの、屈曲を持たずに緩やかに内湾して立ち上がるもの、屈曲して口縁部が内傾するもの、口縁部が外反するものがある。図版178-16のように文様帯が口縁部と体上部にあるものもみられる。浅鉢は口縁部に屈曲を持つものと持たないものがある。いずれも口縁部に羊歯状文が施され、体部には渦巻文(17)や羊歯状文風の入組三叉文(10)が施されている。このような特徴を持つ土器は、宮城県大崎市中沢目貝塚、大和町摺蓑遺跡など多数の遺跡から出土している。これらの遺跡出土土器は概ね晩期前葉の後半として捉えられていることから、本遺跡出土資料もこの時期のものと考えられる。

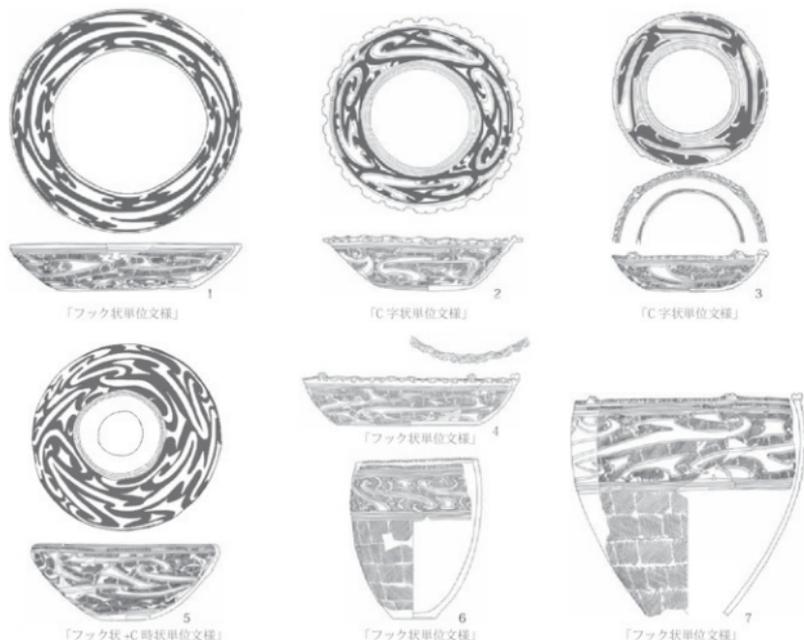
XⅢ類が施される土器には壺、小型浅鉢、高環がある。XⅢ類はXⅡ類と共存することが前述の遺跡で確認されており、縄文時代晩期前葉後半頃と考えられる(須藤1998、小林：2008)。

XⅣ類が施される器種には深鉢、鉢、壺、注口土器がある。深鉢は体部から口縁部にかけて屈曲なく内湾しながら立ち上がる器形のものがある(図版184-27)。鉢は、体部から口縁部にかけて屈曲なく内湾しながら立ち上がる器形で、口縁部には山形突起と刻目が施されている(同図-28)。浅鉢で器形のわかるものはSⅠ1103住居跡から出土しており(図版179-5)、内湾しながら緩やかに立ち上がる器形である。皿は直線的に開く器形(図版178-29)と内湾しながら緩やかに立ち上がるものがある(30)。壺は体部が倒卵状に膨らみ、細い頸部が付く器形で、体部全体にC字状の配置文を用いた雲形文が沈線で描かれている(35)。注口土器には算盤形がある(36)。口縁部と体部の屈曲部に羊歯状の浮線文が施され、体部には磨り消し縄文による雲形文が施されている。38・39は体部が算盤形で、体部と頸部とははっきりとした段がある器形である。文様は鉢巻状の雲形文が頸部に施され、体部には屈曲部に刻目を施した隆帯が巡り、体下部には(磨り消し縄文)による縄文帯が施されている。雲形文にはフック状単位文様(図版179-1・6・7)、C字状単位文様(2・3)、フック状とC字状の単位文様を組み合わせたもの(5)があり、これに鼓状や三叉状の充填文様を加え、磨り消し縄文手法で描かれるものが多い。このような特徴を持つ土器は、宮城県大和町摺蓑遺跡、栗原市山王園遺跡遺物包含層Ⅵ層(伊東・須藤：1985)、岩手県北上市九年橋遺跡(藤村：1986)など多数の遺跡から出土して

おり、縄文時代晩期中葉に位置づけられている。なお、晩期中葉は大洞 C1 式と C2 式に分けられるが、大洞 C1 式と C2 式の変化は漸移的で文様要素も共通しているものが多い。わずかな資料を基に細分を論じることは困難であり、ここでは大きく晩期中葉の土器として捉えておきたい。

XV 類が施される器種は深鉢 (図版 138-39)、鉢 (図版 137-26)、(台付) 浅鉢 (図版 138-38)、壺 (同図-54) がある。鉢、(台付) 浅鉢は、体部から口縁部かけて屈曲なく緩やかに立ち上がる器形で、平縁のものが多く、山形突起が付されるものや押圧が加えられるもの (同図-38) もある。このような特徴を持つ土器は、宮城県大崎市北小松遺跡 (宮城県教育委員会:2009)、山王団遺跡遺物包含層 V 層、福島県伊達市根古屋遺跡 (梅宮ほか:1986)、岩手県一関市中神遺跡 (須藤:2007)、北上市九年橋遺跡 (藤村:1986) などから出土し、晩期後葉~末の大洞 A、A' 式に相当すると思われる。本遺跡出土土器も概ねこの時期のものと考えられる。ただし、 $\pi$  字文は晩期後葉の大洞 A 式に特徴的な工字文と共伴し、大洞 A' 式や弥生時代前期とされる青木畑式でもみられる文様であることが根古屋遺跡や中神遺跡の調査で確認されており、時期の限定には慎重な姿勢が必要といえる。なお、I 区包含層や II 区拡張区 IV 層から出土している四脚土器 (図版 85-2、126-30) については  $\pi$  字文が施される土器と共伴することが九年橋遺跡の調査や中神遺跡の調査で明らかになっており、本遺跡出土資料もこの時期のものと考えられる。

XVII 類が施される器種には鉢、高坏、注口土器がある。鉢は軽く内湾しながら立ち上がる器形で、



図版 179 雲形文の文様類型

文様は体上部に入り組んだ沈線で施され、一部には $\pi$ 字文も充填されている(図版178-49)。高環は体部から口縁部がほぼまっすぐ立ち上がる環部に小型の脚部が付く器形である(図回-51)。文様は体上部に施され、台部には平行沈線が巡る。変形工字文は沈線の反転の繰り返しで描かれ、単位文様の頂部は軽く彫り込まれるが粘土粒の貼付はない。注口土器(52)は動物を意匠としたものである。算盤形の体部に外反する短い口縁部がつく器形で、山形突起がなだらかにつながる波状線となっている。文様は体上部側面に反転する沈線の繰り返しで描かれ、粘土粒の貼付や文様頂部の彫り込みはない。このような特徴を持つ土器は、宮城県栗原市青木畑遺跡、山王団遺跡遺物包含層Ⅲ層下層、名取市原遺跡(大友:2000)、福島県伊達市根古屋遺跡、岩手県一関市中神遺跡などから出土しており、概ね晩期末から弥生前期の土器として理解されている。さらに50の鉢が青木畑遺跡出土青木畑式の基準資料(加藤:1982、須藤:1998)に器形が近似すること、50、51、52に沈線で描かれた変形工字文の特徴が、青木畑式で盛行する変形工字文の特徴と一致することから、これらについては弥生時代前期の青木畑式期に相当すると考えられる。なお、太描きの沈線で文様が施された鉢(図版117-14)、大型のボタン状の突帯が付く山形突起(図版126-40)も青木畑式土器に類例がある。

XⅦ類が施される土器には深鉢がある。口縁部が内湾する器形とみられ、体部全体に重層する三角形文や菱形文が磨り消し縄文で施される。類例は原遺跡出土原式(須藤:1999)や福島県福島市孫六橋遺跡出土土器(木元ほか:1980)にあり、それらは弥生時代中期前葉頃に位置づけられていることから本遺跡出土資料もこの頃のものと考えられる。

XⅨ類が施される器種には壺、甕がある。このような列点文が施される甕や壺は弥生時代前期の砂沢式、宮城県名取市十三塚遺跡東D区出土土器(石川:2005)、中期前葉とされる原式(須藤:前掲、大友:前掲)、中期中葉とされる高田B遺跡出土土器(赤澤ほか:2000)などにみられる。このことからXⅨ類が施される土器については弥生時代前期から中期中葉のいずれかの時期に相当するものと考えられるが、それ以上限定することは難しく、ここでは大きく捉えておきたい。

XⅩ類が施される器種はSX2238土器埋設遺構出土の高環である。内湾しながら立ち上がる環部に大型の台形状の脚部が付く器形で、脚部の裾の開きは小さい。口縁部は平坦である。類似する資料は栗原市山王団遺跡Ⅲ層下層出土土器、青木畑遺跡出土資料にみられ、弥生時代前期のものと考えられる。ただし、青木畑式の標準資料では波状文が高環脚部に限ってみられることが指摘されている(加藤:前掲)。その一方で、山王団遺跡Ⅲ層下層出土土器には環部に波状文が施される高環があり、本遺跡出土資料は山王Ⅲ層下層に近似すると言える(須藤:前掲)。須藤隆氏は山王Ⅲ層下層出土資料について「青木畑式との共通性が強く、その範疇で捉えられるべき土器群」とし、ほぼ対応させる見解を示している(須藤:1998など)。それに基づけば、XⅩ類が施された高環は青木畑式の範疇で捉えることもできるが、基準資料に含まれない高環をこの1点のみの検討で青木畑式と捉えることには問題が残る。このためこの土器の編年的な位置については後述するSX2238土器埋設遺構出土一括資料で詳しく検討したい。

XⅩⅠ類が施される器種は壺である。同心円文が磨り消し縄文を伴わない細い沈線で描かれた壺は円田式(伊東:1957)にみられることから弥生時代中期後葉頃の時期と考えられる。

XXII類が施される器種には深鉢、鉢がある。類例は摺萩遺跡や山王団遺跡VII層などにあり、a類が縄文時代晩期前葉から中葉、b類が縄文時代晩期中葉から後葉の土器と考えられており、本遺跡出土資料もこの頃のものとして推定される。

XXIII a1類が施される器種には深鉢や鉢がある。摺萩遺跡や田柄貝塚の調査で縄文時代後期後葉から晩期後葉に相当する各土器群で認められており、後期後葉～晩期末の幅で捉えておきたい。XXIII a2類が施される器種は深鉢や鉢で、田柄貝塚や摺萩遺跡、山王団遺跡調査で晩期前葉～中葉に相当する各土器群で認められている。本遺跡出土資料についてもこの頃のものと考えておきたい。XXIII a3類は根古屋遺跡に類例があり、縄文時代晩期後葉～末と考えられているほか、東北地方の縄文時代後晩期にあるとされる。XXIII b類は口縁部が薄手の無文になる。中神遺跡や山王団遺跡出土土器に類例あり、縄文時代晩期後半から弥生時代前期までの範囲で捉えられる。

この他、類型化しなかった資料についても若干時期を検討しておきたい。繊維土器で0段多条縄文が施されるもの(図版110-44)や網目状燃糸文が施されるもの(同図-45、図版119-3)があり、詳細な時期は特定できないものの早期から前期前葉の時期に相当すると考えられる。遺構外で出土している鎖状の隆線文が施される土器(図版173-13、21など)は、二屋敷遺跡に類例があり、後期前葉と考えられている。本遺跡出土資料もこの頃のものと考えられる。同心円文(図版94-4、140-45)や田の字状の区画文(図版94-5)が施された蓋は、山王団遺跡や北小松遺跡出土土器などに類例があり、縄文時代晩期後半～弥生時代前期頃のものと考えられている。

### (3) 土器の遺構ごとの出土状況

前項までに遺跡出土の土器群を分類し、その時期を検討した。ここでは分類した土器が住居跡や建物跡の柱穴、土器埋設遺構、土坑墓、遺物包含層などの主な遺構からどのような組み合わせで出土しているかを検討する。

主な遺構から出土している土器の組み合わせは以下ようになっており、ほとんどの遺構で縄文時代後期後葉～晩期の土器が混在していることがわかる。遺構の時期はこれらの土器類型の中で最も新しい時期のものに基本的に帰属できると考えられる。ただし、S11103床面出土XI類の深鉢小破片のように、明らかに他の土器のまとまりから外れる小破片については混入と考えられる。

遺物包含層についてみると、遺物包含層1は各層共通してほとんどが破片資料であり、後期後葉のVI類、晩期前葉のXII類、晩期中葉のXIV類が同じように多く含まれ、III層には弥生時代中期と考えられる土器もみられる。このことから遺物包含層1は弥生時代中期以降の二次堆積層と考えられる。

遺物包含層2は、類型の組み合わせだけをみると遺物包含層1と同様混在しているようにみえるが、その中で器形がわかる土器についてみれば、弥生時代前期のものでまわっている。出土数は少ないものの、このような出土状況は遺物包含層2が弥生時代前期に形成された遺物包含層であることを示すものと考えられる。

以上のように各遺構から出土した土器のまとまりは脆弱で出土数も少なく、土器の組み合わせをみるには不十分な資料である。その中でS X 2238土器埋設遺構出土資料は出土点数は少ないものの、

一括性が強いと考えられる遺構で、次項ではこの土器群の特徴と時期について詳しく検討したい。

(住居跡)

S I 1102 住居跡(床面): VI a, VI b, VI c, VI e, X, XI (1層) VI a, VI b, VI c, XIV  
S I 1103 住居跡(1層): VI a, VI b, VI c, VI e, VI f, VII, XI b, XIV, XXII a, XXIII a1  
S I 1104 住居跡(床・炉): VI a, VI b, VII

S I 1105 住居跡(1層): VI a S I 4001 住居跡: なし

(掘立柱建物跡)

S B 1150 建物跡: VI a, VII, XI, XII, XIV, XXIII a1  
S B 1152 建物跡: VI a, XII, X a, XIV S B 1154 建物跡: VI a, VI c, XIV  
S B 1151 建物跡: なし S B 1153 建物跡: VI a, XI c, XV  
S B 1167 建物跡: VI c, IX b S B 1157 建物跡: VI a, VI e, VI f, VI g, VII, XIV  
S B 1158 建物跡: VI a, VI f, XII, XIV, XXII a S B 1166 建物跡: VI f  
S B 1160 建物跡: IX S B 1161 建物跡: XI b, XI c, XIV, XXIII a1  
S B 1162 建物跡: XII, XIV S B 1163 建物跡: VI a, VI b, VI c, IX a, XI, XIV  
S B 1164 建物跡: XII S B 1165 建物跡: VI f, VII, XIV

(掘立柱建物跡1群)

S B 2220 建物跡: VI a, XI b S B 2215 建物跡: VI a, XI, XIV  
S B 2213 建物跡: VI b, VI e, VI g, XI, XI b S B 2259 建物跡: XI b  
S B 2214 建物跡: XII, XIV S B 2221 建物跡: VI a  
S B 2217 建物跡: VI b, VI c, VI e, VI f, VII, XI a, XII, XIV, XXIII a1, XXIII a2, XXIII a3  
S B 2218 建物跡: VI a, VII, XII, XIV

(掘立柱建物跡2群)

S B 2226 建物跡: VI f, VII, X b S B 2261 建物跡: VI b, VII, XI  
S B 2262 建物跡: X b, XIII S B 2224 建物跡: VI a, IX a  
S B 2263 建物跡: VI a, VI f, VII, XII S B 2223 建物跡: VI f, VII, XII, XIV, XXIII a1  
S B 2222 建物跡: XXII b S B 2260 建物跡: なし  
S B 2264 建物跡: XXIII a1

(掘立柱建物跡3群)

S B 2265 建物跡: XIV S B 2266 建物跡: なし  
S B 2228 建物跡: VI a, VI f S B 2229 建物跡: II, VI a, VI b, VI f, XXII a  
S B 2227 建物跡: XXII a S B 2267 建物跡: なし  
S B 2230 建物跡: XIV

(六角形・五角形建物跡)

S B 2271 建物跡(層位不明): VI f, XIV S B 2273 建物跡(層位不明): VI f  
S B 2276: VI c S B 2268, S B 2270, S B 2274, S B 2275 建物跡: なし

(土器埋設遺構・集石遺構・土坑墓)

S X 1121 土器埋設遺構: XXIII a1 S X 1122 土器埋設遺構: 不明(X I か)  
S X 1123 土器埋設遺構: VII S X 1139 土器埋設遺構: XXIII a1 か  
S X 1124 土器埋設遺構: XXIII a1, X II S X 1125 土器埋設遺構: XXIII a1 か  
S X 1140 土器埋設遺構: 無文深鉢 S X 1141 土器埋設遺構: XXIII a1 か  
S X 1142 土器埋設遺構: XXIII a1 か S X 1121 土器埋設遺構: XI c, XXIII a1  
S X 2238 土器埋設遺構: XX, 類型外の壺3点  
S X 2234 土器埋設遺構: XV a2点 S X 2235 土器埋設遺構: 類型外の壺, XIV  
S X 2236 土器埋設遺構: 類型外の壺, XV a S X 2280 集石遺構: XXIII c  
S K 2057 土坑: XV a S K 2061 土坑: XVI, XX S K 2063 土坑: XIV, XV a  
S K 2067 土坑: XXIII b S K 2055, S K 2066, S K 2062, S K 2281, S K 2282, S K 2283 土坑: なし

(溝跡・沢跡)

S D 4002 溝跡: III, IV, XXIII a1  
IV 2・3区沢跡: IV, V, XIV, XV a, XV b, XVI, XVII, XIX a, XIX b, XXIII a1, XXIII a3, XXIII b  
(遺物包含層1)

IV d層: I a1, I a2, I c1, I c3 IV c層: I a1 IV b層: I a1, I a2, I b, I c1, II  
IV a層: I c1, I c3, XII, XIV  
IV層: I a1, I a2, I b, I c1, II, V a, V b, VI a, VI b, VI c, VI e, VI f, VI g, VII, IX a, X b, XI a,  
XI b, XI c, XII, XIII a, XIII b, XIV, XV a, XV b, XVII, XXII a, XXII b, XXIII a1,  
XXIII a2, XXIII a3

- Ⅲ層：Ⅱ、Ⅴb、Ⅵa、Ⅵb、Ⅵc、Ⅵd、Ⅵe、Ⅵf、Ⅵg、Ⅶ、Ⅷa、Ⅹb、ⅩⅠa、ⅩⅠb、ⅩⅠc、ⅩⅡ、ⅩⅢa、ⅩⅣ、  
ⅩⅤa、ⅩⅤb、ⅩⅥ、ⅩⅦ、ⅩⅧb、ⅩⅩⅠ、ⅩⅩⅡa、ⅩⅩⅡb、ⅩⅩⅢaⅠ、ⅩⅩⅢaⅡ  
Ⅱ層：Ⅴa、Ⅵf、Ⅵg、ⅩⅡ、ⅩⅣ  
Ⅰ層ほか：Ⅰd、Ⅳ、Ⅴb、Ⅵa、Ⅵb、Ⅵc、Ⅵd、Ⅵf、Ⅵg、Ⅶ、Ⅷa、Ⅷb、Ⅹa、ⅩⅠa、ⅩⅠb、ⅩⅠc、ⅩⅡ、  
ⅩⅡ'、ⅩⅣ、ⅩⅥ、ⅩⅦ、ⅩⅩⅡa、ⅩⅩⅡb、ⅩⅩⅢaⅠ、ⅩⅩⅢaⅡ、ⅩⅩⅢb  
(遺物包含層2)  
Ⅳ層：Ⅱ、Ⅴa、Ⅵf、ⅩⅣ、ⅩⅤa、ⅩⅤc、ⅩⅦ  
Ⅲ層：Ⅵd、Ⅵf、Ⅵg、ⅩⅡ、ⅩⅣ、ⅩⅤa、ⅩⅤb、ⅩⅤd、ⅩⅥ、ⅩⅦ、ⅩⅧ、ⅩⅩⅡa、ⅩⅩⅢaⅠ、  
ⅩⅩⅢaⅡ、ⅩⅩⅢb  
Ⅱ層：Ⅴa、Ⅶ、ⅩⅠb、ⅩⅣ、ⅩⅤa  
Ⅰ層ほか：Ⅳ、Ⅴa、Ⅵc、Ⅶ、ⅩⅠa、ⅩⅠc、ⅩⅡ、ⅩⅣ、ⅩⅤa、ⅩⅥ、ⅩⅦ、ⅩⅩⅡa、ⅩⅩⅡb、ⅩⅩⅢaⅠ、  
ⅩⅩⅢb

#### (4) S X 2238 土器埋設遺構出土土器

S X 2238 土器埋設遺構出土土器は検出状況から判断して一括性が非常に高いと考えられる。以下では出土土器群の編年的な位置について検討する。

再葬墓の埋設土器で壺3点(図版78-1~3)と高環1点(同図-4)があり、遺構検出状況から同時に埋設されたと考えられる。1と2は体上部が張る壺で、頸部で括れ口縁部は短く外反する。3は体部中央が膨らむ壺で頸部で括れ口縁部は短く外反する。口縁部の装飾をみると、口縁部が平縁で装飾を持たないもの(1)、口唇部に刻目が施されるもの(2)、頂部に刻みを持つ山形突起がなだらかにながなる波状縁(3)とそれぞれ異なる。体部はいずれも丁寧な磨かれ無文であるが、1は縄文を体上部に施した後磨き消している。器面調整にハケメはみられない。4の高環は体部から口縁部にかけて緩やかに内湾しながら立ち上がる環部に台形状の脚部が付く器形である。環部と脚部の高さの比はおおよそ1:1である。文様は沈線2本を一組にした波状文が体部に3単位と脚部に2単位施されている。器面調整は内外面とも丁寧なヘラミガキである。

3の壺の器形は弥生時代前期の青森県砂沢遺跡出土砂沢式土器(村越ほか:1991)や霊山町根古屋遺跡出土の遠賀川系土器(注1)の器形に類似するもので、青木畑遺跡出土青木畑式の基準資料中には含まれていない器形である。しかし、口唇部装飾のみをみると縄文時代晩期末の大洞A'式に近似し、縄文の伝統が強く窺える。一方、高環は大洞A'式の台付浅鉢や晩期末の高環と比べ脚部が大型の台形状で弥生時代前期青木畑式の高環に近似する。波状文は変形工字文から派生したものと考えられ、磨り消し縄文手法ではなく、丁寧なミガキで仕上げられている。また、1、2の壺の器形は縄文時代晩期の伝統を継承しているとみられるが、2の壺口唇部に施された刻目は根古屋遺跡出土の遠賀川系土器などに認められるもので、大洞A'式の壺にはみられない装飾である。

このように縄文の伝統が強い要素と弥生時代の特色が強い要素とが個々の土器で混在している。前述のように青木畑遺跡出土青木畑式標準資料では波状文は高環脚部に限定してみられ、高環環部に施される波状文は青木畑式の範疇では捉えられないことになる。

しかし、S X 2238 土器埋設遺構出土土器群の器形、文様、施文方法、調整などの特徴は青木畑式や砂沢式土器に強い共通性が認められる。また、縄文時代晩期末大洞A'式の特徴と弥生時代の特色が強い要素とが個々の土器で混在している点も、弥生時代前期の特徴と考えることが最も妥当と思われる。これらのことからS X 2238 土器埋設遺構出土土器の特徴は青木畑式土器に近似し、阿武隈川

下流域における弥生時代前期の特色を表しているといえる(注2)。

なお、今回の調査にあたり、図版 78-3 の壺と青木畑遺跡出土資料 2 点について放射性炭素年代測定を実施している(付編 2 参照)。3 は 2300 ± 30yrBP、青木畑遺跡報告書掲載包含層出土資料図版 15-61 の鉢が 2060 ± 30yrBP、表土出土図版 24-27 の鉢が 2260 ± 30yrBP 年代が出ており、型式的に捉えられた土器の年代観と大きく矛盾しないが、青木畑遺跡出土資料の年代にはばらつきがある結果となっている。

## (5) 土偶・土製品

土偶は S I 1102 住居跡、S B 2220、S B 2221 建物跡、S K 1113 土坑、S D 4002 溝跡、S X 1135、IV-2 区沢跡、遺物包含層 1 から出土している。いずれも破片資料で文様も出土土器と共通していないため土偶の特徴から時期の特定は困難である。共存する土器の年代からは、図版 101-16 が前期末～後期前葉頃、その他については後期後葉～晩期末頃の可能性がある。耳飾りについては三叉文が施された図版 165-9・10 が晩期前葉前半頃、羊歯状文が施された同図-11 が晩期前葉後半と考えられる。それ以外については時期不明で、共存する土器の年代からは後期後葉～晩期末頃の可能性があると考えられる。貝形土製品については貼瘤が多用される特徴から後期後葉と考えられる。SD4002 溝跡出土の土鍾は共存する土器の年代から前期末～後期前葉頃の可能性がある。不明土製品、ミニチュア土器で時期の推定できるものはなかった。

以下では、土製品の中で特に注目される貝形土製品について若干検討したい。

S I 1104 住居跡柱穴埋土、S X 1103 堆積土から出土した(図版 15-7)。約 1/3 が残存しており、残存長 135mm、残存幅 64mm、残存高 57mm で器厚は口縁部付近で 48mm、底部付近で 62mm である。巻貝を模したもので、櫛歯状刻目を充填した細い帯状文と 2 本一組の弧状沈線文で貝殻の表面を表し、小貼瘤で螺肋の突起を表現している。注ぎ口は一部しか残存していないが、殻口下端の細く突き出た部分を表現しているとみられる。口縁部は殻頂部まで大きく開き、殻頂部先端は棘状に尖らせた表現になっている。表面に施される文様の特徴は後期後葉の土器に共通し、本資料もこの時期のものと考えられる。類似は少なく、形がわかるものでは、宮城県丸森町岩ノ入遺跡(志間:1966)、岩手県宮古市近内中村遺跡(鎌田:2000)、一関市中神遺跡(須藤:1997)、新潟県村上市上山遺跡(須藤:前掲)で出土している。これらは殻頂部を筒状に表現し、螺肋を隆帯と貼瘤で螺旋状に表現するなど本資料より写實的に巻貝を象っている。なお、中神遺跡出土資料については関東以西に生息するボウシュウボラを模したものと考えられている(須藤:前掲)。

注1 本家は西日本に分布する前期弥生土器について使用されてきた名称。1980年代福島県荒原遺跡の調査で出土した削出突帯がある壺や青森県松橋遺跡出土の壺など、東北地方各地でも西日本の弥生時代前期の土器に類似した壺や壺形土器が発見され、弥生文化の伝播を示す遺物として注目されるようになった。これらの土器についても「遠賀川系土器」と呼称して研究が進められてきたが、近年では、東北地方北部・中部から多く出土する遠賀川系土器の影響を受けながらも変容が激しいものを「模倣型遠賀川系土器」、「折衷型遠賀川系土器」(須藤:1990)、「類遠賀川系土器」(高瀬:2004など)と呼称して区別する研究がある。

注2 弥生時代については地域差が大きく、本来であれば少なくとも主要水系(上・中・下流域)ごとに指標となる型式が必要と考えられるが、畿内河川遺跡が位置する阿武隈川下流域については縄文時代晩期末から弥生時代中期中葉の良好な資料が現時点では報告されていない。このため、仙台平野名取川流域の原遺跡、高田B遺跡、中在家南遺跡や阿武隈川中流域の孫六橋遺跡、北上川流域の青木畑遺跡などから出土した資料や設定されている型式内容と比較して本遺跡出土資料の時期を推定している。

## B. 石器・石製品

石器・石製品は、調査区全体で7,707点出土している。はじめに、各器種の特徴をもとにそれぞれ形態や製作・使用状況により類型化を行う。なお、各器種の類型別の出現頻度は第38表に示している。これをふまえて、本遺跡における石材の獲得から石器・石製品の製作・使用に至る過程を考察するとともに、これらの時間的な変化を捉えていくことを目的とする。

第38表 器種別類型出現頻度

石鏡	I a	I a 2	I ab	I b	I b 2	I c 2	II	III a	III b	III c	IV a	IV a 2	IV b	IV b 2	IV c	V	不明	計		
I区	31	11	5	1	25	21	47	7	6	12	3	3	12	3	2	11	3	29	12	247
II区・II区西	6	8			6	2	10		3	1								3	5	44
IV・IV区	1					1			2						2			1	2	12
計	38	19	5	1	31	23	58	7	6	17	4	3	12	3	4	13	3	33	19	303

尖頭器	I a	I b	I c	II	III	IV	不明	計	石鏡	I	I a	I a 2	I b	II	III a	III b	III c	不明	計
I区	3	1	14	5	2	1	4	35	I区・I区南	2	3	4	2	1	5	2	2	1	22
II区・II区西		1	3		1	1	1	8	II区・II区西	1	1				1				3
IV・IV区				1	1	1	2		IV区・IV区				1		2				4
計	3	2	17	3	7	3	2	6	45	計	3	4	4	3	1	6	4	2	29

石鏃	I a	I b	I c	II	III a	III b	III c	IV	不明	計	石鏡	I a	I b	I c	II	不明	計					
I区・I区南	3	5	3	5	2	24	6	8	7	5	8	2	5	83	I区	15	5	2	4	7	37	
II区・II区西	2		1	1	1	4	1	1		1			1	13	II区	6					1	7
IV・IV区						1								1	IV区	3						3
計	5	5	4	6	3	29	7	9	7	6	8	2	6	97	計	24	5	2	4	4	8	47

腰石	I a	I b	I c	I d	II ab	II ad	II bb	II bd	II de	不明	計	腰石	I a	I b	II	不明	計		
I区	1	7	10	2	5	2	3				36	I区・I区南	7	13	5	1	1	27	
II区	2	3	2	1	2	1				1	12	II区・II区西	5	3	1		2	11	
IV・IV区	2	4	1		2						9	IV区	1	1			2		
計	1	17	14	4	7	2	7	1	2	3	1	57	計	13	17	6	1	2	40

不定形石	I a	II a	II b	III c	III b	III a	III d	III e	計	不明形状の別	I a	I a 2	I b	II	不明	計	
I区・I区南	41	32	37	34	16	7	9	106	291	573	I区	2	5	1	7	2	17
II区・II区西	7	7	9	8	5		4	20	50	110	II区	1	1				3
IV・IV区	4	2	2	2	1			8	11	30	計	3	6	1	8	2	20
計	52	41	48	42	23	8	13	134	352	713							

### (1) 出土石器の分類 (図版 180・181)

#### ① 石鏃

二次加工により作出した尖頭部をもち、先端が薄く扁平なもの。尖頭器としたものに比べ小型である。基部の形態により5類に大別した。

#### I類：基部が突出するもの（凸基）

a：基部の両側辺に深い抉りを入れ、茎を作出しているもの（有茎）

①：鉄身が茎より長いもの／②：鉄身が茎とほぼ同じ長さか短いもの

b：基部の両側辺に浅い抉りを入れ、茎を作出しているもの（有茎）

①：鉄身が茎より長いもの／②：鉄身が茎とほぼ同じ長さか短いもの

c：基部が抉られないもの（凸基無茎）

①：全体が幅広のもの／②：全体が細身のもの

#### II類：基部を半円形に調整しているもの（円基）

#### III類：基部を直線的に調整しているもの（平基）

a：両側辺が外湾するもの／b：両側辺が直線的になるもの／c：両側辺が内湾するもの

#### IV類：基部に抉りを入れ、2個の逆刺を作出しているもの（凹基）

a：基部の抉りが深いもの

- ①：両側辺が外湾し、逆刺が細身のもの／②：両側辺が外湾し、逆刺が幅広のもの
- ③：両側辺が直線的になるもの

b：基部の抉りが浅いもの

- ①：両側辺が外湾するもの／②：両側辺が直線的になるもの
- ③：両側辺が内湾するもの／④：基部の両側辺に抉りが入るもの

V類：製作途中にあると考えられるもの（未成品）。両側辺が非対称、一部が極端に厚みをもつなどの特徴がみられる。

各調査区の石鏃の出土状況および類型別の出現頻度等については後述する。

②尖頭器

二次加工により作出した尖頭部をもち、大型のもの。石鏃から尖頭器への大きさの変遷は連続的であり形態も類似するため、両者の間に明瞭な境界線を引くことはできないが、大部分の石鏃が長さ4cm未満であることから、未成品以外で長さ4cm以上のものを便宜的に尖頭器とした。長さ4cm未満のものについては、破損品に加え、幅広で厚みをもつ、二次加工が部分的で石鏃と異なる様相をもつなどの要素があれば尖頭器として分類している。石鏃と同様に基部の形態で4類に大別した。

I類：基部が突出するもの（凸基）

a：基部の両側辺に抉りを入れ、茎を作出しているもの（有茎）

b：基部が抉られないもの（凸基無茎）

- ①：全体の形状が菱形を呈するもの／②：両側辺が外湾するもの／③：全体が細身のもの

II類：基部を半円形に調整しているもの（円基）

III類：基部を直線的に調整しているもの（平基）

IV類：製作途中にあると考えられるもの（未成品）。両側辺が非対称、一部が極端に厚みをもつなどの特徴がみられる。

調査区全体では、I b類が多く出土し（53%）、なかでもI b②類が最も多く出土している。

③石錐

二次加工により作出した尖頭部をもち、その先端が厚みをもつもの。断面三角形もしくは四角形を呈し、厚みをもつ尖頭部（錐部）は回転穿孔の機能を有していたと考えられる。使用の痕跡とみられる錐部先端の摩滅を肉眼で確認できたものは19点ある。尖頭部の数により3類に大別した。

I類：両端に尖頭部を有するもの（棒状）

a：錐部が両端にあるもの

- ①：全体がほぼ同じ幅のもの／②：中央部から基部がより幅広になるもの

b：錐部が一端のみなもの

- ①：全体がほぼ同じ幅のもの／②：中央部から基部がより幅広になるもの

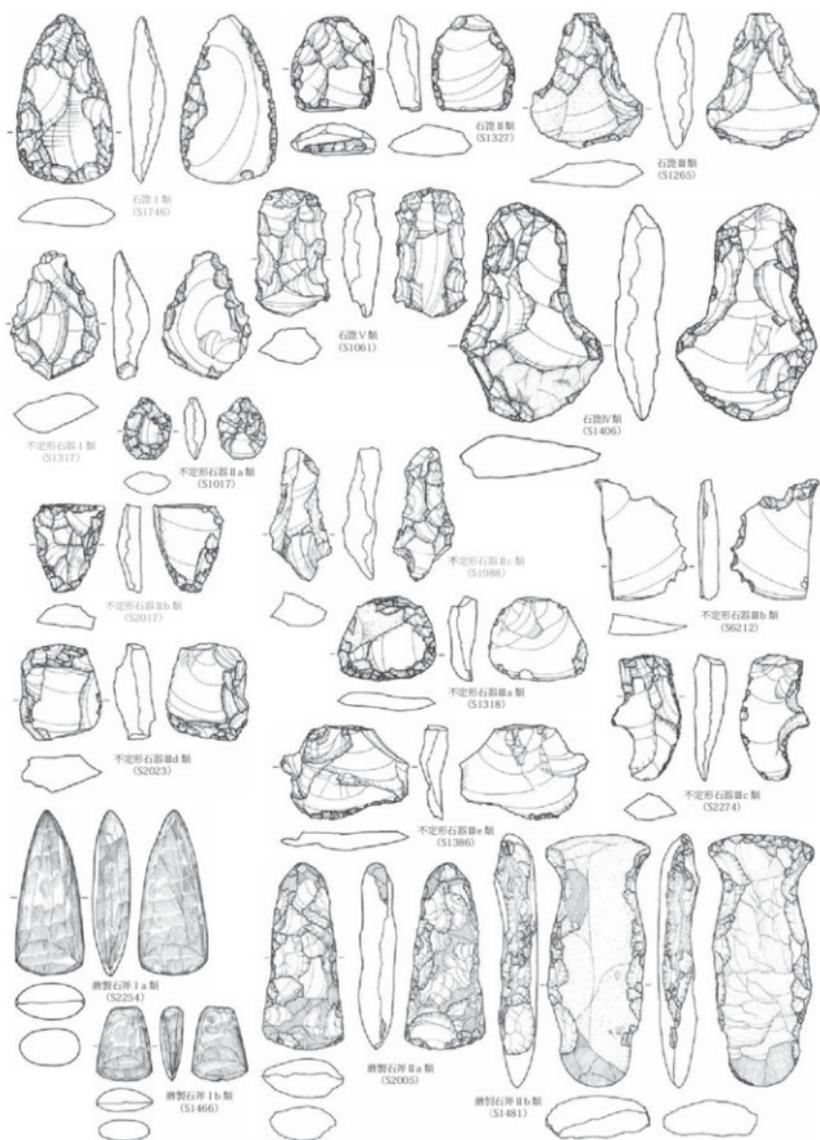
II類：尖頭部は一端のみで、いわゆる「つまみ部」（基部）をもつもの

a：つまみ部との境界に抉りを入れて、錐部を明瞭に作出しているもの

- ①：錐部が長いもの／②：錐部が短いもの



図版 180 石器の種類 (1) (石鏃・石鏃・石鏃: S=1/2)



図版 181 石器の種類(2) (石器・不定形石器: S=1/2 磨製石斧: S=1/3)

b：つまみ部との境界が不明瞭なもの

①：錐部が長いもの／②：錐部が短いもの

c：剥片の一端を加工して錐部を作出しているもの

①：抉りを入れて明瞭な錐部を作出しているもの／②：抉りが入らないもの

Ⅲ類：製作途中にあると考えられるもの(未成品)。一部が極端に厚みをもつなどの特徴がみられる。調査区全体では、つまみ部をもつⅡ類が多く出土しており(71%)、なかでもⅡa①類が最も多く出土している。

#### ④石匙

両側辺に抉りを入れ作出したつまみ部を有するもの。先端部(刃部)の形態により3類に大別した。

I類：つまみ部に対して先端部が縦方向に長いもの(縦型)

a：先端が尖頭状になるもの

①：二次加工により鋭い尖頭部を作出しているもの

②：先端がやや円くなるもの

b：先端が直線的になるもの。先端は折れ面や無加工である。

Ⅱ類：つまみ部に対して先端部が横方向に長いもの(横型)

a：先端部が外湾するもの／b：先端部が直線的になるもの

Ⅲ類：製作途中にあると考えられるもの(未成品)。刃部の作出が明瞭でないなどの特徴がみられる。調査区全体ではI類(縦型)が多く出土している(52%)。ただし、細分された各類型で突出して多く出土しているものはない。

#### ⑤石篋

一端に長軸(器軸)に直交する刃部を作出したもの。平面形により3類に大別した。

I類：左右対称のもの

a：両側辺が直線的で、刃部がやや開くもの

b：両側辺が外湾し、全体の形状が楕円形を呈するもの

c：両側辺が内湾するように開き、全体の形状が楕形を呈するもの

Ⅱ類：左右非対称のもの

Ⅲ類：刃部の加工がない、あるいはわずかのもの。未成品の可能性が考えられる。

調査区全体ではI a類が多く出土しており(51%)、I区以外ではI a類以外の類型は見られない。

#### ⑥打製石斧

末端に刃部を有する打製の石器。形態は石篋に類似するが、主に粗粒の石材を利用し、基部整形の二次加工がやや粗いという点に差異がある。

#### ⑦磨製石斧

末端に刃部を有する石器で、器体の成形に研磨を用いるもの。製作方法により2類に大別した。

I類：全面を研磨と敲打で整形しているもの

a：基部がやや尖り、幅と厚さがほぼ等しくなるもの／b：基部が尖らず、扁平なもの

Ⅱ類：研磨による整形は一部のみで、剥離による整形の痕跡を大きく残すもの。

a類：基部がやや尖り、幅と厚さがほぼ等しくなるもの／b類：基部が尖らず、扁平なもの  
調査区全体ではほとんどがⅠ類で（90%）、Ⅱ類はⅠ区とⅡ区でわずかに見られる程度である。

#### ⑧模形石器

両極打法による剥離面（両極剥離痕）が認められるもの。対向する縁辺には、末端がステップ状の二次加工が多くみられ、縁辺がつぶれているものも多く見られる。両極剥離が施された縁辺の数により2類に大別した。

Ⅰ類：両極剥離が施された縁辺が一对のもの。縁辺の形状によりさらに細分される。

a：線状—線状／b：線状—平坦面／c：線状—点状／d：平坦面—平坦面

Ⅱ類：両極剥離が施された縁辺が二対のもの。対になる各縁辺の形状の細分はⅠ類に準ずる。

調査区全体ではⅠ類が多く出土している（70%）。縁辺のいずれか一方に平坦面を有するものが多い。

#### ⑨不定形石器

二次加工が施された打製石器のなかで、上記の定形的な石器（未成品を含む）の定義に該当しないものを不定形石器として一括している。二次加工の状況により下記の3類に大別した。

Ⅰ類：二次加工により尖頭部を作出しているもの（尖頭状石器）。尖頭部に比べて尖頭部の角度が大きく、尖頭部の作出があまり明瞭でないなどの特徴があり、刺突具としての機能は推定しにくい。

Ⅱ類：剥片等に面的な二次加工を施すもの

a：両面に二次加工を施し、素材面をほとんど残さないもの（両面加工石器）

b：両面に二次加工を施すものの、片面は素材面を大きく残すもの（半両面加工石器）

c：片面のみに二次加工を施すもの（片面加工石器）

Ⅲ類：剥片等の縁辺に二次加工を施すもの。素材面は両面ともに大きく残る。二次加工の状況により下記のとおりに分類した。

a：急角度で幅の狭い連続的な二次加工を施すもの（スクレイパー）

b：鋸歯状の二次加工を施すもの（デンティキュレイト）

c：深い抉りを入れるもの（ノッチ）

d：上記のa～cに該当しないもので、縁辺の大半に二次加工を施すもの（周縁加工石器）

e：上記のa～cに該当しないもので、縁辺の一部に二次加工を施すもの（二次加工ある剥片）  
各調査区の出土状況および類型別の出現頻度については後述する。

#### ⑩礫石器

礫石器は、平坦あるいは緩やかに凹む磨面を有するものを石皿とし、それ以外のものについては使用痕により大別した。1つの石器に複数の使用痕を有するものについて、使用痕の新旧関係がわかるものは最終段階の使用痕で器種を決定し、新旧関係の不明なものについては広い面に残された使用痕で器種を決定した。実際には複数の用途での使用が考えられるため、器種名称は便宜的な意味が強い。

石皿：平坦あるいは緩やかに凹む磨面を有するもの。地面に置いて使用されたと推定されるものについては小型のもの（図版150-5）も石皿として認定した。

磨石：石皿以外で磨面を有するもの

凹石：凹み（敲打痕）を有するもの。凹みは、円形で深い凹みからやや広い範囲に浅く凹むものまでさまざまなものがみられる。

砥石：溝状の凹み（磨面）を有するもの

敲石：敲打痕を有するもの

## (2) 石材

### ① 石材の選択

各調査区（遺構・遺物包含層等を含む）の石材組成（第39表）をみると、剥片石器では、すべての調査区において珪質頁岩が最も多く用いられ、次に碧玉（注1）が多く用いられている。これらの他に、玉髓や珪質凝灰岩（注2）も多く利用される。剥片石器以外では、石斧や礫石器で安山岩、石製品では安山岩や凝灰岩が多く用いられる傾向にある。

ここで、出土点数の多いⅠ区およびⅡ区の器種別石材組成（第39表、図版182）をみると、剥片

第39表 器種別石材組成

Ⅰ区・Ⅰ区南	珪質頁岩A・B	頁岩	珪質凝灰岩A・B	凝灰岩	碧玉A	碧玉B	玉髓	敲打岩	安山岩	デイサイト	緑泥石材	総計
石鏃	141	2	13	1	49	19	19				3	247
尖頭器	22			1	9	3						35
石鏃	68	3			10	1	1					83
石鏃	19	1			1	1						22
石鏃	24	1	4	4	3		1					37
磨石	22		2	1	7	2	2					36
不定形石器	306	19	34	8	61	20	29	1		1	4	573
石斧		2								15	5	29
石皿				2				1		89	30	130
磨石類	6			18	1					123	15	216
剥片	2,342	63	210	35	947	324	215	2	4		39	4,181
石核	247	5	29	2	119	39	24				3	468
円盤状石製品									17			17
石棒・石刀								31				31
貝身貝				10							4	14
その他の石製品				6	1			2	2	2	3	16
総計	3,281	99	295	95	1,208	409	291	37	250	48	92	6,105

Ⅱ区・Ⅱ区西	珪質頁岩A・B	頁岩	珪質凝灰岩A・B	凝灰岩	碧玉A	碧玉B	玉髓	敲打岩	安山岩	デイサイト	緑泥石材	総計
石鏃	15		8	1	8	5	7					44
尖頭器	2		4		1		1					8
石鏃	10		1		1		1					13
石鏃	2						1					3
石鏃	4	1	1						1			7
磨石	7	1	1				1	1				11
不定形石器	66	5	9	2	13	7	6					110
磨石				2					9		1	12
石皿									13	12	2	27
磨石類		1		10					29	1	5	46
剥片	366	20	55	11	194	101	88	4			23	862
石核	35	2	3		28	14	18			1	5	105
円盤状石製品										13	2	15
石棒・石刀												14
その他の石製品				2					2			4
総計	907	30	82	28	245	128	123	17	56	14	40	1,270

Ⅲ区	珪質頁岩A・B	頁岩	珪質凝灰岩A・B	凝灰岩	碧玉A	碧玉B	玉髓	敲打岩	安山岩	デイサイト	緑泥石材	総計
石鏃	5		1				5				1	12
尖頭器	2											2
石鏃	1											1
石鏃	3						1					4
石鏃	1	1			1							3
磨石	3	1	1			1	2				1	9
不定形石器	21	1	1			3	3				1	30
石斧									2			2
石皿									11	2	1	14
磨石類				4					28	2	2	36
剥片	79	8	14	3	32	12	34		2		8	192
石核	7		2		2	2	6					20
石棒								1				1
総計	122	11	19	7	35	19	50	1	43	4	15	326

石器の器種により利用される石材のあり方が異なる。具体的には、主要な石材である珪質頁岩は石鏃や石匙でその割合が大きく、碧玉や玉髓、珪質凝灰岩は石鏃や尖頭器などでそれらの割合が大きくなる。これらには、ある程度の石材の選択性をみることができる。このような石材の選択性は、同様の時期の大和町摺菰遺跡第1遺物包含層や気仙沼市田柄貝塚においてもみられ、いずれも石匙で頁岩の割合が大きく、石鏃や尖頭器でその割合が小さくなるという指摘がある(柳澤ほか:1990)。

## ②石材利用の変化

I区・I区南(以下、I区と省略する)およびII区遺物包含層出土の剥片・石核の点数比および重量比(図版183)を見ると、I区では、III層とIV層で差異がほとんど認められないものの、IVb層以下では珪質頁岩の割合が大きくなる。II区では、重量比をみると、IV層に比べてIII層では珪質頁岩と碧玉A類の割合が特に大きくなり、頁岩と碧玉B類の割合が特に小さくなるように、主要石材に大きな変化がみられるようになる。さらに、I区とII区を比較すると、III層・IV層ともにI区が珪質頁岩・頁岩の割合が大きく、II区が碧玉・玉髓の割合が大きくなるという傾向がみられる。この傾向は、石鏃や尖頭器でも同様である。共存する土器の時期がI区下層→上層→II区という順序で新しくなるという傾向をふまえると、時期が新しくなるにつれて、碧玉・玉髓の利用の割合が大きくなることが言える。前述したように、碧玉・玉髓は、石鏃や尖頭器といった刺突具においてその利用頻度が高い。しかし、I区とII区とで刺突具の組成比に大きな差異はみられないため、碧玉・玉髓利用の増加を時期差に求めることが可能である。

## (3) 素材剥片の生産

石器石材の遺跡内への搬入形態については、I・II区遺物包含層から出土した剥片・石核を観察すると(第40表)、いずれの調査区とも自然面を有するものが重量比で50%以上あることから、原石もしくはそれに近い状態で搬入され、遺跡内において剥片生産が行われたと推定できる。これは主要な石材である珪質頁岩と碧玉ともにみられる現象で、石材による有意な差はみられない。

剥片・石核と剥片石器それぞれの石材組成を比較すると、剥片石器に用いられる石材と剥片・石核の石材の種類に大きな差異は認められない。遺跡内で生産された剥片は、各種剥片石器の素材となったと考えられる。なかでもI・II区ともに、剥片・石核の石材組成が石鏃の石材組成に類似することから、剥片生産の主な目的は石鏃の生産にあると言える。

剥片剥離方法に着目すると、剥片素材の石核が、点数比でI区61%、II区48%みられる。また、剥片素材の石核から剥離された剥片の背面にボジ面(素材剥片の腹面)を有するものが、点数比でそれぞれ15%前後ある。これらを重量比にするとその割合は小さくなることから、これらの多くが小型で、石鏃等の小型石器の製作を意図して用いられた剥片剥離方法の可能性が考えられる。

また、剥片および石核の全面もしくは一部の剥離面に光沢を有するものが一定量存在する。剥離面に見られる光沢は加熱処理の痕跡の可能性が考えられる(御堂島:1993a・b)。I・II区ともに点数比で剥片の9%、石核の16%で観察することができた。このことから、剥片生産の段階で、一部の石核で加熱処理が行われたと言える。石材別にみると、加熱処理の痕跡は碧玉で多く確認でき、珪質



第40表 遺物包含層出土の剥片・石核観察表

I区・I区南 剥片																						
層位	点数	重量 (g)	背面凸面				自然面				加熱		熱処理		付着物							
			点数 (%)	重量 (g)	(%)	点数 (%)	重量 (g)	(%)	点数 (%)	重量 (g)	点数 (%)	重量 (g)	点数 (%)	重量 (g)								
I層	621	4,001.8	98	15.8	443.1	11.1	241	38.8	2,021.0	50.5	24	3.9	82.5	2.1	70	11.3	267.7	6.7	0	0.0	0.0	
II層	17	51.0	3	17.6	6.6	12.9	9	52.9	37.0	74.3	0	0.0	0.0	0	4	23.5	14.6	28.6	0	0.0	0.0	
III層	1,115	8,154.4	237	16.4	686.6	8.4	335	37.8	4,913.8	60.3	32	3.7	265.6	3.3	125	11.8	352.8	5.8	3	0.2	36.8	0.7
IV層	854	4,102.8	126	14.8	323.7	7.9	326	38.2	2,192.8	53.4	51	6.0	187.6	4.6	84	9.8	358.8	8.7	2	0.2	11.1	0.3
Va層	3	9.5	0	0.0	0.0	0.0	2	66.7	8.8	92.6	0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	
Vb層	22	97.7	3	13.6	4.1	4.2	13	59.1	76.2	78.0	0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	
Vc層	53	147.6	5	9.4	9.1	6.2	13	24.5	46.3	31.4	1	1.9	3.6	2.4	1	1.9	0.9	0.6	0	0.0	0.0	
Vd層	6	35.6	0	0.0	0.0	0.0	3	50.0	26.0	73.0	0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	
Ve層	2	11.9	2	100.0	11.9	100.0	0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	
その他	2	7.2	0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	
その他	495	2951.8	76	15.4	285.8	9.2	184	37.2	1,536.5	52.1	23	4.6	80.2	2.7	44	8.9	158.8	5.4	0	0.0	0.0	
計	3,490	19,571.5	545	15.6	1,770.9	9.0	1,326	38.0	10,861.3	55.5	151	4.3	619.5	3.2	328	9.4	1,353.2	6.9	5	0.1	67.9	0.3

I区・I区南 石核																						
層位	点数	重量 (g)	剥片素材				自然面				加熱		熱処理		付着物							
			点数 (%)	重量 (g)	(%)	点数 (%)	重量 (g)	(%)	点数 (%)	重量 (g)	点数 (%)	重量 (g)	点数 (%)	重量 (g)								
I層	103	2,618.0	68	66.0	1,190.5	45.3	59	57.3	1,839.4	70.3	0	0.0	0.0	14	13.6	184.5	7.0	0	0.0	0.0		
II層	3	31.9	0	100.0	31.9	100.0	1	33.3	13.3	42.9	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0		
III層	139	2,294.1	83	59.7	1,221.1	53.2	65	46.8	1,278.5	55.7	0	0.0	0.0	28	20.1	350.6	15.3	0	0.0	0.0		
IV層	92	3,355.9	56	60.9	1,142.1	34.0	49	53.3	2,747.7	81.2	0	0.0	0.0	12	13.0	135.9	4.0	0	0.0	0.0		
Va層	1	8.0	1	100.0	8.0	100.0	1	100.0	8.0	100.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0		
Vb層	1	5.0	0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0		
その他	65	2,592.8	36	55.4	671.7	25.9	28	43.1	2,111.8	81.4	1	1.5	8.9	0.3	12	18.5	145.0	5.6	2	3.1	39.2	1.5
計	404	10,904.8	247	61.1	4,264.4	39.1	293	50.2	7,998.7	73.4	1	0.2	8.9	0.1	66	16.3	816.0	7.5	2	0.5	39.7	0.4

II区 剥片																						
層位	点数	重量 (g)	背面凸面				自然面				加熱		熱処理		付着物							
			点数 (%)	重量 (g)	(%)	点数 (%)	重量 (g)	(%)	点数 (%)	重量 (g)	点数 (%)	重量 (g)	点数 (%)	重量 (g)								
I層	52	247.2	9	17.3	32.3	13.1	18	34.6	147.3	59.6	3	5.8	3.4	1.4	4	7.7	11.1	4.5	0	0.0	0.0	
II層	28	154.1	4	14.3	10.9	7.1	12	42.9	74.0	48.0	0	0.0	0.0	2	7.1	9.8	6.4	0	0.0	0.0		
III層	242	1,438.5	31	12.8	90.2	6.3	68	28.1	431.1	30.0	18	7.4	61.8	4.3	25	10.3	72.8	5.1	1	0.4	2.7	0.2
IV層	52	786.6	7	13.5	43.6	5.5	25	48.1	386.1	74.5	1	1.9	17.2	2	3.8	9.0	1.1	0	0.0	0.0		
Va層	1	5.0	0	0.0	0.0	0.0	1	100.0	5.0	100.0	0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	
その他	208	1,473.5	39	14.6	30.4	5.5	71	26.5	824.6	56.0	9	3.4	57.9	3.9	25	9.3	87.6	5.9	0	0.0	0.0	
計	643	4,105.3	90	14.0	257.4	6.3	195	30.3	2,068.5	50.4	31	4.8	124.8	3.0	58	9.0	190.3	4.6	1	0.2	2.7	0.1

II区 石核																						
層位	点数	重量 (g)	剥片素材				自然面				加熱		熱処理		付着物							
			点数 (%)	重量 (g)	(%)	点数 (%)	重量 (g)	(%)	点数 (%)	重量 (g)	点数 (%)	重量 (g)	点数 (%)	重量 (g)								
I層	6	131.8	3	50.0	84.8	73.3	4	66.7	119.2	77.5	0	0.0	0.0	1	16.7	19.4	14.7	0	0.0	0.0		
II層	4	33.8	3	75.0	24.8	73.4	2	50.0	17.7	52.4	0	0.0	0.0	1	25.0	9.0	26.6	0	0.0	0.0		
III層	30	707.8	12	40.0	167.1	23.6	18	46.7	386.9	54.7	2	6.7	31.4	4.4	3	10.0	49.5	7.0	1	3.3	7.0	1.0
IV層	9	1,719.9	3	33.3	123.6	7.2	5	55.6	1,622.5	94.3	0	0.0	0.0	1	11.1	14.2	0.8	0	0.0	0.0		
その他	20	264.5	12	60.0	125.2	47.3	8	40.0	144.8	54.7	1	5.0	8.9	3.4	5	25.0	44.7	16.9	0	0.0	0.0	
計	69	2,857.8	33	47.8	525.5	18.4	33	47.8	2,274.1	79.6	3	4.3	40.3	1.4	11	15.9	136.8	4.8	1	1.4	7.0	0.2

頁岩ではごくわずかである(注3)。剥片剥離段階では、石材によりその技術の使い分けが行われたとみることができる。

#### (4) 剥片石器の製作・使用

##### ①二次加工(加熱処理)

剥片石器では、I・II区ともに全体の約1/4に加熱処理の痕跡が認められ(第41表、注4)、剥片剥離の段階よりその割合が大きくなる。器種別にみると、石鐮や石錐といった小さな二次加工面で構成される石器でその割合が大きい。石材別では、剥片・石核と同様に、碧玉A・B類や玉髓でその割合が大きくなる。剥片石器の製作段階では、器種や石材によってこの技術が選択的に用い

第41表 加熱処理痕のある石器の出現頻度

器種	I区・I区南				II区・II区西				新区			
	一部	全面	なし	計	一部	全面	なし	計	一部	全面	なし	計
石鐮	50	91	56	247	13	14	17	44	4	4	4	12
尖頭鏃	8	1	26	35				8	8			2
石鏃	20	12	51	83	2	5	6	13				1
石錐	2	20	22	1	2	3	2	2	2	4		2
石鏃	17	37	37	71	7	7	7	7				3
鏃柄石	3	1	32	36	1	1	11	12				3
不定形石器	60	5	508	573	13	4	93	110	6			24
計	153	110	770	1,033	35	23	144	197	12	4	4	45

石材	I区・I区南				II区・II区西				新区			
	一部	全面	なし	計	一部	全面	なし	計	一部	全面	なし	計
碧玉A・B	50	49	583	692	12	8	86	106	4	1	31	36
頁岩			23	23			7	7			3	3
碧玉A・B	8	6	42	56	3	21	24	1	2	3	2	
燧石			1	1			3	3				
碧玉A	52	31	57	186	10	6	7	23	3	3	1	1
碧玉B	19	11	16	46	6	5	2	13	4	1	1	5
玉髓	13	12	27	52	7	3	17	27	2	3	5	10
その他	1	1	8	9	4	4	4	1	2	3	2	3
計	153	110	770	1,033	35	23	144	197	12	4	4	45

第42表 石鐮各類型の出現頻度

調査区	石鐮	凸頭鏃	凹鏃	平鏃	凹鏃	木製品	不明	計
I区	94	54	6	18	34	29	12	247
II区・II区西	22	10	0	4	3	3	5	44
IV・2・4区	1	1	2	5	1	2	12	30
計	117	65	6	24	30	33	19	303

られたと考えられる。

## ②石器の種類と形状

剥片石器の類型化の基準とその出現頻度については前述のとおりであるが、ここでは出土点数の多い石鐮および不定形石鐮について考察する。

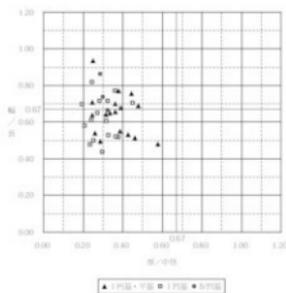
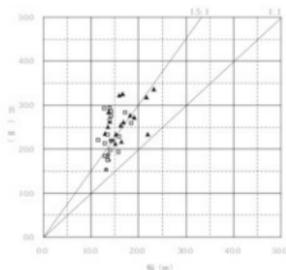
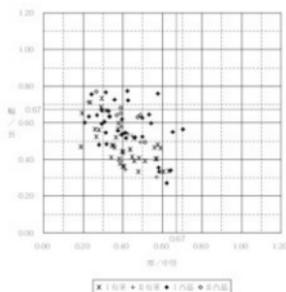
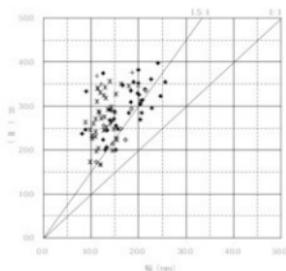
### a. 石鐮

調査区全体では有茎鐮が最も多く出土している(第42表)。茎を作出しないものもあわせると、凸基鐮は60%にのぼる。しかし、調査区別に見るとⅣ区でこれらの割合が極端に小さく、また、Ⅰ区とⅡ区でも10%以上の割合の差がある。また、凹基鐮はⅣ区で割合が大きく(42%)、Ⅰ区でその割合が小さくなり(14%)、Ⅱ区になると見られなくなる。

大別した類型ごとに石鐮の大きさ・形状の分布を比較すると(図版184、注5)、大きさでは、各類型とも大型品と小型品に分化する傾向がみられるが、特に凸基無茎族で顕著にみられる。類型別にサイズを比較すると、凹基→円基・平基→凸基の順にサイズが大きいくところによく分布する傾向にある。形状では、有茎鐮は、凸基無茎鐮に比べて縦長・厚手(注6)のところに多く分布する。幅広となるものは凸基無茎鐮が大部分を占める。円基・平基鐮および凹基鐮は、凸基鐮に比べてより幅広となるものの割合が大きくなり、また、凸基鐮に比べてその分布が収斂する傾向にある。さらに、凹基鐮は円基・平基鐮に比べて薄手のところに分布する。

各類型の大きさ・形状の分布を調査区別にみると、有茎鐮はⅠ区に比べてⅡ区で大型のものの割合が大きくなり、また、厚手となる傾向がみられる。一方で凸基無茎族はⅡ区で小型のものの割合が大きくなり、幅広となる傾向がみられ、さらに形状の分布が収斂する。凹基鐮についてはⅣ区のサンプル数が少ないため不確定ではあるが、Ⅰ区に比べて小型で幅広の傾向がみられる。

以上から、Ⅳ区で主体となる凹基鐮や円基・平基鐮は、Ⅰ・Ⅱ区ではその割合が小さくなり、凸基鐮、特に有茎鐮が主体となる。それに伴い、全体的に大型化し、縦長・厚手となる。有茎鐮はⅡ区ではさらに大型化するが、凸基無茎族がやや小型・幅広となり、類型による差が大きくなる。



図版 184 石鐮の大きさ・形状

有茎鐮の形態に着目すると、I区よりII区で基部側辺の抉りの深いI a類の割合が大きくなる。これと同様の変化が摺痕遺跡においても認められ、有茎鐮が抉りの浅いI b類から抉りの深いI a類へと変化するとされている(柳澤ほか:前掲)。

なお、類型別の石材組成では、凸基鐮で碧玉や玉髓の割合が他の類型と比べてやや小さいこと以外に大きな変化は見られない(図版185)。

#### b. 不定形石器

類型別に見ると、各調査区いずれも剥片の縁辺に連続する二次加工を施した石器(Ⅲ類)が7割以上を占め、なかでも二次加工に規則性・規格性のないⅢ e類やⅢ d類が大部分を占める(第43表)。ただし、調査区別の各類型の出現頻度を比較すると特に大きな変化はみられない。

類型別の石材組成では、いずれの類型も珪質頁岩が6割以上を占める(図版186)。なかでもⅢ a～c類で高い割合となる。これらの類型は二次加工に規則性・規格性のあるものである。これらの石器を製作するにあたって他の石材に比べて良質な珪質頁岩を意図的に選択していたことが言える。これは、道具として機能した可能性が高いと推定する根拠の一つになる。一方で、石匙の石材組成と類似することから、その未成品もしくは代用品の可能性も考えられる。

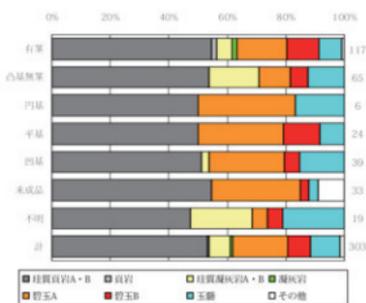
#### ③再加工・転用

剥片石器で再加工の痕跡が見られるものは、石鐮や尖頭器、石錐、石篋、不定形石器で、他に磨製石斧においてもその痕跡が見られる。いずれの器種もごく少数である。多くは尖頭部や刃部などに見られるが、石鐮や尖頭器、石篋、磨製石斧では基部や全体を再加工しているものもある。また、転用は石錐において少数みられ、石匙を転用したものが2点、石鐮を転用したものが3点認められる。

### (5) 礫石器

#### ①大きさ・形状(図版187、注5)

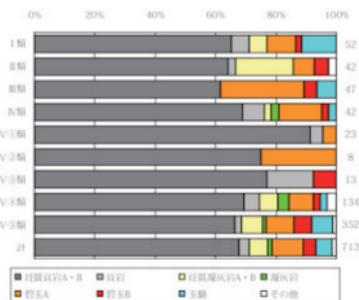
石皿は、長さ・幅が6×6cm以下のものから30×25cm以上のものまで存在する。大きさで特に集中する範囲は見られず、多様性に富む。形状の分布では、大部分が薄手となる。また、縦長と



図版185 石鐮の類型別石材組成

第43表 不定形石器各類型の出現頻度

調査区	剥片				縁辺部の加工				計	
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ		
I区・I区西	41	32	37	39	16	7	9	106	291	573
Ⅱ区・Ⅱ区西	7	7	9	8	5		4	20	50	110
Ⅲ区・Ⅲ区西	4	2	2		2	1		8	11	30
計	52	41	48	47	23	8	13	134	352	713



図版186 不定形石器の類型別石材組成

なるものが一定量存在するが、多くは幅長比が0.67～1.00の範囲に分布する。なお、Ⅱ・Ⅳ区はサンプル数が少ないため、調査区別の変化は認められない。

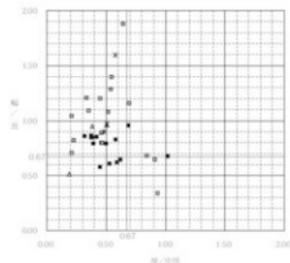
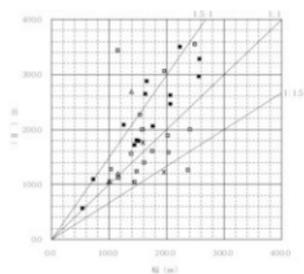
磨石および凹石は、長さ・幅が4×4 cmのものから、15×12 cm以上となるものまで存在するが、6～10×4～8 cmの範囲に特に集中する。調査区別では、サンプル数は少ないものの、Ⅳ区の磨石や凹石がⅠ・Ⅱ区のものに比べて大型になる傾向にある。なお、Ⅰ区とⅡ区で大きな変化は見られない。器種別では、凹石で長さ・幅が7×6 cm以下の小型のものが見られなくなり、磨石より大型化する傾向にある。

形状の分布をみると、幅広・厚手（球形）と認識される幅長比0.67以上×厚幅・長比0.67以上の範囲やその付近に多く分布する。調査区別ではⅠ・Ⅱ区に比べてⅣ区の磨石や凹石が薄手となる傾向がみられる。なお、Ⅰ区とⅡ区では大きな変化はみられない。器種別では、磨石にくらべて凹石のほうがやや縦長で薄手となる傾向がみられる。大きさの分布もふまえると、凹石は磨石に比べてやや大型で縦長の扁平礫を利用する傾向が強く、礫の選択がやや限定される傾向にあると考えられる。これは使用方法に差異があることに起因するものと推定され、磨石はほぼすべて手に持って使用されることが想定されるが、凹石は手に持って使用される場合と地面に置いて使用される場合の2つの使用方法が想定される。

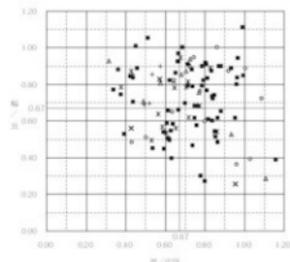
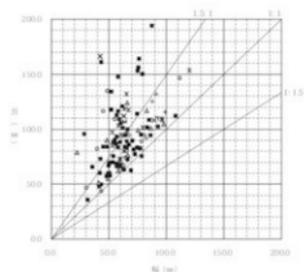
## ②使用・転用

礫石器はいずれの器種において転用もしくは複数の使用の痕跡がみられ、なかでも凹石と敲石でその割合が大きい（第44表）。凹石は磨石を転用したものが多く、敲石は磨石を転用したものが多。石皿や磨石では転用されたものの割合が小さいが、これらのほとんどは凹石の転用や凹痕のあるものである。礫石器は石製品にも転用されており、円盤状石製品では65%に磨面が観察される。これらは石皿もしくは磨石の転用とみられる。また、線刻礫でも1点磨石を転用したものが確認される。

実際の使用状況としては、石皿6点と磨石2点に赤色顔料の付着・残存が見られ、赤色顔料の生成が使用目的の一つであったと言える。



●Ⅰ区礫 (凹石) ●Ⅱ区礫 (磨石・凹石) ▲Ⅲ区礫 (磨石) ■Ⅳ区礫 (凹石・磨石)



●Ⅰ区礫 ●Ⅱ区礫 ●Ⅲ区礫 ●Ⅳ区礫 ●Ⅴ区礫 ●Ⅵ区礫

図版 187 礫石器の大きさ

### ③赤色顔料

赤色顔料の付着が観察された石皿・磨石のうち6点について顔料分析を行った結果、すべてベンガラと認定された（付章3

参照）。分析によると、2点にパイプ状ベンガラが観察され、これらは含水水酸化鉄を焼成したものと考えられている。それ以外は、酸化第二鉄を主成分とする天然の赤鉄鉱が由来とされ、本遺跡では碧玉B類がこれに該当するとみられる。碧玉B類は剥片石器の材料として多く用いられていることはすでに述べたが、石器以外にも原石や礫片が出上している。これらには、石鉄等の素材剥片を剥離するのに十分な質・大きさのものも存在するが、多くが剥片石器の素材としては良質なものではなく、その大きさも十分なものではない。石器の素材となりにくいものまでも残されていることから、石器製作以外の目的、すなわち赤色顔料の原材料としての使用が想定される（注7）。

第44表 礫石器の転用

品種	転用なし	石皿→	磨石→	磨石あり	石皿→磨石→	石皿→	石皿多数	磨石→	計
石皿	120					1	9	1	131
磨石	126					21			148
石皿	15	1	12						28
磨石	1		3		1				5
石皿	2					1			3
円盤状石製品	6			11					17
原形礫	2		1						3

## (6) 石製品

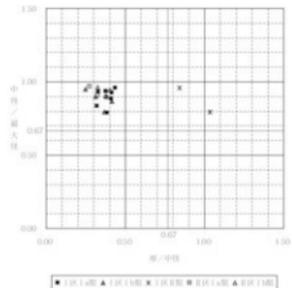
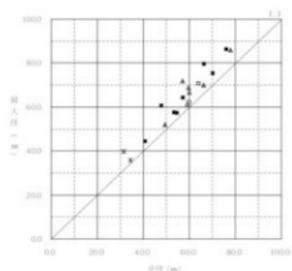
### ①円盤状石製品

円盤状石製品の大きさの分布をみると（図版188）、類型別では、I A類に比べてI B類の分布に若干の集中が認められる。調査区別ではII区のサンプル数が少ないため不確定ではあるが、II区出土のものは大きさにまとまりがみられる。形状の分布ではI類とII類で大きな隔たりがあるが、細分されたI a類とI b類とは差異は認められない。調査区別ではII区出土のものにまとまりがみられる。

円盤状石製品は、縁辺を剥離や敲打、研磨により成形するものの、その加工は粗く、また平面形も必ずしも円形となることはなく、四辺形や多角形のものが多い。さらにそれぞれの大きさにはばらつきがみられる。しかし、最大厚が2～3cmの範囲に集中することや厚幅（長）比が0.3～0.4に集中する傾向がみられ、このことから厚さを意識して製作したものと推定される。平坦面は磨面である場合が多いが、研磨等により厚みを大きく減じたものではなく、石皿や磨石の転用とみるほうが妥当である。したがって、素材選択において厚さを意識したものと考えられる。

### ②イモガイ形石製品

本遺跡で出土したイモガイ形石製品は2点のみであるが、両者は多くの点で差異が見られる（第45表）。大きさや内面の溝の表現、殻口部の表現から、現生標本より



図版188 円盤状石製品の大きさ・形状

類似するのはS6473である。一方で、S6467にみられる右巻の渦は、現生標本における殻頂部外面の渦の方向と同一であり、稜がやや平坦になるように成形している。また、渦のある面が中央の貫通孔付近を頂部として外湾する形状であることから、現生標本の殻頂部外面に類似する。さらに、渦と反対の面が内湾することから、渦のある面を殻頂部外面、渦のない面を殻頂部内面と見ることが可能である。

イモガイ形石製品は同土製品も含めて県内では他に報告例がなく、イモガイ製の装身具も里浜貝塚西畑地点で報告されている（小井川・岡村：1985）程度で、貴重な資料である。福田友之氏は、東北地方で出土したイモガイ形土・石製品を集成しており（福田：1998）、同製品は主に東北地方北部太平洋側に分布の中心があり、晩期前半に属するものと考えられている。一方で東北地方南部では、山形県宮ノ前遺跡（山口：1995）で1点、福島県荒屋敷遺跡（小柴ほか：1990）で1点確認できる程度であり、貴重な出土例である。福田氏の集成によると、同製品は外面が半球状（容器状）のものより円盤状となるものが少なく、また、渦の方向が殻頂部内面と反対方向の右巻のものが少ない。さらに、石製品は最大径4～5cm台で、土製品は6～7cm前後とされる。したがって、最大径4.8cmで左巻・半球状のS6473は同製品の中でも類例の多いものであるが、最大径6.9cmで右巻・円盤状のS6467となると他に類例のない資料である。

第45表 イモガイ形石製品の特徴

器物番号	S6467	S6473	
出土地点・層位	1区集層	1区1層	
径長	最大径	68.7mm	48.2mm
	最大厚	20.3mm	13.1mm
石材（殻灰等）	中や中細粒	細粒	
内面の渦	右巻	左巻	
殻口部の表現	なし	あり	
外面（全体の形状）	中や中細粒（半）盤状	円盤（半球）状	

## (7) まとめ

剥片石器では、器種や時期により珪質頁岩などの主要石材の利用頻度が異なる。石材組成や剥片剥離方法から、遺跡内では石鐮の生産を主な目的としていた。石鐮は、その主体が凹基鏃や円基・平基鏃から、凸基鏃、特に有茎鏃へと変化する。それに伴い大型化し、縦長・厚手となる。さらに新しい時期には、類型による大きさ・形状の差異が大きくなる。

礫石器では、使用目的にあった大きさや形状の礫が選択され、一部で転用や複数の用途による使用もありつつ、赤色顔料の生成などに使用されていたとみられる。赤色顔料には石器にも多用される碧玉B類が一部用いられたと考えられる。

注1 珪質頁岩および碧玉は色調により細分している。珪質頁岩は黒色のもの（黒色頁岩）をB類として分類し、それ以外のものをA類とした。碧玉は全体が赤褐色を呈するもの（赤碧玉）をB類として分類し、それ以外のものをA類としている。なお、表面の一部のみが赤褐色を呈し、内面が黄褐色などを呈するものについてはA類に含めた。

注2 珪質凝灰岩は珪化の程度により細分している。珪化が進んでいるもの（珪化凝灰岩）をA類とし、それ以外をB類とした。

注3 碧玉で加熱処理の痕跡が多くみられるのは、他の石材に比べて容易に判別が可能であるという点も要因の一つにあり、この点を考慮に入れる必要がある。

注4 一つの石器で、二次加工と素材面の光沢の差異を判別できるもの（観察表で「1」と表記）は加熱処理の痕跡として認めることができるが、全面が光沢面の場合（観察表で「2」と表記）にはその認定が難しい。同じ石材で両者の光沢面を比較した結果、両者の光沢面の状況に大きな違いは見られなかったため、後者についても加熱処理の痕跡のあるものとして捉えた。

注5 完形のもののみ抽出して散布図を作成した。

注6 礫の形状分析で用いられる手法を援用して、縦長比、厚幅（長）比を用いて長さおよび厚さの認識の基準としている。具体的には、長さでは、縦長比0.67未満のものを縦長、0.67以上のものを幅広とし、厚さでは、厚幅比（長さ÷幅の場合）ま

たは厚長比（長さ<幅の場合）0.67未満のものを薄手、0.67以上のものを厚手とした。

注7 児玉大成氏によれば、赤鉄鉱由来のベンガラは、赤鉄鉱の「コークス状の部分」（表面が多孔質の部分）を磨り潰して使用したものと推定されている（児玉：2002）。本遺跡出土の碧玉B類の自然面を観察するとそれに相当する部分が観察されることから、ベンガラの材料として利用することは可能であるとみられる。

## 2. 遺 構

### (1) 遺構の時期

遺構出土土器の大半が破片資料であり、直接遺構の時期を特定することは難しい。このため重複関係や遺構の形態などもあわせて時期を推定する。なお、すべての遺構は縄文時代早期～弥生時代前期の範囲で捉えられ、特に注意がない場合は縄文時代後期は「後期」、縄文時代晩期は「晩期」と表記する。図版189はI区、I区南、II区で検出した主な遺構の時期と新旧関係についてまとめたものである。

遺構はその種別ごとにおよその時期がまとまっていることがわかる。遺物や重複関係からは時期不明な遺構であっても、大まかな所属時期は同種の遺構とほぼ同じ頃と推定される。以下ではI区、II区を中心に主な遺構の時期について検討したい。

住居跡は出土遺物からS I 1102住居跡、S I 1104住居跡が後期後葉と考えられる。また、S I 1103住居跡は堆積土出土一括土器の特徴から晩期中葉頃と考えられる。S I 1105住居跡については出土遺物が少なく時期の特定は困難なため後期後葉以降と捉えておく。IV区で検出したS I 4001住居跡は、わずかな出土遺物から判断すれば縄文時代中期以降と考えられる。

建物跡は柱穴出土遺物の特徴や重複関係から晩期中葉頃の遺構と考えられる。さらに詳細に検討すると、I区の建物跡についてはS I 1103住居跡より新しいことと、S B 1158建物跡出土土器の特徴から晩期中葉前半を上限とし、S B 1163建物跡柱穴出土注口土器の特徴が葎蕨VII群土器（柳沢：前掲）に相当することから、晩期中葉～後葉の移行期を下限とすると考えられる。II区の建物跡については建物跡1～3群がS B 2220(図版68-1・2)、S B 2226(図版83-9)建物跡出土土器の特徴から晩期中葉前半を上限とし、S B 2227(図版96-21)、S B 2230(図版96-24)、S B 2263(図版83-25)建物跡出土土器の特徴から晩期中葉後半～晩期後葉前半を下限とすると考えられる。六角形の建物跡は詳細は不明であるが、出土遺物から後期後葉以降、重複関係で四本柱建物跡や土坑墓より古いことから晩期中葉以前と考えられる。

土器埋設遺構は、検出された位置と時期で大きく2群がある。I区で検出されたものは埋設土器と埋土出土遺物の特徴から縄文時代後期後葉から晩期前葉に位置づけられる。II区で検出されたものは晩期後葉から弥生時代前期に位置づけられる。

土坑墓は出土遺物から晩期後葉から晩期末に位置づけられる。また、集石・配石遺構も出土遺物(図版113-1・2)から晩期後葉頃以降と考えられる。

土坑は晩期前葉から中葉のものが多い。時期の詳細は不明であるが、S K 1205、S K 1206、S K 1208、S K 1149、S K 4040、S K 4049土坑は形態から縄文時代の陥し穴と考えられる。

S D 4002溝跡は出土遺物から後期前葉頃までに埋没したと考えられ、堆積状況からは自然流路と

考えられる。

## (2) 集落構成

以下ではⅠ区とⅡ区で検出された住居跡、建物跡、土器埋設遺構、土坑墓、集石・配石遺構に注目してその性格と関係について概括する。

前項で捉えられた遺構の時期をもとに、時期ごとの遺跡内の使われ方をみると以下ようになる。

【後期後葉】Ⅰ区：居住域〔住居跡〕 Ⅱ区：不明（六角形建物跡※後期後葉～晩期中葉のいずれかの段階）

【後期末～晩期前葉】Ⅰ区：墓域〔土器埋設遺構〕 Ⅱ区：不明

【晩期中葉】Ⅰ区：居住域〔住居跡〕、建物跡群 Ⅱ区：四本柱構造建物跡群

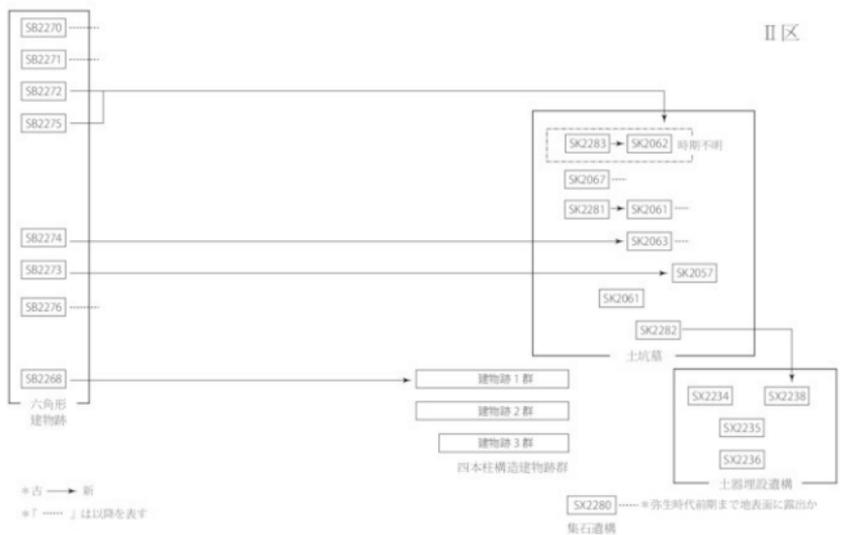
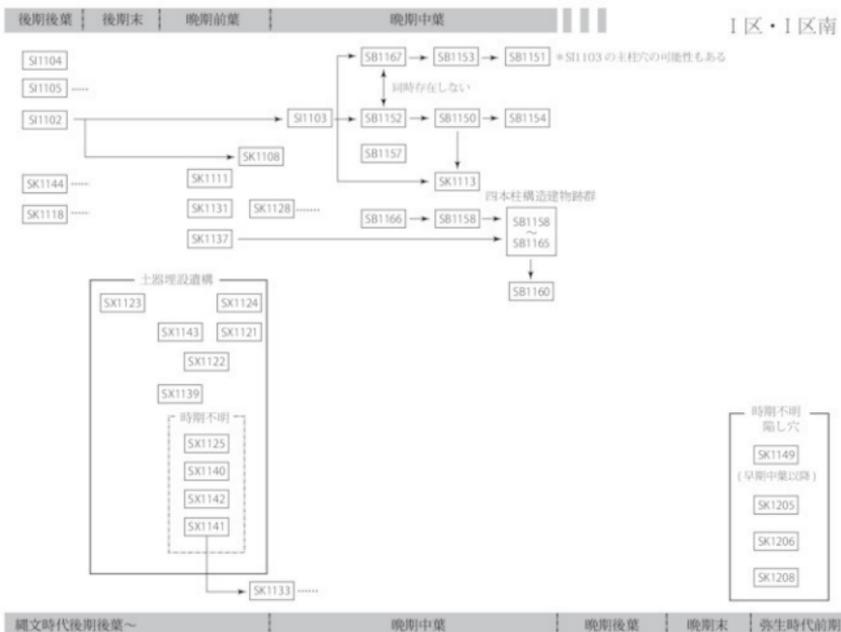
【晩期後葉】Ⅰ区：場が利用されない Ⅱ区：墓域〔土坑墓〕、集石遺構・配石遺構、（建物跡群）

【後期末～弥生前期】Ⅰ区：場が利用されない Ⅱ区：墓域〔土器埋設遺構・再葬墓〕（土坑墓、集石・配石遺構）

後期後葉から晩期前葉まではⅠ区のある丘陵上位に遺構が広がり、居住域、墓域〔土器埋設遺構〕が検出されている。土器埋設遺構の埋設土器のほぼ半数は焼成後に底部に穿孔されており、日常使用されていた深鉢を成人を改葬した蔵骨器または小児の土器棺に転用している。土器埋設遺構から骨が検出されていないため、被葬者が成人か小児（嬰兒含む）なのかは不明である。晩期中葉の竪穴住居がⅠ区で確認されており、晩期中葉も後期後葉までと同じように居住域として利用されていたと推定される。さらにⅠ区で検出された遺物包含層Ⅰからは後期後葉～晩期中葉の遺物が多数認められ、この期間の居住域がⅠ区からあまり離れていない丘陵上位に存在していたと推定される。遺構の重複関係からⅠ区周辺は晩期中葉のうちには居住域に変わって掘立柱建物跡を建てる場として利用されたと考えられる。調査区北壁際ではⅡ区で検出されたものと同じような四本柱構造の建物が建てられている。同位置で繰り返し建て替えられており、集落内の計画的な配置がみえる。

一方、Ⅱ区は晩期前葉以前と特定できる遺構は検出されず、出土遺物でみても晩期前葉以前のもは少ない。ただし、六角形建物跡については後期後葉から晩期中葉以前で、四本柱構造建物跡群よりも古い時期に建てられたと考えられる。晩期中葉には四本柱構造の建物跡3棟が扇状に繰り返し建てられている。同じ場所で何度も建て替えられていることから、計画的な配置が意識されていたことは確実である。また、調査区南東でさらに柱穴群が検出されており、これらが同様の建物である可能性は高く、建物跡群は東側にさらに広がっていたと推定される。この建物跡群と同時存在した可能性のある遺構はⅠ区で検出した住居跡と建物跡群である。Ⅱ区では同時期と考えられる遺構は基本的になく、扇状配置の中心部分は広場のような空間であったと推定される。ただし、建物跡群の最も新しい時期を出土遺物から想定すれば、晩期後葉の初頭まで存在していた可能性も完全には否定できない。その場合は集石・配石遺構と同時期の可能性があり、広場がより祭祀的な空間として捉えられる。

晩期後葉以降は掘立柱建物跡は無かった可能性が高く、晩期後葉～末に土坑墓、後期末～弥生時代前期に土器埋設遺構が伴う墓域が形成される。土坑墓は北西～南東方向に直線的に並んでおり、部分



図版 189 主な遺構の時期

的に重複はみられるが古い土坑の大部分を壊して造られているものはない。土器埋設遺構も同じ傾向があり、当時墓の造られた位置に盛土や立石、集石などの標示があったことを示唆している。この土坑墓、土器埋設遺構に集石・配石遺構が伴うと考えられる。また、Ⅰ区で晩期後葉以降の遺構が無く、遺物も少ないことと、晩期中葉に広場であったⅡ区東部が晩期後葉から墓域に利用されるようになることは、この時期に集落内の場の使われ方が変化したことを反映しているとみられる。

### (3) 遺構の性格

#### ①土器埋設遺構について

土器埋設遺構はⅠ土坑にⅠ個体(合わせ口Ⅰ組)を埋設したSX 1121～SX 1125、SX 1139～SX 1143、SX 2234～SX 2236土器埋設遺構と複数個体を埋設したSX 2238土器埋設遺構がある。SX 2238土器埋設遺構は複数の壺を埋設土器として一度に埋める特徴から弥生時代前期から中期に関東地方一帯・一部中部地方・東北地方南部に分布する「再葬墓」(注)と考えられる。再葬墓は石川日出志氏や設楽博己氏らによって多くの論考がなされており、東日本の初期弥生文化を特徴づける墓制として位置づけられている(石川：1987、2009、設楽：1991、1993、2008など)。設楽氏は弥生再葬墓の特徴として合葬を挙げ、「一つの再葬墓は親-キョウダイ-子といった血縁を基軸にした家族を合葬したもので、それが集合した墓群が世帯ないし世帯群に相当」し、「血縁紐帯にもとづく同族意識を確認するための祖先祭祀の場である」として複数土器が埋葬されることの意義を推察している(設楽：2008)。

このような視点に立てば遺構の検出状況からみて単独で埋葬された土器埋設遺構に合葬の意図は無く、SX 2238再葬墓と単独で埋葬された土器埋設遺構とは異なる葬制に基づく墓として理解される。

次に単独で埋葬された土器埋設遺構についてみると、埋設土器がⅠ区(深鉢)とⅡ区(壺、鉢+高坏の合わせ口)で異なっており、Ⅰ区の深鉢は穿孔が施されているものが半数を占めるなど、それぞれ用途や意味も異なっている可能性が高い。Ⅰ区で検出された土器埋設遺構については前述のように成人骨を再葬した威骨器か小児土器棺かは不明である。一方、Ⅱ区で検出された土器埋設遺構の壺や鉢は形態や大きさから小児の土器棺として利用は考え難く、成人骨を再葬した土器棺として利用された可能性が高い。再葬された意味としては、新規の墓を造築する際に偶発的に掘り出されてしまった遺体や人骨を改葬した(平林：1994)可能性や縄文時代の祖先崇拜としての再葬(設楽：前掲)、あるいは被葬者の埋葬方法として複数の行程が採られた可能性などが考えられる。

#### ②再葬墓の類例

再葬墓は弥生時代前期から中期に関東地方一帯・一部中部地方・東北地方南部に分布し、福島県霊山町根古屋遺跡(梅宮他：1986)、会津若松市墓料遺跡(須藤ほか：1984)、新潟県新発田市村尻遺跡(関ほか：1982)、山形県酒田市生石2遺跡(阿部：1986)などに類例がある。また、岩手県北上市兵庫館跡で遠賀川系土器を含む3基の埋設土器(内1基は合わせ口土器)が同一土坑内から検出されており(佐々木ほか：1993)、近年再葬墓とする見解も示されている(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター：2008)。宮城県内では、白石市薬師堂遺跡(片倉ほか：1976)、青木遺跡(伊藤：1960)



図版 190 縄文時代後期末～弥生時代前期の遺構配置

が知られているが、いずれも出土状況や遺構のあり方が明確ではなかった。このため本遺跡で検出された S X 2238 土器埋設遺構が宮城県内で出土状況が明確となった再葬墓の初事例である。

### ③建物跡について

本遺跡で検出された掘立柱建物跡は現段階では墓域との関連は認められない。Ⅱ区で検出された四本柱構造建物 1～3 群は晩期中葉頃に扇状に配置され、その中心部分は無遺構地帯の広場であったと想定される。また、建物跡が建てられる位置には強い規制があり、同じ場所で 7～8 回建て替えられている。同様の建物跡は、岩手県浄法寺町上杉沢遺跡(晩期中葉、山口：2001)、福島県三島町荒屋敷遺跡(晩期、小柴ほか：1990)、福島市南諏訪原遺跡(晩期後葉、高田ほか：1991)、宮城遺跡(晩期中葉、斎藤：2006)などで検出されている。上杉沢遺跡では掘立柱建物跡が墓域・遺物包含層(捨て場)と居住域の間に配置されており、その性格については、加工食品や衣装・祭器などの非日常的な用途の器材を保管する倉庫と考えられている。宮城遺跡は晩期中葉の建物跡が環状に配置され、中央が広場と考えられる無遺構地帯になっている。近隣に同時期の居住域がなく、建物跡と土器埋設遺構とに共通した配置の規則性がみられることから、遺跡は非日常的な場で、建物跡の性格については埋め葬祭りに関わる施設と推定されている。

本遺跡Ⅱ区で検出した四本柱構造建物跡群は、その特徴として、広場と考えられる無遺構地帯を扇状に囲むように配置されていること、Ⅰ区に同時期同様の建物跡が存在すること、建物の規模や柱の大きさに大きな差が認められないこと、墓域と関連しないことが挙げられる。遺構配置でみると宮城遺跡と類似するが、墓と関連しない点やⅠ区で同時期の居住施設が発見されている点では異なっている。また、調査区内で貯蔵穴などの貯蔵施設が検出されていないことなども考慮すれば、建物の性格は、上杉沢遺跡同様に食料や日常生活、祭祀道具などを保管した倉庫の可能性が考えられる。

ただし、晩期中葉の墓域は今回の調査では検出されておらず、未調査域に存在していると考えられる。この墓域がⅡ区の東側または西側の未調査域で今後検出された場合は改めて論考し直す必要がある。このほか、Ⅰ区で晩期中葉頃の六本柱(四本柱以上)または四本柱の掘立柱建物跡が検出されているが、これらについてもⅡ区で検出した建物跡 1～3 群と同様に倉庫と考えておきたい。

Ⅱ区で検出された六角形または五角形建物跡の検出例は北陸地方に多く、新潟県新発田市青田遺跡(荒川ほか：2004)や三条市藤平遺跡(駒形・小熊：1990)、村上市元屋敷遺跡(滝沢ほか：2002)などで検出されている。その性格については、集落内での位置や立地から居住施設や倉庫、作業場などが想定されており、本遺跡で検出した六角形建物跡の性格もこの様なものであった可能性がある。

## 第 2 節 まとめ

鍛冶沢遺跡は阿武隈川下流域に位置する大規模な遺跡である。

遺跡の時期は縄文時代、弥生時代、古代にわたるが、主体は縄文時代後期から弥生時代前期である。以下、要点をあらためてまとめておく。

1. 調査の結果、縄文時代から弥生時代前期の竪穴住居跡5軒、掘立柱建物跡群3カ所、掘立柱建物跡15棟、土器埋設遺構14基、土坑墓10基、土坑22基、溝跡1条、多数のピットなどを検出した。また、丘陵斜面から縄文時代早期から弥生時代前期の遺物包含層を検出した。
2. I区で縄文時代後期後葉と晩期中葉頃の竪穴住居跡を検出した。この頃の居住域はI区周辺にあつたと推定される。
3. I区で縄文時代後期末から晩期前葉の土器埋設遺構を確認した。この時期の墓域であつたと考えられる。
4. I区とII区で晩期中葉の掘立柱建物跡を検出した。これらは食料や日用品、祭祀道具などを保管した倉庫と考えられる。
5. II区で検出した掘立柱建物跡群は縄文時代晩期中葉頃のもので、扇状に配置され、同位置で繰り返し建て替えられており、強い規制が認められる。

また、その中心部からは同時期の遺構は検出されず、「広場」であつたと考えられる。

6. 縄文時代晩期中葉に「広場」であつたと考えられる地点から縄文時代晩期後葉から弥生時代前期の土坑墓、土器埋設遺構、集石遺構を検出した。この時期には墓域が形成されたと考えられる。
7. SX 2238 土器埋設遺構は複数土器を一度に埋設しており、弥生時代前期の再葬墓と考えられる。
8. I区・I区南で検出された遺物包含層Iは縄文時代早期前葉から弥生時代中期中葉頃の遺物が含まれ、異なる時期のものが各層で混在しており、二次堆積層と考えられる。II区で検出された遺物包含層IIは出土遺物が少ないが、弥生時代前期に形成された遺物包含層と考えられる。

注 再葬墓は広義には集骨墓など土器を伴わないものや縄文時代のものも含む。このため壺を納骨器として用いる再葬墓について「壺再葬墓」(石川:2009)とする研究や弥生時代に特徴的な墓であることを重視して「弥生再葬墓」と呼称する研究(設楽:2008)がある。

#### 【引用・参考文献】

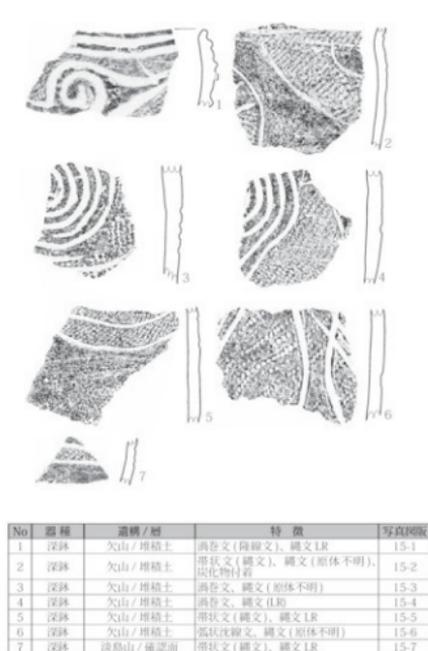
- 相原淳一 1986『小栗川遺跡-遺物包含層土器編-』宮城県文化財調査報告書第117集
- 相原淳一 2008『埴形文系土器(日計式土器)』『総覧 縄文土器』小林達雄編
- 相原淳一 2008『再論 日計式土器群の成立と解体』『芹沢長介先生追悼 考古・民族・歴史学論議』
- 赤澤靖章ほか 1996『中在家南遺跡他 第2分冊 分析・考察編』仙台市文化財調査報告書第213集
- 赤澤靖章ほか 2000『高田B遺跡 第2分冊 分析・考察編』仙台市文化財調査報告書第242集
- 安部 実 1986『生石2遺跡発掘調査報告書(2)』山形県埋蔵文化財発掘調査報告書第99集
- 阿部博志・黒川利司 1980『赤鬼上遺跡』『東北自動車道遺跡調査報告書II』宮城県文化財調査報告書第63集
- 荒川隆史ほか 2004『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書V 青田遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第133集
- 石川日出志 1987『再葬墓』『弥生文化の研究』第8巻
- 石川日出志 2005『仙台平野における弥生時代中期土器編年の再検討』『関東・東北弥生土器と北海道縄文土器の広域編年』
- 石川日出志 2009 弥生時代・壺再葬墓の終焉『考古学集刊』第5号
- 伊藤玄三 1960『宮城県青木の弥生式遺跡と出土土器』『東北考古学』1
- 伊東信雄 1957『古代史一縄文式文化の変遷』『宮城県史』1
- 伊東信雄・須藤 隆 1985『山王洲遺跡調査図録』宮城県一迫町教育委員会
- 稲野裕介 1998『イモガイ形土製品』の名称はなぜ適切か? 『岩手考古学』第10号
- 梅宮 茂ほか 1986『霊山根古屋遺跡の研究』
- 大友 透 2000『原遺跡』名取市文化財調査報告書第44集
- 小川淳一・高橋綾子 2000『王ノ壇遺跡』仙台市文化財調査報告書第249集
- 小川淳一 1980『塩尻北遺跡』『東北自動車道遺跡調査報告書III』宮城県文化財調査報告書第69集
- 小川淳一 1980『青木遺跡』『東北自動車道遺跡調査報告書IV』宮城県文化財調査報告書第71集
- 片倉信光ほか 1976『白石市史 別巻考古資料編』
- 加藤道男 1982『青木遺跡』宮城県文化財調査報告書第85集
- 加藤道男・阿部博志ほか 1983『東北自動車道遺跡調査報告書IX』宮城県文化財調査報告書第99集

- 鎌田浩二 2000 『縄文人の世界 巻貝形土製品』『いびて未来への遺産 遺跡は語る 巨石器—古墳時代』
- 菊池進夫 1990 『畿沢記遺跡』『大貫山館跡ほか』宮城県文化財調査報告書第137集
- 木元元治・藤岡典子 1980 『孫六橋遺跡』『東北新幹線関連遺跡発掘調査報告書Ⅱ』福島県文化財調査報告書第81集
- 興野義一 1970 『宮城県大寺遺跡出土の早期縄文土器』『古代文化』22巻11号
- 熊谷正彦 2008 『縄文文化系土器(東北地方)』『総覧 縄文土器』小林達雄編
- 小井田和夫・岡村達雄 1985 『里浜貝塚Ⅳ—宮城県塩竈町宮戸島里浜貝塚西畑地点の調査研究Ⅳ—』東北歴史資料館資料集18
- 小井田和夫 2004 『里浜貝塚西畑地点出土土器の検討』『東北歴史博物館研究紀要』5
- 小栗吉男ほか 1990 『荒屋敷遺跡Ⅱ-国道252号補設工事に伴う発掘調査報告書-』三島町文化財報告10集埋蔵文化財調査報告書Ⅴ
- 児玉大成 2002 『縄文時代におけるベンガラ生産の一端—宇都宮県赤旗郡の考古学的分析—』『青森県考古学』第13号
- 小林圭一 2008 『大洞ⅡC式に固有の「入組三叉文高杯」について』『研究紀要』第5号 山形県埋蔵文化財センター
- 駒形敏朗・小黒博史 1990 『藤巻遺跡における竪立柱建物跡の調査』『長岡市立科学博物館研究報告』第25号
- 斉藤義弘 2006 『宮城遺跡』日本の遺跡 17
- 斉藤義弘 2008 『史跡 宮城遺跡 史跡整備発掘調査報告書4』福島市埋蔵文化財報告書第196集
- 蔵王町教育委員会 2008 『蔵王町十郎田遺跡・窪田遺跡』『平成20年度宮城県遺跡調査成果発表会 発表要旨』
- 佐々木嘉直ほか 1993 『兵庫遺跡・梅の本台地Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業埋蔵文化財調査報告書第180集
- 佐藤 洋 1982 『北前遺跡発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第36集
- 設楽博己 1991 『最古の赤柏再葬墓』『国立歴史民族博物館研究報告』第36集
- 設楽博己 1993 『赤柏再葬墓の基礎的研究』『国立歴史民族博物館研究報告』第50集
- 設楽博己 2008 『赤生再葬墓と社会』
- 忍澤成規 2004 『縄文時代のイモガイ製身具—原生貝調査からみた素材供給地と入手方法—』『動物考古学』第21号
- 志岡泰治・桑月 鮮 1991 『家々家』斉藤報恩会
- 志岡泰治 1966 『貝形土器』『考古学雑誌』第52巻1号
- 須藤 隆ほか 1984 『中沢貝塚—縄文時代晩期貝塚の研究—』
- 須藤 隆ほか 1984 『福島県会津若松市幕料遺跡 1980年度発掘調査報告書』
- 須藤 隆 1990 『東北地方における赤生文化』『考古学・古代史論究』
- 須藤 隆 1998 『東北日本先史時代文化変化・社会変動の研究—縄文から赤生へ—』
- 須藤 隆 1999 『第三章 第四節 赤生時代の生活と技術』『仙台市史 通史編1 原始』
- 須藤 隆 2007 『東日本縄文・赤生時代集落の発展と地域性』
- 関 雅之ほか 1982 『村尻遺跡 Ⅰ』新発田市埋蔵文化財調査報告書4
- 関根達人 1993 『西の浜式とその周辺』『歴史』第81輯
- 高瀬克美 2004 『本州島東北部の赤生社会誌』
- 高橋和右エ門 1984 『山口Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県埋蔵文化財センター調査報告書第84集
- 滝沢規朗ほか 2002 『奥三面ダム関連遺跡発掘調査報告書XⅣ 元屋敷遺跡Ⅱ(上段)』朝日村文化財報告書第22集
- 高田研平ほか 1991 『南諏訪原遺跡 松田小学校転用地内発掘調査報告』福島市埋蔵文化財報告書第44集
- 手田和文ほか 1990 『大船遺跡群(大新町遺跡)—平成元年度発掘調査概報—』盛岡市教育委員会
- 手塚 均ほか 1986 『田納貝塚 Ⅰ』宮城県文化財調査報告書第111集
- 土岐山 武 1982 『松田遺跡』『仙南・仙東・広域水田関係遺跡調査報告書Ⅱ』宮城県文化財調査報告書第88集
- 西村 力・小野寺智哉 2004 『飯戸遺跡』近町文化財調査報告書第4集
- 秦 昭策 1991 『特殊な刺織技法をもつ東日本の石造—松原型石造の分布と製作時期について—』『考古学雑誌』第76巻4号
- 林 謙作 1965 『縄文文化の発展と地域性 東北』『日本の考古学Ⅱ 縄文時代』
- 早瀬亮介 2008 『前期大木式土器』『総覧 縄文土器』小林達雄編
- 平林 彰 1994 『改葬』『縄文時代研究事典』戸沢充明編
- 福田友之 1998 『津軽海城域と南海産貝類—津軽海城域におけるイモガイ形製品をめぐって—』『時の絆』石野三三先生を偲ぶ本村行委員会
- 藤沼邦彦 1971 『大山遺跡』『大橋遺跡』『塩沢北遺跡』『東北自動車道関係遺跡発掘調査報告書』宮城県文化財調査報告書第24集
- 藤沼邦彦 1981 『縄文晩期の土器—東北地方—』『縄文土器大図録』4
- 藤村東男 1986 『九年橋遺跡発掘調査報告書』北上市文化財調査報告書第42集
- 真山 哲 1981 『東山遺跡』『東北自動車道遺跡調査報告書Ⅴ』宮城県文化財調査報告書第81集
- 御堂島 正 1993a 『石器製作における加熱処理』『二十一世紀への考古学』櫻井清彦先生古稀記念論文集
- 御堂島 正 1993b 『加熱処理による石器製作—日本国内の事例と実験的研究—』『考古学雑誌』第79巻1号
- 村越 潔ほか 1991 『砂沢遺跡発掘調査報告書』青森県弘前市教育委員会
- 森谷昌史 2003 『砂子田遺跡第2・3次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第113集
- 柳沢和明ほか 1990 『折伏遺跡』宮城県文化財調査報告書第132集
- 山口 巖 2001 『上杉遺跡』浄法寺町教育委員会
- 山口博之 1995 『宮の前遺跡第2次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第19集
- 山内清男編 1964 『日本原始美術 Ⅰ』
- 陸塚正浩 2008 『貝殻・沈泥文化系土器』『総覧 縄文土器』小林達雄編
- 蔵王町史編さん委員会 1987 『蔵王町史—資料編1—』
- 宮城県教育委員会 2009 『北小松遺跡』『平成21年度宮城県遺跡調査成果発表会 発表要旨』

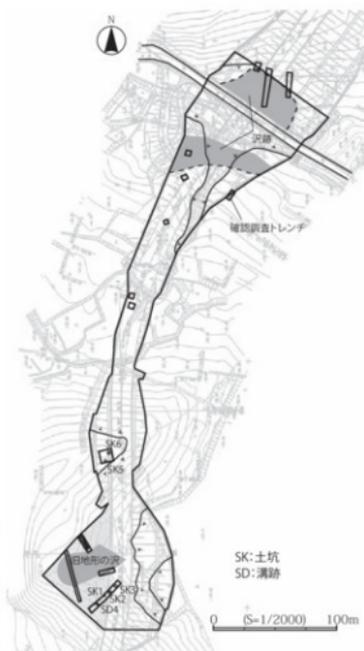
## 付章1 欠山遺跡・淡島山遺跡

欠山遺跡・淡島山遺跡は蔵王町曲竹欠山、淡島山にそれぞれ所在し、鍛冶沢遺跡の南に位置する。欠山遺跡と淡島山遺跡は青麻山から延びる丘陵先端部の東斜面と西斜面にあり、遺跡のある地点は緩斜面になっている。

確認調査の結果、淡島山遺跡については中世以前の遺構は検出されず、縄文土器片数点が出土しただけであったため、工事の影響を受けないと判断された(図版179、180)。欠山遺跡については確認調査の結果、黒色土中に縄文土器がやや多く含まれていたため、平成20年7月3日から10日に一部について事前調査を行った。その結果、遺物が多く含まれる包含層は検出されず、沢跡の堆積土(黒色土)中から縄文時代中期から後期の土器片十数点と石器数点が発見されたが、遺構は確認されなかった。また、同年10月7日に新設道路に接続する町道の拡幅部分について確認調査を行ったが遺構は検出されず、縄文土器片2点が出土しただけであった。このことから今回の調査地点で出土した遺物は丘陵から沢に流れ込んだ遺物が堆積していたものと判断され、遺跡の中心部は今回の調査地点より丘陵上位の平坦面にあるものと考えられる。



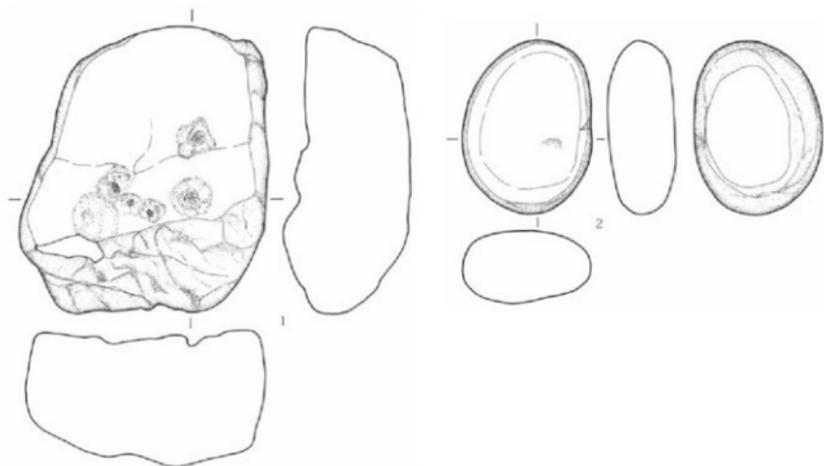
図版1 欠山遺跡・淡島山遺跡出土土器



図版2 淡島山遺跡の周辺と調査区的位置



図版3 欠山遺跡の調査区の位置



No.	品種	形状	遺積/層	石材	長(mm)	幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	残存	加熱処理	変形	付着物	備考	写真ID	登録
1	石皿		12T/Ⅱa	安山岩	181.0	147.8	72.0	2300.0	完形	-	0	0		15-8	S1
2	磨石		12T/Ⅱa	安山岩	108.0	78.6	45.0	583.0	変形	-	0	0		15-7	S2

図版4 欠山遺跡・淡島山遺跡出土石器

## 付章 2 放射性炭素年代測定 (AMS 測定)

(鍛冶沢遺跡・青木畑遺跡)

(株) 加速器分析研究所

### 1. 遺跡の位置

鍛冶沢遺跡は、宮城県刈田郡蔵王町曲竹に所在する。青木畑遺跡は、宮城県栗原市一迫に所在する。

### 2. 測定対象試料

鍛冶沢遺跡の測定試料は、SX2238 から出土した土器付着炭化物 (No. 1: IAAA-72442)、S11102 の 1 層から出土した土器付着炭化物 (No. 10: IAAA-72443)、SX1123 から出土した土器付着炭化物 (No. 3: IAAA-72444)、1 区 (AX108) IV d 層から出土した土器付着炭化物 (No. 4: IAAA-72445)、II 区 C9 III 層から出土した土器付着炭化物 (No. 7: IAAA-72447)、II 区 B10 IV 層から出土した土器付着炭化物 (No. 8: IAAA-72448)、II 区 III 層から出土した土器付着炭化物 (No. 9: IAAA-72449)、S11102 床から出土した土器付着炭化物 (No. 11: IAAA-72450)、合計 8 点である。

青木畑遺跡の測定試料は、土器付着炭化物 (No. 13: IAAA-72446)、包 61 から出土した土器付着炭化物 (No. 12: IAAA-72451) である。

炭化物の採取位置は、No. 3・10 が土器の内面、No. 8・9 が土器の内外面、No. 1・4・7・11 ~ 13 が土器の外表面である。

### 3. 化学処理工程

- 1) メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- 2) AAA (Acid Alkali Acid) 処理。酸処理、アルカリ処理、酸処理により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では 1N の塩酸 (80℃) を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では 0.001N の水酸化ナトリウム水溶液 (80℃) を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では 1N の塩酸 (80℃) を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90℃で乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。
- 3) 試料を酸化銅 1g と共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500℃で 30 分、850℃で 2 時間加熱する。
- 4) 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) を精製する。
- 5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出 (水素で還元) し、グラファイトを製作する。
- 6) グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着し測定する。

### 4. 測定方法

測定機器は、3MV タンデム加速器をベースとした <sup>14</sup>C AMS 専用装置 (NEC Pelletron 95DH-2) を使用する。134 個の試料が装填できる。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOX II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。また、加速器により <sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C の測定も同時に行う。

### 5. 算出方法

- 1) 年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用した。
- 2) <sup>14</sup>C 年代 (Libby Age: yrBP) は、過去の大気中 <sup>14</sup>C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。この値は、 $\delta^{13}\text{C}$  によって補正された値である。
- 3) 付記した誤差は、複数回の測定値について  $\chi^2$  検定が行われ、測定値が 1 つの母集団とみなせる場合には測定値の統計誤差から求めた値、みなせない場合には標準誤差から求めた値が用いられる。
- 4)  $\delta^{13}\text{C}$  の値は、通常は質量分析計を用いて測定されるが、AMS 測定の場合に同時に測定される  $\delta^{13}\text{C}$  の値を用いることもある。 $\delta^{13}\text{C}$  補正をしない場合の同位体比および年代値も参考に掲載する。

同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差 (‰; パーミル) で表した。

$$\delta^{14}\text{C} = [(^{14}\text{A}_s - ^{14}\text{A}_0) / ^{14}\text{A}_0] \times 1000 \quad (1)$$

$$\delta^{13}\text{C} = [(^{13}\text{A}_s - ^{13}\text{A}_{\text{ref}}) / ^{13}\text{A}_{\text{ref}}] \times 1000 \quad (2)$$

ここで、<sup>14</sup>AS: 試料炭素の <sup>14</sup>C 濃度 ( $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}_s$ ) または ( $^{14}\text{C}/^{13}\text{C}_s$ )

<sup>14</sup>AR: 標準現代炭素の <sup>14</sup>C 濃度 ( $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}_0$ ) または ( $^{14}\text{C}/^{13}\text{C}_0$ )

$\delta^{13}\text{C}$  は、質量分析計を用いて試料炭素の <sup>13</sup>C 濃度 ( $^{13}\text{A}_s = ^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ ) を測定し、PDB (白亜紀のペレミナイト類の化石) の値を基準として、それからのずれを計算した。ただし、加速器により測定中に同時に <sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C を測定し、標準試料の測定

値との比較から算出した $\delta^{13}\text{C}$ を用いることもある。この場合には表中に(加速器)と注記する。

- 5)  $\Delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素が $\delta^{13}\text{C} = -25.0$  (‰)であるとしたときの $^{13}\text{C}$ 濃度 ( $^{14}\text{A}_0$ )に換算した上で計算した値である。(1)式の $^{13}\text{C}$ 濃度を、 $\delta^{13}\text{C}$ の測定値をもとに次式のように換算する。

$$^{14}\text{A}_0 = ^{14}\text{A}_s \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C} / 1000))^2 \quad (^{14}\text{A}_s \text{として } ^{13}\text{C}/^{12}\text{C} \text{を使用するとき})$$

または

$$= ^{14}\text{AS} \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C} / 1000)) \quad (^{14}\text{A}_s \text{として } ^{13}\text{C}/^{12}\text{C} \text{を使用するとき})$$

$$\Delta^{13}\text{C} = [(^{14}\text{A}_0 - ^{14}\text{A}_s) / ^{14}\text{A}_0] \times 1000 \text{ (‰)}$$

貝殻などの海洋が炭素起源となっている試料については、海洋中の放射性炭素濃度が大气の炭酸ガス中の濃度と異なるため、同位体補正のみを行った年代値は実際の年代との差が大きくなる。多くの場合、同位体補正をしない $\delta^{14}\text{C}$ に相当するBP年代値が比較的良好なものと同一時代のものと考えられる木片や木炭などの年代値と一致する。

- 6) pMC (percent Modern Carbon)は、現代炭素に対する試料炭素の $^{13}\text{C}$ 濃度の割合を示す表記であり、 $\Delta^{13}\text{C}$ との関係は次のようになる。

$$\Delta^{13}\text{C} = (\text{pMC} / 100 - 1) \times 1000 \text{ (‰)}$$

$$\text{pMC} = \Delta^{13}\text{C} / 10 + 100 \text{ (‰)}$$

国際的な取り決めにより、この $\Delta^{13}\text{C}$ あるいはpMCにより、 $^{14}\text{C}$ 年代が次のように計算される。

$$T = -8033 \times \ln [(\Delta^{13}\text{C} / 1000) + 1]$$

$$= -8033 \times \ln (\text{pMC} / 100)$$

- 7)  $^{14}\text{C}$ 年代値と誤差は、1桁目を四捨五入して10年単位で表示される。

- 8) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の $^{13}\text{C}$ 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の $^{13}\text{C}$ 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 $^{14}\text{C}$ 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ( $1\sigma = 68.2\%$ ) あるいは2標準偏差 ( $2\sigma = 95.4\%$ ) で表示される。暦年較正プログラムに入力される値は、下一桁を四捨五入しない $^{14}\text{C}$ 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal04 データベース (Reimer et al 2004) を使い、OxCal3.10 較正プログラム (Bronk Ramsey 1995 Bronk Ramsey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001) を使用した。

## 6. 測定結果

殿治沢遺跡出土試料の $^{14}\text{C}$ 年代は、SX2238 から出土した土器付着炭化物 (No. 1) が  $2300 \pm 30\text{yrBP}$ 、SX1123 から出土した土器付着炭化物 (No. 3) が  $2900 \pm 30\text{yrBP}$ 、I 区 (AX108) IV d 層から出土した土器付着炭化物 (No. 4) が  $8060 \pm 40\text{yrBP}$ 、II 区 (C9) III 層から出土した土器付着炭化物 (No. 7) が  $2210 \pm 30\text{yrBP}$ 、II 区 (B10) IV 層から出土した土器付着炭化物 (No. 8) が  $2260 \pm 30\text{yrBP}$ 、II 区 III 層から出土した土器付着炭化物 (No. 9) が  $2460 \pm 30\text{yrBP}$ 、SI1102 の I 層から出土した土器付着炭化物 (No. 10) が  $2920 \pm 40\text{yrBP}$ 、SI1102 の床から出土した土器付着炭化物 (No. 11) が  $3010 \pm 30\text{yrBP}$  である。

暦年較正年代 ( $1\sigma$ ) は、No. 4 が  $7130 \sim 7110\text{BC}$ (2.3%)・ $7090 \sim 7020\text{BC}$ (42.5%)・ $6970 \sim 6910\text{BC}$ (10.1%)・ $6880 \sim 6830\text{BC}$ (13.3%) であり、縄文時代早期中葉に相当する。No. 11 は  $1370 \sim 1340\text{BC}$ (8.9%)・ $1320 \sim 1210\text{BC}$ (59.3%) であり、縄文時代後期後葉に相当する。No. 10 が  $1210 \sim 1040\text{BC}$ (68.2%)、No. 3 が  $1130 \sim 1020\text{BC}$ (68.2%) であり、縄文時代後期末から晩期初頭に相当する。No. 9 が  $760 \sim 680\text{BC}$ (25.9%)・ $670 \sim 610\text{BC}$ (13.8%)・ $600 \sim 510\text{BC}$ (28.5%) であり、縄文時代晩期末に相当する。No. 1 は  $405 \sim 365\text{BC}$ (68.2%)、No. 7 が  $360 \sim 340\text{BC}$ (9.0%)・ $330 \sim 270\text{BC}$ (28.3%)・ $260 \sim 200\text{BC}$ (30.9%)、No. 8 が  $390 \sim 350\text{BC}$ (30.2%)・ $290 \sim 230\text{BC}$ (38.0%) であり、弥生時代前期に相当する。

青木加遺跡出土試料では、土器付着炭化物 (No. 13) が  $2260 \pm 30\text{yrBP}$ 、包 61 から出土した土器付着炭化物 (No. 12) が  $2060 \pm 30\text{yrBP}$  である。暦年較正年代 ( $1\sigma$ ) は、No. 13 が  $390 \sim 350\text{BC}$ (31.8%)・ $290 \sim 230\text{BC}$ (36.4%) であり弥生時代前期、No. 12 が  $150 \sim 140\text{BC}$ (2.6%)・ $120 \sim 20\text{BC}$ (61.8%)・ $10\text{BC} \sim \text{0AD}$ (3.8%) であり弥生時代中期に相当する。

ほとんどの試料の炭素含有率は  $50 \sim 70\%$  だが、No. 4 が  $41.7\%$ 、No.10 が  $36.8\%$ 、No. 13 が  $32.8\%$  とやや低い値となった。付着物が煤やオコゲなどの通常の炭化物では無い可能性がある。

測定番号	遺跡名	出土地点	No.	試料形態	Libby Age (yrBP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)		$\Delta^{13}\text{C}$ (‰)	pMC (‰)
						(試料)	(加算値)		
IAAA-72442	縄布片	SK2238	1	土器付着炭化物	2,300 ± 30	-22.97 ± 0.81	-249.2 ± 2.7	75.08 ± 0.27	
IAAA-72443	縄布片	SI1102 1層	10	土器付着炭化物	2,950 ± 40	-22.60 ± 0.57	-305.0 ± 3.6	69.50 ± 0.36	
IAAA-72444	縄布片	SK1123	3	土器付着炭化物	2,900 ± 30	-23.74 ± 0.63	-302.9 ± 2.7	69.71 ± 0.27	
IAAA-72445	縄布片	I区 AX106 互4層	4	土器付着炭化物	8,060 ± 30	-22.65 ± 0.30	-633.5 ± 2.0	36.65 ± 0.30	
IAAA-72446	青木燧		13	土器付着炭化物	2,260 ± 30	-27.40 ± 0.61	-245.4 ± 2.9	75.46 ± 0.29	
IAAA-72447	縄布片	II区 C9 3層	7	土器付着炭化物	2,210 ± 30	-25.60 ± 0.64	-240.1 ± 2.9	75.99 ± 0.29	
IAAA-72448	縄布片	II区 B10 5層	8	土器付着炭化物	2,260 ± 30	-24.30 ± 0.33	-245.0 ± 2.7	75.50 ± 0.27	
IAAA-72449	縄布片	II区 3層	9	土器付着炭化物	2,460 ± 30	-25.52 ± 0.75	-264.1 ± 2.7	73.59 ± 0.27	
IAAA-72450	縄布片	SI1102 床	11	土器付着炭化物	3,010 ± 30	-23.70 ± 0.67	-312.7 ± 2.7	68.73 ± 0.27	
IAAA-72451	青木燧	SI 61	12	土器付着炭化物	2,060 ± 30	-23.11 ± 0.41	-225.9 ± 2.6	77.41 ± 0.26	

表1 放射性炭素年代

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ の補正無し(参考)			暦年較正用 (yrBP)		1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	pMC (‰)	Age(yrBP)	Age(yrBP)	Age(yrBP)	Age(yrBP)	Age(yrBP)
IAAA-72442	-246.1 ± 2.4	75.39 ± 0.24	2270 ± 30	2302 ± 29	465-365BC(68.2%)	410-350BC(78.2%) 290-230BC(17.2%)	
IAAA-72443	-301.6 ± 3.5	69.84 ± 0.35	2880 ± 40	2922 ± 41	1210-1040BC(68.2%)	1270-1000BC(95.4%)	
IAAA-72444	-301.1 ± 2.6	69.89 ± 0.26	2880 ± 30	2898 ± 31	1130-1020BC(68.2%)	1220-980BC(95.4%)	
IAAA-72445	-631.7 ± 2.0	36.83 ± 0.20	8020 ± 40	8063 ± 44	7130-7110BC(2.3%) 7090-7020BC(42.5%) 6970-6910BC(10.1%) 6880-6830BC(13.3%)	7180-6820BC(95.4%)	
IAAA-72446	-249.1 ± 2.7	75.09 ± 0.27	2300 ± 30	2261 ± 30	390-350BC(51.8%) 290-230BC(36.4%)	400-340BC(39.3%) 320-200BC(56.1%)	
IAAA-72447	-241.0 ± 2.7	75.90 ± 0.27	2220 ± 30	2205 ± 30	360-340BC(9.0%) 330-270BC(28.3%) 260-200BC(30.9%)	380-190BC(95.4%)	
IAAA-72448	-243.9 ± 2.7	75.61 ± 0.27	2250 ± 30	2257 ± 28	300-350BC(30.2%) 290-230BC(38.0%)	400-340BC(37.6%) 310-200BC(57.8%)	
IAAA-72449	-264.9 ± 2.5	73.51 ± 0.25	2470 ± 30	2463 ± 29	760-680BC(25.9%) 670-610BC(11.8%) 600-510BC(28.5%)	760-680BC(27.7%) 670-490BC(56.4%) 470-410BC(11.3%)	
IAAA-72450	-310.8 ± 2.6	68.92 ± 0.26	2990 ± 30	3012 ± 31	1370-1340BC(8.9%) 1320-1210BC(59.3%)	1300-1120BC(95.4%)	
IAAA-72451	-222.9 ± 2.5	77.71 ± 0.25	2030 ± 30	2056 ± 27	150-140BC(2.0%) 120-20BC(61.8%) 10BC-0AD(3.8%)	170BC-10AD(95.4%)	

表2 補正なし年代と暦年較正年代



図版1 放射性炭素年代測定土器

## 付章3 鍛冶沢遺跡出土赤色顔料の蛍光X線分析

竹原弘展 (パレオ・ラボ)

### 1. はじめに

宮城県蔵王町曲竹に所在する鍛冶沢遺跡は、青麻山東麓の緩やかな斜面に立地する縄文時代から弥生時代の遺跡である。当遺跡より出土した遺物に付着する赤色顔料について蛍光X線分析を行い、組成を検討した。

### 2. 試料と方法

分析対象資料は、赤色顔料が付着した遺物計10点で、その内訳は石器6点、土器4点である(表1)。ゼロハンデープに資料の赤色部分を極少量採取して分析試料とした。

分析装置はエネルギー分散型蛍光X線分析装置である(株)堀場製作所製分析顕微鏡XGT-5000Type IIを使用した。装置の仕様は、X線管が最大50kV・1mAのロジウムターゲット、X線ビーム径が100 $\mu$ mまたは10 $\mu$ m、検出器は高純度Si検出器(Xerophy)で、試料室の大きさは350 $\times$ 400 $\times$ 40mmである。検出可能元素はナトリウム〜ウランであるが、ナトリウム、マグネシウムといった軽元素は蛍光X線分析装置の性質上、検出感度が悪いため、試料中に少量含む程度ではピークを検出し難く、検出できてもその定量値はかなり誤差が大きい。

本分析での測定条件は、50kV、0.26~1.00mA(自動設定による)、ビーム径100 $\mu$ m、測定時間500s、パルス処理時間P4(分解能を重視した設定)に設定した。定量分析は標準試料を用いないFP(ファンダメンタル・パラメータ)法による半定量分析を装置付属ソフトで行った。そのため、定量値は誤差を大きめに見積もっておく必要がある。

また、採取した試料は光学顕微鏡下での観察も行い、赤色顔料の粒子形状を確認した。

### 3. 結果

分析により得られたスペクトルおよびFP法による半定量分析結果を図版1に示す。

いずれもアルミニウム(AI)、ケイ素(Si)、鉄(Fe)が主に検出された。他に、リン(P)、硫黄(S)、カリウム(K)、カルシウム(Ca)、チタン(Ti)、マンガン(Mn)などが検出された。

また、光学顕微鏡観察により得られた画像を図版1に示す。

### 4. 考察

古代に主に使用されていた赤色顔料としては、朱(水銀朱)とベンガラが挙げられる。水銀朱は、硫化水銀(HgS)で鉱物としては辰砂と呼ばれ、産出地はある程度限定される。ベンガラは狭義には三酸化二鉄(Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)、鉱物名は赤鉄鉱を指すが、広義には鉄(III)の発色に伴う赤色顔料全般を指し(成瀬 2004)、広範な地域で採取可能である。また、ベンガラは直径約1 $\mu$ mのパイプ状の粒子形状からなるものも多く報告されている。これは鉄バクテリアを起源とすることが判明しており(岡田 1997)、含水水酸化鉄を焼いて得た赤鉄鉱がこのような形状を示す(成瀬 1998)。

今回分析した試料からは、ケイ素などが土中にあると推定できる。すなわち、顔料としてはベンガラにあたる。また光学顕微鏡下で観察したところ、分析No.3・5・7・9・10からはパイプ状の粒子が観察された(図版1)。

### 5. おわりに

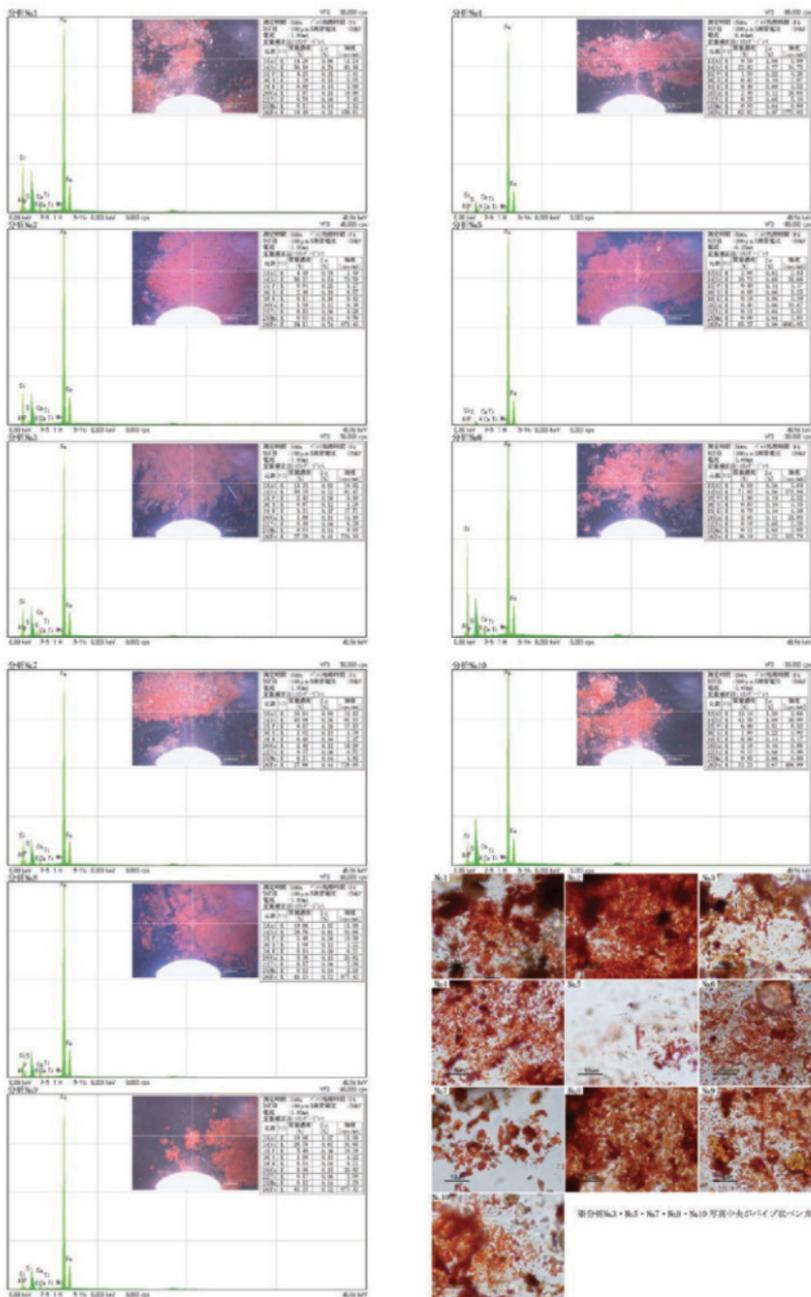
鍛冶沢遺跡より出土した遺物に付着する赤色顔料について分析した結果、いずれも鉄が多く検出され、鉄(III)による発色と推定された。顔料としてはベンガラにあたる。また、そのうちの分析No.3・5・7・9・10からはパイプ状ベンガラが観察された。

### 引用文献

- 成瀬正和 1998 「縄文時代の赤色顔料―赤土器―」『考古学ジャーナル』438 pp.10-14  
ニューサイエンス社
- 成瀬正和 2004 「正倉院宝物に用いられた無機顔料」『正倉院紀要』pp.13-61 宮内庁正倉院事務所
- 岡田文男 1997 「パイプ状ベンガラ粒子の復元」『日本文化財科学会第14回大会研究発表要旨集』pp.38-39

分析No.	器種	写真図版	登録
No. 1	石皿	36-3	S2190
No. 2	磨石	63-23	S1531
No. 3	石皿	21-29	S1532
No. 4	石皿	32-35	S1533
No. 5	石皿	63-1	S1534
No. 6	石皿	63-2	S1530
No. 7	小型鉢	38-12	Pot2541
No. 8	壺	46-12	Pot788
No. 9	浅鉢	46-13	Pot789
No. 10	台付鉢	37-36	Pot2554

表1 分析対象資料



図版1 赤色顔料の蛍光X線分析結果

## 付章4 鍛冶沢遺跡出土石器の使用痕分析

鹿又喜隆・村田弘之・傅田恵隆（東北大学）

### 1. はじめに

鍛冶沢遺跡から出土した石器の使用痕分析を東北大学にて実施した。分析対象は、肉眼観察で光沢面や微小創傷痕が確認されたものや、器種分類が難しく機能的な視点から検討が必要なものなどを選択した。その結果、石鏃1点、石錐19点、石匙8点、石鏟4点、打製石斧1点、磨製石斧8点、楔形石器1点、不定形石器4点、石冠2点、石刀1点、磨製石斧類似品1点の合計50点を分析対象とした(表1)。使用痕観察では、落射照明付き金属顕微鏡(オリパス BX51M)とデジタルマイクロスコープシステム(キーエンスVHV-1000)を使用し、主に高倍率法により顕鏡した。使用痕の分類基準は、東北大学使用痕研究チームによる実験研究(阿子島 1981、梶原・阿子島 1981)および我々が補足的に実施した実験結果に基づく。なお、使用痕光沢面(ポリッシュ)の記載にお

9桁番号	器種	使用部位	変リシチュ	加工痕	厚薄	推定作業	備 考	図例	参照図	写真図
S1139	石鏃	先端部		直交	○					152.4 62.6
S1007	石鏃	先端部	不明光沢	直交	○	部分的にバッチ状の光沢	摩滅強い		1 157.4 64.5	
S1019	石鏃	先端部	僅かな光沢	直交	○		摩滅強い		29.41 22.65	
S1041	石鏃	先端部	僅かな光沢	直交	○				45.22 27.23	
S1055	石鏃	先端部	僅かな光沢	直交	○				50.9 30.10	
S1073	石鏃	先端部	僅かな光沢	直交	○	破壊石			106.6 43.18	
S1117	石鏃	中軸縁部	D1D2類似?	直交	○	水漬け硬質石材?骨角?	時計回りに回転。光沢僅く、平面的		1 152.18 62.21	
S1150	石鏃	先端部		直交	○				145.1 57.30	
S1189	石鏃	先端部	僅かな光沢	直交	○				153.4 62.19	
S1195	石鏃	先端部		直交	○	光沢がない(手割れ)			153.2 62.24	
S1264	石鏃	中軸縁部	僅かな光沢	直交	○	部分的にバッチ状の光沢	摩滅強い		152.19 62.22	
S1278	石鏃	先端部		直交	○				152.17 62.25	
S1289	石鏃	縁部全体		直交	○		摩滅強い		1 152.16 62.20	
S1313	石鏃	先端部		直交	○				153.6 62.27	
S1355	石鏃		なし				未使用		157.6 64.7	
S1363	石鏃	中軸縁部・両端	B類似?	直交	○	水漬け粘板石?	バッチ状に発達。摩滅強い		1 157.5 64.6	
S6419	石鏃(石匙)	下縁	A						1 150.1 65.8	
S2026	石鏃	縁部		直交	○	付着物と縁面 onA タイプ			163.4 66.26	
S2027	石鏃	先端部		直交	○				163.12 67.5	
S2036	石鏃	先端部		直交	○	面的に摩滅。光沢は僅か	摩滅強い		1 163.3 66.27	
S1049	石匙	下縁	A	斜行+直交	○	イネ科植物の切断			2 48.8 29.9	
S1097	石匙	右側面	A	平行	○	イネ科植物の切断	おそらく作業中はこちらが先。その後再加工		2 55.2 32.30	
S1118	石匙	右側面	D2	平行	○	骨角の切断	背面右側面に対面再生の可能性		2 153.8 62.30	
S1295	石匙	右側面	A	平行	○	イネ科植物の切断			2 145.5 58.1	
S1343	石匙	右側面	E2	平行	○	破壊面の切断	左側面に手ズレ痕あり		2 153.7 62.29	
S1377	石匙	下縁	E1	直交(平行)	○	生成なし	手ズレ痕あり		3 157.7 64.9	
S6421	石匙	右側面	A	平行	○	イネ科植物の切断	作業中はこちらが先		3 159.2 65.10	
S2194	石匙	右側面中央	E2	直交	○	破壊面なし			67.1 25.75	
S1466	石匙	下縁	E2	直交	○	イネ科植物?軽度の作業			3 157.9 64.12	
S1442	石匙	下縁	E2	直交	○	破壊面なし	背面中央に手ズレ痕あり		3 143.1 57.11	
S1516	石匙			直交			左側面に手ズレ痕が着物状。背面には対面再生され、縁部摩滅がない		3 143.1 57.2	
S1519	石匙			直交			両面の中央に摩滅		1 151.4 57.2	
S2270	打製石斧	先端部	叩	直交	○	木?の伐採	右部縁部の摩滅に差があるが、右側のため判定不可		4 158.2 65.1	
S1460	磨製石斧	先端部	叩	斜行+直交	○	木?の伐採	縁部に摩滅と微かな光沢		4 62.7 34.9	
S1466	磨製石斧	先端部?	なし	なし	○		微小創傷痕の中心部に認められる		4 145.8 58.5	
S1481	磨製石斧	先端部	叩	なし	○	木?	明確な使用痕はない		4 154.2 63.2	
S1488	磨製石斧	先端部	叩	なし	○	木?	縁部と基部に摩滅と不明な光沢		4 145.7 58.4	
S1521	磨製石斧	先端部	叩	斜行+直交	○	木?の伐採	微小創傷痕があり、軽度の作業があった可能性		4 145.9 58.6	
S2055	磨製石斧	先端部	叩	斜行+直交	○	木?の伐採			158.4 65.3	
S2197	磨製石斧	先端部	叩	直交	○	木?の伐採			163.6 67.1	
S2254	磨製石斧	先端部	叩	直交	○	木?の伐採	微小創傷痕がある。一部と縁部にタイプ不明の光沢		4 71.3 37.29	
S1782	楔形石器			直交	○	木?の伐採	縁部縁部の中心部に認められる		62.2 34.4	
S1279	不定形石器						明確な使用痕はない		143.10 57.10	
S1688	不定形石器						明確な使用痕はない		154.6 63.6	
S6100	不定形石器						観察不可能		155.1 63.15	
S2225	不定形石器	下縁	なし	なし			明確な使用痕はない		146.7 58.19	
S1629	石冠	縁部	叩	なし		木?	認められた箇所から使用痕の可能性は低い		63.5 34.14	
S2178	石冠	中央から下面	B?	平行と直交		木?植物?の伐採			4 169.4 68.13	
S2002	石刀	両側面	B (A)	平行	○	イネ科植物?切断	着物痕の可能性があり、光沢が範囲は色調が赤。赤色の付着物が一部にある		5 169.3 68.14	
S1520	磨製石斧類似品		なし	なし			主に直線的な縁部を使用		5 172.0 69.11	
							明確な使用痕はない		170.9 69.17	

表1 使用痕分析結果

いて、例えば「Aタイプ」としたものは「実験研究の分類によるAタイプに相当すると判断されたもの」、「A?タイプ」としたものは「石質の問題や使用痕の発達度の問題などからAタイプと判断されるが幾つかの点でその特徴が異なり、分類の確実性が低いもの」、「Aタイプ類似」としたものは、「分類の中ではAタイプに最も類似するが、その差異が大きく、実験の枠組みを拡大して再検討する必要がある」と示している。線状痕の方向は、隣接する緑辺に対する傾きによって「平行、斜行、直交」と記載した。使用痕写真は、石斧や石冠は、金属顕微鏡を用いて主に200倍で撮影し、その他の石器はデジタルマイクロスコープによって主に200倍にて深度合成を行い撮影した。なお、金属顕微鏡の200倍はデジタルマイクロスコープの450倍の画像に相当するので、写真のスケールが異なる点に注意して頂きたい。

## 2 分析結果

### (1) 石鎌

肉眼観察では、先端部に摩滅が多く観察された。それに反して、顕微鏡下においては明確なポリッシュが確認されたものは少なかった。従来の使用痕実験資料によると、このレベルの摩滅があれば、通常、明瞭なポリッシュが発達するものである。したがって、現在、複製の石鎌を製作し、新たな枠組みによる使用実験を行っている。これについては、改めて実験結果を公表する予定である。ここでは、その中途の結果も参考にして解釈する。ポリッシュが明瞭に確認できた資料は、S1117とS1363である。S1117のポリッシュはD1D2タイプに類似するが、より平滑な摩滅面を伴う(図版1-1・2)。我々の実験によれば、水溜り下での硬質な石材(玉髓や石英など)の穿孔による痕跡に類似する。S1363は、凸部の光沢面のみを見れば、Bタイプに類似したパッチ状の光沢面であるが、やはり周辺に強い摩滅を伴う(図版1-3・4)。おそらく粘板岩程度の硬さの石材を水溜り下で穿孔した痕跡と考えられる。S1007とS1019、S1289、S2036、S2027は摩滅が進行し、平坦面が形成されている(図版1-5~7)。これらは、ポリッシュの形成が微弱であるか、全く認められない状況であった。このような摩滅面は、乾燥状態における硬質の石材の穿孔作業にみられる痕跡に共通する。反対に、凝灰質シルト岩のような軟質の石材では、このような摩滅は発達し難い。S1289は、おそらく粘板岩程度の硬さの石材を対象とした作業と推定される。また、S1007とS2036は、それより硬質の対象物との接触による摩滅と考えられる。S1019やS1041、S1055、S1073、S1189、S1264にも使用度は低いものの、摩滅が確認された。乾燥石材の軽度の穿孔あるいは軟質の石材の穿孔と推定される。S6419は、当初その形態から石鎌と考えられていたが、使用痕分析により下縁にAタイプの光沢面と平行の線状痕が確認された(図版1-9・10)。また、基部の挟り部には、輝斑あるいはAタイプ類似の光沢面がパッチ状にあり、付着物も確認できた(図版1-8)。付着物は写真中の亀裂がある部分である。これらの痕跡を総合すると、この石器は石匙であり、基部に紐を巻きつけ、刃部ではイネ科植物の切断作業を行われたと推定される。

### (2) 石匙

選択した8点すべてにポリッシュが確認された。5点にはAタイプのポリッシュと平行の線状痕が確認され、イネ科植物を対象とした切断作業が推定された(図版2-1・2・4・7、図版3-5)。その他に、2点にはE1やE2タイプのポリッシュと直交の線状痕が確認でき、皮なめしの作業が推定された(図版3-1・6)。また、1点がE2タイプのポリッシュと平行の線状痕の存在から、皮の切断の作業と推定された(図版2-9)。2点には、D1やD2タイプのポリッシュと平行の線状痕が認められ、骨角の切断と推定された(図版2-5・6・8)。これらの石器のうち2点(S1295・S6421)は、異なる被加工物に対する別の作業に使用されている。特に、S6421では、作業の前後関係が使用痕の重複状況から復元できる。AタイプのポリッシュがE2タイプのポリッシュによって削られていることから、イネ科植物の切断の後、皮なめしの作業が行われたと推定できる(図版3-4)。この点については、複製石器による使用実験を行い、復元的にポリッシュの形成過程を追跡し、裏付けをとった。なお、実験内容に関しては、稿を改めて報告したい。また、2点(S1097・S1295)は両側面を刃部として使用されている。

これらの石匙の使用痕は、顕著に発達するものが多く、使用度の高い道具と言える。刃部は主につまみの反対側の直線的な緑辺である。多くの場合、刃部の位置が判明したため、手による保持の仕方(握り方)も推定できた。この保持法の復元を通じて、刃部作りのための二次加工や、保持のための潤滑加工など、製作意図によって二次加工の特徴が異なることが窺えた。例えば、S1049の①やS6421の①の二次加工は、人差し指が当たる位置であり、S1049の②は親指の当たる位置に相当すると考えられる。保持の際に指などが接触すると推定されるこのような箇所には、手ズレ痕と思われる摩滅が確認された(図版2-10、図版3-2・3)。また、S1097の①②の二次加工の剥離面は、他の剥離面に比べて明らかに不整であり、当初の石器製作者と、この二次加工の施工者が異なることが予想される。このように石匙は、多様な機能を兼ね備えた道具であり、石器の様々なライフストーリーを爆発的に物語る石器である。

### (3) 石鏡

2点にE2タイプのポリッシュと直交の線状痕が確認された。共に乾燥皮のスクレイピングと推定される。通常の使用された刃部には摩滅が伴う(図版3-9)。緑辺部の摩滅が裏面の二次加工によって切られている場合は、刃部再生が行われたと判断される(図版3-7)。また、4点すべてに基部側の摩滅が確認され(図版3-8・10)、手ズレ痕または着痕痕の可能性が指摘できる。したがって、

刃部に使用痕がないものも、基部側の摩滅の存在を考慮すると、刃部再生によって使用痕が除去された可能性が高い。

#### (4) 打製石斧・磨製石斧

9点を観察対象とした。明確にポリッシュと判断できる光沢は確認されなかったが、分布範囲と微小剥離痕、摩滅などを考慮し、使用痕光沢の可能性のある7点について記述する。

S1460は、刃部に単発的ではあるが微小剥離痕が認められ、その中の高所にポリッシュが認められる(図版4-3・4)。研磨痕とは異なることからポリッシュの可能性が高いと判断した。光沢は、比較的丸みがあることからB?タイプに分類できる。線状痕は縁辺に対して直交もしくは斜行している。ただし、ポリッシュの分布範囲が限定的であることから、Scrapeの操作方法とは異なると考えられる。また、基部側の剥離面の中にはタイプ不明の光沢が確認される。S1481は、刃部の微小剥離痕が連続する部分に光沢が確認された(図版4-5・6)。比較的丸みがあることから、B?タイプと判断した。また、両側縁には、強い摩滅と不明瞭な光沢が連続して分布している。これらは、その分布範囲から着柄などの保持に起因する痕跡の可能性が高い。基部側の二次加工面にも、高所を中心にタイプ不明なポリッシュが認められる。S1521とS2005には、刃部の剥離面内に比較的小さい丸みのあるB?タイプの可能性のあるポリッシュが認められた。線状痕は刃部に対して直交もしくは斜行している。S2197とS2254は、刃部に微小剥離痕が散発的に認められ、その微小剥離痕の中にポリッシュが認められた(図版4-7・8)。そのポリッシュは丸みがあることからBタイプに分類できる。線状痕の方向は、刃部に対して直交している。S2197には、基部側にタイプ不明の光沢が確認された(図版4-9)。S2270は刃部が強く摩滅しており、その箇所に丸みのあるB?タイプの可能性のあるポリッシュがパッチ状に点在する(図版4-1・2)。線状痕は縁辺に対して斜行もしくは直交している。また、両側縁に微弱な光沢が連続して確認される。

石斧は、全体的に線状痕の方向が両縁に対して直交もしくは斜行するものが認められたが、ポリッシュの分布範囲が限定的であることを考慮すると、Scrapeとは操作方法が異なると考えられる。

#### (5) その他の石器

石冠(S1629)には、底面の局部にポリッシュがパッチ状に点々と認められた(図版4-10)。反対側には比較的鋭利な縁辺が形成され、摩滅と微小剥離痕が連続的に認められる。この箇所には明確な光沢が確認されないが、刃部として機能していた可能性が高い。これらを考慮すると、本資料に認められたポリッシュは、分布範囲から使用の際の保持に起因する可能性がある。

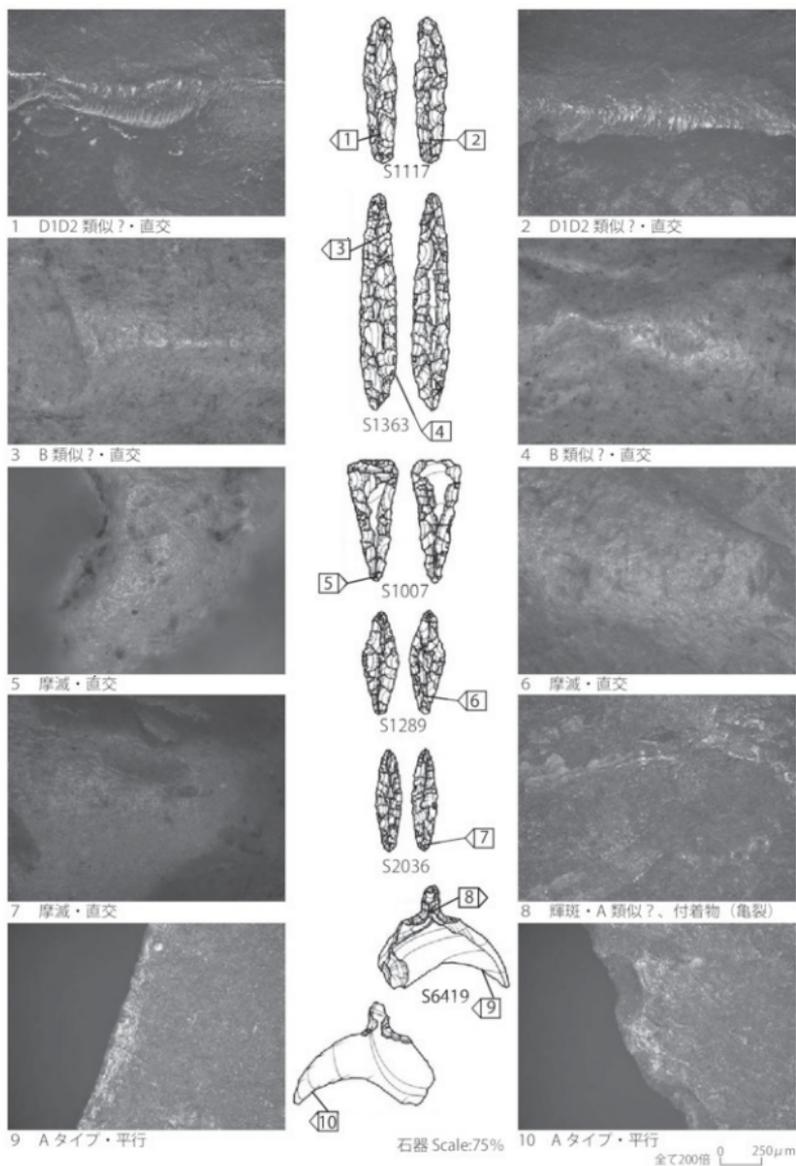
石冠(S2178)には、斧状の頭部にBタイプ類似のポリッシュがパッチ状に点々と認められた(図版5-1・2)。やや平滑な面であり、木程度か、より硬質の対象物が予想される。線状痕の方向は平行であり、研磨痕とは区別できる。直交の線状痕も認められ、そのような運動方向の作業の存在も窺えるが、研磨痕との関係により明確には判断し難い。また、側面の基部側にもB?タイプのポリッシュがパッチ状に認められた(図版5-3・4)。線状痕の方向は直交(上下方向)である。また、下面にもB?タイプのポリッシュが確認された(図版5-5・6)。基部側のポリッシュは、刃部の光沢に比べて明度が低いが、発達度が高い。肉眼観察では表面が黒ずんだ部分にあり、光沢面も頭部のものに比べて粗い。その分布状況や光沢面の特徴から着柄痕の可能性が高いと判断した。このような光沢は、石斧の柄などに確認されることが多い(平塚2003)。S2197の磨製石斧も同例と考えられる。この石冠の使用痕を総合的に判断すれば、木柄に取り付けられて、木あるいはそれよりも硬質の対象物に対して、平行や直交の運動方向の作業に使用されたと推定される。

石刀(S2002)は、石廂丁の未成品の可能性が考えられる資料である。両側辺のうち直線的な縁辺側に、Bタイプのポリッシュが確認された(図版5-7~9)。前述の石冠の光沢に比べて滑らかであり、Aタイプのポリッシュがその石質のために面的に発達しなかったものであろう。線状痕の方向は平行である。したがって、イネ科植物を切断する作業が推定される。反対側にも僅かながらBタイプの光沢面がパッチ状に確認される。手持ちの場合、保持部にも使用痕に類似した光沢面が形成されることが指摘されており(Rots 2005)、その事例とも言える。使用痕の状況は、石廂丁に相当するものであった。

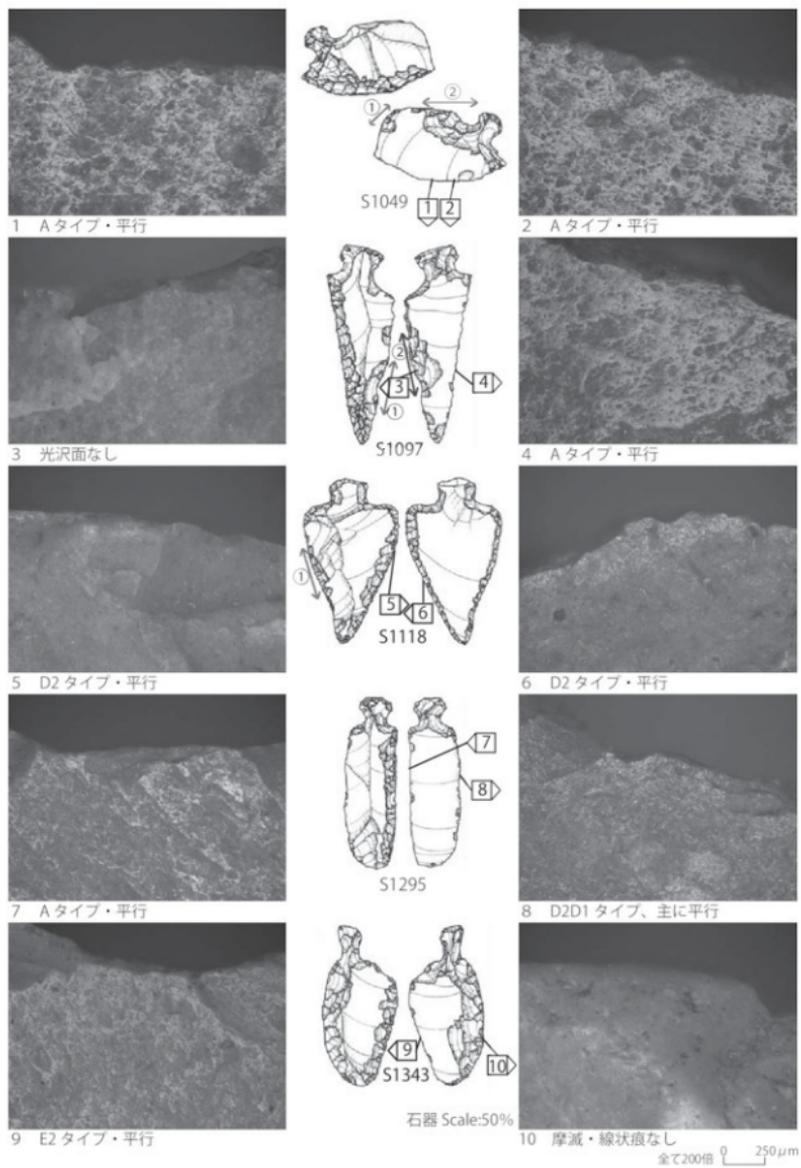
その他、楔形石器3点、不定形石器3点には、明確な使用痕が確認されなかった。S1688は石材自体が粗粒であり、風化が顕著であったために、使用痕の観察が困難であった。

#### 引用文献

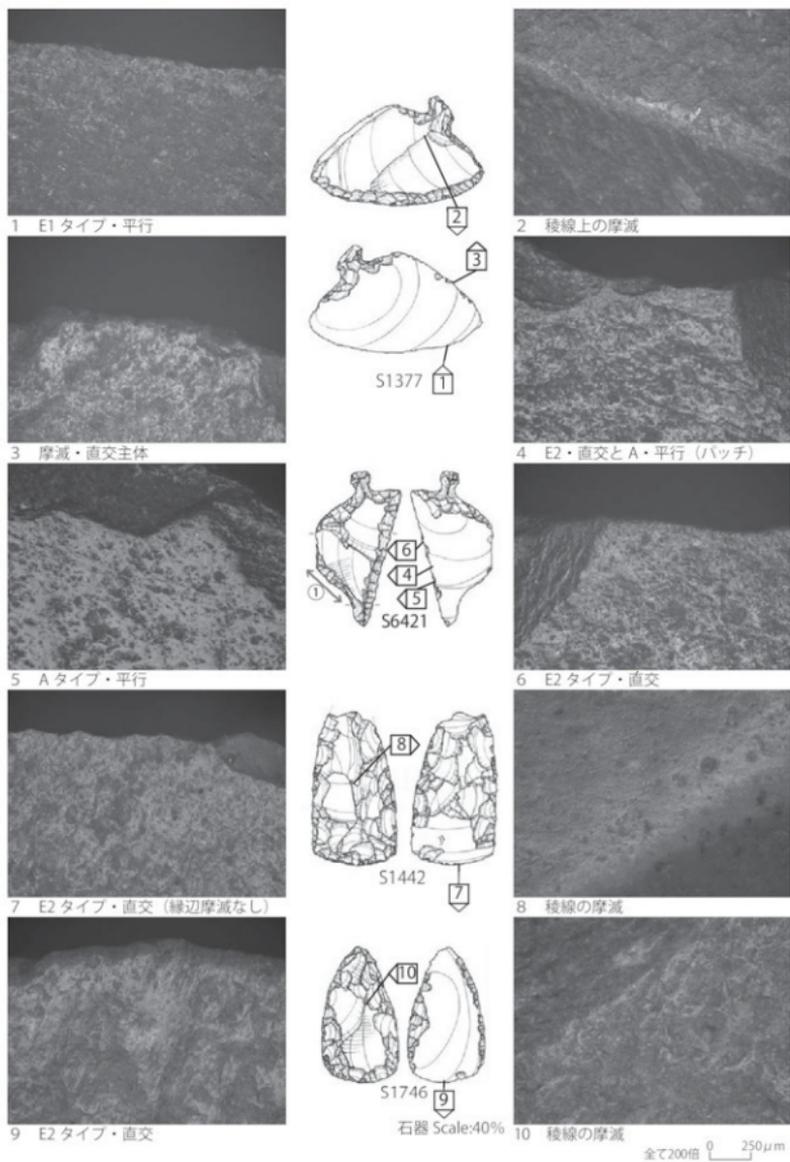
- 阿部島香 1981 「マイクログレイティングの実験的研究(東北大学使用痕研究チームによる研究報告その1)」『考古学雑誌』66(4) pp. 1-27  
梶原洋・阿部島香 1981 「直刃製石器の実験使用痕研究—ポリッシュを中心とした機能推定の試み—(東北大学使用痕研究チームによる研究報告 その2)」『考古学雑誌』67(1) pp. 1-36  
平塚幸人 2003 「福平片石斧の使用痕研究—仙台市高田B遺跡出土資料を対象にして—」『仙台市遺跡保存館研究報告』6 pp. 51-88  
Rots, Veerle 2005. Wear Traces and the Interpretation of Stone Tools. *Journal of Field Archaeology*, vol. 30, pp. 61-73



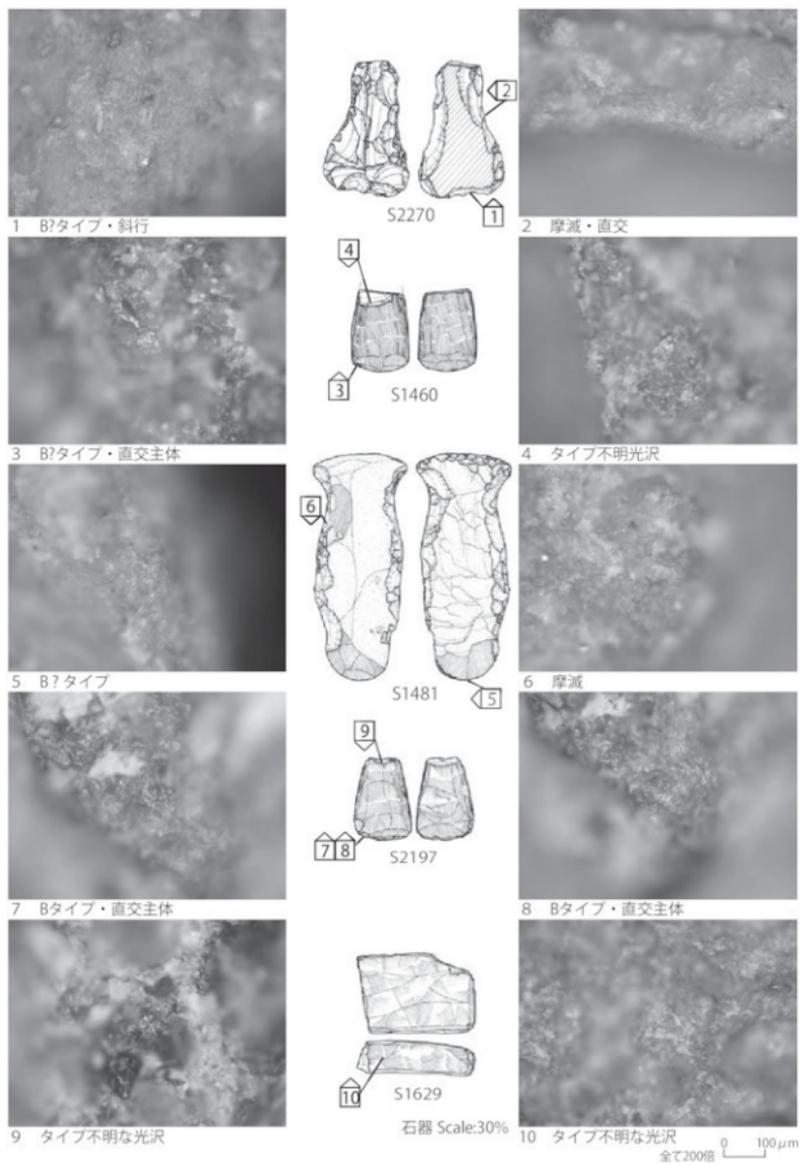
図版 1 鍛冶沢遺跡出土石器の使用痕 (1)



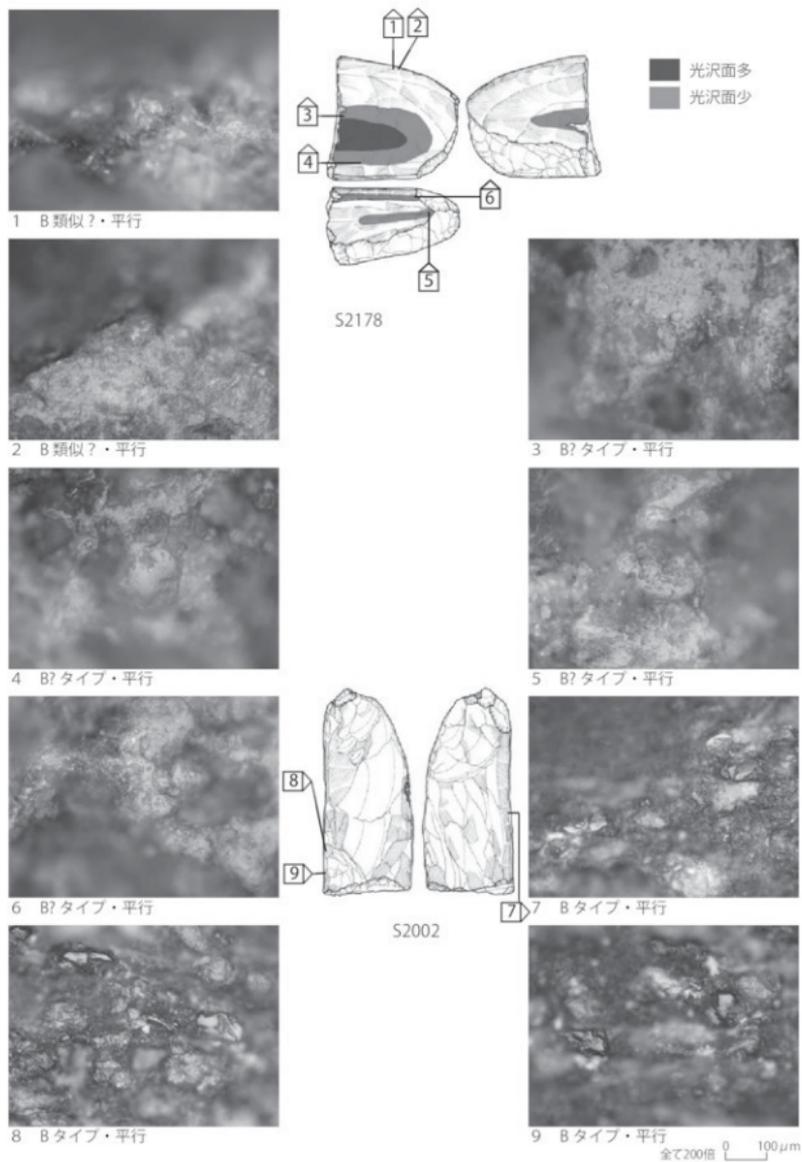
図版2 鍛冶滓遺跡出土石器の使用痕(2)



図版3 鍛冶沢遺跡出土石器の使用痕(3)



図版4 鍛冶滓遺跡出土石器・石製品の使用痕



図版5 鋳冶滓遺跡出土石製品の使用痕



# 写 真 图 版



御治沢遺跡全景(東から)

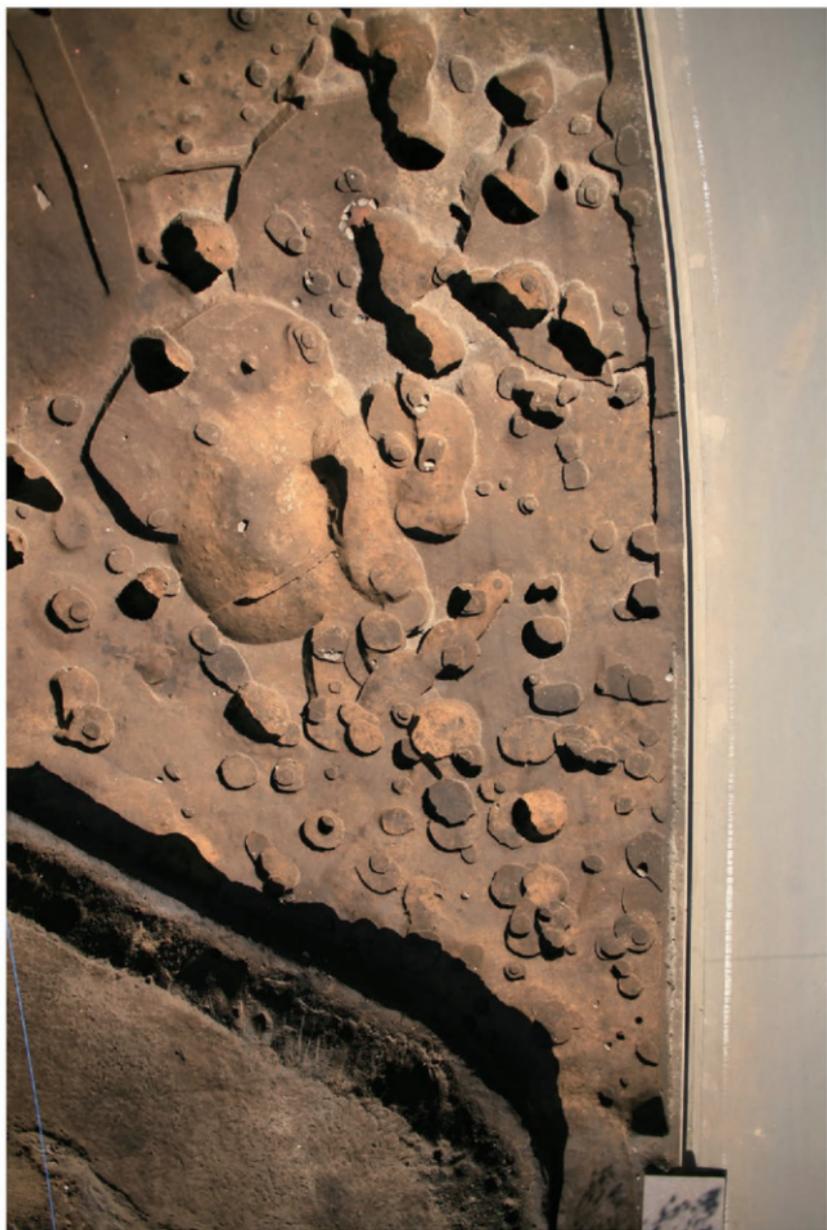


御治沢遺跡全景(南から)

写真図版1 遺跡全景



写真図版2 | 区・II区調査区全景(上が北)



写真図版3 | 区全景(上が西)



SI1102住居跡(東から)



SI1102住居跡石囲炉(東から)



SI1104住居跡(北東から)



SI1104住居跡石囲炉(東から)



SI1105住居跡(南から)



SB1150, SB1152, SB1153, SB1154建物跡ほか(北東から)



SB1157, SB1158, SB1160, SB1162建物跡ほか(東から)



SB1157建物跡P3 (東から)



SB1166建物跡P4, Pit1188 (東から)



SB1160建物跡P2 (南から)



SB1157建物跡P2 (東から)



SB1162, SB1163建物跡P1 (南から)



SB1161, SB1162, SB1163建物跡P3 (東から)



SB1158, SB1166建物跡P1 (東から)



SB1165建物跡P2 (西から)



SB1161, SB1164建物跡P1 (北から)



SX1123土器埋設遺構 (北から)



SX1139土器埋設遺構 (南から)



SX1124土器埋設遺構 (東から)



SX1141土器埋設遺構 (南から)



SX1142土器埋設遺構 (南から)



SX1143土器埋設遺構 (北から)



SX1121土器埋設遺構 (東から)



SX1122土器埋設遺構 (北東から)



SX1125土器埋設遺構 (東から)



I 区南全景 (北から)



I 区南 南部 (北から)



SK1206 陥し穴 (北から)



SK1205 陥し穴 (北から)



SK1208 陥し穴 (南東から)



SD1201 溝跡 (東から)



SD1204 溝跡 (東から)

写真図版 7 I 区南調査区、土坑、溝跡



写真図版8 II区全景(上が北)



II区掘立柱建物跡1~3群(南東から)



II区掘立柱建物跡1群(南から)



II区掘立柱建物跡2群(南から)



1群SB2217, SB2218, SB2220, SB2221建物跡P4(北から)



2群SB2224, SB2262, SB2263建物跡P4(東から)



1群SB2213, SB2214建物跡P4(東から)



1群SB2217, SB2220建物跡P3(南から)



2群SB2263建物跡P2(北から)



1群SB2215, SB2218, SB2221建物跡P3(北から)



2群SB2213, SB2214, SB2220建物跡P2(東から)



2群SB2224, SB2261建物跡P3(北から)



II区掘立柱建物跡3群(東から)



3群SB2230建物跡P2(東から)



3群SB2227、SB2229、SB2230建物跡P1(南から)



3群SB2227建物跡P4(南から)



3群SB2266、SB2229建物跡P3(東から)



3群SB2228、SB2265建物跡P3(東から)



SB2274建物跡P5(東から)



SB2271建物跡P4(南から)



SB2270建物跡P6(南から)



SB2276建物跡P4(西から)



II区SX2238再葬墓(南から)



II区SX2238再葬墓断面(南から)



II区SX2238再葬墓(東から)



II区SX2234土器埋設遺構(南から)



II区SX2235土器埋設遺構(東から)



II区SX2236再葬墓(東から)



集石遺構、配石(北から)



配石(北西から)



集石遺構(西から)



集石遺構(東から)



SK2055土坑墓(西から)



SK2057土坑墓(南から)



SK2062土坑墓(東から)



SK2061, SK2281土坑墓(南西から)



SK2066土坑墓(南西から)



SK2067土坑墓(南から)



Ⅲ-2区(西から)



Ⅳ-1区(北から)



Ⅳ-4区S14001住居跡(南から)



Ⅳ-4区SK4049陥し穴(北東から)



Ⅳ区SK4040陥し穴(東から)



Ⅳ-2、3区(南から)



Ⅳ-4区(南から)



Ⅳ-4区SD4002溝跡(東から)



1欠山遺跡調査区全景(南から)



欠山遺跡調査区(東から)



欠山遺跡調査区南部(南西から)



1-8: 欠山遺跡, 9: 淡島山遺跡 (1: 9.5-1/3)

写真図版15 欠山遺跡、淡島山遺跡



1-35: S1102

写真图版 16 S1102 住居跡出土土器



(1-4, 10, 12-50: S-1/3, 5-9, 11: S-2/3)

1-12: SI1102, 13-50: SI1103

写真図版 17 SI1102・SI1103 住居跡出土遺物

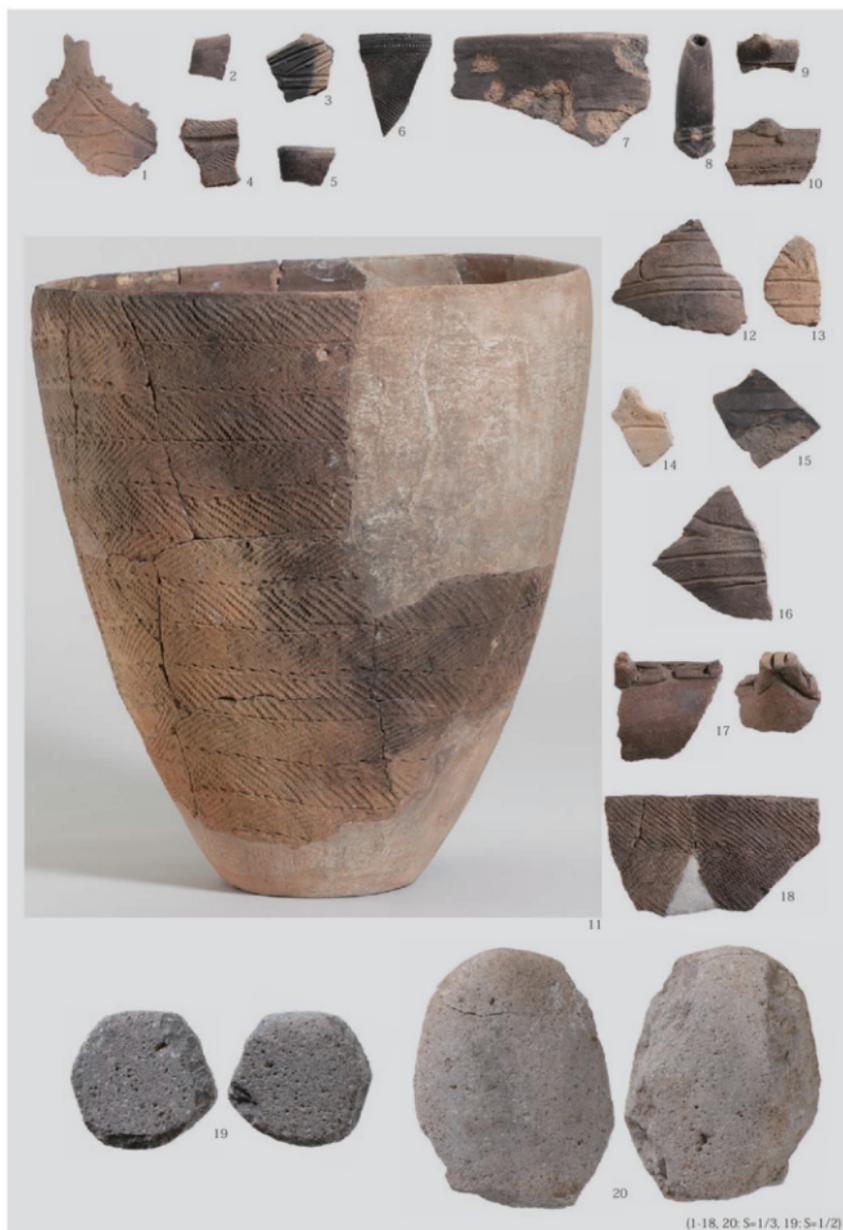


写真図版 18 SI1103 住居跡出土遺物



1, 2: SI1103, 3-19: SI1104, 20, 21: SI1105

写真図版 19 SI1103・SI1104・SI1105 住居跡出土物



1-20: SB1150

(1-18, 20: S=1/3, 19: S=1/2)



(1-18, 20-27, 29, 30: S-1/3, 19, 28: S-2/3)

1-22: SB1152, 23-31: SB1154

写真図版 21 SB1152・SB1154 建物跡出土遺物



1-8: SB1153, 9-25: SB1157, 26-66: SB1158, 67: SB1166

(1-23, 26-58, 60, 63, 67: S-1/3, 24, 25, 59, 61, 62, 64-66: S-2/3)

写真図版 22 SB1153・SB1157・SB1158・SB1166 建物跡出土遺物



写真図版 23 SB1160・SB1161・SB1162・SB1163 建物跡出土遺物



1-15: SB1164, 16-25: SB1165, 26-30: SX1121, 31: SX1122

(1-13, 15-22, 26, 27, 30, 31: S=1/3, 14, 23-25, 28, 29: S=2/3)



(1-3: 5=1/3)

1-2: SX1139, 3: SX1123

写真図版 25 SX1139・SX1123 土器埋設遺構出土土器



写真図版 26 SX1124・SX1143 土器埋設遺構出土遺物



写真図版 27 SK1108・SK1111 土坑出土遺物



1:35: SK1113

(1-31, 35: S-1/3, 32-34: S-2/3)



写真図版 29 SK1113 土坑出土遺物



(1-8, 11-23, 28-30, 33-49: S=1/3, 9, 10, 24-27, 31, 32: S=2/3)

1:SK1113, 2-10:SK1118, 11-27:SK1128, 28-32:SK1131, 33-49:SK1133



1-3: SK1133, 4-10: SK1144, 11: SK1145, 12-15: SK1148, 16-23: SK1137, 24: SK1149, 24-39: Pit

(1, 4-11, 13-22, 24-37, 39: S=1/3, 2, 3, 12, 23, 38: S=2/3)



1-39: Pit



1-59: 掘立柱建物跡1群



(1, 2, 5, 8, 10-14, 17-20: S=2/3, 3, 4, 9: S=1/2, 15, 16: S=1/3)

1-20: 掘立柱建物跡1群



(1-73, 77: S=1/3, 74-76: S=2/3)

1-77: 掘立柱建物跡2群

写真図版 35 II区掘立柱建物跡2群出土遺物



1-8. 掘立柱建物跡 2 群

写真図版 36 II 区掘立柱建物跡 2 群出土石器



1-35: 掘立柱建物跡3群、36、37: SX2238

(1-27, 35-37: S=1/3, 28, 30-34: S=2/3, 29: S=1/2)

写真図版 37 II区掘立柱建物跡3群、SX2238 土器埋設遺構出土遺物



写真図版 38 六角形建物跡、SX2238・SX2234 土器埋設遺構出土遺物



1, 2: SX2236, 3-8: SX2235, 9, 10: SX2280, 11-16: SK2061, 17, 18: SK2057, 19: SK2067, 20-22: SK2063



58 器面調整と列点文 (写真図版 40-51)

59 器面調整と列点文 (写真図版 41-1)

(1-57: S=1/3, 58, 59: 縮尺任意)

1-6: SX4058, 7-59: IV-2区

写真図版 40 SX4058、IV-2 区出土土器



1-11, 16, 18-20, 22: IV-2区, 17, 21: SX4058, 12-15, 23: IV-3区, 24-27: SI4001, 28-31: SD4002  
 (1-15, 22, 24, 28-31: S-1/3, 16-21, 25-27: S-2/3, 23: S-1/2)



1-40: SD4002

(1-19, 22-30, 39, 40: S=1/3, 20, 21, 31-38: S=2/3)



1-3: SD4002, 4: SK4040, 5-22: その他の遺構

(1-3, 5-14, 20-22: S-1/3, 4, 15-19: S-2/3)

写真図版 43 SD4002 溝跡、SK4040 土坑、その他の遺構出土遺物



1-16: IVd 层, 17-31: IVb 层

(1-31: S-1/3)

写真图版 44 | 区遺物包含層出土土器IVd、IVb、IV層(1)



1-21: IV層

(1-5, 7-21: S-1/3, 6, S-1/2)

写真図版 45 | 区遺物包含層出土土器IV層(2)



1-23: IV期

(1, 3-23: S-1/3, 2: S-1/2)



1: IV層, 2: 28: III層

(1: 28: 5-1/3)

写真図版 47 | 区遺物包含層出土土器IV層(4)、III層(1)



1-10. Ⅲ期

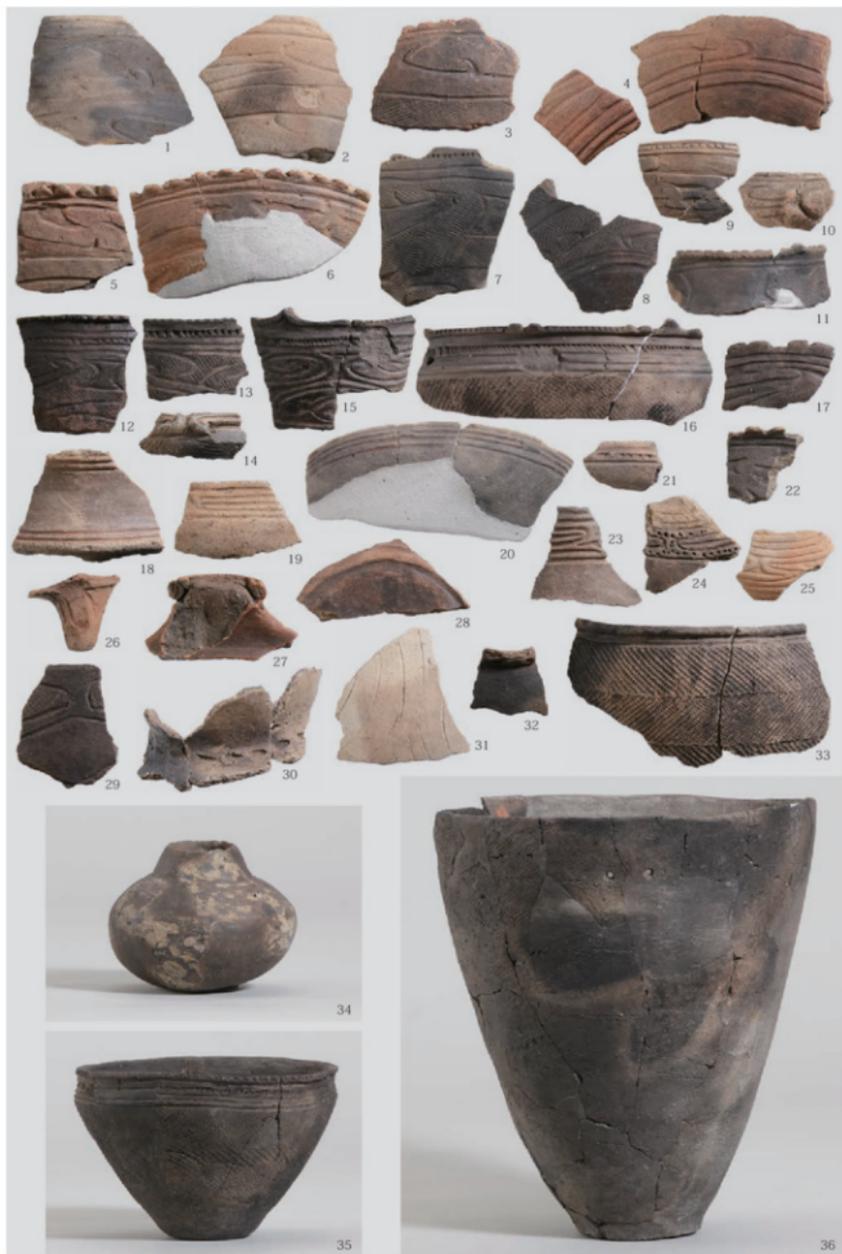
(1-10. 5-1/3)



1-25: 彩陶

(1-25: 5-1/3)

写真图版 49 I 区遗物包含層出土土器Ⅲ層(3)



1-36: III層

(1-36: 5-1/3)

写真図版 50 | 区遺物包含層出土土器III層(4)



1-7: 田原

(1-7: S-1/3)

写真図版 51 | 区遺物包含層出土土器 III層 (5)



1:Ⅲ層, 2-17:Ⅰ層ほか

(1-10:Ⅴ-1/3)



1-25: 1層ほか

(1-25: S-1/3)



1-2: I区I層ほか, 3: 8: I区南SX1209Ⅲ層, 9-15: II区IV層, 16-22: II区Ⅲ層

(11-22: S-1/3)

写真図版 54 | 区遺物包含層出土土器 | 層ほか、I区南SX1209Ⅲ層、II区遺物包含層IV層、Ⅲ層(1)



1-26: III層, 27:II層, 28-31: I層ほか

(1-31:5-1/3)

写真図版 55 II区遺物包含層出土土器III層(2)、II層、I層ほか(1)



1-9: II区I層ほか, 10-12: II層裾張区, 13-20: 土偶, 21-26: 耳飾り  
 27-35: 土製円盤, 36-39: 不明土製品, 40, 41: ミニチュア土器

(1-12, 27-35: S=1/3, 13-26, 36-41: S=2/3)

写真図版 56 II区遺物包含層出土土器I層ほか(2)、土製品



(1, 2, 6-11, 14-33: S-2/3, 3-5, 12, 13: S-1/3)

1, 3-5: IVd 层, 2: IVd-e 层, 6, 8-12: IVb-d 层, 7: IVb 层, 13: IVb-e 层, 14-33: IV 层



写真图版 58 | 区遺物包含層出土石器(2)



(1-3: 5=1/3)

1-3: IV期

写真図版 59 I 区遺物包含層出土石器(3)



1-3: IV期

(1-3: S-1/3)



写真図版 61 | 区遺物包含層出土石器(5)



1-33: III期

写真図版 62 | 区遺物包含層出土石器(6)



1-24: 石器

写真图版 63 | 区遺物包含層出土石器(7)



(1-3: Ⅰ層、4-15: Ⅰ層ほか)

1-3: Ⅰ層、4-15: Ⅰ層ほか



(1, 8-10: S-2/3, 2-4: S-1/2, 5-7, 11-13: S-1/3)

1-7: 1区1層ほか, 8-13: 1区南



1-6: IV層, 7-22: III層, 23-29: I層ほか

(1-4, 7-17, 23-29: S-2/3, 5, 6, 18-22: S-1/3)



(1, 15: S=1/2, 2, 5, 7-14, 16, 18: S=2/3, 6, 17: S=1/3)

1-3: II区I層ほか、4-6: II区西、7-17: IV-4区、18: IV-5区

写真図版 67 II区I層ほか、II区西、IV-4・5区出土石器



1, 3-6: I区IV層, 2, 9, 10, 12, 13: I区III層, 7: II区III層, 8, 11: I区I層ほか, 14, 15: II区IV層



(1-10, 14: S-1/2, 11-13, 15-17: S-2/3)

1, 2, 5: I区IV層, 3: II区III層, 4, 6, 7, 9, 12, 15, 16: I区III層, 8, 11: II区IV層, 10, 13, 14, 17: I区I層ほか



(1-18. S-2/3)

1-3, 6, 8-10, 13: I区I層ほか, 4: I区南I層ほか, 5, 11, 12, 18: I区III層, 14: II区III層, 15, 16: I区IV層, 17: II区IV層

写真図版 70 I・II区遺物包含層、I層ほか出土石製品(3)

# 報告書抄録

ふりがな	かじざいせき							
書名	畿治沢遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	宮城県文化財調査報告書							
シリーズ番号	第222集							
編著者名	千葉直樹・小野章太郎							
編集機関	宮城県教育委員会							
所在地	〒980-8423 宮城県仙台市青葉区本町3-8-1							
発行年月日	西暦2010年3月26日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
畿治沢遺跡	刈田郡蔵王町 曲竹字畿治沢	043010	05020	38度 5分 17秒	140度 38分 34秒	2007.07.02 ～12.05 2008.05.26 ～10.17	3,260㎡	広域営農団地農道整備事業に伴う確認・事前調査
欠山遺跡	刈田郡蔵王町 曲竹字欠山	043010	05187	38度 4分 56秒	140度 38分 30秒	2007.11.05 ～11.09 2008.07.03 ～07.10 2008.10.07	385㎡ 320㎡ 47㎡	広域営農団地農道整備事業に伴う確認・事前調査
淡島山遺跡	刈田郡蔵王町 曲竹字淡島山	043010	05314	38度 4分 43秒	140度 38分 21秒	2007.11.12 ～11.19	170㎡	広域営農団地農道整備事業に伴う確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
畿治沢遺跡	散布地	縄文時代早期～ 中期・弥生時代 中期・古代				縄文土器・弥生土器・ 土師器・石器		
	集落跡	縄文時代後期 ～弥生時代前期		竪穴住居跡5軒・掘 立柱建物跡群3カ 所・掘立柱建物跡 23棟・土器埋設遺 構14基(再葬墓1 基)・集石遺構1 基・土坑32基・溝 跡1条など		縄文土器・弥生土器・ 石器・土製品(土偶・ 貝形土製品・耳飾り など)・石製品(イ モガイ形石製品・ヒ スイ製勾玉・線刻鏝 など)		縄文時代晩期中葉頃の扇 状に配置された掘立柱建 物跡群を確認した。また、 弥生時代前期の再葬墓を 確認した。
欠山遺跡	散布地	縄文時代				縄文土器・石器		
淡島山遺跡	散布地	縄文時代				縄文土器		
要約	<p>畿治沢遺跡は、宮城県刈田郡蔵王町曲竹地区に所在し、青麻山から延びる丘陵上に位置する。今回の調査で縄文時代後期から弥生時代前期の竪穴住居跡5軒、掘立柱建物跡群3カ所、掘立柱建物跡23棟、土器埋設遺構14基、集石遺構1基、土坑32基、溝跡1条などを検出した。</p> <p>縄文時代晩期中葉の掘立柱建物跡は扇状に配置され、計画性がみられる。また、縄文時代後期末から晩期前葉および晩期後葉から弥生時代前期の墓域を検出した。弥生時代前期の墓は再葬墓で、県内では初めて検出状況が明らかとなった。</p> <p>遺物包含層からは縄文時代早期から弥生時代中期の遺物が出土し、縄文時代後期から晩期中葉の遺物が多い。土偶、耳飾り、貝形土製品、イモガイ形石製品、ヒスイ製勾玉、線刻鏝なども出土した。</p> <p>欠山遺跡と淡島山遺跡は蔵王町曲竹地区に所在し、畿治沢遺跡の南側に位置する。今回の調査では中世以前の遺構は検出されなかったが、縄文土器、石器が少数出土した。</p>							

---

---

宮城県文化財調査報告書第222集

鍛冶沢遺跡 ほか

平成22年3月19日印刷

平成22年3月26日発行

発行 宮城県教育委員会  
仙台市青葉区本町三丁目8番1号

印刷 株式会社 仙台紙工印刷  
仙台市宮城野区苦竹三丁目1-14

---

---